

科目名	地域社会と大学教育（教育）		学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL11101	研究室	学生センター
担当者	住吉 廣行		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
○	△		△	△	△					
授業概要										
本講義は、初年次教育の意味合いを持たせています。大学のミッション、大学・学部・学科の3ポリシーについて確認します。大学生の特徴を捉えた教育手法を説明し、課題解決型の学びを展開しようとしていること、学生支援についての大学側の考え方がCSの向上にあるのではなく学生をパートナーと見なすというパラダイムシフトを考えていることを説明します。各種センターの機能について説明し、それらを大学生活の中で活かせるようにします。教育学部に特有の課題についても共に考えます。										
学修到達目標										
大学の教育に対する考え方、大学側が用意している学修支援システムの種類や場所やその機能等について理解している。そしてそれらを活用するためにも、学生一人一人がこれからの大学生活をどのように送るべきかを十分に考え、カリキュラムの組み方、取得すべき資格、地域連携・ボランティア活動等学生の自主的な活動への参加などについてプランニングができる。										
授業の進め方										
オムニバスでの授業となります。学長、学部長・両学科長、各センター長などが交代で担当します。加えて、大学の「自主独立の精神」に基づいて、それぞれの学部に適した内容で前向きな姿勢で講演して下さるゲストをお招きし、熱く語っていただきます。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	カリキュラム構成、教養（モジュール）、コース設定	教育学部の専門教育のカリキュラム構成を確認し、教養科目のモジュール設定の意図を理解する。これに基づき、教育学部生に開かれた進路について考察する。				事前：履修登録の手引きを熟読する。（2時間）事後：4年間の学修計画を考える。（2時間）				
2	長野県、松本市等の案内と地域の特色	松本大学が立地する長野県、松本市の特色を理解し、この地域ならではの自然環境、歴史、行政のあり方の特徴を概観する。				事前：パンフレットは熟読する。（2時間）事後：配布したプリントに基づき復習する。（2時間）				
3	教育学部内のセンターとその役割	教育学部内にある「教育」に関する3つのセンターと「研究」に関する2つのセンターについてその役割を説明する。				事前：教職課程履修の手引きを熟読する。（2時間）事後：これまでの授業を振り返る。（2時間）				
4	力をいかにつけるか：帰納的教育手法、他学部の例	この回以降、八つの力をどのように獲得するのかについての松本大学の考え方を説明する。地域連携を取り入れた帰納的教育手法とアクティブラーニングなどを多くの具体例を使って説明する。				事前：プリントを読む。（2時間）事後：理論の意味するところをよく吟味する。（2時間）				
5	PROG（ジェネリックスキルテスト）受験 自分を知る	PROGと称されるテストを受ける。これは学力というよりも、社会人として必要な力がどの程度備わっているかについて、気付かせるといった内容である。				事前：教育委員会HPで求められる人材像を調べる。入学前ワークブックを振り返る。（2時間）				
6	特別講義Ⅰ	尾木直樹氏を迎え、本学の今泉教授も交えて、皆さんとも対話できる時間とします。これからの学校教育の課題や子どもたちと関わる教員や職員等の姿を語っていただきます。				事前：自身の教師像を振り返る。（2時間）事後：聴講した感想等を受講票に記入。（2時間）				
7	松大模試に挑戦 実力を知る	教員採用試験に向けて、基本的な力を備えるための準備をする。自分の長所や弱点を客観的に認識する。				事前：過去の教員採用試験問題に取り組む。（2時間）事後：出題された箇所の振り返り。（2時間）				
8	地域づくり考房『ゆめ』BBS、手話、通学合宿等	全学共通で自主的に実施される地域活動は、地域づくり考房『ゆめ』で担われているものが多く、教育学部生の参加が求められる内容があることを認識する。				事前：活動事例を調べる。（2時間）事後：『ゆめ』を訪問し、活動に触れる。（2時間）				
9	大学教員の任務、小学校教員に求められる八つの力	大学教員の仕事内容について理解を深める。それと関連させ、小学校教員に必要な八つの力について具体例を挙げ解説し理解を深め、今後の大学生活を考える。				事前：学部の3ポリシーを理解する。（2時間）事後：ポリシーを踏まえ目標を検討する。（2時間）				
10	健康安全センターと学校インターンシップの意義	前半は学生の健康を守る砦である健康安全センターの役割を周知し、健康診断の解説や喫煙や受動喫煙が体に及ぼす影響に警鐘をならす。後半は教育学部に、「学校インターンシップ」を置いている意味を考える。				事前：関連科目のシラバスを読む。（2時間）事後：活動を通して身につける力を考える。（2時間）				
11	特別講義Ⅱ	本学教育学部設立にご尽力下さった横須賀薫先生をお招きしての特別講義となります。ご自身の経験を踏まえて、大学教育学部の今後のあり方や学生の皆さんに期待することなどをお話し願います。				事前：自身の教師像を振り返る。（2時間）事後：聴講した感想等を受講票に記入。（2時間）				
12	国際交流センターの現状と課題	松本大学や短大部で実施されている国際交流の状況を解説し、これからのグローバル化社会への対応について考えると共に、小学校での英語教育の今後を考える。				事前：グローバル化について検討。（2時間）事後：自身の学修計画に国際を組み込む。（2時間）				
13	“B”ポリシーの哲学と教育学部における意味	松本大学が考える学生支援に対する考え方を説明する。こうした考え方がどのような状況において成り立つのか、小学生の場合について敷衍して考察する。				事前：事前配布のプリントを読む。（2時間）事後：自分たちに何が出来るかを考える。（2時間）				
14	特別講義Ⅲ	学校職員としてのキャリアを持つ方を招いて話を伺う。職員という立場から見えてくる教育現場の実情を知ることは、未来の教師にも必ず生かせると思われる。				事前：自身の教師像を振り返る。（2時間）事後：聴講した感想等を受講票に記入。（2時間）				
15	松本大学のCOCと地域活性化の視点	松本大学の地域連携を通じた地域活性化への取組は、全国的にも高い評価を受けCOC大学と認識されている。教育学部としてどのような活動が可能かを考える。				事前：COCについて調べる。（2時間）事後：地域連携と教育について自身の考えを持つ。（2時間）				
テキスト			成績評価の方法・基準							
講義用プリントが配付されます。			定期試験：100% S:大学の使命、教育手法等を正しく理解したうえで、大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画を立て、試験で特に優れた結果を出すことができる。A:大学の使命、教育手法等を理解したうえで、今後の大学生活に意欲を持ち、卒業に向けた準備学修の計画ができ、試験で80点以上である。B:大学の使命、教育手法等を概ね理解したうえで、卒業に向けた準備学修の計画ができ試験で70点以上である。C:大学の使命、教育手法等を踏まえ、準備学修の計画がある程度でき、試験で60点以上である。							
参考書			履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「教師が育つ条件」今津孝次郎著（岩波書店） ISBN：978-4-00-431395-3 その他、本学が発行する各種パンフレットなど。			講義は前の席で聞きたい学生を予め募集し、席を2列ほど確保します。残りの学生は座席指定とします。シラバスをよく読んで、講義に臨んで下さい。受講票に記入された感想、質問、要望には次の時間に応えたいと思います。							

科目名	知の技法			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UL11102	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要 教養ある大人となるための「知の技法」を実習します。「知の技法」は広範囲に及びますが、この授業では言語の活用技術に絞って「読み・書き・聞き・話す」という4つの技能について実習を通して学びます。具体的には、3冊の課題図書を読み、レポートを6回書き、本の内容について6回ディベート(聞き、話す)をします。なお、最終試験の受験資格が与えられるのは「ディベートに5回以上出席し、すべての読後レポートを提出」した者とします。											
学修到達目標 1) 本を決められた期間内に読める。2) パラグラフ・ライティングで文章が書ける。3) ディベートで相手の主張を正しく聞き取ることができる。4) ディベートで自分の意見を決められた時間内に話すことができる。											
授業の進め方 全部で15回の授業のうち、6回を講義と実習、6回を小グループによるディベートに充てます。講義を聞くだけでなく、課題図書を読み、読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	この授業の進め方/ディベートのやり方と利点					課題図書(1)の読書(4時間)				
2	パラグラフライティング	レポートの書き方実習(三論点意見文章法)/パラグラフライティング					課題図書(1)の読書(4時間)				
3	ディベート①	ディベート導入の是非についてディベート					読後レポート(1)の作成、提出(4時間)				
4	相互添削実習	レポート(1)の返却と相互添削実習 文章推敲の意義と方法					レポート(1)の書き直し(4時間)				
5	ディベート②	ディベート導入の是非について再度ディベートします					レポート(1)の完成版提出(4時間)				
6	意見と感想	レポート(1)完成版返却とコメント 絶対評価と相対評価					課題図書(2)の読書(4時間)				
7	ディベート③	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします					課題図書(2)のレポート(3)提出(4時間)				
8	レポート(3)の相互添削実習	レポート(3)の相互添削実習/三論点文章法の応用					読後レポート(3)の推敲、完成版作成(4時間)				
9	ディベート④	課題図書(2)に関するテーマについてディベートします					レポート(3)の書き直しと完成版(4)の提出(4時間)				
10	英語を学ぶことの意義	レポート(4)返却とコメント/科学的思考方法					課題図書(3)の読書(4時間)				
11	ディベート⑤	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします					課題図書(3)のレポート(5)提出(4時間)				
12	英語学習の実際	レポート(5)の相互添削実習/三論点文章法の応用					読後レポート(5)の推敲、完成版(6)作成(4時間)				
13	ディベート⑥	課題図書(3)に関するテーマについてディベートします					読後レポート(6)の作成、提出(4時間)				
14	知の技法まとめ	レポート(6)返却とコメント					総合的復習(4時間)				
15	最終試験・授業アンケート	最終試験・授業アンケート					総合的復習(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「ザ・ディベート」茂木秀昭著(ちくま新書) ISBN:978-4480058928(生協で購入してください。) 課題図書 「残念ながら、その文章では伝わりません」山口拓朗著(だいわ文庫) ISBN:978-4479306597(生協で購入してください。) 課題図書 「英語を制するライティング」キム ジョンキョウ著(講談社現代新書)(別途、指示します。) 課題図書						定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。なお、最終試験では、知識を問うような試験はしません。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						楽な授業ではありませんが、本を読む習慣が付き、文章を書く力がつくはずですが、また、ディベートを通して、自分の主張をわかりやすく話し、相手の主張をしっかりと聞き取れるようになると思います。					

科目名	基礎ゼミナール I (教育)			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UL11103	研究室	
担当者	各教員			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
<p>大学における学修および研究の導入として、初年次に身に付けなければならないライフスキルおよびアカデミックスキルの基礎を学びます。大学における学修では、新しい知識の想像の伝達が重要であり、大学において学修を発展させるために必要な基礎的技能である、文献データ検索、論文の作成、社会人基礎力の理解と修得を目指します。</p>											
学修到達目標											
<p>大学の建学の精神や理念、学部学科のディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを理解した上で、4年間の修学を計画できる力を身に付けている。他者と協働して、課題解決に取り組むことができることができる。社会人基礎力のリテラシー、コンピテンシーを理解し、卒業後に必要なスキルを自ら学ぶ姿勢を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>授業の学習内容により、グループワークや、講義形式など様々な形態で行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	自己紹介、履修相談を行います。フレッシュマン・セミナーの準備を行います。					自分の履修計画を作成する(1時間)				
2	フレッシュマンセミナーの準備等①	プレースメントテストの返却、フレッシュマンセミナーの準備を行います。					配付されたフレッシュマンセミナーの資料を熟読する(1時間)				
3	フレッシュマンセミナーの準備等②	担当係りに分かれて、フレッシュマンセミナーの準備を行います。					役割の確認、セミナーの事前準備。リメディアル課題。(1時間)				
4	各ゼミでの振り返り	各ゼミでフレッシュマンセミナーを振り返ります。					フレッシュマンセミナーのまとめ。(1時間)				
5	社会人基礎力試験	PROG(ジェネリックスキルテスト)を受験します。					各県の教育委員会ホームページで、求められる人材像を調べる。リメディアル課題。(1時間)				
6	レポートの書き方講座①	大学での学修に必要なレポートの書き方について学修します。					講座内容の復習。(1時間)				
7	松大模試	教員採用試験の模擬試験を体験します。					過去の長野県教員採用試験問題に取り組む。(1時間)				
8	グループワーク(各ゼミのテーマ)①	ゼミごとにテーマを決めて討論、レポート発表等のグループワークをします。					事前に決められたテーマに沿って、発表内容を考える。リメディアル課題。(1時間)				
9	前期前半の振り返り	2年生とのグループワークを通して基礎ゼミの前半を振り返る。					基礎ゼミ前半を振り返り、学んだことをレポートする。リメディアル課題。(1時間)				
10	レポートの書き方講座②	大学での学修に必要なレポートの書き方について学修します。					講座内容の復習。リメディアル課題。(1時間)				
11	グループワーク(各ゼミのテーマ)③	ゼミごとにテーマを決めて討論、レポート発表等のグループワークをします。					ゼミで指示される課題に取り組む。リメディアル課題。(1時間)				
12	グループワーク(各ゼミのテーマ)④	ゼミごとにテーマを決めて討論、レポート発表等のグループワークをします。					ゼミで指示される課題に取り組む。リメディアル課題。(1時間)				
13	グループワーク(各ゼミのテーマ)⑤	ゼミごとにテーマを決めて討論、レポート発表等のグループワークをします。					ゼミで指示される課題に取り組む。リメディアル課題。(1時間)				
14	基礎ゼミの振り返り	学年全体で、あるいはゼミごとに前期の基礎ゼミ全体を振り返る。					基礎ゼミ I を振り返って学んだことをまとめる。リメディアル課題。(1時間)				
15	前期終了オリエンテーション	夏季休業および後期に向けたオリエンテーションを行います。またゼミナールごとに後期に向けた話し合いを行い、履修カルテやポートフォリオの作成を行います。					授業で指示される課題に取り組む。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜資料を配付します。				<p>受講態度：10% 課題：40% レポート：50%</p> <p>S:学びの主体者として到達目標達成のために探求姿勢をもって意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、すべての課題を提出している。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって取り組み、授業で学んだことを理解し、課題をほぼ提出している。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、課題をほぼ提出している。C:到達目標を理解して取り組み、授業で学んだことを表現でき、課題をほぼ提出している。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				<p>大学での生活について考え、必要なスキルを身につけることを期待しています。大学生活が充実したものになるかどうかは自分自身に懸かっていることを忘れずに、大学生活の基本を学ぶという姿勢で本授業に取り組んでください。</p>							

科目名	基礎ゼミナールⅡ（教育）			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UL11104	研究室	
担当者	各教員			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	△	△	△						
授業概要											
基礎ゼミナールⅠの内容をさらに発展・深化させるため、場面設定をしてより具体的・実践的に学修を進めていきます。アクティブな学修活動を展開し、ライフスキルのためのコミュニケーション活動の実践場面及び、アカデミックスキルを発揮する場としてグループ演習・発表に取り組んでいきます。											
学修到達目標											
必要な知識を選択して活用する力、多様な人々とコミュニケーションして柔軟に物事を考える力を身につけている。											
授業の進め方											
授業の学習内容により、グループワークや、講義、討論を組み合わせで行います。アウトキャンパスも予定しています。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンスとグループ演習①	グループ演習（序章：現代人に求められる能力）を行います。					自分の履修計画を作成する。グループ演習のテキスト事前学習。（1時間）				
2	グループ演習②	グループ演習（1講：情報収集）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
3	グループ演習③	グループ演習（2講：情報分析）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
4	グループ演習④	グループ演習（3講：課題発見）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
5	グループ演習⑤	グループ演習（4講：構想）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
6	グループ演習⑥	グループ演習（5講：書く表現）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
7	教員採用模擬試験	教員採用試験の模擬試験を受検します。					事前に受験希望自治体の教採内容を調べておく。（1時間）				
8	グループ演習⑦	グループ演習（5講：話す表現）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
9	アウトキャンパスまたはレポートの書き方講座①	2クラスに分かれて、アウトキャンパススタディ（保育園・こどもプラザの見学参観）、またはレポートの書き方講座を行います。					レポート課題・アウトキャンパスのリフレクション。（1時間）				
10	アウトキャンパスまたはレポートの書き方講座②	前回の2クラスが交代して、アウトキャンパススタディ（保育園・こどもプラザの見学参観）、またはレポートの書き方講座を行います。					レポート課題・アウトキャンパスのリフレクション。（1時間）				
11	グループ演習⑧	グループ演習（5講：話し合う表現）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
12	グループ演習⑨	グループ演習（6講：実行）を行います。					テキスト事前学習とグループ演習のリフレクション。（1時間）				
13	教員採用模擬試験フィードバック①	結果と解答のフィードバックから復習をします。					個人で復習を進める。（1時間）				
14	教員採用模擬試験フィードバック②	結果と解答のフィードバックから復習をします。					個人で復習を進める。（1時間）				
15	振り返りワーク	後期を振り返りワーク、PROG受験。					この1年を振り返り、強み・弱みの変化を書き出す。（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「リテラシー強化書（講義編）」河合塾PROG開発プロジェクト編（河合塾） 「リテラシー強化書（演習編）」河合塾PROG開発プロジェクト編（河合塾） 2冊とも初回授業で配付します。						受講態度：50% 課題：40% レポート：10% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容を深く理解し、グループ内で主体的に問題解決ができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、問題解決ができる。B:到達目標達成のために積極的に課題に取り組み、授業内容を概ね理解し、グループ内で積極的に関わることができる。C:到達目標達成を理解して概ねの課題に取り組み、授業内容を表現できる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
特になし。						問題解決能力は、教師はもちろん社会人として必要なスキルです。1年後期は学校ボランティア活動も始まり、教育現場の課題も見えてくると思います。この授業を通じて仲間と一緒に、真剣に演習に取り組むことを期待しています。					

科目名	総合英語 I (INT) Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12101	研究室	非常勤
担当者	ミゲル アルバート ミジョン		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「READ THIS! 2」 Daphne Mackey, Alice Savage著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)			受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。			原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。							

科目名	総合英語 I (INT) Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12101	研究室	非常勤
担当者	イサー フィリップ		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。										
学修到達目標										
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。										
授業の進め方										
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。				授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウイルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。				授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「READ THIS! 2」 Daphne Mackey, Alice Savage著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)			受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。			原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。							

科目名	総合英語 I (INT) Cクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12101	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
実際に使える英語を修得し活用できるようになるために、基本的な英語でのリーディングやリスニング、スピーキングを行い英語でのコミュニケーションに慣れていきます。英語でのアウトプットの前に十分なインプットを入れ、また同じ意味の様々な英語表現を聞いていく中で、基本的な文型や発話の仕方、コミュニケーションに慣れていきます。また、その理解の過程で慣れてきた英語表現等により、良いコミュニケーションの土台を築きます。											
学修到達目標											
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、様々な表現に慣れ、表現の幅を広げることができる。											
授業の進め方											
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。必要に応じペアでの意見交換を行います。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の内容、実施方法等についてのオリエンテーション。					授業の在り方を理解し、事前準備を行う。(1時間)				
2	The World's Best-Selling Medicine 1	ガイドンスにおいて授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
3	The World's Best-Selling Medicine 2	授業の実施方法について理解する。世界で最も売れている薬の歴史等について理解する。時間的出来事の経過を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
4	Fighting Diseases with Diseases 1	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
5	Fighting Diseases with Diseases 2	人間の免疫システムとその発見の歴史について理解する。主要文と指示文の関係について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
6	Saved from Certain Death 1	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
7	Saved from Certain Death 2	致命的なウィルス感染による病気からの回復について理解する。因果関係について整理し、理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
8	Dolphins to the Rescue 1	動物と人間の不思議な関係について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
9	Dolphins to the Rescue 2	動物と人間の不思議な関係について理解する。批判的リーディングについて理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
10	The Gentle Giant from Africa 1	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
11	The Gentle Giant from Africa 2	キリンが初めてフランスに登場した歴史とその背景について理解する。リーディングにおいて他の参考文献等による深い理解について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
12	Animal Detectives 1	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
13	Animal Detectives 2	猫や犬などの動物の特殊な能力について理解する。リーディングスピードについて考える。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
14	How the Kiwi Got Its Name 1	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
15	How the Kiwi Got Its Name 2	キウイの名称の変遷について理解する。疑問を持ったリーディングを理解する。批判的リーディングスキルを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「READ THIS! 2」 Daphne Mackey, Alice Savage著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74789-9 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A:授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C:授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。					原則、欠席は2回までです。授業は全て英語で行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。						

科目名	総合英語 I (教育) Aクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12101	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
<p>本授業では、実際に使える英語の修得を目指し、主にリスニング・会話・リーディング力を養います。ネイティブスピーカーが話す英語の音を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、長めの文章を読み、全体の意味を素早く把握できるよう、サイトトランスレーションなどのリーディングスキルも学びます。</p>										
学修到達目標										
<p>ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎単語やフレーズを用い、海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を身に着けている。 やや長めの文章を読み、全体の意味を把握できる。</p>										
授業の進め方										
<p>DVD教材を活用するほか、ペア・グループワークの時間を多く設けるため、積極的な参加姿勢が不可欠です。課題では、問題演習に加えてアウトプットも重視します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス (原則20名以下) で行います。</p>										
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語習得のための意識改革 と学習方法	授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				ゴールの設定、自己学習計画を立てロードマップへ記入する。(1時間)				
2	It's So Nice To Meet You!	be動詞と一般動詞、挨拶をする リーディング: Chapter1 Baby Talk				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
3	Is He a Popular Professor?	疑問文と否定文、自己紹介をする リーディング: Chapter1 Baby Talk				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
4	He Showed Me "a" Way	現在形と過去形、感想を言う リーディング: Chapter1 Baby Talkまとめ				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
5	For Here or To Go?	可算名詞と不可算名詞、注文をする リーディング: Chapter2 Face Reading				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
6	She Is So Beautiful	代名詞、お願いをする リーディング: Chapter2 Face Reading				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
7	中間テスト	中間テスト: これまで学んだシーンよりロールプレイ リーディング: Chapter2 Face Readingまとめ				リスニング、単語、問題演習、Scene6の学習 (1時間)				
8	How Romantic!	形容詞と副詞、人を描写する リーディング: Chapter3 A Language for Women Only				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
9	I'm Not Feeling Well	助動詞、体調を述べる リーディング: Chapter3 A Language for Women Only				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
10	Tickets for a Yankees Game	進行形、誘う リーディング: Chapter3 A Language for Women Onlyまとめ				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
11	What's on the Shopping List?	接続詞、誘いを断る リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
12	MoMA Is Fun!	現在完了形、聞き直す リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
13	The "Fourth of July" Is Coming Up	未来形、予定を尋ねる リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
14	Who Is That Guy?!	不定詞と動名詞、提案する リーディング: これまでの総復習				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ これまでの学習内容のまとめ				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久 本多吉彦 Braven Smillie著 (金星堂) ISBN:9784764740112 (生協で購入してください。)</p> <p>「READ THIS! Fascinating Stories from the Content Areas」Daphne Mackey著 (Cambridge University Press) ISBN:9780521747868 (生協で購入してください。)</p>				<p>受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30%</p> <p>S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。						

科目名	総合英語 I (教育) Bクラス		学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12101	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
<p>本授業では、実際に使える英語の修得を目指し、主にリスニング・会話・リーディング力を養います。ネイティブスピーカーが話す英語の音を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、長めの文章を読み、全体の意味を素早く把握できるよう、サイトトランスレーションなどのリーディングスキルも学びます。</p>										
学修到達目標										
<p>ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎単語やフレーズを用い、海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を身に着けている。 やや長めの文章を読み、全体の意味を把握できる。</p>										
授業の進め方										
<p>DVD教材を活用するほか、ペア・グループワークの時間を多く設けるため、積極的な参加姿勢が不可欠です。課題では、問題演習に加えてアウトプットも重視します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス (原則20名以下) で行います。</p>										
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語習得のための意識改革 と学習方法	授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。				ゴールの設定、自己学習計画を立てロードマップへ記入する。(1時間)				
2	It's So Nice To Meet You!	be動詞と一般動詞、挨拶をする リーディング: Chapter1 Baby Talk				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
3	Is He a Popular Professor?	疑問文と否定文、自己紹介をする リーディング: Chapter1 Baby Talk				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
4	He Showed Me "a" Way	現在形と過去形、感想を言う リーディング: Chapter1 Baby Talkまとめ				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
5	For Here or To Go?	可算名詞と不可算名詞、注文をする リーディング: Chapter2 Face Reading				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
6	She Is So Beautiful	代名詞、お願いをする リーディング: Chapter2 Face Reading				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
7	中間テスト	中間テスト: これまで学んだシーンよりロールプレイ リーディング: Chapter2 Face Readingまとめ				リスニング、単語、問題演習、Scene6の学習 (1時間)				
8	How Romantic!	形容詞と副詞、人を描写する リーディング: Chapter3 A Language for Women Only				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
9	I'm Not Feeling Well	助動詞、体調を述べる リーディング: Chapter3 A Language for Women Only				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
10	Tickets for a Yankees Game	進行形、誘う リーディング: Chapter3 A Language for Women Onlyまとめ				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
11	What's on the Shopping List?	接続詞、誘いを断る リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
12	MoMA Is Fun!	現在完了形、聞き直す リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
13	The "Fourth of July" Is Coming Up	未来形、予定を尋ねる リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
14	Who Is That Guy?!	不定詞と動名詞、提案する リーディング: これまでの総復習				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ これまでの学習内容のまとめ				リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
<p>「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久 本多吉彦 Braven Smillie著 (金星堂) ISBN:9784764740112 (生協で購入してください。)</p> <p>「READ THIS! Fascinating Stories from the Content Areas」Daphne Mackey著 (Cambridge University Press) ISBN:9780521747868 (生協で購入してください。)</p>				<p>受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30%</p> <p>S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書				履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。				インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。						

科目名	総合英語 I (教育) Cクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12101	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
<p>本授業では、実際に使える英語の修得を目指し、主にリスニング・会話・リーディング力を養います。ネイティブスピーカーが話す英語の音を学び、聞き取れるよう取り組みます。また、長めの文章を読み、全体の意味を素早く把握できるよう、サイトトランスレーションなどのリーディングスキルも学びます。</p>											
学修到達目標											
<p>ネイティブスピーカーが話す自然なスピードの英語を聞きとることができる。 基礎単語やフレーズを用い、海外で日常生活ができる程度のスピーキング力を身に付けている。 やや長めの文章を読み、全体の意味を把握できる。</p>											
授業の進め方											
<p>DVD教材を活用するほか、ペア・グループワークの時間を多く設けるため、積極的な参加姿勢が不可欠です。課題では、問題演習に加えてアウトプットも重視します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス (原則20名以下) で行います。</p>											
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス 英語習得のための意識改革 と学習方法	授業の概要と目標、進め方について説明。英語に対する苦手意識や心のバリアを取り払い、授業に積極的に取り組む準備をします。					ゴールの設定、自己学習計画を立てロードマップへ記入する。(1時間)				
2	It's So Nice To Meet You!	be動詞と一般動詞、挨拶をする リーディング: Chapter1 Baby Talk					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
3	Is He a Popular Professor?	疑問文と否定文、自己紹介をする リーディング: Chapter1 Baby Talk					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
4	He Showed Me "a" Way	現在形と過去形、感想を言う リーディング: Chapter1 Baby Talkまとめ					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
5	For Here or To Go?	可算名詞と不可算名詞、注文をする リーディング: Chapter2 Face Reading					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
6	She Is So Beautiful	代名詞、お願いをする リーディング: Chapter2 Face Reading					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
7	中間テスト	中間テスト: これまで学んだシーンよりロールプレイ リーディング: Chapter2 Face Readingまとめ					リスニング、単語、問題演習、Scene6の学習 (1時間)				
8	How Romantic!	形容詞と副詞、人を描写する リーディング: Chapter3 A Language for Women Only					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
9	I'm Not Feeling Well	助動詞、体調を述べる リーディング: Chapter3 A Language for Women Only					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
10	Tickets for a Yankees Game	進行形、誘う リーディング: Chapter3 A Language for Women Onlyまとめ					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
11	What's on the Shopping List?	接続詞、誘いを断る リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
12	MoMA Is Fun!	現在完了形、聞き直す リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
13	The "Fourth of July" Is Coming Up	未来形、予定を尋ねる リーディング: Chapter4 Write a Best Seller...on Your Cell Phone?					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
14	Who Is That Guy?!	不定詞と動名詞、提案する リーディング: これまでの総復習					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
15	まとめ	口述テスト: スピーチ これまでの学習内容のまとめ					リスニング、単語、問題演習 (1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「映像で学ぶ はじめてのNYホームステイ - Hello New York! -」土屋武久 本多吉彦 Braven Smillie著 (金星堂) ISBN:9784764740112 (生協で購入してください。)</p> <p>「READ THIS! Fascinating Stories from the Content Areas」Daphne Mackey著 (Cambridge University Press) ISBN:9780521747868 (生協で購入してください。)</p>					<p>受講態度: 10% 定期試験: 30% 課題: 30% 小テスト: 30%</p> <p>S: 授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A: 授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書					履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。					インターネットでダウンロードした音声を活用した課題が出ます。PC、スマートフォンのいずれかが必要です。英語上達には、積極性と地道な努力が不可欠。英語を話す自分をイメージし、会話を楽しみながら受講してください。						

科目名	総合英語Ⅱ（INT）Aクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	ミゲル アルバルト ミジョン			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。											
学修到達目標											
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。											
授業の進め方											
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考え方を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「READ THIS! 3」 Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度：10% 課題：20% 小テスト：20% 定期試験：50% S：授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A：授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B：授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C：授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。							

科目名	総合英語Ⅱ（INT）Bクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	イサー フィリップ			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。											
学修到達目標											
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。											
授業の進め方											
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考えを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「READ THIS! 3」 Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度：10% 課題：20% 小テスト：20% 定期試験：50% S：授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A：授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B：授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C：授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。							

科目名	総合英語Ⅱ（INT）Cクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12102	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
前期に学修したコミュニケーションのための言い換え等の表現や英語力を活用し、英文の内容を理解し、その内容を相手に伝えるように英語を使っていきます。また、伝える相手の表現を聞くことにより、自分自身の表現を増やしていきます。											
学修到達目標											
英語での授業を聞き、その内容を理解できる。また、それらの言い換えを学び、自分自身の表現したい内容を伝えることができる。											
授業の進め方											
英文に対する説明を英語で聞き、その内容を理解します。読んだ英文の内容を自分自身の表現でその内容を相手に伝えたり、自分自身の意見を発言します。授業は全て英語で行われます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス・Ice Hotel 1	ガイダンスにおいて授業の実施方法について理解する。またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
2	Ice Hotel 2	またTourism and Hospitalityのトピックの中で、具体的なホテルの英文を読み、時系列の考え方を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
3	The Traveling Chef 1	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
4	The Traveling Chef 2	Tourism and Hospitalityのトピックで様々な文化での食について理解する。また主文と支持文の関係を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
5	Sail High in the Sky 1	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
6	Sail High in the Sky 2	Tourism and Hospitalityのトピックで具体的な建築物のホテルを例にしてその様子を理解する。またリーディングの速さも意識する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
7	The Mysterious Disappearance of Kaiko 1	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
8	The Mysterious Disappearance of Kaiko 2	Earth Scienceのトピックで深海の探査を行った「かいこう」について理解する。また英文を正確に理解、表現するために代名詞の照応を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
9	An Ocean of Plastic 1	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
10	An Ocean of Plastic 2	Earth Scienceのトピックで太平洋のごみの集積される場所についての理解をする。また文章の構造の因果関係について理解をする。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
11	Ed Pulaski and the Big Burn 1	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
12	Ed Pulaski and the Big Burn 2	Earth Scienceのトピックでアメリカで起こった森林火災について理解する。また物語文の時系列の考えを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
13	The Flying Housewife 1	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
14	The Flying Housewife 2	Sports and Fitnessのトピックでスポーツの分野で初期に活躍した女性の話を理解する。また読解において類推能力を使用し、作者の意図を理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
15	Blade Runner	Sports and Fitnessのトピックで障害を持つ選手のOlympicsへの挑戦を理解する。また英文中の情報を整理し理解することを理解する。					授業で理解できない部分について復習をし、明確にしておく。（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「READ THIS! 3」 Alice Savage, et al. 著 (Cambridge University Press) ISBN:978-0-521-74793-6 (生協で購入してください。)				受講態度：10% 課題：20% 小テスト：20% 定期試験：50% S：授業を高度に又テーマを深く理解し、積極的に課題に取り組み、教科書より難しい英語やテーマが理解できる。A：授業やテーマをよく理解し、積極的に課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語やテーマが理解できる。B：授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、教科書より少し難しい英語が理解できる。C：授業を理解し、課題に誠実に取り組み、内容と同レベルの英語が理解できる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特になし。				原則、欠席は2回までです。英語で授業が行われます。意見交換をする際には積極的に意見を英語で言うようにしてください。							

科目名	総合英語Ⅱ（教育）Aクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
総合英語Ⅰの内容を踏まえ、TOEICレベルの英語読解力を養います。また、授業で扱う様々な社会的トピックに対して、自分の意見を英語で述べる力も鍛えます。リーディングスキルをさらに高めるとともに、文章を読んで得た知識を自分なりに展開し、ディスカッションができるようになることを目指します。											
学修到達目標											
TOEICレベルの長文を読むための、基礎的なリーディングスキルを身に付けている。テクノロジーやビジネスなど、様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分の意見を英語で述べ、簡単なディスカッションができる。											
授業の進め方											
基本的に、2授業で1ユニットを扱います。様々なトピックの文章を読んで自分の意見を言ったり、相手の意見も踏まえてディスカッションを行う練習をします。ライティングの課題で、自分の意見を文章でまとめる練習も行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Chapter5 Who Was That Man@the Computer?			Eメールとテクノロジーに関する文章を読み、理解する サイト・トランスレーションの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
2	Chapter5 Who Was That Man@the Computer?			Eメールとテクノロジーに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
3	Chapter6 I Saw It On the Internet			インターネットとプライバシーに関する文章を読み、理解する フレーズ・リーディングの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
4	Chapter6 I Saw It On the Internet			インターネットとプライバシーに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
5	Chapter7 A Life with Numbers			女性と数学に関する文章を読み、理解する パラグラフ読みの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
6	Chapter7 A Life with Numbers			女性と数学に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
7	中間テスト Chapter8 The Geometry of Beauty			中間テスト 人の顔に関する数学的研究の文章を読み、理解する				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
8	Chapter8 The Geometry of Beauty			人の顔に関する数学的研究の文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
9	Chapter9 Math and Music: What's the Connection?			数学と音楽に関する文章を読み、理解する キーワード拾い読みの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
10	Chapter9 Math and Music: What's the Connection?			数学と音楽に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
11	Chapter10 Accidental Inventions			様々な発明に関する文章を読み、理解する パラグラフの要旨を素早く理解する練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
12	Chapter10 Accidental Inventions			様々な発明に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
13	Chapter11 Names for Sale			ウェブサイトのドメインに関する文章を読み、理解する これまで学習したリーディングスキルの総復習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
14	Chapter11 Names for Sale			ウェブサイトのドメインに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
15	まとめ			総復習 口述テスト				期末試験に向けての準備（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「READ THIS! Fascinating Stories from the Content Areas」Daphne Mackey著（Cambridge University Press）ISBN:9780521747868（生協で購入してください。）前期から引き続き使用するテキストです。				受講態度：10% 定期試験：30% 課題：30% 小テスト：30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思维能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおそそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。							

科目名	総合英語Ⅱ（教育）Bクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
総合英語Ⅰの内容を踏まえ、TOEICレベルの英語読解力を養います。また、授業で扱う様々な社会的トピックに対して、自分の意見を英語で述べる力も鍛えます。リーディングスキルをさらに高めるとともに、文章を読んで得た知識を自分なりに展開し、ディスカッションができるようになることを目指します。											
学修到達目標											
TOEICレベルの長文を読むための、基礎的なリーディングスキルを身に付けている。テクノロジーやビジネスなど、様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分の意見を英語で述べ、簡単なディスカッションができる。											
授業の進め方											
基本的に、2授業で1ユニットを扱います。様々なトピックの文章を読んで自分の意見を言ったり、相手の意見も踏まえてディスカッションを行う練習をします。ライティングの課題で、自分の意見を文章でまとめる練習も行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Chapter5 Who Was That Man@the Computer?			Eメールとテクノロジーに関する文章を読み、理解する サイト・トランスレーションの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
2	Chapter5 Who Was That Man@the Computer?			Eメールとテクノロジーに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
3	Chapter6 I Saw It On the Internet			インターネットとプライバシーに関する文章を読み、理解する フレーズ・リーディングの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
4	Chapter6 I Saw It On the Internet			インターネットとプライバシーに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
5	Chapter7 A Life with Numbers			女性と数学に関する文章を読み、理解する パラグラフ読みの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
6	Chapter7 A Life with Numbers			女性と数学に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
7	中間テスト Chapter8 The Geometry of Beauty			中間テスト 人の顔に関する数学的研究の文章を読み、理解する				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
8	Chapter8 The Geometry of Beauty			人の顔に関する数学的研究の文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
9	Chapter9 Math and Music: What's the Connection?			数学と音楽に関する文章を読み、理解する キーワード拾い読みの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
10	Chapter9 Math and Music: What's the Connection?			数学と音楽に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
11	Chapter10 Accidental Inventions			様々な発明に関する文章を読み、理解する パラグラフの要旨を素早く理解する練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
12	Chapter10 Accidental Inventions			様々な発明に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
13	Chapter11 Names for Sale			ウェブサイトのドメインに関する文章を読み、理解する これまで学習したリーディングスキルの総復習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
14	Chapter11 Names for Sale			ウェブサイトのドメインに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
15	まとめ			総復習 口述テスト				期末試験に向けての準備（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「READ THIS! Fascinating Stories from the Content Areas」Daphne Mackey著（Cambridge University Press）ISBN:9780521747868（生協で購入してください。）前期から引き続き使用するテキストです。				受講態度：10% 定期試験：30% 課題：30% 小テスト：30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおそそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。							

科目名	総合英語Ⅱ（教育）Cクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12102	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
総合英語Ⅰの内容を踏まえ、TOEICレベルの英語読解力を養います。また、授業で扱う様々な社会的トピックに対して、自分の意見を英語で述べる力も鍛えます。リーディングスキルをさらに高めるとともに、文章を読んで得た知識を自分なりに展開し、ディスカッションができるようになることを目指します。											
学修到達目標											
TOEICレベルの長文を読むための、基礎的なリーディングスキルを身に付けている。テクノロジーやビジネスなど、様々なトピックの英文を読むのに必要な基礎単語や文法が理解できる。自分の意見を英語で述べ、簡単なディスカッションができる。											
授業の進め方											
基本的に、2授業で1ユニットを扱います。様々なトピックの文章を読んで自分の意見を言ったり、相手の意見も踏まえてディスカッションを行う練習をします。ライティングの課題で、自分の意見を文章でまとめる練習も行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Chapter5 Who Was That Man@the Computer?			Eメールとテクノロジーに関する文章を読み、理解する サイト・トランスレーションの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
2	Chapter5 Who Was That Man@the Computer?			Eメールとテクノロジーに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
3	Chapter6 I Saw It On the Internet			インターネットとプライバシーに関する文章を読み、理解する フレーズ・リーディングの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
4	Chapter6 I Saw It On the Internet			インターネットとプライバシーに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
5	Chapter7 A Life with Numbers			女性と数学に関する文章を読み、理解する パラグラフ読みの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
6	Chapter7 A Life with Numbers			女性と数学に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
7	中間テスト Chapter8 The Geometry of Beauty			中間テスト 人の顔に関する数学的研究の文章を読み、理解する				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
8	Chapter8 The Geometry of Beauty			人の顔に関する数学的研究の文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
9	Chapter9 Math and Music: What's the Connection?			数学と音楽に関する文章を読み、理解する キーワード拾い読みの練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
10	Chapter9 Math and Music: What's the Connection?			数学と音楽に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
11	Chapter10 Accidental Inventions			様々な発明に関する文章を読み、理解する パラグラフの要旨を素早く理解する練習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
12	Chapter10 Accidental Inventions			様々な発明に関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
13	Chapter11 Names for Sale			ウェブサイトのドメインに関する文章を読み、理解する これまで学習したリーディングスキルの総復習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
14	Chapter11 Names for Sale			ウェブサイトのドメインに関する文章を読みディスカッション、問題演習				単語、問題演習、音読、ライティング（1時間）			
15	まとめ			総復習 口述テスト				期末試験に向けての準備（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「READ THIS! Fascinating Stories from the Content Areas」Daphne Mackey著（Cambridge University Press）ISBN:9780521747868（生協で購入してください。）前期から引き続き使用するテキストです。				受講態度：10% 定期試験：30% 課題：30% 小テスト：30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおそそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考書は授業内で紹介します。				英語上達は積極的な参加姿勢と地道な努力が不可欠です。トレーニングすれば、必ず英語で意見を言ったり、内容をよりスムーズに理解したりできるようになります。楽しみながら受講して下さい。							

科目名	総合英語Ⅲ（人間・教育）			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22103	研究室	非常勤
担当者	大岩 裕子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
音読は苦手ではありませんか。読めない単語は聞き取れませんし、覚えられないものです。遠回りなようでも英文を聞き、声に出して読むことが、リスニングや読解力のアップにつながります。英語を読むことに慣れましょう。スポーツと健康、教育という身近なテーマに関する平易な英文で、「読む」「聞く」「書く」力を鍛えます。											
学修到達目標											
日本語との違いを意識して「相手に届く声」で正確に英語を読むことができること、表現に必要な基本文法を理解し、会話や作文で応用できること、まとまった量の英文の内容を読み取る読解力を身につけている。											
授業の進め方											
声を出す機会をできる限り多く設けます。予習してあることを前提にテキストを進めますので、ダウンロードした音声を聞き、音読の練習をしてきてください。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス・発声練習と子音の発音	自分の呼吸・口形を意識して英語の子音を発音してみましょう。音読しやすい短文で、まずはしっかり声を出すことから始めます。					ウォーミングアップのテキストの発声練習をしてください。(1時間)				
2	Warming Up!	適切なウォーミングアップとクールダウンとは？ストレッチングも効果的です。					Unit1本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
3	Sports Nutrition!	アスリートに必要な栄養とは？健康的な食事について学びます。					Unit2本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
4	Sevens rugby!	走力・筋力・体力を備えた選手がぶつかり合うラグビー。オリンピック種目になった7人制ラグビーの誕生について学びます。					Unit3本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
5	Athletics!	オリンピックの花、陸上競技について学びます。					Unit4本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
6	Weight Training!	今注目のウェイトトレーニング。効果的な方法とは？					Unit5本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
7	Women's Soccer!	人気の女子サッカー。その歴史について学びます。					Unit6本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
8	Sports Supplements!	スポーツサプリメントの功罪とは？					Unit7本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
9	Swimming!	多くの動物は生まれながらに泳げますが、人は泳ぎ方を教わらなくては泳げません。水泳競技がオリンピック種目になった経緯とは？					Unit8本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
10	Judo!	柔道は今や世界で広く愛好されています。柔道の誕生と発展の過程について学びます。					Unit9本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
11	Sports Psychology!	最高の結果につながるメンタルトレーニングとは？スポーツ心理学の観点から考えてみましょう。					Unit10本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
12	Equestrian!	人馬一体となって挑む馬術競技。その奥深さについて学びます。					Unit11本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
13	The Paralympic Games and Special Olympic World Games!	パラリンピックとスペシャルオリンピックの歴史について学びます。					Unit12本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
14	Gymnastics!	オリンピックでもメダルが期待される体操競技。各種目を詳しく見てみましょう。					Unit14本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
15	Sportsmanship!	真のスポーツマンシップとは？					Unit15本文の音声を聞き、音読と練習問題をやっておくこと。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「Sports and English」Toshiyuki Sakabe, Matthew J. Cotter, Noriaki Okajima 他 Yoshihiko Shinano 著（南雲堂）ISBN:978-4-523-17825-5 C0082（生協で購入してください。）開講が決まってから購入してください。						定期試験：80% 受講態度：20% 受講態度は、課題の提出状況、授業への意欲（予習、発言）等で総合的に判断します。S:授業内容をほぼ100%理解し、意欲的に課題をこなし優秀な成績をおさめている。A:積極的に課題に取り組み、授業内容をよく理解し、目標を十分に達成している。B:授業をおおよそ理解し、真面目に課題に取り組み目標を達成している。C:授業内容を60%程度理解し、基本目標をほぼ達成している。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
なし						自宅で音読の練習をすること。辞書を持参すること。必ず予習をして講義に臨んでください。					

科目名	総合英語Ⅳ（人間・教育）			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22104	研究室	非常勤
担当者	大岩 裕子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
音読は苦手ではありませんか。読めない単語は聞き取れませんし、覚えられないものです。遠回りなようでも英文を聞き、声に出して読むことがリスニングや読解力のアップにつながります。英語を読むことに慣れましょう。食・運動・健康・育といった身近なテーマに関する平易な英文で、「読む」「聞く」「書く」力を鍛えます。											
学修到達目標											
日本語との違いを意識して「相手に届く声」で正確に英語を読むことができること、表現に必要な基本文法を理解し、会話や作文で応用できること、まとまった量の英文の内容を読み取る読解力を身につけている。											
授業の進め方											
声を出す機会をできる限り多く設けます。予習してあることを前提にテキストを進めますので、ダウンロードした音声を聞き、音読の練習をしてきてください。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス・発声練習と子音の発音	自分の呼吸・口形を意識して英語の子音を発音してみましょう。音読しやす短い短文で、まずはしっかり声を出すことから始めます。					ウォーミングアップのテキストの発声練習をしてください。（1時間）				
2	Fuel Your Body and Mind / 心身を育む朝食	朝食を摂らないとどのような影響が出てくるのか考えます/ つながる音を意識して読みましょう。					Unit1の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
3	What Helps Keep a Doctor Away? / 医者にかからなくて済むように	運動不足がもたらす悪影響について考えます/ つながる音、聞こえない音を意識して読みましょう。					Unit2の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
4	laughing Will Save You from Going Crazy / 笑いが心身にもたらす影響は?	笑いがもたらす効果について考えます / 発音されない子音hとその前後の連結を意識して読みましょう。					Unit3の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
5	The French Paradox / フランス人はなぜ太らないか	フレンチパラドックスとはどのようなものでしょうか/ 隣り合う音同士が影響してできる新しい音を練習しましょう。					Unit4の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
6	Americans' Interest in Sushi / 寿司もわさびも大人気	英語で寿司を説明してみましょう。わさびが健康にもたらす効果とは? / 英語の持つ強弱のリズムを意識して読みましょう。					Unit5の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
7	Don't Stay Away from Natto / 納豆を食べるといいことばかり	納豆の持つ驚くべき効果とは? 納豆が苦手な理由は? / 文の内容と強弱の関係を意識して読みましょう。					Unit6の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
8	Acute Alcohol Intoxication Can Kill You / 急性アルコール中毒	急性アルコール中毒の危険性について考えます/ 強くなる音と強勢のある語の差を意識して読みましょう。					Unit7の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
9	Is Snoring a Bad Sign? / いびきは体の危険なサイン	いびきの危険性について考えます/ 舌先で作るtとdの弾き音を練習しましょう。					Unit8の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
10	Getting a Good Night Sleep is a Challenge / 質の良い睡眠をとるには	睡眠障害とその原因について考えます/ 否定語の意識して読みましょう。					Unit9の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
11	Chocolate and its Magical Power / チョコレートの秘めたる力	ダークチョコレートの効用について考えます/ 対比している情報を意識して読みましょう。					Unit10の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
12	The Health Risks of Eating Processed Food / どうして加工食品はよくないか	加工食品を過度に摂取することの問題を考えます/ 句動詞のアクセントを意識して読みましょう。					Unit11の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
13	Is Genetically Modified Food Safe Enough? / 遺伝子組み換え食品の危険性	遺伝子組み換え食品の危険性について考えます/ 英語のリズムや音の変化を意識して読みましょう。					Unit12の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
14	Environmental Health Threats / アレルギー反応の怖さを知ろう	アレルギー反応、アナフィラキシーについて考えます/ 音変化を意識した音読をしましょう。					Unit13の音声を聞き音読と練習問題をやっておくこと。（1時間）				
15	講義全体のまとめ	重要表現の復習					もう一度音声を聞き、正確に読む練習をしておくこと。（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「Better Health for Every Day」Toshiaki Nishihara / Mayumi Nishihara / Amy Mukamuri 著（金星堂） ISBN:978-4-7647-3983-3C1082（生協で購入してください。） 開講が決まってから購入してください。						定期試験：80% 受講態度：20% 受講態度は、課題の提出状況、授業への意欲（予習、発言）等で総合的に判断します。S:授業内容をほぼ100%理解し、意欲的に課題をこなし優秀な成績をおさめている。A:積極的に課題に取り組み、授業内容をよく理解し、目標を十分に達成している。B:授業をおおよそ理解し、真面目に課題に取り組み目標を達成している。C:授業内容を60%程度理解し、基本目標をほぼ達成している。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
なし						自宅で音読の練習をすること。辞書を持参すること。必ず予習をして講義に臨んでください。					

科目名	英会話 I (教育) Aクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12105	研究室	非常勤
担当者	ステパナビチユス エドガラス			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。											
学修到達目標											
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。											
授業の進め方											
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズの基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。					自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる(1時間)				
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay1を覚える、自己紹介スピーチ練習(1時間)				
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay2を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay3を覚える、連絡先を聞く表現練習(1時間)				
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)				
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay5を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay6を覚える、疑問文の練習(1時間)				
8	Unit7: What time is it?	時間を聞いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay7を覚える、時間の表現練習(1時間)				
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay8を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay9を覚える、家族紹介の準備(1時間)				
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay10を覚える、友達の人柄紹介の準備(1時間)				
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay11を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay12を覚える、服装の表現練習(1時間)				
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay13を覚える、予定を表現する練習(1時間)				
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)						受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。					

科目名	英会話 I (教育) Bクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12105	研究室	非常勤
担当者	マルア ダレン			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
<p>本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。</p>											
学修到達目標											
<p>ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。</p>											
授業の進め方											
<p>外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズの基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。					自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる(1時間)				
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay1を覚える、自己紹介スピーチ練習(1時間)				
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay2を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay3を覚える、連絡先を聞く表現練習(1時間)				
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)				
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay5を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay6を覚える、疑問文の練習(1時間)				
8	Unit7: What time is it?	時間を開いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay7を覚える、時間の表現練習(1時間)				
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay8を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay9を覚える、家族紹介の準備(1時間)				
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay10を覚える、友達の人柄紹介の準備(1時間)				
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay11を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay12を覚える、服装の表現練習(1時間)				
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay13を覚える、予定を表現する練習(1時間)				
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
<p>「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)</p>						<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。</p>					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。					

科目名	英会話 I (教育) Cクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12105	研究室	非常勤
担当者	ダルトン コーティ			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。											
学修到達目標											
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に応答し簡単な会話を広げることができる。											
授業の進め方											
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズの基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。					自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる(1時間)				
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay1を覚える、自己紹介スピーチ練習(1時間)				
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay2を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay3を覚える、連絡先を聞く表現練習(1時間)				
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)				
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay5を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay6を覚える、疑問文の練習(1時間)				
8	Unit7: What time is it?	時間を開いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay7を覚える、時間の表現練習(1時間)				
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、開いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay8を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay9を覚える、家族紹介の準備(1時間)				
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay10を覚える、友達の人柄紹介の準備(1時間)				
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay11を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay12を覚える、服装の表現練習(1時間)				
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay13を覚える、予定を表現する練習(1時間)				
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)						受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。					

科目名	英会話 I (教育) Dクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12105	研究室	非常勤
担当者	フリスティン			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
本授業は、話す力を鍛えることに重点を置き、実践的に使える英語を学ぶ授業です。クラスメートとの会話練習や様々なアクティビティを通じて、ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得します。また、ペアでの発表やスピーチ練習も取り入れることで、単に英語力を高めるだけでなく、国際社会の一員として意見を発信するための総合的なコミュニケーション基礎力も身に付けます。											
学修到達目標											
ネイティブスピーカーが実際に使う表現を習得し、英語で簡単な日常会話ができる。 英語で話すことに慣れ親しみ、積極的に意見を伝え、相手とコミュニケーションを取る姿勢が身に付いている。 一方的に話すだけでなく、相手の話に回答し簡単な会話を広げることができる。											
授業の進め方											
外国人講師による英語での授業です。様々な場面で使えるフレーズの基本形を学びつつ、応用形や返答の仕方を会話練習や発表などによって修得します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	自己紹介 ウォーミングアップ	授業の目標確認、自己紹介。 コミュニケーションに必要なスキルについて考え、クラスメートと共有する。					自己紹介スピーチを考える 自分なりの学習目標を立てる(1時間)				
2	Unit1: How are you?	挨拶や別れる際のフォーマルな表現、くだけた表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay1を覚える、自己紹介スピーチ練習(1時間)				
3	Unit2: Nice to meet you.	自分や友人を紹介する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay2を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
4	小テスト1 Unit3: Can you say that again?	小テスト:スピーチ発表 相手のメールアドレスや電話番号を聞きたいときの表現を学ぶ ペアで会話練習、発表 ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay3を覚える、連絡先を聞く表現練習(1時間)				
5	Unit4: Nice weather, isn't it?	軽い雑談に役立つトピックやフレーズを学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay4を覚える、Small Talkの復習(1時間)				
6	Unit1-4 review Unit5: I love hip-hop!	Unit1-4振り返り:p10, p82, p90 自分の好きなこと、嫌いなことについて話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay5を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
7	小テスト2 Unit6: My favorite movie is...	小テスト:スピーチ発表 好きな映画や音楽などを聞く表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay6を覚える、疑問文の練習(1時間)				
8	Unit7: What time is it?	時間を聞いたり教えたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay7を覚える、時間の表現練習(1時間)				
9	Unit8: Would you try kayaking?	意見を言ったり、聞いたりする表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay8を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
10	小テスト3 Unit9: Do you have any brothers?	小テスト:スピーチ発表 家族について紹介、質問する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay9を覚える、家族紹介の準備(1時間)				
11	Unit10: She's pretty smart.	自分や友人の人柄について話す表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay10を覚える、友達の人柄紹介の準備(1時間)				
12	Unit11: I love your shirt!	相手を褒める表現、褒められた時の返答を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay11を覚える、小テストスピーチ練習(1時間)				
13	小テスト4 Unit12: What's she wearing?	小テスト:スピーチ発表 服装についての質問、洋服の買い物に使える表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay12を覚える、服装の表現練習(1時間)				
14	Unit9-12 review Unit13: When do you get up?	Unit9-12振り返り:p30, p84, p92, 毎日の日課を説明する表現を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay13を覚える、予定を表現する練習(1時間)				
15	Unit14: When do you get three?	会話を広げるための追加質問を学ぶ ペアで会話練習、発表、ペアワーク					既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」Jack C. Richards, David Bohlke著(Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1(生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著)著(アルク) ISBN:978-4757422926(生協で購入してください。)						受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。					

科目名	英会話Ⅱ（教育）Aクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	ステパハビュス エドガラス			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業では、英会話Ⅰで学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のキャッチボールができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。											
学修到達目標											
相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。 授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチをすることができる。 人前でも堂々と英語で話せる力を身に付けている。											
授業の進め方											
外国人講師による英語での授業です。英会話Ⅰより長めの会話やスピーチ練習を取り入れ、互いに評価し合います。参加型の授業で最大限に学ぶためには、積極的に参加する姿勢とともに、予習復習をきちんと行うことが重要です。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Unit15:What do you do first?			時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習（1時間）			
2	Unit16: What are you doing?			進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習（1時間）			
3	Unit17:What's your place like?			自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?			小テスト：スピーチ発表 相手のおすすめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習（1時間）			
5	Unit19: Where's the mall?			場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習（1時間）			
6	Unit20:Take a left			道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?			小テスト：スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習（1時間）			
8	Unit22: Will you take \$20?			値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習（1時間）			
9	Unit23: Do you ever buy books?			頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習（1時間）			
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!			モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習（1時間）			
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?			Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習（1時間）			
12	Unit26: We need onions.			必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?			食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習（1時間）			
14	Unit28: How does it taste?			食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習（1時間）			
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend			Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」 Jack C. Richards, David Bohlke 著 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1 (生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著) 著(アルク) ISBN: 978-4757422926 (生協で購入してください。)				受講態度：10% 課題：30% 小テスト：30% 定期試験：30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A: 授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B: 授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C: 授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考書は授業内で紹介します。				人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話Ⅱ（教育）Bクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	マクルーア ダレン			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中（英語）、高（英語）					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
<p>本授業では、英会話Ⅰで学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のキャッチボールができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。</p>											
学修到達目標											
<p>相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。 授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチをすることができる。 人前でも堂々と英語で話せる力を身に付けている。</p>											
授業の進め方											
<p>外国人講師による英語での授業です。英会話Ⅰより長めの会話やスピーチ練習を取り入れ、互いに評価し合います。参加型の授業で最大限に学ぶためには、積極的に参加する姿勢とともに、予習復習をきちんと行うことが重要です。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Unit15:What do you do first?			時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習（1時間）			
2	Unit16: What are you doing?			進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習（1時間）			
3	Unit17:What's your place like?			自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?			小テスト：スピーチ発表 相手のおすすめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習（1時間）			
5	Unit19: Where's the mall?			場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習（1時間）			
6	Unit20:Take a left			道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?			小テスト：スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習（1時間）			
8	Unit22: Will you take \$20?			値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習（1時間）			
9	Unit23: Do you ever buy books?			頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習（1時間）			
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!			モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習（1時間）			
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?			Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習（1時間）			
12	Unit26: We need onions.			必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?			食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習（1時間）			
14	Unit28: How does it taste?			食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習（1時間）			
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend			Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習（1時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」 Jack C. Richards, David Bohlke 著 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1 (生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史（編著）著（アルク） ISBN: 978-4757422926 (生協で購入してください。)</p>					<p>受講態度：10% 課題：30% 小テスト：30% 定期試験：30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A: 授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B: 授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C: 授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。</p>						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
参考書は授業内で紹介します。					<p>人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。</p>						

科目名	英会話Ⅱ（教育）Cクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	ダルトン コーティ			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業では、英会話Ⅰで学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のキャッチボールができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。											
学修到達目標											
相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。 授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチをすることができる。 人前でも堂々と英語で話せる力を身に付けている。											
授業の進め方											
外国人講師による英語での授業です。英会話Ⅰより長めの会話やスピーチ練習を取り入れ、互いに評価し合います。参加型の授業で最大限に学ぶためには、積極的に参加する姿勢とともに、予習復習をきちんと行うことが重要です。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Unit15:What do you do first?			時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習（1時間）			
2	Unit16: What are you doing?			進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習（1時間）			
3	Unit17:What's your place like?			自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?			小テスト：スピーチ発表 相手のおすすめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習（1時間）			
5	Unit19: Where's the mall?			場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習（1時間）			
6	Unit20:Take a left			道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?			小テスト：スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習（1時間）			
8	Unit22: Will you take \$20?			値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習（1時間）			
9	Unit23: Do you ever buy books?			頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習（1時間）			
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!			モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習（1時間）			
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?			Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習（1時間）			
12	Unit26: We need onions.			必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?			食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習（1時間）			
14	Unit28: How does it taste?			食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習（1時間）			
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend			Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」 Jack C. Richards, David Bohlke 著 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1 (生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著) 著(アルク) ISBN: 978-4757422926 (生協で購入してください。)				受講態度：10% 課題：30% 小テスト：30% 定期試験：30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A: 授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B: 授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C: 授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考書は授業内で紹介します。				人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話Ⅱ（教育）Dクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12106	研究室	非常勤
担当者	フリスティット			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業では、英会話Ⅰで学んだ英語を発展させ、コミュニケーション力を高めていきます。様々な場面でネイティブスピーカーが使うフレーズを引き続き学習し、会話のキャッチボールができる力をさらに養います。前期よりも少し長めの会話やスピーチ練習を行い、自信を持って英語で会話する能力を身に付けます。											
学修到達目標											
相手に自分から質問し、様々なトピックで会話を発展させることができる。 授業で学んだフレーズを使いこなし、少し長めのスピーチをすることができる。 人前でも堂々と英語で話せる力を身に付けている。											
授業の進め方											
外国人講師による英語での授業です。英会話Ⅰより長めの会話やスピーチ練習を取り入れ、互いに評価し合います。参加型の授業で最大限に学ぶためには、積極的に参加する姿勢とともに、予習復習をきちんと行うことが重要です。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	Unit15:What do you do first?			時系列で物事を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay14を覚える、スピーチ練習（1時間）			
2	Unit16: What are you doing?			進行中の事柄を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay15を覚える、スピーチ練習（1時間）			
3	Unit17:What's your place like?			自分の家や部屋の間取りについて説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay16を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
4	小テスト1 Unit18: Where can I get a lamp?			小テスト：スピーチ発表 相手のおすすめを聞いたり、提案したりする表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay17を覚える、スピーチ練習（1時間）			
5	Unit19: Where's the mall?			場所を聞く、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay18を覚える、スピーチ練習（1時間）			
6	Unit20:Take a left			道順を案内する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay19を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
7	小テスト2 Unit21: How much is coffee?			小テスト：スピーチ発表 買い物時に値段を聞く表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay20を覚える、スピーチ練習（1時間）			
8	Unit22: Will you take \$20?			値段交渉、買い物時のコミュニケーションを学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay21を覚える、スピーチ練習（1時間）			
9	Unit23: Do you ever buy books?			頻度について聞き、答える表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay22を覚える、スピーチ練習（1時間）			
10	小テスト3 Unit24:Your phone is so cool!			モノの特徴を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay23を覚える、スピーチ練習（1時間）			
11	Unit21-24 review Unit25:Do you eat much fruit?			Unit21-24復習 p60, p87, p95 量や頻度についての表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay24を覚える、スピーチ練習（1時間）			
12	Unit26: We need onions.			必要なもの、足りないものを説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay25を覚える、小テストスピーチ練習（1時間）			
13	小テスト4 Unit27: Do you eat a big lunch?			食事や食生活について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				クラスルーム・イングリッシュとキクタンDay26を覚える、スピーチ練習（1時間）			
14	Unit28: How does it taste?			食べ物の特徴や味を説明する表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のキクタンを覚える、ペアインタビューの練習（1時間）			
15	Unit25-28 review Unit29: I had a great weekend			Unit25-28の復習: p70, p88, p96 Unit29: 過去の出来事について話す表現を学ぶ 会話練習、発表、ペアワーク				既習内容のクラスルーム・イングリッシュを覚える、期末テストの学習（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「Speak NOW 1: Communicate with Confidence」 Jack C. Richards, David Bohlke 著 (Oxford University Press) ISBN:978-0-19-403015-1 (生協で購入してください。) 「キクタン英会話【基礎編】」一杉武史(編著) 著(アルク) ISBN: 978-4757422926 (生協で購入してください。)				受講態度：10% 課題：30% 小テスト：30% 定期試験：30% S:授業内容をよく理解し、自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、授業で学んだ基本レベルを超える英語で高度なコミュニケーションがとれる。A: 授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや高度な英語でコミュニケーションがとれる。B: 授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、やや簡単な英語でコミュニケーションがとれる。C: 授業の内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、ごく基礎的な英語でコミュニケーションがとれる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
参考書は授業内で紹介します。				人に想いを伝え、理解し合うのはとても楽しいことです。英語を使って世界中の人と話す自分を想像し、積極的に取り組む姿勢が上達への鍵。英語学習を通じて、国際社会で通用するコミュニケーション力を身に付けましょう。							

科目名	英会話Ⅲ (人間・教育)		学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22107	研究室	非常勤
担当者	フレデリック カルス		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
<p>これまで積み上げてきた英文読解の知識を活かし、リーディング力とスピーキング力の強化を行っていきます。身近な時事問題などの簡単なニュース記事を題材に、英文の要点を素早くつかみ、それを基に自分の意見をどう発するか、その方法や伝え方、質問の仕方を学んで、実践の中で読む・話す・聞く力を強化します。</p>										
学修到達目標										
<p>英会話Ⅰ・Ⅱで修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的な話題について自信をもってコミュニケーションをとることができる。</p>										
授業の進め方										
<p>毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。</p>										
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Guidance	Introduction to the class				Useful language; Getting started. (1h)				
2	Getting to know each other	Ask and answer questions about yourself				Write about yourself. (1h)				
3	Getting to know each other	Get to know your classmates and teacher				Write about a classmate. (1h)				
4	Talking about interests	Ask and answer questions about things you like/dislike				Write about things you like/dislike. (1h)				
5	Talking about interests	Discuss interests; talk about abilities				Write about your abilities. (1h)				
6	Talking about family	Ask and answer questions about families				Bring some pictures of your family. (1h)				
7	Talking about family	Ask and answer questions about families				Prepare to talk about English reading. (1h)				
8	Talking about people	Match descriptions with pictures of people				Write a description of a friend. (1h)				
9	Talking about people	Practice describing people				Write a description of a famous person. (1h)				
10	Talking about work	Describe a job				Write a description of a job. (1h)				
11	Talking about work	Telling time; describing jobs				Write a description of your dream job. (1h)				
12	Talking about past experiences	Talk about what you did yesterday				Write about what you did yesterday. (1h)				
13	Talking about past experiences	Talk about a vacation; Play the Past Tense Game				Write about what you did on vacation. (1h)				
14	Telling stories	Tell a story (based on the T.V. talk show Gokigenyou)				A story about something that happened to you. (1h)				
15	まとめ Review	Review course, prepare for final examination				Prepare for final examination. (1h)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Talk a Lot, Book One, Second edition」David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)				<p>課題：25% 定期試験：25% 授業への参加度：25% 努力点：25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25% S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。 A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。 B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。 C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。</p>						
参考書				履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
辞書 Any dictionary				<p>いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.</p>						

科目名	英会話Ⅳ (人間・教育)		学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22108	研究室	非常勤
担当者	フレデリック カルス		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
総合英語Ⅳで学ぶ英文ライティングの知識を活かし、英会話Ⅲで学んだ内容をさらに応用して、自分の意見を英文で書いてまとめ発話するスキルを養っていく。グループワークを通じて、自分の趣味や興味のあることを題材に簡単に英語にして発話、それに対して質問をする形式を繰り返し、英語の4技能の全てを定着させていく。										
学修到達目標										
英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した英語能力をさらに向上させ、さまざまな日常的な話題について自信をもってコミュニケーションをとることができる。										
授業の進め方										
毎週の授業はまずテキストを聞くことから始め、つぎに質問の発音を練習します。その後学生はペアになって話し、学習した質問をしたりそれに答えたりします。										
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	Guidance	Introduction to the class				Useful language: Getting started. (1h)				
2	Talking about sports	Pronunciation, discussion about sports				Explain your feelings about sports. (1h)				
3	Talking about sports	Q&A and listening about sports				Prepare to talk about a reading book. (1h)				
4	Talking about other countries	Discuss foreign countries, people and food.				Extensive reading. (1h)				
5	Talking about other countries	Talk about foreign countries and languages.				Write about foreign food. (1h)				
6	Talking about experiences	Talk about things you have done or haven't done.				Extensive reading. (1h)				
7	Talking about experiences	Interview classmates about their experiences; listening				Write about an interesting experience. (1h)				
8	Talking about places	Talk about indoor places.				Extensive reading. (1h)				
9	Talking about places	Giving subway and street directions.				Write about how to get somewhere. (1h)				
10	Traveling to Hawaii	Making restaurant and airplane reservations.				Extensive reading. (1h)				
11	Traveling to Hawaii	Plan to visit other Hawaiian islands.				Write about a trip. (1h)				
12	Talking about Japanese things	Describing Japanese places and things				Extensive reading. (1h)				
13	Talking about Japanese things	Talk about Japanese New Year and prices in Japan.				Write about what you do for New Year. (1h)				
14	Talking about future events	Making plans				Extensive reading. (1h)				
15	Review	Review course. Prepare for final examination.				Prepare for final examination. (1h)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「Talk a Lot, Book One, Second edition」 David Martin著 (EFL Press) (生協で購入してください。)				課題: 25% 定期試験: 25% 授業への参加度: 25% 努力点: 25% Reports: 25%, Final examination: 25%, Class Attitude: 25%, Assignments: 25%, S: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容すべてを理解している。A: 主体的かつ意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の8割以上を理解している。B: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の7割以上を理解している。C: 意欲的に授業参加、課題取り組みができ、授業内容の6割以上を理解している。						
参考書				履修上の注意 (学生へのメッセージ)						
辞書 Any dictionary				いつでもメールで私に連絡してください。 Please contact me by email at fredcarruth@hotmail.com anytime.						

科目名	TOEIC I Aクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC II」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。					自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る (Part2)					Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう (Part5)					Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る (Part1)					Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)					Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
6	リスニング演習 小テスト①	Lesson11 音のひっかけに注意 (Part1, 2)					Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ (Part3, 4)					Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する (Part3)					Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる (Part4)					Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント (Part7)					Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式 (Part7)					Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
12	リスニング演習 小テスト②	Lesson5 問いかげごとの「よくある」「ありえない」応答 (Part2)					Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目 (Part5)					Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く (Part5, 6)					Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習 (1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC II」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。					

科目名	TOEIC I Bクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC II」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る			TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。				自分に合った学習計画を作成する(1時間)			
2	リスニング演習 リーディング演習			サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る (Part2)				Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)			
3	リスニング演習 リーディング演習			Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう (Part5)				Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)			
4	リスニング演習			Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る (Part1)				Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)			
5	リスニング演習			Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)				Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)			
6	リスニング演習 小テスト①			Lesson11 音のひっかけに注意 (Part1, 2)				Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)			
7	リスニング演習			Lesson12 典型的な設問とその流れ (Part3, 4)				Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
8	リスニング演習			Lesson13 会話の全体構造を理解する (Part3)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
9	リスニング演習			Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる (Part4)				Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
10	リーディング演習			Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント (Part7)				Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
11	リーディング演習			Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式 (Part7)				Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
12	リスニング演習 小テスト②			Lesson5 問いかげごとの「よくある」「ありえない」応答 (Part2)				Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
13	リスニング演習 リーディング演習			Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目 (Part5)				Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
14	リスニング演習 リーディング演習			Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く (Part5, 6)				Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)			
15	まとめ			実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。				定期試験に向けて自己学習 (1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC II」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。							

科目名	TOEIC I Cクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC II」の履修を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で400点以上の取得を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
TOEIC L&R で350点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。					自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る (Part2)					Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう (Part5)					Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る (Part1)					Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)					Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
6	リスニング演習 小テスト①	Lesson11 音のひっかけに注意 (Part1, 2)					Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題 (1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ (Part3, 4)					Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する (Part3)					Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる (Part4)					Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント (Part7)					Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式 (Part7)					Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
12	リスニング演習 小テスト②	Lesson5 問いかげごとの「よくある」「ありえない」応答 (Part2)					Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目 (Part5)					Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く (Part5, 6)					Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題 (1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習 (1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC II」を受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。					

科目名	TOEIC I Dクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、英語運用力の基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を身につけ、TOEIC受験に必要な英語力の基礎を作ります。後期「TOEIC II」を通してリスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&R で370点以上取得することを目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス(原則20名以下)で行います。											
学修到達目標											
TOEIC L&R で320点以上取得できる。 さらに、簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
たくさん英語を聞き、学んだ表現を実際に使うことで、まずは最も重要なリスニング力向上を目指します。その上で、リーディングや文法も学習し、得点アップにつながる基礎力を養います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&Rテストについて知る	TOEICの特徴を知り、目標点数を取得するためにはどんなトレーニングが必要かを検討する。					自分に合った学習計画を作成する(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	サンプル問題に挑戦 Lesson1 5W& Howを聴き取る(Part2)					Lesson1 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Lesson2 be動詞の直後の動作(Part1) Lesson9 品詞を攻略しよう(Part5)					Lesson2 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
4	リスニング演習	Lesson3 写真と矛盾した要素を聞き取る(Part1)					Lesson3 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson4 許可、依頼、提案(Part2)					Lesson4 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
6	リスニング演習 小テスト①	Lesson11 音のひっかけに注意(Part1, 2)					Lesson11 音読筆写 Eラーニング、単語 文法問題(1時間)				
7	リスニング演習	Lesson12 典型的な設問とその流れ(Part3, 4)					Lesson12 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson13 会話の全体構造を理解する(Part3)					Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リスニング演習	Lesson14 トークの全体構造と頻出トピックを押さえる(Part4)					Lesson13 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習	Part7の解き方 Lesson15 典型的な問題文と答えのヒント(Part7)					Lesson15 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習	Lesson16 Part7の頻出トピック・文書形式(Part7)					Lesson16 音読・復習 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
12	リスニング演習 小テスト②	Lesson5 問いかげごとの「よくある」「ありえない」応答(Part2)					Lesson5 音読筆写 Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Part3 テキストミニ模試より Lesson6 意味だけでなく形に注目(Part5)					Part3 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Part4 テキストミニ模試より Lesson8 キーワードを探して正しい時制を見抜く(Part5, 6)					Part4 音読、オーバーラッピング、シャドーイング Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Micael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978040883190761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期の「TOEIC II」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングの使用に、スマホ、パソコン、タブレットのいずれかが必須です。					

科目名	TOEIC I Eクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけでなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC II」を通してTOEIC Bridge 140点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス（原則20名以下）で行います。											
学修到達目標											
TOEIC Bridge 120点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。											
授業の進め方											
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力（特に文法力とリスニング力）の向上を目指します。Eラーニングを活用します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。					自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング（1時間）				
2	TOEIC Bridge演習（1回目）課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。					テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（名詞・動詞）の問題演習 Part 1 基礎問題					文法（名詞・動詞）の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（形容詞・副詞）の問題演習 Part 2 応用問題					文法（形容詞・副詞）の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト① Part 2 When 単語テスト①					実践テスト①の復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（代名詞・助動詞）の問題演習 Part 2 Who					文法（代名詞・助動詞）の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング（1時間）				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（前置詞と接続詞のちがい）の問題演習 実践テスト② Part 2 What、Part 5 請求書（基礎問題）					文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在形・現在進行形）の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書（実践問題） 単語テスト②					文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在完了・現在完了進行形）の問題演習 Part 2 How long Part 5 表（基礎問題）					文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（過去形・過去形と現在完了のちがい）の問題演習 Part 2 How far Part 5 表（実践問題）					文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング（1時間）				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法（過去進行形・過去完了形）の問題演習 Part 3-4 実践問題演習					文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング（1時間）				
14	TOEIC Bridge演習（2回目）課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト③					間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング（1時間）				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。					授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著（ジェイ・リサーチ出版） ISBN:978-4-901429-57-3（生協で購入してください。） 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著（株式会社学研プラス出版） ISBN:978-4053046499（生協で購入してください。）				受講態度：10% 小テスト：40% 課題：30% 定期試験：20% S：授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A：授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC II」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。							

科目名	TOEIC I Fクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけで使うものではなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC II」を通してTOEIC Bridge 130点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス（原則20名以下）で行います。											
学修到達目標											
TOEIC Bridge 110点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。											
授業の進め方											
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力（特に文法力とリスニング力）の向上を目指します。Eラーニングを活用します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。					自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング（1時間）				
2	TOEIC Bridge演習（1回目）課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。					テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（名詞・動詞）の問題演習 Part 1 基礎問題					文法（名詞・動詞）の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（形容詞・副詞）の問題演習 Part 2 応用問題					文法（形容詞・副詞）の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト① Part 2 When 単語テスト①					実践テスト①の復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（代名詞・助動詞）の問題演習 Part 2 Who					文法（代名詞・助動詞）の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング（1時間）				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（前置詞と接続詞のちがい）の問題演習 実践テスト② Part 2 What、Part 5 請求書（基礎問題）					文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在形・現在進行形）の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書（実践問題） 単語テスト②					文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在完了・現在完了進行形）の問題演習 Part 2 How long Part 5 表（基礎問題）					文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（過去形・過去形と現在完了のちがい）の問題演習 Part 2 How far Part 5 表（実践問題）					文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング（1時間）				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法（過去進行形・過去完了形）の問題演習 Part 3-4 実践問題演習					文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング（1時間）				
14	TOEIC Bridge演習（2回目）課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト③					間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング（1時間）				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。					授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著（ジェイ・リサーチ出版）ISBN:978-4-901429-57-3（生協で購入してください。） 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著（株式会社学研プラス出版） ISBN:978-4-901429-57-3（生協で購入してください。）						受講態度：10% 小テスト：40% 課題：30% 定期試験：20% S：授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A：授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
授業内で紹介します。						TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC II」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です。					

科目名	TOEIC I Gクラス			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UC12109	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかを測るテストです。英語は外国だけでなく、国内でも英語を使うことでより多くの道が開けます。この授業では、TOEICテストの入門編であるTOEIC Bridgeの教材を使用し、聞き取り練習や、基本的なフレーズを使って繰り返し会話練習をすることで、基礎的な英語力向上とTOEIC Bridgeのスコアアップを目指します。後期「TOEIC II」を通してTOEIC Bridge 120点以上を目指します。プレイスメントテスト成績に基づく人数クラス（原則20名以下）で行います。											
学修到達目標											
TOEIC Bridge 100点以上を取得することができる。 また、上記相当に必要な問題に対処することができ、英語で基本的な応答ができる。											
授業の進め方											
講義形式ではなく受講生のみなさんの参加形式です。英語を声に出し会話を楽しみながら、文法演習やTOEICの演習問題にも多く取り組み、英語の基礎力（特に文法力とリスニング力）の向上を目指します。Eラーニングを活用します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。					自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング（1時間）				
2	TOEIC Bridge演習（1回目）課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。					テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（名詞・動詞）の問題演習 Part 1 基礎問題					文法（名詞・動詞）の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（形容詞・副詞）の問題演習 Part 2 応用問題					文法（形容詞・副詞）の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト① Part 2 When 単語テスト①					実践テスト①の復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（代名詞・助動詞）の問題演習 Part 2 Who					文法（代名詞・助動詞）の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング（1時間）				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（前置詞と接続詞のちがい）の問題演習 実践テスト② Part 2 What、Part 5 請求書（基礎問題）					文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在形・現在進行形）の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書（実践問題） 単語テスト②					文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在完了・現在完了進行形）の問題演習 Part 2 How long Part 5 表（基礎問題）					文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（過去形・過去形と現在完了のちがい）の問題演習 Part 2 How far Part 5 表（実践問題）					文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング（1時間）				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法（過去進行形・過去完了形）の問題演習 Part 3-4 実践問題演習					文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング（1時間）				
14	TOEIC Bridge演習（2回目）課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト③					間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング（1時間）				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。					授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング（1時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著（ジェイ・リサーチ出版） ISBN:978-4-901429-57-3（生協で購入してください。） 「はじめてのTOEIC受験」霜村和久著（センゲージラーニング） ISBN:9784863121812（生協で購入してください。）				受講態度：10% 小テスト：40% 課題：30% 定期試験：20% S：授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A：授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
授業内で紹介します。				TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。後期の「TOEIC II」の受講を強く推奨しています。授業や課題でEラーニングを活用するため、パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれかが必要です							

科目名	TOEICⅡ Aクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。											
学修到達目標											
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策			授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)			
2	リスニング演習			Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
3	リーディング演習 リスニング演習			Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
4	リーディング演習 リスニング演習			Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
5	リスニング演習			Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
6	リーディング演習 リスニング演習			Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
7	ハーフ模試 通し練習			ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
8	リスニング演習			Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
9	リーディング演習 リスニング演習			Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
10	リーディング演習 リスニング演習			Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
11	リーディング演習 リスニング演習			Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
12	リーディング演習 リスニング演習			Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
13	リーディング演習 リスニング演習			Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
14	リーディング演習 リスニング演習			Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
15	まとめ			実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEICⅢ」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。							

科目名	TOEICⅡ Bクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。											
学修到達目標											
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。					Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。					Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。					期末試験に備える(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) 「新TOEIC TEST 初心者特急 読解編」神崎正哉、TEX加藤著(朝日新聞出版) ISBN:978-4023313231(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEICⅢ」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。					

科目名	TOEICⅡ Cクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	中野 麻里			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。											
学修到達目標											
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで400点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策			授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。				Eラーニング、文法問題(1時間)			
2	リスニング演習			Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
3	リーディング演習 リスニング演習			Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
4	リーディング演習 リスニング演習			Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
5	リスニング演習			Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
6	リーディング演習 リスニング演習			Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
7	ハーフ模試 通し練習			ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。				Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
8	リスニング演習			Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
9	リーディング演習 リスニング演習			Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
10	リーディング演習 リスニング演習			Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
11	リーディング演習 リスニング演習			Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
12	リーディング演習 リスニング演習			Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
13	リーディング演習 リスニング演習			Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング				音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)			
14	リーディング演習 リスニング演習			Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)				音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)			
15	まとめ			実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。				期末試験に備える(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。) 「新TOEIC TEST 初心者特急 読解編」神崎正哉、TEX加藤著(朝日新聞出版) ISBN:978-4023313231(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
参考書は授業内で紹介します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEICⅢ」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。							

科目名	TOEIC II D クラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
本授業では英語でのコミュニケーションの基礎となるリスニング力、リーディング力、文法力、語彙力を総合的に身につけ、TOEIC L&Rのスコアアップを目指します。授業では、学んだ表現を実際にクラスメートとの会話で使い、スピーキング力も養うことを目指します。											
学修到達目標											
リスニング能力、文法の知識、語彙力を身につけ、TOEIC L&Rで370点以上取得できる。さらに、日常会話ができる程度のコミュニケーション能力を修得している。											
授業の進め方											
前期「TOEIC I」から引き続き、リスニング力の強化に取り組みつつ、リーディングの得点アップにつながる学習も行います。また、授業中に学んだ表現を実際に使ってみることで、スピーキング力強化にも繋がります。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と目標、授業の進め方について説明。前期の結果を踏まえ、スコアを上げるための学習計画を立てる。					Eラーニング、文法問題(1時間)				
2	リスニング演習	Lesson7動作と状態の違いで正解を見抜く(Part1) Eラーニング					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
3	リーディング演習 リスニング演習	Lesson17 代名詞のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
4	リーディング演習 リスニング演習	Lesson18 形容詞節のチェックポイント(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
5	リスニング演習	Lesson22 図表問題の解き方(Part3, 4) Eラーニング					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
6	リーディング演習 リスニング演習	Lesson19 関連語句(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
7	ハーフ模試 通し練習	ここまでの学習で習得したスキルを使い、半分の模試(100問)に挑戦します。					Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
8	リスニング演習	Lesson26 文脈を読み取る(Part3, 4)					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
9	リーディング演習 リスニング演習	Lesson21 Scanningを身に付けよう(Part7) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
10	リーディング演習 リスニング演習	Lesson20 接続詞系の問題(Part5, 6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
11	リーディング演習 リスニング演習	Lesson24 文章の展開パターン(Part6) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
12	リーディング演習 リスニング演習	Lesson23 Multiple Passage(Part7) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
13	リーディング演習 リスニング演習	Lesson25 代名詞や限定詞が生むつながり(Part7) Eラーニング					音読、Eラーニング、単語、音読、文法問題(1時間)				
14	リーディング演習 リスニング演習	Lesson27 口語的なやり取りに慣れよう(Part3, Part7)					音読、シャドーイング、Eラーニング、単語、文法問題(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意しながら解く練習をする。					期末試験に備える(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「はじめてのTOEIC L&Rテスト きほんのきほん」石井洋佑、Karl Rosvold、Michael McDowell著(スリーエーネットワーク) ISBN:978-4-88319-761-3(生協で購入してください。) 「TOEIC L&Rテスト 英文法ゼロからスコアが稼げるドリル」高橋恭子著(アルク) ISBN:978-4-7574-3012-9(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC III」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。					

科目名	TOEIC II Eクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	清澤 理恵			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC Iに引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。											
学修到達目標											
TOEIC Bridgeで140点を目標せる英語力を身に着けている。英語での基本的な応答がスムーズにできる。リーディングに必要な、基本的スキルを身に着けている。											
授業の進め方											
前半はリスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では、文法・読解問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。				前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間)			
2	学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2			英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度				文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)			
3	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5			基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法				文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間)			
4	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5			基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題)				文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間)			
5	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5			実践テスト③、小テスト① Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題①)				実践テスト③復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)			
6	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題②)				文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)			
7	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト④ Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題③)				文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間)			
8	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題)				文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)			
9	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト②				文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)			
10	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト⑤ Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題)				文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)			
11	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題)				文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)			
12	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習①、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題)				文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間)			
13	文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について			基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト③				文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間)			
14	通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3			課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト⑥、Part 4 実践問題演習②、Part 3 電話メッセージ				文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間)			
15	リスニング Part 2-3			Part 4 実践問題演習③ Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策				テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」岡岡恵著(株式会社学研プラス出版)(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
授業内で指示します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC III」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。							

科目名	TOEIC II Fクラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	小西 さやか			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC Iに引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。											
学修到達目標											
TOEIC Bridgeで130点を目標せる英語力を身に着けている。英語での基本的な応答がスムーズにできる。リーディングに必要な、基本的スキルを身に着けている。											
授業の進め方											
前半はリスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では、文法・読解問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			前期を振り返り、目標を達成するために何が必要かを確認します。				前期の内容を復習して授業に臨む。宿題として自己学習の目標を立てる。(1時間)			
2	学習方法の確認と実践 文法演習 リスニング Part 2			英語学習に必要な学習方法を確認 基本文法(過去完了進行形)の問題演習 Part 2 手段・程度				文法復習、テキストP. 28-29の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング(1時間)			
3	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5			基本文法(未来を表す表現・未来進行形と未来完了形)の問題演習 Part 2 一般疑問文・平叙文 Part 5 料理法				文法復習、テキストP. 30-31、88-89の復習と音読、Eラーニング(1時間)			
4	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5			基本文法(仮定法過去・仮定法過去完了)の問題演習 Part 2 付加疑問文・否定疑問文 Part 5 広告・記事(基礎問題)				文法復習、テキストP. 32、90-91の復習と音読筆写、単語リスト、Eラーニング(1時間)			
5	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5			実践テスト③、小テスト① Part 2 選択疑問文 Part 5 広告・記事(実践問題①)				実践テスト③復習、テキストP. 33、122の復習と音読筆写、単語リスト2、Eラーニング(1時間)			
6	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(分詞・受動態)の問題演習 Part 3 Where Part 5 広告・記事(実践問題②)				文法復習、テキストP. 40、123の復習と音読筆写、単語リスト3、Eラーニング(1時間)			
7	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(受動態のいろいろな形)の問題演習 実践テスト④ Part 3 Who、Part 5 広告・記事(実践問題③)				文法復習、テキストP. 41、126の復習と音読練習、単語リスト3、Eラーニング(1時間)			
8	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(不定詞・不定詞を使った文)の問題演習 Part 3 When Part 5 掲示文(基礎問題)				文法復習、テキストP. 42、92-93の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)			
9	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(不定詞のいろいろな形・動名詞)の問題演習 Part 3 How、Part 5 掲示文(実践問題) 単語テスト②				文法復習、テキストP. 43-44、121の復習と音読練習、単語リスト4、Eラーニング(1時間)			
10	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(不定詞と動名詞のちがい)の問題演習 実践テスト⑤ Part 3 What、Part 5 Eメール(基礎問題)				文法復習、テキストP. 45、94-95の復習と音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)			
11	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(関係代名詞・そのほかの関係代名詞)の問題演習 Part 3 Why Part 5 Eメール(実践問題)				文法復習、テキストP. 46、124の音読練習、単語リスト5、Eラーニング(1時間)			
12	文法演習 リスニング Part 3 リーディング Part 5			基本文法(注意すべき関係代名詞・関係副詞)の問題演習 Part 4 実践問題演習①、Part 3 交通機関 Part 5 手紙(実践問題)				文法復習、テキストP. 47、113-114、125の復習と音読練習、単語リスト6、Eラーニング(1時間)			
13	文法演習、小テスト リスニング Part 1-3 時間配分について			基本文法(関係代名詞と関係副詞のちがい)の問題演習 Part 1-2 通し練習、Part 3 ガイドツアー 時間配分確認、単語テスト③				文法復習、テキストP. 48の復習と音読、単語リスト1-6、Eラーニング(1時間)			
14	通し練習振り返り 文法演習 リスニング Part 3			課題の通し練習を振り返り、課題分析 基本文法(比較級・最上級)の問題演習 実践テスト⑥、Part 4 実践問題演習②、Part 3 電話メッセージ				文法復習、テキストP. 49、115-116の復習と音読練習、単語リスト7、Eラーニング(1時間)			
15	リスニング Part 2-3			Part 4 実践問題演習③ Part 2-3 部分的に通して練習し、テスト対策				テキストP. 113-118、間違った個所の復習と音読練習、単語リスト1-7、Eラーニング(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「TOEIC Bridgeスピードマスター」柴山かつの著(ジェイ・リサーチ出版) ISBN:978-4901429573(生協で購入してください。) 「TOEICテスト 英文法をひとつひとつわかりやすく。」岡岡恵著(株式会社学研プラス出版) ISBN:978-4053046499(生協で購入してください。)				受講態度:10% 小テスト:40% 定期試験:20% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
授業内で指示します。				TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC III」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。							

科目名	TOEIC II G クラス			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UC12110	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEICは「英語でコミュニケーション」が取れるかどうかを測るテストです。本授業ではTOEIC I に引き続き、TOEIC Bridgeのスコアアップを狙いながら、会話やコミュニケーション力をさらに養います。問題演習や会話練習を多く取り入れ、使える英語の修得を目指します。											
学修到達目標											
TOEIC Bridgeで120点を目標せる英語力を身に着けている。英語での基本的な応答がスムーズにできる。リーディングに必要な、基本的スキルを身に着けている。											
授業の進め方											
前半は前期に引き続き、リスニング力の習得に力を入れながら、同時に会話練習を行って、楽しみながら基本的なコミュニケーション能力を身につけます。後半では長文問題演習を増やし、TOEIC Bridgeテストでのスコアアップを目指します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	TOEIC Bridgeがどのようなテストかを知り、今後の学習計画を立てます。					自己紹介文を考え、発表できるように練習を行う。Eラーニング（1時間）				
2	TOEIC Bridge演習（1回目）課題分析	実際にTOEIC Bridgeを解いて答え合わせを行った後、それぞれの課題分析を行う。					テストに出てきた基本動詞、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
3	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（名詞・動詞）の問題演習 Part 1 基礎問題					文法（名詞・動詞）の復習、テキストP. 14-15の音読筆写、単語リスト1、Eラーニング（1時間）				
4	文法演習 リスニング Part 1	基本文法（形容詞・副詞）の問題演習 Part 2 応用問題					文法（形容詞・副詞）の復習、テキストP. 16-17の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
5	文法演習 リスニング Part 2 小テスト	実践テスト① Part 2 When 単語テスト①					実践テスト①の復習、テキストP. 20の音読筆写、単語リスト2、Eラーニング（1時間）				
6	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（代名詞・助動詞）の問題演習 Part 2 Who					文法（代名詞・助動詞）の復習、テキストP. 21の音読筆写、単語リスト3、Eラーニング（1時間）				
7	文法演習 リスニング Part 2	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
8	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（接続詞・そのほかの接続詞）の問題演習 Part 2 Why Part 5 パンフレットの読み取り練習					文法（接続詞）の復習、テキストP. 23の音読筆写、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
9	文法演習、小テスト リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（前置詞と接続詞のちがい）の問題演習 実践テスト② Part 2 What、Part 5 請求書（基礎問題）					文法復習、P. 24、84-85の音読筆写と復習、単語リスト4、Eラーニング（1時間）				
10	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在形・現在進行形）の問題演習 Part 2 How much、Part 5 請求書（実践問題） 単語テスト②					文法復習、P. 25、127の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
11	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（現在完了・現在完了進行形）の問題演習 Part 2 How long Part 5 表（基礎問題）					文法の復習、P. 26、86-87の音読筆写と復習、単語リスト5、Eラーニング（1時間）				
12	文法演習 リスニング Part 2 リーディング Part 5	基本文法（過去形・過去形と現在完了のちがい）の問題演習 Part 2 How far Part 5 表（実践問題）					文法の復習、テキストP. 27、120の音読筆写と復習、単語、Eラーニング（1時間）				
13	文法演習、小テスト リスニング Part 3 リーディング Part 4	基本文法（過去進行形・過去完了形）の問題演習 Part 3-4 実践問題演習					文法復習、問題の復習と音読筆写、単語リスト6、Eラーニング（1時間）				
14	TOEIC Bridge演習（2回目）課題分析	第1回目の授業で解いた問題にもう一度取り組み、どの能力を伸ばすことができたのかを認識すると共に、今後の課題を分析。単語テスト③					間違った問題を全て復習。特に不明な単語を覚えて音読筆写、Eラーニング（1時間）				
15	まとめ	定期テストとして行うTOEIC Bridge IPに備え、学んだ単語や表現の総復習を行う。					授業で扱ったフレーズ・文法の復習、課題の総復習、Eラーニング（1時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「TOEIC Bridge スピードマスター」柴山かつの著（ジェイ・リサーチ出版）ISBN:978-4-901429-57-3（生協で購入してください。） 「TOEICテスト英文法をひとつひとつわかりやすく。」富岡恵著（株式会社学研プラス出版）ISBN:978-4053046499（生協で購入してください。）					受講態度：10% 小テスト：40% 課題：30% 定期試験：20% S：授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。スコアにおいても著しい成績を残した。A：授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
授業内で紹介します。					TOEICには継続的な学習が不可欠です。来期の「TOEIC III」も引き続き受講することを強く推奨します。間違えることを恐れず英会話を楽しみましょう。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEICⅢAクラス			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEICⅣ」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。											
学修到達目標											
「TOEIC I・II」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。											
授業の進め方											
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックリンク登録。					学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC□ LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEICⅣ」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEICⅢBクラス			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEICⅣ」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。											
学修到達目標											
「TOEIC I・II」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。											
授業の進め方											
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックリンク登録。					学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC□ LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEICⅣ」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEICⅢCクラス			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEICⅣ」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。											
学修到達目標											
「TOEIC I・II」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。 リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。											
授業の進め方											
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックリンク登録。					学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC□ LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEICⅣ」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEICⅢDクラス			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEICIV」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。											
学修到達目標											
「TOEIC I・II」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。											
授業の進め方											
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックリンク登録。					学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC□ LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEICIV」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEICⅢEクラス			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEICⅣ」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。											
学修到達目標											
「TOEIC I・II」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。											
授業の進め方											
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックリンク登録。					学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC□ LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEICⅣ」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEICⅢ Fクラス			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UC22111	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、スコアアップを狙います。リスニングを重視しますが、やや長めの文を読みながら語彙力と文法力に磨きをかけ、総合的な英語力も養います。後期「TOEICIV」を通してTOEIC L&Rで500点以上の取得を目指します。											
学修到達目標											
「TOEIC I・II」で学習した内容を復習しながら、TOEIC450点取得に必要な問題に対処できる力を修得している。リスニングでは、自然なスピードでの会話を聞き、概要を把握できる。											
授業の進め方											
TOEICに頻出するトピックごとにまとめられたテキストを用いて、リスニング、語彙、文法、読解を総合的に学習します。さらに、授業で会話練習に取り組むことにより、スピーキング力を強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス TOEIC L&R テストの傾向と対策	授業の概要と進め方を説明。質問を受ける。TOEIC L&Rの概要の確認。過去のテスト結果を踏まえ、今後の学習方法を検討する。チェックリンク登録。					学習計画を立てる、音読(1時間)				
2	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
3	リスニング・リーディング 問題演習	Unit1 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
4	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
5	リスニング・リーディング 問題演習	Unit2 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
6	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
7	リスニング・リーディング 問題演習	Unit3 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
8	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
9	リスニング・リーディング 問題演習	Unit4 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
10	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
11	リスニング・リーディング 問題演習	Unit5 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
12	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
13	リスニング・リーディング 問題演習	Unit6 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
14	リスニング・リーディング 問題演習	Unit7 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語、音読、シャドーイング、問題演習(1時間)				
15	まとめ	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					定期試験に向けて自己学習(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「THE HIGH ROAD TO THE TOEIC□ LISTENING AND READING TEST」早川幸治、番場直之、中村信子、鈴木顕著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7(生協で購入してください。)						受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。後期「TOEICIV」の受講を強く推奨しています。					

科目名	TOEICIV Aクラス			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	山浦 かおる			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に着けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著(IBCブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEICIV Bクラス			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	春日 啓子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に着けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木頭 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。) 「TOEIC L&R TEST 標準模試2」神崎正哉、ダニエル・ワーリナ著(IBCブリッシング) ISBN:978-4794604668 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受験経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEICIV Cクラス			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木頭 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEICIVDクラス			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木頭 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEICIV Eクラス			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	宮坂 るみ			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木頭 著 (金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	TOEICIV F クラス			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UC22112	研究室	非常勤
担当者	田邊 雅彦			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
TOEIC L&R は英語のコミュニケーション能力を評価する試験で、採用する大学や企業の数は年々増え続けています。本授業では、より実践的なTOEIC用の教材を使い、さらなるスコアアップを狙います。リスニングに加え、前期よりもさらに長い文を読みこなせるリーディングスキルを養います。											
学修到達目標											
TOEIC L&Rで500点を取得できる英語力を身に着けている。 リスニングでは、英語での短文の質問・応答が理解でき、やや長めのアナウンスを聞いて概要を理解できる。											
授業の進め方											
この授業では、リスニング力、語彙力、文法力を実践的に身につけます。さらに、授業では会話も取り入れ、スピーキング力も同時に強化することを狙います。Eラーニングを活用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業概要と授業の進め方の説明。前期の振り返りと今期の学習計画を立てる。					前期IPスコアシート持参。学習計画を立てる。問題演習(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	Unit8 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	Unit9 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	Unit10 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	Unit11 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	Unit12 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part1, 3, 7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	Unit13 Part2, 4, 5, 6のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習	Unit14 Part1-7のPractice, Challenge問題					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
15	通し練習	実際の半分の問題数(100問)の模試に取り組む。学習の成果を出し切れるよう、時間配分に注意して解く。					単語・フレーズを学習 音読 問題演習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「The High Road to TOEIC Listening and Reading Test」早川幸治 / 番場直之 / 中村信子 / 鈴木顕 著(金星堂) ISBN:978-4-7647-4045-7 (生協で購入してください。)					受講態度:10% 小テスト:30% 定期試験:30% 課題:30% S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書、追加のテキストは授業内で指示します。					今までにTOEIC関連の講義を受講したことがある学生を対象としています。受講経験のない学生は相談して下さい。スマートフォン、PC、タブレット端末のいずれかが必要です。						

科目名	ICTと情報倫理			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL12201	研究室	非常勤
担当者	久保田 裕			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	△	△	△						
授業概要											
本講義は、様々な事例を参考に、情報社会における諸問題を理解し、それへの対応力を高めます。情報機器の急速な発展によってインターネット利用が日常化し、メディアの特性や価値を理解することなく情報の受発信を行くことにより、著作権侵害、個人情報漏洩、児童ポルノ、不正アクセス、ネット詐欺など犯罪の加害者、被害者になったり、意図せずに法令に違反するなどの例も後が絶ちません。そうならないために、情報モラルの醸成と情報をめぐる法の精神について考え、人生の生き方を学修します。											
学修到達目標											
ICTとは何か情報倫理（情報モラル）を学ぶために、人生とは何か、どう生きたいか、情報社会との関わり合いを通し、周囲とのコミュニケーションの重要性を再認識し、大学生活及び社会生活を有意義で快適、かつ安全に過ごすための基本的な考え方を修得することができる。											
授業の進め方											
授業の学習内容により、資料を作成したり、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ICTと情報倫理（情報モラル）概要			本講義で学ぶ概要を説明します。				自分の履修計画を作成します。（4時間）			
2	あなたの人生の目標は？（1）			各自、座右の銘を紹介し、簡単な自己紹介をすることによってプレゼンテーションの実習をします。				著作物（作品）との関わりについて新聞や本を読み、話す内容をまとめておきます。（4時間）			
3	あなたの人生の目標は？（2）			2回と同じ。受講生が多いことからテーマを同じにしました。				2回と同じ。（4時間）			
4	情報モラルと情報を巡る法律について（1回）			情報社会で「生きる」ことについて考えます。今この状況を乗り切る判断、決断、覚悟、決心について学びます。				自分の人生の振り返りをし、今後について考えます。（4時間）			
5	情報モラルと情報を巡る法律について（2回）			4回に同じ。				4回に同じ。（4時間）			
6	いわゆる情報法全般について触れ、法の精神を考えます。			情報社会の規律としての情報法を学び、規範の意味について考えます。				情報社会で、被害にあったり、加害者になっていないかを検討し、発表します。（4時間）			
7	著作権法を学ぶ（1回）			民法の特別法としての著作権法を学びます。法とモラルの違いを考えながら法へのアプローチを考えます。				ネットで著作権法にかかわる条文や事例についてアクセスしておく。（4時間）			
8	著作権法を学ぶ（2回）			1回目講義の復習をしつつ、条文にあたりながら自分の生活と著作権法との関わりを考え、著作物の意味と価値を考えます。				復習すること。（4時間）			
9	著作権法を学ぶ（3回）			人間しか行わない「創作」について考え、自らの表現行為と誰に向けての発信か、さらにどのようなメディアを選択するのか、という観点から情報ツールとの付き合い方を考えます。				著作物の例示からその種類をイメージし、自ら創作してみます。（4時間）			
10	著作権法を学ぶ（4回）			著作権の侵害とその救済について具体的な例をあげ、自分の著作権を守ることを考えます。				ICT機器の進歩やメディアの変遷にどのような与えているか考えます。（4時間）			
11	著作権検定問題に挑戦し、著作権法を正しく理解しているか。			初級著作権検定問題に挑戦。				理解していなかったところの復習をし、確認します。（4時間）			
12	検定問題をひとつひとつ自らの判断理由を述べ、全員で議論。			正しい著作権法の理解に向けて解説します。				間違えた設問について、と照らし合わせながら復習します。（4時間）			
13	12回に続く解説			正しい著作権法の理解について解説します。				自分としての倫理感を過去の事例を挙げて改めて考えます。（4時間）			
14	松本大学情報モラル10箇条について			過去の松本大学情報モラル10箇条について検討し、意見交換を行います。				各自が情報モラル10箇条を考えて来ること。（4時間）			
15	振り返りとまとめ			もう一度講義内容を振り返り、この講義の意味と価値を考えます。				情報モラルと法（ルール）について、講義で習得した内容のレポートを提出する。（4時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「たのしい著作権法」（講義にて配布します。）				受講態度：40% 定期試験：30% 出席レポート：30% S:各回の授業内容をすべて理解し、人生目標を極めて真剣に探究している。 A:各回の授業内容をよく理解し、人生目標を真剣に探究している。 B:各回の授業内容を理解し、人生目標を探究している。 C:各回の授業内容の概要を理解し、人生目標を立てようとしている。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「小さな倫理学入門」山内志朗著（慶応義塾大学出版会株式会社）				情報社会において真偽が定かでない情報が氾濫しています。この時代に生きて未来を創造する学生の皆さんは、情報に流されないように、どう生きるかしっかりと自己確立し、コミュニケーション脳力の向上を目指してください。							

科目名	情報処理 I (WORD)			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	UL12202	研究室	非常勤	
担当者	内川 小百合・松尾 千鶴・小林 美代子			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー				
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)							
①	②	③	A	B	C							
	○	△	△	△	△							
授業概要												
<p>情報処理を学ぶことは、ひとつはコンピュータ・リテラシーを学ぶこと、つまりコンピュータを使いこなしていくことです。文字を入力することは、その基礎です。さまざまな文書をコンピュータで作成し、編集し、そして保存し、また再利用することは、現代社会の中で、必須の技能といえるでしょう。本講義では、クラウド上の文書管理やビジネスメールの送り方、ワープロソフトWORDを使った正しく速い入力技術の習得、ビジネス文書・図形・表などを作成していくための機能を学んでいきます。</p>												
学修到達目標												
Office365の機能を習得し、ファイルの送受信などビジネスで使えるスキルを身につけている。正しいキータッチを習得し、ワープロソフトWORDを使ってビジネス文書・表作成・図形挿入・クリップアートや写真の挿入と編集ができる。日本情報処理検定協会ワープロ検定3級～2級を取得できる力を身につけている。												
授業の進め方												
演習形式で進めます。特に正確で素早いキータッチの技術を身につけるために、毎回スピードテストを行っていきます。WORDの機能を知り、その機能を使いこなせるように多くの演習をこなしていきます。												
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。												
回	テーマ	内容						事前事後学修				
1	Office365の概要	Office365の機能と操作、WORDの起動と終了。						Office365の予復習(1時間)				
2	文書管理、メール送信	文書管理(ONE DRIVE)、メール機能、送信練習など						メール機能について予復習(1時間)				
3	キータッチについて	正しいキータッチについての解説と演習						キータッチの運指練習(1時間)				
4	日本語入力基礎	日本語入力基礎 日本語変換モード、IMEパッド、ファンクションキー及びキータッチ演習						キータッチの運指練習(1時間)				
5	漢字変換について	漢字変換について(変換、文節区切り、文字の修正) 短文入力・記号の入力演習						キータッチによる単語練習(1時間)				
6	特殊文字の入力	特殊文字の入力 アルファベット、カタカナ、特殊文字を含む文章の入力演習						キータッチによる短文入力練習(1時間)				
7	編集機能①	文字の修正、移動、コピーの演習						練習問題の復習(1時間)				
8	編集機能②	文字の書式(フォント・サイズ・ボールド体・イタリック体・下線・囲み・網掛け)						練習問題の復習(1時間)				
9	編集機能③	文字の書式(拡大縮小・下付き文字・上付き文字・取り消し線・影付きなど)						編集機能の復習と入力練習(1時間)				
10	文書保存	文書保存、文書読み込み、再保存(上書き保存、新しいファイル名を付けて保存)						入力練習および保存(1時間)				
11	ビジネス文書	ビジネス文書のページ設定(右詰め、中央揃え、インデント、段落番号、箇条書き)						ビジネス文書の入力練習(1時間)				
12	表作成	罫線機能、表挿入、線種変更、列幅行高変更、セルの結合と分割、列や行の挿入と削除						表入力練習(1時間)				
13	画像編集	画像の挿入(ワードアート、オートシェイプ、クリップアート)						画像挿入および編集の復習(1時間)				
14	ビジネス文書	表と画像を含むビジネス文書の完成						表と画像を含む文書の入力練習(1時間)				
15	ビジネス文書	会社見学礼状や、内定時の礼状など、学生として出す文書の作成と留意点						さまざまな文書を自分の立場で作成してみる(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準						
<p>「WORDの基礎」内川小百合著(丸の内ハイデ出版)(生協で購入してください。)</p> <p>「日本語ワープロ検定問題模擬問題集」(日本情報処理検定協会)(生協で購入してください。)</p>						<p>受講態度：40% 定期試験：60%</p> <p>受講態度は、授業への参加度(授業への取組、発言等)で評価します。</p> <p>S：9割以上の理解度+授業への参加度+実技点が100点。</p> <p>A：8割以上の理解度+授業への参加度+実技点が80点以上。</p> <p>B：8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が70点以上。</p> <p>C：8割程度の理解度+授業への参加度+実技点が60点以上。</p>						
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「知りたい操作がすぐわかるWord2013全機能Bible」西上原裕明著(技術評論社)</p>						<p>コンピュータの入力技術は本講義でしっかりと身につけてください。講義以外の時間を利用してできるだけキーボードに慣れ、WORDの機能についてよく復習してください。日本語ワープロ検定をぜひ受験しましょう。</p>						

科目名	情報処理Ⅱ (EXCEL初級)			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UL12203	研究室	非常勤
担当者	駒村 明子・河西 文子・花里 育恵			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	△	△	△						
授業概要											
Microsoft Excelを用いた数値情報の加工・分析は、大学における研究分野のみならず、ビジネスシーンでも幅広く用いられています。身の回りの数値データを的確に処理し、自分に必要な情報を加工する道具としてExcelを使いこなせるようにしていきます。入力や計算式の作り方の基本から、セル参照の種類やよく使う算術・論理関数、グラフ作成、印刷などについて学びます。											
学修到達目標											
日本情報処理技能検定協会が実施している「表計算検定2級」の資格を取得する。または、それと同等の実力を養い、Excelを用いて素早く数値データの集計・加工ができる。											
授業の進め方											
講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。資格取得のためには、作業スピードも重要な要件となるため、時間外にも繰り返し操作することで作業効率の向上を目指します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス 基本操作と計算式	授業の進め方、評価方法についてExcelの基本操作および表計算検定4級について学習します。					同レベルの問題を配布するので、復習をしておく。(1時間)				
2	IF関数と端数処理	表計算検定3級で必須とされる基礎的な関数や書式設定について学習します。					配布されたプリントをもう一度、最初から解答しておく。(1時間)				
3	セルの参照方式	表計算検定3級で必須とされるセルの参照方式(相対参照・絶対参照)について学習します。					配布されたプリントをもう一度、最初から解答しておく。(1時間)				
4	判断文(2分岐・3分岐)	表計算検定3級で必須とされる、IF関数による条件判断や順位付けの関数について学習します。					配布されたプリントをもう一度、最初から解答しておく。(1時間)				
5	表計算検定3級まとめ	これまで学習してきた表計算検定3級のまとめの回です。次回2級へ進むための準備学習も行います。					3級レベルの確認課題を出すので、次回までに解答しておく。(1時間)				
6	表検索とセル証明	表計算検定2級で必須とされる、Vlookup関数を用いた表検索やセル証明について学習します。					授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間)				
7	グラフ作成	表計算検定2級で必須とされる、グラフ作成方法(主に円グラフ)について学習します。					授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間)				
8	論理演算子を使った判定	表計算検定2級で必須とされる、AND関数、OR関数を理解し、IF関数と組み合わせ合わせた処理について学習します。					授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間)				
9	論理演算・平均との比較	平均との比較を含む複雑な論理演算子を使った判定について学習します。					授業内にやった模擬問題を確実に解答できるよう復習しておく。(1時間)				
10	評価の解き方のまとめ	表計算検定2級で出題される複雑な多重分岐の解き方に関するまとめの学習を行います。					模擬問題を時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間)				
11	表計算2級検定試験対策①	問題集や過去問題を使って規定時間内に解答できるようトレーニングします。					課題が出るので、時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間)				
12	表計算2級検定試験対策②	問題集や過去問題を使って規定時間内に解答できるようトレーニングします。					課題が出るので、時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間)				
13	表計算2級検定試験対策③	問題集や過去問題を使って規定時間内に解答できるようトレーニングします。					課題が出るので、時間を計りながら次回までに練習しておく。(1時間)				
14	表計算2級検定試験対策④	自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるようトレーニングします。					時間を計りながら次回までに問題を練習しておく。(1時間)				
15	表計算2級検定試験対策⑤	自分の弱点抽出を行い、その部分を解答できるようトレーニングします。					時間を計りながら問題を練習しておく。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算2級」日本情報処理技能検定協会編(生協で購入してください。)					課題:20% 定期試験:80% 定期試験は表計算検定2級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験または表計算検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験または表計算検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験または表計算検定において60%程度の技能が認められる						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「情報処理技能検定試験・表計算検定対策問題集(過去問題集)」日本情報処理技能検定協会編					収集した数値データや膨大な情報をいかに正確に効率よく取り扱えるかで、今後の問題解決のスピードが大きく変わります。ぜひともExcel操作に精通してほしいと思います。						

科目名	情報処理Ⅲ (EXCEL上級)			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	UL22204	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子・河西 文子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	△	△	△						
授業概要 本講義は、表計算1級の検定合格を目標とします。楽しくパソコンを操作しながら、Excelの本格的な使い方を身につけます。会社などの仕事で実際に役立つような表計算の実力を身につけることを目的としています。数値データをもとにさまざまな統計処理が行えるようになります。「情報処理Ⅱ」では登場しなかった文字列関数や特殊関数、データベース関数、データの抽出、シート間の連携、複合グラフなどについて学びます。											
学修到達目標 本講義は日本情報処理検定協会が実施している「表計算検定1級」以上の資格取得、またはそれと同等の実力を身につけている。Excelを用いて複雑な数値データの集計・加工ができる。											
授業の進め方 講義はすべてパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。基本解説の後に演習課題を繰り返し行い、さまざまなパターンを経験し、実践力と作業のスピードアップを狙います。											
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス			授業の進め方、評価方法についてExcelの操作復習 (表計算2級レベル) を行います。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
2	多重判断文等の復習			表計算検定2級レベルで必須とされている、多重判断文、表検索等について再確認をします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
3	文字列操作関数			表計算検定1級レベルで必須とされている、文字列を操作するLife・Right、CONCATINATE関数などについて解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
4	特殊関数			表計算検定1級レベルで必須とされている、ABS関数など特殊なについて解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
5	データベース関数①			表計算検定1級レベルで必須とされている、DSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
6	データベース関数②			前回の授業で解説したDSUM、DAVERAGE、DCOUNT関数などのデータベース関数について復習します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
7	抽出と抽出後のデータ処理			表計算検定1級レベルで必須とされている、条件を指定したデータ抽出とそのデータに対する処理について解説します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
8	シート間の処理			表計算検定初段レベルで必須とされている、複数シートを用いた計算式の作り方を紹介します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
9	複合グラフの作成			表計算検定初段レベルで必須とされている、複合グラフやグラフを複数作成する方法を紹介します。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
10	検定試験対策①			総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
11	検定試験対策②			総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
12	検定試験対策③			総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
13	検定試験対策④			総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
14	検定試験対策⑤			総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
15	検定試験対策⑥			総合演習課題 (過去問題のポイント解説を含む) を規定時間内にできるようトレーニングします。				授業で解いた問題を何回も練習して下さい。(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「情報処理技能検定模擬問題集・表計算1級」日本情報処理技能検定協会編 (生協で購入してください。)				定期試験：80% 課題：20% 定期試験は表計算検定1級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験または表計算検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験または表計算検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験または表計算検定において60%程度の技能が認められる							
参考書				履修上の注意 (学生へのメッセージ)							
「カラー図解Excel「超」効率化マニュアル」立山 秀利著 (講談社)				定期試験は、表計算検定1級と同等の問題を予定しています。「情報処理Ⅲ」を履修する学生は「情報処理Ⅱ」を履修し、2級を取得していることが望ましい。Excelの幅広い分野への応用力を養いましょう。							

科目名	情報処理Ⅳ（パワーポイント）			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UL22205	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子・駒村 明子・永田 綾子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	△	△	△						
授業概要											
Microsoft PowerPointによるプレゼンテーションは、研究発表や教育現場、ビジネスシーンなどで幅広く用いられています。本講義ではプレゼンテーションというコミュニケーション手段の特色をよく理解し、企画立案の段階から訴求力の高い視覚資料の作成方法、内容が伝わる発表技法など、プレゼンテーション全般を扱います。											
学修到達目標											
効果的なプレゼンテーションのために一連の作業（企画立案～視覚資料の作成～発表まで）ができる。また、PowerPointの操作技能としては、デザインに重点を置き、視覚効果を多様化した資料作成能力（プレゼンテーション作成検定2級レベル）を修得している。											
授業の進め方											
講義は主にパソコン教室でコンピュータを用いた実習形式となります。 授業内にプレゼン・スキルのトレーニングをかねて、一人ひとりプレゼンテーション（個人課題）実施の機会を設けます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についての説明 PowerPointの基本的な機能を使用して、プレゼンテーション資料の作成方法を確認します（プレゼンテーション作成検定4級）。					シラバスの内容を事前に確認 事後は同様の問題で復習を行う。 （1時間）				
2	プレゼンの企画立案	プレゼンの企画段階において重要なことや、ストーリー構成の組み立て方、情報収集の手法について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
3	レイアウト・デザイン	視覚資料のデザイン決定において重要なことや、テーマの活用方法を学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
4	視覚に訴えるチャート化	目に見えない概念や考え方、手順などを説明する際にチャートを活用する方法について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
5	訴求力を上げるカラー化	カラーの基礎知識や配色の基本テクニック、カラー化によってプレゼン資料の訴求力を上げるためのポイントを学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
6	数値のビジュアル化とイメージ伝達	数値を目的に合わせてビジュアル表現するため、表やグラフの活用方法や具体的なイメージを伝える手段について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
7	効果的なアニメーション	アニメーション効果、画面切り替えなど特殊効果の活用方法と、事前に行っておくべきさまざまな準備作業について学習します。					授業で学んだ内容を参考に、自分のプレゼン実施に向けた準備作業を進めておく。（1時間）				
8	発表スキルと質疑応答	内容を効果的に相手に伝えるための様々なテクニックや、質疑応答の進め方について学習します。					次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。（2時間）				
9	プレゼン準備とリハーサル	これまで学んだ内容を実際に使って個人毎のプレゼン実施の準備とリハーサルを行います。					次回のプレゼン本番に備え、視覚資料を完成させ、所定のフォルダに提出する。（2時間）				
10	プレゼン発表	大切な個人ごとのプレゼン発表の回です。発表者はこれまでのプレゼンスキルの成果発表を行い、その他の人は質疑応答の場面で質問者となってもらいます。					事前に関リハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。（2時間）				
11	プレゼン発表、またはプレゼン振り返り	履修者の人数にもよりますが、プレゼン発表の続き、または前回のプレゼン成果発表の振り返りを行います。					事前に関リハーサルを済ませ、必要に応じて発表者用ノートを準備しておく。（2時間）				
12	プレゼン検定対策（3級）	プレゼンテーション作成検定3級の模擬問題を解きながら、基本的なスライド作成手順やPowerPointの操作方法を復習します。					練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
13	プレゼン検定対策（2級） ①	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めます。					練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
14	プレゼン検定対策（2級） ②	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めます。					練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
15	プレゼン検定対策（2級） ③	プレゼンテーション作成検定2級の模擬問題を解きながら、デザインに重点を置いた、グラフ、アニメーションなどの視覚効果を多用した資料作成の技術を高めます。					練習問題を配布するので、次回までに復習しておく。（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint 2013/2010対応」山崎 紅著（日経BP社） ISBN:978-4-82229-702-2（生協で購入してください。） 教科書は全員が購入してください。						課題：50% 定期試験：50% 定期試験はプレゼンテーション作成検定2級レベルの内容となります A:課題の提出・発表と定期試験において80程度の技能が認められる B:課題の提出・発表と定期試験において70程度の技能が認められる C:課題の提出・発表と定期試験において60程度の技能が認められる					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「プレゼンテーション検定模擬問題集2級」（日本情報処理技能検定協会）検定受験を予定している方は購入をしてください。						プレゼンテーションとPowerPointのに精通することで、円滑なコミュニケーション能力の向上も期待できます。他の授業においても、積極的にプレゼン発表の機会を得るように心がけてください。					

科目名	情報処理V (ホームページ)			学年学期	3年前期	単位数	1	ナンバリング	UL32206	研究室	非常勤
担当者	松澤 みわ子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
ホームページは情報の取得と発信の強力なツールであり、高度情報社会における重要な情報メディアと言えます。本講義では、ホームページ作成における初中級レベルの技術を習得することを目的とします。ホームページの基礎知識 (HTML・スタイルシート) を学び、さらにホームページ内で用いるWebコンテンツ (画像、ロゴ、アニメーション) の作成についても学びます。											
学修到達目標											
ホームページビルダーを使った一連の作業 (サイト作成～Webページやコンテンツ類作成まで) ができる。日本情報処理検定協会が実施している「ホームページ作成検定2級」に合格する。											
授業の進め方											
本講義はコンピュータ教室での実習となります。使用ソフトは「ホームページ・ビルダー」、「Webアートデザイナー」、「Webアニメーター」です。											
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方、評価方法についてホームページビルダーを使って初歩的なホームページの作り方を学びます。まずはホームページ作成検定4級レベルに挑戦します。					HP検定4級の復習をしておくこと。(1時間)				
2	ホームページビルダー基本操作	ホームページビルダーの基本操作を習得します。この回ではホームページ作成検定3級レベルに挑戦します。					HP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)				
3	ページの属性 HP検定対策 (3級)	トップページの作成、およびページ属性について学びます。また、ホームページ作成検定3級の出題範囲について学習します。					教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)				
4	書式の設定 HP作成検定対策 (3級)	さまざまな書式設定やWebで扱うカラーや画像の特徴について学びます。また、ホームページ検定3級の出題範囲について学習します。					教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定3級の復習をしておくこと。(1時間)				
5	表の作成 HP作成検定対策 (2級)	表挿入や表編集の方法を学びます。この回からホームページ検定2級に挑戦します。					教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)				
6	リンクの設定 HP作成検定対策 (2級)	各ページにリンクを設定する方法を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。					教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)				
7	リンクの応用 HP作成検定対策 (2級)	ラベルリンク、ロールオーバー、イメージマップなど、リンクの応用を学びます。また、ホームページ検定2級の出題範囲について学習します。					教科書の作業を完結しておくこと。またHP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)				
8	HP作成検定対策 (2級) ①	よく出題されるプロパティを含むHP2級の問題の解き方を学習します。					HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)				
9	HP作成検定対策 (2級) ②	ボーダーなどのプロパティを含むHP検定2級の問題の解き方を学習します。					HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)				
10	HP作成検定対策 (2級) ③	ラベルリンクなどを用いた難易度の高いHP検定2級の問題の解き方を学習します。					HP検定2級の復習をしておくこと。(1時間)				
11	HP作成検定対策 (2級) ④	検定模擬を実施し、弱点の抽出を行います。					HP検定2級の過去問題を配布するので、課題として提出すること(2時間)				
12	Webページ課題制作	新たな題材でホームページ制作の過程を最初から復習していきます。課題「京都物語」サイトの構築を行っていきます。					教科書の総合問題を解いておくこと。(2時間)				
13	Webコンテンツの制作①	Webアートデザイナーを利用し、写真の加工や合成の方法、タイトルロゴやボタンなど、個人課題で使用する素材を制作していきます。					課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間)				
14	Webコンテンツの制作②	Webアニメーターを利用した文字バナー広告など、個人課題で使用するアニメーション素材を制作します。					課題の中で利用するオリジナル素材を準備すること。(1時間)				
15	Webページ課題仕上げ	課題「京都物語」を指示に従って完成させていきます。HP作成検定2級に関する復習も行う予定です。					課題を期限までに提出すること。(2時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「よくわかるホームページ・ビルダー19」(FOM出版) ISBN:978-4-86510-207-9 (生協で購入してください。) 教科書に従って演習を進めていきますので、必ず購入してください。						課題:50% 定期試験:50% 定期試験はホームページ作成検定2級レベルの内容となります。 A:課題の提出と定期試験またはHP検定において80%程度の技能が認められる B:課題の提出と定期試験またはHP検定において70%程度の技能が認められる C:課題の提出と定期試験またはHP検定において60%程度の技能が認められる					
参考書						履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「ホームページ作成検定試験模擬問題集2級編」日本情報処理検定協会編 検定試験を受験する方はできる限り購入してください。						パソコン操作に慣れていることが前提ですが、複雑な操作は多くありませんので誰でも受講可能です。今後、「ホームページ実践」の履修、またはHP作成検定1級取得を目指す人はぜひ履修をしてください。					

科目名	こころと体の健康			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UL13101	研究室	S-03
担当者	進藤 政臣・廣田 直子・中島 節子			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日1限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	△	△	△						
授業概要											
<p>大学生生活を送る上で、また卒業後の社会生活を送る上で、学生自身が自分の心や体について十分な知識を持ち、健康で安全な日常生活を営むことが必要です。そのため、健康日本21の標語にもなっている「1に運動、2に食事、しっかり禁煙、5にクスリ」のそれぞれに対して、専門的な視点からその基礎的知識を学び、自らの生活に結びつけて実践し、健康で安全な学生生活を送れることを目的とします。</p>											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> ・健康な生活を送るために必要な運動、栄養、休養の必要性について理解し、実践できる。 ・生活習慣病の発症について理解し、予防策を説明することができる。 ・安全な生活を送るために必要な知識と技術を説明することができる。 											
授業の進め方											
各専門分野の教員がオムニバス形式で進めます。講義、演習を含めて実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション 健康とは			講義の進め方のオリエンテーションを行います。健康の概念について学びます。健康日本21の取り組みや課題を学びます。				健康の概念について予習復習する。(4時間)			
2	飲酒、喫煙について がんの発症と予防			飲酒、喫煙のからだへの影響について学び、がんなどの病気との関連について学びます。				飲酒、喫煙、がんについて予習復習する。(4時間)			
3	生活習慣に関連する病気Ⅰ			生活習慣と関連の深い高血圧、高脂血症について、疾病の症状や要因、予防方法、治療方法について学びます。				生活習慣病について予習復習する。(4時間)			
4	生活習慣に関連する病気Ⅱ			生活習慣と関連の深い疾病について学びます。肥満や糖尿病など異常の早期発見のための健康診断の必要性や項目について学びます。				健康診断や検査について予習復習する。(4時間)			
5	メンタルヘルスⅠ			代表的な精神疾患の特徴について学び、それらの対応について学びます。				精神疾患について予習復習する。(4時間)			
6	メンタルヘルスⅡ			現代社会の精神的な課題やストレスへの対応などを学び、予防と相談方法について学びます。				メンタルヘルスについて予習復習する。(4時間)			
7	栄養・食生活			栄養についての基礎知識を学び、健康的な食生活について考えます。				栄養・食生活について予習復習する。(4時間)			
8	健康と食生活Ⅰ			食生活と疾病との関連を学び、食事についての現代的な課題について解決策を考えます。				食生活と疾病についてレポートを作成する。(4時間)			
9	健康と食生活Ⅱ休養			健康的な食生活について考えます。健康づくりのための休養指針について学び、健康づくりのための休養について考えます。				休養について予習、復習する。(4時間)			
10	健康づくりのためのレクリエーション			積極的な休養の方法を学び、レクリエーション活動を行います。				レクリエーションについて予習復習する。(4時間)			
11	健康づくりと運動			運動と健康の関連について学びます。				運動と健康との関連について予習復習する。(4時間)			
12	健康づくりと運動の実際			運動についての課題と対応策を考えます。健康づくりのための運動を行います。				運動と健康についてのレポートを作成する。(4時間)			
13	安全と救急法について			けがの予防と応急手当について学びます。救命救急法について学び、演習を行います。				けがの予防と応急手当、救急法について予習復習をする。(4時間)			
14	生と性について			生と性について考えます。性の多様性LGBT、妊娠、出産について学びます。				生と性について予習復習する。(4時間)			
15	感染症と予防について			感染症と感染予防について学びます。				感染症について予習復習する。(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
必要な資料はその都度配布します。				<p>定期試験：100%</p> <p>S：授業内容を高度に理解し、自己の健康課題を解決する方法に応用することができる。A：授業内容を理解し、自己の健康課題を明確にし、解決する方法を見出すことができる。B：授業内容のおおよそを理解し、自己の健康課題を明確にすることができる。C：授業内容の60%は理解でき、健康の重要性を説明できる。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「大学生の健康ナビ―キャンパスライフの健康管理(2016)」山本真由美著(岐阜新聞社) ISBN:978-4877972240				大学生生活を健康で安全に送る基礎を学び、実践に結びつけられるように努力してください。							

科目名	子どもの育ちと教育			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL13102	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	△	△	△						
授業概要											
子どもの成長発達には連続しています。そのことの理解が十分でないと、子どもの育ちが円滑に進まないことがあります。そこで本授業では、小学校へつなげる幼児期に着目し、その成長発達の特徴及びその時期の子どもの成長発達のために重要である教育の基本を理解することを目的とします。具体的には、映像資料を活用して3歳から5歳までの子どもの成長発達の特徴を考えます。さらに、幼児教育の基本を、映像資料や幼稚園教育要領等を資料として考えます。											
学修到達目標											
1. 幼児期の子どもの成長発達の特徴を理解し、説明できる。 2. 幼児期の子どもの育ちのために重要な教育の基本を理解し、説明できる。 3. 子どもの育ちをめぐる今日の課題に興味関心を持ち、その一つについて自分の意見を表明できる。											
授業の進め方											
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、さらに発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方を説明します。					シラバスを読む、幼稚園教育要領解説を読む。(4時間)				
2	子どもの育ち1	三歳前半の成長の様子とその特徴を説明します。					第1回授業で配布した資料の該当箇所を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
3	子どもの育ち2	三歳後半の成長の様子とその特徴を説明します。					前時の復習、第1回授業で配布した資料の該当箇所を読む(2時間)。ワークを完成する。(2時間)				
4	子どもの育ち3	四歳児の成長の様子を映像を通して確認します。					前時の復習、第3回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間)				
5	子どもの育ち4	四歳児の成長の特徴を説明します。					前時の復習、第3回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間)				
6	子どもの育ち5	五歳児の成長の様子を映像を通して確認します。					前時の復習、第5回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間)				
7	子どもの育ち6	五歳児の成長の特徴を説明します。					前時の復習、第5回授業で配布した資料の該当箇所を読む。(2時間)ワークを完成する。(2時間)				
8	ここまでの授業のまとめ	第7回までの授業内容を振り返り、総括します。					第7回までの授業内容を復習する、幼稚園教育要領解説を再読する。(4時間)				
9	子どもの育ちのために1	子どもの今と子どもの最善の利益について考えます。					第8回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
10	子どもの育ちのために2	養護と教育について説明します。					前時の復習、第9回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
11	子どもの育ちのために3	環境を通して行う教育について説明します。					前時の復習、第10回授業で配布した資料を読む、幼稚園教育要領解説の指定箇所を読む。(4時間)				
12	子どもの育ちのために4	遊びを通して行う教育について説明します。					前時の復習、第11回授業で配布した資料を読む、幼稚園教育要領解説の指定箇所を読む。(4時間)				
13	子どもの育ちのために5	主体的活動の展開について説明します。					前時の復習、第12回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
14	子どもの育ちのために6	子どもの育ちをめぐる今日の課題について説明します。					前時の復習、第13回授業で配布した資料を読む、授業時に指示した内容を行う。(4時間)				
15	まとめ	第9回から第14回の授業を振り返り、総括します。また、授業全体のまとめを行います。					これまでの授業の復習をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
使用しません。必要に応じて資料を配布します。				受講態度：30% レポート：35% 定期試験：35% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、定期試験を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「小学校学習指導要領」文部科学省編(東京書籍) 「幼稚園教育要領解説」文部科学省編(フレーベル館) その他は授業の進捗状況に合わせて紹介します。				家族や家庭、その中で子どもに対して行われる教育的営みは身近な事柄です。自分の経験と比較しながら聴講して下さい。また、積極的な授業参加を期待しています。受講者数により参加型の授業を取り入れていきます。							

科目名	心理学概論			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL13103	研究室	A-18
担当者	川島 一夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限、木曜日4限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	△	△	△						
授業概要											
心理学は科学であることを中心テーマに、心理学全般について学びます。心理学についてのビデオをみて、その領域についての説明を行います。また、授業の途中での小テストや、課題の本を読みテーマを決めての討論を行います。一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことが授業の目的です。なお、締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。レポートを期日どおりに出すこともこの授業の目的です。											
学修到達目標											
心理学について、幅広い知識を習得し、一般に考えられている心理学に対する誤解を解くことができる。また、人間関係を含めた社会的な事象について客観的なデータをもとに解釈することができる。											
授業の進め方											
ビデオ心理学への招待(DISCOVERING PSYCHOLOGY)を視聴し、その中で出てくる内容についての講義を行います。また、小テスト、討論も行います。さらに質問に回答すること。レポートは、それぞれ2000文字以上です。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	研究を理解する			研究を理解する Understanding Researchを資料による説明とDVD視聴				資料を参照して心理学の研究についてのレポート(4時間)			
2	反応する脳			反応する脳 The Responsive Brain				宿題の小テストを資料を見て回答(4時間)			
3	子供の発達			子供の発達 The Developing Childを資料による説明とDVD視聴を行います				宿題の小テストを資料を見て回答(4時間)			
4	感覚と知覚			感覚と知覚 Sensation and Perceptionを資料による説明とDVD視聴を行います				「面白いほどよくわかる」前半を読んでレポート 2000文字(4時間)			
5	学習理論			学習 Learningを資料による説明とDVD視聴を行います				「面白いほどよくわかる」後半を読んでレポート 2000文字(4時間)			
6	討論と質問回答「心理学ってどんなもの」			「面白いほどよくわかる!」心理学の本について討論と質問回答を行います				「面白いほどよくわかる!」心理学の本 討論の感想文(4時間)			
7	記憶と忘却			記憶と忘却 Remembering and Forgettingを資料による説明とDVD視聴を行います				宿題の小テストを資料を見て回答(4時間)			
8	判断と意思決定			判断と意思決定 Judgment and Decision Makingを資料による説明とDVD視聴を行います				「アサーション入門」前半を読んでレポート(4時間)			
9	動機づけと情動			動機づけと情動 Motivation and Emotionを資料による説明とDVD視聴を行います				「アサーション入門」後半を読んでレポート(4時間)			
10	討論と質問回答「アサーション入門」			「アサーション入門」について討論と質問回答を行います				「アサーション入門」討論の感想文(4時間)			
11	認知過程			認知過程 Cognitiveを資料による説明とDVD視聴を行います				宿題の小テストを資料を見て回答(4時間)			
12	成熟と老化			成熟と老化 Maturing and Agingを資料による説明とDVD視聴を行います				「スタンフォードの自分を変える教室」前半を読んでレポート(4時間)			
13	状況の力			状況の力 The Power of the Situationを資料による説明とDVD視聴を行います				「スタンフォードの自分を変える教室」後半までを読んでレポート(4時間)			
14	討論と質問回答「脳科学より心理学」			「スタンフォードの自分を変える教室」の討論と質問回答を行います。				「脳はなにかと言いつける」討論の感想文(4時間)			
15	心理療法			心理療法 Psychotherapyを資料による説明とDVD視聴				宿題の小テストを資料を見て回答(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「面白いほどよくわかる不思議な心理学」ライフ・エキスパート著(KAWADE 夢文庫) ISBN:978-4309498300(生協で購入してください。) レポート課題対象となる新書・文庫3冊は別途指示する。				小テスト:70% レポート:30% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆ど小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「面白いほどよくわかる不思議な心理学--」(KAWADE夢文庫) 「アサーション入門」平木 典子著(講談社現代新書) 参考図書は、授業時に紹介します。				締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。							

科目名	哲学			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	UL23104	研究室	非常勤
担当者	護山 真也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	△	△	△						
授業概要											
私たちの常識的な世界の見方に対して、一歩ひいたところから、その価値を疑い、批判的な考察をくわえることで、その真価を見極めていくことが「哲学」の実践です。そのような哲学は、古今東西、さまざまな場所、さまざまな時代で行われてきました。この授業では、西洋哲学のみならず、東洋哲学にも目を配り、それらに共通するテーマを設定し、それに対する異なるアプローチの仕方を学んでいきます。											
学修到達目標											
哲学・倫理学・宗教学で問われる諸問題を理解し、それらに対して批判的に考えることのできる力を身につけている。											
授業の進め方											
プリントを用いて講義形式で進めます。映像資料を利用する回もあります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	哲学への招待	授業全体の見取り図を示し、授業のガイダンスを行います。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
2	プラトンの愛	プラトンの『饗宴』を素材として、ギリシア哲学の特質について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
3	キリスト教の愛	ユダヤ教・キリスト教の基本的な考え方を学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
4	仏教の慈悲	ブッダの思想と大乘仏教の菩薩道を中心に、仏教の慈悲の考え方について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
5	愛を哲学する	フロムの『愛するということ』を通して、現代における愛の問題について考えます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
6	自己をめぐる哲学	〈わたし〉とは何か、それがなぜ哲学の問題になるのか、ということをも 鷲田清一『じぶん・この不思議な問題』を参照しながら、学習します。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
7	デカルトと近代的自我	デカルトの『省察』を素材として、西洋近代思想の誕生の背景について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
8	反デカルト主義の哲学	デカルト以降の哲学、特にニーチェが展開した反デカルト主義の議論を学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
9	人格の同一性について	パーフィットの『理由と人格』を参照しながら、人格の同一性の問題について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
10	日本哲学の可能性	西田幾多郎の思想について学びます。また、この回で、自己をめぐる哲学の問題をまとめます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
11	心と世界(1)	『マトリックス』的世界について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
12	心と世界(2)	カントの認識論とその背景について学びます					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
13	心世界(3)	インド仏教の唯識思想について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
14	心と世界(4)	観念論を批判する議論について学びます。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
15	哲学の再構築	授業のまとめを行います。					授業で配付するプリントの読み直しをしてください。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
授業中にプリントを配布します。				小テスト：50% レポート：50% 方法については初回に指示。(1)与えられた哲学的問題を正しく理解し、(2)自らの考えを、(3)論理的に、(4)独自の考察を加えて、表現することができる。(1)のみはC、(2)まででB、(3)まででA、すべて満たせばS評価とする。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「愛するということ」エーリッヒ・フロム著(紀伊国屋書店) 「じぶん・この不思議な存在」鷲田清一著(講談社) 「観念論の教室」富田恭彦著(筑摩書房)				今学期は休講とそれに伴う補講が3~4回予定されています。初回に日程を伝えます。							

科目名	生命倫理			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	UL23105	研究室	W-03
担当者	福島 智子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	△	△	△						
授業概要											
生命をめぐる倫理(道徳・規範)的諸問題をさまざまな視点から考察し、医療領域における今日のかつ具体的問題に対処できる思考力を養います。生命倫理学の歴史的背景と今日の課題について理解し、具体的な倫理的問題を包括的な観点から把握することを目標とします。1960年代以降、医療領域において生じた倫理的諸問題を個別に取り上げ考察します。											
学修到達目標											
生命科学、医療領域における具体的な倫理的問題に、一個人として対峙し、個別の倫理的判断を導き出すことができる。											
授業の進め方											
授業内容に応じてグループ報告、グループ討論を実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生命倫理学の成立背景	生命倫理学の歴史と現状について概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
2	健康と病気	健康と病気、正常と異常、それぞれの概念について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
3	治療と人体実験	医療の目的と人体実験の歴史について学びます。					事前配布資料を読んで下調べをする。(4時間)				
4	Quality of LifeとSanctity of Life	Quality of Life(生命の質)とSanctity of Life(生命の神聖性)について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
5	生殖技術	生殖技術の発展とそれに伴う倫理的問題について学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
6	脳死と臓器移植	脳死と臓器移植の関係について、現状と課題について学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
7	安楽死と尊厳死	安楽死・尊厳死と治療停止の現状と課題について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
8	ケアの倫理	医療福祉分野におけるケアの倫理について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
9	医師-患者関係	医師-患者関係の変容と今日的課題について学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
10	インフォームド・コンセントと情報開示	インフォームド・コンセントの歴史と医療領域における情報開示について概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
11	医療資源の配分	医療資源の配分における公正さと正義について考えます。					事前配布資料を読み、下調べをする。(4時間)				
12	パーソン論	パーソン(人格)とは何かについて学びます。					配布資料の要点をまとめる。(4時間)				
13	老人介護と世代間倫理	少子高齢化と介護問題について概説します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
14	生命倫理学の比較考察	諸外国と日本における生命倫理学の比較をします。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
15	まとめ	講義全体のまとめ。					総復習。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
学生が選択するグループ討論のテーマによって、使用テキストは異なりますので個別に指定します。						受講態度:20% 出席レポート:20% レポート:30% 受講態度にはグループ討論への参加状況が含まれます。また、上記以外にグループ報告30%で評価します。 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組むことができる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組むことができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「生命倫理とは何か」市野川容孝編(平凡社) 「生命倫理学を学ぶ人のために」加藤尚武・加茂直樹編(世界思想社)						ひとつひとつの事例について、学生自身考えることが要求されます。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。					

科目名	対人関係の心理学			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UL33106	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	△	△	△						
授業概要											
対人行動や集団とのかかわりかたなどを、個人の特性や環境の面から考察し、人との関係で悩んだり、喜びを感じたりする心理的なメカニズムや、人の行動の生成について学びます。講義を中心に進めますが、グループワークやグループラーニングを取り入れ、演習形式での学びも体験します。											
学修到達目標											
対人行動を心理学的に理解することは、知識として自己と他者を理解することになります。実際に演習を行いながら、自己理解や他者理解の促進、人との関係のあり方の理解がどれほど促進されたかを客観的に理解していることが到達目標です。											
授業の進め方											
1回から9回までは講義を中心に対人関係を心理学的に理解します。10回以降は実生活や人生で出会うであろう問題に対処するために、スキルを身につけることを目標にして、体験的な演習や討論を取り入れます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	自己と対人行動(授業ガイダンスを含む)	人は人の中に生まれ、人の中で育ち成長します。多くの人間関係の中で心理や行動に影響を与えているのが対人行動です。また自分の対人行動のあり方が人間関係を築いていることを事例を通して理解します。					シラバスを熟読し、自分の対人行動についての特徴を整理する。(4時間)				
2	自己開示とコミュニケーション	自分を語る事が得意な人と苦手な人がいる。自己開示の方法や心理学実験などを通して自己開示の理論を学び、自己開示(自己紹介)の演習を通して、自分の対人行動の特徴を理解します。					配布の資料を熟読しまとめるとともに、時間内で自己紹介する訓練を行う。(4時間)				
3	自己評価と対人行動	他者への評価や他者からの評価も含め、自己評価の高低は対人行動に大きな影響をもたらすことを、実験事例をとおして学びます。また自己評価のコントロールが人付き合いを変えてしまうことを学びます。					配布資料を熟読しまとめるとともに、質問項目を考える。前回の自己紹介の練習をする。(4時間)				
4	対人魅力と好意	好意の感じ方によって人との付き合い方は変わります。外見の魅力なども含めて互いの好意の持ち方と対人行動の関係を学びます。					配布の資料を熟読しまとめるとともに、課題「魅力的な人」をレポートする。(4時間)				
5	援助の心理と対人行動	援助行動は個人的特性だけではなく、周囲の人の様子や状況によって変化します。また自分に利益をもたらすという理由から、自己犠牲を払うという援助行動もあることを学びます。					配布の資料を熟読しまとめるとともに、対人援助の体験をレポートする。(4時間)				
6	攻撃的な対人行動	いじめや暴力、体罰などは大きな社会問題になっています。しかし世の中からなくなることはありません。人はなぜ攻撃するのかを、4つの心理的メカニズムから学びます。					配布の資料を熟読しまとめるとともに、自分や人の攻撃行動を観察しレポートする。(4時間)				
7	同調的な対人行動	自分の考え(認知)と行動が不協和状態のとき、あるいは自分の行動と周囲の人の行動とが違うときに、その矛盾を解消しようとして起こる心理的メカニズムを学びます。					配布の資料を熟読しまとめるとともに、自分(他者)の同調行動をレポートする。(4時間)				
8	リーダーシップと対人行動	PM理論を中心にリーダーのあり方を理解し、効果的なリーダーシップの発揮の仕方と集団の特性について、具体的な事例をもとに学びます。					配布資料を熟読しまとめるとともに、自分のリーダーシップについて分析しレポートする。(4時間)				
9	社会的ジレンマ	人との関わりの中でジレンマに陥ることはよくある。個人の利益追求が全体の不利益になるような事例では、どのように行動すればよいのだろうか。対人行動を円滑にするための方法を学びます。					配布の資料を熟読しまとめるとともに、ジレンマに陥った体験を考察しレポートする。(4時間)				
10	本音で交流できる対人関係づくり①	安心できる不安のない集団に属したいと願いつつも、集団の中では様々な葛藤や困難が起きる。構成的グループエンカウンター(SGE)を体験してよりよい対人関係の築き方を学ぶ。					SGEの配布資料を熟読する。事後はエンカウンター体験をレポートする。(4時間)				
11	本音で交流できる対人関係づくり②	構成的グループエンカウンター理論と方法を学び、実際に体験と照らし合わせて自己理解の促進と、本音の交流のあり方を学びます。					理論的背景を実際の体験と照らし合わせて考察し、レポートする。(4時間)				
12	不安や緊張のない集団づくり①	不安や緊張を感じない、安心できる集団を築くための理論と方法を対人関係ゲーム(SIG)を、実際に体験しながら学びます。					SIGの配布資料を熟読する。事後は体験したことをレポートする。(4時間)				
13	不安や緊張のない集団づくり②	対人関係ゲームの「交流」「協力」「折り合い」のゲームを中心に実際に行い、自己を振り返りながら、人との付き合い方を学びます。					第12回と第13回をまとめて体験したことをレポートする。(4時間)				
14	さわやかな自己主張①	相手を尊重しながら、自分の言いたいことをしっかりと主張できる「アサーション」の理論と方法を学び、対人関係の中での自分の特性を理解します。					アサーションの配布資料を熟読し、自分のアサーションの特性を分析する。(4時間)				
15	さわやかな自己主張②	アサーショントレーニングの方法を身につけ、実際に体験することで相手も自分も大切に自己表現の大切さを学びます。					アサーショントレーニングの体験をレポートする。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
授業中に適宜配布する。						定期試験:50% 課題:30% 受講態度:20% S:知識的理解に優れ、体験から教育分析(自己分析)ができる。 A:知識的理解がおおむね可能で、積極的に体験参加ができ、レポートが充実している。 B:知識的理解がおおむね可能で、体験内容をレポートできる。 C:学んだ知識をもとにして、積極的にSGEやSIGに参加できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「徹底図解 心理学—生活と社会に役立つ心理学の知識」(新星出版社) 「イラストレート心理学入門」斎藤勇著(誠信書房)						講義のみならず、参加体験型のグループワークを含んだ内容です。人と関わること(対人関係)を知識と体験から学びます。					

科目名	生涯スポーツⅠ（集团的スポーツ）			学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	UL13107	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志・田邊 愛子・齊藤 茂			必修選択	必修	科目種別	実技	オフィスアワー	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種、中（英語）、高（英語）					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
実施種目は集团的スポーツの特性を踏まえ「ハンドボール」「ソフトバレーボール」「ソフトボール」の3種目とします。全体を30名前後の3クラスに編成し、クラス毎に種目をローテーションしながら、各種目の基本技術と簡易なルールによるゲームを通して、種目の特性を理解し、楽しいスポーツの運営方法について学びます。運動技術の獲得の仕方や指導方法を理解することで、スポーツを楽しむために必要な要素について学修していき、スポーツが人間にとってどのような存在であるべきかを実践的に理解します。											
学修到達目標											
各種集团的スポーツの実践を通して、スポーツの本質的楽しさや人間にとっての価値を理解し、小学校の教員として生涯にわたってスポーツに親しむ資質と能力を育てるスポーツの在り方について、自身の考えを持つことができる。											
授業の進め方											
ゲームを通して、各回のテーマを焦点化し、ベースボール型のおもしろさを知ること、生涯にわたってスポーツに親しむ資質と能力を育てていきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	基本技術の習得	ハンドボール(1) ハンドボールの基本技術 各種パス、シュート					基本的なルールを理解し、各種パス・シュート方法を予習する（1時間）				
2	攻撃の方法	ハンドボール(2) ハンドボールの攻撃の基本的な戦術					ポジションの役割を理解する（1時間）				
3	守備の方法	ハンドボール(3) ハンドボールの守備の基本的な戦術					守備の方法を理解する（1時間）				
4	ゲームⅠ	ハンドボール(4) ハンドボールの易しいルールによるゲーム					ポジション別の基本的な攻撃、守備を復習し、ゲームで実践できるようにする（1時間）				
5	ゲームⅡ	ハンドボール(5) ハンドボールのやや複雑なルールによるゲーム					攻守の入れ替わりが素早くできるように、総合的に理解を深める（1時間）				
6	基本技術の習得Ⅰ（パス）	ソフトバレーボール(1) ソフトバレーボールの基本技術 各種パス					基本的なルールを理解し、各種パスの方法を予習する（1時間）				
7	基本技術の習得Ⅱ（サーブ・アタック）	ソフトバレーボール(2) ソフトバレーボールの基本技術 サーブ・アタック					基本的なルールを理解し、サーブ・アタックの方法を予習する（1時間）				
8	基本的な戦略	ソフトバレーボール(3) ソフトバレーボールの基本的な戦術					戦術について理解する（1時間）				
9	ゲームⅠ	ソフトバレーボール(4) ソフトバレーボールの易しいルールによるゲーム					誰でも参加できるゲームの方法を理解する（1時間）				
10	ゲームⅡ	ソフトバレーボール(5) ソフトバレーボールのやや複雑なルールによるゲーム					より工夫したゲームの方法を理解する（1時間）				
11	守備の方法	ソフトボール(1) ソフトボールの守備の基本技術					守備の方法を理解する（1時間）				
12	攻撃の方法	ソフトボール(2) ソフトボールの攻撃の基本技術					攻撃の方法を理解する（1時間）				
13	戦略・戦術・作戦	ソフトボール(3) ソフトボールの基本的な戦術					戦略・戦術・作戦の違いを理解する（1時間）				
14	ゲームⅠ	ソフトボール(4) ソフトボールの易しいルールによるゲーム					誰でも参加できるゲームの方法を理解する（1時間）				
15	ゲームⅡ	ソフトボール(5) ソフトボールのやや複雑なルールによるゲーム					より工夫したゲームの方法を理解する（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 体育編」文部科学省編（東洋館出版）（生協で購入してください。）						実技：60％。レポート：30％。出席レポート：10％ S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60％程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
学習内容に応じてプリントを配布						ゴール（侵入）型、ネット型、ベースボール型のボールゲームの構造はどうなっているのか、競争課題はないかを考えてください。					

科目名	生涯スポーツⅡ（個人的スポーツ）		学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	UL13108	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志・田邊 愛子・齊藤 茂		必修選択	必修	科目種別	実技	オフィスアワー	月曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種、中(英語)、高(英語)				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
<p>本授業における実施種目は個人的スポーツの特性を踏まえ「ニュースポーツ」「トレーニング実技」「バドミントン」の3種目とします。全体を30名前後の3クラスに編成し、クラス毎に種目をローテーションしながら、各種目の基本技術や簡易なルールによるゲームを通して、それぞれの種目の特性を理解し、楽しいスポーツの運営方法について学びます。学生が主体となって学修を展開していくことで、スポーツを楽しむためのマネージメントの仕方を実践的に理解していきます。</p>										
学修到達目標										
生涯スポーツⅠの内容をさらに深化させ、スポーツの本質的意味や価値について個人的スポーツを通して理解し、小学校の教員として生涯にわたってスポーツに積極的に関わる資質や能力を育てるスポーツ学習の在り方について、自身の考えを持つことができる。										
授業の進め方										
各回のニュースポーツを実際に体験するとともに、そのニュースポーツが生まれてきた背景を知り、生涯にわたってスポーツに積極的に関わる資質や能力を育みます。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	バブルサッカー	ニュースポーツ(1) バブルサッカー				考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)				
2	スラックライン	ニュースポーツ(2) スラックライン				考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)				
3	アルティメット	ニュースポーツ(3) アルティメット(フライングディスク)				考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)				
4	ペタンク	ニュースポーツ(4) ペタンク				考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)				
5	ダブルダッチ	ニュースポーツ(5) ダブルダッチ				考案された経緯や世界的な広まりを知る(1時間)				
6	総合的な体力評価について	トレーニング実技(1) 体ほぐしの運動に関連するトレーニング(柔軟性・巧緻性)				柔軟性、巧緻性を含めた評価方法について理解する(1時間)				
7	筋力について	トレーニング実技(2) 体力を高める運動に関連するトレーニング(筋力)				筋肉についての基本的な理解を深める(1時間)				
8	持久力について	トレーニング実技(3) 体力を高める運動に関連するトレーニング(持久力)				持久力についての基本的な理解を深める(1時間)				
9	ダンスⅠ	トレーニング実技(4) ダンスに関連するトレーニング				エアロビックダンスの特性を学びその効能を理解する(1時間)				
10	ダンスⅡ	トレーニング実技(5) 現代的なリズムのダンスに関連するトレーニング				様々な音楽を利用したダンスを知る(1時間)				
11	基本技術の習得Ⅰ(ロングハイサービス、攻撃的ストローク)	バドミントン(1) バドミントンの基本技術 ロングハイサービス、攻撃的ストローク				基本的なルールを理解し、ロングハイサービス、攻撃的ストロークの方法を予習する(1時間)				
12	基本技術の習得Ⅱ(ショートサービス、守備的ストローク)	バドミントン(2) バドミントンの基本技術 ショートサービス、守備的ストローク				基本的なルールを理解し、ショートサービス、守備的ストロークの方法を予習する(1時間)				
13	基本技術と戦術(ダブルス)	バドミントン(3) ダブルスの基本技術と戦術				ダブルスの基本技術と戦術について理解する(1時間)				
14	ゲームⅠ	バドミントン(4) バドミントンの易しいルールによるゲーム				誰でも参加できるゲームの方法を理解する(1時間)				
15	ゲームⅡ	バドミントン(5) バドミントンのやや複雑なルールによるゲーム				より工夫したゲームの方法を理解する(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 体育編」文部科学省編（東洋館出版）（生協で購入してください。）				実技：60%。レポート：30%。出席レポート：10% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
学習内容に応じてプリントを配布				ニュースポーツの発生や広がり歴史、トレーニングの実技の方法、バドミントンの歴史や攻め方・守り方など、予習をしておいてください。						

科目名	スポーツとノーマライゼーション		学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	UL23109	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	○	△	△	△	△					
授業概要										
スポーツは誰もが享受することのできる権利です。その上で、誰もが参加できるユニバーサルスポーツについて学修し、スポーツがノーマライゼーション社会の実現にどのように貢献するか考えます。さらに身近なユニバーサルデザインを調査し、「障がい者は人に帰属するのではなく、人と環境の間に存在する」ことの意味について理解を深めます。ボランティアを含めた「支えるスポーツ」について学修し、「我々にできること・行動するための要因」について考えます。										
学修到達目標										
障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の実際について理解し、ノーマライゼーション社会の実現とスポーツについて説明できる。さらに「共にスポーツを楽しむこと」への理解を深め、「我々にできること・行動するための要因」について柔軟で幅の広い考え方を身につけている。										
授業の進め方										
基本的にはテキスト・配布資料を基に授業を展開します。また、パラリンピックなどの視聴覚教材を使用し、障がいのある方々のスポーツへの理解を深めます。その上で、ノーマライゼーション社会の実現とスポーツについて考えを深めていきます。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業ガイダンス 障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)とは何か。	授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。「障がい者スポーツ」ではなく「アダプテッドスポーツ」の意味を学びます。				アダプテッドスポーツ関連の書籍・記事を読み事前学習する。授業の内容を復習する。(1時間)				
2	アダプテッドスポーツの基本理念	アダプテッドスポーツの基本理念を学習します。基本的な「障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)」に関連する言葉を解説します。				アダプテッドスポーツの基本理念について予習する。関連語句を復習する。(1時間)				
3	パラリンピックの歴史・変遷と発展の背景	視聴覚教材を使用し、パラリンピックについて学びます。その開催意義や発展を支えた社会的背景について理解し、人間とスポーツについての考えを深めます。				パラリンピックについて事前学習する。パラリンピックの歴史について復習する。(1時間)				
4	障がいとは	WHOの障害分類を学習し、人間が心身共に健康で、生きがいをもち豊かに暮らす上での各因子の相互作用について考えます。				障害分類について事前学習する。WHOの障害分類について復習する。(1時間)				
5	ノーマライゼーションについて	ノーマライゼーションの概念について学びます。さらに、現在の福祉政策についての理解を深めます。				共生社会についての基礎知識を事前に学習する。共生社会の考え方について復習する。(1時間)				
6	障がいのある人を取り巻く障壁について	障がいのある人々が地域で暮らす上での障壁について考えます。その上で、誰もが豊かに暮らせる環境について考えを深めます。				身近な環境のバリアについて事前学習する。障がい者にとっての障壁とは何か復習する。(1時間)				
7	アダプテッドスポーツを支える人々について	アダプテッドスポーツに関わっている人々を紹介します。アダプテッドスポーツにおけるボランティアの意味を考え、私たちにできることを見つけ、行動計画を立てます。				支援の内容について事前学習する。スポーツを支える人々について復習する。(1時間)				
8	障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)の魅力について	アダプテッドスポーツの目的は多岐にわたります。地域でスポーツを楽しむ障がいのある方々について学び、スポーツを行うことの魅力について考えます。				アダプテッドスポーツ選手について事前学習する。スポーツの魅力について復習する。(1時間)				
9	視覚障害とスポーツについて	視覚障害者のサポートの方法、スポーツの実際、ルールや用具の工夫について学びます。その上で、共に楽しむための工夫を考え理解を深めます。				視覚障害者の困難性を事前学習する。視覚障害者のスポーツのルール等復習する。(1時間)				
10	ユニバーサルスポーツルール用具の工夫	現在行われているユニバーサルスポーツについて学びます。その理念、実施方法などについて理解を深め、共にスポーツを楽しむ要因について考えます。				アダプテッドスポーツ種目の事前学習を行う。ユニバーサルスポーツについて復習する。(1時間)				
11	重症心身障害児・者のスポーツの意義について	重度の障がいのある方にとってのスポーツとは何か考える。またどのようなことができるのか、その可能性について理解を深めます。				重度障がいの方のスポーツ種目を調べる。重症心身障害者のスポーツについて復習する。(1時間)				
12	インクルーシブ教育とアダプテッドスポーツについて	ノーマライゼーションの思想を背景に行われる教育「インクルージョン」について学びます。学校におけるアダプテッドスポーツについての理解を深めます。				スポーツと共生社会について事前学習を行う。インクルージョン教育の復習をする。(1時間)				
13	障がい者スポーツ(アダプテッドスポーツ)とボランティアについて	アダプテッドスポーツは支援者によって競技が成立する要素が高いことから、ボランティアの在り方について理解を深めます。				自分が行ったボランティアをまとめる。スポーツとボランティアについて復習する。(1時間)				
14	事例研究	実際の事例に対して、自分だったらどのように行動するか考え、私たちにできる支援について理解を深めます。				今までに体験した障がい者とのかわりを事前にまとめておく。事例の復習をする。(1時間)				
15	スポーツとノーマライゼーション社会の実現について	現代社会の問題点を明らかにし、ノーマライゼーション社会実現のための行動計画を立てよう。				共生社会における課題を事前学習する。共生社会とスポーツの関わりについて復習する。(1時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
随時資料を配布します。			レポート:70% 出席レポート:30% S:基本的な概念や理論を正確に把握し説明できる。探求姿勢を持ち課題に取り組み、高い意欲を示している。A:授業内容を理解し、基本的な概念を正確に把握している。B:授業内容をおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組みほぼ説明できる。C:授業内容の60%を理解し説明できる。与えられた課題をすべて行っている。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「障害者とスポーツ」高橋 明著(岩波新書) ISBN:ISBN4-00-430896-8			体験を通じて学ぶことが沢山あります。積極的にボランティアなどに参加しながら学習を進めてください。							

科目名	日本国憲法（教育）			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UL13201	研究室	W-14
担当者	眞次 宏典			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格	小一種、中（英語）、高（英語）					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
日本国憲法の基本的な枠組、背景、その意義などを理解するために、近代憲法の基本原理（基本的人権の保障と権力分立制）、日本における二つの憲法（明治憲法と日本国憲法）の異同、日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）などを明かにした上で、具体的な政府の仕組みと人権保障のあり方についての基本論点を検討しながら理解を深めて行くことにします。											
学修到達目標											
本講義は、日本国憲法についての基本的な知識を獲得することを目的としています。日本国憲法を近代立憲主義の歴史の中に位置づけた上で、日本における憲法学説・判例を手がかりにしながら、日本国憲法の人権および統治機構（政府の仕組み）の基本的なあり方を理解する。											
授業の進め方											
講義は、六法（毎時間必携）で条文（憲法、関連諸法令）を参照しながら進めていきます。なお、ほぼ毎時間、講義テーマまたは人権、憲法に関連した新聞・雑誌などの記事を配布し、解説を加えることにします。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	近代憲法の成立と構成			ガイダンス、憲法の諸概念				指示した文献を読む（4時間）			
2	統治総論と国民主権			統治機構の理論と国民主権の概念				指示した文献を読む（4時間）			
3	国民主権と天皇			日本国憲法の成立過程と象徴天皇制				指示した文献を読む（4時間）			
4	国会と選挙制度			国会、議院、議院、選挙制度				指示した文献を読む（4時間）			
5	内閣			内閣、首相、議院内閣制				指示した文献を読む（4時間）			
6	裁判所1			裁判所の組織、司法権				指示した文献を読む（4時間）			
7	裁判所2			違憲審査制				指示した文献を読む（4時間）			
8	戦争放棄と自衛隊			憲法9条と自衛隊				指示した文献を読む（4時間）			
9	基本的人権1			基本的人権の観念				指示した文献を読む（4時間）			
10	基本的人権2			思想・良心の自由				指示した文献を読む（4時間）			
11	基本的人権3			信教の自由、政教分離				指示した文献を読む（4時間）			
12	基本的人権4			表現の自由				指示した文献を読む（4時間）			
13	基本的人権5			集会・結社の自由				指示した文献を読む（4時間）			
14	職業選択の自由と財産権			職業選択の自由、財産権				指示した文献を読む（4時間）			
15	まとめ			平等原則とプライバシーの権利				指示した文献を読む（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「一歩先への憲法入門」片桐直人・井上武史・大林啓吾著（有斐閣） ISBN: 978-4641131965（生協で購入してください。） 「ポケット六法 平成29年度版」山下友信、山口厚編（有斐閣） ISBN: 978-4641009172（生協で購入してください。）					定期試験：90% 受講態度：10% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
なし					講義の中では、授業の受け方、ノートの取り方、六法の使い方など大学で学ぶために必要な技術についても教えます。学生諸君は、講義内容そのものだけでなく、学ぶための技術についても学ぶと教えてください。						

科目名	新聞に見る社会の動き			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	UL23202	研究室	非常勤
担当者	江成 康明			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
△	○		△	△	△						
授業概要											
新聞を使って社会の動きを考えていきます。インターネットの普及により活字離れが目立ち、読書や手書きの習慣が薄れてきました。一番身近なはずの新聞も無読層の増加によって、読まれなくなっています。新聞には政治、経済、外交や社会の動向などが凝縮されており、情報の収集だけでなく、どう読みこなすかが必要になってきます。記事の内容を読み、理解したうえで自分の考えをまとめるという習慣をつけるための授業です。乱れ始めた日本語の良さや文章の作り方も授業の中で実施していきます。											
学修到達目標											
4年間の大学生活中に就職活動という社会人への第一歩が始まります。社会の動きを知っていることは企業側へ有利な評価を与えるとともに、面接でも自信を持って臨むことができます。情報収集、読解力、理解力、筆記力を高め、最終的には学生自らがひとつのテーマを選んで「私の考察」をまとめられることができる。											
授業の進め方											
主に新聞のコピーを資料とします。新聞にはニュースの情報発信のほか解説、コラムなども掲載されており、一つの出来事に対して幅広い知識が得られます。グループ討論や特別講師招へい、新聞社見学なども行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	総論 新聞の価値と役割	新聞には多くの情報が詰まっています。1面から最終面までにどのようなものが載っているかなど新聞の全体像を紹介しながら、トップ記事の意味やベタ記事、焦点、解説、コラム記事とは、などを説明します					この1週間の新聞の中から興味があったニュースを取り上げ、感想を書く。(4時間)				
2	新聞を読む必要性	ネット社会の中で、新聞は不要という若者が多くいます。しかし、ネット情報だけだと偏りがちで、幅広い知識は得られません。社会を知る意味では新聞を読み、「なぜ」「どうして」を考えることが必要です。					疑問の沸いたニュースを選び、疑問を持ちながらまとめてみる。(4時間)				
3	各論① 硬派記事についての考察	政治、経済、国際外交などは硬派記事と呼ばれます。授業のころに起きている問題を取り上げ、硬派面を騒がしているニュースを検証します。					この日取り扱った記事の感想や意見を書く。(4時間)				
4	各論② 軟派記事についての考察	社会の動きやスポーツ、暮らしなどを軟派記事と呼びます。社会ではいったい何が起きているのかを新聞をもとに検証します。					この日の話題に対して、どう思ったかをまとめる。(4時間)				
5	グループ討論①	ひとつのテーマについての新聞記事を読み、そのあとのグループ討論でその話題について話し合ってみましょう。自分の気付かなかったことを知るはずです。					グループ討論を経験して、という内容でレポートを提出する。(4時間)				
6	グループ討論②	5回目と違ったテーマで、同様に進めます。考えながらしっかり読むことは、書くことが上達に必ずつながります。					読んだ記事に対してどう感じたかをレポートに書き、提出する。(4時間)				
7	新聞社見学	地元紙で伝統のある信濃毎日新聞社(予定)を訪ね、編集局などを見学。政治(県政担当)、社会部記者などの話を聞き、新聞作りに携わる人たちの意識などを学びます。					見学の感想や意見を書く。(4時間)				
8	日本語の美しさ	最近日本語が乱れている、と言われます。若者が普段使っている言葉が正反対の場合もあります。正しい日本語の意味を考えてみましょう。					テキストにある例と普段の自分の言葉が適切かどうか考える。(4時間)				
9	文章の書き方	新聞は中学生にも理解できるような平易な言葉で書いてあります。文章を書くときには難しい言葉はいりません。相手が読みやすいような文章を書くにはどうしたらいいかを学びます。					気に入ったコラムを探してみる。(4時間)				
10	特別講演	2012年、年間でただ一人に送られる「日本記者クラブ大賞」に輝いた毎日新聞・萩尾信也氏を招き、講演していただく。記者として頂点に立った取材力、執筆力に興味はわくはずです。					事前配布の萩尾氏の記事を読み、質問を考えておく。(4時間)				
11	社会現象の自由研究①	過去1年間の政治、経済、国際、社会問題などの動きの中で、自身が最も注目すべき課題をひとつ決めて下さい。どうしてそれを選んだのかをグループ討論で意見発表しましょう。					自分の選んだテーマの記事を集める。(4時間)				
12	社会現象の自由研究②	新聞に書いてあることを鵜呑みにするのではなく、疑問や幅広い考え方をもち問題点を探して下さい。いくつもの新聞や新聞コピーを読んでまとめる力をつけましょう。					800字にまとめられるように準備と整理をする。(4時間)				
13	社会現象の自由研究③	自分のテーマについて、800字にまとめてみましょう。問題を深く掘り下げて書く習慣を身につけるだけでなく、しっかりとした言葉遣いも重要なポイントです。					自分の書いた文章を思い出し、再考してみる。(4時間)				
14	自由研究の成果と課題	受講生がまとめた内容についての考察をします。同じテーマで臨んだ人々たちによるグループ討論も行い、足りなかった点などさらにテーマを深めることに努めて下さい。					この科目に対する感想を書く。(4時間)				
15	まとめ	新聞の役割や機能と必要性をもう一度再確認します。ネット社会に慣れていても、「新聞を読む習慣」を持ち続けてほしいものです。					15回目のまとめのテキストを熟読する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
毎回、テキストを配布します。				受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書く力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかりと書ける。B:授業内容のおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
毎回、テキストを配布します。				毎回の授業で感じるものが必ずあるはず。受講票には名前だけでなく、感想や意見を書いて下さい。書き慣れることが頭の整理につながります。図書館などで普段から新聞に接するようにしましょう。							

科目名	日本地理			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	UL23203	研究室	非常勤
担当者	川上 浄明			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○	△		△	△	△						
授業概要											
<p>くらしにみられる諸相を通して地域とは何か、地域らしさの背景は何かにせまり、マイクロからマクロへ、また、グローバルから地域へと視点を移すことで日本地理を捉えていくことを目的とします。現代社会における身近なくらしの中で目にするものや、これまでで当たり前に接していた事柄や常識の中から、「なぜ」、「どうして」と問い直すことで、地域の特性を追求し、日本地理の新たな見方が獲得できるよう展開します。</p>											
学修到達目標											
地域を地理的視点を持って見るができる。地域を調べる方法を理解できる。											
授業の進め方											
講義中心の時間が多くなりますが、その中に作業学習やグループ討議などアクティブ・ラーニングの時間も取り入れます。フィールドワーク・地域調査も行う予定です。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	日本という地域の概要をつかもう			日本の位置・領域・標準時・地域区分を理解します。				テキストの作業内容を確認して、理解を深める。(4時間)			
2	世界と日本の地形を学ぼう			プレートテクトニクス説などによる世界と日本の地形の特徴を学びます。				テキストによって学習を深める(4時間)			
3	世界と日本の気候を学ぼう			ケッペンなどの気候区分とそれに基づく気候区分の特徴を学び、自然災害とその対策についても理解します。				自分の選んだ地域のハイサーグラフを作成する。(4時間)			
4	日本の人口の特徴とその変化を学ぼう			日本の人口の変化・構成・移動などを人口ピラミッドを作成するなどして理解します。				自分の出身地域の人口の特徴を調べ理解する。(4時間)			
5	日本の第1次産業の特徴を学ぼう			日本の農業などの特徴を外国と比較しながら学習し、各地域の特徴も理解します。				自分の出身地域の農業の特徴を調べ理解する。(4時間)			
6	日本の第2次・第3次産業の特徴を学ぼう			日本の第2次・第3次産業の特徴を世界とのかかわりの中で理解します。				自分の出身都道府県の第2次・第3次産業の特徴を調べ理解する。(4時間)			
7	地域を見る目を「プラタモリ」を視聴することによって養おう			「プラタモリ」を視聴して、地表面の現象から地域を理解する方法を学びます。				「プラタモリ」の視聴メモをまとめる。(4時間)			
8	地形図の読み方を学ぼう			2万5千分の一地形図「松本」「波田」およびテキストの作業を通じて、地形図読図の基本を学びます。				指示された地形図作業を行う。(4時間)			
9	大学周辺の地域的特徴を地形図と資料から学ぼう			地形図作業と資料から大学周辺の地域的特徴を学び、次の時間の巡検の課題を明らかにします。				巡検の視点を明らかにする。(4時間)			
10	大学周辺を巡検し、地域を見る目を養おう			地形図を持って大学周辺を巡検し、地域の実情を学びます。				巡検レポートを作成する。(4時間)			
11	大学周辺の地域的特色を巡検を経た視点で理解しよう			グループ討議によって、地域の特徴を理解します。				討議を経て、巡検レポートを完成させる。(4時間)			
12	地域調査のテーマを考えよう			地域調査の方法を学びます。それらをもとに地域調査のテーマを決定します。				地域調査の方法を考え、資料収集を開始する。(4時間)			
13	地域調査を開始しよう			地域調査の調査方法を決定し、調査を開始します。				冬休みも使って地域調査を実施する。(4時間)			
14	地域調査レポート完成させよう			地域調査レポートを完成させ提出します。				地域調査レポートをまとめる。(4時間)			
15	日本の地域的特色を考えよう			提出された地域調査レポートなどをもとに、日本の地域的特色を考えてみます。				日本の地域的特色をまとめる。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「新編地理資料2018」内山美彦他編(東京法令出版(株)) ISBN:978-4-8090-7838-5(生協で購入してください。)</p> <p>「グラフィックワイド地理日本2018」東京法令出版教育事業推進部編(東京法令出版)(別途、指示します。)</p>					<p>受講態度:30% レポート:30% 定期試験:40%</p> <p>S:授業内容を高度に理解し積極的にグループ討議に参加した。非常に詳細な地域調査レポートを作成し、特に高い地理的思考力を身につけた。A:授業内容を理解しグループ討議に参加した。詳細な地域調査レポートを作成し、高い地理的思考力を身につけた。B:授業内容をおおよそ理解しグループ討議に参加した。地域調査レポートを作成し、地理的思考力をおおよそ身につけた。C:授業内容の60%程度理解し、地域調査レポートを作成した。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
<p>「東京学芸大学地理学会シリーズII日本を学ぶ」(古今書院)</p> <p>「地理を学ぼう 地理エクスカッション」立正大学地理学教室編(朝倉書店)</p>					<p>中学高校生用の副教材や地形図をテキストとしますが、作業学習や資料を見るためのものです。授業中にその作業学習を行うことがあります。12色程度の色鉛筆を持参してください。</p>						

科目名	近代日本の歴史			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UL33204	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
本講義では、地域にのこる身近な歴史に触れながら、それぞれの時代の日本の歴史を見ていきます。いつ、どこで、何が起きたかといった網羅的な日本史ではなく、日本の歴史事象をいくつか選び、当時の人物、記録、時代をとらえていきます。											
学修到達目標											
歴史をみる眼、歴史観を新たに構築できる。											
授業の進め方											
今も残る歴史資料などを紹介しながら、毎回10頁のレジメをもとに講義を進めます。講義は教室で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	歴史像と歴史理論	日本史の時代区分、歴史を学ぶにあたって(小さな歴史から大きな歴史へ)					シラバスを熟読したうえで講義にのぞむこと。(4時間)				
2	旧石器・原始時代	旧石器時代・縄文時代・弥生時代の日本					身近にある遺跡等を調べておくこと。(4時間)				
3	古墳時代	東日本最古の弘法山古墳の文化と日本					身近にある古墳を事前に調べておくこと。(4時間)				
4	中世の人びとの暮らし	「物くさ太郎」を読み解きながら、都の暮らしと地方の暮らしを考える					大学の近くにある「物くさ太郎」関連の史跡をみておくこと。(4時間)				
5	戦国時代	川中島の戦い、真田氏三代と小笠原氏三代					これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間)				
6	江戸時代の暮らし(武家)	幕藩体制の時代を、信濃の諸藩から、武家の暮らしをみていく。藩主の変遷、動向をさぐる。					これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間)				
7	江戸時代の暮らし(村びと)	江戸時代の村びとの暮らし、立ち上がる農民たち(加助騒動)					これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間)				
8	幕末から明治へ	ペリー来航から維新期への激動、藩から県へ(「信濃の国」)					これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間)				
9	地域の近代化	自由民権運動と秩父事件、普通選挙運動発祥の地松本					これまで学んだことのある左記テーマについて整理してくること。(4時間)				
10	明治・大正期の日本	人物をとおして、日清・日露戦争期の日本をみる。松本平から大逆事件を考える。					「大逆事件」について調べてくること。(4時間)				
11	養蚕・製糸業の発展	日本一の蚕糸王国長野県の製糸業と工女の生活					なぜ製糸業が長野県で栄えたのかを事前に調べてくること。(4時間)				
12	戦時下の日本	満洲事変から15年間の戦時下の日本を、さまざまな角度からみていく(歩兵第五十聯隊・満洲移民・工場と児童の疎開)					戦争の時代の話を聞いてくること(4時間)				
13	変わる生活	高度経済成長期の前と後の変容を日記から読み解く					身近な生活の変化を整理しておくこと。(4時間)				
14	戦後72年の日本	昭和20年以降の日本の首相の動きから、戦後の日本をふりかえる					記憶に残る日本の首相を整理しておくこと。(4時間)				
15	歴史的文化財の保護	文化財の保護・保存、歴史文書の保存・利用、および講義全体のまとめ					地元にどのような文化財があるか、事前に調べて来ること。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。				出席レポート:30% 定期試験:50% 講義後のコメント:20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
なし				講義ごとに感想を受講票に記入して提出してください。質問があればあわせて記入してください。次回の講義で答えます。							

科目名	経済入門（人間・教育）			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UL13205	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
△	○		△	△	△						
授業概要											
<p>本授業では、主としてマクロ経済学の基礎について講義します。特に、マクロ経済学の大きなテーマは、失業問題、通貨価値の問題、経済成長の問題、外国貿易の問題などですが、本授業では、失業問題と通貨価値の問題について学修します。授業は講義形態ですが、できるだけ双方向の授業にしたいと考えています。また、毎回の授業内容を整理したレポート（出席レポート）を提出することで、授業の理解を深めます。この科目は2年後期の「国際経済」の基礎となります。</p>											
学修到達目標											
「出席レポート」の提出を通して、文章力や理解力、そして論理的思考を高め、テレビや新聞などでの経済問題について、各自で考え、自分の意見を持ち、これを表現することができる。											
授業の進め方											
授業内容は下記の計画に従って展開されますが、授業内容は相互に関連性があり、積み重ねながら全体が理解できるようになっています。したがって、一方方向の授業に加えて、必要に応じて質疑応答やテーマについての議論も行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	資本主義的生産様式の生成			人類の歴史における生産体制を概観するとともに、資本主義的な生産体制の特徴について理解します。特に、資本の三要素の生成について整理します。				ルネサンス以降の欧州の歴史について、特に宗教改革と資本の蓄積について学ぶ。（4時間）			
2	資本の蓄積と銀行制度			資本主義的生産体制の下では、資本の蓄積手段として銀行制度と株式会社制度が生み出されました。授業では、銀行制度について説明します。				宗教改革以後の欧州における資本主義の発展について復習し、授業を整理して提出する。（4時間）			
3	資本蓄積と株式会社制度			株式会社制度の仕組みについて整理する。また、所有と経営の分離についても説明し、今日の経営統合や企業合併等についても講義する。				「出席レポート」で資本の蓄積制度を整理します。事前のプリントを読み、予習する。（4時間）			
4	マクロ経済学の基礎概念			マクロ経済学の理論を理解するために、基礎的な概念について理解する。具体的には、ストックとフロー、三面等価の原則などの概念を説明する。				「出席レポート」に授業内容を整理します。ICTを活用して三面等価について調べる。（4時間）			
5	労働市場分析			労働市場における屈折供給曲線について説明し、自発的失業と自発的失業の概念を整理します。また、労働組合の役割や非自発的失業対策としての財政金融政策の役割についても説明します。				ICTを用いて非自発的失業を調べ「出席レポート」に整理する。（4時間）			
6	有効需要の原理と消費関数			有効需要の原理とセイ法則について説明します。また、ケインズの絶対消費関数について解説し、限界消費性向や限界貯蓄性向の役割について整理します。				ICTを用いて、消費関数について調べます。「出席レポート」で45度線分析を整理する。（4時間）			
7	投資関数と財政政策の効果			ケインズの乗数理論について説明します。また、財政政策の波及メカニズムや、限界消費性向の差異による財政政策の効果の違いについて整理します。				ICTを活用して乗数理論について調べます。財政政策の有効性について整理する。（4時間）			
8	租税乗数と貿易乗数			租税政策の効果について、また貿易依存度の違いによる財政政策の効果について整理します。				ICT等により乗数理論について調べ「出席レポート」に財政政策の効果を整理する。（4時間）			
9	貨幣の役割			貨幣の機能と貨幣数量説について説明します。また、貨幣需要理論としての貨幣数量説についても整理し、ケンプリッジ現金残高数量説を説明します。				ICTを用いて貨幣数量説を調べます。「出席レポート」に貨幣数量説について整理する。（4時間）			
10	流動性選好利子論			貨幣需要動機について整理し、確定利付債券について説明します。そして、ケインズの流動性選好利子論について説明します。				「出席レポート」で貨幣需要理論としての貨幣数量説について整理する。（4時間）			
11	信用創造論			預金準備制度について整理し、信用創造について説明します。また、預金準備率が通貨供給量に与える影響や、金融政策が实体经济に波及するメカニズムについて説明します。				「出席レポート」で信用創造について整理し、ICTを活用して金融政策について調べる。（4時間）			
12	財市場の均衡（IS曲線）			財市場の均衡を示すIS曲線を導出します。また、なぜIS曲線上で均衡するのかについて、財市場の自動調整メカニズムについても整理します。				IS曲線について調べ、「出席レポート」に整理する。（4時間）			
13	貨幣市場の均衡（LM曲線）			貨幣市場の均衡を示すLM曲線導出します。また、なぜLM曲線上で均衡するのかについて、貨幣市場の自動調整メカニズムについても整理します。				LM曲線について調べ、「出席レポート」に整理する。（4時間）			
14	IS-LM曲線分析			財政金融政策の有効性について、IS-LM曲線を用いて説明します。また、貨幣数量説の意味や流動性の罫についても整理し、今日の「アベノミクス」の有効性についても考えていきます。				「アベノミクス」について調べ、レポートに整理する。（4時間）			
15	財政金融政策の有効性			財政政策と金融政策の波及メカニズムの違いについて整理し、その有効性が経済状況の違いにより異なることを理解します。また、一国の財政金融政策が、外国為替相場に与える影響についても説明します。				わが国の金融政策について調べ、レポートに整理する。（4時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
開講時に指示します。				<p>出席レポート：30% 小テスト：20% 定期試験：50%</p> <p>評価は、出席レポート、小テスト、定期試験での総合評価を基本としますが、定期試験が特に優れている場合には、定期試験の得点を重視して評価します。また、評価の目安は、「S」：授業内容を良く理解し、授業内容を他者に説明できる、「A」：授業内容を理解し、自分の考えを表明できる、「B」：授業内容を理解し、「出席レポート」などで整理できる、「C」：授業内容を重要な点を理解し、重要な点については「出席レポート」などで整理できる。</p>							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
開講時に指示します。				授業外学修の「出席レポート」は、文章力や表現力などのコンピテンスを育成し、「論理的思考力」も高めますので、積極的に取り組んでください。							

科目名	国際経済			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	UL23206	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
△	○		△	△	△						
授業概要											
今日の国際経済は様々な分野で相互依存関係が深化し、一国経済が他国に強い影響を与える経済に変質してきています。本授業では、経済のグローバル化の背景やその方向性について講義します。また、授業は「経済入門」を受講していることを前提としますが、必要に応じて「経済入門」の内容を復習しながら進めます。また、「出席レポート」の提出により様々なコンピテンスを育成するとともに、「論理的思考力」についても高めていきますので、新聞等で積極的に実社会を確認してください。											
学修到達目標											
授業内容の理解を通して実社会に興味を持ち、特に国家間の経済的な結びつきを理解することを通して、国際経済の構造を自分なりに理解する。特に、長野県は海外拠点を持つ企業が多く、外国為替市場の動向に企業収益が左右される企業が多いため、外国為替市場の動向と地域経済との関係が理解できるようになる。											
授業の進め方											
授業は講義形式で実施しますが、「出席レポート」等を通して受講者の理解を確認しながら授業を進めます。また、人数が少ない場合、双方向型のアクティブ・ラーニング授業を行い、その場で理解を確認しながら進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	国際経済と国際通貨制度	国際通貨制度について、19世紀に確立した金本位制度について説明します。また、貨幣の機能についても整理します。					ICT等を活用して金本位制について調べ、「出席レポート」に整理する。(4時間)				
2	戦後の国際通貨制度	戦後の「ブレトン・ウッズ体制(通称「IMF・GATT体制」)」について説明します。また、固定相場制と変動相場制についても説明します。					ICT等を活用して「ブレトン・ウッズ体制」などを調べ、整理する。(4時間)				
3	国際通貨制度の矛盾とニクソン・ショック	外国為替制度について説明します。また、今日の国際通貨制度の矛盾についても説明します。					ICT等を活用して「ニクソンショック」などを調べ、整理する。(4時間)				
4	金融経済の進展と要因	拡張的な財政金融政策の功罪について説明し、金融経済の進展が意味することを説明します。					ICT等を活用して「財政金融政策」の手法などを調べ、整理する。(4時間)				
5	プラザ合意と国際的政策協調体制の成立	グローバルな国際経済における「インバランス」の問題と、それに対する国際的な協調体制成立の背景等について説明します。					ICT等を活用して「プラザ合意」などを調べ、整理する。(4時間)				
6	アジア通貨危機	1990年代のアジア通貨危機の背景や、この危機に対する各国の対応、さらにはIMFの対応等について説明します。					ICT等を活用して「アジア通貨危機」などを調べ、整理する。(4時間)				
7	各国の財政金融政策と世界経済	今日の世界経済は、外国為替相場の変動を通して各国の経済に強い影響を与える経済に変質してきていますが、その影響について説明します。					ICT等を活用して「欧州信用不安」などを調べ、整理する。(4時間)				
8	後期金融経済と金融機関規制	今日、金融機関の破綻の影響を最小限に抑えるため、金融機関行動を国際的に規制するBIS規制が導入されていました。ここでは、この規制について説明します。					ICT等を活用して「BIS規制」などを調べ、整理する。(4時間)				
9	日本企業の海外進出	戦後の高度経済成長期以後の日本企業の海外進出について、外国為替相場の変動の側面を中心に説明します。					ICT等を活用して円高・円安の進行に伴う日本企業の行動変化について調べ、整理する。(4時間)				
10	企業活動のグローバル化と国際分業	今日の各国企業のグローバル化と、ビジネスモデルの変化について説明します。					ICT等を活用して、1990年以降の日本企業の行動変化について調べ、整理する。(4時間)				
11	企業活動のグローバル化と労働	企業活動のグローバル化に伴って労働力も国境を越えて移動しますが、その状況について説明します。					ICT等を活用してわが国の労働力受入等について調べ、整理する。(4時間)				
12	多文化共生社会と企業経営	外国人労働者の増加など、多様化する社会において求められる「ダイバシティ・マネジメント」について説明します。					ICT等を活用して「ダイバシティ・マネジメント」について調べ、整理する。(4時間)				
13	自由主義と保護主義	貿易自由化と保護貿易主義の歴史について説明し、今日の世界経済における貿易の方向性について説明します。					ICT等を活用して「貿易戦争」について調べ、整理する。(4時間)				
14	世界経済の拡大と日本経済	世界経済の動向が日本経済にどのような影響を与えるのかについて説明します。					ICT等を活用して世界経済について調べ、整理する。(4時間)				
15	全体のまとめ	14回の授業のまとめをします。また、まとめを通して、今後の国際経済の動向や課題についても説明します。					各自で国際経済の方向性について整理する。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
プリントや資料を配布します。						出席レポート:30% 課題:10% 小テスト:20% 定期試験:40% 評価の目安は、「S」:事前事後学修の成果を含めて授業内容を理解し、その内容を文章等を含めて他者に分かりやすく説明できる、「A」:事前事後学修の成果を含めて授業内容を理解し、その内容を文章等で明確に整理できる、「B」:事前事後学修の成果を含めて授業内容の要点を理解し、文章等で整理できる、「C」:授業内容を理解し、その内容を文章等で整理できる、です。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
国際経済、国際金融関係の図書を開講時に指示します。						本授業は、経済学関係の基礎科目を履修しているという前提で展開されます。授業中に経済学に関する復習等も行いますので、受講者は、経済学関係の基礎科目のノートを持って出席してください。					

科目名	地域の歴史			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL13301	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○	△		△	△	△						
授業概要											
政治・教育・文化・諸産業・交通運輸等々にわたる。長野県の歴史上の人物の生き様や業績をとおして、その生きた時代を、日本の歴史上に位置付けながら検証していきます。古代・中世・近世・近代・現代と、それぞれの時代の群像を取り上げます。その中で、地域の歴史の学び方を、歴史資料の所在・調査・研究などの面から、自分なりにどのように取り組んでいくのかを考えていきます。											
学修到達目標											
地域で、何をどのように学び、それを様々な教育等の場でいかに生かしていったらよいか、自分なりに課題をみつけ、具体的に調べ、伝えていくことができる。											
授業の進め方											
具体的にいくつかの資料を紹介しながら、レジュメをもとに講義をすすめます。講義は教室で行ないます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	県歌制定50年			長野県歌「信濃の国」を読み解き、その時代背景をみる。				何番まで歌えるか、歌詞の意味を考えておくこと。(4時間)			
2	旧石器・縄文の時代			野尻湖人、縄文時代の人びとなどをとおして、その時代の生活をみていく。				地元の遺跡や遺物を調べておくこと。(4時間)			
3	物くさ太郎			御伽草子「物くさ太郎」を読み解きながら、中世の人びとの暮らしを考える。				大学近くにある「物くさ太郎」の碑を事前に見ておくこと。(4時間)			
4	真田氏・小笠原氏3代			真田氏三代と小笠原氏三代をとおして、戦国時代をみる。				これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)			
5	江戸時代の領主たち			松本の領主をもとに、代表的な人物をもとに、その時代背景をみる。				これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)			
6	江戸時代の村びとたち			百姓一揆の多田加助、堰を開発した百瀬三七を調べる。				加助騒動の身近な史跡を調べておくこと。(4時間)			
7	明治の群像			佐久間象山、赤松小三郎、松尾多勢子、近藤茂左衛門らをとおして、幕末維新期の日本をみる。				これらの人物について調べておくこと。(4時間)			
8	自由民権運動と秩父事件			松本の自由民権運動、佐久での秩父事件を主導した人物をとおしてその全体像にせまる。				これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)			
9	普選の父、中村太八郎			日本の普通選挙運動発祥の地は松本。中村太八郎・木下尚江らの活動をさぐる。				普通選挙運動について調べておくこと。(4時間)			
10	製糸王国長野県			製糸王今井五介をとおして、養蚕製糸業の発展をみる。私鉄の敷設、木曾川の電力開発についても考える。				養蚕・製糸業について調べておくこと。(4時間)			
11	松本からみた「大逆事件」			事件の発端は松本平から。幸徳秋水らと信州の関わりをみながら「大逆事件」と日本を考える。				これまで学んだことのある左記テーマについて整理しておくこと。(4時間)			
12	大正期の教育			川井清一郎訓導が関わった学校での事件から信州教育を考え、鳩山春子と沢柳政太郎をとおして日本の教育をみる。				「信州教育」とは何かを考えておくこと。(4時間)			
13	戦争の時代(1)			福島安正と河原操子をとおして、日清・日露戦争をみる。				ふたりの人物について調べておくこと。(4時間)			
14	戦争の時代(2)			川島芳子と川島浪速などをいながら、「満洲事変」からの「15年戦争を」みていく。				川島芳子について調べておくこと。(4時間)			
15	戦後の日本			戦後73年間の日本の首相と米国の大統領をとおして、日本の政治史をみる。				記憶にのこる日本の首相を整理しておくこと。(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
講義ごとに担当者が作成したレジュメを、出席者に配布します。				出席レポート：30% 定期試験：50% 講義後のコメント：20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
なし				講義ごとに感想や質問を受講票に記入して提出してください。質問については、次回の講義で答えます。							

科目名	地域と文学		学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UL13302	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
○	△		△	△	△					
授業概要										
信州にゆかりのある文学者や研究者を取り上げ、出身地や略歴、代表作等を紹介し、地域の昔話も含みます。担当者が代表作の紹介を行い、描写の読み取り方や味わい方を学びます。分担した箇所について調べ学習を行いながら、自分の読みを確立するための力を身につけていきます。その後学生自身が自分の興味・関心に沿って他の作品を調査し、各自が調べた結果を最後に発表します。発表された内容について全体で検討し討議し、共有します。										
学修到達目標										
1 信州の主たる代表作を知り、その実際を広く理解する。 2 文学作品に対する知見を深め、文学に関する考察力や研究力を身につける。 3 作品に対する自分の考察を持ち、わかりやすく発表、論述することができる。										
授業の進め方										
講義、発表、演習です。教員が文学作品の読み方講義をします。その後作品を自分の力で読み進めプリントを作成し発表します。最後に各自が自分の興味・関心に応じて調べ学習をし発表します。週末にアウトキャンパスに出かける予定です。（日程は初回に提示）										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス 文学の読み方	文学作品の読み方について基本的な観点を講義します。発表分担を決めます。				シラバスから全体を概括する。読み方の基本の視点をまとめ、担当箇所を調査する。（4時間）				
2	信州の作家(1)	島崎藤村『夜明け前』を読み作品の背景を学びます。各自が読んだ内容を発表し合います。互いに読み合うことによって深め、各自が考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。（4時間）				
3	信州の作家(2)	『夜明け前』を読み進め読み深めます。各自が読んだ内容を発表し合い、互いの読みを交流し、各自が考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。（4時間）				
4	信州の作家(3)	島崎藤村『夜明け前』を読み、作品の背景や読み進め方を学びます。互いの意見交流をします。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。（4時間）				
5	信州の作家(4)	『千曲川のスケッチ』を読み進め、互いの読みを共有し、自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。（4時間）				
6	信州の作家(5)	『千曲川のスケッチ』を読み進め、互いの読みを共有し、自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。（4時間）				
7	信州の作家(6)	『千曲川のスケッチ』を読み進め、互いの読みを共有し、自分の読みの確立を目指します。各自で考察を持ちます。				授業内容を考察しまとめる。分担箇所について発表準備をする。（4時間）				
8	信州の詩歌(1)	島崎藤村の詩から複数取り上げ、読み味わい方や解釈の仕方を学びます。				授業内容をまとめる。分担箇所について発表準備をする。『夜明け前』を読破し提出する。（4時間）				
9	信州の詩歌(2)	『若菜集』等から複数の作品を取り上げ、読み味わい方や解釈の仕方の筋道を学びます。				『藤村詩抄』を読破しレポートを書く。発表準備をする。（4時間）				
10	信州の研究者・歌人(1)	窪田空徳の業績を知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。（アウトキャンパスを予定。詳細は別途）				授業内容を考察しまとめる。アウトキャンパスの準備とまとめを行う。（4時間）				
11	信州の研究者・歌人(2)	窪田空徳の業績を知り、いくつかの作品を取り上げ読み味わいます。（アウトキャンパスを予定。詳細は別途）				授業内容を考察しまとめる。アウトキャンパスをまとめ、レポートを書く。（4時間）				
12	信州の童話・昔話	信州を代表する昔話に触れ、これまで学んだ読み方を生かして解釈し、考察を持ちます。				各自が発表資料を作成し、発表の準備をする。（4時間）				
13	信州の作品(1)	各自が自分の興味・関心に応じて調べ、調べた内容や作品解釈、作品研究を発表します。				各自が発表資料を作成し、発表の準備をする。（4時間）				
14	信州の作品(2)	各自が自分の興味・関心に応じて調べ、調べた内容や作品解釈、作品研究を発表します。				各自が発表資料を作成し、発表の準備をする。（4時間）				
15	信州の作品(3) 総括	各自が自分の興味・関心に応じて調べ、調べた内容や作品解釈、作品研究を発表します。				15回を総括する。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「夜明け前 第1部（上）」島崎藤村著（角川ソフィア文庫） ISBN: 9784101055084（生協で購入してください。） 「千曲川のスケッチ」島崎藤村著（岩波文庫 緑23-6） ISBN: 4003102363（生協で購入してください。） 「藤村詩抄」島崎藤村著（岩波文庫） ISBN: 4003102312（生協で購入してください。） 「天造じいさんとガン」椋鳩十著（偕成社文庫） ISBN: 978-4-03650620-0（生協で購入してください。）				受講態度：20% 課題：60% レポート：20% S: 基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現し、高い意欲を示している。 A: 基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。 B: 基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題を全て行っている。 C: 基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題を全て行っている。受講態度には毎回出すシートの出来映え、発表等を含む。欠席4回で単位を認定しません。欠席・遅刻2回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「島崎藤村 吉田精一著作集6」吉田精一著（桜楓社） 「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編修所編編（三省堂） 「漢字筆順ハンドブック 第3版」江森賢治著（三省堂）				その他参考書は講義で適宜紹介します。座席指定です。レポートや課題は手書きによる提出が主です。用具等は第1回授業で指示します。アウトキャンパスが企画できた際は必ず出席してください。						

科目名	地域の伝統行事			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	UL23303	研究室	非常勤
担当者	小松 芳郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○	△		△	△	△						
授業概要											
日頃から体験している年中行事から始まり、各地に伝わる伝統行事について学びます。長野県内の代表的な行事を、それぞれの地域ごとに扱い、地域に残る歴史と民俗事象を掘り下げていきます。さらに、身の回りの暮らしの中での伝統行事を、今日までの変容を追いながら、どのように調べて記録としてのこしていくのか、それを後世にどのように伝えていったらよいのかを、具体的な事例を挙げながら探り考えていきます。											
学修到達目標											
地域で、何をどのように学び、それを様々な教育等の場でいかに生かしていったらよいのか、自分なりに課題をみつけ、具体的に調べ、伝えていくことができるようになる。											
授業の進め方											
いくつかの資料を紹介しながら、レジメをもとに講義をすすめます。講義は教室で行ないます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	変わる生活	昭和30年代からの高度経済成長期を境にして変わる生活のなかでの年中行事を、日記をもとにみます。					三世代のお話を聞いて、暮らしの変容の一部を調べておくこと。(4時間)				
2	年中行事(1)	信州の春のさまざまな年中行事をみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)				
3	年中行事(2)	信州の夏のいろいろな年中行事・祭りをみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)				
4	年中行事(3)	信州の秋の各地の年中行事・祭りをみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)				
5	年中行事(4)	信州の冬のいくつかの年中行事をみます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)				
6	人の一生(1)	誕生から成人までの儀礼などをみていきます。					誕生から今日までの自分の儀礼を調べておくこと。(4時間)				
7	人の一生(2)	成人からの人の一生をみます。					親の世代などの儀礼の例を聞いておくこと。(4時間)				
8	人の一生(3)	一生を終える儀式とその変容を、時代とともにみていきます。					葬儀の変容について調べておくこと。(4時間)				
9	善光寺	善光寺仏の流転、善光寺信仰、御開帳などを調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)				
10	御柱	信州各地の御柱のようす、歴史などを調べます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)				
11	石仏を調べる	石仏、道祖神などを調べます。					自分の住む地域の左記テーマについて調べておくこと。(4時間)				
12	地域の文化財(1)	北信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)				
13	地域の文化財(2)	東信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)				
14	地域の文化財(3)	中信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)				
15	地域の文化財(4)	南信の文化財には、どのようなものがあるか調べます。					左記のテーマについて調べておくこと。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
担当者が作成したレジメを、講義ごとに出席者に配布します。				出席レポート：30% 定期試験：50% 講義後のコメント：20% S:出席レポートを全回提出し、講義後のコメントの密度が非常に高く、講義の内容のほぼすべてを修得している。A:出席レポートを全回提出し、講義後のコメント内容が充実しており、講義内容を深化させて修得している。B:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容を理解し、自分なりの史観を表現できる。C:出席した回すべての出席レポートを提出し、講義後のコメントが記入され、講義内容をある程度理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
なし				講義ごとに感想や質問を受講票に記入して提出してください。質問については、次の講義で答えます。							

科目名	地域社会と学校教育			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UL33304	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日4限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
④			△	△	△						
授業概要											
<p>学校教育では、新学習指導要領で「生きる力」を育成するという基本理念が継承され、「確かな学力」や「豊かな人間性」などを育むことが求められています。知識・技能を実生活で活用する力や、異なる文化や背景を持つ人々との関係を構築する力が、今後必要とされています。それらの力を育成するには、外部の力を有効に活用していく必要があります。地域社会における学校の意味を問い直し、「信州型コミュニティスクール」の取り組みを研究すると共に、地域社会に根ざした学校づくりを追究していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>地域社会における教育計画の理念や背景を学び、地域社会に支えられた学校や教師のあり方の理解を深め、豊かな人間観、教育観、教師観を形成する。地域社会と学校との関わり方について学び、教員としての資質を身につける。</p>											
授業の進め方											
<p>学校と地域との関わりについての歴史や変容、展望を講義で学び、小・中学校の実際の教育現場でのアウトキャンパスを通して、地域と共にある学校づくりを学びます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	学校と地域社会との関わりについての学び方を理解します。					地域社会の概念の理解をする(4時間)				
2	近代学校の成立	学校の成立と学校統合、通学区の再編について学びます。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
3	開かれた学校	地域社会に「開かれた学校」の動向と展望について理解します。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
4	学校と家庭	少子化社会における家庭の教育機能の変容について理解します。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
5	国・県の教育計画	国及び県の教育計画、長野県の求める教師像について理解します。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
6	信州型コミュニティスクールの取り組み	信州型コミュニティスクールの理念と取り組みについて学びます。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
7	松本市の教育行政	松本市の教育行政と学校の教育計画について学びます。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
8	アウトキャンパス①	信州型コミュニティスクールの取り組みを小学校で参観します。					参観観点別評価表に記入する(4時間)				
9	アウトキャンパス②	信州型コミュニティスクールの取り組みを中学校で参観します。					参観観点別評価表(4時間)				
10	参観報告会	小・中学校の地域と共にある学校づくりの成果と課題を話し合い、共有します。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
11	アウトキャンパス③	地域社会の特性を生かした特別支援学校の取り組みの様子を参観します。					参観観点別評価表に記入する(4時間)				
12	参観報告会	地域社会と特別支援学校との関わり方の成果と課題を話し合い、共有します。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
13	教師像	保護者や地域社会が求める学校と教師像を学びます。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
14	まとめ①	地域社会と学校との関わり方をみんなでシェアします。					本時の学習内容の整理をする(4時間)				
15	まとめ②	これまでの総括として、地域社会と学校教育の将来像を明らかにします。					総合レポートをまとめる(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
使用しません。				<p>受講態度：30% レポート：70%</p> <p>S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、授業で学んだことを表現できる。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
必要に応じて提示します。				外部での授業があるので、学校現場に入るときに諸注意を遵守してください。							

科目名	地域経済史			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UL33305	研究室	W-22
担当者	木村 晴壽			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、金曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
④			△	△	△						
授業概要											
わが国が工業化される過程で発展しあるいは衰退した地域（地場）産業の全体像を踏まえた上で、地域経済の形成に大きな影響を与えた地域産業を取り上げ、それらの歴史的展開について講義します。特に、本学が立地する信州の地域産業については、工場形態での発展によりわが国最大の外貨獲得産業となった器械製糸業、および、一時期は地域経済に大きな比重を占めながらも戦後の経済発展のなかで産業としての影響力を失い、伝統工芸としての業態で存続した他の絹関係品生産を対比しながら、地域産業の動きを理解します。											
学修到達目標											
明治以降の日本がたどった歴史を、地域産業を通じて理解し、最終的には地域産業の持つ強さ・弱さ、そしてその将来像を把握している。地域に展開した産業（特に長野県では製糸業）がどういう発展の仕方をしてきたか、そしてそれがいま地域で展開する産業とどうい関係にあるかを理解する。											
授業の進め方											
基本的には教員からの説明を主体とした講義形式で進めます。アウトキャンパス等は計画していません。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスと講義に向けての基礎知識について説明します。					テキスト1～5頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
2	繊維産業と日本経済	繊維産業、特に製糸業が日本経済にどのように位置づけられるかを詳述します。					テキスト6～13頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
3	地主制と製糸業	器械製糸の中心地は長野県であることを踏まえ、地主制との関連を詳述します。					テキスト13～18頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
4	器械製糸業	長野県が器械製糸の中心になった背景と要因について詳述します。					テキスト20～23頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
5	田中組の金融活動	長野県にも大きな政商が（小野組と田中組）関わっていたことを詳述します。					テキスト23～26頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
6	洋銀取引との関係	「金の国」日本（小判とドル銀貨）と銀貨の関係について述べます。					テキスト26～29頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
7	外国為替相場の出現	日本初の相場師が長野県出身の商人である事実と長野県の機械製糸業との関係を詳述します。					テキスト29～32頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
8	片倉製糸	日本最大の生糸メーカー、片倉製糸の成長過程について詳述します。					テキスト34～35頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
9	蚕網の生産	重要な養蚕具として江戸期から信州で使われていた蚕網が全国に普及してゆく過程を詳述します。					テキスト35～39頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
10	戦時下の製糸業	戦時下で切り捨てられる製糸業の姿を詳述します。					テキスト40～42頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
11	戦時下の地域経済	戦争直後の混乱のなか日本経済がどう変わったかを基礎に、地域産業の変貌について詳述します。					テキスト48～53頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
12	戦後の農地改革	戦争直後の混乱を経て日本の農業はどう変わったかを詳述します。					テキスト55～58頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
13	戦後の軽工業と重工業	戦後、地域産業として何が製糸業に取って替わったかについて詳述します。					テキスト58～60頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
14	地域経済の転換	戦前と比較して大変貌を遂げた信州の経済構造について詳述します。					テキスト60～61頁を熟読のこと(2時間)。事後、授業で指摘した事項を調べること(2時間)。				
15	総括	信州の地域産業が軽工業から精密工業へと転換するまでの流れを詳述します。					テキスト全体を通読のこと(3時間)。事後、授業での総括を復習すること(3時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「地域経済史」木村晴壽著松本大学総合経営学部編（松本大学）（生協で購入してください。）						レポート：30% 定期試験：70% S:授業内容を十分に理解し、地域産業について解説ができる。A:授業内容を理解している。B:授業内容をおおよそ理解している。C:授業内容を6割程度理解している。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「長野県史（各巻）」長野県編（長野県）						期末の試験は、難易度がかなり高く設定されているので、普通の講義で集中して理解しようとする姿勢が必要です。					

科目名	地域課題研究Dクラス			学年学期	1年通年	単位数	2	ナンバリング	UL13306	研究室	A-02
担当者	大藏 真由美			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日4限、水曜日4限		
関連資格						履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
①	②	③	A	B	C						
○	△		△	△	△						
授業概要											
お地域社会を支える人材の育成は、地域社会の存続や発展にとり大きな課題です。人づくり(教育)に関わる活動に参加することを通して、地域が抱える教育課題を発見することを目的とします。さらに、現在そして将来にわたり、教育を巡る課題の解決のためにできることは何かを考えることも目的とします。今年度の中心テーマは、コミュニティ・スクールとします。											
学修到達目標											
1. 地域の人づくり(教育)の活動に参加し、コミュニケーション力を高めることができる。2. 地域の人づくり(教育)の実際を知り、その意義や役割、特徴を理解することができる。3. 到達目標1、2に基づき、地域の人づくり(教育)の課題を考えることができる。4. 到達目標3に基づき、地域の人づくり(教育)の課題を解決することができる。											
授業の進め方											
前期は講義とグループワークと報告を中心に、後期は体験と報告を中心に進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス1			授業内容及び前期の授業の進め方を説明します。				シラバスを読み、授業全体のイメージを持つ(1時間)。			
2	地域と人づくり(1)			松本市の教育の現状について学びます。				松本市教育委員会のHPを読む(1時間)。			
3	地域と人づくり(2)			松本市の教育の課題について学びます。				前時の復習、松本市教育委員会のHPを読む(1時間)。			
4	地域と人づくり(3)			地域における人づくりの活動について学びます。				前時の復習、課題のまとめ(1時間)。			
5	地域と人づくり(4)			地域における人づくりの活動について学びます。				前時の復習、課題のまとめ(1時間)。			
6	地域と人づくり(5)			コミュニティ・スクール、信州型コミュニティ・スクールについて学びます。				前時の復習、課題のまとめ(1時間)。			
7	地域と人づくり(6)			信州型コミュニティ・スクールの実際を学びます。				前時の復習、課題のまとめ(1時間)。			
8	地域と人づくり(7)			コミュニティ・スクールの実践例を調べます。				前時の復習、実践例のまとめ(1時間)。			
9	地域と人づくり(8)			信州型コミュニティ・スクールの実践例を調べます。				前時の復習、実践例のまとめ(1時間)。			
10	地域と人づくり(9)			報告の準備をします。				報告会の資料作り(1時間)。			
11	地域と人づくり(10)			コミュニティ・スクール、信州型コミュニティ・スクールについて調べたことを報告し、共有します。				報告の練習(1時間)。			
12	地域と人づくり(11)			コミュニティ・スクール、信州型コミュニティ・スクールについて調べたことを報告し、共有します。				報告の練習(1時間)。			
13	活動参加の準備(1)			活動に参加する時の注意事項について学びます。				前時の復習、課題のまとめ(1時間)。			
14	活動参加の準備(2)			活動に参加する時の各自の課題を考えます。				自らの課題を考える(1時間)。			
15	前期のまとめ			ここまでの授業を振り返り、総括します。				前期授業の復習(1時間)。			
16	ガイダンス2			後期の授業の進め方を説明します。また、活動に参加する時の注意事項を再確認します。				活動参加の注意事項の確認(1時間)。			
17	体験(1)			教育活動に参加し、その実際を体験します。				体験の振り返り(1時間)。			
18	体験(2)			教育活動に参加し、その実際を体験します。				体験の振り返り(1時間)。			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	体験（3）	教育活動に参加し、その実際を体験します。	体験の振り返り（1時間）。
20	体験（4）	教育活動に参加し、その実際を体験します。	体験の振り返り（1時間）。
21	体験（5）	ここまでの体験に関する情報交換とこれからの体験での課題の明確化を行います。	情報交換の準備（1時間）。
22	体験（6）	教育活動に参加し、その実際を体験します。	体験の振り返り（1時間）。
23	体験（7）	教育活動に参加し、その実際を体験します。	体験の振り返り（1時間）。
24	体験（8）	教育活動に参加し、その実際を体験します。	体験の振り返り（1時間）。
25	体験（9）	教育活動に参加し、その実際を体験します。	体験の振り返り（1時間）。
26	報告会の準備	報告会の準備（役割分担、発表の順番、レジュメの印刷など）を行います。	報告会のレジュメ作成（1時間）。
27	報告会（1）	体験で学んだこと、地域の教育課題について考えたことなどを報告します。	報告の練習（1時間）。
28	報告会（2）	体験で学んだこと、地域の教育課題について考えたことなどを報告します。	報告の練習、報告会のまとめ（1時間）。
29	報告会（3）	体験で学んだこと、地域の教育課題について考えたことなどを報告します。	報告の練習、報告会のまとめ（1時間）。
30	まとめ	これまでの授業を総括します。	これまでの授業の復習（1時間）。
テキスト		成績評価の方法・基準	
使用しません。必要に応じて適宜資料を配布します。		受講態度：30％ 課題：70％ 受講態度（授業・体験への意欲、理解度）、課題（報告、課題）を総合して評価します。 <評価基準>S:授業や体験に意欲的に参加し、地域の教育課題とその解決方法について自分なりの考えを論理的に説明できる。A:授業や体験に意欲的に参加し、地域の教育課題を説明できる。B:授業や体験に積極的に参加し、体験で学んだことを整理して説明できる。C:授業や体験に参加し、体験で学んだことを説明できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業の進捗に合わせて紹介します。		地域の教育に関する課題を解決する方法などについて、体験を通して考える授業ですので、意欲的な授業参加を期待しています。	

科目名	日本文化			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UC13401	研究室	W-26
担当者	山根 宏文			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○	△		△		○						
授業概要											
本授業では、日本で培われてきた芸能・文化芸術・自然観・食生活・住生活・建築・武道・宗教・習俗等々の文化を全般にわたって学び、日本文化の基礎知識を総合的に養います。ジャポニズムからディスカバージャパン、クール・ジャパンなど日本文化ブームになっています。一過性の日本文化ではなく、総合的に日本文化の豊かさ、真の魅力の理解を深めていきます。											
学修到達目標											
日本の文化、美意識を学び、暮らしの中に息づいている多くの文化に気付き、それを享受でき、説明することができる。さらに、日本人としての誇りを感じ、外国人にも伝えることができる。											
授業の進め方											
市販のテキストは用いず、独自のプリント教材を中心に講義を進めます。必要に応じて、スライド、ビデオなどの視聴覚教材を利用します。教室での講義になります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業概要、学習目標、授業の進め方、評価について案内します。					日本文化で魅力を感じるものとその要因について考える。(4時間)				
2	日本の美①	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)					後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
3	日本の美②	後世に残したい日本の美について扱います。(自然・建築・伝統文化・工芸など)					後世に残したい日本の美について考える。(4時間)				
4	日本の伝統文化 華道	いけばなと日本人の自然観について述べます。					日本の伝統芸能についてどのようなものがあるか考える。(4時間)				
5	日本の伝統文化 茶道	「茶の文化 利休の心・42の教え」とホスピタリティについて述べます。					茶道から学ぶおもてなしの心について考える。(4時間)				
6	日本の伝統工芸と民藝	日本の工芸品と柳宗悦によって提唱された民藝運動について述べます。					身の周りにある生活雑器を探し、魅力を考える。(4時間)				
7	和食「和食の魅力とは」	古代から現在までの食文化と食生活を解説します。					食生活についての課題について考える。(4時間)				
8	日本の宗教 仏教と神道	仏教と神道についての考え方や日々の暮らしにある宗教行事について解説します。					各家庭の宗教と教えについて考える。(4時間)				
9	江戸文化と武士道	武士道と城下町・国宝の城について講義します。武士道では、今も息づいている日本人の精神性についてあるいは、ビジネスに活かせる宮本武蔵の思考を説明します。					武士道と言われ思いつくもの考える。(4時間)				
10	浮世絵とジャポニズム	なぜ、西洋画家が浮世絵を愛したのか 日本の美と文化について、モネやゴッホやエミール・ガレの作品をみながら解説します。					モネ・ゴッホについて調べる。(4時間)				
11	現代の日本文化 大衆文化	大衆文化として漫画文化について歴史から読み解きます。					漫画の魅力を考える。(4時間)				
12	現代の日本文化 農村文化	①現代日本の生活文化 ②農村文化の魅力 について理解を深めます。					日々の生活文化について考える。農村文化の魅力について考える。(4時間)				
13	現代の日本文化 芸術振興 ①	文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。					自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
14	現代の日本文化 芸術振興 ②	文化の活かし方、楽しみ方について解説をし、暮らしの中で文化芸術が活きる為の施策について解説します。					自分自身の暮らしの中に活きている文化芸術についてあるもの考える。(4時間)				
15	まとめ	日本文化の魅力についてのまとめをします。					全講義の復習をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
特になし。				定期試験：70% 課題：30% S：授業内容を高度に理解し、提案力が特に優れている。 A：授業内容を高度に理解し、探究心・提案力が優れている。 B：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力がある。 C：授業内容をおおよそ理解し、探究心・提案力が60%程度である							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				あたりまえのような暮らしの中に、日本人の美意識が宿っています。この講義でそれらの多くからいくつかを選択して日本人としての美しい心と伝統芸能、伝統工芸について講義します。皆さんも日本の魅力を探してください。							

科目名	異文化理解			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UC13402	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
④			△		○						
授業概要											
<p>本授業では、自分自身の文化と他者の文化を比べ、それらを意識することによって、どのように文化間において差が見られるか、英文等を通して理解していきます。その際に、それらの異文化間での違いについての事象を分類化して理解したり、その事象を具体化して自分自身のケースと比較したりすることで理解していきます。これらにより、自身の文化をさらに意識していくと共に、他の文化に対し自文化の観点からのみ理解していくことを避けていく考え方を身につけます。授業は全て英語で行われます。</p>											
学修到達目標											
異なる文化においてお互いを理解しあうために、英語で様々なことが理解できる。また文化を理解するために、自分自身の文化を考えながら、それとは異なる文化を知り、その価値観等を理解できる。											
授業の進め方											
学習内容に応じ、グループワークや講義形式、英語による発表など様々な形態で行います。また授業は英語で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス・文化とは	授業の進め方、異文化理解の考え方について。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
2	文化とは 1	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
3	文化とは 2	英文を読み、文化におけるMaterial CultureとNon-Material Cultureを理解し、まとめます。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
4	文化のルールと許容される行動 1	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
5	文化のルールと許容される行動 2	文化におけるnormsの考え方とその変化について例を取り上げ理解し、まとめます。また調べたものについて発表します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
6	ステレオタイプ 1	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
7	ステレオタイプ 2	ステレオタイプとはどのようなものであるかを例等から理解し、まとめます。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
8	メディアと文化 1	メディアによる考え方への影響について理解します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
9	メディアと文化 2	メディアによる考え方への影響について理解し、まとめます。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
10	非言語コミュニケーション 1	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をします。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
11	非言語コミュニケーション 2	非言語によるコミュニケーションの例を取り上げ、その影響等について理解をし、内容をまとめます。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
12	時間の考え方 1	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
13	時間の考え方 2	文化において時間に対する考え方が違うということについて例を取り上げ理解し、内容をまとめます。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
14	接触と空間 1	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解します。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
15	接触と空間 2	文化における空間と取り方や身体的接触について例を考え理解し、まとめます。					授業中にわからない英語に関して調べ、理解を深める。テーマについて理解を深める。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「This Is Culture」梶浦麻子・Gregory Goodmacher著TA/YK編(南雲堂) ISBN:978-4-5231-7489-9(生協で購入してください。)				受講態度:10% 課題:20% 小テスト:20% 定期試験:50% S:授業を高度に理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書より難しい英語とテーマが理解できる。A:授業をよく理解し、テーマに関し探究し課題に取り組み、教科書よりやや難しい英語とテーマが理解できる。B:授業を概ね理解し、課題を誠実にやり、教科書レベルの英語やテーマが理解できる。C:授業が理解でき、課題を誠実にやり、教科書の英語とテーマが理解できる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				授業は全て英語で行われます。しっかりと復習とまとめ課題をして下さい。また異文化の例等に対し偏見を持たないようにして下さい。原則、欠席は2回までです。授業では自分の意見を英語で言うなど積極的に取り組んでください。							

科目名	比較文化			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UC13403	研究室	E-18
担当者	松原 健二			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
○	△		△		○						
授業概要											
アメリカ文化を代表とする欧米文化と日本文化を比較することによって、欧米的な考え方や欧米文化への理解を深めると共に、我々が親しんでいる日本文化を客観的に見直していくことをめざします。題材として、贈答・挨拶・食事・住居・買物など、日常生活上の身近なものを取り上げて進めていきます。											
学修到達目標											
自分たちが慣れ親しんでいる日本文化が、唯一絶対のものではないことを理解できる。また、言葉と文化の密接なつながりや、言葉の探求によって人々の生活様式や文化を類推できる。											
授業の進め方											
まず、「日米異文化間適応訓練」のクイズに取り組みます。その後、プリント教材を用いて講義を進めていきます。学習内容の理解を助けるために、スライドやビデオなどの視聴覚教材も利用します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	文化とは／贈答習慣	人々の暮らしの中で、贈答というものが人間関係の潤滑油として機能している実態を学びます。そして日本人に多く見られる旅行土産について、その歴史的な成立過程を踏まえて考えます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
2	おごりと食事習慣	「おごり」行為の背後にある人間関係について考えます。また日常生活の中で非常にありふれた食事習慣の中に、異文化が潜んでいる事実を検証します。食器とプライバシーについても、考察します。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
3	挨拶	挨拶というものが、文化により、性別により、また時代により違いが認められるものであることを学びます。日本語と英語の挨拶言葉の違いから、その背後にある、社会における人間関係の違いを考えます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
4	客／人格構造の比較	社会における人間関係や、家族間の人間関係を、「人間関係のベクトル」の観点から考えます。そして三重の同心円のモデルを使って、日本人とアメリカ人の人格構造の違いを比較します。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
5	家と住まいの文化論Ⅰ	アメリカ開拓史についてその概要を学び、17世紀初頭に開拓者たちがどのようにして住宅建築をしたのかを学びます。そして、伝統的な日本の住宅とどのような違いがあるのかを、検証して行きます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
6	家と住まいの文化論Ⅱ	建築工法や建築材料によって、窓の造形に違いが生まれることを学びます。石造りの建築においてアーチ様式が生まれた理由や、ドームへの発展、気候風土と建築様式の関連性についても考えます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
7	エチケット／羞恥心	羞恥心の感じ方は、文化の影響を受けていることを学びます。そしてその違いがエチケットという社会規範に影響していることを検証して行きます。中国に生まれた纏足という珍しい文化についても考えます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
8	事故と謝罪(1)	謝罪言葉と責任の所在という問題について、日米を比較しながら考えます。題材として「えひめ丸事故」を取り上げ、米側からの謝罪がなぜ長い期間行われなかったのかという問題を、文化的視点から考えます。					えひめ丸事故について調べる／授業プリントの復習（4時間）				
9	事故と謝罪(2)	謝罪行動の日米での違いを、「ファイアストンタイヤ破裂事故」を題材にして考えます。フォード社とプリヂェクソン社の対応の違いは、深い文化的な問題に根ざすものであることを学びます。					「ファイアストンタイヤ破裂事故」について調べる／授業プリントの復習（4時間）				
10	結婚と離婚の国際比較	初婚年齢や婚姻率の国際比較から、結婚というものを取り巻く諸文化を学びます。また日本における結婚は伝統的に「家と家」の結びつきである歴史が長かった実態も検証します。また離婚についても考えます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
11	おつりの比較文化論	日本では、おつりは引き算で渡されますが、欧米では足し算で渡されていることを学びます。そしてこの社会習慣の違いの背景には、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを検証して行きます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
12	決済方法の比較文化論	決済方法の選択にも、売り手と買い手の間の信用関係が深く関係していることを学びます。そして、この問題が小切手や口座振替の普及率と密接に関連していることを検証して行きます。					Culture Assimilatorの予習／授業プリントの復習（4時間）				
13	広告の比較文化論	同じメーカーの洗顔クリームを題材にして、日米の広告を比較します。広告の仕方やキャッチフレーズの違いの背景には、売り手側の会社と買い手側の消費者との人間関係の捉え方の違いがあることを学びます。					Culture Assimilatorの予習／同一商品の広告を、日米で比較する。（4時間）				
14	仕事と職場の文化論	会社と従業員の関係が、日米の経営スタイルにも影響していることを学びます。題材として、日本の自動車メーカーが米国に進出した際の事例を取り上げ、個人と会社の関係、仕事と職場の文化について考えます。					Culture Assimilatorの予習／映画『Gung Ho』について調べる。（4時間）				
15	個人と集団の関係	童話「アリとキリギリス」を題材に、日本では従来、異文化的な変化が施された翻訳が広く読まれていた実態を検証します。そして、社会における個人と集団の関係が、日本と欧米では大きく異なることを学びます。					家にあるイソップ童話を調べる／意図的な変化が施された翻訳事例を調べる。（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
独自のプリント教材を作成し、毎回の授業で配布します。						受講態度：30% 定期試験：70% S：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して自分なりの解決方法を見つけて出すことができる。A：探求心を持って授業に参加し、各回の講義で学んだことを正しく理解し、課題に対して解決方法を見つけて出すことができる。B：授業に参加し、各回の講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を考えることができる。C：授業に参加し、講義で学んだことを理解し、課題に対して解決方法を探ることができる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
なし						この講義では、異文化衝突の場面において、どのような問題があり、いかなる解決方法があるかを考えてもらいます。「課題解決能力」					

科目名	文化人類学			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UC33404	研究室	W-03
担当者	福島 智子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○	△		△		○						
授業概要											
異文化を知ることで自らを確認し、その上で両者を相対化しうる感受性を多少でも身につけること—これが本講義のめざすところです。あたりまえの世界を疑い、文化とは何かを考えます。文化人類学は難しい学問ではありません。抽象度の高い理論についても触れますが、基本的には身近にある(「理由はわからないけど、そうになっている」)事例を捉えなおしてみることが重要です。内容については講義計画を参考にしてください。											
学修到達目標											
自身が属する集団(地域社会、日本)の文化を理解し、異文化を学ぶことで自文化を相対化できる。											
授業の進め方											
講義形式で行います。講義で学んだ視点から各自の生活を振り返ってもらうため、講義後に小レポートを課す場合があります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	文化人類学とは	文化人類学とは何か概説します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
2	文化相対主義と自文化中心主義	文化の捉え方である文化相対主義と自文化中心主義について概説します。					事例研究として各自リサーチする。(4時間)				
3	文化相対主義とFGM	事例研究としてFGM(Female Genital Mutilation)を取り上げます。					ドキュメンタリー映像に対する意見をまとめる。(4時間)				
4	神話(1)	神がこの世を作る話である神話(物語)の構造について学びます。					具体的な神話を取り上げ、調べる。(4時間)				
5	神話(2)	神話の具体的事例を紹介します。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
6	信仰と世界観(1)	世界宗教と民族宗教、一神教と多神教など、宗教の分類について学びます。					配布資料を読み、下調べをする。(4時間)				
7	信仰と世界観(2)	呪術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。					配布資料を読み、下調べをする。(4時間)				
8	信仰と世界観(3)	妖術とは何か、その定義、分類、目的を学びます。					配布プリントの要点をまとめる(4時間)				
9	信仰と世界観(4)	日本人の宗教観の特徴について概説します。					配布資料の要点をまとめる。(4時間)				
10	通過儀礼	人が一生のうちに経験する通過儀礼とは何かを学びます。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
11	文化と身体(1)	葬送儀礼について学びます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
12	文化と身体(2)	事例研究として特定の地域の葬送儀礼を取り上げます。					配布プリントの要点をまとめる。(4時間)				
13	病気と治療の文化人類学：総論	病気と治療をテーマとした文化人類学について概説します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
14	病気と治療の文化人類学：各論	特定の地域の治療実践を、文化人類学の観点から紹介します。					授業中に配布する課題プリントをする。(4時間)				
15	まとめ	講義全体のまとめ					総復習(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
さまざまな具体的事例を通して考えるという科目の特性からテキストは指定せず、プリントと資料を配布します。					定期試験：60% 課題：40% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考能力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「文化人類学」波平恵美子編(医学書院)					同一テーマで講義が続いている場合は欠席しないように心がけてください。毎回の講義終了前に、次回講義の概要について説明します。予習の指示がある場合は、必ず予習をしてから講義に臨んでください。						

科目名	音楽の歴史と鑑賞			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UC33405	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
西洋音楽史や日本の伝統音楽の歴史をたどりながら、西洋から影響を受けた日本の音楽の現状についても触れ、邦楽と洋楽の音律の違いや楽器の違いなどを通じて、様々な文化を理解し音楽の多様性を感じ取り、学んでいく授業です。											
学修到達目標											
それぞれの時代や地域を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞しながら、時代の流れと共に音楽がどのように発展してきたのか、また人間の生活との関わりについて捉え、レポートすることができること。											
授業の進め方											
西洋音楽史と日本の伝統文化を中心に、それぞれの時代を代表する楽曲をCDまたはDVDで鑑賞します。毎回テーマに沿って聴く観点を説明し特徴を捉えやすくし、ワークにまとめたり実際に歌ったり楽器に触れたりもし能動的な活動を取り入れます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス 音楽の始まり	授業の進め方についての説明とアンケート、音楽の始まりとして古代ギリシャから中世、ルネッサンスの音楽を紹介し、グレゴリア聖歌を歌います。					自分の生活における音楽の意味について考えてくる。(4時間)				
2	バロックの音楽	楽器の発達や作曲技法について学び、ビバルディ、バッハ、ヘンデルの楽曲を鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
3	古典派の音楽(1)	ハイドン、モーツァルトの器楽曲からソナタ形式について学びます。またオペラにも触れます。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
4	古典派の音楽(2)	ベートーベンの交響曲を鑑賞し、第九を歌います。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
5	ロマン派の音楽(1)	シューベルト、シューマン等の歌曲を中心に鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
6	ロマン派の音楽(2)	ブラームス、ショパン等の器楽曲を中心に鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
7	オペラ	イタリアオペラからワーグナーの楽劇までを概観します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
8	バレエ音楽	チャイコフスキーの3大バレエ曲を中心に鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
9	国民楽派その他	様々な国を代表する作曲家と代表作を紹介し、標題音楽にも触れます。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
10	印象派 フランス音楽	ドビュッシーを中心に、フォーレ、ラベルの楽曲を絵画や文学と関連させて鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
11	20世紀の音楽 無調音楽	新ウィーン学派やストラヴィンスキーなどから調性の崩壊と12音技法の音楽を紹介し、					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
12	アメリカ音楽	ジャズ、ポップ、ロック、ラテン音楽を鑑賞し体験します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
13	日本の伝統文化について(1)	雅楽、宗教や政治との関わり、能等について概観します。様々な楽器も体験します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
14	日本の伝統文化について(2)	琴、尺八などの楽器、歌舞伎について鑑賞します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
15	現代の音楽	明治以降の西洋音楽の影響を受けた日本の現代曲を鑑賞し、総括します。					課題ワークを完成させ、感想をまとめる。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
適宜プリントを配布します。						受講態度：50% レポート：50% S:意欲的に課題に取り組み、学習内容をすべて理解し文章表現できる。A:意欲的に課題に取り組み、学習内容を概ね理解し文章表現できる。B:意欲的に課題に取り組み、学習内容をまとめることができる。C:課題に取り組み学習内容をまとめることができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「はじめての音楽史 増補改訂版」久保田慶一 他著(音楽之友社) 「もう一度学びたいクラシック」西村理 監修著(西東社)						CDやDVDを鑑賞しながら、実際に歌ったり演奏もします。私語を慎み、意欲的に読んでください。毎回プリントを配布しますので自己管理してください。					

科目名	海外研修 I			学年学期	1・2・3・4 年通年	単位数	2	ナンバリング	UC13406	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△		○						
授業概要											
本授業は、事前学修、現地研修、事後学修から構成されています。事前学修では、シャイネスを克服するプログラム、研修先について発表するプログラム、英会話プログラムで構成されています。単位取得には現地研修に参加する必要があります。現地研修先は、オーストラリア、台湾などでのグループ語学研修、韓国やカナダ、イギリスなどでの個人語学研修(語学が初級終了程度以上)などを予定しています。事後学修では、現地研修の成果について発表し、報告書を作成します。											
学修到達目標											
授業は、異文化対応力を向上させることを教育目的としています。本授業では、2~4週間、現地の家庭や大学寮に滞在して学修しますが、この異文化体験を通して生きた外国語力の向上と異文化理解を深めます。したがって、本授業の到達目標は、「異文化について学び、異文化の相手を尊重しつつ自分の考えを明確に相手に伝えることができる」です。											
授業の進め方											
事前学修と事後学修は、座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行われます。また、授業日時は不規則で、外部講師による土曜日等にも開講されます。現地研修のプログラムや費用等は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	グローバル社会			グローバル化する現代社会について理解し、そこで求められる能力について考える。				渡航先の政治・経済・社会について調べ、報告の準備をする。(1時間)			
2	渡航先の政治・経済・社会			各自が調べた渡航先の政治・経済・社会について、パワーポイントを用いて発表する。また、相互に評価を行い発表の改善をする。				発表した内容をレポートに整理する。現地研修の課題・目的についての報告を準備する。(1時間)			
3	現地研修に対する抱負			現地研修での各自の課題・目的について、パワーポイントを用いて発表する。また、発表について、相互に評価を行う。				発表した内容をレポートに整理する。(1時間)			
4	シャイネス克服 I			外部講師によるプログラム。役者になりきり、大きな声、動作で自分を表現し、コミュニケーションを図る。				グループで役割を決め、発表の準備をする(創作漫才、寸劇等)。(1時間)			
5	シャイネス克服 II			グループで役割を決め、発表の準備をする(創作漫才、寸劇等)。				グループでの発表を英語で発表出来るように準備をする。(1時間)			
6	サバイバルイングリッシュ I			英語でのグループ発表(漫才、寸劇等)。相互に評価を行います。旅行等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、旅行等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。(1時間)			
7	サバイバルイングリッシュ II			英語でのグループ発表(漫才、寸劇等)。相互に評価を行います。買い物等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、買い物等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。(1時間)			
8	渡航準備と研修目的の明確化			英語でのグループ発表。危機管理等、海外の状況や現地の状況について理解するとともに、再度各自の課題や目的意識を明確化する。				外務省等の渡航情報等により、危険な場所等を把握する。各自の研修目的を再確認する。(1時間)			
9	現地研修 I			クラス分け試験等。ホームステイ先ファミリーとの顔合わせ、学生寮での入寮プログラム。(1日~2日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
10	現地研修 II			午前中は通常の語学授業。午後は各種アクティビティ参加。小旅行にも出かけます。(3日~4日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
11	現地研修 III			午前中は通常の語学授業。午後は世界遺産、地域社会等見学。(5日~6日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(4時間)			
12	現地研修 IV			午前中は通常の語学授業。午後は伝統文化の見学、体験、並びに自然観察等。(7日~8日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
13	現地研修 V			午前中は通常の英語授業。午後は買い物等で外国語の実践。(9日~10日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。報告書の準備をする。(6時間)			
14	体験報告 I			日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。(1時間)			
15	体験報告 II			前回の体験報告を改善し、研修先の外国語で発表する。また、ビデオ、DVDで保存するとともに、記念誌を作成する。				外国語原稿の準備。振り返りによる自己肯定感を涵養する。(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
開講時に指示されます。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。					受講態度：30% 定期試験：20% レポート：20% 実技：30% 「受講態度」には発表等、「定期試験」には小テスト、「レポート」には事前・事後学修のレポート、「実技」には現地研修の評価が含まれます。また、評価「S」は、外国語と日本語で円滑なコミュニケーションや発表ができる。評価「A」は、外国語と日本語で伝えたいことを明確に伝えることができる。評価「B」は、外国語と日本語で伝えたいことを伝えることができる。評価「C」は、外国語と日本語で簡単な内容を伝えることができる。以上が目安です。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレット					本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク(危険)が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講状況に加えて、必要に応じてゼミ担当教員や語学教員等の意見を参考に決定します。						

科目名	海外研修Ⅱ		学年学期	1・2・3・4 年通年	単位数	2	ナンバリング	UC13407	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限 後期：火曜日3限		
関連資格					履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△		○					
授業概要										
本授業は、「海外研修Ⅰ」同様、事前学修、現地研修、事後学修の3つの部分で構成されています。詳細は「海外研修Ⅰ」を参照してください。また、本授業は「海外研修Ⅰ」に参加した者が再度「海外研修Ⅰ」とは異なる現地研修先に参加したい場合に履修することができます。したがって、「海外研修Ⅰ」と同一の現地研修はできません。研修先は「海外研修Ⅰ」を参考にしてください。また、現地研修では2～5週間程度現地の家庭や大学寮に滞在し、語学力の向上と異文化理解を深めます。										
学修到達目標										
本授業は異文化対応力を向上させることを教育目的とし、学修到達目標は、「異文化について学修し、異文化の相手を尊重しながら自分の考えを明確に伝えることができる」です。さらに、本授業では、外国人との交流を通して「コミュニケーション力」の向上も教育目標とし、企業が求めるグローバル・コンピテンスの育成を視野に入れています。										
授業の進め方										
事前事後学修は座学による授業と双方向型授業を組み合わせで行われます。また、授業回数・日時は不規則で、外部講師による土曜日等にも開講されます。現地研修の場所、内容、費用等は開講時に提示しますが、人数制限をする場合があります。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	グローバル社会		グローバル化する現代社会について理解し、そこで求められる能力について考える。				渡航先の政治・経済・社会について調べ、報告の準備をする。(1時間)			
2	渡航先の政治・経済・社会		各自が調べた渡航先の政治・経済・社会について、パワーポイントを用いて発表する。また、相互に評価を行い発表の改善をする。				発表した内容をレポートに整理する。現地研修の課題・目的についての報告を準備する。(1時間)			
3	現地研修に対する抱負		現地研修での各自の課題・目的について、パワーポイントを用いて発表する。また、発表について、相互に評価を行う。				発表した内容をレポートに整理する。(1時間)			
4	シャイネス克服Ⅰ		外部講師によるプログラム。役者になりきり、大きな声、動作で自分を表現し、コミュニケーションを図る。				グループで役割を決め、発表の準備をする(創作漫才、寸劇等)。(1時間)			
5	シャイネス克服Ⅱ		グループで役割を決め、発表の準備をする(創作漫才、寸劇等)。				グループでの発表を英語で発表出来るように準備する。(1時間)			
6	サバイバルイングリッシュⅠ		英語でのグループ発表(漫才、寸劇等)。相互に評価を行います。旅行等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、旅行等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。(1時間)			
7	サバイバルイングリッシュⅡ		英語でのグループ発表(漫才、寸劇等)。相互に評価を行います。買い物等で必要な最低限の英語学習をグループでのアクティブ・ラーニングで行う。				決まった英語フレーズを暗唱し、買い物等をテーマにしたグループでの寸劇を準備する。(1時間)			
8	渡航準備と研修目的の明確化		英語でのグループ発表。危機管理等、海外の状況や現地の状況について理解するとともに、再度各自の課題や目的意識を明確化する。				外務省等の渡航情報等により、危険な場所等を把握する。各自の研修目的を再確認する。(1時間)			
9	現地研修Ⅰ		クラス分け試験等。ホームステイ先ファミリーとの顔合わせ、学生寮での入寮プログラム。(1日～2日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
10	現地研修Ⅱ		午前中は通常の語学授業。午後は各種アクティビティ参加。小旅行にも出かけます。(3日～4日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
11	現地研修Ⅲ		午前中は通常の語学授業。午後は世界遺産、地域社会等見学。(5日～6日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
12	現地研修Ⅳ		午前中は通常の語学授業。午後は伝統文化の見学、体験、並びに自然観察等。(7日～8日目)				授業準備と宿題対応。日誌を作成する。(6時間)			
13	現地研修Ⅴ		午前中は通常の英語授業。午後は買い物等で外国語の実践。(9日～10日目)				授業準備と宿題対応。日誌の作成。報告書を準備する。(6時間)			
14	体験報告Ⅰ		日誌、報告書の提出と、それに基づく各自の課題・研修目的、成果についてのパワーポイントでの発表。相互に評価をおこない、発表力の向上を図ります。				日誌、報告書の提出準備と発表準備。体験報告を英語で準備する。(1時間)			
15	体験報告Ⅱ		前回の体験報告を改善し、研修先の外国語で発表する。また、ビデオ、DVDで保存するとともに、記念誌を作成する。				外国語原稿の準備。振り返りによる自己肯定感を涵養する。(1時間)			
テキスト			成績評価の方法・基準							
上記の授業計画は参考です。現地研修先等の情報は随時提供します。また、適宜、プリント等の資料が配布されます。			受講態度：30% 定期試験：20% レポート：20% 実技：30% 評価は、発表等の受講態度、現地研修で発行される成績証明書等の定期試験、事前事後学修での課題とレポート、現地研修の実技の5つの面から総合的に評価します。また、評価の目安は、「S」：特定の話題について、相手を尊重しながら意見交換ができる、「A」：相手を尊重しながら自分の意見を伝え、良好なコミュニケーションがとれる、「B」：簡単な話題について意見交換ができる、「C」：日常生活に困らない程度のコミュニケーションができるです。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
現地の教室で配付されるプリント、各種案内パンフレット			本授業では、海外での研修も行われることから多くのリスク(危険)が想定されます。そこで、現地研修の参加の可否については、受講態度に加えて、ゼミ担当教員等の所見と語学教員等の意見を参考に決定します。							

科目名	海外事情 I			学年学期	1・2・3・4 年前期	単位数	2	ナンバリング	UC13408	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
本授業は、海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、中山大學(中華人民共和国)の先生と、東新大學(大韓民国)の先生が講義する予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。授業内容の詳細は開講時に提示します。											
学修到達目標											
本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について学ぶとともに、特に中国や韓国などのアジア地域における日本の立場について自分の意見を説明できる」ことです。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」や「コミュニケーション力」の育成も図ります。											
授業の進め方											
授業は日本語による集中講義形式で行われます。また、時期は夏休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介、中国の中山大學、協定校の嶺南師範学院と韓国の協定校の東新大學の紹介等を行います。					ICTを活用し、指示されたプリントで講義内容を予習すること。(4時間)				
2	中国の社会(歴史)	前半の7回は「中国の事情」を講義します。ここでは、中国の社会の現状を歴史的な視点を含めて解説します。					配布プリント等を参考に中国近代史について把握する。(4時間)				
3	中国の社会(現状)	ここでは、中国の社会の現状を説明します。特に、生活、流行、等、文化的な面を取りあげます。					配布プリントやインターネット等により授業内容の理解を深め、発表の準備する。(4時間)				
4	中国の経済(現状)	中国の経済状況について説明します。中国の経済は成長著しい状況にありますが、格差の問題等、様々な経済的な問題を抱えています。これらについて説明します。					配布プリントやインターネット等により授業内容を確認し、日本の状況も整理する。(4時間)				
5	中国の経済(将来)	中国の人口は今後減少に転じ、日本以上の少子高齢化社会になることが懸念されています。ここでは、中国の経済の将来について考えていきます。					現存する日中間の課題について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
6	中国の教育(制度)	中国の教育制度について解説します。また、中国の高等教育改革の現状について説明します。					わが国の高等教育についてその課題を調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
7	日中の教育比較	中国と日本の教育制度や教育内容の比較を通して、高等教育の在り方を考えます。また、受講者にも学生時代に何をしておくべきかを考えてもらいます。					受講者各自が、学生生活に関するレポートを作成する。(4時間)				
8	まとめ	これまでの講義のまとめを行います。また、質疑応答を通して中国の実情の理解を深めます。					中国について理解したこと、考えたことについてレポートにまとめる。(4時間)				
9	戦後の韓国社会(民主化)	戦後の韓国社会の民主化の過程について講義します。また、これを通して韓国社会についての理解を深めます。					配布プリント等で授業内容を確認し、理解を深める。(4時間)				
10	民主化と韓国社会	韓国の民主化に関するビデオを鑑賞し、韓国の民主化について理解を深めるとともに、民主化の意味を考えます。					韓国社会の歴史について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
11	韓国社会の現状と将来	韓国における民主化の現状と将来について考えていきます。また、日本の民主化や国際社会における民主化についても考えていきます。					世界の民主化運動について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
12	戦後の韓国経済	1990年代までの韓国経済の軌跡について解説すると共に、韓国の財閥が韓国の社会や経済に与える影響等について説明します。					世界の民主化問題についての報告の準備する。(4時間)				
13	韓国経済の現況	1997年のアジア通貨危機以降の韓国経済の状況に焦点を絞って説明します。					アジア通貨危機について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
14	韓国の高等教育	韓国の教育制度について説明するとともに、大学等の高等教育の現状について解説します。また、韓国の学生の就職についても言及します。					わが国の高等教育の状況について調べ、レポートとして整理する。(4時間)				
15	日中韓の諸問題	これまでの授業内容を参考にして、中国、韓国、日本の教員と学生諸君がいくつかのテーマを出し合い、議論をします。					議論内容をレポートとして提出する。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
プリント等を配布します。						出席レポート:40% レポート:30% 受講態度:30% 本授業での受講態度は、留学生等との積極的な意見交換や、自分の意見の発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
プリント等を配布します。						本授業は海外の大学の教員との連携授業です。従って、本務校の事情や本学の学生の事情により、お願いする講師の変更や開校日の日程が変更になることもあります。日程変更等は掲示等で随時連絡します。					

科目名	海外事情Ⅱ			学年学期	1・2・3・4 年後期	単位数	2	ナンバリング	UC13409	研究室	E-10
担当者	糸井 重夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限		
関連資格						履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△		○						
授業概要											
<p>本授業は、本学の教員と海外の協定校等の教員が、自国の政治・経済・社会・文化などについて講義する授業です。今年度は、本学の教員以外に、アジア諸国の教員や、欧米の教員にお願いする予定です。現代社会は、他国との相互依存関係が政治的にも経済的にも、また文化的にも深化してきています。本授業では、政治・経済・社会の変化を中心に講義しますが、授業内容の詳細は開講時に提示します。</p>											
学修到達目標											
<p>本授業の到達目標は、「国際社会に目を向け、国際社会の一員としての日本の立場について理解すること、日本と国際社会の関係について自分の意見を持ち、これを表現できること」です。また、米国や欧州に対しての知識を深め、興味を持つことも目標としています。授業では、毎回簡単なレポートを提出しますので、文章力や表現力、「論理的思考」の育成も図ります。</p>											
授業の進め方											
<p>授業は日本語や英語による集中講義形式で行われます。また、時期は冬休みの1週間程度を予定しています。授業は、授業計画に従って進められますが、担当者や内容、順番等については変更になる可能性があります。変更等については随時連絡します。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業の概要	授業の概要説明と講師紹介。					講師が所属する国や大学等について調べ、整理する。(4時間)				
2	アジア・欧米の政治史	アジアや欧米の政治史について講義します。					事前に欧米の政治史について整理する。(4時間)				
3	アジア・欧米の経済史	アジア・欧米の経済史について講義します。					アジア、欧米の経済史について事前に整理する。(4時間)				
4	アジア、欧米の社会史	アジア、欧米の社会史について講義します。					アジア、欧米の社会史について事前に整理する。(4時間)				
5	アジア、欧米の文化史	アジア、欧米の文化について講義します。					欧米の文化史について事前に整理する。(4時間)				
6	アジア、欧米の学校制度	アジア、欧米の学校教育の歴史や制度について講義します。					ICT等を活用して欧米の学校制度について調べ、整理する。(4時間)				
7	アジア、欧米の高等教育制度	アジア、欧米の高等教育制度と教育改革について講義します。					ICT等を活用して欧米の高等教育制度について調べ、整理する。(4時間)				
8	アジア、欧米の高等教育改革	アジア、欧米の高等教育改革について、教育手法と評価手法の観点から講義します。					ICT等を活用してパフォーマンス評価等について調べ、整理する。(4時間)				
9	欧州の政治情勢(Ⅰ)	欧州における難民問題について、現状を講義します。					ICT等を活用して難民問題、シリア問題等を調べ、整理する。(4時間)				
10	欧州の政治情勢(Ⅱ)	英国のEU離脱問題とその影響について講義します。					ICT等を活用して、英国のEU離脱問題について調べ、整理する。(4時間)				
11	欧州の経済情勢	EU域内のインバランス問題とEU経済の現状について講義します。					インバランスについて調べ、整理する。(4時間)				
12	北米の政治情勢(Ⅰ)	米国のトランプ政権下の政治情勢について講義します。					ICT等を活用してトランプ政権誕生による社会の変化について調べ、整理する。(4時間)				
13	北米の政治情勢(Ⅱ)	米国とカナダ、メキシコの関係の変化について講義します。					ICT等を活用して北米での自由貿易圏について調べ、整理する。(4時間)				
14	欧米の政治・経済と日本	欧米の政治、経済的变化が日本経済、社会に与える影響について講義します。					これまで整理したレポートを参考に各自で日本への影響について整理する。(4時間)				
15	まとめ	これからの欧米社会の方向性と日本社会の今後について、受講者全員で議論します。					議論内容についてレポートに整理する。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
プリント等を配布します。						<p>出席レポート：40% レポート：30% 受講態度：30%</p> <p>本授業での受講態度は、パワーポイント等による発表を含みます。評価の目安は次のようになっています。「S」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて論理的に整理した内容で意見交換ができる。「A」は、授業内容を理解し、データや資料に基づいて意見交換ができる。「B」は、授業内容を理解し、自分の意見を述べるができる。「C」は、授業内容をある程度理解して、自分の意見を述べるができる。</p>					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
プリント等を配布します。						<p>本授業は、本学の教員とアジアと欧米を中心に外国の教員等が連携して実施する授業です。海外の大学の多くは9月新学期ですので、担当する教員、授業の日程が確定するのは9月以降です。また、英語による授業の場合もあります。</p>					

科目名	数学の基礎			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL13501	研究室	S-12
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件	履修者上限数を80名とします。				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
どちらかという数学は苦手だったという学生を対象に、数学に興味を持てるような、論理的にものを考える習慣を身に付けられるような講義にしたいと考えています。管理栄養士として必要とされる数学力は、濃度計算やモル計算など基本的な数と式の計算、データを分析する力、そして統計学とされています。例題の解説と演習形式の授業を通して、実践的な計算力やデータの解析力を身につけるとともに、後期に開講される基礎統計学の基礎となる数学力を身につけます。											
学修到達目標											
数学に対する苦手意識の克服と、数学に興味を持ち、論理的に考える習慣を身に付けることを講義の目的、到達目標とします。また、演習問題として、SPIの非言語分野の問題や、就職時に課せられる数理系の試験問題を選んでるので、これらの問題を解くことによって就職試験に対応できる力も身につけましょう。											
授業の進め方											
紙に書いて考える、問題を解く、得意な問題は他の人に教えるなど、学生が能動的に関与する演習型講義です。配布するプリントの問題を解きながら、論理的思考に慣れ、あわてずに完全に理解、納得してから先に進むようにします。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	数と式(1)	基本的な計算問題を解きます(平方根、累乗根、指数、対数の計算など)。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
2	数と式(2)	基本的な計算問題を解きます(式の計算と展開、因数分解、分数式・無理式の計算など)。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
3	方程式と不等式	基礎的な1次、2次方程式、不等式を解きます。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
4	計算力を身につける(1)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(割合と比の計算、濃度計算)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
5	計算力を身につける(2)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(損益計算、分割払い、料金割引など)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
6	計算力を身につける(3)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(仕事算、水槽問題、表の読み取り問題など)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
7	計算力を身につける(4)	身近な問題・課題を自分の言葉で言い換えて数式にする。実際にSPI問題(速さの計算、旅人算、流水算、通過算など)を解いてみよう。					授業プリントを復習し、課題を行います。(4時間)				
8	集合と論理的な考え方	集合の考え方を復習し必要条件、十分条件、命題の真偽など、集合を使った論理的な考え方に対するアレルギーを克服しましょう。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
9	データの分析	データの散らばりやデータの相関など、データ分析の基本を学び、統計処理に必要な基礎力を身につけます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
10	場合の数	数え上げの基本、樹形図を使えるようになります。また、集合を使った数えあげにも慣れてもらいます。SPIに出題される問題を解き、苦手意識をなくしましょう。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
11	順列・組合せ	順列の公式、組合せの公式の使い方を習得します。また、順列・組合せを応用した、様々な問題の解法に取り組みます。SPIに出題される問題も解いてみます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
12	確率の基本	確率とは何か、確率の意味や考え方とその基本的な法則を復習し、実際に問題を解いてみます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
13	確率	SPIに出題される問題を例に、確率問題の解法に慣れます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
14	確率と統計	確率分布や確率変数に慣れ、統計学の基礎を身につけます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
15	推論・資料解釈の実際	SPIで出題される推論、資料解釈の問題を解き、これら問題の実践的な解法を身につけます。					数学の教科書や参考書で関連するところを復習しておく。配布プリントの添削と見直し(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
必要な資料等は授業時間に配布します。				定期試験:100% 基礎的な計算力が身に付いており、シンプルな計算問題がすらすら解ければC、文章問題を理解し、数式を立てて問題が解ければB、集合の考え方を理解し、確率計算まで展開できればA、実験や実習などで必要となる溶液や試薬の調製に必要な計算、実験データの統計学的処理ができるようになればS。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「Ability大学生の数学リテラシー」(共立出版株式会社) 「SPI3能力テスト対応必出問題完全攻略」伊坂孝史著(学研メディコン) 年生はキャリアセンターから配布されます。				3 大学までに、数学をあまりやってこなかった学生を前提とした授業です。積極的に授業に参加することを期待しています。誰でも得手、不得手な分野があります。得意なところは伸ばし、苦手なところを減らしましょう。							

科目名	生物学の基礎			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL13502	研究室	S-12
担当者	木藤 伸夫			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
現代を生きるには、生物学の知識は必須です。生物学の進歩は急激で、マスコミなどで報道される健康や病気に関わるニュース、さらには環境問題などの内容を正しく理解するために、生物学に関する知識の重要性は増えています。特に本学科で学ぶ学生は、生物としての人間を理解することが求められます。本講義ではヒト(生物として人間を扱うときはカタカナで表す)の生物学に重点を置き、食品、医療、環境といった複数の視点から、「ヒトの生物学」を学修します。											
学修到達目標											
生物の基本単位である細胞の構造や、細胞の中で起こる様々な化学反応を、私たち自身の体や私達の日常生活に関わる食品を通じて理解します。さらに、医療に関する諸問題を通じて、感染症、免疫、生殖について学び、ゲノム情報の活用と倫理面での課題についての理解を深めます。また、環境汚染とその対策について学び、私達を取り巻く環境問題についての考え方を身につけます。											
授業の進め方											
教科書と配布資料を使って講義を行います。また、毎回小テストを行い理解度を確認します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	微生物と食品生産	微生物を利用した食品を紹介し、それに関わる微生物を材料に、細胞の基本的な構造と、細胞を構成する分子や小器官について学習します。					教科書の第1章の1を予習するとともに、高校教科書の細胞の構造を復習する(2時間)				
2	食品生産における発酵技術	発酵食品を通じて、発酵とは何か、それに関わる代謝について学びます。					教科書の第1章の2を予習するとともに、解糖系を復習する(2時間)				
3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換え食品とは何か、どのような遺伝子が「組換え」られているのか、私達や身の回りの生態系にどのような影響を与えるのか考える。					教科書の第1章の3を予習するとともに、遺伝子について復習し要点をまとめる(4時間)				
4	抗生物質	感染症の治療薬である抗生物質とはどのような物質か学ぶ。また、抗生物質を使うことで細菌は退治できるのに、どうして私達の体は平気なのかを理解するために、いくつかの細胞構造を比較する。					教科書の第2章、29～40ページを予習し、細胞の構造を復習する(4時間)				
5	ワクチンと臓器移植	ワクチン接種でどうして病気を予防することができるのか学び、私達の体を守る免疫に関する知識を身につける。また、体を守る免疫が作用することで起こる拒絶反応やアレルギーについても学ぶ。					教科書の第2章、40～54ページと、85～89ページを予習する(4時間)				
6	第5回目までのまとめと確認テスト	第5回目までに学習した内容のまとめと、内容をどの程度理解しているか確認するために、確認テストを行います。さらに、解答例の説明を通して、学習内容の要点を確認します。					教科書54ページまでのまとめと、確認テスト対策(6時間)				
7	遺伝子の構造と突然変異	全ての生物がもつ遺伝子の構造について学び、遺伝子のどのような変化が、がんや遺伝病などの原因となる突然変異となるか理解する。					高校の教科書などで遺伝子の構造、DNA二重らせんなどを復習しておく(4時間)				
8	遺伝子の発現とタンパク質合成	遺伝情報の流れ、いわゆるセントラルドグマについて学び、遺伝子に記録された情報がどのようにして機能分子となるか学修する。					高校の教科書などで、遺伝子の転写、タンパク質の合成について復習しておく(4時間)				
9	遺伝病の検査と治療	遺伝子の発現や遺伝の法則について学び、遺伝子の変異が病気の原因となることについて学ぶ。また、遺伝病の検査技術や、治療法の最前線についても学ぶ。					教科書第2章の3、4を予習し、高校の教科書などで遺伝の法則を復習しておく(4時間)				
10	生物の生殖、発生、成長、老化	ヒトの受精から誕生について学習します。さらに、生物の成長と老化について学習し、生命の連続性について考えます。また、先端技術を応用した生殖補助医療に関する課題について考えます。					教科書第2章の5を予習しておく(4時間)				
11	第7回～第10回目までのまとめと、学習内容の整理	第7回～第10回で学習した内容のまとめと、内容をどの程度理解しているか確認するために、確認テストを行います。さらに、解答例の説明を通して、学習内容の要点を確認します。					教科書54～90ページまでのまとめと、確認テスト対策(6時間)				
12	生態系と外来種の侵入	生態系とは何か、また外来種によって生態系がどのように変化するかを学ぶ。また、地球における炭素循環、窒素循環についても学習する。					教科書第3章の1を予習するとともに、高校の教科書で生態系を復習しておく(4時間)				
13	環境汚染物質	いくつかの環境汚染物質と、それらが引き起こした環境問題、公害について学習し、これ以上環境破壊を行わないためにはどのような対策が必要か考える。					教科書第3章の2を予習する(4時間)				
14	地球温暖化とバイオ燃料	地球温暖化の原因と地球の表面温度を決めているメカニズムに対する理解を深め、対策としてどのようなことが考えられ、実行されているか学修する					教科書第3章の3を予習する(4時間)				
15	学修のまとめ	これまで学習した14回の内容について、理解が不十分なところを各自で補います。また、自信のある分野については、受講者の前で説明して、さらに理解を深めます。					これまでの学修内容を復習し、理解できた所、できなかった所を明らかにして講義に臨む(6時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「高校で教わらなかった生物」趙大衛(編著)松田良一(監訳、編著)著(日本評論社) ISBN:978-4-535-60033-1(生協で購入してください。)				定期試験:100% 生物の基本単位である細胞の構造と各細胞小器官の機能を説明できればC、細胞を構成する各種物質の基本構造、機能、特徴を説明できればB、それらの基礎知識をもとに、生物によるエネルギー産生や多細胞生物の恒常性維持など、複雑な生命現象が説明できればA、マスコミなどで話題となった生物に関わるトピックを正確に説明できればS。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「ヒューマンバイオロジー、人体と生命」坂井建雄、岡田隆夫 監訳著(医学書院) ISBN:978-4-260-00156-4 坂井建雄ほか監訳 「ワークブックヒトの生物学」八杉貞夫著(裳華房) ISBN:978-4-7853-				高等学校で生物学を履修していない人や苦手だった人は、必ず受講してください。							

科目名	化学の基礎			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	UL13503	研究室	S-12
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
<p>私達の体を作る細胞は、他の生物、動物や植物、細菌と共通の構造・機能をもっています。私達は食べた物を材料にしてエネルギーを作り出し、物事を考えたり体を動かしたりしています。この時、体のいろいろな細胞で起こっている反応は化学反応です。また、身体を動かすときはもとより、音を聞いたり物を見たりするときには、様々な物理現象が起こっています。この講義では、化学だけに限定せず、教育学部で学ぶ学生に必要な生物、化学、物理の視点から人体のしくみを考えます。</p>											
学修到達目標											
<p>人体で起こる様々な現象を、生物、化学、物理の視点から考えていきます。自分が食べているものはどんな物質か、食べたものが体内でどのように変化していくか説明できるようになってください。息を吸うときどうやって肺は膨らむのか、コンタクトレンズで視力矯正はどうしてできるのかなど、普段なにげなく行っている行為を、科学の言葉で説明できるようにして下さい。</p>											
授業の進め方											
<p>教科書と配布資料を使って講義を行います。高校時代、生物、化学、物理、地学などを勉強しなかった人、理系科目が苦手だった人は是非講義を聞いて下さい。スポーツのトレーニングでも科学の視点が重要になっています。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生物の基本単位	生物の基本単位である細胞の基本構造を学修します。また、最初は受精卵という一つの細胞が、どのように一人の人間になっていくか、発生と細胞分裂について学びます。					教科書の第1章、1.1~1.4を予習してから講義に出席してください(2時間)				
2	遺伝と遺伝子	遺伝の法則や遺伝子の構造について学びます。遺伝子がどのような物質でできていて、遺伝情報はどのような形で子孫に伝わっていくのか理解しましょう。					教科書の第1章、1.5~1.7の予習をしてください(4時間)				
3	エネルギー産生	生命活動を営むにはエネルギーが必要です。そのエネルギーを生み出すのは栄養素です。三大栄養素からエネルギーを生み出すしくみを学修します。					教科書の第1章、1.8と1.14を予習してください(4時間)				
4	体内環境と恒常性	春夏秋冬、暑い時も寒い時も体の中は一定の状態に保たれています。体内環境を一定に保つための神経系やホルモンののはたらきについて学修します。					教科書の第1章、1.9の予習をしてください(4時間)				
5	微生物と免疫	目には見えないけれどもいたるところにいる微生物、それらが引き起こす感染症と、私達の体が抵抗するしくみについて学びます。また、私たちの生活に役に立つ微生物についても紹介します。					教科書の第1章、1.10~1.11の予習をしてください(4時間)				
6	刺激への反応と内臓の機能	外部からの刺激、情報を私たちの体はどのように処理しているのか、神経系について学びます。また代表的な内臓の役割についても学習します。					教科書の第1章、1.12~1.13の予習をしてください(4時間)				
7	物質の構成粒子	私たちの体は様々な物質でできあがっています。それらの物質を化学の目で見るための基礎を学修します。					教科書の第2章、2.1の予習をしてください(5時間)				
8	化学結合	化学結合の種類を最初に学修し、体内の主な化学結合について学びます。また、エネルギー産生や細胞構造の、化学的基盤を学修します					教科書の第2章、2.2~2.7の予習をしてください(4時間)				
9	体内の無機化学	酸・塩基や体内の無機物質に関する基礎知識を修得し、ヒトの病気との関連を学修する。					教科書の第2章、2.8~2.10の予習をしてください(3時間)				
10	有機化合物	生物の体を構成する主要な物質である有機物について、その複雑さと系統的な考え方を学びます。また、体内の化学反応を邪魔する物質が医薬品として利用されていることにも目を向けます。					教科書の第2章、2.11~2.15の予習をしてください(4時間)				
11	圧力と気体	大気圧を理解し、さらに人体や疾病との関係を学びます。					教科書の第3章3.1を復習し、課題を行います。(4時間)				
12	波、光、音	波の性質を理解し、光や音について学びます。レンズのしくみを理解します。					教科書の第3章3.7を復習し、課題を行います。(4時間)				
13	電気	電気の性質、電流の回路について理解します。さらに電力量を学びます。					教科書の第3章3.9を復習し、課題を行います。(4時間)				
14	水圧と浮力	水圧を理解して浮力が生じることを学びます。さらに人体や疾病との関係を理解します。					教科書の第3章3.11を復習し、課題を行います。(4時間)				
15	力	力の基本を理解し、人体の動きのしくみを考えます。					教科書の第3章3.12を復習し、課題を行います。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
<p>「人体の中の自然科学 生物学・化学・物理学から学ぶヒト」川畑龍史著(東京教学社) ISBN:978-4-8082-6057-6 (生協で購入してください。)</p>				<p>定期試験：100% 自然科学の考え方や方法論を身につけることを目標とします。自然科学は積み上げる学問ですから、人体で起こる諸現象に関係する基礎的な用語を記憶し使いこなせばC、それらの内容を説明できればB、専門用語を用いて人体で起こる基礎的な諸現象を説明できればA、免疫や体外からの刺激の認知などの代表される高次の生命現象を科学的に説明できればS。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
<p>「新しい高校物理の教科書」山本明利 左巻健男編(講談社) ISBN:4-06-257509-4</p>				<p>高校時代に使った生物、化学、物理学の教科書を復習しておいてください。また、理解できないところがあったら、積極的に教員に質問しましょう。</p>							

科目名	基礎統計学 (教育)			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	UL23504	研究室	W-18
担当者	林 昌孝			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要 本講義は、データの客観的な分析手法について学ぶことを目的とします。はじめに、量的なデータおよび質的なデータを整理して検討する方法について講義します。次に、データを集約して全体像を把握する方法について学びます。また、集約された数値の見方と意味について考えます。さらに、サンプルデータを調べることにより全体像となる母集団を把握する手法について基本的な考え方と手法を学びます。											
学修到達目標 対象となるデータの統計的な特性値を算出することができる。また、特性値をもとにデータの母集団の変化を検証する方法を修得する。											
授業の進め方 データの整理検討をする分野では、データの分析手法の講義と演習を中心とした内容になります。電卓又はパソコンを利用しながら進めます。データから全体像を把握する手法については講義を中心に進め、実践的な問題を解きながら理解を深めます。											
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	尺度とデータについての基礎知識を説明します。					シラバスとテキストのはじめページを読んでください(4時間)。				
2	量的データの整理	数値で表すことのできるデータの整理と表現方法を学びます。					テキスト (量的データの整理) を読んでください(4時間)。				
3	質的データの整理	数値で示すことのできないデータの整理と表現方法を学びます。					テキスト (質的データの整理) を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
4	データを代表する値	データを集約して代表値として表す方法を学びます。					テキスト (統計学のキーワード・分布の特性値) を読んでください(4時間)。				
5	平均と標準偏差	平均と標準偏差の持つ意味と計算方法を学びます。					テキスト (統計量の計算) を読んでください(4時間)。				
6	統計量の計算練習	いろいろな統計量の計算方法の確認と練習をします。					テキスト (分布の特性値と計算練習・問題) を読んでください(4時間)。				
7	正規分布	データの持つ規則性を知ることによりデータの形式が変化することを説明します。					テキスト (確率と確率分布) を読んでください(4時間)。				
8	数値表の使い方	確率分布に従うデータの性質を数値表を用いながら学びます。					テキスト (一様分布と正規分布) を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
9	信頼係数と有意水準	統計的有意性について説明して、信頼係数と有意水準の表し方を学びます。					テキスト (信頼係数と有意水準) を読んでください(4時間)。				
10	母集団と標本の定理	母集団と標本の間の性質について定理をまじえて説明します。					テキスト (母集団と標本) を読んでください(4時間)。				
11	母平均の推定	標本平均から母平均を知る (推定する) 方法について説明します。					テキスト (母平均の推定) を読んでください(4時間)。				
12	t分布を用いた推定	データに制約がある場合の推定方法について説明します。					テキスト (t分布と推定) を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
13	仮説検定	統計的な仮説検定の原理と基本手順について説明します。					テキスト (仮説検定) を読んでください(4時間)。				
14	t分布を用いた仮説検定	データに制約がある場合の検定方法について説明します。					テキスト (検定の例題) を読んでください(4時間)。				
15	まとめ	よく使われる統計的仮説検定の方法について説明します。また、今後の発展分野についてまとめます。					テキスト (いろいろな統計的検定) を読んでください。復習問題があります(4時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「基礎統計学テキスト」林昌孝編著 (松本大学) (生協で購入してください。)						定期試験：80% 出席レポート：20% S：授業内容を高度に理解して発展的な問題や課題が解ける。A：授業内容を理解して応用問題や課題が解ける。B：授業内容をおおよそ理解して応用問題や課題がほぼ解ける。C：授業内容の6割程度を理解している。					
参考書						履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「はじめての統計学」鳥居康彦著 (日本経済新聞社) ほか適時紹介します。						数学が苦手な人でも統計的な考え方は必要です。統計学のファンになりましょう。					

科目名	地球環境と人間生活			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	UL23505	研究室	学生センター
担当者	住吉 廣行			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
ビッグバン宇宙、地球の生成、生命の誕生と進化のおおよその流れを把握します。その中でオゾン層の出現やその破壊と克服の過程について学びます。次に地球温暖化のメカニズムを学び、産業革命以降人類の生活の進歩・発展とその裏側で進んでいた二酸化炭素の大量発生に伴う地球温暖化現象を概観します。エネルギー源の変遷(木炭・石炭・石油・原子力)を理解し、それぞれの長所・短所を調べながら、生活水準を維持できるだけ自然エネルギーの可能性があるかについても検討していきます。											
学修到達目標											
環境問題、エネルギー問題についての新聞報道、TV報道に接して自分なりの視点でそれらを解釈でき、求められれば見解を述べるができる。											
授業の進め方											
配布したプリントに基づく講義、ビデオ鑑賞、グループに分かれてのディスカッションなどを交えることで、各学生が自分の意見を纏めていけるようなプロセスを予定しています。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	宇宙・元素合成、地球形成の道筋	授業の狙いを説明する。ビッグバン宇宙論、元素合成、地球の形成など、自分達が住む地球について大まかな道筋を理解する。受講票は環境問題に関するクイズ付き。					事前：シラバスを読む(1時間) 事後：クイズに解答、疑問・質問を受講票に記入(2時間)				
2	生命の進化、オゾン層の形成	生命の誕生・進化と植物の発生、酸素、オゾン層の形成を考える。オゾン層がどれくらいの時間を掛けて、どの様に出来たのか、破壊の原因は何かについて考える。					事前：前回の講義の復習(2時間) 事後：クイズに答える。疑問・質問をまとめる(2時間)				
3	オゾン層破壊とそれへの対応	オゾン層が果たす役割と、その破壊のメカニズムとフロンガスへの配慮の必要性を理解する。オゾン層の破壊による影響を知る。モントリオール議定書について知る。					事後：前回クイズの解答を配布するのでそれを読み理解を深める(4時間)				
4	温暖化機構理解とCO2増加の原因	温室効果の機構を理解し、温室効果ガスの種類を把握する。産業革命で文明の発達が加速化し、その結果大気中のCO2が急激に増加していることを理解する。					事前：前回配布のプリント(温暖化のメカニズム)を読む(2時間) 事後：疑問点を整理(2時間)				
5	COPなど人類の温暖化への取組	地球温暖化対応の国際的な動きを把握する。リオデジャネイロでの地球サミット、京都議定書、パリ協定などIPCCやCOPの動きについて知る。グループディスカッションを取り入れる。					事前：IPCCを初めに調査する(2時間) 事後：COPのこれまでの流れをネットで調べる(2時間)				
6	フィードバックシステムとしての地球	循環系としての地球の特徴を理解する。可逆、不可逆の意味と地球温暖化についてIPCCからの警告の意味を理解する。臨界点という考え方を提示する。					事後：IPCCの活動を再度調査し、理解を深める(4時間)				
7	大量生産・消費・廃棄の生活の実態	大量生産、大量消費、大量廃棄の生活スタイルがいかに現代人の生活に浸透しているかを実感してみる。グループワークによるアクティブラーニング形式を採用する。					事後：自分の生活を振り返り、是正できる点をまとめレポート提出する(4時間)				
8	地球温暖化の影響を考える	地球温暖化が人類や地球上の生命に与える影響を考える。絶滅危惧種の存在、熱帯生物の北上、海水面の上昇、砂漠化などなどについて考える。新聞記事の読み合わせを実施。					事前：前回配布のプリントを読む(2時間) 事後：温暖化の実情をネットでも調査する(2時間)				
9	ビデオ鑑賞	地球温暖化の影響を被っている世界で見られる実態を、映像によって、視覚にも訴えながら理解する。					事後：鑑賞した感想を受講票に記入する。仲間と話し合う。(4時間)				
10	日本の発電量の現状をつかむ	火力、原子力、水力、風力など多様な発電様式があるが、その原理を理解する。ファラデーの電磁誘導などにも簡単に触れ、発電様式による違いはどこにあるかを知る。					事後：電力の節約について考えておく(4時間)				
11	石油の使用量と埋蔵量	全て石油で火力発電を行った場合の必要量を、百万トンタンカーを単位として考える。化学製品にも利用しており、その量の膨大さを知り地球の有限性を認識する。					事前：プラスチック製品の投棄とそこから生じる問題点をネットで調査(4時間)				
12	太陽エネルギーの利用を考える	太陽から地球上に降り注ぐ太陽エネルギーの膨大さを考え、再生可能エネルギー、自然エネルギーの在り方をみんなで考える。アクティブラーニング方式とする。					事後：世界的に見た自然エネルギーの利用状況を調査する(4時間)				
13	原子力発電と原爆の違いを知る	原子力発電のメカニズムを知る。アインシュタインのE=mc ² の有名な式の意味を説明し、実際の発電様式について説明する。					事前：事前配布のプリントを読む(2時間) 事後：原子と原子核のサイズの違いを認識(2時間)				
14	原子力発電の利点と問題点を知る	温室効果ガスを出さないが、放射性廃棄物の処理について問題があること、地震やテロからどう護るかなど考えられる課題を取り上げる。					事前：配布している新聞記事を読む(2時間) 事後：家族・友人等と話し合う(2時間)				
15	日本のエネルギー政策を考える	これまでの学びを通じて得た知識を基に、日本のこれからのエネルギー政策の在り方についてグループディスカッションで深める。					事前：グループディスカッションの準備(2時間) 事後：試験に備えた学習(2時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
講義用プリントが配布されます。				定期試験：100% S:Aの中でも特に優秀な結果を出した者。 A:定期試験において80点以上。 B:定期試験において70点以上、80点未満。 C:定期試験において60点以上、70点未満。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「グリーン経済最前線」井田徹治・末吉竹二郎著(岩波新書) 「低炭素経済への道」諸富徹・浅岡美恵著(岩波新書)				講義をよく聞き、自分の見解も述べつつ、多くの学生と意見交換する中で、環境問題の本質を掴めるようにして欲しい。そのためにも、配布したプリント、新聞記事等に目を通し、自分なりの意見を纏めるように努力して下さい。							

科目名	地域環境と生態			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	UL33506	研究室	S-12
担当者	木藤 伸夫・丸山 文男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
△	○		△	△	△						
授業概要											
この講義の前半では、環境を構成する要素など環境問題を考えるうえで必要な基礎知識や、環境問題を取り扱う際の方法論などを解説します。後半では、地球上のあらゆる環境で生活している微生物に焦点を当て、微生物の種類や性質などの基礎的なことから、地球環境と微生物の関わり、微生物を利用した環境改善など応用的な面まで分かりやすく概説します。											
学修到達目標											
前半では、天気や気候の変化における大気と海洋の役割を理解し、人間の活動と地球環境の変化の関係を理解することが目的です。後半では、地球全体の物質循環とそれに関わる微生物によって地球環境が維持されていることを理解することが目的です。											
授業の進め方											
配布資料に基づいて講義形式で授業を行います。講義内容を理解するには物理学、化学、生物学、地学などの理系基礎科目の知識が必要です。毎回小テストを行い、授業の理解度を確認します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	太陽系の中の地球			地球大気の起源と進化について学びます。				配布資料を復習します。課題を課し提出を求める場合があります。(第1回～7回まで)(4時間)			
2	大気の大気構造			対流圏、成層圏とオゾン層、中間圏、熱圏について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
3	地球のエネルギー収支			地球のエネルギー収支を理解し温室効果について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
4	地球をめぐる大気の流れ			風の吹き方を理解し大気の大循環を学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
5	海水の循環			海水の流れを理解し海洋と気候について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
6	気候変動			エルニーニョ、異常気象について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
7	地球環境			都市気候、酸性雨、地球温暖化について学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
8	確認テスト			第1回～7回までの内容の理解度を筆記試験で確認します。				これまでに配布された資料などに基づき、講義内容を振り返っておきます(6時間)			
9	環境微生物の進化と環境形成			46億年前に誕生した地球の環境がどのように変化して現在の環境になったかを解説します。「地球と生命の共進化」ともよばれる、地球環境の変化と生物進化の密接な関係を理解することが目的です。				配布資料を復習します。(4時間)			
10	環境微生物が行う各種物質変換の実例			地球レベルでの物質循環を知るために、炭素循環と窒素循環を取り上げて解説します。物質循環には生物が関与しない無機的な循環と、生物が関与するものがあります。違いを明確に理解する事が目的です。				配布資料を復習します。(4時間)			
11	極限環境微生物			微生物は地球上の様々な環境に生息していますが、特に変わった環境(高温、強酸・強アルカリなど)で生きている微生物がいること、私達の日常生活でこれらの微生物がどのように利用されているかを学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
12	地球環境の激変と環境微生物のかかわり			近年問題になっている地球環境の変化、すなわち地球温暖化や、水質、大気、土壌などの環境汚染の原因物質は何か、汚染はどのようにして起こるのかを学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
13	微生物による有害物質除去・分解の原理			微生物を使った環境浄化の方法、特に排水処理法、悪臭処理法、重金属汚染や有機塩素化合物などの除去、分解法などを理解することが目的です。				配布資料を復習します。(4時間)			
14	バイオレメディエーション			微生物による環境浄化(バイオレメディエーション)について学習します。原油や界面活性剤の汚染除去への応用、土壌や地下水の汚染除が実際どのように行われているかを学びます。				配布資料を復習します。(4時間)			
15	食糧生産への微生物利用とバイオエネルギー			人工的な肥料の代わりに微生物を使った農法の有用性を学びます。また、化石資源の代替エネルギーとして注目されているバイオエネルギーについて、メリット、デメリットを学習します。				配布資料を復習します。(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
なし				定期試験：100% 地球環境を決める複数の要因をあげることができればC、それらが地球環境にどのような影響を与えるか説明できればB、地球における物質循環やエネルギー収支について説明できればA、現代起こっている様々な環境問題や環境保全、環境改善などについて、自分の考えを述べることであればS。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「地球環境46億年の大変動史」田近英一著(化学同人) ISBN: 978-4-7598-1324-1 他にも講義の内容に合わせて適当な参考図書を紹介いたします。				物理、化学、生物学、地学のどれか1科目でも良いので、高校で学んだ理系科目を復習しておいて下さい。							

科目名	ごみ処理と循環型社会			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	UL33507	研究室	非常勤
担当者	水橋 文雄			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
一番身近な環境問題がごみ問題です。快適なライフスタイルが、大量生産・大量消費・大量廃棄の悪循環の中で、ごみを増やし、地球を汚して来ました。地球のあらゆる資源は有限です。人々はその資源を惜しみなく使い、ごみとして捨てることで経済成長して来ました。今、まさに「成長の限界」（1972 ローマクラブ）が示すとおり社会になっています。そこで、松本市のごみ行政の取り組み状況を参考にして、将来に向かってこのごみ問題とどう向き合うべきかを考えます。											
学修到達目標											
各地で、廃棄物の中間・最終処分場が不足し、廃棄物の安全・安定な処理に支障をきたし、しかも、放射性廃棄物の処理も新たな大きな社会問題となっている中で、廃棄物問題に対する取組みと、その対策を考え、実践し、その成果を検証する能力（PDCAサイクル）を身につける。											
授業の進め方											
パワーポイントやDVD(BR)を利用して講義を進めます。資料はパワーポイントの主な内容をプリントして配ります。また、アウトキャンパスとして、「ごみ焼却場、最終処分場」の見学を予定します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ごみとは	廃棄物の処理及び清掃に関する法律で規定する「ごみ」について説明します。					法律で規定される「ごみ」について調査する。(4時間)				
2	ごみの分別について	ごみの分別（松本市を例に）の必要性と方法について説明します。					各自の出身自治体のごみの分別方法を調査する。(レポート1の提出)。(4時間)				
3	ごみの出し方について	ごみの出し方（ごみ袋・ごみステーション等松本市を例に）について説明します。					各自の出身自治体のごみの出し方を調査する。(4時間)				
4	ごみ処理施設について	一般廃棄物のごみ処理施設の種類と機能と問題点について説明します。					各自の出身自治体のごみ処理施設の種類と規模等について調査する。(4時間)				
5	施設見学(1)	松本市の一般廃棄物の最終処分場（エコトピア山田）を見学します。					見学後に最終処分施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間)				
6	施設見学(2)	松本市の一般廃棄物の中間処理施設（松本クリーンセンター）を見学します。					見学後に中間処理施設の設置の目的と現状を整理する。(4時間)				
7	ごみ処理施設整備の課題について	ごみ処理施設整備の問題と課題（松本市を例に）について説明します。					ごみ処理施設整備に対する住民感情について調査する。(レポート2の提出)(4時間)				
8	循環型社会の構築について(1)	持続可能な社会の主要な要素である、循環型社会を構築するために必要な制度について説明します。					持続可能な社会を構築するために何が必要とされるのかを調査する。(4時間)				
9	循環型社会の構築について(2)	ごみ減量（リデュース）施策（松本市を例に）について説明します。					各自の出身自治体のごみ減量施策を調査する。(4時間)				
10	循環型社会の構築について(3)	ごみにしないように物を繰り返し使用（リユース）する施策（松本市を例に）について説明します。					日頃から「もったいない」と感じていることを整理する。(レポート3の提出)(4時間)				
11	循環型社会の構築について(4)	ゴミを減らす為、資源として再生利用（リサイクル）する制度（松本市を例に）について説明します。					日本のリサイクル法について内容と問題点を調査する。(4時間)				
12	廃プラスチック問題について	廃プラスチックが、世界の環境（マイクロプラスチックによる海洋汚染問題等）に与える影響について説明します。					廃プラスチックの回収の必要性と方法について調査する。(4時間)				
13	放射性廃棄物について	放射性廃棄物の処理と保管・埋立の問題点について説明します。					放射性廃棄物の現状と今後の処分方法について調査する。(4時間)				
14	不法投棄問題等について	ごみの不法投棄と有害廃棄物の放置等の状況と対策（松本市を例に）について説明します。					各自の出身自治体における、不法投棄の状況及びその対策について調査する。(4時間)				
15	ごみ処理と循環型社会について（整理）	ごみ処理の問題点（最終処分場等の施設の整備等）と循環型社会の構築（主にリサイクル法の問題点）について整理します。					循環型社会を構築するためには、何をすべきかを整理する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
必要に応じて、パワーポイントを抜粋した資料を配布します。				受講態度：30% レポート：30% 定期試験：40% 受講態度は、講義毎に提出する受講票による講義への意見の内容を評価に加味します。レポートは3回以上の提出を予定します。提出期限を厳守して下さい。S評価は、成績評価の合計が100となり、レポート提出状況及び受講態度が優秀な場合です。A評価は、成績評価の合計が80以上の場合で、レポート提出状況及び受講態度が良好な場合です。B評価は、成績評価の合計が70以上80未満の場合で、C評価は、成績評価の合計が60以上70未満の場合です。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特にありません。				国は、循環型社会を構築するために、様々なリサイクル法を制定していますが、その多くを地方公共団体の事務としています。そこで、各地方公共団体の取り組みに関心を持つことがリサイクルを実施する上で大切です。							

科目名	環境社会学			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	UL33508	研究室	非常勤
担当者	江成 康明			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
人々が生きて行くうえで欠かせないのは周囲の環境です。一番身近な家族や仲間、そして自治体や日本、世界、宇宙と環境は広がっていきます。それらと関連しながら生活するには、世の中の動向を意識しなければなりません。今の社会に何が起きているのか、どう対応しなければならないのかを考え、自分を高めていくことが求められています。殺伐とした事件の増加やネット社会にまつわる犯罪などを例に社会学を学び、多層的に研究、発表するのが目的です。											
学修到達目標											
社会を営む時代背景やその国の環境などに自分がどう対応したらいいのかを学び、その中で自らの立ち位置を心がける。みんなが心地よく生活し、生きていくためには一人一人の思いやりや気配りが必要なことを知ることで、社会構成員の一人であることを自覚する。											
授業の進め方											
講義は毎回配布するプリントを基に教室でのディスカッションを中心に進めます。グループ討論やクロスロード(分岐点)のほか、レポートの提出をしてもらいます。更にはフィールドワークや学外専門家を招いての講演会、討論会なども行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	環境社会学とは何か?	環境といっても、「地域」だけを考えるのではなく、それを支える「人間」や「自然」にまで興味を持って対応する必要があります。授業全体の基本となる環境社会学を幅広い視点で学びます。					あなたが思い浮かべる環境社会学のイメージを事前に考えて下さい。(4時間)				
2	地域環境と民度の関係性	第一回授業で提出したレポートから様々な意見や提案をピックアップし、学生自身が社会の一員として環境社会学をどう捉えているかを探ります。そのうえで、人間としての役割を考えていきます。					新聞のコピーを読んで、事後に感想を書いてもらいます。(4時間)				
3	ネット社会で変化する社会	日本人は思いやりや気配りのある人種と言われています。しかし、ネット社会の到来で変化してきました。社会の動きに真剣に向き合わなければなりません。ネットで陥りやすい犯罪や危険性を学びます。					ネット関連の事件事故について、一番気になったものを考えてもらいます。(4時間)				
4	ネット社会の危険性についての研究	現状では、生活や仕事をするうえでネットは欠かせません。しかし、ネットを使った犯罪が増え、反面、人との直接対話が少なくなっています。過激派組織ISやネット犯罪の愚かさを研究します。					安易にネットを使ってないかを見直してもらいます。(4時間)				
5	それぞれ違う民度のあり方	グループに分かれ、クロスロード(分岐点)をそれぞれの班で討論します。それをもとに、全体でディスカッションします。					クロスロードでの自分の意見、考え方と人の意見の相違を改めて振り返ってください。(4時間)				
6	続クロスロード	社会は人それぞれの民度によって安全、安心な暮らしが保たれています。しかし、クロスロードで体験するように、考え方はまちまちです。幅広い民度の意識を持つために、前回に続き話し合いを継続します。					自分の考え方による民度が正しいのかどうかを推量してください。(4時間)				
7	学外専門家の特別講演	簡単で便利なネットには様々な落とし穴があります。著作権について詳しい学外専門家を招き、特別講演及び討論会を実施します。					事後に講演会の感想レポートを提出してもらいます。(4時間)				
8	(野外実習) 場所は未定	地域全体が民度の高い場所を訪ね、地域環境を守るためにどのような戦略が図られているかを体験します。					事後にレポートを書く。9回目に提出。(4時間)				
9	新聞に見る社会の動き	社会で起きている出来事を新聞コピーを読んで考えます。その中から、環境社会学のあり方を自分なりに理解し、さらにグループ討論して仲間の意見も聞いていきます。					授業でのコピー以外のテーマに沿って、レポート提出。(4時間)				
10	ネット社会を生き抜くための10か条づくり	ネットが欠かせない現実の中で、自ら犯罪に巻き込まれたり、他人に迷惑をかけるためにはどうしたらいいのかをグループで話し合い、10か条を作成します。					授業終了と同時に、当日の担当はグループ10か条を書いて提出。(4時間)				
11	各グループの10か条発表	前回作ったグループ10か条を班の代表が発表。それをもとに、受講生全体の10か条を作り上げますので、各グループによるプレゼンが大事になってきます。					全員で作った10か条を自分なりに実践する意識を高めてください。(4時間)				
12	10か条の絞り込み	各グループから出てきた10か条は相当数に上ります。その中から、受講生による10か条を選択していきます。創作する難しさや楽しさを実感できるはずです。					10か条は常に心掛けておく必要があります。人にも言えるほど反復して覚えて下さい。(4時間)				
13	学外専門家の特別講義	受講生が作ったネット社会と民度10か条について、専門家の意見を聴きます。					感想をレポートにまとめ提出。(4時間)				
14	続々 クロスロード	地域環境と民度を学んできて、自分の考え方は変わったか、人とかわりながら生きていく中で何をなすべきかななどをグループ討論します。					これまで学んできた民度をもう一度復習しておき、自分の意見としてまとめてください。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	講義全体を振り返って総括します。					社会の中で生きていくために必要なテーマを自分なりに見つけてください。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
毎回プリントまたは資料を配布する。				受講態度：20% 定期試験：50% 課題：30% S:授業内容の理解度、考察力、文章の読解力、書力が秀でている。A:積極的に授業に臨み、課題に対しても自分の意見をしっかり書ける。B:授業内容のおよそを理解し、課題に対しても自らの主張ができる。C:授業内容を60%ほど理解でき、与えられた課題にも誠実に取り組んでいる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
毎回プリントまたは資料を配布する。				講義ではグループ別に分けた学生の皆さんとのディスカッションを中心に進めますので積極的な参加を期待します。受講票には、名前だけでなくその日の感想や意見を必ず書いて下さい。							

科目名	キャリア入門 (人間・教育)		学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	UL14101	研究室	W-24
担当者	上野 隆幸		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
本授業ではキャリア教育の初歩的段階として、自らのキャリアを考える上で必要となる情報を提供し、併せてこれらの情報を基に「考えてもらう」ことを目的としています。具体的には「自らのキャリアを考える上での情報提供」「実際に自らのキャリアを考える」「就職活動の基礎事項の情報提供」の3点に焦点を絞って展開します。										
学修到達目標										
現在の若年者の就職・労働に関する知識を修得し、大学生の就職活動の流れを理解した上で、自らの「働くこと」への初期ビジョンを形成できること。										
授業の進め方										
毎回の講義で配布するプリントに沿って、パワーポイントによるスライドにより講義を進めます。なお講義では、毎回ミニレポートを作成してもらいます。										
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	導入 - キャリアとは何か、そしてなぜ重要か -	キャリアという言葉の説明を行うとともに、本講義で扱う内容等について説明します。				「キャリア」とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
2	企業における人事管理の基盤① - 企業の社員区分制度の概要 -	人事管理の基盤システムの一つである社員区分制度について解説します。				社員区分制度とは何か調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
3	企業における人事管理の基盤② - 社員区分制度の詳細と学歴との関係 -	社員区分制度が学歴別管理とリンクしている点について説明します。				学歴別の賃金カーブについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
4	フリーターとしての働き方① - フリーターのタイプと所得の問題 -	フリーターの現状やタイプを説明した後、フリーターと正社員の生涯所得について説明します。				フリーターのデメリットについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
5	フリーターとしての働き方② - 雇用・能力開発・年金の問題 -	フリーターと正社員の違いについて、雇用の安定や老後など、所得以外の面から比較し、説明します。				国民年金と厚生年金の違いについて調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
6	産業研究 - どのような産業・業種があるのか -	社会にはどのような産業(業界)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く産業を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
7	職種研究 - どのような職種・仕事があるのか -	社会にはどのような職種(仕事)があるのかを紹介します。				自らが興味を抱く職種を理由とともに5つ考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
8	転職のメリットとデメリット	転職した場合に有利になる点、不利になる点について解説します。				転職した場合に不利になる点について調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
9	ライフデザイン - 人生設計 -	人生の節目のイベントを経済的側面からみることで、生涯にどれだけのお金が必要かを解説します。				自らのライフデザインについて考えて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
10	働く上でのリスク	会社の倒産やリストラ、病気など、働く上でのリスクについて説明します。				企業の人員整理に関する事例を調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
11	大学生の就職活動① - 大学生の就職活動の流れ -	大学生の就職活動の大きな流れについて説明します。				就職活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
12	大学生の就職活動② - データでみる大学生の就職活動 -	大学生の就職活動について、就職支援企業の調査結果を基に、その概要を説明します。				企業の採用活動に関する新聞記事を探し、読んで下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
13	松本大学生の就職活動	松本大学生の就職活動をデータを用いて説明します。				就職活動の流れを調べて下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
14	先輩たちから学ぶ就職活動	就職活動を終えた先輩方の経験談を聞きます。				先輩方に対する質問を考えて下さい。講義後、先輩方の就活成功の秘訣を考えて下さい。(4時間)				
15	講義全体のまとめ	これまでの講義内容を簡単にレビューします。				これまでの講義での不明点を確認して下さい。プリントを復習して下さい。(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
プリントを配布します。			小テスト: 55% 出席レポート: 45% 小テストと出席レポートの合計点が100点の場合にS、80点以上の場合にA、70点以上の場合にB、60点以上の場合にC、59点以下の場合にDとなります。							
参考書			履修上の注意 (学生へのメッセージ)							
「キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編」大久保幸夫著 (日経文庫)			皆さんの将来の働き方や就職活動を考える上で、必ず役に立つ授業です。なお、授業は就職活動前の学生に対する内容のため、4年生の受講は可能な限り避けて下さい。							

科目名	キャリアデザイン I (教育)			学年学期	3年前期	単位数	1	ナンバリング	UL34102	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
この講義は、大学卒業後、社会の一員としてそれぞれのキャリアを積み上げていく際に土台となる基本的な考え方を学びます。ここで言うキャリアとは、単なる「経歴」や「仕事」ではなく、「自分らしい社会や仕事との関わり方」ということを意味しています。3年次後期には具体的な進路や就職先などを考えていきますので、その際に、自分なりの判断基準を持てるようになることが、この講義の最大の目的です。また毎回講義の一部では、就職活動の際、必須となる筆記試験(一般常識)の対策も行っていきます。											
学修到達目標											
社会と組織の仕組み、ならびに働くことの意味について理解している。社会人として求められる基礎力の高め方を理解している。自らの将来像を定め、それに向けた取り組みを計画・立案し、実行できる。											
授業の進め方											
教室での講義を主とします。「セルフワーク」「グループワーク」を組み合わせながら進めます。ワークでは主として「ケース学習」と「ふりかえり」を行い、その後、授業計画にあるテーマに基づき講義を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	今の自分を知る	本講義の流れ、学びの目的、成績評価等についてガイダンスします。					前期の課題「キャリア面談」の実施レポートを返却するののでしっかり見直す。(1時間)				
2	採用試験とは	採用試験の種類と必要な準備、事例紹介をします。					受験予定の県の教員採用試験情報等を調べておく。(1時間)				
3	社会人基礎力とは	PROG(ジェネリックスキルテスト)のフィードバックを行い、社会人基礎力についての理解を深めます。					フィードバックされたことを踏まえ、今後のキャリアプランを作成する。(1時間)				
4	採用に関わる社会情勢と就職活動サイト活用法	採用事情や社会情勢の解説、就職活動サイトの利用方法を説明します。					受講後、実際に就職活動サイトを閲覧し、事後は実際の役立つ情報をまとめる。(1時間)				
5	教員採用試験模試	「松大模試(一般教養)」に挑戦します。					事前に過去の長野県教員採用試験問題に取り組み、事後は復習する。(2時間)				
6	教員採用試験模試	「松大模試(専門教科)」に挑戦します。					事前に過去の長野県教員採用試験問題に取り組み、事後は復習する。(2時間)				
7	松大模試のフィードバック	松大模試の結果を返却し、問題の解説を聞き、対策を検討します。					返却された結果に基づき、得意分野と不得意分野をまとめ、今後の学修計画を立てる。(2時間)				
8	SPI試験対策(受験)	SPI試験を模擬体験します。					配布テキスト「SPI3必出問題完全攻略」に取り組む。(1時間)				
9	適性検査(受検)	適性検査を受検します。					採用試験について、予習・復習する。(1時間)				
10	自己分析	自分の性格や社会人基礎力の面から見た特徴を知り、自己理解を深めます。					本日の講義で学んだ知識を講義資料をもとに復習する。(1時間)				
11	SPI試験対策(解説)	模擬試験の結果返却と問題の解説および演習を行います。					受験時に配布された回答冊子を熟読する。(1時間)				
12	求められる教員像の理解①(教育委員会講演会)	教育委員会(指導主事等)から新卒教員に求める能力や、大学時代に身に付けてもらいたいことなどを講演いただきます。					講演の感想を自分の言葉で400字でまとめ提出する。(2時間)				
13	求められる教員像の理解②(教員経験者講演会)	教員経験者から新卒教員に求める能力や、大学時代に身に付けてもらいたいことなどを講演いただきます。					講演の感想を自分の言葉で400字でまとめ提出する。(2時間)				
14	求められる教員像の理解③(先輩講演会)	教員になるための学修の仕方や体験談を講演していただきます。					講演の感想を自分の言葉で400字でまとめ提出する。(2時間)				
15	求められる教員像の理解④(一般企業講演会)	一般企業や公務員としての求められる能力や、大学時代に身に付けてもらいたいことなどを講演いただきます。					講演の感想を自分の言葉で400字でまとめ提出する。(2時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
適宜資料を配付します。						受講態度:70% 課題:30% S:働くことの意味や社会人になるための基礎力を十分に理解し、積極的に課題に取り組むことができる。A:働くことの意味や社会人になるための基礎力を概ね理解し、積極的に課題に取り組むことができる。B:働くことの意味や社会人になるための基礎力を概ね理解し、与えられた課題に取り組むことができる。C:働くことの意味や社会人になるための基礎力を知り、与えられた課題に取り組むことができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						主体的に参加することを心がけてください。はじめは、このようなテーマについて考えることが難しく感じるかもしれませんが、考えてやってみることで自分が重要ですので、自分のペースで慣れていってください。					

科目名	キャリアデザインⅡ（教育）			学年学期	3年後期	単位数	1	ナンバリング	UL34103	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日3限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
この講義では大学卒業後に教員になることを中心に想定し、そのためのキャリア形成の手法を応用的に学びます。納得のできる進路を選択するには、自己理解を深めること、社会や職業に対する知識と自分なりの考えを持つこと、またそれらを分かりやすく他者に伝えるスキルを身に付けることなどが重要となります。これらの知識やスキルを身に付けるために、これまでの大学生活での経験を振り返り、自己のキャリア形成のための具体的な計画を立てます。											
学修到達目標											
自己のキャリア形成について向き合い、卒業後の進路選択や目標を実現するための計画を立て、実行に移すためのスキルを身につけている。また言語による自己表現、進路選択に伴う就職活動のための情報収集の仕方を修得している。											
授業の進め方											
教室での講義を主とします。「セルフワーク」や「解説」、さらに「社会人による講演」や「ロールプレイ」などを組み合わせながら講義を進めていきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	就職活動とキャリアデザイン	本講義の流れと個々の将来のキャリア形成への向き合い方、就職活動のスケジュールについて学びます。					キャリアデザインⅠで取り組んだ内容の再確認（1時間）				
2	一般教養を身につける①	教員採用試験の一般教養分野にも出題される一般教養について説明し、その修得を目指します。					過去の教員採用試験の一般教養問題を解く。（1時間）				
3	一般教養を身につける②	教員採用試験の一般教養分野にも出題される一般教養について説明し、その修得を目指します。					過去の教員採用試験の一般教養問題を解く。（1時間）				
4	専門教科を身につける①	教職における専門教科分野とは何かを理解し、その修得を目指します。					教員採用試験の専門教科問題を解く。（1時間）				
5	専門教科を身につける②	教職における専門教科分野とは何かを理解し、その修得を目指します。					教員採用試験の専門教科問題を解く。（1時間）				
6	面接の受け方①	教員採用試験を中心に想定し、個人面接、集団面接、集団討論、場面指導などについて理解をします。					面接の出題例を収集し、自分なりに回答できるように準備する。（1時間）				
7	面接の受け方②	教員採用試験を中心に想定し、個人面接、集団面接、集団討論、場面指導などについて理解をします。					面接の出題例を収集し、自分なりに回答できるように準備する。（1時間）				
8	小論文の書き方①	小論文の書き方を学び、これまでの出題例を知るとともに、実際に書いてみます。					例題をもとに小論文作成に取り組む（2時間）				
9	小論文の書き方②	小論文の書き方を学び、これまでの出題例を知るとともに、実際に書いてみます。					例題をもとに小論文作成に取り組む（2時間）				
10	求められる教員像の理解（教育委員会講演会）	教育現場について、求められる能力等を講演していただきます。					講演の感想を自分の言葉で400字でまとめ提出する。（2時間）				
11	履歴書・自己PRの書き方①	履歴書・自己PRの作成方法について講義します。これまでの講義で培った自己分析の結果を基に記入する内容を考えます。					授業を踏まえ、履歴書・自己PRの作成に取り組む（1時間）				
12	履歴書・自己PRの書き方②	履歴書・自己PRの作成方法について講義します。これまでの講義で培った自己分析の結果を基に記入する内容を考えます。					授業を踏まえ、履歴書・自己PRの作成に取り組む（1時間）				
13	社会人としてのマナー講座①	教職に限らず、一般的な挨拶、電話対応、資料作成等、どんな仕事にも求められるマナーや基本的な常識について学びます。					資料を熟読してくる。事後は自分のスキルチェックを行う。（1時間）				
14	社会人としてのマナー講座②	教職に限らず、一般的な挨拶、電話対応、資料作成等、どんな仕事にも求められるマナーや基本的な常識について学びます。					資料を熟読してくる。事後は自分のスキルチェックを行う。（1時間）				
15	教授模試のフィードバック・まとめ	教授模試の結果を返却し、問題の解説を聞き、対策を検討します。					返却された結果に基づき、当分野と不得意分野をまとめ、今後の学修計画を立てる。（1時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準						
適宜資料を配付します。					受講態度：70% 課題：30% S：目指す職業に就くためのスキルを積極的に磨き、十分な自己分析と社会人のマナーを身につけている。A：目指す職業に就くためのスキルを磨き、十分な自己分析と社会人のマナーを身につけている。B：目指す職業に就くためのスキルを理解し、自己分析を行いながら社会人のマナーを身につけている。C：目指す職業に就くためのスキルが分かり、社会人のマナーを身につけている。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
特になし。					社会に出るための準備をする講義です。主体的に取り組むことを心がけて下さい。またキャリアセンターが実施する就職合宿、就職対策講座などにも積極的に参加するようにして下さい。						

科目名	ワークインフォメーション（人間・教育）		学年学期	4年後期	単位数	2	ナンバリング	UL44104	研究室	非常勤
担当者	野村 尚		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△	△	△					
授業概要										
本講義では、これから「社会人として、そして労働者として働く」学生が、働く上での諸問題をきちんと克服し、より良い働き方を実現できるための授業です。大きく①働く上での中心的な法律の説明、②仕事と生活のバランスの取り方、③社会保険の説明、④働くことで問題が生じた際の解決方法、⑤方が一転職や失業した際の手続などを学びます。										
学修到達目標										
働くうえで知っておくべき法律の一般的知識について習得している。										
授業の進め方										
基本的には講義形式で進めますが、授業の内容によりグループワークの形態で行うこともあります。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	自己紹介、働く場面で生じるあらゆる問題を紹介し、労働法の基本的枠組みについて解説します。				話題となっている身近な法律問題を調べておく。（4時間）				
2	労働法の歴史	労働法の背景、歴史について学びます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
3	労働法総論	労働法の基本構造、労働法上の当事者、労働法の法源について学びます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
4	労働基本権	労働基本権の性格、内容について学びます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
5	労働関係の成立	募集、採用等労働関係の成立の際に発生する諸問題をとりあげます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
6	労使関係	労使関係の基本的枠組み、労働者、使用者と労働組合との集団的な関係を規律する法律について学びます。				労働基準法・労働組合法の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
7	雇用関係の展開	人事、職場規律と懲戒について学びます。				配付する就業規則等のサンプルを読む。授業後は振り返りをする。（4時間）				
8	雇用関係の終了	解雇、解雇以外の終了事由について学び、その際に発生する諸問題についてとりあげます。				配付する就業規則等のサンプルを読む。授業後は振り返りをする。（4時間）				
9	賃金	賃金の種類と体系、賃金の法規制について学びます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
10	労働時間	労働時間制度の基本的枠組み、特則について学びます。				労働基準法等の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
11	労働者の安全	労災補償制度の枠組み、内容について学びます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
12	労働組合	労働組合の組織と運営、その限界について学びます。				労働組合法の条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
13	団体行動権、不当労働行為の禁止	労働者の団体行動についてその概念や法的枠組みを学ぶとともに、不当労働行為の救済について学びます。				労働者の権利についての条文を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
14	雇用保険制度と失業給付	雇用保険制度の概要、失業給付の概要について学びます。				基本書の該当部分を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
15	労働紛争の解決	労働審判、訴訟等労使関係における紛争解決手段について学びます。				該当法令を事前に学習し、授業後は振り返りをする。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「労働法入門（有斐閣双書）」外尾健一著（有斐閣）（生協で購入してください。）				受講態度：50% レポート：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、授業では誠実に取り組み、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートを作成できている。A：授業内容を理解し、授業では誠実に取り組み、積極的な探求姿勢をもってレポート作成ができている。B：授業内容のおおよそを理解し、授業では誠実に取り組み、レポート作成ができている。C：授業の内容の60%程度を理解し、授業では誠実に取り組み、レポート作成ができている。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「労働法」水町勇一郎著（有斐閣）が参考書等として利用してもよい。				本格的なものなので、深く知りたい人が戦後労働者が権利を確立するまでの歴史を知り、それに基づき、正当な労働者の権利及び義務とは何かを知る手がかりとなれば幸いです。						

科目名	学校ボランティア活動			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	AA14105	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・大蔵 真由美・佐藤 茂太郎・内藤 千尋			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	木曜日3限、金曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	◎								
授業概要											
<p>教員に求められる資質を理解し、自らの教員としての適格性を把握する機会とし、大学で学ぶ理論と小学校現場での体験に基づく省察を繰り返すことで、教員としての実践的指導力の基礎の育成を目的としています。特に、小学生生活の1日を理解し、小学校教諭の職務、校務分掌、役割、児童への関わり方、同僚性などを実際の生活の中で観察したり、実際のボランティア活動を通して学んだりして、教員を目指す自分自身の願い・課題を明確にし、課題解決に向けて自分自身への理解を深めていきます。</p>											
学修到達目標											
<p>1 自己の教員としての適格性を把握するとともに、課題をはっきりさせその克服に向けた見通しを持っている。 2 教育活動での体験をもとに、学内での教職課程科目への理解を深めている。 3 自発的、積極的態度を身につけ、人間関係構築の仕方、社会人としての常識の基本を修得している。</p>											
授業の進め方											
<p>最初に本授業の意義やねらい、学校現場に入る上での諸注意を理解した上で、半年にわたるボランティア活動に参加して、その結果をレポートにまとめ提出してもらいます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス1			学校ボランティア活動の授業の意義とねらい、参加態度と心構え				シラバスの読み、実施校調査等(1時間)			
2	ガイダンス2			学校ボランティア活動への参加態度と心構え、お礼状の書き方				第1回授業の復習と自己の活動計画の作成(1時間)			
3	学校ボランティア活動への参加1			学校ボランティア活動への参加				学校ボランティア活動先についての理解(1時間)			
4	学校ボランティア活動への参加2			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
5	学校ボランティア活動への参加3			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
6	学校ボランティア活動への参加4			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
7	学校ボランティア活動への参加5			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
8	中間のまとめ			学校ボランティア活動の中間報告会				まとめのレポート作成(1時間)			
9	学校ボランティア活動への参加6			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
10	学校ボランティア活動への参加7			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
11	学校ボランティア活動への参加8			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
12	学校ボランティア活動への参加9			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
13	学校ボランティア活動への参加10			学校ボランティア活動への参加				自己の活動態度等についての省察(1時間)			
14	活動のまとめ1			学校ボランティア活動の報告会1				まとめのレポート作成(1時間)			
15	活動のまとめ2			学校ボランティア活動の報告会2				まとめのレポート作成(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
特になし。					<p>レポート:70% 学校ボランティア先の評価:30% S:到達目標達成のために探求心をもって課題に誠実に意欲的に取り組み、正しく文章で表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、活動内容と課題を文章で表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の活動で学んだことの振り返りをし、文章で表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の活動で学んだことを表現できる。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
必要に応じて提示します。					<p>本授業は、松本市内外の小学校へのボランティア活動を主要な内容とするため、活動を行う際の諸注意を遵守し、社会人としての常識を守って下さい。</p>						

科目名	教職論(初等)			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	AA15001	研究室	A-13
担当者	今泉 博			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
		◎	◎								
授業概要											
学校現場には「いじめ」「暴力」「不登校」をはじめ、授業が成立しないなど、解決が求められる課題が山積しています。しかし教師の対応によっては、学級の状況が大きく変わります。現場での具体的な事例をもとに、問題の分析や対応の仕方、解決法について、学生自身が探っていくように、授業に対話・討論を取り入れ深めていきます。1年の前期の段階で、教育実践や教師の仕事イメージができるようになることは、教師をめざす学生には不可欠です。											
学修到達目標											
(1) 学校現場で教師が抱える困難と解決が求められている課題を理解している。(2) 「いじめ」「不登校」などの実態と対応の基本的視点を理解している。(3) 実践例をもとに、子どもたちが生き生きと学べる授業づくりの基本を修得している。(4) 災害や学校での事故から子どもを守る教育の重要性を理解している。(5) 教師の仕事には研究・研修や豊富な体験が不可欠であることを理解している。											
授業の進め方											
間違い失敗をだいにしながら、自分の考えを自由に表現し合えるような授業を共に目指します。授業は講義やグループ討論、アクティブラーニングなどを適宜取り入れながら進めていきます。考えること、発言すること、書くことをだいにしていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業で学ぶことは何か、だいにしていきたいことは何かを最初に話します。毎回の授業の流れについて、イメージできるようにします。					ガイダンスで感じたこと及びこの授業で学んでいく自分の決意を文章にまとめる。(4h)				
2	教職の意義及び教員の役割①	学級担任の役割。教師の対応・指導によって、学級は大きく変わっていきます。どうすれば子どもたちが生き生きと生活・学習できるようになるか、これまでの学校体験をもとに探ります。					学級づくりで大事にすべきことは何かを、自分の学校体験をもとに文章にまとめる。(4h)				
3	教職の意義及び教員の役割②	「いじめ」「暴力」への対応。依然として「いじめ」や「暴力」による自殺など、深刻な事態が続いています。あらためて「いじめ」とは何かを知り、その発見や対応について学びます。					自分の学校体験をもとに、「いじめ」についてあらためて考え、文章にまとめます。(4h)				
4	教員の職務(研修と服務)	不登校問題。不登校の子はここ数年、十数万人という状況が続いています。現代の学校のあり方が問われているとも言えます。どの子どもも安心して学び生活できるようにするには、どんなことがだいじかを学びます。					不登校児に担任教師は自分たちはどのように対応していたかを振り返り文章にまとめる。(4h)				
5	教員の職務内容①	教師が困難な壁に直面したとき(学級崩壊・いじめ)。「いじめ」・暴力があり、授業が成立しない6年生の学級が、一定の取り組みで大きく変わっていきます。何をだいに、どう対応したかを学びます。					自らの学校体験を振り返り、学級が荒れたりしたときに、教師はどう対応されたかを書きます。(4h)				
6	教員の職務内容②	教師が困難な壁に直面したとき(子どもと教師の関係)。子どもとの関係もうまくいかず、精神的にも困難に直面した教師が、どんなことを考え、どう対応することで教師を続けることができたかを学びます。					授業で扱った事例を参考にしながら、教師が直面する困難について考え、文章にまとめる。(4h)				
7	教員の役割①	子どもたちと共に授業を創る①(国語の授業:漢字)漢字を単なる練習・習熟の対象にするのではなく、成り立ちなどを豊かに学習することで、子どもたちは意欲的に学習に参加するようになります。					自分が受けてきた漢字学習がどうであったかを振り返り、感じたことを文章にまとめる。(4h)				
8	教員の役割②	子どもたちと共に授業を創る②(算数の授業:広さ)。子どもたちは対立・討論しながら学習の課題に迫っていきます。そしてついに課題を解き明かしていきます。子どもたちが「意欲的になるとき」を考えます。					自分の体験から教師がどういう対応したとき、子どもは意欲的になるかを考え文章にまとめる。(4h)				
9	教員の役割③	子どもたちと共に授業を創る③(社会科の授業:歴史)。歴史は暗記する教科ではありません。いくつかの事実をもとに想像し考える学習です。学習における推理・想像の重要性を学びます。					自分が受けてきた歴史の授業はどうであったのか、あらためて振り返り、文章にまとめる。(4h)				
10	教員の役割④	子どもたちと共に授業を創る④(理科の授業:てこ)科学的な認識は、生活と結びついたときに、確かなものになります。そのためには教材が重要です。学習における教材の重要性を学びます。					印象に残っている理科の授業から、知的好奇心が生まれる条件について考え文章にまとめる。(4h)				
11	教員の役割⑤	子どもたちと共に授業を創る⑤(道徳の授業:人権)。モラルや確かな人権感覚を育てていくことは、教育の重要な課題です。そのような教育のためには、何をだいにしていくかを考えていきます。					自分が受けてきた道徳の授業で感じたことを文章にまとめる。(4h)				
12	教員の役割⑥	学校・学級の行事を創る。学校では、一年間さまざまな行事が行われます。その中からいくつか取り上げ、協力し合いながら行事を創る教育的な意義を学びます。					これまでの学校生活で、強く印象に残っている行事について書く。(4h)				
13	教員の役割⑦	子どものいのちを守る教育。津波によってほとんどの子どもたちの命が失われてしまった学校がありました。対応を間違えれば、重大な事態になってしまうことを学びます。					資料を読んで感じたことを文章にまとめる。(4h)				
14	保護者と共に	保護者と信頼・共感をし合える学級づくり。どのようなことをだいに取り組んだら、保護者との信頼関係が築かれていくかを考えます。					自分が教師だったら、どういうことをだいにして保護者との信頼関係を作っていくかを書く。(4h)				
15	教員の職務内容(研修と身分保障等)	教師の学び・研究、教師という仕事の魅力。教師がどれだけ深く学び・研究しているかで、教育実践の内容・質が決まると言っても過言ではありません。子どもが生き生きと生活する姿が、教師の生き甲斐です。					教師になっていく上で、これからどんなことを深く学ぶ必要があるかを文章にまとめる。(4h)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「教職論」岩田康之、高野和子 編(学文社) ISBN:978-4-7620-1652-3(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)						レポート:30% 課題:35% 定期試験:35% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力と探究的姿勢で課題に取り組む。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢で課題に取り組む。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組む。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組む。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
その他は必要に応じて適宜紹介する						授業を通して皆さんの教師になりたいという思いが強くなることを期待しています。一回一回の授業をお互いに大事にして大いに学び合しましょう。あなたの一ひと言が学びを豊かにします。皆さんとの授業が今から楽しみです。					

科目名	教育基礎論（初等）			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	AA15002	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美・山崎 保寿			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
		◎	◎								
授業概要											
<p>高度に発達し複雑化した現代社会において、全ての人の成長に関わる教育という営みについて、その理念や意義、その背景となる思想や歴史を考え理解することは、教職に関する基礎的な資質を養う上で必要不可欠です。さらに、教育の原理として、教育の機会均等を理念とする学校が果たす役割について考察するとともに、教育に関する基礎的問題を取り上げ、その背景にある要因を理解することによって、現代の教育問題に対する分析視角を身につけることを目的とします。</p>											
学修到達目標											
<p>1)教育の原理として、現代社会における教育の理念と意義を理解し、説明できる。2)教育が目指す理念と学校が果たす役割について関係的に理解し、説明できる。3)教育の基礎的問題を取り上げ、背景にある要因を理解し、その一つについて説明できる。4)人間の特質と人間の発達要件としての環境の重要性について説明できる。5)代表的な教育思想について理解し、説明できる。</p>											
授業の進め方											
講義形式を主として進めます。グループ方式の探求活動を適宜取り入れます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			授業内容や進め方の説明などについて説明します。（大蔵）				シラバスを読み、授業全体のイメージをつかむ(4時間)。			
2	教育の理念			現代社会の特徴と人の成長及び教育の理念について説明します。（山崎）				新聞記事のスクラップブック作成(4時間)。			
3	教育の意義			現代社会における教育の重要性とその意義について説明します。（山崎）				卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
4	教育と学校			教育の機会均等の理念と学校が果たす役割について説明します。（山崎）				卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
5	学校の目的			法的に見た学校の種類とその基礎的な目的について説明します。（山崎）				卒業小中学校の学校要覧(or HP)を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
6	教育の使命			教育のあり方及び教職の使命とその重要性について説明します。（山崎）				長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
7	教育の原理			教育の問題に関する背景の要因とその原理について説明します。（山崎）				長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
8	教育の将来			教育に関する動向変化と今後に向けた展望について説明します。（山崎）				長野県に関する教育史調査を確認する。新聞記事のスクラップブック作成。(4時間)			
9	人間の本質1			人間の新生児の特質について説明します。（大蔵）				第8回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
10	人間の本質2			発達の要件としての環境について説明します。（大蔵）				前時の復習、第8回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
11	教育の思想1			子ども観、発達観、教育観の変遷について説明します。（大蔵）				前時の復習、第10回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
12	教育の思想2			子どもの権利、子どもの最善の利益について説明します。（大蔵）				前時の復習、第10回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
13	教育の歴史1			近代公教育制度の成立について説明します。（大蔵）				前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
14	教育の歴史2			近代公教育制度の発展について説明します。（大蔵）				前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
15	教育の歴史3			近代以降における学校教育の役割について説明します。（大蔵）				前時の復習、第12回授業で配布された資料の該当箇所の読み(4時間)。			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「学校教育の基礎知識（全訂版）」小島弘道編（協同出版） ISBN:978-4319002719（生協で購入してください。）				<p>受講態度：30% レポート：35% 課題：35%</p> <p>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しながら論理的に自分の考え、意見を述べるができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。</p>							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
<p>「小学校学習指導要領」文部科学省著（東京書籍） 「解説 教育六法」解説教育六法編修委員会編（三省堂） 「教育小六法」市川須美子他編（学陽書房）</p>				<p>学校教育に関する基本的事柄を学ぶ授業ですので、積極的な授業参加を期待しています。受験予定教育委員会、長野県教育委員会、信濃教育会、松本市教育委員会等の資料を自ら探して読み込んで下さい。</p>							

科目名	教育史(初等)			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA35003	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
		◎	◎								
授業概要											
近世から昭和戦後期にいたる日本における教育の展開を概観し、日本の教育の発展に関する歴史的知見を得るとともに、歴史的視点から現在の学校や社会が直面しているさまざまな教育問題を読み解く力の基礎を身につけることを目的とします。											
学修到達目標											
(1)近世の教育について事例をあげて説明できる。(2)小学校の成立とその普及について理解している。(3)学校教育と家庭、学校教育と社会の関係について理解し、説明できる。(4)大正期の自由教育の思想及び実践について理解している。(5)第二次世界大戦後の教育制度の成立とその変遷、思想について理解している。											
授業の進め方											
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方について説明します。					シラバスの読み及び教育史に関して興味を持ってそうなテーマを見つける(4時間)。				
2	近世の教育1	武家の教育について説明します。					第1回授業で配布した資料①の読み、授業時に指示された内容を行う(4時間)。				
3	近世の教育2	庶民の教育について説明します。					前時の復習、第2回授業で配布した資料②の読み(4時間)。				
4	近代の教育1	近代学校教育制度の成立について説明します。					前時の復習、第3回授業で配布した資料③・④の読み(4時間)。				
5	近代の教育2	小学校の成立と普及及び家庭教育の誕生について説明します。					前時の復習、第4回授業で配布した資料⑤・⑥の読み(4時間)。				
6	近代の教育3	教育制度成立期の学校教育と家庭との関係について説明します。					前時の復習、第5回授業で配布した資料⑦の読み(4時間)。				
7	ここまでの授業のまとめ	第6回までの授業内容を振り返り総括します。					第6回までの授業内容を復習する(4時間)。				
8	近代の教育4	大正期の自由教育の思想1:活動、経験について説明します。					第7回授業で配布した資料⑧の該当箇所の読み、授業時に指示された内容を行う(4時間)。				
9	近代の教育5	大正期の自由教育の思想2:学校教育と社会について説明します。					前時の復習、第7回授業で配布した資料⑧の該当箇所の読み(4時間)。				
10	近代の教育6	大正期の自由教育の実践について説明します。					前時の復習、第7回授業で配布した資料⑧の該当箇所の読み(4時間)。				
11	近代の教育7	教授法の変遷について説明します。					前時の復習、第10回授業で配布した資料⑨の読み(4時間)。				
12	昭和期の教育1	昭和戦時下の教育について説明します。					前時の復習、第11回授業で配布した資料⑩の該当箇所の読み(4時間)。				
13	昭和期の教育2	昭和戦後期の学校教育制度の成立と変遷について説明します。					前時の復習、第11回授業で配布した資料⑩の該当箇所の読み(4時間)。				
14	昭和期の教育3	昭和戦後期の学校教育制度を支えた思想について説明します。					前時の復習、第13回授業で配布した資料⑪の読み(4時間)。				
15	まとめ	第8回から第14回の授業を振り返り、総括します。また、授業全体のまとめを行います。					ここまでの授業内容を復習する(4時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
使用しません。必要な資料を適宜配布します。						受講態度:30% レポート:35% 定期試験:35% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度を高める為に書く授業内小レポートやワーク)、定期試験を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「資料で考える 子ども・学校・教育」遠藤孝夫、朝倉充彦他著(学術図書出版社)その他は適宜紹介します。						昔の人々は何に悩み、次世代を育てるための教育という営みをつくり上げたのでしょうか。時代を越えた身近な営みとして教育について考える機会として下さい。					

科目名	教育心理学 (初等)			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25004	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格	小一種			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	◎								
授業概要 教育心理学は教育についての科学的な研究をする学問です。教育心理学を構成する四領域「発達」「教授・学習」「人格・社会」「測定・評価」のうち「測定・評価」に重点を置いた授業をします。「発達」に関する領域も含まれます。具体的には、教育の効果について証拠を求める考え方を『中学生の数学嫌いは本当なのかー証拠に基づく教育のススメ』の各章を題材にして学びます。											
学修到達目標 1) 証拠に基づく教育(Evidence-based Education)についてその理論的意義を理解している。 2) 学校教育に用いられる種々の測定評価方法について理解している。 3) 学校教育におけるディベートの効用について実体験を通して理解している。											
授業の進め方 全部で15回の授業のうち6回を講義、6回をディベートに充てます。講義は英語で行ないます。講義を聞くだけでなく、教科書や課題図書を読み、読後レポートを書き、ディベートで聞き、話すことで、言語の4つの機能をフル活用する授業となるようにします。											
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のやり方についてオリエンテーションします。					授業シラバスをよく読んでおく。事後は『ザ・ディベート』を読む。(4時間)				
2	文章の書き方	「3論点意見文章法」による意見文の書き方について実習します。					『ザ・ディベート』を読んでおく。事後は課題図書読後レポートを書く。(4時間)				
3	ディベートの是非についてのディベート	『ザ・ディベート』読後レポートを提出します。ディベートの是非についてディベートをします。時間の錯誤について学びます。					『ザ・ディベート』読後レポートを書く。(4時間)				
4	測定と誤差	平均と標準偏差について実習を通して学びます。					『統計学』第2章を読んでおく。事後は課題を行う。(4時間)				
5	標準偏差についてディベート	標準偏差についてディベートをします。相関関係と因果関係について学びます。					『統計学』第2章を復習する。(4時間)				
6	正規分布と確率	統計的検定の考え方を学ぶため、サイコロを使って超能力の検定をします。					『統計学』第3章を読む。『統計学』読後レポートを書く。(4時間)				
7	統計学ディベート	『統計学』読後レポートを提出します。教師が統計学を学ぶことの是非についてディベートをします。					『統計学』読後レポートを書く。(4時間)				
8	中間テスト	前半部分の授業内容について試験とその解説をします。					授業の前半部分について各自復習しておく。(4時間)				
9	テストの作成	「松本大学検定」のためのテスト作成を実習します。					教科書の第4章第5章を読む。(4時間)				
10	中学校受験の是非	『下剋上受験』読後レポートを提出します。中学校受験の是非についてディベートをします。					『下剋上受験』読後レポートを書く。(4時間)				
11	教育目標の分類学	教育目標の分類と教育評価について実習します。					ブルームの教育目標の分類学について自習しておく。(4時間)				
12	教育実験の是非ディベート	『中学生の数学嫌いは本当なのか』の読後レポートを提出します。教育実験の是非についてディベートをします。					『中学生の数学嫌いは本当なのか』の読後レポートを書く。(4時間)				
13	ほめ方叱り方	ほめ方叱り方の効果とその誤謬について実習で学びます。					教科書全体をよく読んでおく。(4時間)				
14	英語授業の是非	大学の授業を英語で行なうことの是非についてディベートをします。					『日本語が亡びるとき』の第七章を読んでおく。(4時間)				
15	まとめ	証基教育についてのまとめをします。					この授業で学んだことについて全般的な復習しておく。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「中学生の数学嫌いは本当なのかー証拠に基づく教育のススメ」内田昭利・守一雄著 (北大路書房) ISBN:978-4762830150 (授業内で販売します。) 「ザ・ディベート」茂木秀昭著 (筑摩書房) ISBN:978-4480058928 (生協で購入してください。) 課題図書 「まんがと図解でわかる統計学」向後千春著 (宝島社文庫) ISBN:978-4800225009 (生協で購入してください。) 課題図書 「下剋上受験[文庫版]」桜井信一著 (産経新聞出版) ISBN:978-481911297 (生協で購入してください。) 課題図書 他1冊指定します。要掲示確認。						定期試験：100% S：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B：課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C：課題すべてを基準レベルで達成した。					
参考書						履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
「『学力』の経済学」中室牧子著 (ディスカバー21) 「データ分析の力」伊藤公一朗著 (光文社新書) さらに勉強したい人のための参考図書です。						教育学部で唯一の英語で学ぶ教職科目です。おそらく唯一のディベートを学ぶ授業です。そして、唯一の科学的教育を学ぶ授業です。					

科目名	発達心理学 (初等)			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA35005	研究室	A-18
担当者	川島 一夫			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限、木曜日4限、木曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度 (読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
授業のねらいは発達心理学の研究を学習すると同時にレポートの提出とその討論によって進めて行きます。この授業の内容は1)講義で知識を身につける。2)本を読み、レポートを書くことで自分の考えをはっきりさせる。3)他の人と話をすることで、いろいろな意見があることを知ります。2回目と5回目の授業は教育心理学の内容を含みます。											
学修到達目標											
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 (障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) についての知識を身につけ、さらにより実践に対応できる理解を深めることができる。各授業時間では、小項目についての小テストおよび課題としての図書を読み感想レポートを書き、討論を行うことで、児童・生徒の理解を深めることができる。											
授業の進め方											
この授業は、「講義形式」および「討論形式」で授業を行う。講義とある時間は、ビデオ・パワーポイントによる講義を行い各章の終了後「小テスト」を行う。討論ではまた、質問の回答は松大かわタイプログで答えます。											
授業計画 (各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、教育相談を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。					本授業への期待と、発達心理学について学びたいことをレポートする (4時間)				
2	生命誕生の不思議を探る (発達とライフスパン心理学)	発達を考えると、出生することから始まると考えがちです。しかし、人間としての生命は受精によって、すでに始まっているのです。胎児は母親の胎内で刻々と環境の影響を受け成長を続けることを理解する。					テキストの該当ページを読み、わからないことは自ら調べ質問の回答を考えておくこと (4時間)				
3	子どもの目に映るもの (知覚の発達)	言語等を使用して測定しにくい乳児の知覚について測定方法を基本として、その結果を学びます。また、知覚の発達が、量的な変化だけでなく、質的な変化を伴うことを学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
4	動物としての人 (身体発達と比較心理学)	人は、乳児の初期において、他の動物と同様に反射を基本とした行動を示す。また、動物としての乳児は生まれた時から反射として多くの種類の行動を持っていることを学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
5	討論と質問の回答 世界一の子どもの教育 (教育心理学)	課題図書①を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。					討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる (4時間)				
6	ピアジェの発達段階① 感覚運動期と前操作期	ピアジェは、人間の認識の起源を系統発生と個体発生の両面から発生的認識論で、同化と調節という概念をもちいて、子どもの認識の発達を4つの段階にわけた。等を学びます					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
7	ピアジェの発達段階② 具体的操作期と形式的操作期	ピアジェの発達段階の考え方には、発達の順序性、普遍性、どの領域においても同じような質的な変化がおこるといった領域性が反映されていることを学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
8	感情とはなんだろう (感情の発達)	感情がどのような現象をさすのか明らかにしてゆく。その中で、一般的に「感情」には、悲しい、うれしい、幸せ、楽しい、思いやりの気もちなど、様々な心の働きがあることを学びます。					テキストの該当部分を読み、わからないことは自ら調べ、回答を考えておくこと (4時間)				
9	討論と質問の回答 (子どもの才能は3歳、7歳、10歳)	課題図書②を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。					討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる (4時間)				
10	ことばが意味をもつ (言語と認知発達)	胎児の段階から声の顔律を聞きながら育っている子どもは、生まれた時から母国語を話す方向で注意を向けている。その結果、子どもは母国語を獲得するのに有利な状況にあることを学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
11	親と子のつながり (家族関係の発達)	乳児は、3ヵ月を過ぎると、次第に、母親との愛着を基本とした人間関係を学ぶことを理解します。また、その基本は2次的動因によるものでなく、身体的接触による愛着に基づくことを学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
12	頭が良いってどういうこと? (教育心理学)	知能とは、推論し、計画を立て、問題を解決し、抽象的に考え、複雑な考えを理解するだけでなく、経験から学習するための能力を含む知的能力であることを学びます。知能テストについても学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
13	討論と質問の回答 発達障害とことばの相談	課題図書③を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。					討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる (4時間)				
14	子どもの発達における障害について	発達の中で、認知、社会性、注意力、学習能力、言語能力、運動機能様々な特定領域に遅れと凸凹のある状態を発達障害という。知的障害 (精神遅滞)、自閉症、欠陥多動性障害、学習障害などについて学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
15	欲求と意欲の発達 (動機づけと達成動機の発達)	生涯発達における自己概念の領域とコンピテンスについて学習します。肯定的な自己評価からくる感情であるコンピテンスは、自己価値 (自尊心) などの側面は年齢とともに低下する傾向にあることを学びます。					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる (4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「図で理解する 発達—新しい発達心理学への招待」川島一夫、渡辺弥生編 (福村出版) ISBN:978-4571230493 (生協で購入してください。)						レポート:70% 小テスト:30%					
「世界一の子どもの教育モンテッソーリ」永江誠司著 (著講談社+α新書) ISBN:978-4062726412 (生協で購入してください。)						S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆ど小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。					
「子どもの才能は3歳、7歳、10歳で決まる!—脳を鍛える10の方法」林成之著 (幻冬舎新書) ISBN:978-4-344-98199-7 (生協で購入してください。)											
「発達障害とことばの相談 子どもの育ちを支える言語聴覚士のアプローチ」中川信子 著 (小学館 101新書)											
参考書						履修上の注意 (学生へのメッセージ)					
参考書は授業時に別途指示します。						本を読んだレポートと討論があります。 【重要】尚、締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。					

科目名	教育制度論（初等）			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA35006	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
△		○	◎								
授業概要											
現在の学校教育は、社会的諸条件の影響を受けながら、公法的秩序のもとで行われています。そのため、教師を目指す私たちは、教育的諸活動の諸々の側面に関心を寄せ、学校教育を成り立たせている諸条件、組織関係等に関心を払い、それらを検討、見直していくことが必要なのです。本授業では、現在の学校教育を支える基本的事柄を取り上げ、現在の学校教育を理解することを目的としています。さらに、それらを検討、見直すための視点を得ることをも目的としています。											
学修到達目標											
教育の制度、それを支える法令・行政、経営の基礎を理解し、①現代の公教育を支えている基本原理を理解し説明できる。②学校制度に関わる今日的課題及び動向を理解し、その一つについて説明できる。③教育制度を支えている法制、教育行政の基本を理解し、文部科学省及び教育委員会の役割について説明できる。④教育経営の基本を理解し、身近な学校の教育経営の特徴について説明できる。											
授業の進め方											
講義形式を主として進め、適宜、グループワーク等を行います。必要に応じて資料を配布しますが、資料は授業内容の理解を助け、更に発展的内容を示していますので、該当する授業前に必ず読み、持参して授業に臨んで下さい。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			授業内容や進め方などを説明します。				シラバスの読み、および新聞に目を通し教育制度に関する時事問題を1つ以上集めておく（4時間）			
2	教育行政の基本原則（1）			教育と国民主権及び法律主義の関係について解説します。				第1回授業で配布された資料①の読み（4時間）			
3	教育行政の基本原則（2）			教育行政の一般行政からの独立について、その考え方と背景について解説します。				第2回授業で配布された資料②の読み（4時間）			
4	教育行政の基本原則（3）			教育における地方分権と地方自治について、その考え方と背景について解説します。				第3回授業で配布された資料③の読み（4時間）			
5	教育行政の基本原則（4）			教育の一定水準の確保と指導助言について、その考え方と背景について解説します。				第4回授業で配布された資料④の読み（4時間）			
6	教育行政の基本原則（5）			教育の中立性について、その考え方と背景について解説します。				第5回授業で配布された資料⑤の読み（4時間）			
7	中央教育行政の仕組みと役割			文部科学省の組織とその役割について解説します。				第6回授業で配布された資料⑥の読み（4時間）			
8	地方教育行政の仕組みと役割			教育委員会の組織とその役割について解説します。				第7回授業で配布された資料⑦の読み（4時間）			
9	教員人事行政（1）			教員の養成・採用・研修の考え方とその運用について解説します。				第8回授業で配布された資料⑧の読み（4時間）			
10	教員人事行政（2）			教員の服務・監督、懲戒処分と分限処分の考え方とその運用について解説します。				第9回授業で配布された資料⑨の読み（4時間）			
11	学校経営			学校と教育行政とのかかわり、校務分掌などについて解説します。				第10回授業で配布された資料⑩の読み。母校や実習先のHP、学校要覧等で学校組織を確認（4時間）			
12	学校事故			子どもをめぐる物的事故や人的事故の代表例と事前・事後対応について解説します。				第11回授業で配布された資料⑪の読み。（4時間）			
13	教育振興基本計画と総合教育計画			国・都道府県・市町村の教育振興基本計画と総合教育計画について、具体例をみながら解説します。				第12回授業で配布された資料⑫の読み。都道府県・市町村の教育計画を調べてくる。（4時間）			
14	諸外国の教育行政改革			欧米やアジアの教育行政や学校経営の改革動向を解説します。				第13回授業で配布された資料⑬の読み。（4時間）			
15	まとめ			今日の教育行政と学校経営の改革動向を説明するとともに、講義全体のまとめを行いません。				前時までに配布の資料①から⑭までの読み。（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準						
テキストは使用しません。必要な資料を適宜配布します。必ず保管しておいてください。					レポート：40% 定期試験：60% 出席レポートとは毎回の授業後の感想・質問カード、レポートとは授業内容の理解度を高めるため課題レポート、課題とは期末課題、をそれぞれ指します。 S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的に自分の考えを述べることができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「教育六法 平成30年度版」編修委員会編（三省堂または学陽書房）授業時に適宜紹介します。					教育の社会的価値、組織運営について学ぶ内容です。授業づくりや子ども指導とはかなり異質面をもちますが、教育とは何か、公教育と私教育の線引きを理解するうえで非常に重要な内容です。予習復習を怠らないようにしましょう。						

科目名	学校経営（初等）			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA35007	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	小一種				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
△		○	◎								
授業概要											
今日は、明治初期、第二次大戦直後に続く第三の学制改革期にあると言われ、教育の理念を定めた教育基本法、学校の目的や組織について定めた学校教育法、教職員の種類や職務について定めた教育職員免許法などが、この十年で大きく改正されました。特に、学校教育法は複数回改正され、教育職員免許法の次の大改正は来年とも言われています。こうした諸法と学校制度の関係を中心に、制度原理の変更、学校組織と運営の再編、教職員組織と人事の改革、開かれた学校づくり、世界の学校制度の改革との関連などを概説します。											
学修到達目標											
学校の組織運営について理解している。具体的には、①近代において社会的また文化的産物として誕生したこと、②「子ども」の発見は「おとな」の発見でもあったこと、③学校の組織と運営の多様な当事者とフィールドがあること、④日本の学校経営を世界の中においた時の特徴及び今日的な学校経営の課題を、理解している。											
授業の進め方											
講義を手がかりにして、学生諸君が母校や地元の学校、教育実習先として予定している学校を対象として、学校の組織と運営、学校づくりの特色などを調べ、それをもとにグループワークを行うこと（アクティブラーニング）も予定しています。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			教育の三つの場・・・家庭、地域、学校について解説します。				シラバスの事前確認。第1回授業で配布された資料①の確認。（4時間）			
2	公と私の教育			公教育としての「学校」と私教育としての「学校」について解説します。				第1回授業で配布された資料①の読み。第2回授業では配布された資料②の確認。（4時間）			
3	学び舎			「子ども」の発見と成長発達の保障の場について解説します。				第2回授業で配布された資料②の読み。第3回授業で配布された資料③の確認。（4時間）			
4	様々の学習施設			「おとな」の学び舎と「子ども」の学び舎について解説します。				第3回授業で配布された資料③の読み。第4回授業で配布された資料④の確認。（4時間）			
5	学校の段階			幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・特別支援学校について解説します。				第4回授業で配布された資料④の読み。第5回授業で配布された資料⑤の確認。（4時間）			
6	学校の種類			国・公・私立学校、全日制学校・定時制学校・通信制学校について解説します。				第5回授業で配布された資料⑤の読み。第6回授業で配布された資料⑥の確認。（4時間）			
7	就学学校			通学区域と学校選択について解説します。				第6回授業で配布された資料⑥の読み。第7回授業で配布された資料⑦の確認。（4時間）			
8	学校の組織と運営（1）			校内：教職員のいろいろ、校務分掌、チーム学校について解説します。				第7回授業で配布された資料⑦の読み。第8回授業で配布された資料⑧の確認。（4時間）			
9	学校の組織と運営（2）			校外：教育委員会との関係、教職員の人事について解説します。				第8回授業で配布された資料⑧の読み。第9回授業で配布された資料⑨の確認。（4時間）			
10	地域にねざす学校（1）			PTA、学校評議員、学校運営協議会、学校支援地域本部について解説します。				第9回授業で配布された資料⑨の読み。第10回授業で配布された資料⑩の確認。（4時間）			
11	地域にねざす学校（2）			三者協議会、四者会議、地域フォーラムについて解説します。				第10回授業で配布された資料⑩の読み。第11回授業で配布された資料⑪の確認。（4時間）			
12	新しいタイプの学校			株式会社立学校、夜間中学校、フリースクールについて解説します。				第11回授業で配布された資料⑪の読み。第12回授業で配布された資料⑫の確認。（4時間）			
13	学校の危機管理の法制度			学校保健安全法、個人情報保護法、危機管理マニュアル、学校安全計画について解説します。				第12回授業で配布された資料⑫の読み。第13回授業で配布された資料⑬の確認。（4時間）			
14	今日の学校の制度をめぐる改革			平成の学制改革について解説します。				第13回授業で配布された資料⑬の読み。第14回授業で配布された資料⑭の確認。（4時間）			
15	今日の学校の運営をめぐる課題			開かれた学校づくり、コミュニティスクールについて解説します。				第14回授業で配布された資料⑭の読み。第15回授業で配布された資料⑮の確認。（4時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
授業時に配布するレジュメ及び資料によって進めます。				出席レポート：40％ 課題：60％ 出席レポートとは、毎回の授業時に提出する意見・質問カードを指します。課題とは期末課題を指します。 S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら、論理的に自分の考え、意見をまとめることができる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
授業の中で適宜紹介する。				3年生配当の選択授業です。教育制度論をはじめ2年生までに履修した授業の基礎の上に立って、授業が進みます。また、教師の仕事の裏方的な部分や広い意味の学校を対象としています。意欲的かつ積極的な授業参加を求めます。							

科目名	教育課程総論（初等）			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25008	研究室	
担当者	武者 一弘・山崎 保寿			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	◎								
授業概要											
前半では、教育課程の歴史、教育課程と学習指導要領、カリキュラムと子どもの発達・学力の関係など教育課程の基礎について学びます。後半では、教育課程の編成の考え方と具体編成についての講義、特色ある教育課程づくりや教材選択と使用の模擬体験など、教育課程づくりの考え方と実際について学びます。											
学修到達目標											
本講義では教育受講者が課程の意義全般に関する知識を獲得しているとともに、実際の教育課程の編成の考え方と実際的スキルを身につけている。その具体的な目標は、①教育課程、カリキュラム及び教育課程の歴史の理解、②カリキュラムと学力の関係の理解、③教育課程編成の考え方の理解、④教育課程づくりの実際的スキルの獲得である。											
授業の進め方											
講義形式が基本ではありますが、調べ学習やグループワーク、プレゼンテーションなどアクティブ・ラーニングを適宜取り入れます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	導入			シラバスと授業の進め方を説明するとともに、半年間のこの講義の追究テーマである「教育課程とは何か」について問題提起します。				シラバスの確認。第1回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
2	教育課程改革			教育課程改革の歴史とその意義について解説します。				第1回授業で配布された資料の読み。第2回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
3	教育課程と学習指導要領			教育課程と学習指導要領の関係及びその特徴について解説します。				第2回授業で配布された資料の読み。第3回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
4	学習指導要領の改訂			学習指導要領改訂の変遷と内容の変化について解説します。				第3回授業で配布された資料の読み。第4回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
5	教育課程と子どもの発達			教育課程と子どもの発達の関係について解説します。				第4回授業で配布された資料の読み。第5回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
6	カリキュラム(1)			教科のカリキュラムと教科外のカリキュラムについて解説します。				第5回授業で配布された資料の読み。第6回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
7	カリキュラム(2)			隠れたカリキュラムと学力の考え方について解説します。				第6回授業で配布された資料の読み。第7回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
8	教材			教科書及び教材のあり方と生かし方について解説します。				第7回授業で配布された資料の読み。第8回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
9	教育課程の編成			教育課程の編成の考え方について、学習指導要領の総則を手がかりに解説します。				第8回授業で配布された資料の読み。第9回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
10	教育課程の編成と学校			教育課程の編成に、校長と校務分掌（教務委員会、学級担任・教科担任など）がどのように関わっているのかについて解説します。				第9回授業で配布された資料の読み。第10回授業で配布された資料の整理。（4時間）			
11	特色ある学校づくりと教育課程の編成			特色ある学校づくりを進めるうえで、教育課程の位置づけやその編成の具体について解説します。				第10回授業で配布された資料の読み。第11回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
12	学校経営計画(1)			学校目標と年間指導計画の作成の実際について解説します。				第11回授業で配布された資料の読み。第12回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
13	学校経営計画(2)			時間配当表の作成の実際について解説します。				第12回授業で配布された資料の読み。第13回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
14	教材の選択と使用			具体の県と学校を例にとり、教材の選択と使用について解説します。				第13回授業で配布された資料の読み。第14回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
15	地域とともにつくる教育課程			実際に、地域とともに教育課程をつくった事例をもとに解説します。				第14回授業で配布された資料の読み。第15回授業で配布された資料の確認。（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「教育課程の理論と実践＜第一次改訂版＞」山崎保寿・黒羽正見著（学陽書房） ISBN:978-4-313-61136-8（生協で購入してください。） 上記のほか、授業時にレジュメ及び資料を配布します。					レポート：30% 定期試験：60% 課題：10% 課題とはプレゼンテーションを指します。特色ある教育課程づくりや教材選択と使用の模擬授業について、アクティブ・ラーニングを取り入れて学び、その成果を学生のプレゼンテーションによって評価します。S：授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用し自分の意見を論理的にまとめ、発表できる。A：授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B：授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C：授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
適宜紹介します。					小学校教員は教育課程づくりの力量が不可欠です。この点で、この授業は小学校教員を目指すうえで要の一つとなる、必修の授業です。主体的で積極的な授業への参加を期待します。						

科目名	初等国語科指導法			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	AA15009	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
国語科は全教科の基礎基本であり中心的教科です。人間形成や社会力及び創造力の基礎となる国語科の指導者として、必須の知識・理解と実践力の基礎を育てるのがねらいです。そのために、小学校学習指導要領の示す「話すこと・聞くこと」「書くこと」及び「読むこと」の3領域と書写を含む「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項を中心に、それぞれの各学年に応じた目標、内容及び指導法について理解と実践力を育てるようにします。											
学修到達目標											
1 小学校学習指導要領「国語科」の目標及び内容を理解している。 2 国語科教材の内容を知り、教材研究の仕方を身につけている。 3 国語科授業の展開及び評価法を知り、学習指導案を作成できる。											
授業の進め方											
講義形式が基本です。講義内容の理解は全体の音読で行っていきます。講義に加えて演習や発表、板書を行います。内容によってはペア学習やグループ討論も行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			講義の全体像を知り、見通しを持ちます。				シラバスを読み、今まで受けた国語の授業について想起する。(4時間)			
2	学習指導要領の変遷			現行を踏まえたこれまでの学習指導要領の変遷を知り、新しい学習指導要領の改革点を理解します。新しい事項「情報の扱い方」を知ります。				テキスト及び配布資料等をまとめる。教科書の構造について講義内容を踏まえまとめる。(4時間)			
3	これまでの国語科教育の主な指導理論			これまでの国語科教育の主な指導理論を知ります。指導案の意義や目的、構造を理解します。				テキスト及び配布資料等を読んでまとめる。講義内容を踏まえノートをとる。(4時間)			
4	これまでの国語科教育と評価論			学習指導案の意義や目的、構造を踏まえ、評価の意図と評価方法について理解します。				テキスト及び配布資料等を読んでまとめる。講義内容を踏まえノートをとる。(4時間)			
5	「話すこと・聞くこと」の全体像と授業の実践			学習指導要領をふまえた「話すこと・聞くこと」の授業の全体像を知ります。模擬授業を想定し、実際の授業を体験的に理解します。				テキスト及び配布資料等を読んでまとめる。講義内容を踏まえノートをとる。(4時間)			
6	我が国の言語文化に関する事項			学習指導要領を踏まえた「我が国の伝統的な言語文化に関する指導」の全体像を知ります。模擬授業を想定し、実際の授業を理解します。				テキスト及び配布資料等を読んでまとめる。講義内容を踏まえノートをとる。(4時間)			
7	論理的文章を「読むこと」の授業の構想			論理的文章を「読むこと」の指導事項を踏まえ、授業の全体像を理解する。模擬授業を想定し、学習指導案の書き方を知る。				テキスト及び配布資料等を読んで指導案を書く。(4時間)			
8	論理的文章を「読むこと」の授業の実践と展開			論理的文章を「読むこと」の学習指導案を作成し、実際の授業を通して、指導と評価の一体化を知り、まとめます。				指導案の出来ばえを検証して改善指導案を書く。ノートを考察をまとめる。(4時間)			
9	文学的文章を「読むこと」の授業の構想			文学的文章を「読むこと」の授業の全体像及び指導項目を理解します。模擬授業を想定し、指導案の作り方を知ります。				テキスト及び配布資料等を読み、指導案の大枠をねる。講義内容を踏まえまとめる。(4時間)			
10	文学的文章を「読むこと」授業の実践と展開			文学的文章を「読むこと」の授業の学習指導案を作成し、実際の授業を通して、発問と指示、板書等との関連性を理解します。				テキスト及び配布資料等を読み学習指導案を書く。(4時間)			
11	文学的文章を「読むこと」授業の実践と指導案作成			文学的文章を「読むこと」の授業の学習指導案の細案を作成し、模擬授業を通して検証します。言語環境の一助を担う立場としての教師の言語力の在り方を理解します。				実際の授業を想定した学習指導細案を書く。(4時間)			
12	文学的文章を「読むこと」指導案作成と検証			文学的文章を「読むこと」授業の学習指導案の細案を作成して検証し、改善案を作成し、考察します。				他者や自分の模擬授業を振り返り考察を持つ。まとめる(4時間)			
13	論理的文章を「書くこと」の授業の構想			「書くこと」の授業の指導項目を踏まえ、学習指導案を元にした指導の方法を理解します。				テキスト及び配布資料等を読んでまとめる。講義内容を踏まえ、ノートをとる。(4時間)			
14	言葉の特徴や使いに関する事項、書写			言葉の特徴や使い方、書写に関する事項を、演習を通して理解します。				テキスト及び配布資料等をもとにまとめる。講義内容を踏まえ、ノートをとる。(4時間)			
15	国語科と他教科・領域との連動の重要性、総括			他教科・領域を支える国語科教育の在り方を理解する。				これまでの配布資料等を踏まえ、講義内容のノートをもとめて定期試験の準備を行う。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 国語編（新・旧）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 新・旧とも使用します。 「国語五 銀河」常田 寛編（光村図書出版）（オリエンテーションで購入してください。） 「国語科教育学概説」（明治図書出版）（別途、指示します。） 「増補 日本語が亡びるときー英語の世紀の中で」水村美苗著（ちくま文庫） ISBN:978-4-480-43266-7（生協で購入してください。）					受講態度：20% 課題：30% レポート：20% 定期試験：30% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。「受講態度」には毎回提出するシート、考察文、発言・発表を含む。欠席4回で単位を認定しない。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編集所編（三省堂） 「国語力を育てる言語技術教育入門」市毛勝雄著（明治図書） 「小学校学習指導要領（新・旧）」（書：東洋館出版、旧：東京書籍）					欠席4回で単位を認定しません。遅刻2回で1回の欠席とし、30分以上の遅刻・早退は欠席1回とみなします。座席指定です。レポートや課題は手書きによる提出です。ノートや書写の用具、その他の参考文献は講義で指示します。						

科目名	初等社会科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25010	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校社会科で扱う具体的な単元及び授業について学びます。実際の授業の様子をVTRや模擬授業にて確認したり、教材研究や指導案作成を行ったりすることで、暗記中心の社会科ではない、児童の主体的な学びを重視した指導を身につけていきます。											
学修到達目標											
小学校社会科で扱う単元から具体的な社会事象を取り上げ教材研究を行い、指導案を作成し、指導ができる。											
授業の進め方											
講義の他、教師役・児童役・参観者役に分かれての模擬授業を行います。特に省察場面を大切にアクティブ・ラーニングを重視し、展開していきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	社会科授業の概要	小学校社会科授業の概要について学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
2	社会科授業の目標	社会科授業の目的を知り、「暗記教科である」という認識からの脱却を図ります。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
3	地域学習(概要)	第3学年及び4学年「地域学習」における授業概要について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
4	地域学習(指導案作成)	第3学年及び4学年「地域学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。					模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
5	地域学習(模擬授業)	第3学年及び4学年「地域学習」における模擬授業を行います。					模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
6	産業学習(概要)	第5学年「産業学習」における授業概要について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
7	産業学習(指導案作成)	第5学年「産業学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。					模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
8	産業学習(模擬授業)	第5学年「産業学習」における模擬授業を行います。					模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
9	歴史学習(概要)	第6学年「歴史学習」における授業概要について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
10	歴史学習(指導案作成)	第6学年「歴史学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。					模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
11	歴史学習(模擬授業)	第6学年「歴史学習」における模擬授業を行います。					模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
12	公民学習(概要)	第6学年「公民学習」における授業概要について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
13	公民学習(指導案作成)	第6学年「公民学習」における教材研究及び指導案作成について学びます。					模擬授業に向け、指導案作成と授業の練習をしておくこと。(4時間)				
14	公民学習(模擬授業)	第6学年「公民学習」における模擬授業を行います。					模擬授業の発問指示の見直し、及び授業実施の改善点について検討すること。(4時間)				
15	ALの視点を授業に生かす	小学校社会科で求められるアクティブ・ラーニングの具体について学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領解説 社会編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。) 「新編 新しい社会6年(上)(下)」(東京書籍)(オリエンテーションで購入してください。)						定期試験:40% 受講態度:30% 指導案作成や授業記録作成:30% S:小学校社会科授業について、中心発問やねらい・まとめが一貫した指導案を作成し、発達段階に応じた指導ができる。A:小学校社会科授業について、中心発問やねらいが一貫した指導案を作成し、指導ができる。B:小学校社会科授業についてのねらいや中心発問が明確な指導案を作成し、指導ができる。C:小学校社会科授業の指導案を作成し、指導ができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						教師役・児童役・参観者役等の役割があります。役割を意識して取り組む姿勢が必要です。					

科目名	初等算数科指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25011	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限、木曜日1限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校就学前後の幼児の数学的概念の獲得と小学校算数科の内容と関連づけます。算数は低学年から高学年の学年進行に従って段階的の高度になっていくので、その指導の系統を考察し、数や量の形概念獲得を知ります。算数科の学びの基本や、その内容や指導方法を「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していきます。											
学修到達目標											
学生自らが主体的に、子どもが数、量、図形概念を獲得する過程を知り、子どもが形成していく数学的概念を、小学校算数科の内容と関連づけて説明できたり、小学校の学年進行に合わせた問題解決学習を体験している。											
授業の進め方											
児童の興味を引き出すための教材研究を重視し、実際に指導計画を作成し、その中から指導案を作成し、やがて模擬授業へと結びつけていきます。アクティブラーニングの指導の在り方を体験的に学んでいきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	算数科の概要を理解しよう			ガイダンス、小学校における算数科の役割を考えます。				小学校学習指導要領解説算数編P20まで読み、概説を理解します。（4時間）			
2	算数科の目標を理解しよう			学習指導要領における算数、数感覚、個数を数えること、1対1対応の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P74まで読み、目標を理解します。（4時間）			
3	算数科の第1学年内容を理解し、指導計画を作ろう			幼児児童の数感覚、十進位取り記数法の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P100まで読み、第1学年内容を理解します。（4時間）			
4	算数科の第1学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう			同じ数ずつの集まり、数の相対的な大きさの指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P100まで読み、第1学年の指導計画を考えます。（4時間）			
5	算数科の第2学年内容を理解し、指導計画を作ろう			教材研究 どちらが多い、すごろく遊び、ものと数詞の対応、数の表現の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P131まで読み、第2学年内容を理解します。（4時間）			
6	算数科の第2学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう			遊びの中での数、数概念、数直線の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P131まで読み、第2学年の指導計画を考えます。（4時間）			
7	算数科の第3学年内容を理解し、指導計画を作ろう			模擬授業 数の大小、順序と系列あわせていくつ、ビンゴ・ゲームの指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P175まで読み、第3学年内容を理解します。（4時間）			
8	算数科の第3学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう			指導案作成に向けての実際に体験していきます。				小学校学習指導要領解説算数編P175まで読み、第3学年内容を理解します。（4時間）			
9	算数科の第4学年内容を理解し、指導計画を作ろう			数に関わること、加法・減法の意味、加法・減法の計算の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P227まで読み、第4学年内容を理解します。（4時間）			
10	算数科の第4学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう			教材研究 数の増減、数当てゲーム、整数の性質、問題解決的な学習の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P227まで読み、第4学年の指導計画を考えます。（4時間）			
11	算数科の第5学年内容を理解し、指導計画を作ろう			仲間集めと分類、くらべてみようの指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P278まで読み、第5学年内容を理解します。（4時間）			
12	算数科の第5学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう			教材研究 身近な量の大きさ、比べ方と量の保存・測定の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P278まで読み、第5学年の指導計画を考えます。（4時間）			
13	算数科の第6学年内容を理解し、指導計画を作ろう			模擬授業 円の面積、円錐の体積の指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P316まで読み、第6学年内容を理解します。（4時間）			
14	算数科の第6学年内容の指導案を作り模擬授業をしよう			図形と空間の感覚、形作り、型押し、影遊び、模様作りの指導を具体化します。				小学校学習指導要領解説算数編P316まで読み、第6学年の指導計画を考えます。（4時間）			
15	初等算数科のまとめをしよう			数量感覚、変わり方のパターンの指導を具体化します。				講義内容のまとめをします。（4時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 算数編（新）」（日本文京出版）（生協で購入してください。）				小テスト：40% 課題：40% 定期試験：20% S:授業内容を高度に理解し子どもの発達段階に応じた育ちを理解し小テストでは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、子どもの発達段階に応じた育ちを理解し小テストでは応用問題が解ける。B:授業内容を理解し子どもの発達段階に応じた育ちを理解し小テストでは応用問題に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し与えられた課題に誠実に取り組み授業で示した小テストを支援を受けながら解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）				算数・数学の学力向上の課題意識を持って授業に参加するようにしてください。							

科目名	初等理科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25012	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日2限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校第3学年～第6学年の理科における単元の学習内容を系統的に整理し本質的な概念を抽出します。また、同一単元における多様な指導法を比較・検討したり、ICT等を効果的に活用したり、アクティブラーニング型の授業のよさについて考えたりします。											
学修到達目標											
小学校理科における理科教育の内容および指導法について理解を深めるとともに、単元構想や45分の授業構成に関わる実践的な基礎知識や技能等の諸能力を身につけている。											
授業の進め方											
実際の授業VTRを視聴したり、実際に教科書に出ている観察・実験を行ったりして、初等理科の指導法について実践的に学びます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	A物質・エネルギー(1)	風やゴムの働き、振り子の運動、てこ等、主に力学に関する単元の系統性について学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読んでおく(4時間)。				
2	A物質・エネルギー(2)	電気の通り道、電気のはたらき、電気の利用等、主に電気に関する単元の系統性について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
3	A物質・エネルギー(3)	物と重さ、空気の性質、物の溶け方等、主に物質観や粒子に関する単元の系統性について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
4	観察・実験の意義(1)	小学校理科における観察・実験の意義を知り、観察・実験の際の安全指導等の留意事項について学びます。					身の回りの出来事から、危険予知について具体的な事例を挙げて考える(4時間)。				
5	観察・実験の意義(2)	小学校理科における一人一実験の意義を知り、教材を作成するための基本的な技能とポイントを学びます。					身の回りの出来事から、危険予知について具体的な事例を挙げて考える(4時間)。				
6	B生命・地球(1)	人や動物の体等、生命構造や進化に関する単元の系統性について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
7	B生命・地球(2)	季節と生物、生物と環境等、主に生物と周囲の環境とのかかわりに関する単元の系統性について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
8	B生命・地球(3)	流水の働き、大地のつくり等、主に地球の内部と表面に関する単元の系統性について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
9	栽培・飼育活動の意義(1)	小学校理科における栽培・飼育活動の意義を知り、栽培・飼育活動を行う際の留意事項について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
10	栽培・飼育活動の意義(2)	生や死と向き合う場が存在することを知り、生命を扱う場面における留意事項について学びます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、身近な事象を見つめ直したりする(4時間)。				
11	理科授業の構想と実践(1)	理科の単元を1つ選び、その構想を立てたり、よりよい構想に練り上げたりします。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、作成した案を修正したりする(4時間)。				
12	理科授業の構想と実践(2)	理科の単元を1つ選び、45分の授業の組み立てを想定したり、具体的な学習指導案を作成したりします。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、作成した案を修正したりする(4時間)。				
13	理科授業の指導と評価	理科の単元を1つ選び、作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、集団で検討します。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、作成した案を修正したりする(4時間)。				
14	今日的な理科授業	博物館等との連携やICT機器等の活用等、今日的な理科授業の工夫や課題について学びます。					博物館の活用事例やICT機器の活用のアイデアについて考える(4時間)。				
15	講義の総括	各学年の内容や系統性を整理し、授業者としての役割を考えます。					小学校理科の教科書の必要な単元のページを読んだり、作成した案を修正したりする(4時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 理科編(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)						レポート:40% 小テスト:40% 受講態度:20%					
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)						S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。					
「小学校理科の観察・実験の手引き」文部科学省著 各自で文部科学省HPからPDFを印刷して持参してください。											
参考文献						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「理科の学ばせ方・教え方事典」角屋重樹 林四郎 石井雅幸著(教育出版) ISBN:978-431680265-7 その他、授業VTR、実験資料、実験プリント						授業の作り方について、時には授業者側になったり、時には子ども側になったりして考えますので積極的な参加の姿勢が望まれます。また、ものづくり等の体験的な内容の場合は、準備物や服装等について別途ご連絡します。					

科目名	初等生活科指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25013	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳・秋田 真			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限、水曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
生活科における多様な指導法を比較・検討して、それぞれの授業者の役割の違いについて考察します。また、生活科の年間指導計画、単元、それぞれの授業を構成し、指導案を作成し、どのように実践するか、ICTをどう効果的に扱うか等を学びます。前半では、主に自分と自然とのかかわりに関するもの（「季節の変化と生活」、「自然や物を使った遊び」、「動植物の飼育・栽培」等）の内容を例に、後半では、「学校を探検しよう」、「先生の仕事」、「秋祭りをしよう」、「私の成長調べ」などを例に学びます。											
学習到達目標											
小学校低学年における生活科の目的、目標、内容、方法について理解を深めるとともに、単元構想や45分の授業構成に関わる実践的な基礎知識や技能等の諸能力を身につけることができる。											
授業の進め方											
実際の授業のVTR映像や実践記録等をもとに、児童の発言や授業者の役割等を分析しながら進めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生活科の理念	生活科の理念を理解し、その理念を具現化するための様々な取り組みについて学びます。（澤柿）					生活科の学習活動を想起し、自分なりの観点でグループ分けしてみる（4時間）。				
2	季節の変化と生活	自然観察を行う際に見られる子どもの行動やその背景を学びます。（澤柿）					身近な植物や小動物をできるだけ詳しくスケッチする（4時間）。				
3	自然や物を使った遊び	身の回りの物を使った遊びを実際に体験することを通して、子どもの気付きがどのように深まるかについて考えます。（澤柿）					必要な物を身の回りから集めてみる（4時間）。				
4	動植物の飼育・栽培(1)	淡水魚や昆虫等の小動物を飼育する準備を整えることを通して、子どもの気付きがどのように深まるかについて考えます。（澤柿）					みんなと一緒に飼育してみたい小動物の飼い方について調べる（4時間）。				
5	動植物の飼育・栽培(2)	花や野菜等の植物を栽培する準備を整えることを通して、子どもの気付きがどのように深まるかについて考えます。（澤柿）					みんなと一緒に飼育してみたい小動物の飼い方について調べる（4時間）。				
6	生活科の指導と評価	学習活動が自立への基礎に結びつくための指導の在り方と評価の方法について学びます。（澤柿）					子どもの活動をとらえたり、評価したりする方法を具体的に考える（4時間）。				
7	授業の構想と実践	生活科の単元を構想したり、学習指導案を作成したり、ICTの活用場面を考えたりします。（澤柿）					自分が実践してみたい生活科の単元について構想してみる（4時間）。				
8	講義の総括	生活科のねらいや内容を整理し、授業における子ども理解や授業者の役割を意識しながら模擬授業を創ります。（澤柿）					構想した単元について、子どもの学習活動を想定し、授業者の発問を吟味する（4時間）。				
9	生活科の授業の概要(1)	単元名「がっこうをたんけんしよう」の授業の概要について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
10	生活科における教材研究と学習指導案(1)	単元名「がっこうのせんせいおしごとたんけんたい」に関わる教材研究及び学習指導案の作成について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
11	生活科の授業の概要(2)	単元名「まつもとの“やさしさ”をしよう」の授業の概要について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
12	生活科における教材研究と学習指導案(2)	単元名「まつもとあきまつり」をしよう」に関わる教材研究及び学習指導案の作成について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
13	模擬授業(1)	単元名「まつもとあきまつり」をしよう」の模擬授業を通して、本単元のねらいに迫る方途について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
14	生活科における教材研究と学習指導案(3)	単元名「おおきくなったね～せいちょうしらべ～」に関わる教材研究及び学習指導案の作成について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
15	模擬授業(2)	単元名「おおきくなったね～せいちょうしらべ～」の模擬授業を通して、本単元のねらいに迫る方途について考えます。（秋田）					単元について、子どもの学習活動や授業者の発問等について具体的に考える（4時間）。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 生活科編（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。）						レポート：40% 定期試験：40% 受講態度：20% S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「対話が授業を変える」富山大学附属小学校著（富山大学出版会） ISBN：978-434053008-3 その他、授業VTR、実験資料、実験プリント						教材作成や模擬授業等、役割分担をしながら活動することが多くなると思いますが、積極的にコミュニケーションをとりながら参加することが望まれます。					

科目名	初等英語科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25014	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校の外国語活動において、児童の状況を考慮し、児童に身近な事柄を取り入れ、教材を作成し、英語で児童に指示し、活動を実施します。また授業に対しフィードバックをすること、されることを通し授業を改善します。											
学修到達目標											
小学校外国語活動において小学生の状況を考慮しながら、適切な教材を工夫し作成し、英語で授業が実施できる。											
授業の進め方											
学習内容に応じ、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション 第二言語習得理論			第二言語習得理論を振り返り、小学校外国語活動の授業にどのように活かしていくかを理解する。				実際に第二言語習得理論に留意し、授業を実施できるようにする。（4時間）			
2	観点別評価・評価方法			授業と評価の在り方について考え、それに基づいた授業の在り方を理解する。				評価と授業が一体となる授業を考え、指導案を作成する。（4時間）			
3	Teacher talkの基本			Teacher talkの基本となる授業の進め方の指針であるMERRIER Approachについて理解する。				授業の基本のMERRIER Approachを理解し、授業実施において留意する。（4時間）			
4	聞く活動—Three Hints Quiz			聞くことを重視した活動の1つであるThree Hints Quizの構成と実践方法を理解する。またそのバリエーションの作成についても理解する。				Three Hints Quizが実践できるよう、その構成を深く理解し実践する。（4時間）			
5	マイクロティーチング：聞く			Three Hints Quizやそのバリエーションを実際に英語で行い、フィードバックを受け、さらに発展させる。				事前にThree Hints Quizやそのバリエーションができるよう練習する。（4時間）			
6	話す活動—Missing Game			話す活動の1つであるMissing Gameの構成と実践方法を理解する。また児童の発話を促す工夫を理解する。				Missing Gameが児童の発話を促すように構成の理解と練習を行う。（4時間）			
7	マイクロティーチング：話す			Missing Gameが児童の発話を促すよう実際に英語で実施し、フィードバックを受け、さらに発展させる。				事前にMissing Gameが効果的に実施できるように練習する。（4時間）			
8	文化に関する気づき—Culture Talk			文化の違いや類似性に気付かせるCulture Talkを実践するポイントを理解する。またそのために必要な教材分析の観点を理解する。				Culture Talkをポイントに留意し英語で行うため、教材を選び、練習する。（4時間）			
9	マイクロティーチング：文化に関する気づき			事前に準備したCulture Talkを、留意ポイントに気をつけながら実践する。他のCulture Talkの内容やそのフィードバックを活用する。				事前にCulture Talkのポイントに留意し、実践できるように練習する。（4時間）			
10	1時間の指導の組み立て方			1時間の授業の進め方を理解し、それぞれの指導のポイントを理解する。				1時間の流れの中での活動の在り方、つながりを考え、指導案に反映できるようにする。（4時間）			
11	挨拶・ウォーミングアップ・導入			授業の始まりである挨拶の方法や、児童を英語モードに切り替える方法を理解し実践する。				始まりの挨拶・ウォーミングアップを効果的に実践するためバリエーションを習得する。（4時間）			
12	ドリル活動（聞くドリル・発話のドリル）			英語を聞くことや話すための基本となるドリル活動の理論を理解し、実践できるようにする。				児童が発話するために必要な聞く力を養うために必要な基本的英語表現を習得する。（4時間）			
13	展開活動のポイント			授業内での活動におけるポイントを理解する。また展開活動で使用できる具体的な活動を習得し、工夫の仕方を理解する。				活動が状況に合わせ工夫できるよう、活動のポイントを理解し、応用できるようにする。（4時間）			
14	実際の単元展開例の分析			1つの単元の流れを例を見ながら分析し理解する。これまでの理解を振り返りながら、その工夫に気付く。				1つの単元がまとまりのある形で形成されるように指導案を作成できるようにする。（4時間）			
15	まとめ			これまでの内容と理解を振り返り、実際に授業に応用できるようにする。				これまでの内容をどのように活用できるかを具体的授業の中で考える。（4時間）			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫・金森強著（成美堂） ISBN:978-4791971541（生協で購入してください。） 「小学校外国語活動基本の「き」」酒井英樹著（大修館書店） ISBN:978-4-469-24584-4（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（新・旧）」（新：東洋館出版社、旧：東京書籍）（生協で購入してください。）新・旧とも使用。 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編（新・旧）」（新：開隆堂出版、旧：東洋館出版社）（生協で購入してください。）新・旧とも使用。					受講態度：10% 課題：20% 実技：20% 定期試験：50% S：授業を高度に理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、実際に授業で優れた実践ができる。A：授業をよく理解し、テーマに関し探求し課題に取り組み、実際に授業で応用できる。B：授業を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、授業で実践ができる。C：授業を理解し、課題に誠実に取り組み、実際に授業で基本的なことが実践できる。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「小学校外国語活動における評価法の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所教育課程研究センター著（教育出版） 「楽しみながら信頼関係を築くゲーム集」高久啓吾著（学事出版）					原則、欠席は2回までです。 3冊目参考書：「英語活動ネタのタネ」小泉清裕著（アルク） 参考書は指示があるまで購入しないようにしてください。						

科目名	初等音楽科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25015	研究室	非常勤
担当者	中山 裕一郎			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
まず、「小学校学習指導要領」に基づいて小学校音楽科教育の目標や指導内容について学びます。次に指導案の作成及び模擬授業を実施します。講義を主体としますが、鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの教育用小楽器、及びピアノ弾き歌いなどの実技指導もおこないます。											
学修到達目標											
小学校音楽科の授業実践及び教育実習に必須な基礎的知識と技能を修得している。											
授業の進め方											
講義形式を基本としますが、各授業の後半部では弾き歌い(歌とピアノ伴奏)などの実技を毎回行います。また15回の授業全体における後半部では実際の小学校音楽科教育の実際に即した指導案作成と、グループによる模擬授業も実施します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	小学校音楽科教育の目標・指導内容について。					授業終了後、講義内容を確認し、わからない点については出来る範囲で調べておく(4時間)。				
2	「学習指導要領」	「学習指導要領」の内容と法的位置づけについて。					「学習指導要領」の歴史、憲法及び他の法令との関連を確認しておく(4時間)。				
3	小学校低学年の歌唱指導法	わらべ歌及び1・2年次の歌唱共通教材を扱います。					自身の歌い遊んだわらべうたについて考え、授業に臨む(4時間)。				
4	低学年の器楽指導	リズム打楽器(タンバリン、カスタネットなど)及び鍵盤ハーモニカ奏法について学びます。					出来るだけ鍵盤ハーモニカを帯同し授業に臨み、事前事後に練習も行う(4時間)。				
5	中学年の歌唱指導法	主に、3・4年次の歌唱共通教材を扱う。伴奏法についても学びます。					授業の事前事後にテキストにある伴奏譜を練習する(4時間)。				
6	中学年の器楽指導法	ここでは主に鍵盤ハーモニカを扱います。					小学校時代に使用した鍵盤ハーモニカを帯同し、練習をする(4時間)。				
7	高学年の歌唱指導法	主に、5・6年次の歌唱共通教材を扱う。伴奏法についても学びます。					授業の事前事後にテキストにある伴奏譜を練習する(4時間)。				
8	高学年の器楽指導法	リコーダー(ソプラノ)の扱い及び奏法の基礎を学びます。					授業へのリコーダー(ソプラノ)帯同を必須とする。練習し、授業に臨む(4時間)。				
9	鑑賞の指導法	鑑賞教材(曲)の選定及び指導法について学びます。					指定された楽曲についての研究(教材研究)を十分に行う(4時間)。				
10	音楽づくりの指導法	クラッピング・ミュージック、ボディー・ミュージック、ドラムサークルのいずれかを体験し、グループによる即興的な音楽づくりについて学びます。					既存の楽器以外で音楽表現に使用できそうな音源を探し、表現について考えてみる。(4時間)				
11	日本音楽の指導	日本音楽を扱う意義及び教材、指導法について学びます。					日本音楽の代表的ジャンル、代表的な楽器、代表的な楽曲について調べておく(4時間)。				
12	学習指導案の作成	授業の成否に直結する学習指導案の作成について学びます。					授業以外の時間にグループ別に指導案の作成作業を行う(4時間)。				
13	模擬授業	歌唱、器楽領域の模擬授業をグループ別に行います。					指導案の作成同様、模擬授業に向けたグループ別の準備を行う(4時間)。				
14	模擬授業	鑑賞、音楽づくり領域の模擬授業をグループ別に行います。					指導案の作成同様、模擬授業に向けたグループ別の準備を行う(4時間)。				
15	音楽科における評価について	学習指導要領に示された観点別評価の他、音楽活動を評価することはどうということかについて、具体的に学びます。					評価に関わる語句及びその意味について理解するための学修を十分に行う(4時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「『最新初等科音楽教育法(改訂版)』」初等科音楽教育研究会編(音楽之友社) ISBN:978-4276820098(生協で購入してください。)						定期試験:60% レポート:30% 受講態度:10% S:学ぶべき内容の本質を深く理解し、深い洞察力と積極的な探求姿勢をもって課題に取り組んでいる。実技も、十二分に達成している。A:学ぶべき内容の本質を理解し、洞察力と探求姿勢をもって課題に取り組んでいる。実技も、十分に達成している。B:授業のおおよそを理解し、課題の習得に誠実に取り組んでいる。実技も、求められる基準を達成している。C:授業を60%程度理解し、課題に対し誠実に取り組んでいる。実技も、求められる最低限の水準程度を達成している。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社) 「小学校学習指導要領解説 音楽編(新)」(東洋館出版社)						実技をとまなう教科なので、そのための練習に時間をかけ十分に組み込んで下さい。リコーダー(ソプラノ)は必ず個人で帯同し授業に臨んで下さい。					

科目名	初等図画工作科指導法			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25016	研究室	非常勤
担当者	岡田 匡史			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種					履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
本授業科目は、現行学習指導要領の領域構成に準じ、表現領域は絵、造形遊び、工作(含デザイン)、立体の順に講義し、続いて鑑賞領域を概説します。終盤に学習指導案の書き方を指導し、教材研究の成果を学習指導案にまとめます。総括的課題として模擬授業を体験します。											
学修到達目標											
図画工作科の目標・理念及び指導内容について現行学習指導要領を基に理解し、指導能力及び題材開発能力を身に付けている。											
授業の進め方											
授業冒頭と各分野の講義終了時と模擬授業終了時にレポートを課します。終盤で知識・理解と図工題材開発能力の伸長を総合的に見る集大成的内容となる学習指導案を課し、模擬授業も課します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	図画工作科とは?	オリエンテーション(授業計画の概説/導入部の講義)					教科書主体の予・復習(4時間)				
2	絵について(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/絵(主に学習指導要領概説)					教科書主体の予・復習(4時間)				
3	児童画と描画発達	A表現/絵(絵の発達の変遷、写実性の2範疇)					教科書主体の予・復習(4時間)				
4	児童画の通覧と指導・評価	A表現/絵(絵の見方/小学校全6学年の特徴的作例)					教科書主体の予・復習(4時間)				
5	造形遊びについて(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/造形遊び(主に学習指導要領概説)					教科書主体の予・復習(4時間)				
6	造形遊びの基本類型	A表現/造形遊び(造形原理と各種活動様態)					教科書主体の予・復習(4時間)				
7	造形遊びの学習構造と指導・評価	A表現/造形遊び(授業設計と諸留意点)					教科書主体の予・復習(4時間)				
8	工作について(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/工作(工作全般)					教科書主体の予・復習(4時間)				
9	立体について(学習指導要領・ICT活用等)	A表現/立体(立体全般)					教科書主体の予・復習(4時間)				
10	立体(工作も関連)の表現・鑑賞の基礎的観点と指導・評価	A表現/立体系譜(立体的な児童作品等概観[見方に習熟])					教科書主体の予・復習(4時間)				
11	鑑賞について(学習指導要領・ICT活用等)	B鑑賞(主に学習指導要領概説/基本的な鑑賞指導メソッド)					教科書主体の予・復習(4時間)				
12	図画工作科における学習指導案の書き方	学習指導案の目的・形式・記載事項等					教材研究成果を基礎とした学習指導案作成(4時間)				
13	教材研究と模擬授業(絵や立体)	班内討議					講義全体の振り返り・総復習(図工題材イメージの拡充)(4時間)				
14	教材研究と模擬授業(工作)	準備作業					講義全体の振り返り・総復習(図工題材イメージの拡充)(4時間)				
15	教材研究と模擬授業(鑑賞)	発表段階					講義全体の振り返り・総復習(図工題材イメージの拡充)(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領解説 図画工作編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。) 「ベーシック造形技法-図画工作・美術の基礎的表現と鑑賞-」宮脇理監修 山口喜雄・天形健編(建帛社) ISBN:9784767920863(生協で購入してください。)						レポート:35% 課題:60% 受講態度:5% S:授業内容を高度に理解し、学んだ事柄を基盤に密度濃く思考できる探求姿勢をもって課題に取り組み、群を抜くと判断できる緻密で充実した学習成果を示す。A:授業内容を良く理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、充実した学習成果を示す。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的を満たす学習成果を示す。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的をほぼ満たす学習成果を示す。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						レポートの提出は、授業後、1週間以内。氏名・学籍番号等明記。指定件名(図工指導法)で、担当教員宛(maokada@shinshu-u.ac.jp)添付送信。5班前後で模擬授業を実施。学習指導案(自作題材)は全員提出(e-mail別添)。					

科目名	初等家庭科指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25017	研究室	非常勤
担当者	千葉 悦子			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種			履修条件			(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校家庭科では何を対象としてどのように学ぶのかという問いを、現代社会における子どもの生活課題と家庭科教育の歴史の変遷から考え、子どもの発達段階や生活課題から授業を構想し実践することを学びます。前半では教育目標と内容、学習方法などの基本を理解し、実践記録を読んで指導方法などを学び、家庭科の授業イメージを広げます。後半では、演習を通して、授業の作り方、授業の改善方法を、模擬授業を中心に具体的に学びます。											
学修到達目標											
・現代社会における家庭科教育の意義について理解している。・小学校家庭科の目標・内容と学習方法を理解している。・小学校家庭科の内容と子どもの生活実態を踏まえた学習指導案を作成できる。・実践記録や模擬授業の検討を通じて課題を見出し、修正できる。											
授業の進め方											
授業の学習内容により、実物見本の比較、食品の試飲や試食、グループワークや、講義形式など様々な形態で行います。家庭科は教科の特性上、アクティブラーニングを多く取り入れます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	講義の概要・学習の進め方・評価、教科書・参考書等の紹介をします。食情報、特に、安全や衛生についてのアンケートやクイズを通して、第3回での実習の注意点や第5回での食情報の捉え方につなげます。					小学校学習指導要領解説家庭編p.16まで、授業力UPp.18まで、p.36～37を理解する。(4h)				
2	小学校家庭科学習指導要領A・Bの目標および内容、現代のこどもの食生活	家庭科学習指導要領A「家庭生活と家族」、同B「日常の食事と調理の基礎」の目標および内容を理解します。現代の子どもや長野県の食生活の特徴や課題を明確にし、地域の特性も踏まえた指導を目指します。					小学校学習指導要領解説家庭編p.36まで、授業力UPp.22・38・52・63を理解する。(4h)				
3	領域を超えた教材例ー学習指導要領A・B・家族との触れ合いや団らんの工夫	家族との触れ合いや団らんと楽しくする工夫として、お茶をいれる基礎的な調理実習の授業を取り上げます。理論だけでなく、グループでの実習も行います。そのため、安全で衛生的な実習についても学びます。					学習指導要領解説家庭編p.54～62、授業力UPp.62～63、教科書該当頁を理解する。(4h)				
4	学習指導要領A「家庭生活と家族」の授業例…ロールプレイング等の手法	小学校学習指導要領A「家庭生活と家族」の授業例として、ロールプレイングを用いた授業や、対話的なコミュニケーション力を育む授業例について学びます。グループ学習も行います。					授業力UPp.45、62～65、p.74～77を理解する。(4h)				
5	小学校家庭科学習指導要領B「日常の食事と調理の基礎」の指導方法と教材研究	「日常の食事と調理の基礎」の指導方法について、実践記録から学びます。「ピザを工夫させ、栄養を考えさせる授業」や「野菜サラダ作り」の授業を例に、指導方法と教材研究について学びます。					授業力UPp.78～81を理解する。(4h)				
6	学習指導要領C「快適な衣服と住まい」の目標および内容	小学校家庭科学習指導要領C「快適な衣服と住まい」の目標および内容を、実践例を取り上げながら理解します。科学的な認識を育てることに学びます。					小学校学習指導要領解説家庭編p.48まで、授業力UPp.54～57を理解する。(4h)				
7	「快適な衣服と住まい」の指導方法	小学校家庭科学習指導要領C「快適な衣服と住まい」について、実践例を取り上げながら理解します。体験的な学習についても学びます。					授業力UPp.58～61を理解する。(4h)				
8	学習指導要領D「身近な消費生活と環境」の目標および内容	小学校家庭科学習指導要領D「身近な消費生活と環境」の目標および内容を理解します。実践例として「おみそ汁の材料選びゲーム」を取り上げ、トレードオフの概念も学び、教材研究の重要性も学びます。					小学校学習指導要領解説家庭編p.53まで、授業力UPp.66～67、p.118～121、p.126を理解する。(4h)				
9	家庭科教育の歴史と教科目標、授業づくり①…授業構想、学習指導案	家庭科教育の歴史を学び、教科目標を確認します。授業づくり①として、授業構想と教材研究、学習指導案の書き方について学びます。					授業力UPp.8～9、p.36～51、p.82～92を理解する。(4h)				
10	授業づくり②… 様々な学習方法、評価	授業づくり②として、様々な学習方法や評価を学びます。評価から授業を振り返ることにより、さらに良い授業を創ることについて学びます。					授業力UPp.40～45、p.72、p.93～100を理解する。(4h)				
11	模擬授業の学習指導案と検討①	学生が自分なりに模擬授業の学習指導案を作ってきて、小グループ内で検討し合います。本等に載っている案を元にした場合や参考文献は、必ず、出典を明記します。					小学校家庭科の学習指導案を作成し、検討内容をまとめる。(4h)				
12	模擬授業の学習指導案と検討②	前回検討したことを踏まえて改善した学習指導案で、授業の核となる部分(導入部でもよい)を模擬授業し、グループ内で検討し、グループの代表を決めます。					改善した学習指導案を作成し、模擬授業の練習をする。検討内容をまとめて提出する。(4h)				
13	学習指導案の発表と検討①	小グループの代表者が、クラス内で学習指導案を発表し、クラス全体で検討します。					発表に対する個人の意見、クラス全体での検討をまとめる。(4h)				
14	学習指導案の発表と検討②	前回の検討事項を踏まえて改善した学習指導案を発表し、授業の核となる部分について模擬授業をし、クラス全体で再検討します。授業の改善方法を再確認します。					発表に対する個人の意見、クラス全体での検討をまとめ、小レポートとする。(4h)				
15	まとめ	まとめとして、学生の小レポートに対する講評および補足をします。また、試験で重視すること等も知らせます。					試験に向けて、学修内容を理解し、まとめておく。(4h)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 家庭編(新・旧)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)						定期試験:40% 課題及び発表:50%(模擬授業、学習指導案とその修正)、リアクションペーパーや、授業への貢献度(質問や意見等):10% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、指定以外の資料も調べ、考察できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、十分考察できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察できる。C:授業の内容の60%程度を理解し与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例と同レベルの考察ができる					
「小学校学習指導要領(新・旧)」(新:東洋館出版社、旧:東京書籍)(生協で購入してください。)											
「新編 新しい家庭5・6」(東京書籍)(別途、指示します。)											
「小学校わたしたちの家庭科5・6」(開隆堂)(別途、指示します。)											
「授業力UP 家庭科の授業 第2版」鶴田敦子・伊藤葉子編著(日本標準) ISBN:978-4820804161(生協で購入してください。)											
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「わたしがつくる朝ごはん」お茶の水女大附家庭科研究会著(地域教材社)						事前事後学修として、毎回、小学校家庭科教科書の該当ページを読みましょう。調理実習では、エプロン・三角巾・手拭き(布巾と混同しない)を用意してください。					
「アクティブ・ラーニングが育てる『これからの家庭科』」お茶の水女大附家庭科研究会著(地域教材社)											

科目名	初等体育科指導法			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25018	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校体育授業の「体づくり運動」「器械運動」「水泳」「表現運動」について、実技能力（示範能力）と指導能力を身につけていきます。そのために、技術や指導のポイント、基本的知識を理解するとともに、基本技術を獲得していきます。											
学修到達目標											
小学校学習指導要領解説体育編に基づき、小学校体育授業の各領域について、理論と指導の両面から学習し、実践的な指導法の習得として指導案が作成できる。											
授業の進め方											
各領域の担当を決め、指導案を作成します。指導案検討を行い、修正した指導案で、授業実践を行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	小学校における体育科教育と学習指導要領にみる体育科の目標と内容構成と指導計画。担当領域を決める。					体育科の目標と内容について理解する。担当領域の指導案の作成。（4時間）				
2	授業デザイン	学習内容と教材づくりの視点と内容、指導と評価の一体化					授業デザインの考え方を理解する（4時間）				
3	体づくり運動Ⅰ、器械運動Ⅰ	各領域の内容(1) 体づくり運動、器械運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討					指導案検討後の指導案を修正する（4時間）				
4	体づくり運動Ⅱ	授業実践(1) 体づくり運動の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(4時間)				
5	器械運動Ⅱ	授業実践(2) 器械運動系の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(4時間)				
6	陸上運動Ⅰ	各領域の内容(2) 陸上運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討					指導案検討後の指導案を修正する（4時間）				
7	陸上運動Ⅱ	授業実践(3) 陸上運動系の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(4時間)				
8	水泳	各領域の内容(3) 水泳系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討					指導案検討後の指導案を修正する（4時間）				
9	ボール運動Ⅰ	各領域の内容(4) ボール運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討					指導案検討後の指導案を修正する（4時間）				
10	ボール運動Ⅱ	授業実践(4) ボール運動系の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(4時間)				
11	表現運動Ⅰ	各領域の内容(5) 表現運動系の授業づくりの視点及び指導案作成とその検討					指導案検討後の指導案を修正する（4時間）				
12	表現運動Ⅱ	授業実践(5) 表現運動系の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(4時間)				
13	保健Ⅰ	各領域の内容(6) 保健「毎日の生活と健康」「育ちゆく体とわたし」「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」の授業づくりの視点及び指導案作成					指導案検討後の指導案を修正する（4時間）				
14	保健Ⅱ	授業実践(6) 保健の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(4時間)				
15	これからの小学校体育	これからの小学校体育を考える（まとめ）					これからの小学校体育についての考えをもつ(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 体育編（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「新みんなのほけん3・4年」文部科学省著（オリエンテーションで購入してください。） 「新みんなの保健5・6年」文部科学省著（オリエンテーションで購入してください。）						定期試験：50% レポート：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）						事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切になります。					

科目名	道徳教育指導論（初等）			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25019	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日4限、金曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	◎								
授業概要											
学習指導要領の改定で、確かな学力を基礎とした生きる力の育成を目的に、道徳教育は最重点課題の一つとして、道徳の教科化が決定してきたので、その意味や今後の対応を考えます。その上でこの講座では、上記を踏まえ道徳の内容と指導方法について講義します。											
学修到達目標											
新学習指導要領を踏まえ、道徳教育の目標の理解と共に、道徳授業の基礎・基本の理解と道徳授業の実践力を身につけている。											
授業の進め方											
前半に道徳授業の基礎・基本(道徳教育の変遷、道徳学習方法論、心に響く授業のあり方、教材開発、指導案の書き方)の理解を深めます。後半には、模擬授業を行い、道徳の授業の実践力を高めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	道徳教育とは何か	ガイダンスー「道徳」を教えるとは					シラバスの読みおよび小学校学習指導要領の熟読（4時間）				
2	道徳の基礎・基本Ⅰ	道徳授業のポイントについて					課題レポート（4時間）				
3	道徳の基礎・基本Ⅱ	学習指導要領の改定と道徳教育の変遷について					課題レポート（4時間）				
4	道徳の基礎・基本Ⅲ	教科や他領域との連携指導について					課題レポート（4時間）				
5	道徳の基礎・基本Ⅳ	体験活動・言語活動を生かした授業の工夫について					課題レポート（4時間）				
6	道徳の基礎・基本Ⅴ	道徳指導学習論のいろいろ(再現構成法・モラルジレンマ・構成的グループエンカウンター・構造化方式等)					課題レポート（4時間）				
7	道徳の基礎・基本Ⅵ	板書の実際とその工夫について					課題レポート（4時間）				
8	道徳の基礎・基本Ⅶ	ゲストティーチャーの活用について					課題レポート（4時間）				
9	道徳の基礎・基本Ⅷ	「心のノート」の活用、学校教育全体計画の作成について					課題レポート（4時間）				
10	道徳授業の実際Ⅰ	小・中学校の道徳の授業を参観し、実際の授業の組み立てを理解する。					参観授業観点別評価表の作成（4時間）				
11	道徳授業の実際Ⅱ	学習指導案の作成					学習指導案の検討、作成（4時間）				
12	道徳授業の実際Ⅲ	模擬授業（1）導入の工夫					模擬授業学習シートの記入（4時間）				
13	道徳授業の実際Ⅳ	模擬授業（2）発問の工夫（中心発問）					模擬授業学習シートの記入（4時間）				
14	道徳授業の実際Ⅴ	模擬授業（3）板書の工夫					模擬授業学習シートの記入（4時間）				
15	まとめ	全体でのシェアリング					総合レポート（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（新）」（廣済堂あかつき）（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「これだけは知っておきたい道徳授業の基礎・基本」渡邊弘著（川島書店）ISBN:978-4-76100884-0（生協で購入してください。）						レポート：40% 受講態度：30% 模擬授業30%。レポート提出と模擬授業を単位認定の条件とします。S:授業内容を確かに理解し、道徳の授業に探求姿勢を持って意欲的に取り組み、創意工夫した道徳の授業ができる。A:授業内容を確かに理解し、道徳の授業に意欲的に取り組み、論理的な指導案が書け、発問を工夫した授業ができる。B:授業内容を理解し、道徳の授業に意欲をもって取り組み、指導案がかけ、道徳の授業ができる。C:授業内容を概ね理解して、道徳の授業に取り組み、児童のための授業をしようとする。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「やさしい道徳授業のつくり方」鈴木由美子・宮里智恵編著（淡水社） 「道徳授業で大切なこと」赤堀博行著（東洋館出版）						模擬授業は、受講人数によりグループ分けして行う場合もあります。					

科目名	特別活動指導論（初等）			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25020	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	◎								
授業概要											
特別活動の意義や目的、実施上の課題等を考察し、その重要性を理解します。特に各内容（学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事）が教科学習や教師の学級経営、あるいは児童の学校適応などに深く関わることから、各教科・領域（生徒指導、教育相談等）との関連を理解します。											
学修到達目標											
特別活動の教育的意義、教育課程上の位置づけ及び活動内容を理解し、特別活動の学習指導案、指導資料の作成ができることはもとより、児童生徒同士の関係や教師との関係などがその活動の基本になることから、人間関係のリレーションについても理解を深め、特別活動を学校教育全体の中に積極的に位置づけて推進できる力を身に付けます。											
授業の進め方											
講義を中心に、特別活動年間計画や指導案の作成、模擬授業等の演習を取り入れます。講義では事前に出された課題に対してレポートを作成し、レポートの内容をグループや全体で、あるいは教師と熟議しながら進めていきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	特別活動とはなにか	小中学校時代の印象深い思い出を出し合い、そのほとんどが特別活動（学級活動、学校行事など）であることに気づき、特別活動の重要性を理解する。					シラバスとテキスト第1章総説P1～7を熟読する。事後は要点をまとめる（4時間）				
2	特別活動は何を目標としているか	特別活動の全体の目標を理解する。特に事前に学修した「望ましい集団活動」の内容を議論することで深く理解する。個人的な資質や社会的な資質の育成や自分の人生に自己を活かすという意味を考える。					事前に特別活動の目標を暗記し、テキストP8～14のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
3	特別活動の指導①学級活動（理論編）	学級活動の目標とその内容を理解する。特に事前の学修をふまえて、学級活動を通して望ましい人間関係を形成しすることの意味を議論し、また各学年の目標と共通事項について具体的に理解する。					事前に学級活動の目標を暗記し、テキストP32～40のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
4	特別活動の指導①学級活動（実践編）	学級活動の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、外国語活動、総合的な学習などとの関連について理解するとともに、学級経営と深く関わっていることを理解する。					学校時代の学級活動を思い出し、その意味をまとめておく。テキストP41～63のノート作り（4時間）				
5	特別活動の指導①学級活動（習得編）	学級活動は児童生徒の興味関心と教員の資質や児童生徒理解によってその内容と展開の方法が決まり、意味のある集団体験となりように指導することの大切さを学ぶ。学級活動の学習指導案を発表する。					学級活動の学習指導案を書いてくる。事後は学習指導案の修正をする（4時間）				
6	特別活動の指導②児童会活動（理論編）	児童会活動の目標とその内容を理解する。特に事前の学修をふまえて、児童会活動を通して自主的で実践的な態度を形成しすることの意味を議論する。またその内容について具体的に理解する。					事前に児童会活動の目標を暗記し、テキストP64～75のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
7	特別活動の指導②児童会活動（実践編）	児童会活動の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、外国語活動、総合的な学習などとの関連について理解するとともに、学級経営と深く関わっていることを理解する。					全国で行われている児童会活動の事例を集め、まとめておく。事後は目標を覚える（4時間）				
8	特別活動の指導③クラブ活動（理論編）	クラブ活動の目標とその内容を理解する。特に事前の学修をふまえて、クラブ活動を通して望ましい人間関係の形成や個性の伸長を図ることの意味を議論する。またその内容について具体的に理解する。					事前にクラブ活動の目標を暗記し、テキストP76～87のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
9	特別活動の指導③クラブ活動（実践編）	クラブ活動の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、外国語活動、総合的な学習などとの関連について理解する。また人間関係づくりや集団適応に深く関わっていることを理解する。					クラブ活動の特性をまとめ、その内容の取り扱いについてまとめる（4時間）				
10	特別活動の指導④学校行事（理論編）	学校行事の目標とその内容を理解する。特に事前の学修をふまえて、学校行事を通して望ましい人間関係の形成や公共の精神、連帯感を深めることの意味を議論する。またその内容について具体的に考える。					事前に学校行事の目標を暗記し、テキストP88～103のノートを作る。事後はまとめ（4時間）				
11	特別活動の指導④学校行事（実践編）	学校行事の具体的な取り組みを事例から学び、指導計画の立て方や教科、道徳、外国語活動、総合的な学習などとの関連について理解する。また公共の精神や集団適応に深く関わっていることを理解する。					学校行事の特性をまとめ、その内容の取り扱いについてまとめる（4時間）				
12	特別活動の基本的な性格と教育的意義	特別活動が人間形成に大きな役割を果たしていることを各活動（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）の学修から再認識し、学校における意味のある集団活動や体験的な活動の大切さを理解する。					テキストP15～31のノートをつくる。事後は議論の内容をまとめる（4時間）				
13	特別活動の指導計画作成と内容の取り扱い	特別活動の課題を整理し、その指導計画の作成には配慮すべき事項があることを理解する。それによって創意工夫や自主的・実践的な活動がより展開されやすくなることを学修する。					テキストP104～112のノート作り。事後は議論をまとめる（4時間）				
14	模擬授業による演習	作成した指導案を下に模擬授業を行い、その実践について熟議する。					テキストP113～120のノート作り。事後は議論をまとめる（4時間）				
15	特別活動の時数と国旗・国歌の取り扱い等、配慮事項について	行事などでの国旗の掲揚と国歌の斉唱の指導について理解するとともに、年間の取り扱い時数や評価のあり方について具体的に考える。					テキストP121～128のノート作り。事後は議論をまとめる（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 特別活動編（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。）						定期試験：70% 出席レポート：30% S：十分に知識的に理解し、授業中のグループ討議やそのレポートで自身の考えを述べることができる。A：知識的理解がおおむね可能で、積極的に体験参加ができ、レポートが充実している。B：知識的理解がおおむね可能で、体験内容をレポートできる。C：学んだ知識をもとにして、自身の特別活動の体験を意味づけることができる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「キーワードで学ぶ 特別活動 生徒指導・教育相談」有村久春著（金子書房） ISBN：978-4-7608-2342-0						誰もが体験してきた特別活動ではあるが、その教育的意義はなかなか理解されにくい。しかし、特別活動が学校教育のメインディッシュとなる意義とその方法を、事例や議論によって学んでほしいと思います。					

科目名	教育方法論（初等）			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	AA15021	研究室	A-15
担当者	羽田 行男・狩野 浩二・安達 一寿			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
<p>小学校教育における教育の方法の基礎を学修します。教育方法の基礎的理論に関して、教育学及び心理学の視座に立って理解します。その上で、学習指導の原理と方法について、学習教材、学習形態、相互交流の観点から考察します。また、情報メディアの活用を通して、これからの授業実践のあり方についても考えます。最後に、授業の質を高めるための授業研究と授業改善のあり方について、構造的にとらえます。</p>											
学修到達目標											
教育方法に関する基本的な理論を学習するとともに、これらの理論に基づいた具体的な実践方法についても修得している。											
授業の進め方											
講義形式の授業に加えて、学習内容によってはグループワークやアクティブラーニングなどの授業形態も取り入れます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	はじめに	本科目の目的と授業指針について理解します。教育方法について問い直すとともに、小学校教育における教育の方法に関して具体的に考えます。（羽田）					小学校における学びを振り返り、レポートを作成する。（4時間）				
2	教育方法の理論と歴史1	教育方法の歴史について学びます。教授法について歴史的な文脈の中でとらえるとともに、それらの理論的な特徴について比較検討することを通じて、教育方法に関する理解を深めます。（羽田）					配布プリントを読み、レジュメを作成する。（4時間）				
3	教育方法の理論と歴史2	発達心理学にもとづいた学習の過程について学習します。ピアジェやヴィゴツキー等の発達理論について学ぶことをとおして、児童期における学習の特質について考えを深めます。（羽田）					配布プリントを読み、レジュメを作成する。（4時間）				
4	教育方法の理論と歴史3	認知心理学にもとづいた教授・学習理論について学習します。具体的には、素朴概念・メタ認知・条件付けによる学習・観察による学習・自己強化による学習等に関する理論を学び、知見を広げます。（羽田）					配布プリントを読み、レジュメを作成する。（4時間）				
5	学習指導の原理と方法1	教材・教具の理論と学習の成立要件について教授学の理論と実践をもとに学習します。教材とは何か、教材を解釈するとはどのようなことなのかを実際の授業を素材として考えます。（狩野）					配付資料および、示範授業映像を見て、学修事項をノートにまとめる。（4時間）				
6	学習指導の原理と方法2	学習形態に応じた教育方法を考察します。一般的な班学習と異なる学習形態論について、これからの時代に必要となるアクティブラーニングを素材にし、実践的に学びます。（狩野）					配付資料および、模擬授業を見て、学習形態論を考察し、ノートにまとめる。（4時間）				
7	学習指導の原理と方法3	授業における発話とコミュニケーションについて学びます。教師のことばの四形態と竹内敏晴による発話のワークショップを経験します。子どもに落ちる言葉について、考えます。（狩野）					ワークショップに参加し、教師のことばの意味を学び、日々の生活に生かす。（4時間）				
8	中間のまとめ	参考資料等にあたり、学修内容の統合を図ります。受講生が自ら学んだことを基にし、模擬授業を行ったり、討論したりする活動に取り組みます。必要に応じて、担当者からアドバイスをを行います。（狩野）					ワークショップに参加し、学修の整理を行い、学修事項をノートにまとめる。（4時間）				
9	教育メディアとコンピューターの活用1	情報教育、及びICT活用の教育に関する理論と現在の施策動向について学習します。その中で、教具及び教育メディアの特性に関して把握し、効果的な教育メディアの活用方法について検討します。（安達）					配付資料やインターネットで関連情報を検索し、課題をノートにまとめる。（4時間）				
10	教育メディアとコンピューターの活用2	学習指導要領にあるICT活用内容・方法に関して整理し、授業及び学習活動のデザインと導入について、事例研究をおこします。また、デジタル教科書や電子黒板の導入状況や活用例を検討します。（安達）					配付資料やインターネットで関連情報を検索し、課題をノートにまとめる。（4時間）				
11	教育メディアとコンピューターの活用3	ICTを活用した場合の教育効果、ICTとアクティブラーニングの関係、プログラミングなど新しいICT活用とその課題に関して学習し、教師として必要な力とは何かを検討します。（安達）					議論を通して課題を明確にし、自らの課題を整理し、レポートにまとめる。（4時間）				
12	授業研究と授業改善1	教材内容の提示とプレゼンテーションについて学びます。視覚、聴覚、触覚、味覚などの感覚により、教材はどのように受けとめられるのかについて、具体的な事例をもとに考察します。（狩野）					配付資料および、示範・模擬授業を通して、教材の提示方法についてノートに省察する。（4時間）				
13	授業研究と授業改善2	アクティブラーニングの方法と技術について学びます。個別・相互・組織学習により、児童が主体的、自主的に学習するために、課題の設定が必要となります。それらを相互学修により追究します。（狩野）					配付資料および、相互学修の成果をノートに整理する。（4時間）				
14	授業研究と授業改善3	アクティブラーニングの評価と改善について学びます。児童の瞬間瞬間に現れるしぐさや表情、つぶやきなど授業展開を劇的に向上させる契機はどのように把握できるのかを具体的な授業を通じて考えます。（狩野）					配付資料、示範授業を通してアクティブラーニングの評価と指導改善について省察する。（4時間）				
15	まとめ	本科目の振り返りと総括について、取り組みます。本講座の全体を振り返り、疑問点を整理し、さらに内容について小レポートを作成します。（狩野）					配付資料および、相互学修を通して、自己の課題を認識し、小レポートを作成する。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜、授業のなかで配布します。				<p>レポート：50% 小テスト：50%</p> <p>S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。</p>							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
<p>「教育の方法」佐藤学著（左右社） ISBN：978-4-903500-34-8 「学びの心理学」秋田喜代美著（左右社） ISBN：978-4-903500-85-0 「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）</p>				集中講義があるので、開講日程に注意すること。							

科目名	生徒指導・進路指導（初等）			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25022	研究室	A-18
担当者	川島 一夫・岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日4限、木曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	◎								
授業概要											
「生徒指導」とはなにか進路指導を含めて考えます。講義をし、小テストをすると同時に討論およびレポートの提出によって考えて行きます。教科書として、「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」をつかい、生徒指導について講義を進めて行きます。また、副読本の読書感想文提出後にグループでの討論も行う予定です。											
学修到達目標											
生徒指導および進路指導とは、何かということについての理解を深め、学校での児童生徒の問題行動に対応するための知識を身につける。											
授業の進め方											
教科書に従って講義を行い、数回の小テストを行います。副読本についてのレポートと討論も行い、レポートは、提出期日を遅れると受け取りません。レポートはワープロで提出してください。質問は、松大かわテラログで答えます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、生徒指導と進路指導を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。（川島・岸田）					本授業への期待と生徒指導について学びたいこと、学ぶべきだと考えることをレポートする（4時間）				
2	生徒指導・進路指導を考える	生徒指導・進路指導について学校での必要性を講義で理解し、学校における生徒指導・進路指導の実態やその大切さを理解します。その基本として従来の生徒指導・進路指導とこれからのあるべき生徒（川島）					自分の経験からの生徒指導をイメージして、そのとき気付きや思いをまとめる（4時間）				
3	発達を考慮した生徒指導・進路指導とはなにか	学習理論を応用した教室の行動変容を学校で応用するために、強化、報酬、罰、無視などのテクニカルタームの意味を学習し、その効果と生徒への影響を理解します。（川島）					生徒指導・進路指導に関連して「友達地獄」を読み感想文を書く（4時間）				
4	学習理論を応用した教室の行動変容	学習理論を応用した教室の行動変容を学校で応用するために、強化、報酬、罰、無視などのテクニカルタームの意味を学習し、その効果と生徒への影響を理解します。（川島）					学校における学習理論を応用した教室の行動変容の具体的な利用の事例を考えまとめる（4時間）				
5	討論と質問の回答読書感想レポート	課題図書①を読み、グループ学習による、討論を行います。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）					討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）				
6	学校におけるシステム・アプローチの利用	システム・アプローチが、対象をシステムという観点で捉え、階層性があることを理解します。その上で、学校でのシステムの理解を深めるために、家族や学校、友人集団などのシステムの中で、どのよ（川島）					授業で実施した小テストの復習をリフレクションペーパーにまとめる（4時間）				
7	発達障害の子どもたち：討論（発達障害児の進路指導を含む）	軽度発達障害児の心理を中心に、その基盤となる心理学・医学的な知識について講義します。軽度発達障害に関する学校で指導・支援と、将来に向けての進路指導の在り方を理解に努めます。（川島）					軽度発達障害について理解した上で、教育現場などで、より適切な対処が考えられる。（4時間）				
8	討論と質問への回答、発達障害の子どもたち	課題図書②を読み、グループ学習による、討論を行う。討論は、指定された項目に従って、各自の意見を述べる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）					討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）				
9	生徒指導と教育相談	生徒指導は教育相談や教育カウンセリングの理念や方法を活用します。（岸田）					テキスト第5章を読む。（4時間）				
10	不登校を考える	不登校を考える。教科書を使用しての講義と小テスト（岸田）					テストの回答と授業の振り返り（4時間）				
11	個別の課題への対応③「暴力行為」「性」	児童生徒の暴力行為や性に関する問題の実態を知り、その予防と保護者や地域との連携の在り方を学ぶ（岸田）					テキストⅡ第4節を読む（4時間）				
12	個別の課題への対応②「少年非行」	少年非行の定義と実態を理解し、その対応について学びます。その中で児童生徒と教員、児童生徒と保護（岸田）					テキストⅡ第4節を読む（4時間）				
13	個別の課題への対応⑤「命の教育と自殺」	児童生徒の自殺の実態や、命の教育の意義を学び、その予防と必要性を学びます。（岸田）					テキストⅡ第9節読む。（4時間）				
14	個別の課題への対応⑦「不登校」	不登校の定義と実態、これまでの施策の変遷などを理解し、個別の支援の在り方や効果的な支援の方法を学びます。（岸田）					テキストⅡ第12節読む。（4時間）				
15	生徒指導と進路指導	生徒指導の中でどのように進路指導を行うか考える。教科書を使用しての講義と小テスト（川島）					講義を通してのまとめ（4時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」川島 一夫、勝倉 孝治編著（ブレーン出版） ISBN:978-4892427367（生協で購入してください。） 「生徒指導提要」文部科学省 著（教育図書）（生協で購入してください。）					レポート：70% 小テスト：30% s:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「友だち地獄「空気を読む」世代のサバイバル」土井隆義著（ちくま新書） 「発達障害の子どもたち」杉山 登志郎著（講談社現代新書）					【重要】本を読んだのレポートと討論があります。締め切り日をすぎたレポートは一切受け取りません。大変ですが楽しみにしてください。						

科目名	教育相談（初等）		学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA25023	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘・川島 一夫		必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日3限、金曜日1限		
関連資格	小一種				履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	○	△	◎							
授業概要										
いじめ等の問題行動や不登校などの不適応行動、学級崩壊などに対して、それらが発生する背景や原因を考察するとともに、時代によってどのような教育施策がとられてきたのかを概観し、今日的な課題を明らかにします。その上でこれらの問題行動は発達過程で周囲の家族や友人、先生との人間関係の中で何らかの葛藤を抱えていることを学び、「受容」「共感」「自己一致」を基本概念としたカウンセリングの理論をもとに、教育相談の考え方やその方法について実践的に身につけます。										
学修到達目標										
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法についての知識を修得し、さらにより実践に対応できる実践力を身につけている。学校場面を中心にして、児童生徒や保護者からの相談と、教師側からの生徒指導上の面談場面なども想定して、理論と知識を駆使した実践の方法がわかる。										
授業の進め方										
この授業は、「講義形式」や「ロールプレイによる演習」、「グループによる討議」等で授業を行います。講義形式ではビデオ・パワーポイントによる講義を行い各章の終了後「小テスト」を行います。ロールプレイは相談の実践場面を想定したグループワークです。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	授業の説明とオリエンテーション	授業全体の流れを説明し、教育相談を学ぶために必要な、基礎となる知識についての概略を解説します。（川島）				本授業への期待と生徒指導について学びたいこと、学ぶべきだと考えることをレポートする（4時間）				
2	発達を考慮した教育相談を考える	教育相談の基礎的な知識としての児童生徒の発達について理解し、その過程で誰もが会おうであろう様々な発達課題とその対応について、事例を交えて考察します。（川島）				自分の発達課題を明確に自覚し、そのときの解決策を思い出し、レポートする（4時間）				
3	学校でのカウンセリングを考える①	教育相談とカウンセリングの違いを講義で理解し、学校における相談活動の実態やその大切さを理解します。その基本として来談者中心のカウンセリングについて詳しく学びます。（川島）				児童から先生への相談をイメージして、そのとき気付きや思いをまとめる（4時間）				
4	討議と質問の回答①	課題図書①を読み、グループ学習による、討論を行う。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）				
5	学校でのカウンセリングを考える②	学校で行われるカウンセリングには、来談者中心療法に基づく、カウンセリング・マインドやエンカウンターグループなどの基本的知識の応用が含まれることを学びます。（川島）				カウンセリングの理論を応用した学校での教育相談ではどのようなことが可能かを考える（4時間）				
6	討議と質問の回答②	課題図書②を読み、グループ学習による、討論を行う。討論は、指定された項目に従って、各自の意見をのべる。討論は、司会を決め、討論を行うために必要な技術も学びます。（川島）				討論の内容についてまとめ、討論を通して学んだことをまとめる（4時間）				
7	学校におけるブリーフセラピーの利用を考える	ブリーフセラピーを応用して間接的に褒めることを学ぶ。過去や現在の成功（例外）を探る、将来の成功（解決後のイメージ）、状態を数字で表す、本人の関与を尋ねる、の5つの方法を理解します。（川島）				学校におけるブリーフセラピーの具体的な利用の事例を考えまとめる（4時間）				
8	学校で孤立した児童・生徒を考える事例に学ぶ	教師だけでなく多様なリソースを活用して、良い雰囲気のカラス作り成功したケースを中心に学級づくりを学びます。（川島）				肯定的メッセージを活用して、良い雰囲気のカラス作りを考えレポートする（4時間）				
9	教育相談の演習① 保護者への対応（その1）	保護者から学校への苦情を想定して、3人グループで教育相談のロールプレイを行う。教師役、保護者役、観察者をそれぞれ体験して、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合う。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
10	教育相談の演習② 保護者への対応（その2）	前回と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。違う役割を体験して、新たな気づきをシェアしあう。さらに役割をローテーションして3人がすべての役割を担う。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
11	教育相談の演習③ 児童生徒への対応（その1）	前回と違うグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。教師役、児童生徒役、観察者の役割を体験し、シェアリングを通してそれぞれの体験を語り合い、新しい気づきを得る。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
12	教育相談の演習④ 児童生徒への対応（その2）	前回と同じグループで3人が役割を交代してロールプレイを行う。違う役割を体験して、新たな気づきをシェアしあう。さらに役割をローテーションして3人がすべての役割を担う。（岸田）				それぞれの役割を担ってみて、気付きや感想をレポートする（4時間）				
13	チームによる相談の進め方①	1対1の教育相談ではなく、その事例をチームにより組織として対応するためのヒューマンサービスの理論と方法を、演習を通して学びます。学校内外の援助資源や自助資源の有効活用の方と、支援会議の方法を学ぶ。（岸田）				配布される資料からヒューマンサービスの理論と方法をまとめ、事後はレポートする（4時間）				
14	チームによる相談の進め方②	学校内に限らず、地域の専門機関や保護者などとの連携支援の大切さを理解し、ヘルパーの考え方やシートを活用したアセスメントと支援策決定の方法を学びます。（岸田）				配布された事例について自分なりにアセスメントし、事後は支援策を立てレポートする（4時間）				
15	教育相談の意義と方法	教育相談活動の促進のために、教員の被援助志向性と教員集団の疎結合システムを理解し、これまでの学修内容を自分の相談活動にどのように生かしていくかをグループディスカッションする。（岸田）				ディスカッションの内容をレポートする（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「臨床心理学からみた生徒指導・教育相談」川島 一夫著勝孝 孝治編（おうふう出版） ISBN: ISBN-10: 4892427365 ISBN（生協で購入してください。）				レポート：60% 受講態度：40% S：内容を高度に理解し、グループディスカッションに積極的に参加しロールプレイでは役割演技によって受容や共感を十分に理解する。A：内容を理解し、相談のロールプレイでは役になりきって演技して新しい気付きを得る。B：内容をおおむね理解し、役割によって体験できる内容が違うことを理解する。C：内容を60%程度理解し、与えられた課題に対して誠実に取り組むことができる。						
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「実践スクールカウンセリング・学級担任ができる不登校児童・生徒への援助」田上不二夫著（金子書房） 「子ども虐待」西澤 哲著（講談社現代新書）				講義のみならず、体験によって学ぶことが多い授業です。グループワークを行い、シェアリングやグループ討議が中心になりますから、欠席せずに体系的に体験できれば深い学びが期待できます。						

科目名	国語科概論			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	AA15024	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めることは、私たちが豊かな言語活動を展開するために必要不可欠です。加えて子どもたちに対して国語への関心を高め、国語を尊重する態度を育てるためには、指導者が母語(日本語)に愛着心を抱き、日本語についての確かな知識を身につけることが大切です。指導者が言語感覚・能力を培い、自らの思考力・判断力・表現力を育成することが、子どもたちの感性や情緒を育て人間形成や社会参加につながっていくことを理解していきます。											
学修到達目標											
1 言語の機能としての国語の特質を理解し、説明できる。 2 教材としての「国語科」を理解し、論理的な思考力・表現力を身につけている。 3 我が国の言語文化を継承・発展させ、よりよい言語生活の実現に向け自らの国語力を伸ばすことができる。											
授業の進め方											
講義形式が基本です。講義内容の理解は音読で行います。講義に加えて演習や発表、板書を適宜取り入れます。必要に応じてペア学習やグループ討議を行います。小学校の教員として不可欠な言語力をつけるための指導をくり返し行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			講義全体の見通しを持ちます。				シラバスを読む。配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
2	詩の言葉と論理の言葉			文学的文章と論理的文章の特質について、それぞれの概要及び学校教育における指導の目的を知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
3	論理的文章とは何か			論理的文章の複数の種類を知り、文章の書き方の基本(報告文)と応用(小論文、意見文)を知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
4	論理的文章の構成要素			文章構成や段落、主要語句(キーワード)を理解します。特質としての名づけの重要性を知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。課題提出の準備をする。(4時間)			
5	論理とは何かー帰納的思考ー			論理的文章の特色のひとつである帰納的思考について理解します。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
6	論理とは何かー演繹的思考ー			論理的文章の特色のひとつである演繹的思考について理解します。命題とは何かを知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
7	具体と抽象			言語に認められる具体と抽象の背景や意義を知り、その違いを理解して運用します。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。課題提出の準備をする。(4時間)			
8	主語と述語			文学的文章と論理的文章における現れ方の異質性を理解します。文体とは何かを知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
9	粗い文章と詳しい文章			場面の役割や段落の働きにおいて、描写が表す意義を中心に理解を深めます。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
10	文学的文章の指導の目的			学校教育における文学的文章の指導の目的を知り、物語や小説の特徴および指導の発達段階を知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。課題提出の準備をする。4時間)			
11	文学的文章の構成要素			学校教育における文学的文章の指導の目的を知り、文学的文章の主な構成要素を複数の作品を読むことを通して理解します。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
12	我が国の言語文化			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について理解します。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
13	平仮名と片仮名のなりたち、漢字、書写			平仮名と片仮名の成り立ち、漢字の成り立ちとそれぞれの特性を知る。書写の基本を知ります。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。課題提出の準備をする。(4時間)			
14	バイアス・ワード			図書館利用や読書感想文指導の実際を踏まえ、バイアス・ワードの特徴を知り、対立する表現とその背景について理解を高めます。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。(4時間)			
15	事実と感想・意見、まとめ			現在およびこれからの時代に、子どもたちに求められる言語力について、各種の調査から実態を知り、総括します。				配付資料等を読み、内容及び考察をまとめる。定期試験に向けて準備を行う。(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 国語編(新・旧)」(東洋館出版)(生協で購入してください。) 新・旧とも使用。 「わかりやすく伝える技術」池上彰著(講談社) ISBN:978-4062880039(生協で購入してください。) 「頭のいい子は音読と計算で育つ」川島隆太ほか著(二見書房) ISBN:978-4576152110。(生協で購入してください。) 「子どもの図書館」石井桃子著(岩波文庫) ISBN:978-4006022549(生協で購入してください。) 他2冊あり。掲示版で確認してください。				受講態度:20% 課題:40% レポート:10% 定期試験:30% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。「受講態度」とは毎回出すシート、考察文、発言・発表等です。欠席4回以上で単位を認定しません。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「新しい国語表記ハンドブック 第7版」三省堂編集所著(三省堂) 「漢字筆順ハンドブック 第3版」江森賢治著(三省堂) その他は講義中に適宜紹介します。				欠席・遅刻2回で1回の欠席になり、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。座席指定です。課題は手書きやメソッドによる提出です。原稿用紙は指定のものを生協で購入してください。他の文具類等は第1回で説明します。							

科目名	社会科概論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25025	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校教育の中で、社会科はどんな位置付けなのか、そしてどんな理論で指導していけばよいのかについて学びます。さらに、各学年の学習内容に合った教材の配列や知識の構造について知ることで、社会科教育を理解する基礎を身に付けていきます。											
学修到達目標											
教科としての小学校社会科の位置付けを理解している。また、社会科学学習理論や各学年の目標や内容等を理解し、授業の組み立てに必要な教材研究の進め方の基礎を身に付けている。											
授業の進め方											
講義の他、児童役となつての模擬授業やロール・プレイング、シミュレーション等、アクティブ・ラーニングの視点を用いた場面を必要に応じて取り入れ行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	社会科の概要	小学校教育の中での社会科の位置付けについて学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
2	社会科の歴史	小学校社会科学学習指導要領の変遷について学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
3	社会科と他教科(1)	社会科と他教科との関連について学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
4	社会科と他教科(2)	社会科と総合的な学習の時間との違いについて学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
5	学習理論(1)	社会科学学習理論についてについて学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
6	学習理論(2)	公民的資質が示すものについて学びます。					要領解説及び資料について整理し、理解を深めておく。(4時間)				
7	3・4年の扱い(1)	第3学年及び第4学年社会科「地域学習」の目標・内容及び単元計画について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
8	3・4年の扱い(2)	第3学年及び第4学年社会科「地域学習」で扱う知識の構造について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
9	5年の扱い(1)	第5学年社会科の目標・内容及び単元計画について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
10	5年の扱い(2)	第5学年「国土学習」で扱う知識の構造について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
11	5年の扱い(3)	第5学年「産業学習」で扱う知識の構造について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
12	6年の扱い(1)	第6学年社会科の目標・内容及び単元計画について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
13	6年の扱い(2)	第6学年「歴史学習」で扱う知識の構造について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
14	6年の扱い(3)	第6学年「政治学習」で扱う知識の構造について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
15	6年の扱い(4)	第6学年「国際理解学習」で扱う知識の構造について学びます。					教科書及び要領解説の関連する範囲について読み、内容を理解すること。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領解説 社会編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。) 「新しい社会6年(上)(下)」北俊夫他著(東京書籍)(オリエンテーションで購入してください。)					定期試験:50%、受講態度:20% レポート:30% S:小学校社会科学学習理論を活用し、各学年の発達段階に応じた適切な発問や指示を具体的に想定でき、さらに各学年で扱う内容や発問を理解している。A:小学校社会科学学習理論を用いて発問を想定でき、さらに各学年で扱う内容や発問を理解している。B:小学校社会科学学習理論や各学年で扱う内容や発問を知っている。C:小学校社会科の各学年で扱う内容や発問を知っている。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「社会科固有の授業理論・30の提言ー総合的学習との関係を明確にする視点」岩田一彦著(明治図書) ISBN:978-4184543133					小学校教員養成の目的のため、児童役となり役割演技を行う場面もありますが、そのような場面では特に積極的な姿勢で臨むことを求めます。						

科目名	算数科概論			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	AA15026	研究室	A-03
担当者	増田 吉史			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限、木曜日1限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
<p>数学的思考法の指南書として愛され続けてきたポリア『いかにして問題をとくか』を教科書に、実際に問題解決をしていきます。中学校で数学嫌いになった経験がある学生には、その原因がわかるかもしれない興味深い内容の本です。1954年に刊行してから半世紀以上、日本でも算数数学教師を目指す者たちのバイブル的存在であり続けてきました。多くの有名な問題解決問題を厳選するので、それに挑戦していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>学生自らが主体的に教科書であるポリアの『いかにして問題をとくか』を読み進め、小学校学習指導要領解説算数編にも常にふれ、算数教育の本来の姿を求め、子どもが数学的な概念や、数学的な考えを獲得する過程を知り、小学校算数科の内容と関連づけたり説明できたり、問題解決学習の重要性を修得している。</p>											
授業の進め方											
<p>ポリアの『いかにして問題をとくか』や小学校学習指導要領解説算数編を読みながら、多くの有名な問題解決問題に挑戦し、実際に自ら問題解決を行い実感しながら進めていきます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	問題解決に取り組み、問題理解段階の指導の在り方を考えよう。	学校における算数数学の役割について考えます。					「学生を助けること」など、テキストP15まで読み進みます。（4時間）				
2	問題理解段階の指導の在り方を考えよう。	学習指導要領における算数数学の概要をつかみます。					「問題を理解すること」など、テキストP30まで読み進みます。（4時間）				
3	問題理解段階の指導の在り方を考えよう。	幼児からの経験と算数数学の関係を考察します。					「計画の仕方」など、テキストP45まで読み進みます。（4時間）				
4	問題解決に取り組み、計画段階の指導の在り方を考えよう。	いかに問題を解くか、実際の指導の在り方を学びます。					「計画の実行の仕方」など、テキストP60まで読み進みます。（4時間）				
5	計画段階の指導の在り方を考えよう。	問題解決に挑戦し、数学的活動を体験します。					「実行を振り返る」など、テキストP75まで読み進みます。（4時間）				
6	計画段階の指導の在り方を考えよう。	問題解決を通して数学的活動を体験します。					「発見的学習」など、テキストP90まで読み進みます。（4時間）				
7	問題解決に取り組み、計画の実行段階の指導の在り方を考えよう。	数と計算領域の問題解決の実際を知ります。					「帰納的な考え方」など、テキストP105まで読み進みます。（4時間）				
8	計画の実行段階の指導の在り方を考えよう。	図形領域の問題解決の実際を知ります。					「帰納的な考え方」など、テキストP120まで読み進みます。（4時間）				
9	計画の実行段階の指導の在り方を考えよう。	測定領域の問題解決の実際を知ります。					「演繹的な考え方」など、テキストP135まで読み進みます。（4時間）				
10	問題解決に取り組み、振り返り段階の指導の在り方を考えよう。	データの活用領域の問題解決の実際を知ります。					「問題がとけなかつたとき」など、テキストP150まで読み進みます。（4時間）				
11	振り返り段階の指導の在り方を考えよう。	和算に挑戦し、算数教育の歴史に触れます。					「パズル的問題」など、テキストP165まで読み進みます。（4時間）				
12	振り返り段階の指導の在り方を考えよう。	和算に挑戦し、算数教育の歴史に触れます。					「パズル的問題」など、テキストP180まで読み進みます。（4時間）				
13	練り上げ段階の指導の在り方を考えよう。	教員採用試験（一般教養や専門教養）でよく出る問題を通して、学びをまとめます。					「回答の質」など、テキストP195まで読み進みます。（4時間）				
14	練り上げ段階の指導の在り方を考えよう。	何のための数学かにも触れます。					「よい思いつき」など、テキストP210まで読み進みます。（4時間）				
15	問題解決に取り組み、まとめ段階の指導の在り方を考えよう。	学習を振り返りとまとめをします。					「予想する力」など、テキストを最後まで読み進みます。（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
<p>「いかにして問題をとくか」 G.ポリア 柿内賢信訳著（丸善出版） ISBN: 978-4-62104593-0（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領解説 算数編（新）」（日本文教出版）（生協で購入してください。）</p>						<p>小テスト：40% レポート：40% 定期試験：20% S:授業内容を高度に理解し子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解し探求姿勢をもって課題に取り組み教科書を読み進められる。A:授業内容を理解し子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解し探求姿勢をもって教科書を読める。B:授業内容を理解し子どもの発達段階に応じた育ちのあり様を理解し教科書に誠実に取り組んでいる。C:授業の内容の60%程度を理解し与えられた課題に誠実に取り組み教科書を読む努力をしている。</p>					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
<p>「何のための数学かー数学本来の姿を求めて」モーリス・クライン著（紀伊国屋書店）</p>						<p>算数・数学の真の学力とは何かという問題意識を持って授業に参加するようにしてください。</p>					

科目名	自然科学概論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25027	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日5限、水曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
身近に見られる自然現象に潜む自然の法則や科学の本質を体験的に理解します。また、「ろうそくの科学」(ファラデー)を通読し、科学者の姿勢を感得したり、科学史の歩みを追体験したりします。											
学修到達目標											
自然の事物・現象に興味をもち、人として謙虚かつ素直に自然と向き合うことや、科学的に探究することの有用性を、実感を伴って理解することができる。											
授業の進め方											
実際に自然体験をしたり、簡単な実験をしたりして、疑問をもつことの大切さや、それを追究することの楽しさを体感しながら進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	風車の不思議	風車が見せる様々な事象から、力のモーメントについて考えます。					身近な物を利用して風車を作ってみる(4時間)。				
2	電気の消費、発電、蓄電	電気を発電したり、蓄電したりすることを通して、エネルギーを利用することについて考えます。					身の回りから、電気を利用している実態について調べる(4時間)。				
3	磁石の力	様々な種類の磁石を操作して、磁石の性質と磁化について考えます。					身の回りから、磁石を利用している実態について調べる(4時間)。				
4	空気の性質	空気砲ロケットや、空気でっぽう等を作ることを通して、空気の性質や質量保存の法則等について考えます。					よく飛ばす空気でっぽうの仕組みについて考える(4時間)。				
5	浮くもの 沈むもの	身の回りの様々な物を水に浮かべたり、沈めたりして比べることを通して、物質の密度について考えます。					身近な物の内から、浮くもの、沈むものについて調べる(4時間)。				
6	「とける」ということ	様々な物を溶かしたり、析出させたりして、溶解度と質量保存について考えます。					食塩が水に溶けるときのイメージ図を書く(4時間)。				
7	「蒸発する」ということ	沸騰による蒸発と自然蒸発との違いを比べたり、水の循環について考えたりします。					地球上で水があると思われる全ての場所を図に書く(4時間)。				
8	「燃える」ということ	ろうそく作りや炎の観察等の活動を通して、酸化の概念やそれにまつわる科学史について学びます。					「ろうそくの科学」を通読する(4時間)。				
9	人や動物の骨と体のつくり	骨格の比較や、簡単な解剖を通して、生命の進化について考えます。					生物を一つ取り上げ、その進化の系統図を書く(4時間)。				
10	バランスドアクアリウム	小さな水槽の中でメダカが生き続けることが出来る環境を作ることを通して、生態系と食物連鎖について考えます。					メダカの生態や飼育方法について調べる(4時間)。				
11	ジャガイモの成長	実際にジャガイモを育てたり、でんぷんを取り出したりすることを通して、炭素同化・炭素循環について考えます。					ジャガイモを育てる実験用教材園を準備したり、継続的に世話をしたりする(4時間)。				
12	月と太陽の観察と気象	1月1日に初めて登る月が、いつ、どの方角から、どんな形で昇って来るかをデータをもとに予測しましょう。					日々の天候の観察データや、気象データ等を集める(4時間)。				
13	上流と下流	上流と下流の様子を比べたり、流水の実験をしたりして、大地のつくりと水のはたらきについて考えます。					洪水災害の歴史について調べる(4時間)。				
14	地球温暖化	南極観測の様子から、地球温暖化について考えます。					日本の南極観測隊の研究活動について調べる(4時間)。				
15	講義の総括	身近な自然現象について、素朴な疑問を大切にしたり、科学的な理解を深めたりすることの大切さについて考えます。					身近な自然を教材化するアイデアを挙げる(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 理科編(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)				レポート:40% 小テスト:40% 受講態度:20% S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「教材研究の事典」丸本喜一著(初教出版) 「問題解決の深化」日本初等理科教育研究会著(初教出版) 「南極大図鑑」国立極地研究所編(小学館)				簡単な観察・実験に取り組んだり、身近な物で科学工作をしたりすることに対して積極的な参加が望まれます。準備物や服装等についてはその都度お知らせします。							

科目名	生活科概論			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	AA15028	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳・秋田 真			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日2限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
生活科の学習中に見られる子どもの姿から、生活科とはどのような教科であるかを考察します。前半では、子どもの学習活動を追体験して多様な気づきから新たな価値を生み出す子どもの姿をとらえながら授業方法を具体的に検討します。後半では、身近な人々や社会とのかかわりを子どもにもたせる授業の在り方について取り上げ、理解を深めます。											
学修到達目標											
教科としての生活科の位置付けを理解し、人が身近な社会や自然、他者と関わりながら成長していくことの大切さを、実感を伴って理解することができます。											
授業の進め方											
地域探検や飼育栽培、ものづくり、実際の授業風景VTRの視聴等、具体的な活動や体験を通して気づきを深めたり、集団討論を通して深めたりします。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	生活科とは何か	徹底した子ども理解を行い、子どものすごさを見出します。（澤柿）					学習指導要領解説編＝生活科＝に目を通す(4時間)。				
2	生活科の学習活動	「活動から学ぶこと」と「はいまわる活動」との違いを比べて考えます。（澤柿）					生活科の教科書に目を通す(4時間)。				
3	生活科における話し合い	話し合いを契機に自立への基礎に迫っていく具体的な姿をとらえましょう。（澤柿）					「自立への基礎」について調べる(4時間)。				
4	生活科における授業者の役割	子ども主体の生活科の中で授業者は何をすべきか、授業者の出場を見極めましょう。（澤柿）					自分ならどんな学習活動を仕組みか構想してみる(4時間)。				
5	生活科の評価	学習活動を自立への基礎へとつなげるための評価方法について考えます。（澤柿）					「自立への基礎」や「生きる力」はどう評価するか、考えを整理しておく(4時間)。				
6	生活科における子どもの発達と成長	生活科の学びを通して子どもが自信をもち自尊感情を高めていく具体を学びます。（澤柿）					自分が小学生だった頃の生活科の学習について振り返る(4時間)。				
7	生活科と総合的な学習の時間	「探究的に学ぶ」ことについて、低学年の学びと中・高学年の学びを比較しながら考察します。（澤柿）					生活科と総合的な学習の時間の類似点と相違点を整理する(4時間)。				
8	講義の総括	人が成長する段階に必要な学びの在り方について考えます。（澤柿）					生活科と他教科・領域等との類似点と相違点を整理する(4時間)。				
9	生活科の内容	生活科における「主に自分と人や社会との関わり」の内容構成及び視点について考えます。（秋田）					生活科の内容構成について調べる(4時間)。				
10	教科書分析(1)	1学年における自分と人や社会との関わり合いについて考えます。（秋田）					自分と人や社会との関わり合いについて調べる(4時間)。				
11	教科書分析(2)（秋田）	2学年における自分と人や社会との関わり合いについて考えます。（秋田）					自分と人や社会との関わり合いについて調べる(4時間)。				
12	生活科における思考と表現	自分と人や社会との関わり合いにおける思考と表現の一体化について考えます。（秋田）					「思考と表現の一体化」について調べる(4時間)。				
13	生活科の実践事例(1)	複数学年及び校種を跨いだ生活科の実践について考えます。（秋田）					自分が小学生だった頃の生活科の学習について振り返る(4時間)。				
14	生活科の実践事例(2)	公共物や公共施設を生かした生活科の実践について考えます。（秋田）					自分が小学生だった頃の生活科の学習について振り返る(4時間)。				
15	生活科の在り方	自分の成長を認識させる生活科の在り方について考えます。（秋田）					子どもの成長過程における生活科の役割について考える(4時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 生活科編（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。）						レポート：40％ 定期試験：40％ 受講態度：20％ S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
授業VTR、授業実践記録、ワークシート						地域探検や飼育栽培、ものづくり、VTRの視聴等の活動や、集団で討論する体験的な内容に積極的に参加する姿勢が求められます。					

科目名	英語科概論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25029	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		○		△						
授業概要											
小学校外国語活動のあり方を知り、その背景にある理論を学びます。また実際にその活動が英語のみで行えるようにします。またその際には小学校と中学校・高等学校接続について考え、小学校外国語活動の在り方を理解します。											
学修到達目標											
小学校外国語活動のあり方を知り、どのような理論により児童の活動が支持されているか、どのように児童は活動に取り組んでいくかを理解している。また実際にそれらの活動が英語で行うことができる。											
授業の進め方											
学習内容に応じ、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション 外国語教育の意義 概要	外国語教育は日本ではどのように行われているのか、また外国語教育の目的とは何かを理解する。					教科書を再読し、理解を深めておく。事例に関し自分自身の考えを明確にしておく。（4時間）				
2	外国語教育の意義 詳細	外国語教育の目的を理解する。また小学校での外国語活動の在り方はどのようにあるべきかを理解する。					教科書を再読し、理解を深める。小学校外国語活動の在り方に関し考えを明確にする。（4時間）				
3	外国語活動導入の経緯、現状と展望	外国語活動のこれまでの導入に関する経緯を理解し、今後の外国語活動の在り方について、外国語教育の観点から理解する。					教科書を再読し、理解を深める。外国語教育の継続的在り方に関し考えを明確にする。（4時間）				
4	小学校の外国語活動で目指すもの	小学校外国語活動で実際にどのようなことを目指し、児童に身につけさせていくかを理解する。各段階における外国語教育の在り方について理解する。					教科書を再読し、外国語教育とコミュニケーションの在り方について考えを明確にする。（4時間）				
5	英語教育全体における小学校外国語活動の役割	小学校外国語活動の在り方を、英語教育全体から考え、どのように教えていくか、どのような力を育成していくかを理解する。					教科書を再読し、英語教育全体においての外国語活動について考えを明確にする。（4時間）				
6	海外の初等外国語教育	海外での初等外国語教育を理解し、日本の言語策について理解を深める。					教科書を再読し、海外の初等外国語教育と日本のそれと比較し、今後の在り方を考える。（4時間）				
7	言語習得理論—母語の習得と第二言語習得 母語	自分自身の母語習得に関し考え、母語の言語獲得理論を深く理解する。また児童の言語習得環境についても理解を深める。					教科書を再読し、母語習得理論に関し深く理解し、応用できるようまとめる。（4時間）				
8	言語習得理論—母語の習得と第二言語習得 第二言語	母語とは違う第二言語習得の理論を理解する。また第二言語習得に関する諸条件や、日本の第二言語習得の環境を理解する。					教科書を再読し、第二言語習得理論に関し深く理解し、授業に応用できるようまとめる。（4時間）				
9	基本的な外国語指導法	いくつかある外国語指導法の基本的なものを理解し、実際に使用できるようにする。					外国語指導法に関し、教室で実際に英語を用いて実施できるようにしておく。（4時間）				
10	評価の意義と評価方法	実際に児童に授業を行う際に、どのように行っていけばよいかの基本を理解する。またその際にどのような点を常に心がけ、授業を行っていくかについて理解する。					授業を実施する際に、留意ポイントが反映させるように授業ができるようにしておく。（4時間）				
11	指導の基本と留意ポイント	実際に児童に授業を行う際に、どのように行っていけばよいかの基本を理解する。またその際にどのような点を常に心がけ、授業を行っていくかについて理解する。					授業を実施する際に、留意ポイントが反映させるように授業ができるようにしておく。（4時間）				
12	学習指導案作成	指導案作成の基本的流れとその在り方を理解する。またこれまでの理解が十分に反映できるようにする。					これまでの理解を指導案に反映し作成する。教科書の理解を再度確認しておく。（4時間）				
13	模擬授業	作成した指導案が実際に使用可能であるか、またその内容が適切であるかを実際に授業を行い検証する。					授業を振り返り、再度指導案を作成する。授業の在り方についてまとめる。（4時間）				
14	求められる教員の資質	外国語活動を教える教員として、どのような資質が必要であるかを理解する。またどのような態度で授業に臨むかを理解する。					外国語活動の教員の資質を理解し、それらを向上する方法を考え実施する。（4時間）				
15	全体まとめ	これまでの理解をまとめ、自分自身がどのように授業を行っていくかを考え、実践できるようにする。					これまでの理解を振り返り、英語で外国語活動の授業ができるようにする。（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫・金森強著（成美堂） ISBN:978-4791971541（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領（新・旧）」（新：東洋館出版社、旧：東京書籍）（生協で購入してください。） 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編（新・旧）」（東洋館出版）（生協で購入してください。） 「中学校学習指導要領（新・旧）」（東山書房）（生協で購入してください。） 他2冊を指定します。掲示や初回授業で確認してください。						受講態度：10% 小テスト：20% レポート：20% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「小学校外国語活動における評価法の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所教育課程研究センター著（教育出版） 他3冊を指定します。掲示や初回授業で確認してください。						原則、欠席は2回までです。 参考書は指示があるまで購入しないようにしてください。					

科目名	音楽（歌唱）			学年学期	1年前期	単位数	1	ナンバリング	AA15030	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	必修	科目種別	実技	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		◎								
授業概要											
音楽の基礎的な知識として楽典や読譜力を身に付け、様々な楽曲の歌唱を通して音感やリズム感を体験的に学んでいきます。ただ歌うだけではなく、動く活動や遊び等を取り入れながら、豊かな音楽表現を探究していく授業です。											
学修到達目標											
小学校教諭として必要とされる、音楽の基礎的な知識から簡単な楽譜を読むことができ、歌唱や身体・リズム活動による豊かな音楽表現ができる。											
授業の進め方											
学習内容によって、講義（課題ワーク）と実技（個人、パート、全体）、またグループによる創作や発表会など、様々な形態で行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	オリエンテーションとしてアンケートや自己紹介、授業の進め方について説明します。「うたはともだち」からリクエスト唱をしたり音あそびしながら体と心を開放します。					高校までの音楽経験について整理しておく(1時間)				
2	楽譜の基礎 音名と階名	五線の理解とト音記号の楽譜の読み方を学び、音高を意識して音感を付けていきます。春の歌を中心に曲によっては身体活動も取り入れて歌います。					課題ワークの復習(1時間)				
3	リズムの理解 拍子と音価	リズムの基礎を学び、拍子と音価を理解してリズム譜の読み方を練習します。また動く活動を通して身体全体で拍感を習得していきます。					課題ワークの復習(1時間)				
4	リズム活動	リズム模倣やリレーなど簡単なリズム創作や言葉によるヴォイスアンサンブルも経験します。					課題ワークの復習(1時間)				
5	ボディーパーカッション	リズムにあわせて歌いながら動いたり、ボディーパーカッションを行います。強弱、速度などの変化も感じながら習得します。					課題ワークの復習(1時間)				
6	わらべ歌 あそび歌	様々なわらべ歌やあそび歌を発表しながら全員で共有していきます。その中にどんな音楽的要素が含まれているのかを習得していきます。					子どもの頃のわらべ歌や遊び歌について整理しておく(1時間)				
7	長音階と調性について	中学年の歌唱共通教材を中心に、長音階の仕組みを理解し、へ音記号についても扱います。					課題ワークの復習(1時間)				
8	和音の理解 夏の歌	主要三和音とコードネームについて理解します。音の重なりを感じながら旋律と和声の関係を習得します。					課題ワークの復習(1時間)				
9	音の重なりを感じた重唱	中・高学年の歌唱教材を用いて輪唱、カノンなど様々な音の重なり方を知り、重唱します。合唱にも取り組みます。					課題ワークの復習(1時間)				
10	グループアンサンブルの創作と合唱	今まで学習してきた内容を応用して、グループアンサンブルを創作します。合唱はパートを決め音取りをします。					グループに必要な準備 合唱の練習(1時間)				
11	グループアンサンブルの創作と合唱	グループアンサンブルの創作、合唱はパート練習をします。					グループに必要な準備 合唱練習(1時間)				
12	グループアンサンブルの練習と合唱	グループアンサンブルの練習と合唱のパート練習をします。					自分のパートの練習(1時間)				
13	グループアンサンブルの練習と合唱	合唱は指揮者、伴奏者を決め全体で練習します。					グループに必要な練習(1時間)				
14	グループアンサンブルと合唱の仕上げ	発表演奏会に向けて、各グループアンサンブルと全体合唱を仕上げます。また授業のまとめとして楽典の課題ワークの復習をします。					各自必要な練習 課題ワークの復習(1時間)				
15	発表演奏会	プログラムに沿って発表演奏会を行います。					発表演奏会の感想レポート 課題ワークの復習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「歌はともだち5訂版」教芸音楽研究グループ編（教育芸術社）（生協で購入してください。）					受講態度：40% 定期試験：30% 実技：30% S:探求姿勢を持って意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解し豊かな歌唱表現ができる。A:探求姿勢を持って取り組み、授業内容を理解し歌唱表現できる。B:探求姿勢を持って取り組み、授業内容を概ね理解し歌唱表現できる。C:課題に取り組み理解しながら歌唱できる。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「小学生の音楽1～6」小原光一他著（教育芸術社）					音楽は誰もが楽しめる活動であることを実践的に経験できるよう、いつでも動ける準備をして、積極的に臨んでください。楽典は小中学校の内容を中心に復習しますが、わからないことはいつでも質問してください。						

科目名	音楽（器楽）			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	AA15031	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	選択	科目種別	実技	オフィスアワー	火曜日4限、水曜日2限、木曜日2限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校で扱う様々な楽曲を中心に、ピアノ、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、リズム打楽器など様々な楽器に触れ体験していきます。楽器の違いや奏法による音色の違いにも触れながら演奏技能と感性を養い、アンサンブルを通して他者と共感する喜びを味わう授業です。											
学修到達目標											
小学校教諭として必要とされる音楽の基礎的な知識と読譜力を養い、様々な楽器の奏法を学び演奏できる。そしてアンサンブルを通し自分以外の音にも耳を傾け協働的で豊かな音楽表現を探究することができる。											
授業の進め方											
学習内容に沿って、全体で様々な楽器を扱いながら奏法の確認とリズム譜や旋律譜、へ音記号の楽譜やコードネームを読みながら演奏することができるよう進めていきます。課題ワーク、アンサンブル活動の他、各自のレベルに合った曲を選択して発表します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			オリエンテーションと前期の楽典の復習をします。楽器について分類し体験していきます。秋の歌も歌います。				楽典の復習（1時間）			
2	リズム楽器とリコーダーの演習			簡易リズム楽器とリコーダーの奏法を習得しアンサンブルをします。低学年の歌唱教材に応用して実践していきます。				課題曲の練習（1時間）			
3	リコーダーと鍵盤楽器の演習			歌唱共通教材の旋律を鍵盤ハーモニカやキーボード、アコーディオンで練習します。拍子やリズムに注意し鍵盤の位置と指使いについて習得します。				課題曲の練習（1時間）			
4	リコーダーと鍵盤楽器の演習			奏法による音色の違いや#bなどの理解を深め、簡単なアンサンブルをします。				課題曲の練習（1時間）			
5	トーンチャイムと和音			和音の復習とともに短調とマイナーコードについても学びます。トーンチャイムで音の重なりを感じながら鍵盤楽器やリコーダーと簡単なアンサンブルをします。				課題ワークの復習（1時間）			
6	器楽アンサンブルの構成			既習の楽器に木琴、鉄琴なども加え、グループに分かれて簡単なアンサンブルをします。楽器の組み合わせやパートの役割を考えてアンサンブルを構成します。				課題曲の練習（1時間）			
7	和楽器について			和太鼓や篠笛、雅楽に用いられる楽器を紹介し簡単な演習を行います。日本の音階についても学びます。				課題ワークの復習（1時間）			
8	ギターの演習とコードネーム			ギターの仕組みと、セブンスなどのコードネームや循環コードについて学びます。				課題曲の練習（1時間）			
9	各自楽器の演習			各自のレベルに応じてコンサートに向けて楽曲を決め、練習します。				課題曲の練習（1時間）			
10	コンサートに向けての練習			キーボードアンサンブル、リコーダーアンサンブルなどグループごとの練習をします。				課題曲の練習（1時間）			
11	コンサートに向けて全体合奏			各グループアンサンブルと全体合奏の練習をします。				課題曲の練習（1時間）			
12	全体リハーサル			発表会のプログラム順に出入りを含めてリハーサルを行います。				各自必要な練習（1時間）			
13	発表演奏会			全体で発表会を行います。終了後振り返りをします。				各自必要な練習 発表演奏会後の感想レポート（1時間）			
14	楽典の復習と冬の歌			高学年の歌唱共通教材を用いて、コードネームを中心に楽典の復習をします。				課題ワークの復習（1時間）			
15	学習のまとめと試験に向けて			学習のまとめとして調性と伴奏法などの総復習をします。				課題ワークの復習			
テキスト					成績評価の方法・基準						
適宜プリントを配布する。					受講態度：40% 定期試験：30% 実技：30% S:探求姿勢を持って意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解し、豊かな演奏表現ができる。A:探求姿勢を持って取り組み、授業内容を理解し、演奏表現できる。B:探求姿勢を持って取り組み、授業内容を概ね理解し演奏表現できる。C:課題に取り組み理解しながら演奏表現できる。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「小学生の音楽1～6」小原光一他著（教育芸術社）					楽器の技能習得には日々の練習が欠かせません。授業時間外にも練習する時間を設定して頑張りましょう。わからないことはいつでも質問しに来てください。						

科目名	基礎造形 I			学年学期	1年後期	単位数	1	ナパリング	AA15032	研究室	非常勤
担当者	岡田 匡史			必修選択	選択	科目種別	実技	オフィスアワー			
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
本授業科目は、前半を鉛筆主体の素描課題、後半を水彩絵の具主体の着色課題で構成します。前半では写実表現の基礎をその原理から学び、後半では水彩絵の具の特徴に習熟しつつ色彩表現の基礎を学びます。											
学修到達目標											
図工美術題材の構構・開発に有益な鉛筆・水彩絵の具を中心とした諸課題を通じ、描画着色技法の系統的習得をしている。											
授業の進め方											
設定主題に基づく課題を各回行います。毎回の実技課題(作品)は撮影機器(デジカメ・携帯電話・スマホ等)で記録し、その画像を貼付した省察レポートを授業担当教員にメールで提出します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	2種類の絵と塗り潰し	オリエンテーションと基礎的な鉛筆実技					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
2	鉛筆で描く(多様な線)	基礎的な鉛筆実技(線の特徴)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
3	純粋&修正輪郭画法	基礎的な鉛筆実技(観察描写と認識変換)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
4	複雑な対象を描く	基礎的な鉛筆実技(輪郭[形]の抽出)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
5	明暗調練習	基礎的な鉛筆実技(グラデーション)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
6	消し具+鉛筆で描く(球)	応用的な鉛筆実技(明暗法[光と影]と三次元像)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
7	立体練習(円筒と円錐)	応用的な鉛筆実技(基礎的幾何形体の写実的描写)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
8	石ころを描く	応用的な鉛筆実技(モチーフの多角的観察と特徴記録)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
9	倒立像を使う逆転素描	応用的な鉛筆実技(変種的方法[逆様の真実])					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
10	一点透視図法に挑戦	応用的な鉛筆実技(室内コーナーの計測と再現)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
11	混色と重色	基礎的な水彩実技(色のサンプル表作成)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
12	点描練習	基礎的な水彩実技(筆触と反復)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
13	虹と滲み	基礎的な水彩実技(水彩絵の具の流動的特性)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
14	野菜を描く	応用的な水彩実技(モチーフの多角的観察と賦彩[色彩表現])					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
15	果物を描く	応用的な水彩実技(素描と着色, 2段階の総合)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
特になし。				課題:60% レポート:35% 受講態度:5% S:授業内容を高度に理解し、旺盛な創造意欲と密度濃く考える熱心な探求姿勢をもって課題に取り組み、群を抜くと判断できる緻密で充実した学習成果を示す。A:授業内容を良く理解し、創造意欲と積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、充実した学習成果を示す。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的を満たす学習成果を示す。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的をほぼ満たす学習成果を示す。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				レポート提出は、授業後、1週間以内。氏名・学籍番号等明記。指定件名(基礎造形1)で、担当教員宛(maokada@shinshu-u.ac.jp)添付送信。授業時に指示する材料・用具を準備・持参。撮影機材が毎回必要。							

科目名	基礎造形Ⅱ			学年学期	1年後期	単位数	1	ナンバリング	AA15033	研究室	非常勤
担当者	岡田 匡史			必修選択	選択	科目種別	実技	オフィスアワー			
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
毎回の授業内容は大きく次の4つのパートで構成されます。①主題理解を狙う概説(板書形式)。②提起された主題と係り系統的に配列した実技課題(メイン・パート)。③相互鑑賞。④映像資料鑑賞(パワーポイント)を主軸とした総括。											
学修到達目標											
図工美術題材の構想・開発に有益な造形原理的内容の理論的・体験的理解を深め、一連の実技課題を習熟している。											
授業の進め方											
系統的に組織した主題で各回進めます。毎回の実技課題(作品)は撮影機器(デジカメ・携帯電話・スマホ等)で記録し、その画像を貼付した省察レポートを授業担当教員にメールで提出します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	造形原理	オリエンテーション(授業計画の概説)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
2	インスタレーション	置く展開(並べる・積む)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
3	コンポジション	構成的展開(組む)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
4	作・造・創	工作活動(生き物を作る)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
5	ラッピング	梱包の面白さ(包む)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
6	カット&ペースト	切り貼り					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
7	糊貼り(物質篇)	身近材を使うコラージュ					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
8	糊貼り(イメージ篇)	印刷物を使うコラージュ					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
9	表面の凹凸記録	転写実験(フロッタージュ)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
10	偶然的痕跡の制御	絵の具の可能性(デカルコマニー)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
11	型押し(元祖版画)	反復型没入体験(スタンピング)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
12	音を聴き絵に表す	音楽感想画					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
13	生活圏の音の視覚化	音の風景(サウンドスケープ)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
14	連想(形・色・状態・機能等から)	見立て課題(描画と撮影)					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
15	パフォーマンス	仮装表現					学んだ課題の省察と発展的探求(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。						課題:60% レポート:35% 受講態度:5% S:授業内容を高度に理解し、旺盛な創造意欲と密度濃く考える熱心な探求姿勢をもって課題に取り組み、群を抜くと判断できる緻密で充実した学習成果を示す。A:授業内容を良く理解し、創造意欲と積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、充実した学習成果を示す。B:授業内容のおおよそを理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的を満たす学習成果を示す。C:授業内容の60%程度を理解し、課題に誠実に取り組み、授業の目的をほぼ満たす学習成果を示す。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						レポート提出は、授業後、1週間以内。氏名・学籍番号等明記。指定件名(基礎造形2)で、担当教員宛(maokada@shinshu-u.ac.jp)添付送信。授業時に指示する材料・用具を準備・持参。撮影機材が毎回必要。					

科目名	家庭科概論		学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA25034	研究室	非常勤
担当者	千葉 悦子		必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	小一種				履修条件	(集中講義)				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)				
①	②	③	A	B	C					
	④		⑤							
授業概要										
小学校家庭科の指導内容—家庭生活と家族、衣食住、消費生活と環境—について、知識を身につけるとともに、生活に関わる基礎的技術・技能の習得も目指します。現代に生きる児童の生活課題および長野県の特徴や課題を勘案して、児童が生活をよりよくしようと意欲的に取り組める指導方法を、実践的、体験的に学びます。また、実習や実験を伴う指導の基盤となる、実習室の整備についても学びます。										
学修到達目標										
広い視野で多面的に考えて生活に主体的に関わり、互いを認めて学び合う態度を身につけ、「家庭生活と家族」の根幹について体得し、指導の基盤とすることができる。「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」の基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、「身近な消費生活と環境」の内容を理解し、他分野と関連させて学習を展開する方法も考えられる。										
授業の進め方										
授業の学習内容により、示範の実験を行ったり、実習や実験をグループ学習の形で行ったり、グループでの話し合いも取り入れ、講義形式もあり、様々な授業形態で行います。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	ガイダンス	ガイダンスとして、講義の概要・学習の進め方・評価、教科書等の紹介を行います。受講生に出来るだけ合う内容とするために、家庭科学習アンケートも行います。				小学校学習指導要領解説家庭編を読み、特にp.72~74を確認する。(4h)				
2	学習指導要領B「日常の食事と調理の基礎」の内容	「日常の食事と調理の基礎」の内容として、日本の食の課題、長野県の特徴や課題について学びます。また、5大栄養素、特にビタミン・無機質、および、調理実習の衛生や安全についての指導について学びます。				『これからの家庭科』『食品の安全性を考えよう』、学習指導要領解説、教科書該当頁を理解する。				
3	炒める調理の理論と実習	炒める調理の理論と初回の実習指導について学びます。洗う・切る・フライパンをはじめとする調理器具の扱い・調味・食塩分・盛り付け・野菜を十分ととは?・環境に配慮した後片付けを学びます。				調理実習レポートを書く。『これからの家庭科』の「緑黄色野菜」の頁を理解する。(4h)				
4	ゆでる調理の理論	ゆでる調理の理論と、包丁を扱う技能として皮むきの指導について学びます。栄養素として特に脂質・たんぱく質について学び、卵の衛生的な扱いについても学びます。				学習指導要領解説p.34~36、『これからの家庭科』の「青菜をゆでる調理」を理解する。(4h)				
5	ゆでる調理の実習・包丁の技能・だし・環境への配慮	ゆでる調理の実習中、洗う・切るについても学び、皮むきテストも行います。かつおと昆布のだしをととり、減塩を実践します。火加減・水加減の調節により、環境に配慮した調理についても学びます。				調理実習レポートを書く。(4h)				
6	炊飯・みそ汁、調理実習の計画	炊飯・みそ汁の理論、調理実習の計画の立案—目標・題材…実の選び方、献立、栄養素として特に炭水化物について学びます。				学習指導要領解説p.34~35、小学校教科書や『これからの家庭科』の該当頁を理解する。(4h)				
7	炊飯・みそ汁の実習	炊飯・みそ汁の実習を行い、炊飯の過程を観察し、調味の方法として、煮干しだしをとって減塩を実践します。盛り付けや配膳も学びます。				調理実習レポートを書く。(4h)				
8	学習指導要領C「快適な衣服と住まい」の内容	学習指導要領C「快適な衣服と住まい」の内容として、布を用いた製作のための基礎知識について学びます。				学習指導要領C、『これからの家庭科』p.54~60, 114~117, 154~155を理解する。(4h)				
9	手縫いの基礎	手縫いの基礎実習として基礎縫いやボタン付けの実習を行います。互いに教え合い、励まし合うことも実践します。				実習レポートを書く。(4h)				
10	ミシン縫いの基礎	ミシン縫いの基礎としてミシン操作と直線縫いについて、実習により学びます。互いに教え合い、励まし合うことも実践します。				実習レポートを書く。(4h)				
11	生活に役立つ物の製作の理解と実習	生活に役立つ物の製作(縫う作業のある物)の理解をし、実習を行います。互いに教え合い、励まし合うことも実践します。				実習レポートを書く。(4h)				
12	学習指導要領Cの、住まいの学習	「快適な衣服と住まい」の内容の、住まいの学習について学びます。快適な住まい方を工夫するよう、グループ学習で室内の温度や空気の流れについてミニチュアを使う実験等をし、理解を深めます。				『これからの家庭科』の住まいの頁を理解し、実験レポートを書く。(4h)				
13	学習指導要領A「家庭生活と家族」の内容	学習指導要領A「家庭生活と家族」の内容を学びます。グループでの話し合いも取り入れます。				学習指導要領A、『これからの家庭科』の家族の頁を理解する。(4h)				
14	学習指導要領D「身近な消費生活と環境」	学習指導要領D「身近な消費生活と環境」の内容を学びます。他分野と関連させて学習を展開する方法も考えます。				学習指導要領D、『これからの家庭科』の環境の頁を理解する。(4h)				
15	学習のまとめ	学習のまとめとして、小レポートの解説・補足について学びます。返却レポートへのコメントも含めて、疑問点があれば質問をします。				受講してきた授業を振り返り、ノートにまとめる。(4h)				
テキスト				成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 家庭編(新・旧)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「新編 新しい家庭5・6」(東京書籍)(別途、指示します。) 「小学校わたしたちの家庭科5・6」(開隆堂)(別途、指示します。) 「アクティブラーニングが育てる『これからの家庭科』」お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会著牧野カツコ編(地域教材社)(生協で購入してください。)				定期試験:40% 課題:55% 受講態度:5% 受講態度は、授業への貢献度(質問や意見)、実習での協力等 S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、指定以外の資料も調べ、考察できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、十分考察できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、考察できる。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例と同レベルの考察ができる。						
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「授業力UP 家庭科の授業 第2版」鶴田敦子・伊藤葉子編著(日本標準) ISBN:978-4-8208-0416-1C3037 「わたしがつくる朝ごはん」お茶の水女子大附属家庭科研究会著(地域教材社)				調理実習をするので、エプロン・三角巾・手拭きを用意してください。11回の「生活に役立つ物」は、学生の希望を基に、学生と相談して種類を決めるので、初回までに小学校の教科書を見て、考えておいてください。						

科目名	体育 I			学年学期	1年前期	単位数	1	ナバリング	AA15035	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	実技	オフィスアワー	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
陸上運動では「短距離走」「ハードル走」「走り幅跳び」「走り高跳び」について、ボール運動では「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」について、各学年の内容を体験的に学習し、学習内容を理解していきます。											
学修到達目標											
小学校体育授業の「陸上運動」及び「ボール運動」についての授業デザインの考え方や、実技能力(示範能力)と指導能力を身につけている。そのために、各運動の特性や技術、指導のポイント、ルールなど、基本的な知識を理解するとともに、基本技術を習得できている。											
授業の進め方											
2~3人のグループをつくり、教師役になって授業前半に模擬授業を行います。授業後半に授業デザインの考え方やマネジメントの方法、子どもの見とり方や支援の仕方を学んでいきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、担当する授業を決定します。					担当した単元の指導略案を作成する(1時間)				
2	短距離走・リレーの授業づくり	陸上運動(1) 短距離走・リレーの学習内容					短距離走・リレーについて、学習内容をまとめる(1時間)				
3	ハードル走の授業づくり	陸上運動(2) ハードル走の学習内容					ハードル走について、学習内容をまとめる(1時間)				
4	走り幅跳びの授業づくり	陸上運動(3) 走り幅跳びの学習内容					走り幅跳びについて、学習内容をまとめる(1時間)				
5	走り高跳びの授業づくり	陸上運動(4) 走り高跳びの学習内容					走り高跳びについて、学習内容をまとめる(1時間)				
6	3種競技の授業づくり	陸上運動(5) 3種競技(ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び)					3種競技について、授業デザインをまとめる(1時間)				
7	バスケットボールの授業づくり	ゴール型(1) バスケットボールのゲーム理解と学習内容					バスケットボールについて、学習内容をまとめる(1時間)				
8	サッカーの授業づくり	ゴール型(2) サッカーのゲーム理解と学習内容					サッカーについて、学習内容をまとめる(1時間)				
9	ハンドボールの授業づくり	ゴール型(3) ハンドボールのゲーム理解と学習内容					ハンドボールについて、学習内容をまとめる(1時間)				
10	フラッグラグビーの授業づくり	ゴール型(4) フラッグラグビーのゲーム理解と学習内容					フラッグラグビーについて、学習内容をまとめる(1時間)				
11	ブレルボールの授業づくり	ネット型(1) ブレルボールのゲーム理解と学習内容					ブレルボールについて、学習内容をまとめる(1時間)				
12	ソフトバレーボールの授業づくり I	ネット型(2) ソフトバレーボールのゲーム理解と学習内容					ソフトバレーボールについて、学習内容をまとめる(1時間)				
13	ソフトバレーボールの授業づくり II	ネット型(3) ソフトバレーボールの集団技能 戦術 ゲーム					ソフトバレーボールについて、ゲームの学習内容をまとめる(1時間)				
14	ティーボールの授業づくり	ベースボール型 ティーボールのゲーム理解と学習内容					ティーボールについて、学習内容をまとめる(1時間)				
15	授業デザイン	学習者が夢中になれる授業デザイン					体育授業をどのようにデザインしていけばよいかをまとめる(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領解説 体育編(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)					定期試験:40% 実技:40% レポート:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)					事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切になります。						

科目名	体育Ⅱ			学年学期	2年前期	単位数	1	ナパリング	AA25036	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	実技	オフィスアワー	木曜日2限、金曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
<p>体づくり運動については学習のねらいと内容について実践的に学習していきますが、低学年の器械・器具を使つての運動遊びと関連させながら学習を進めます。器械運動については「マット運動」「鉄棒運動」「跳び箱運動」の各種目の各学年で示されている基本技を中心に学習していきます。「水泳」は発展性を考えた指導内容と安全指導について学習します。表現運動は「表現」と「リズムダンス」の基本的な動きを使った踊りについて学習します。</p>											
学修到達目標											
<p>小学校体育授業の「体づくり運動」「器械運動」「水泳」「表現運動」について、実技能力（示範能力）と指導能力を身につけている。そのために、技術や指導のポイント、基本的知識を理解するとともに、基本技術を習得できている。</p>											
授業の進め方											
<p>2～3人のグループをつくり、教師役になって授業前半に模擬授業を行います。授業後半に授業デザインの考え方やマネジメントの方法、子どもの見とり方や支援の仕方を学んでいきます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、担当する授業を決定します。					担当した単元の指導略案を作成する（1時間）				
2	体づくり運動の授業づくり	体づくり運動 体ほぐしの運動、体力を高める運動の基本的な学習内容、運動の行い方を工夫して組み合わせた指導方法					体づくり運動について、学習内容をまとめる（1時間）				
3	水遊び、浮く・泳ぐ運動の授業づくり	水泳(1) 水遊び、浮く・泳ぐ運動の学習内容					水遊び、浮く・泳ぐ運動について、学習内容をまとめる（1時間）				
4	水泳の授業づくり	水泳(2) 各種泳法に関する学習内容					水泳について、学習内容をまとめる（1時間）				
5	水泳の授業のマネジメント	水泳(3) 安全の心得に関する基本的な指導内容					水泳について、安全に関する内容をまとめる（1時間）				
6	マット運動の授業づくりⅠ	器械運動(1) マット運動① 基本的な「動き」の学習内容					マット運動について、基本的な「動き」の学習内容をまとめる（1時間）				
7	マット運動の授業づくりⅡ	器械運動(2) マット運動② 技の組み合わせ方の学習内容					マット運動について、発展的な学習内容をまとめる（1時間）				
8	鉄棒運動の授業づくりⅠ	器械運動(3) 鉄棒運動① 基本的な「動き」の学習内容					鉄棒運動について、基本的な「動き」の学習内容をまとめる（1時間）				
9	鉄棒運動の授業づくりⅡ	器械運動(4) 鉄棒運動② 技の組み合わせ方の学習内容					鉄棒運動について、発展的な学習内容をまとめる（1時間）				
10	跳び箱運動の授業づくりⅠ	器械運動(5) 跳び箱運動① 切り返し系の技の学習内容					跳び箱運動の切り返し系について、学習内容をまとめる（1時間）				
11	跳び箱運動の授業づくりⅡ	器械運動(6) 跳び箱運動② 回転系の技の学習内容					跳び箱運動の回転系について、学習内容をまとめる（1時間）				
12	フォークダンスの授業づくり	表現運動(1) フォークダンスの学習内容					フォークダンスについて、学習内容をまとめる（1時間）				
13	リズムダンスの授業づくり	表現運動(2) リズムダンスの学習内容					リズムダンスについて、学習内容をまとめる（1時間）				
14	表現運動の授業づくり	表現運動(3) 表現運動の学習内容、表現運動の発表会の運営方法					表現運動について、学習内容をまとめる（1時間）				
15	授業デザイン	学習者が夢中になれる授業デザイン					体育授業をどのようにデザインしていけばよいかをまとめる（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 体育編（新）」（東洋館出版社）（生協で購入してください。）						<p>定期試験：40% 実技：40% レポート：20%</p> <p>S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって海内に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「小学校学習指導要領（新）」（東洋館出版社）						事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切になります。					

科目名	国語科教材研究			学年学期	2・3年前期	単位数	1	ナンバリング	AA26001	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
必修科目である「国語科概論」「初等国語科指導法」を基盤とし、小学校国語の主たる教材の中から教材を複数選び、教材研究を行います。文学的文章を読むことや、論理的文章を読むことや書くこと、音声言語教材、伝統的な言語文化の3領域・1事項に沿った教材の特質を生かした学習指導案を書いていきます。授業は受講者による教材研究とそれらに基づいた学習指導案の立案、模擬授業実践を中心に据えます。											
学修到達目標											
1 小学校国語の主たる教材の全体像を知り、領域や事項ごとの特色を理解している。2 文学的文章や論理的文章の特徴を知り、「読むこと」の教材研究を行い指導案を立案できる。3 音声言語教材や伝統的な言語文化の特色を知り、教材の特性を生かした指導案を書く力を身につけている。4 教材選択の視点を深めている。											
授業の進め方											
90分の授業は講義部分と実践部分に分かれます。実践部分においては、演習、人前での発表、板書、グループ討論、全体討論などを行い、全体で主体的・協働的に学びます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			論理的文章と文学的文章の文体や目的の違いを理解し、今後の授業の見直しを持つ。				指定された文学教材を確実に音読できるようにしておく。文体分析を行う。(1時間)			
2	文学的文章の教材研究(1)			初等教育における文学教材を読むための観点を理解し、観点を踏まえて主たる教材を読み、教材の特色全体を理解します。				指定された教材を確実に音読できるようにしておく。観点に沿って文体分析を行って置く。(1時間)			
3	文学的文章の教材研究(2)			初等教育における文学教材の「読むこと」を踏まえ、主立った教材の分析を行います。				指定された教材を確実に音読できるようにしておく。観点に沿って文体分析を行って置く。(1時間)			
4	文学的文章の教材研究(3)			小学校国語の文学教材の中から主たる教材を選び、教材の特質を理解します。				指定された教材を確実に音読できるようにしておく。観点に沿って文体分析を行って置く。(1時間)			
5	文学的文章の教材研究(4)			小学校の文学教材の分析を踏まえて指導法を立て、実践をし合って共有します。				指定された教材を確実に音読できるようにしておく。観点に沿って文体分析を行って置く。(1時間)			
6	伝統的な言語文化の教材研究(1)			小学校における伝統的な言語文化の教材の内容と目的を踏まえ、指導の観点を踏まえた指導案の書き方を学びます。				伝統的な言語文化の指導案を書く。(1時間)			
7	伝統的な言語文化の教材研究(2)			小学校における伝統的な言語文化の教材の指導案を書き、発表し合い討議し、共有します。				伝統的な言語文化の特色や内容、指導案を踏まえ考察をまとめる。(1時間)			
8	伝統的な言語文化の教材研究(3)			中等教育における伝統的な言語文化の教材の内容と目的を踏まえ、指導の観点を踏まえた指導案の書き方を学びます。				中等教育における伝統的な言語文化の指導案を書く。(1時間)			
9	伝統的な言語文化の教材研究(4)			中等教育における伝統的な言語文化の教材の指導案を発表し合い、討議し共有します。				中等教育における伝統的な言語文化の特色や内容、指導案を踏まえてまとめる。(1時間)			
10	論理的文章の教材研究(1)			論理的文章を読むこと・書くことにおける指導の観点を学びます。初等から中等教育程度の論理的文章を読み、指導項目に沿って文章を分析します。				教材を確実に音読できるようにしておく。文章の分析に基づいて指導案の下書きを行う。(1時間)			
11	論理的文章の教材研究(2)			初等から中等教育程度の論理的文章の分析を踏まえ、指導項目に沿った指導案の書き方を学びます。				指導案を書き、模擬授業を行う練習をしておく。(1時間)			
12	論理的文章の教材研究(3)			模擬授業の実践をし合って、互いに批判・検討を行います。				指導案を修正し、反省点と考察をまとめる。(1時間)			
13	論理的文章の教材研究(4)			論理的文章を「読むこと」と「書くこと」の関連及び、「書くこと」の指導の概要と指導項目を学びます。				指導案を完成させる。論理的文章を書くことの観点をまとめる。(1時間)			
14	論理的文章の教材研究(5)			論理的文章を指導する観点について論述し、発表・検討し合います。論理的文章を「書くこと」の清書をし、提出します。				論理的文章指導の指導案を完成させる。(1時間)			
15	論理的文章の教材研究(6) 総括			各自が書いた指導案に基づき、模擬授業を検討し合います。				修正した指導案を最終提出する。(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「完訳 グリム童話集 1」グリム兄弟著 高橋健二訳著（小学館） ISBN: 9784092301610（生協で購入してください。） 「レポートの組み立て方」木下是雄著（ちくま学芸文庫） ISBN:978-4480081216（生協で購入してください。） 「新型学習指導案集 伝統的な言語文化編」日本言語技術教育学会・東京神田支部著（日本言語技術教育学会）（別途、指示します。） 「雪は天からの手紙」中谷宇吉郎著（岩波少年少女文庫） ISBN:978-4001145557（生協で購入してください。） 他1冊あり。連絡します。				受講態度：10% 課題：60% 実技：20% レポート：10% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現し、高い意欲を示している。 A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。 B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。 C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。受講態度には毎回の考察、発言・発表等を含みます。欠席4回で単位を認定しません。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「昔話の深層 ―ユング心理学とグリム童話」河合隼雄著（講談社+α文庫）他は別途紹介します。				遅刻2回で1回の欠席となります。30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。「国語科概論」「初等国語科指導法」の履修を終えていない者は履修できません。担当教員のゼミ所属を希望する者は要履修です。							

科目名	社会科教材研究			学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナンバリング	AA26002	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
小学校社会科授業で扱う教材の開発方法について学びます。単に教科書を漫然と教えるのではなく、児童の発達段階や地域を考慮し、教材開発について体験を通して学びます。また、学習指導要領と指導上の留意点との関わりについても併せて学んでいきます。											
学修到達目標											
教師として将来出会う児童を想定し、適切な教材とは何かを考え、指導に活かす能力を修得している。また、単元計画の中で、社会科見学や体験的な学習活動をどのように活かすか考えることができる。											
授業の進め方											
講義の他、社会科見学、実践発表等があります。社会科見学は学校を離れ、集中で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	社会科教材研究の基礎	社会科教材研究の基本的な考え方について学びます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
2	教材作成及び提示の基本	教材を作成する際の素材選びや提示の仕方について学びます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
3	学校行事と地域教材	地域素材を教材へ活用する方法について学びます。					見学で質問したいことや調べたいことをまとめておく。(1時間)				
4	実地踏査(集中1)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)				
5	実地踏査(集中2)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)				
6	実地踏査(集中3)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)				
7	実地踏査(集中4)	実際に社会科見学を行います。					見学で学んだことをまとめておく。(1時間)				
8	授業計画案作成	社会科見学で学んだことを活かし、授業を組み立てます。					模擬授業に向け、授業計画案を完成させること。(1時間)				
9	授業計画発表(1)	組み立てた授業を発表します。(模擬授業)					模擬授業の発問・指示を見直し、改善点について検討すること。(1時間)				
10	授業計画発表(2)	組み立てた授業を発表します。(模擬授業)					模擬授業の発問・指示を見直し、改善点について検討すること。(1時間)				
11	現職教員講話	現職の小学校教員から教材づくりのヒントを得ます。					講演内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
12	学習指導要領の留意点(1)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
13	学習指導要領の留意点(2)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
14	学習指導要領の留意点(3)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
15	学習指導要領の留意点(4)	学習指導要領に述べられていることの具現化と留意点について考えます。					授業で扱った内容について復習し、理解を深める。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 社会編(新)」(日本文教出版社)(生協で購入してください。)						定期試験:50% 受講態度:20% レポート:30% S:指導する児童の発達段階や地域を考慮した教材を開発し、かつ、具体的な指導上の留意点を考慮することができる。A:指導する児童の発達段階や地域のいずれかを考慮した教材を開発し、かつ、指導上の留意点を考慮することができる。B:指導する児童に対し教材を提示することができ、かつ、指導上の留意点を知っている。C:指導する児童に対し、教材を提示することができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし						社会科見学は小学校社会科で扱う施設(入場料が発生する場合があります)等への見学を行うため、授業日以外での実施となることもあります。また、現職教員講話は、講演者の都合により回が前後する場合があります。					

科目名	算数科教材研究			学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナンバリング	AA26003	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・佐藤 茂太郎			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
「数学的な考えを育てる指導のあり方」「問題解決力を育てる指導のあり方」「個に応じた指導のあり方」「評価のあり方」「指導体制や家庭との連携のあり方」「補充的な学習、発展的な学習やコース選択の指導の実際」を順次取り上げていきます。											
学修到達目標											
子どもたちに6年間を通して数学的に考える資質能力を育成するために、子どもの実態と教材の内容を分析し、指導法の工夫を、教材研究の観点から学生自らが主体的に考え、子どもの主体性を尊重した指導のあり方を修得している。											
授業の進め方											
指導計画立案や学習指導案作成に重きを置き、これをもとに模擬授業を充実させていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	基礎基本を確実に身につける指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、基礎基本を確実に身につける指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
2	個に応じた指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、個に応じた指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
3	学力のとらえ方と評価の関係	学習指導案の作成と模擬授業を通し、学力のとらえ方と評価の関係を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
4	一人一人の学力を向上させる指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、一人一人の学力を向上させる指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
5	校内の指導体制と保護者の意識	学習指導案の作成と模擬授業を通し、校内の指導体制と保護者の意識を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
6	学校間の研究協力と授業力アップの方策	学習指導案の作成と模擬授業を通し、学校間の研究協力と授業力アップの方策を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
7	問題解決指導のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、問題解決指導のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
8	補充的な学習の指導と教材開発のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、補充的な学習の指導と教材開発のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
9	発展的な学習の指導と教材開発のあり方	学習指導案の作成と模擬授業を通し、発展的な学習の指導と教材開発のあり方を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
10	発展的な学習の指導の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、発展的な学習の指導の実際を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
11	習熟度に応じた指導計画の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、習熟度に応じた指導計画の実際を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
12	コース選択とコースガイダンスの実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、コース選択とコースガイダンスの実際を考えます。					学習指導案作成、模擬授業の準備をします。(1時間)				
13	学習カードと評価を生かした指導の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、学習カードと評価を生かした指導の実際を考えます。					学習指導案と模擬授業の振り返りをします。(1時間)				
14	評価のあり方と工夫の実際	学習指導案の作成と模擬授業を通し、評価のあり方と工夫の実際を考えます。					学習指導案と模擬授業の振り返りをします。(1時間)				
15	振り返りとまとめ	学習指導案の作成と模擬授業を通し、振り返りとまとめをします。					学習指導案と模擬授業の振り返りをします。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 算数編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。)						課題:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し子どもの実態と教材の内容を分析し指導法の工夫を優れた実践と対比しながら子どもの主体性を尊重した指導案を多数作成している。A:授業内容を理解し子どもの実態と教材の内容を分析し指導法の工夫を優れた実践と対比し指導案を複数作成している。B:授業内容を理解し子どもの実態と教材の内容を知り指導法の工夫優れた実践と対比しながら指導案を作成している。C:授業内容を理解し指導法の工夫を優れた実践を見ながら指導案を作成する努力をしている。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
必要に応じて提示します						算数・数学嫌いの子どもたちを育てないための問題意識を持って授業に参加してください。					

科目名	理科教材研究			学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナンバリング	AA26004	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
子どもの思考が活性化する局面や、新たな概念を獲得していく様相を、実際の授業記録やVTRの視聴から捉えていきます。また、その時の教材の働きや役割等について議論を深め、その成果を実際の授業作りに役立てていきます。											
学修到達目標											
子どもの自然認識や素朴概念、思考過程等を理解するとともに、子ども理解に立脚した理科教材の在り方について理解している。											
授業の進め方											
実際の授業VTRを視聴したり、実際に教科書に出ている観察・実験を行ったり、オリジナル教材を作成したりして、小学校理科で用いられる教材について実践的に学びます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	理科教育が目指す子ども像	問題解決に取り組む子どもの様相や、その変容について学びます。					小学校理科の目標を調べる(1時間)。				
2	教材論からみた教材(1)	単元の本質をとらえた教材とは何かを具体物から分析します。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
3	教材論からみた教材(2)	身近な素材を教材化することのよさを知り、具体的に作成します。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
4	教材論からみた教材(3)	安全性、美しさ等、手作り教材作成のポイントを学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
5	子ども論からみた教材(1)	子どもにとっての「おや?あれ?なぜ?」が生まれる教材について学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
6	子ども論からみた教材(2)	子どもにとっての矛盾が生まれる教材について学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
7	子ども論からみた教材(3)	子どもが、知識や技能等を総動員する教材について学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
8	教師論からみた教材(1)	子どもの実態に応じて教材化するポイントを学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
9	教師論からみた教材(2)	授業の中で教材を生かす授業者の役割について学びます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
10	教師論からみた教材(3)	説明教材から脱却するための役割について考えます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
11	学習環境としての教材(1)	植物の特性や実験用農園の。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
12	学習環境としての教材(2)	子どもの観察・実験を充実させる理科室環境について考えます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
13	学習環境としての教材(3)	理科の話し合いを深めるための教室環境について考えます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
14	子ども、授業者、教材の働きや役割	子どもの思考の道筋に応じた、授業者の役割と教材の働きについて考えます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
15	講義の総括	子どもの思考の道筋に応じた、授業者の役割と教材の働きを位置づけた学習指導案について考えます。					小学校理科の教科書の内、必要な単元のページを読む(1時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 理科編(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)						レポート:40% 小テスト:40% 受講態度:20% S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
授業VTR、実験資料、実験プリント						実際の授業VTRの視聴、教科書に出ている観察・実験、オリジナル教材の作成等の体験的な活動に積極的に参加することが求められます。なお、準備物や服装等についてはその都度ご連絡します。					

科目名	英語科教材研究			学年学期	3・4年前期	単位数	1	ナンバリング	AA36005	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		○		△						
授業概要											
小学校外国語活動において児童の状況に合った活動のあり方を理論的に扱います。児童の理解を観察し、徐々に英語で発話する必要性を作り出す教材の在り方を考えます。また小学校外国語活動と中学校との接続を考慮し、小学校外国語活動を英語で実施できるようにします。小学校外国語活動において実際の授業の場面を想定しながら、小学生の状況に応じた適切な教材を作成したり選択したりすることができるようにします。											
学修到達目標											
小学校外国語活動においてその理論を理解し、小学生の状況に応じた適切な教材を選択し、英語で授業を実施できる。											
授業の進め方											
学習内容に応じ、グループワークや講義形式など様々な形態で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション 言語習得理論—母語の習得と第二言語習得	母語の習得理論と第二言語習得理論を理解し、その考え方をを用いて外国語活動を考える。					第二言語習得理論を理解し、その観点から活動の際の留意ポイントを明確にする。(1時間)				
2	カリキュラム・年間指導計画作成のポイント	児童において育成したい力などを考え、それに応じ年間を通したカリキュラムやその指導・計画の在り方のポイントの基本を理解し、計画を立てられるようにする。					年間指導計画を児童の育成する力から考え、基本的ポイントを理解しておく。(1時間)				
3	年間指導計画	年間指導計画の基礎的ポイントを応用し、各単元の中でそれらの意向が反映され、積み重ねながら実践されていくような計画の作成を理解する。					年間指導計画から、各単元で実践する活動を考え、年間指導計画の全体像を理解する。(1時間)				
4	担任が行う授業づくりの視点	HRTの特性を活かした授業計画・実施のポイントとその活動を理解する。					活動の選定の際のポイントを考え理解する。(1時間)				
5	授業展開	授業展開の基本とその展開の中で留意すべきポイントについて理解し、授業を計画する。					授業を展開していく際の基本的構成と、実施の際の留意ポイントに考えを明確にする。(1時間)				
6	教室英語	教室で使用する英語はどのような英語であるかを理解し、基本的な英語の表現を適切に使用する。					基本的な教室英語を使用できるようにする。状況に合わせて発展した表現を理解する。(1時間)				
7	教材の使い方・選び方と開発方法	外国語活動の教材において、どのように教材を使用するか、また作成するのであればどのようなポイントに留意をして作成するのかを理解する。					教材の使用・作成のポイントを理解し、教材の在り方について理解する。(1時間)				
8	ICTのよりよい活用を考える	ICTの使用に関し、その使用方法を理解し、その特徴から効果的な使用方法を理解する。					ICTの特徴を理解し、有効な使用方法を理解する。(1時間)				
9	国際理解教育と英語教育	外国語活動の中で育成すべき異文化理解の考え方、異文化に対する理解、児童の態度や姿勢について理解する。					異文化理解への児童の姿勢を考え、指導に生かせるよう考える。(1時間)				
10	コミュニケーションを図ろうとする態度—Three Friends Game	児童が友人とのコミュニケーションを図っていく際に留意すべきポイントを活動の在り方から理解する。					活動に留意ポイントが反映でき実施できるようにする。(1時間)				
11	マイクロティーチング：コミュニケーションの態度	コミュニケーションを図る態度に留意をし、実際に活動を英語で指示・実施し、フィードバックを受け授業を改善する。					事前にコミュニケーションを図る態度を考慮し、活動が英語でできるようにする。(1時間)				
12	言語に関する気づきの基本—歌、チャンツ	歌やチャンツの背景にある考え方を理解し、どのように実施していくかを理解する。					歌やチャンツの導入に関して、背景にある考え方を理解し、導入できるようにする。(1時間)				
13	マイクロティーチング：言語に関する気づき	歌やチャンツの背景理論を理解し、それらを取り入れながら、補助教材を使用し、英語で導入し実施する。					事前準備し、補助教材等を活用しながら、英語で歌やチャンツを導入できるようにする。(1時間)				
14	音声や表現への慣れ親しみ—Simon Says	音声や表現に慣れ親しみ、表現を理解しながら触れる機会を増やしていくために必要な活動とその実践方法と背景の考え方を理解する。					音声や表現を理解させながら導入できる活動を実施できるようにする。(1時間)				
15	マイクロティーチング：音声や表現への慣れ親しみまとめ	音声や表現に慣れ親しませるポイントや理論を理解し、実際に英語で実施し、フィードバックより改善を行う。					事前準備し、児童の理解を伴いながら音声や表現に親しませる活動をできるようにする。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校外国語活動の進め方」岡秀夫・金森強著(成美堂) ISBN:978-4791971541(生協で購入してください。) 「小学校外国語活動 基本の「き」」酒井英樹著(大修館書店) ISBN:978-4469245844(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領(新・旧)」(新:東洋館出版社、旧:東京書籍)(生協で購入してください。) 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編(新・旧)」(新:開隆堂出版、旧:東洋館出版社)(生協で購入してください。)						受講態度:10% 課題:20% 実技:20% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有している。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「小学校外国語活動における評価法の工夫改善のための参考資料」国立教育政策研究所教育課程研究センター著教育出版編 「楽しみながら信頼関係を築くゲーム集」高久啓吾著(学事出版)						原則、欠席は2回までです。 参考書は指示があるまで購入しないようにしてください。					

科目名	体育科教材研究			学年学期	2・3年後期	単位数	1	ナンバリング	AA26006	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
<p>本授業は「初等体育科指導法」で学修した内容を発展させ、子どもたちの学びを促進するような教材開発を含む教材研究についての基本を学修した上で、実際に指導案を作成し、模擬授業を実施します。模擬授業では指導要領に示された各領域についてバランスよく取り扱い、小学校の体育授業について総合的な理解を深めます。模擬授業後の授業検討会やレポートによる意見交換を経て、授業の展開構成についてふり返りを行い、より実践的な指導について学び、授業力を高めます。</p>											
学修到達目標											
学習者中心の体育授業の考え方をもち、指導案を作成できるようになるとともに、子どもたちへの支援ができる。											
授業の進め方											
各領域の担当を決め、指導案を作成します。指導案検討を行い、修正した指導案で、授業実践を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	各領域の担当を決め、指導案の作成をする。					担当した指導案の作成(1時間)				
2	体づくり運動Ⅰ	授業実践(1) 体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
3	体づくり運動Ⅱ	授業実践(2) 用具を操作する運動、体力を高める運動の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
4	マット運動	授業実践(3) マット運動の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
5	鉄棒運動	授業実践(4) 鉄棒運動の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
6	跳び箱運動	授業実践(5) 跳び箱運動の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
7	ハードル走	授業実践(6) ハードル走の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
8	走り幅跳び	授業実践(7) 走り幅跳びの模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
9	走り高跳び	授業実践(8) 走り高跳びの模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
10	ゴール型ゲーム	授業実践(9) ゴール型ゲームの模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
11	ネット型ゲーム	授業実践(10) ネット型ゲームの模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
12	ベースボール型ゲーム	授業実践(11) ベースボール型ゲームの模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
13	表現運動・リズムダンス	授業実践(12) 表現運動とリズムダンスの模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
14	保健	授業実践(13) 保健の模擬授業とその検討					模擬授業のリフレクション(1時間)				
15	これからの小学校体育	これからの小学校体育について(まとめ)					これからの小学校体育についての考えをもつ(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領解説 体育編(新)」(東洋館出版社)(生協で購入してください。)						課題:50% 出席レポート:30% 実技:20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、授業力を高めている。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、授業力を高めている。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業力を高めている。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「小学校体育(運動領域)まるわかりハンドブック」文部科学省著 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujiitsu/1308041.htm						事前の指導案作成と修正、模擬授業後のリフレクションが大切になります。					

科目名	国語科教材演習			学年学期	3・4年前期	単位数	1	ナンバリング	AA36007	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
必修科目である「国語科概論」「初等国語科指導法」を基盤とし、義務教育段階における教材研究と開発を中心とした演習を行います。文学的文章の表現の細部を読むことや、論理的文章を構造的に読むことや論理的な構成によって書くこと、さらに音声言語教材も含み、それぞれの教材の特色を活かしながら、効果的な学習指導につながる専門・応用的な内容を身につけることがねらいです。授業は受講者による研究発表を中心に据え、演習、発表、討論などを行って主体的・協働的に進めます。											
学習到達目標											
1 中等教育以上の国語の主たる教材の全体像を知り、領域や事項ごとの特色を理解している。2 文学的文章や論理的文章の特徴を知り、「読むこと」の教材研究を行い指導案を立案できる。3 音声言語教材や伝統的な言語文化の特色を知り、教材の特性を生かした指導案を書く力を身につけている。4 教材選択の視点を高めている。											
授業の進め方											
90分の授業は講義部分と実践部分に分かれます。実践部分においては、演習、人前での発表、板書、グループ討論、全体討論などを行い、全体で主体的・協働的に学びます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	論理的文章と文学的文章の内容や目的、指導方法の違いについて概観する。					指定された教材文を確実に音読できるようにする。文体分析を行う。(1時間)				
2	文学的文章の教材演習(1)	初等・中等教育程度の文学的文章教材を「読む」観点を理解し、観点を踏まえて主たる教材を読み、教材の特色を理解します。					指定された教材文を確実に音読できるようにする。観点に沿って文体の分析を行う。(1時間)				
3	文学的文章の教材演習(2)	初等・中等教育程度の文学的文章教材を「読む」観点を踏まえて主たる教材を読み、教材の特質を理解します。					指定された教材文を確実に音読できるようにする。観点に沿って文体の分析を行う。(1時間)				
4	文学的文章の教材演習(3)	初等・中等教育程度の文学的文章教材の特質を踏まえて指導案の書き方を理解します。					指定された教材文を確実に音読できるようにする。観点に沿って文体の分析を行う。(1時間)				
5	文学的文章の教材演習(4)	初等・中等教育程度の文学的文章教材の特質を踏まえた指導案を書き、互いに発表し合い批判的視点から考察します。					教材の分析を通して考察をまとめる。(1時間)				
6	音声言語の教材演習(1)	「話すこと・聞くこと」の指導の内容と目的を理解します。					内容と目的を理解し、原稿を書く。(1時間)				
7	音声言語の教材演習(2)	小学校教育における「話すこと・聞くこと」の授業の全体について理解します。話す立場や聞く立場の双方を体験することを通して、考察します。					模擬授業を考察しまとめる。(1時間)				
8	音声言語の教材演習(3)	中等教育水準の「話すこと・聞くこと」の内容と目的を概観し、自らの音声言語力を高めるとともに、指導の観点を踏まえて指導案の表現の仕方を学びます。					模擬授業を考察しまとめる。(1時間)				
9	音声言語の教材演習(4)	中等教育水準の「話すこと・聞くこと」の内容と目的を踏まえた上で、自らの音声言語力を高めつつ、指導の観点を踏まえた指導案の読み方・書き方を学びます。					模擬授業を考察しまとめる。指定されたテキストのページを確実に音読できるようにする。(1時間)				
10	論理的文章の教材演習(1)	論理的文章の複数の種類について復習します。初等・中等教育以上の論理的文章を読み、指導項目に沿って文章を分析します。					教材を確実に音読できるようにし、観点に基づき指導案の下書きを行う。(1時間)				
11	論理的文章の教材演習(2)	初等・中等教育水準以上の論理的文章の分析を進め、指導項目に沿った指導案の書き方を学びます。					指導案を書き、模擬授業を行う練習をしておく。(1時間)				
12	論理的文章の教材演習(3)	初等・中等教育水準以上の論理的文章の分析を進め、指導項目に沿った指導案の書き方を学び、特色に応じた指導の方法を立案します。					指導案を修正し、反省点と考察をまとめる。(1時間)				
13	論理的文章の教材演習(4)	論理的文章を「読むこと」と「書くこと」の関連を理解し、「書くこと」の指導の全体像と実態を学びます。					指導案論理的文章を書くことの観点をまとめる。(1時間)				
14	論理的文章の教材演習(5)	論理的文章を指導する観点について論述し、発表・検討し合います。論理的文章を「書くこと」の清書をします。					論理的文章指導の指導案を完成させる。(1時間)				
15	論理的文章の教材演習(6)、総括	各自が書いた指導案に基づき、模擬授業を行って批判・検討し合います。					修正した指導案を最終提出する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「蜘蛛の糸・杜子春」芥川龍之介著(新潮文庫) ISBN:978-4-10-102503-2(生協で購入してください。) 「科学と科学者のはなし」寺田寅彦エッセイ集 寺田寅彦著池内了編(岩波少年少女文庫) ISBN:4-00-114510-3(生協で購入してください。) 「小僧の神様 他十篇」志賀直哉著(岩波文庫) ISBN:4-00-310462-5(生協で購入してください。) 「理科系の作文技術」木下是雄著(中央公論社) ISBN:4121006240(生協で購入してください。)						受講態度:10% 課題:60% 実技:20% レポート:10% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり表現している。課題をすべて行っている。 「受講態度」には毎回の考察、発言・発表等を含みます。欠席4回で単位を認定しません。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
講義中に適宜紹介します。						「国語科概論」「初等国語科指導法」の履修を終えていない者は履修できません。「国語科教材研究(AA26001)」以上の内容のため同科目を終えていることが望ましいです。担当教員のゼミ所属を希望する者は要履修です。					

科目名	算数科教材演習			学年学期	3・4年後期	単位数	1	ナンバリング	AA36008	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・佐藤 茂太郎			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
学生同士の研究協議を行い、小学校算数科目標、内容、指導方法を理解することにねらいを置きます。実際に指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行います。行った模擬授業に対し指導を行うと共に学生による相互評価を行う授業です。											
学修到達目標											
学生自らが主体的に、算数科の学びの基本や、その内容や方法を「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」領域で考察し説明できる。子どもの主体的な学びを促す指導法のあり方、教材の内容、指導法の工夫等を、優れた実践を参考に検討し、模擬授業や研究協議会を実施できる。											
授業の進め方											
教材の準備、指導内容、指導法の工夫等を模擬授業を通して分析し、授業のあり方を模擬研究協議会を通して考えていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			ガイダンス。指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行います。指導のポイントについて考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
2	算数科の指導内容と指導上の留意点			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、算数科の指導内容と指導上の留意点を押さえます				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
3	数量関係の授業と評価			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、数量関係の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
4	図形の授業と評価			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、図形の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
5	年間計画と学習指導案の書き方			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、年間計画と学習指導案の書き方を体験します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
6	数と計算の授業と評価(低学年)			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、数と計算の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
7	教材研究と学習指導案の作成			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、教材研究と学習指導案の作成を体験します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
8	測定の授業と評価			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、測定の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
9	教育機器を利用した授業と評価(低学年)			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、教育機器を利用した授業とその評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
10	数と計算の授業と評価(高学年)			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、数と計算の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
11	データの活用領域の授業と評価			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、データの活用領域の授業と評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
12	教育機器を利用した授業と評価(高学年)			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、教育機器を利用した授業とその評価について考察します				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
13	小学校6年間を通した算数科指導における留意点			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、小学校6年間を通した算数科指導における留意点を押さえます				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
14	小学校6年間を通した算数科指導における留意点			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、小学校6年間を通した算数科指導における留意点を押さえます				教育実習を意識し、より現実的な授業準備をします。(1時間)			
15	まとめ			指導案と模擬授業を基に模擬研究協議会を行い、まとめをします				今までやってきたことをまとめます。(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「小学校学習指導要領解説 算数編(新)」(日本文教出版)(生協で購入してください。)				課題:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し算数科の学びの基本や内容や方法を高度に説明でき、子どもの主体的な学びを促す優れた指導法の模擬授業や研究協議会を多数行っている。A:授業内容を理解し子どもの主体的な学びを促す指導法の模擬授業や研究協議会を複数行っている。B:授業内容を理解し、子どもの主体的な学びを促す指導法の模擬授業や研究協議会を行っている。C:授業内容を理解し、算数科の学びの基本や内容や方法を考察し模擬授業や研究協議会を支援を受けながら行っている。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
必要に応じ提示します				算数・数学好きの子どもたちを育てるための問題意識を持って授業に参加してください。							

科目名	授業法の基礎			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AA26009	研究室	A-13
担当者	今泉 博			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		⑤								
授業概要											
授業を創ることは、教師の最も重要な仕事のひとつと言えます。すぐれた教材を発掘・選択し、子どもの姿をイメージしながら、授業を構想していきます。実際の授業では、子どもたちの知恵と力を引き出しながら、授業の課題に挑むことになります。皆さんは「模擬授業」という形で、「授業」を体験します。											
学修到達目標											
授業の目的に合わせて教材を選択し、子どもたちが生き生き参加できるように工夫して学習指導案を作成できる。最終的には、その指導案をもとに模擬授業を行うことができる。											
授業の進め方											
講義、グループ討論、アクティブラーニングなどを適宜行いながら授業を進めていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	最初に、この授業の目的と、授業でだいたいしたいことを話します。その上で、現場の実践をもとに、授業とは何かということを考え合います。					これまで小中高と受けてきた授業をもとに、自分なりに「授業とはなにか」を文章にまとめる。(4h)				
2	授業のねらいや教材と授業法	授業法は、固定されたものではなく、教師が創造していくものです。基本的には、授業のねらいや教材、子どもたちの実態に規定されざるを得ません。教材等と授業法の関係を具体例をもとに学びます。					これまで様々な方法で指導を受けてきたと思います。授業法について感じたことをまとめる。(4h)				
3	教室になんでも言える人間的自由を(間違い・失敗の保障)	教師がどんなに準備して授業に臨んだとしても、誰も発言したりしなければ、授業の成立は困難です。子どもたちが生き生き参加する授業を創るには、なんでも言える自由な雰囲気をつくることは不可欠です。					学校体験から、教師がどんな対応のときに、みんなが生き生き参加できたかを文章にまとめる。(4h)				
4	集中は「させるもの」ではなく「生まれるもの」	教材がよければ、その出合わせ方がよければ、子どもたちは自然に集中しだすものです。集中は「させるもの」ではなく「生まれるもの」です。集中が「生まれる」ような授業が求められます。					これまでの学校体験から、みんなが集中して取り組んだときの授業について書く。(4h)				
5	想像・推理を重視することで	想像・推理は、過去の歴史を学ぶ上でも未知のことを学ぶ上でも、欠かせません。その偉力は、とてつもないものです。想像・推理を重視することで、子どもたちは学ぶ楽しさを実感していきます。					想像・推理は、どんなときによく働くか、これまでの授業体験を踏まえて、文章にまとめる。(4h)				
6	教材研究①(教材を決める)	教科書や学習指導要領などを参考にしながら、さまざまな視点から検討し、何の教科の何年生の何の授業にするかを考え、決めます。					自分としては、何の教科の何年生の何の授業をしたいかを考えておきます。(4h)				
7	教材研究②(教材そのものを深く研究)	扱う教材そのものを深く研究します。この段階で教師が驚いたり、再発見するようなものがあれば、子どもたちが興味をもって参加する授業の可能性が大きくなります。					自分が授業をしようとする教材の価値・おもしろさはどこにあるかをまとめる。(4h)				
8	教材研究③(教材の配列)	今回の授業を何時間で指導するか、教材の配列をどのようにするかを考えます。(授業計画)					子どもたちが興味をもって学習するようにするには、教材をどのように配列するかを考える。(4h)				
9	学習指導案の作成①(時間配分と授業の流れ)	現場で使われている実際の学習指導案を例にして、形式や必要事項などを確認し、本時の学習指導案の作成に取りかかります。					本に載っているものや先輩の作成した指導案等を事前に調べる。(4h)				
10	学習指導案の作成②(発問に対する予想される子どもの意見)	授業を構想する上で、発問と予想される子どもの意見をイメージしておくことは欠かせません。また、個別に考える時間や、討論、活動、書くことなども授業の中に位置づけられる必要があります。					自分の授業で必要ないくつかの発問と、予想される子どもの意見を想定し、メモしておく。(4h)				
11	学習指導案の作成③(指導案をもとに板書を考える)	指導案ができあがった段階で、板書を考えることは不可欠です。板書が決まることで、授業の流れや授業のポイントが明確になります。					学習指導案や板書をもとに、実際の授業の練習をし、模擬授業に備えます。練習の感想を書く。(4h)				
12	模擬授業とふり返り①	実際に模擬授業を行い、よかった点を大いに出し合います。今後の課題についても、少し触れることにします。					模擬授業を行って(観て)感じたこと考えたことを、文章にまとめる。(4h)				
13	模擬授業とふり返り②	実際に模擬授業を行い、よかった点を大いに出し合います。今後の課題についても、少し触れることにします。					模擬授業を行って(観て)感じたこと考えたことを、文章にまとめる。(4h)				
14	模擬授業とふり返り③	実際に模擬授業を行い、よかった点を大いに出し合います。今後の課題についても、少し触れることにします。					模擬授業を行って(観て)感じたこと考えたことを、文章にまとめる。(4h)				
15	まとめ	模擬授業の体験をもとに、「授業を創る上で何がだいじか」「今後どのようなことを学び考えていく必要があるか」を話し合い、自分の今後の課題を明確にとらえるようにします。					自分が教師になって授業を創っていく上で、どういうことを学び考えていくべきかをまとめる。(4h)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
テキストは使用しません。必要な資料を適宜配布します。						レポート:50% 課題:50% S:授業づくりに意欲的・創造的に取り組み、課題も探究的にやり遂げる。水準の高い学習指導案を作成し、模擬授業も立派にできる。A:授業づくりの基本を理解し、課題に積極的に取り組む。工夫して学習指導案を作成し、模擬授業もしっかりできる。B:授業づくりのおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組む。学習指導案を作成し、模擬授業ができる。C:授業づくりの基本を60%程度を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業ができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は学習指導要領と教科書です。その他は必要に応じて適宜配布します。						いざ授業するとなると、うまくできるか心配になることと思います。なんでもそうであるように、授業力も失敗しながら育っていきます。模擬授業に積極的に挑むようにしましょう。					

科目名	教育制度研究			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA36010	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
△		○	◎								
授業概要											
日本の教育統治(教育ガバナンス)のシステムは、学制導入期(第一期学制改革)、戦後改革期(第二期学制改革)と並ぶ抜本的な改革が、1990年代後半以降今日まで(第三期学制改革)進んでいます。本講義では、第三期学制改革を対象とした研究書をテキストとして、特に教育制度改革と地方自治体の教育改革を取り上げ、学修到達目標の追求と学制改革の理解を深めます。理解が一定程度深まり、受講生と訪問先の条件が整えば、本講義の時間外で、教育機関・関係者への調査訪問ないしは見学訪問を行いません。											
学修到達目標											
教育制度の今について、歴史的な文脈と社会的な文脈の中で理解することが目的となる。具体的な到達目標は、①新たな教育統治システムの理念、②その実際、③特に近年の教育法制度改革を理解していることである。											
授業の進め方											
この授業は講義となっていますが、学修到達目標の実現のため、演習形式を多用します。毎時、教員からは必要最小限の解説にとどめ、レポーターによる報告とこれに対する討議によって、各回のテーマを一人ひとり追究し、理解を深めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			授業内容や進め方などについて説明します。				シラバスの読み。第1回授業で配布された資料①の整理。(4時間)			
2	国家と教育法			国民主権と教育における法律主義の関係、法令の序列や効力について解説します。				第1回授業で配布された資料①の読み。第2回授業で配布された資料②の整理。(4時間)			
3	自治体と教育法			教育における地方自治と法令、条例や教育委員会規則との関係について解説します。				第2回授業で配布された資料②の読み。第3回授業で配布された資料③の整理。(4時間)			
4	学校改革と教育法			学校の社会的位置づけ、守備範囲、担い手と法令との関係について解説します。				第3回授業で配布された資料③の読み。第4回授業で配布された資料④の整理。(4時間)			
5	学校管理と教育法			学校の組織や運営と法令との関係について解説します。				第4回授業で配布された資料④の読み。第5回授業で配布された資料⑤の整理。(4時間)			
6	教育課程と教育法			教育課程の基準や編制等と法令との関係について解説します。				第5回授業で配布された資料⑤の読み。第6回授業で配布された資料⑥の整理。(4時間)			
7	教師の身分・服務と教育法			教師の採用・人事、身分・服務等と法令との関係について解説します。				第6回授業で配布された資料⑥の読み。第7回授業で配布された資料⑦の整理。(4時間)			
8	教師の資格・力量と教育法			教員免許や研修と法令との関係について解説します。				第7回授業で配布された資料⑦の読み。第8回授業で配布された資料⑧の整理。(4時間)			
9	いじめ・自殺と教育法			子どものいじめ・自殺と法令との関係について解説します。				第8回授業で配布された資料⑧の読み。第9回授業で配布された資料⑨の整理。(4時間)			
10	不登校と教育法			子どもの不登校と法令との関係について解説します。				第9回授業で配布された資料⑨の読み。第10回授業で配布された資料⑩の整理。(4時間)			
11	学校事故と教育法			学校事故(対物事故や生徒間事故)の法的責任と法令との関係について解説します。				第10回授業で配布された資料⑩の読み。第11回授業で配布された資料⑪の整理。(4時間)			
12	学校の危機管理と教育法			学校の危機管理と法令との関係について解説します。				第11回授業で配布された資料⑪の読み。第12回授業で配布された資料⑫の整理。(4時間)			
13	学校参加と教育法			学校参加(PTA、学校評議員、学校運営協議会、三者・四者会議等)と法令との関係について解説します。				第12回授業で配布された資料⑫の読み。第13回授業で配布された資料⑬の整理。(4時間)			
14	生涯学習と教育法			子どもに関わる生涯学習や社会教育と法令との関係について解説します。				第13回授業で配布された資料⑬の読み。第14回授業で配布された資料⑭の整理。(4時間)			
15	まとめ			本講義で学んできたことを整理します。また受講生には、今日の教育法制度改革の特質について発表してもらいます。				前時までに配布の資料①から⑭までの読み。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「教育のための法学」篠原清昭・笠井尚・武者一弘ほか著篠原清昭編(ミネルヴァ書房)(生協で購入してください。)近い将来、改訂版の刊行予定があるため、あらかじめ購入する必要はありません。必要に応じて資料を配布します。必ず保管し、授業時は持参してください。					出席レポート:35% レポート:35% 課題:30% 出席レポートとは毎回の授業後の感想・質問カード、レポートとは授業内容の理解度を高めるため課題レポート、課題とは期末課題、をそれぞれ指します。それらを総合して評価します。S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的かつ説得的に自分の考えを発表できる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「教育六法 平成31年度版」編修委員会編(三省堂または学陽書房)このほか、授業時に適宜紹介します。					専門的・応用的な講義内容のため、履修は「教育制度論」(2単位)の単位を修得済みの学生に限ります。専門書読解、レポート報告、討議、教育機関への訪問を、途中でリタイヤすることなく意欲的にやり遂げられる学生を求めます。						

科目名	教育史研究			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AA36011	研究室	A-02
担当者	大藏 真由美			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○		△	◎								
授業概要											
地域の教育の歴史から現在の教育を考えるをテーマとし、これまでに学修してきた教育の理念、歴史および思想に関する基礎的、基本的な知見を前提として、受講者それぞれの関心に基づいて、地域(松本地域あるいは信州など)の教育的営みに関わる歴史的事柄について幅広く取り上げます。そして、それらの歴史的意義や役割を、現在の教育と比較しながら考察し、現在の教育を取り巻く諸問題に関する理解をさらに深めます。なお、授業は受講者の報告を中心に進めていきます。											
学修到達目標											
(1)地域の教育の歴史遺産について理解している。(2)教育的営みに関わる歴史的事柄について各自の興味関心を深め、その一つについて説明できる。(3)現在の教育を相対化するための視点を修得している。											
授業の進め方											
講義や歴史遺産の見学を通して、地域における学校の役割などについて基本的な共通理解をもった後、各自のテーマを決定し、その内容に関する各自の報告とディスカッションを行っていきます。報告は、各自が複数回担当することになります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容及び授業の進め方について説明します。					シラバスの読み及び教育史に関して興味関心を持つテーマを考える(4時間)。				
2	地域における学校1	地域における学校教育の成立と普及について説明します。					第1回授業で配布した資料①の該当箇所の読み、地域の歴史遺産を調べる(4時間)。				
3	地域における学校2	地域における学校の歴史的意義について説明します。					前時の復習、第1回授業で配布した資料①の該当箇所の読み、地域の歴史遺産を調べる(4時間)。				
4	歴史遺産の見学1	松本市内の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる、これまでの学修内容を参考に各自のテーマを考える(4時間)。				
5	歴史遺産の見学2	松本市周辺の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる、これまでの学修内容を参考に各自のテーマを考える(4時間)。				
6	テーマの決定	各自のテーマ及び報告順を決定します。さらに、報告方法について説明します。					これまでの授業を振り返り、各自のテーマを考える(4時間)。				
7	地域と学校1	地域と学校との関わりについて、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
8	地域と学校2	家族・家庭と学校との関わりについて、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
9	地域と学校3	子どもの生活と学校との関わりについて、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
10	教育の内容と方法1	教科書の内容の変化について、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
11	教育の内容と方法2	さまざまな教材と教具の使用方法について、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
12	教育の内容と方法3	教師の役割について、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
13	教育の歴史と現在1	地域、保護者、学校の関係について、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
14	教育の歴史と現在2	主体的な学びについて、報告とディスカッションを行います。					報告準備及びディスカッションのまとめ(4時間)。				
15	まとめ	ここまでの授業を振り返り、総括します。					ここまでの授業内容を復習する(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準							
使用しません。必要な資料を配布します。				受講態度：25% レポート：50% 課題：25% 受講態度(授業への意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(報告、その報告に関するディスカッションへの参加状況とまとめ)、課題(期末課題)を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄を理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
授業の進捗状況に合わせて適宜紹介します。				受講者の報告とディスカッションが中心となる授業であるため、積極的な授業参加を期待しています。							

科目名	教職教養特別演習			学年学期	3年後期	単位数	1	ナンバリング	AA36012	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・國府田 祐子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
		◎	◎								
授業概要											
これからの教育職員に求められる資質や能力及び心構えなどについての認識を深めることをねらいとし、これからの学校教育や教育職員のあり方などについて、具体的な課題を取り上げて理解を深めます。											
学修到達目標											
学生自らが主体的にかつ自律的に学修するとともに、大学での学業生活がより豊かなものになることを目指し、かつ将来の夢に備えるために、これからの教育職員に求められる資質や能力および心構えなどについての認識を深めている。											
授業の進め方											
演習科目なので、具体的な事例を通して、教師としての自分の考えを、グループ協議を通し確立していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	服務や教職員事故防止	服務や教職員事故防止や倫理観の確立など押さえ、新しい時代の教師のありかたを考え集団討論し、教職教養の資料をまとめる方法を考えます					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
2	生き生きとした授業と教材研究	生き生きとした授業と十分な教材研究のあり方の基本を押さえ、児童生徒を伸ばす学習指導のあり方を考え、集団討論し、教職教養の情報を整理していきます					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
3	心の通う生徒指導の基本	心の通う生徒指導の基本を押さえ、生徒指導の実際を考え、集団討論をし、教職教養の情報の表現方法を学びます					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
4	夢をはぐくむ進路指導とキャリア教育の基本	夢をはぐくむ進路指導やキャリア教育の基本を押さえ、その実際を知り、集団討論し、教職教養の情報の表現方法を身につけます					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
5	校務分掌の実際	校務分掌の実際を知り、望ましい学校運営の一員としての資質を考え、集団討論し、教職教養の情報を増やしていきます。					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
6	様々な教育答申	様々な教育答申を知り、教職教養の情報をまとめ、論文に備えます。					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
7	教師の日常と職務内容	教師の日常と職務内容と教職教養の情報をまとめ、論文に備えます					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
8	教員の身分保障と服務義務	教員の身分保障と服務義務など教職教養の情報をまとめ、論文に備えます。					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
9	子どもの発達課題	幼児・児童・生徒の発達課題と近年の傾向など教職教養の情報をまとめ、論文に備えます					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
10	いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為	いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為など様々な問題行動とその対応を考え個人面接を体験します					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
11	学校・家庭・地域の役割と連携	学校・家庭・地域の役割と連携における教師の役割をまとめ個人面接を体験します。					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
12	教師のライフステージと研修制度	教師に求められる資質能力と、教師のライフステージと研修制度について自分の考えを持ち、個人面接を体験します					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
13	教職の適性と進路選択	教職に対する適性と進路選択についての見識を高め、個人面接を体験します					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
14	公立学校教員の採用状況	公立学校教員の採用状況とその対応を知り、自らのこれからのあり方をまとめていきます。					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
15	教職教養の情報をまとめます	教員をめざし、自らのこれからのあり方をまとめ発表し合い、自己評価や他者評価を体験します。					教職教養で学んだことをノートにまとめ、自身の参考書を作っていきます。（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「小学校学習指導要領総則編」文部科学省著（東洋館出版）（生協で購入してください。）						課題：50% 実技：50% S:授業内容を高度に理解し算数科の学びの基本を押さえ高度に説明でき、問題解決型の優れた指導法を改善した模擬授業や研究協議会を行っている。A:授業内容を理解し算数科の学びの基本を押さえ説明でき、問題解決型の模擬授業や研究協議会を行っている。B:授業内容を理解し算数科の学びの基本を押さえ、模擬授業や研究協議会を行う努力をしている。C:授業内容を理解し模擬授業や研究協議会を支援を受けながら行っている。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
その都度紹介していきます						学校教員としての教職に関する知識（教養）をしっかりと身につける意欲をしっかりと持って授業に参加してください。					

科目名	特別支援教育入門			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	AA16013	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・内藤 千尋・小林 敏枝			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学生年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	○	△							
授業概要											
<p>インクルージョン（共生）理念の普及とともに教師を志す者すべてが特別な教育的ニーズをもつ子どもについて正しく理解し、適切な対応ができることが求められています。本授業では、障害のある子どもの教育（特別支援教育）に関する基礎的知識を修得することを目的とし、特別支援教育が果たすべき役割とその目的、特別支援学級、通級による指導、特別支援学校におけるそれぞれの教育の仕組みとその内容、障害のある子どもの支援と指導の方法など、基礎的な事柄について分かりやすく解説します。</p>											
学修到達目標											
<p>①特別支援教育の発展の歴史的背景について学び、理解している。②特別支援教育の仕組み、果たすべき役割、その目的について学び、理解している。③特別支援学級、通級による指導、特別支援学校における教育の仕組みと内容について学び、理解している。④障害のある子どもの特性に応じた支援・指導の方法について学び、理解している。</p>											
授業の進め方											
講義形式を基本に進めます。授業の学習内容に応じてグループワークや討論も取り入れます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修（学習）計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
2	障害とは何か①	子どもの発達と障害に関する基礎的事項について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
3	障害とは何か②	障害をどのように理解すればいいか。考え方の歴史的変化と現状について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
4	特別支援教育とは何か①	わが国の特別支援教育の仕組みを概観し、その目的と意義について考えます。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
5	特別支援教育とは何か②	特別支援学級と通級による指導の目的と意義、教育内容と課題について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
6	特別支援教育とは何か③	特別支援学校の目的と意義、教育内容と課題について解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
7	中間のまとめ	これまでの授業と振り返り、講義内容に関する補足と質疑応答を行います。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
8	子どもの支援と方法①	知的障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
9	子どもの支援と方法②	発達障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
10	子どもの支援と方法③	肢体不自由児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
11	子どもの支援と方法④	重複障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
12	子どもの支援と方法⑤	視覚障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
13	子どもの支援と方法⑥	聴覚障害児の指導の実際と支援のポイントについて解説します。					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
14	地域支援の現状と課題	障害児・者の地域生活支援の現状と課題について、様々な視点で考えます。					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する（4時間）				
15	授業のまとめ	これまでの講義を振り返り今後の学習の指針を提供します。					全授業ノートを振り返り最終レポート作成に向けた準備をする（4時間）				
テキスト					成績評価の方法・基準						
特になし。					<p>課題：50% 最終レポート：50% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B：授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。</p>						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
「発達障害白書（2018年度版）CD-ROM付著」日本発達障害連盟著日本発達障害連盟編（明石書店） ISBN：9784750343983					授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。						

科目名	子どもの学びをつくる			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA36014	研究室	A-13
担当者	今泉 博			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		○	△							
授業概要											
受験ともかわって意味のわからないことでも、とにかく練習・習熟して身につけるという学習スタイルが多かったのではないのでしょうか。「勉強からの逃走」という状況は、これまでの学校教育の問題点を浮き彫りにしました。これからの教育、学びのあり方を考えるためには、まず自分たちが受けてきた教育のよかった点や改善すべき点をふり返ってみる必要があります。学びは本来、知的好奇心に満ちた感動的なものです。そのような授業では自然に集中が生まれます。学ぶことで自然や社会や人間が見えてきます。											
学修到達目標											
自分が受けてきた授業の良かった点と問題点をふり返り、授業ではなにが課題かを把握している。その上で、現場での実践を手がかりに、子どもたちが目を輝かせて取り組むような学びが、どうしたら可能になるかを理解している。											
授業の進め方											
講義、グループ討論、アクティブラーニングなどを適宜行いながら授業を進めていきます。間違い・失敗をだいにしながら、誰もが安心して授業に参加できるようにしていきたいと思っています。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス(学びをふり返る)	この授業では、何をだいにしていくかを最初に語ります。その後、自分たちが受けてきた授業で、「よかった」と思うことを交流します。					自分が受けてきた授業で、よかったと思ったり、強く印象に残っていることを文章にまとめる。(4h)				
2	授業の問題点	自分たちが受けてきた授業で、問題だったと感じたことを交流し深めます。このことを通して、授業の課題を把握します。					自分が受けてきた授業の問題点や課題と思われることを、文章にまとめる。(4h)				
3	子どもを変える教材の力	学級にはさまざまな子がいます。自分は塾ですでに習っているからという態度で、もっぱら本を読んでいる子がいました。その子が、ある教材との出会いをきっかけに、大きく変わっていきます。					きょうの授業をふり返りながら、あらためて教材のもつ力について文章にまとめる。(4h)				
4	子どもの問いで授業を創る	社会科の時間に、子どもから出された問いを取り上げ、算数で解き明かすことにしたのです。問いは学習の重要な教材です。問いが子どもたちから生まれるような授業が求められます。					問いが生まれるような授業にしておくためには、どのようなことを心がけたらよいかを書く。(4h)				
5	ブラックボックスだから興味津々	学ぶ対象が未知のものだからこそ、子どもたちの知的好奇心が高まります。箱の中に入っている見えないものを、想像・推理しながら突き止め、議論しながら学習の課題にたどり着きます。					本日の授業をもとにしながら、学習における未知(ブラックボックス)の重要性について書く。(4h)				
6	想像・推理を重視することで	遠い過去のことや未知のことを探究するには、想像・推理することは不可欠です。子どもたちは科学者のように、いくつかの事実から、課題を解き明かしていきます。					これまでの自分の学びをふり返り、想像・推理の重要性について文章に書く。(4h)				
7	知りたくなかったときの子どもたちの集中力	学ぶことで生活が見えてくることは、子どもにとってもうれしいことなのです。自分が食べている魚の卵の数に、子どもたちは驚きます。卵の数と産卵の仕方が密接に関係していることを理解していきます。					小中高の授業をとおして、学ぶことで生活が見えてきた体験を文章にまとめる。(4h)				
8	抽象的な事柄を具体的に	地図記号などは極めて抽象的なものです。そういうものは、とにかく憶えるしかないと思われがちですが、抽象的なものであっても、具体的に豊かに扱うことが可能です。					抽象的なものを具体的なものに変えていくには、何ををだいにしていく必要があるかを書く。(4h)				
9	できるだけ子どもの発想で	算数の時間に、どっちが液量が多いのかを確認するとき、その方法をすべて子どもたちの発想で進めていきました。比較の条件を子どもたちが見つけていくことで、深い学びができます。					子どもの発想で授業を進めていくためには、どういうことがだいにになるかを書く。(4h)				
10	「●」だけでも何を表現しているかが見えてくる	子どもたちの感性が研ぎ澄まされていくと、抽象的な表現であっても、みんなでイメージを響き合わせていくと、何を表現しているのかが見えてきます。					きょうの授業をもとに、イメージを響き合わせることのだいを書く。(4h)				
11	対立・討論で思考が深まる	友だちが作ったたし算の文章題をめぐって、それは「たせる」「たせない」で議論が起きました。子どもたちの考えには驚かされます。					子どもたちの議論について、感じたことを文章に書く。(4h)				
12	新聞記事を使うことで	学ぶことは、自然や社会で起こっていることを深く知ることでありまゝです。新聞記事を使うことで、今なにが起きているかが解ります。新聞記事も使い方を工夫すれば、重要な教材になります。					新聞記事を教材のひとつとして使うことについて、感じたことを書く。(4h)				
13	発問する間もなく、質問で進む授業	教師が発問しなくても、子どもたちから次々と質問が出され、授業が進んでいったのです。どんどん主体的に質問できるようになると、授業は大きく変わっていきます。					子どもたちがどんどん質問したり発言できるようになるためには、何がだいを文章に書く。(4h)				
14	教えたいことは教えない	「教えたいことは教えない」。この矛盾を解決していくのが授業だと思っています。子どもたちが知恵を出し合い、想像・推理し、ときには対立や討論しながら課題や本質にたどり着きます。					子どもたちに深く考えさせるには、どのようにすればよいかを文章にまとめる。(4h)				
15	まとめ	これまでの授業をもとに、どうすれば子どもの学びを豊かにしていくことができるかを考えます。					この授業を通して、あらたに気づかされたことや、強く印象に残ったことを書く。(4h)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
テキストは使いません。必要な資料は適宜配布します。				レポート：30% 課題：30% 定期試験：40% S:学びを創る基本を深く理解し、探究的姿勢で子どもの学びについて考察する。それを論理的に文章にまとめることができる。A:学びを創る基本を理解し、探究的姿勢で子どもの学びについて考察する。それを丁寧に文章にまとめることができる。B:学びを創る基本を概ね理解し、探究的姿勢で子どもの学びを考察する。それを誠実に文章にまとめることができる。C:学びを創る基本を概ね理解し、子どもの学びを考察する。それを文章にまとめることができる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
とくに参考書は使いません。必要な資料は適宜配布します。				学びに関心のある皆さんは、ぜひ受講してみてください。現場で実際に授業を創るときに、大いに役立つはず。生き生きと授業ができれば、教師という仕事はやり甲斐のある楽しいものになります。							

科目名	義務教育の未来を考える			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AA36015	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	○	△							
授業概要											
義務教育の現在と未来を三つの点から考えます。一つは、実際の小学校と中学校の教育実践録を取り上げ、未来の授業づくりや授業改善の取り組みについて議論します。二つ目は、小学校と中学校の教師のライフヒストリーやライフコースの書物を取り上げ、教師の育ちについて考えます。三つ目は、校務分掌や開かれた学校づくりの実践報告を取り上げ、これからの時代の組織としての学校・チーム学校について考えます。最後に、学生が自らの義務教育の学校体験を振り返りつつ、義務教育の未来をまとめて発表します。											
学修到達目標											
授業づくりや学校づくりを、教師の育ちという文脈で理解し、自らも教師育ちに歩みを踏み出すことが到達目標である。具体的な到達目標は、実践記録や実践研究を読み取る力を獲得すること、子どもの育ちと教師の育ちが共ながらあることを読み取る力を獲得すること、現在と未来の義務教育の課題を自らにつなげるものとして把握できることである。											
授業の進め方											
この授業は講義となっていますが、学修到達目標の実現のため、演習形式を多用します。毎時、教員からは必要最小限の解説にとどめ、レポーターによる報告とこれに対する討議によって、各回のテーマを一人ひとり追究し、理解を深めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容や進め方などについて説明します。					シラバスの読み。第1回授業で配布された資料①の整理。(4時間)				
2	小学校教師の教育実践の苦悩	小学校教師の教育実践録を読解します。					第1回授業で配布された資料①の読み。第2回授業で配布された資料②の整理。(4時間)				
3	小学校教師の教育実践上の変化と成長	前時に取り上げた小学校教師の一年後の教育実践録を読解します。					第2回授業で配布された資料②の読み。第3回授業で配布された資料③の整理。(4時間)				
4	中学校教師の教育実践の苦悩	中学校教師の教育実践録を読解します。					第3回授業で配布された資料③の読み。第4回授業で配布された資料④の整理。(4時間)				
5	中学校教師の教育実践上の変化と成長	前時に取り上げた中学校教師の一年後の教育実践録を読解します。					第4回授業で配布された資料④の読み。第5回授業で配布された資料⑤の整理。(4時間)				
6	小学校教師のライフヒストリーを読む	小学校教師のライフヒストリーについて書かれた文献を読解します。					第5回授業で配布された資料⑤の読み。第6回授業で配布された資料⑥の整理。(4時間)				
7	小学校教師のライフヒストリーを語る	小学校教師のライフヒストリーについて読み取りをもとに語り合い、中学校教師のライフコースの手がかりを得ます。					第6回授業で配布された資料⑥の読み。第7回授業で配布された資料⑦の整理。(4時間)				
8	中学校教師のライフヒストリーを読む	中学校教師のライフヒストリーについて書かれた文献を読解します。					第7回授業で配布された資料⑦の読み。第8回授業で配布された資料⑧の整理。(4時間)				
9	中学校教師のライフヒストリーを語る	中学校教師のライフヒストリーについて読み取りをもとに語り合い、中学校教師のライフコースの手がかりを得ます。					第8回授業で配布された資料⑧の読み。第9回授業で配布された資料⑨の整理。(4時間)				
10	義務教育の教師のライフコース	第9回授業と第10回授業の語り合いと確認した手がかりをもとに、義務教育学校の教師のライフコースについて追究します。					第8回と第9回授業で配布された資料⑧と⑨の読み。第10回授業で配布された資料⑩の整理。(4時間)				
11	小学校づくりの取り組み	小学校づくりの実践報告を読解します。					第10回授業で配布された資料⑩の読み。第11回授業で配布された資料⑪の整理。(4時間)				
12	小学校づくりの変化と教育力量の高まり	前時に取り上げた小学校づくりの、その後の展開について書かれた実践報告を読解します。					第11回授業で配布された資料⑪の読み。第12回授業で配布された資料⑫の整理。(4時間)				
13	中学校づくりの取り組み	中学校づくりの実践報告を読解します。					第12回授業で配布された資料⑫の読み。第13回授業で配布された資料⑬の整理。(4時間)				
14	中学校づくりの変化と教育力量の高まり	前時に取り上げた中学校づくりの、その後の展開について書かれた実践報告を読解します。					第13回授業で配布された資料⑬の読み。第14回授業で配布された資料⑭の整理。(4時間)				
15	まとめ	これからの時代の義務教育について、これまでの授業で学んだこと、自らの学校生活のあゆみの振り返りを手がかりに、一人ひとりが義務教育の未来展望を構想します。一人ひとりが義務教育の未来展望を構想します。					前時までに配布の資料①から⑭までの読み。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
資料を配布します。必ず保管し、授業時は持参してください。				出席レポート:35% レポート:35% 課題:30% 出席レポートとは毎回の授業後の感想・質問カード、レポートとは授業内容の理解度を高めるため課題レポート、課題とは期末課題、をそれぞれ指します。それらを総合して評価します。S:授業内容を正しく理解し、資料やデータを活用しながら論理的かつ説得的に自分の考えを発表できる。A:授業内容を正しく理解し、論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄について理解し、説明できる。C:授業で取り上げた事柄について理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
授業時に適宜紹介します。				専門的な講義内容のため、履修は「教育制度論」(2単位)の単位を修得済みの学生に限りです。専門書読解、レポート報告、討議、訪問調査あるいは聞き取り調査を、途中でリタイヤすることなくやり遂げられる学生を求めます。							

科目名	学校心理学			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AA36016	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	○	△							
授業概要											
生徒指導や教育相談および特別支援教育において行われるようになってきた「チーム支援」の理論と方法を学ぶと共に、中心概念である心理教育的援助サービスの視点から、これからのヒューマンサービスとしての学校教育のあり方の理解を図ります。子ども達が幸せになることを教師はどのように支援すべきかについて理解を深め、講義によってヒューマンサービスの視点から学校教育を捉え直し、演習によって困難を抱えた子どもの支援方法の策定を具体的に扱います。											
学修到達目標											
ヒューマンサービスを具現するための心理教育的援助サービスの理論を理解することで、これまでの日本の学校教育システムを「チーム学校」の視点でとらえなおし、子供たちが幸せになるための援助の仕方について、具体的に実践できる。											
授業の進め方											
前半の授業は講義を中心にすすめ、後半は困難を抱えた子供や保護者への対応のために、組織としてチームで支援する方法を、演習形式で学びます。具体的なシートを活用して、支援策の策定ができるように実践的に学びます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	新しい学校教育を目指して	個に応じる教育を問い直し、ヒューマン・サービスとしての学校教育について考えます。周辺領域（福祉、医療、看護、警察、矯正、保育等）との連携の実態を知り、これからの学校がなすべきことを考察します。					資料の第1章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
2	アメリカの学校心理学	そもそも学校心理学（school psychology）とは何か、アメリカの実態から学びます。アメリカの学校心理学と学校システムを知ること、日本の学校の支援体制のあり方を問い直します。					資料の第2章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
3	日本の学校心理学	確立されていない日本の学校心理学を、実態に即して当てはめ、教育相談や特別支援教育、生徒指導、チーム学校などの今日的な教育課題と関連させて理解します。					資料の第3章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
4	心理教育的援助サービスの基礎概念	学校心理学の基本的中心概念である「心理教育的援助サービス」について概観します。援助サービスの対象、援助の内容など、援助する人などについて理解します。					資料の第4章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
5	援助を担う4種類のヘルパー	専門的ヘルパー（スクールカウンセラー等）、複合的ヘルパー（教員）、役割的ヘルパー（保護者）、ボランティアヘルパーについてその職責と役割について学びます。					資料の第5章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
6	3段階の心理教育的援助サービス	理論の基盤としてのサービスの3段階を理解します。治療的なサービス、予防的なサービス、開発的なサービスを日本の生徒指導や教育相談と比較しながら考察します。					資料の第6章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
7	事例から心理教育的援助サービスを学ぶ	第1章から第6章までの理論や知見を活かして、実際の事例を考察する。グループ討議により心理教育的援助サービスのより良い展開を模索します。					第1章から第6章までの理論を復習する。事後はグループ討議で学んだことをレポートする（4時間）				
8	心理教育的アセスメントの考え方	事例からアセスメントの考え方とその方法を理解します。援助資源チェックシートや援助チームシートの活用方法を理解して、アセスメントの基本を身につけます。					資料の第8章を熟読してまとめておく。アセスメントの考え方と理論をレポートする（4時間）				
9	心理教育的アセスメントの実際	グループワークにより援助資源チェックシートや援助チームシートを実際に活用して事例を分析し、支援案を作成します。ロールプレイ方式でグループワークを行い、新たな体験や感情に気づきます。					事前配布の事例資料を熟読し、自分なりの支援方法を考察する。事後は支援案をつくる（4時間）				
10	コンサルテーションとは何か	コンサルテーションの基本概念を学び、異なる専門家同士のアドバイスで自分の資質を伸ばすことを理解する。学校では相互コンサルテーションが普通に行われることを理解する。					資料の第10章を熟読してまとめておく。事後はレポートを書く（4時間）				
11	事例研究① Aさんの不登校事例	Aさんの不登校の事例を心理教育的援助サービスの観点からアセスメントし、グループワークによって具体的な援助案を作成する。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする（4時間）				
12	事例研究② Bさんの不登校事例	Bさんの不登校の事例を心理教育的援助サービスの観点からアセスメントし、グループワークによって具体的な援助案を作成する。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする（4時間）				
13	事例研究③ Cさんの発達障害の事例	発達障害をもつCさんを心理教育的援助サービスの観点からアセスメントし、グループワークによって具体的な援助案を作成する。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする（4時間）				
14	事例研究④ 崩壊学級の建て直し事例	学級崩壊状態のクラスをどう立て直したらよいか、児童、担任、学年、学校等の援助資源を活用してグループワークにより支援案を作成する。					資料を熟読して援助チームシートを記入しておく。事後はアセスメントをレポートする（4時間）				
15	支援と指導を考え直す	グループ討議によって、これまで学校が行ってきた生徒指導の概念を心理教育的援助サービスの観点からとらえなおし、個に応じた支援のあり方を再確認する。					これまでの資料を再読しておき、グループ討議から学んだことをレポートする（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
資料を配布します				定期試験：50% レポート：30% 課題：20% グループ討議や事前のレポートと、グループワークへの参加とそのレポート（課題）を重視します。S：心理教育的援助サービスの理論を高度に理解し、グループワークによるアセスメントと支援案の作成ができる。A：チーム支援の考え方を理解し、グループによる支援案の作成ができる。B：3段階の支援や4種類のヘルパーの考え方が理解でき、支援案を作成できる。C：チームによる支援案の作成と具体的な支援の方法が分かる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「学校心理学」石隈利紀著（誠信書房） ISBN：4-414-30149-1 「チーム援助入門 学校心理学・実践編」石隈利紀・田村節子著（図書文化） ISBN：978-4-8100-3392-2				これまでの生徒指導の概念が変わります。困った子は困っている子であり、そうした子供たちを支援する新しい理論とスキルはこれからの学校教育に必要です。							

科目名	認知心理学			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AA36017	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	○	△							
授業概要											
認知心理学は私たち人間の心の働きのうち、学習や、記憶、思考、推論といった知的な側面について研究する学問です。その基本的な研究手法について演習形式で授業をします。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> ・認知心理学の基本的研究手法について理解している。 ・基本的研究手法の内のいくつかについて活用ができる。 ・教育に関わる事象について認知心理学的な観点から批判分析ができる。 											
授業の進め方											
テキストに沿って授業を進めますが、適宜、関連する実験を実習します。講師自身の研究についても紹介します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	はじめに			オリエンテーション				テキストの目次をざっと見ておく ／課題図書「はじめに」を読む。 (4時間)			
2	認知の誤り			私たちの認知メカニズムには「誤り」を起こしやすいことを学びます。				テキスト第1章を読んでくること ／課題図書の実験Ⅰを読む。(4時間)			
3	感覚			私たちが外界についていろいろな情報を得る際の基本となる感覚について学びます。				テキスト第2章を読んでくること ／課題図書の実験Ⅱを読む。(4時間)			
4	知覚			五感と呼ばれる機能は認知の入口です。その仕組みについて視覚を中心に学びます。				テキスト第3章を読んでくること ／課題図書(実験Ⅰ・Ⅱ)レポート提出。(4時間)			
5	記憶の基礎			何かを学ぶことの基礎には憶えることがあります。人間の記憶機能の基礎について学びます。				テキスト第4章を読んでくること ／課題図書の実験Ⅲを読む。(4時間)			
6	記憶の展開			記憶に関する種々の応用研究について学びます。				テキスト第5章を読んでくること ／課題図書の実験Ⅳを読む。(4時間)			
7	目撃者の記憶			認知心理学の応用研究としての目撃記憶について講師自身の研究を紹介しします。				事前に配布する論文コピーを読んでくること。(4時間)			
8	中間試験			講義前半の内容について理解度を調べ、理解の足りないところを補います。				試験内容について復習すること ／課題図書(実験Ⅲ・Ⅳ)レポート提出。(4時間)			
9	知識の成り立ち			記憶された情報としての「知識」について学びます。				テキスト第6章を読んでくること ／課題図書の実験Ⅴを読む。(4時間)			
10	問題解決と推論			知識の再構成としての「思考」について学びます。				テキスト第7章を読んでくること ／課題図書の実験Ⅵを読む。(4時間)			
11	判断と意思決定			「思考」の結果としての「意識的な活動」について学びます。				テキスト第8章を読んでくること。(4時間)			
12	潜在認知			私たちの認知過程のほとんどが実は無意識のうちになされていることについて学びます。				テキスト第9章を読んでくること ／課題図書(実験Ⅴ・Ⅵ)レポート提出。(4時間)			
13	偽装数学嫌いの検出と救出			潜在的な認知の測定手法について実習します。				事前に配布する論文コピーを読んでくること。(4時間)			
14	認知心理学の歩み			認知の研究がどのように行われてきたかの歴史を辿ります。				テキスト第10章を読んでくること ／課題図書の「おわりに」を読む。(4時間)			
15	まとめ			全体のまとめと後半のテストを行い、理解不足分について補講します。				後半部分についての復習をしておくこと。(4時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「基礎から学ぶ認知心理学」服部 雅史, 小島 治幸, 北神 慎司著(有斐閣) ISBN:978-4641150270(生協で購入してください。) 「錯覚の科学」C.チャプリス著(文春文庫) ISBN:978-4167901769(生協で購入してください。) 課題図書					定期試験:100% S:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の3つ以上において優れた成果を示した。A:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習の2つ以上において優れた成果を示した。B:課題を基準レベルで達成し、授業内容の理解、授業内活動、課題図書、自主的学習において優れた成果を示した。C:課題すべてを基準レベルで達成した。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「脳はなぜ「心」を作ったのか」前野隆司著(ちくま文庫) 「あなたの知らない脳」ディヴィッド・イーグルマン著(ハヤカワノンフィクション文庫)					事前学習では課題についてA4版1枚に「要約」と「内容に関する質問1つ」を書いてきて下さい。						

科目名	臨床心理学（発達障害入門）			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AA36018	研究室	A-15
担当者	羽田 行男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		○	△							
授業概要											
臨床心理学の知見に基づき、発達障害に関する基礎的な知識を確実に定着させ、この障害のある児童の特性に応じた教育の方法について理解し、その活用の仕方について扱います。発達障害の理解を深めるために、発達心理学の視座からこの障害の特質を正しく認識できるようにします。その上で、発達障害児に対する適切な教育方法のあり方について、理論と実践の観点から読み解きます。とくに、発達障害児の教育に有効であるとされる応用行動分析について取り上げます。											
学修到達目標											
発達障害児の行動について、発達心理学の視座から理解し、その行動特性を応用行動分析学から解き明かす能力を身につけている。療育プログラムやペアレントトレーニング、ティーチャーズトレーニングの構成内容を具体的に知るとともに、それらの活用法について修得している。											
授業の進め方											
理論的な内容については講義形式で、実践的な内容に関してはグループワークやロールプレイをとおして体験的に学びます。配布プリントのレジュメや、体験型学習の振り返りレポートなどが、事前事後の課題になります。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			発達障害児の教育について、これまで学んだことを振り返ります。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
2	応用行動分析学を学ぶ（1）			応用行動分析（ABA）のアプローチの方法（強化子）について学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
3	応用行動分析学を学ぶ（2）			応用行動分析（ABA）のアプローチの方法（般化）について学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
4	応用行動分析学を学ぶ（3）			ABC機能分析を学びます。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
5	発達心理学に学ぶ（1）			知能の発達について学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
6	発達心理学に学ぶ（2）			言語の発達について学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
7	発達心理学に学ぶ（3）			愛着の発達について学びます。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
8	療育プログラムを学ぶ（1）			模倣のプログラムを学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
9	療育プログラムを学ぶ（2）			遊びのプログラムを学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
10	療育プログラムを学ぶ（3）			ソーシャルスキルのプログラムを学びます。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
11	ペアレントトレーニングを学ぶ（1）			親を対象にした家庭における療育に関して、その理論や内容を学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
12	ペアレントトレーニングを学ぶ（2）			親を対象にした家庭における療育に関して、ロールプレイを通して体験的に学びます。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
13	ティーチャーズトレーニングを学ぶ（1）			教師を対象にした学校における療育に関して、その理論や内容を学びます。				レジュメを作成する。（4時間）			
14	ティーチャーズトレーニングを学ぶ（2）			教師を対象にした学校における療育に関して、ロールプレイを通して体験的に学びます。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
15	まとめ			授業を振り返り、総括をします。				振り返りのレポートを作成する。（4時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜、資料を配布します。				レポート：40% 小テスト：40% 受講態度：20% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
適宜、紹介します。				理論だけでなく、グループワークやロールプレイをとおして実践的に学びます。							

科目名	カウンセリング入門			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AA36019	研究室	A-15
担当者	羽田 行男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	○	△							
授業概要											
<p>カウンセリングの基礎的な理論やその実践の方法について扱い、小学校における様々な教育活動にカウンセリングによる手法を活かせるようにします。カウンセリングを担う側の立場にある自己の心理的特性について客観的に理解できるよう解説します。その上で、バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの違いを知り、相手の言葉に耳を傾けること、自分の言葉を相手に伝えることについて幅広く触れていきます。最後に、学校教育においても役立つアセスメントや芸術療法について体験的に扱います。</p>											
学修到達目標											
<p>他者の話を「きく」ことや、自己の気持ちを言葉にすることに関して、日頃から傾注する姿勢を身につけている。 また、心理アセスメントや芸術療法(アートセラピー)に関して学んだことを、小学校における教育活動に応用する姿勢を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>理論的な内容については講義形式で、実践的な内容に関してはグループワークやロールプレイをとおして体験的に学びます。 配布プリントのレジュメや、体験型学習の振り返りレポートなどが、事前事後の課題になります。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	カウンセリングとはなにかについて、考えを深めます。					レポートを作成する。(4時間)				
2	自分自身を知る	交流分析>エゴグラムから、自分自身の性格特性を知る手掛かりを得ます。					レポートを作成する。(4時間)				
3	他者と交流する(1)	交流分析の理論を学びます。					レジュメを作成する。(4時間)				
4	他者と交流する(2)	交流分析の理論にもとづき、ロールプレイをします。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
5	アサーションで伝える(1)	アサーションの理論について学びます。					レジュメを作成する。(4時間)				
6	アサーションで伝える(2)	アサーションの理論にもとづき、ロールプレイをします。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
7	傾聴する(1)	話の「きき方」について、考察します。					レジュメを作成する。(4時間)				
8	傾聴する(2)	「きく」ことに関するロールプレイをします。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
9	心理アセスメントを学ぶ(1)	文書完成法について学習します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
10	心理アセスメントを学ぶ(2)	P-Fスタディについて学習します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
11	心理アセスメントを学ぶ(3)	グッドイナフ人物画知能検査について学習します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
12	芸術療法に学ぶ(1)	スキュル法を体験的に学習します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
13	芸術療法に学ぶ(2)	風景構成法を体験的に学習します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
14	芸術療法に学ぶ(3)	カラージュ療法を体験的に学習します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
15	まとめ	カウンセリングについての総括します。					振り返りのレポートを作成する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜、資料を配布します。				<p>レポート:40% 小テスト:40% 受講態度:20%</p> <p>S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
適宜、紹介します。				理論だけでなく、グループワークやロールプレイをとおして実践的に学びます。							

科目名	介護等体験入門			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	AL16020	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋・大蔵 真由美			必修選択	必修	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限、火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
△	○		△	△	△						
授業概要											
<p>本授業は、介護等体験(社会福祉施設5日間及び特別支援学校2日間)の事前指導として開講しています。したがって、介護等体験の意義・目的を理解し、介護等体験を行うにあたって必要な基礎的な知識、技能、態度を身につけることを目的とします。介護等体験を行う社会福祉施設や特別支援学校の法的根拠や実態、最近の動向等に関する基礎的な知識をもって実習に臨めるように進めていきます。</p>											
学修到達目標											
<p>(1) 介護等体験の意義・目的を十分に理解し、介護等体験を行う学校、福祉施設に関する基本的な知識を身につけている。 (2) 介護等体験を行うにあたっての基本的な知識、技能、態度を身につけている。 (3) 介護等体験の日々の記録の取り方を理解し、自己の目標がどの程度達成されたか検証する態度を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>介護等体験の準備科目として、授業では介護等体験に向けた準備を具体的に展開します。教室での講義を主として、必要に応じて演習などを行う場合があります。なお、提出物は締め切り期限を厳守して必ず提出して下さい。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方及び介護等体験の意義と目的について説明します。					シラバスの読み、これまでの自己の経験を振り返る(2時間)。				
2	特別支援学校における介護等体験1	特別支援学校の概要と実態について説明します。					HPで長野県内の特別支援学校について調べる(3時間)。				
3	特別支援学校における介護等体験2	特別支援学校での介護等体験の内容と心構えについて説明します。					第2回授業の復習、特別支援学校における介護等体験の目標を考える(4時間)。				
4	社会福祉施設1	社会福祉施設の制度について説明します。					第3回授業の復習、社会福祉施設の制度について調べる(4時間)。				
5	社会福祉施設2	社会福祉施設での介護等体験の内容と心構えについて説明します。					第4回授業の復習、社会福祉施設のHPを調べる(4時間)。				
6	社会福祉施設3	社会福祉施設での介護等体験について（記録指導・体験先調査等）取説明と演習を行います。					第5回授業の復習、「介護等体験記録」の内容を確認する(4時間)。				
7	多様な他者理解	介護等体験に向けて、多様なニーズを有する人々について説明します。					第6回授業の復習、第7回授業内容で気になった内容を確認する(4時間)。				
8	まとめ	総合的調整とこれまでの授業の総括をします。					ここまでの授業の復習、介護等体験に臨むための準備(4時間)。				
テキスト				成績評価の方法・基準							
使用しません。				<p>受講態度：50% 課題：50% 受講態度(意欲、内容の理解度)と課題(各種提出物)を総合して評価します。S:授業内外の課題に積極的かつ自発的に取り組み、必要な知識、態度等を十分に習得し、明確な自己課題を持たた。A:授業内の課題に積極的に取り組み、必要な知識、態度等を習得し、自己課題を持たた。B:授業内の課題を通して、必要な知識、態度等を習得し、自己課題を考えた。C:授業内の課題を通して、必要な知識、態度等を理解し、自己課題を考えた。</p>							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
<p>「福祉実習に行くあなたのための準備本」栗山直子・興那嶺司(相川書房)、 「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック」現代教師養成研究会(大修館書店)、 「社会福祉六法」社会福祉法規研究会(新日本法規) 他</p>				<p>介護等体験ではいかに事前準備をして臨むかが学びの深さ、広さを決定します。授業内の準備には制約がありますので、自発的に準備を行い、自己課題を明確にもって体験に臨み、自己課題の解決に繋げて下さい。</p>							

科目名	地域活動実習			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	AA26021	研究室	A-06
担当者	秋田 真・澤柿 教淳			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○	△		◎								
授業概要											
地域活動実習は、学校以外の地域教育関係組織や団体において、活動や支援及び補助を行う体験型の授業です。この授業では、実際の現場へ向かい、OJT (On-the-Job Training) で学んでいくこととなります。地域の教育がひとつづくり・まちづくりにどのように関わっているのかを学ぶと共に、ボランティア活動を通して人との繋がりの大切さを身につけます。											
学修到達目標											
小・中・高等学校以外の地域教育関係組織や団体において関わる人々との信頼関係を築くことができ、また、ボランティア活動の際に求められる役割について考え行動することができる。											
授業の進め方											
ガイダンスや報告等以外については地域教育関係組織や団体での活動が中心となります。活動内容の違いにより、求められる役割に多少の違いがありますが、活動先職員の指示の下、積極的に関わっていく姿が求められる活動となります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス(1)	地域活動実習の意義とねらいについて学びます。					今後の体験活動に対し、必要なものは何かをリストアップする。(1時間)				
2	授業ガイダンス(2)	具体的な活動内容を決めます。					今後の体験活動に対し、連絡・調整を行う。(1時間)				
3	体験活動(1)	組織や団体の目的や活動内容を理解します。					内容をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
4	体験活動(2)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
5	体験活動(3)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
6	体験活動(4)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
7	体験活動(5)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
8	中間報告	振り返りと今後の見通しについて考え、活動状況の中間報告を行います。					事例検討を振り返り、整理しておく。(1時間)				
9	体験活動(6)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
10	体験活動(7)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
11	体験活動(8)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
12	体験活動(9)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
13	体験活動(10)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					体験をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
14	体験活動(11)	役割や支援、及び補助業務の体験活動を行います。					次時の報告資料を完成させてくる。(1時間)				
15	活動報告	これまでの活動を振り返り、活動報告をまとめます。					自己の活動を振り返りまとめる。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
特になし。				レポート: 40% 受け入れ側の評価: 60% S:積極的に取り組み、活動先の職員や関係者からの信頼を獲得し、活動に求められる役割について考え行動することができた。A:積極的に取り組み、活動先の職員や関係者から信頼され、活動に求められる役割について考えることができた。B:積極的に活動を行い、それらの活動に求められる役割について知ることができた。C:活動を行い、それらの活動に求められる役割について知ることができた。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介する。				活動先で出会う様々な人との繋がりを大切にできる心を、この活動で一層育んでいけるように期待します。							

科目名	学校インターンシップ			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	AA26022	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・國府田 祐子・澤柿 教淳			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	水曜日4限、金曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
○		△	◎								
授業概要											
学校インターンシップは、近隣の指定協力校の小学校で、教育活動や校務、クラブ活動や放課後指導等の支援や補助を行う体験型の授業です。教員に求められる資質を理解し、自らの教員としての適格性を把握する機会とすると共に、大学で学ぶ理論と小学校現場での実践(体験)とに基づく省察を繰り返すことにより、教員としての実践的指導力を育成します。教育実習前の授業に入るための準備として、集団指導のための学級経営のあり方や一人一人の児童に適した関わり方等を実践的に学んでもらいます。											
学修到達目標											
小学校での体験や活動を通して、教育実習に向かう自分自身の課題をはっきりし、豊かな人間観、教育観、教師観に基づく学級経営のあり方や、児童一人ひとりに適した関わり方について学び、教員に求められる資質の理解と実践的指導力を身につけている。											
授業の進め方											
最初に本授業の意義とねらいを十分に理解した上で、自己の興味・関心をもとに学校インターン活動に参加して、理論と実践に基づく省察を繰り返しながら、自分自身の課題をはっきりさせていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス1	学校インターンシップの意義とねらい					シラバスの読み(1時間)				
2	ガイダンス2	具体的な活動内容と注意点					第1回授業の復習と自己の活動計画の検討(1時間)				
3	活動参加1	活動参加(主として、教員の職務、校務の理解)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
4	活動参加2	活動参加(主として、個別指導の補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
5	活動参加3	活動参加(主として、手段の中での指導補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
6	活動参加4	活動参加(主として、授業の中での補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
7	活動参加5	活動参加(主として、中間教室・放課後支援での補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
8	活動参加6	活動状況の報告と事例検討1 成果と課題-教員に求められる資質					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
9	活動参加7	活動参加(主として、学級活動の指導補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
10	活動参加8	活動参加(主として、学年・学校行事の指導補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
11	活動参加9	活動参加(主として、児童会活動の指導補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
12	活動参加10	活動参加(主として、クラブ活動の指導補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
13	活動参加11	活動参加(主として、地域行事の指導補助)					自己の活動態度等についての省察(1時間)				
14	活動のまとめ1	活動状況の報告と事例検討2 成果と課題-児童理解、及び活動報告会準備					成果と課題の自己省察、報告レポート作成(1時間)				
15	活動のまとめ2	活動報告会					報告レポート作成(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。						レポート:60% 受け入れ校の評価40% S:到達目標達成のために探求心をもって課題に誠実に意欲的に取り組み、正しく文章で表現できる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、活動内容と課題を文章で表現できる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の活動で学んだことの振り返りをし、文章で表現できる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の活動で学んだことを表現できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介します。						本授業は、松本市内の小学校へのボランティア活動を主要な内容とするため、本学でのボランティア活動を行う際の諸注意を遵守してください。					

科目名	教育実践特講			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AA26023	研究室	A-03
担当者	増田 吉史・國府田 祐子			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
△	○		◎								
授業概要											
教師の職責の重要性を認識し、教師に求められる資質・能力の基礎を養い、幅広い教養と実践的指導力を身につけるために、授業のDVDや写真を通して分析し、レポートにまとめ、それに基づいてディスカッションを行い、授業に対する基本的な理解を深め、自己課題を明確にします。											
学修到達目標											
学生自らが主体的に授業の基本や心得、よい授業、分かる授業とはどのような授業かを考え、教師の資質を理解し自ら積極的に養っていきます。											
授業の進め方											
ディスカッションにより、よい授業のありかたを考察するとともに、自己表現能力、コミュニケーション能力を向上させていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	具体事例①とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象①(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
2	具体事例②とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象②(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
3	具体事例③とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象③(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
4	具体事例④とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象④(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
5	具体事例⑤とグループ協議	学校生活で起こる具体的な事象⑤(提示)に対し、自分なりに対処を考え、グループで協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
6	小学校でよくおこる事例①の場面指導	場面指導①を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
7	小学校でよくおこる事例②の場面指導	場面指導②を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
8	小学校でよくおこる事例③②の場面指導	場面指導③を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
9	小学校でよくおこる事例④の場面指導	場面指導④を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
10	小学校でよくおこる事例⑤の場面指導	場面指導⑤を各自で考え、発表しあい、その事例を見合いながら、具体的に協議していきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
11	教育実践と集団討論	授業DVDを試聴し、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
12	授業場面と集団討論	授業写真を見て、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します。					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
13	模擬授業と集団討論	模擬授業を見て、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します。					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
14	模擬授業と集団討論	模擬授業を見て、分かる授業とはというテーマでグループ討議し、授業の総論について議論します。					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
15	まとめ	まとめを行い、発表し合い、自己評価、相互評価をしていきます					授業のまとめをレポートにし、自身の参考書を作成していきます。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「小学校学習指導要領総則編」文部科学省著(東洋館出版) 学習指導要領改定時には連絡します。新解説に買い変えてもらいます。その他必要に応じて、プリント等を用意します。					小テスト:50% 実技:50% S:授業内容を高度に理解し、高い探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい問題に取り組みができる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題に取り組み、多数の高度な問題に取り組みができる。B:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題に取り組み、多数の問題に取り組みができる。C:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題に取り組み、問題に支援を受けながら取り組みができる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介します。					記録をしっかりとることが重要です。						

科目名	地域学校教育活動			学年学期	3年通年	単位数	1	ナンバリング	AA36024	研究室	A-06
担当者	秋田 真・大蔵 真由美・安藤 江里			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
○	△		◎								
授業概要											
地域の小・中学校や特別支援校における活動です。年間を通し教員に求められる資質や役割について、現場の教員指導の下、OJT（On-the-Job Training）にて研修を積み重ねる活動です。この活動では、児童集団及び個人と関わりを持ち、教員として成長していきます。未来の教員として、現場での即戦力として活躍できることを目指します。											
学修到達目標											
教員の職務や役割、児童・教員への関わり方を理解し、教員としての基礎を身に付けている。											
授業の進め方											
ガイダンスや報告等以外は学校現場での活動となります。現場で指導頂く先生方の意を汲み、研修に取り組んで行くこととなります。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス(1)	地域学校教育活動の意義とねらいについて学びます。					教育実習との関わりを考えながら見直しを持つ。(1時間)				
2	授業ガイダンス(2)	具体的な活動内容と注意点について学びます。					今後の体験活動に対し、連絡・調整を行う。(1時間)				
3	実地研修(1)	教員の職務や校務についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
4	実地研修(2)	児童への個別的指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
5	実地研修(3)	児童への集団的指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
6	実地研修(4)	授業における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
7	実地研修(5)	中間教室、保健室登校等児童の学習支援、放課後補充学習支援についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
8	中間報告	振り返りと今後の見直しについて考え、活動状況の中間報告を行います。					事例検討を振り返り、整理しておく。(1時間)				
9	実地研修(6)	学級活動における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
10	実地研修(7)	学年行事における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
11	実地研修(8)	学校行事における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
12	実地研修(9)	児童会活動における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
13	実地研修(10)	クラブ活動、放課後児童教室における指導についての研修を行います。					研修成果をまとめておき、以後の報告に備える。(1時間)				
14	実地研修(11)	地域行事における指導についての研修を行います。					次時の報告資料を完成させてくる。(1時間)				
15	活動報告	これまでの活動を振り返り、活動報告をまとめます。					自己の活動を振り返り、まとめる。(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
特になし。					レポート：40% 受け入れ側の評価：60% S:積極的に取り組み、研修先の指導者や児童からの信頼を獲得し、教員としての基礎を身に付けることができた。A:積極的に取り組み、研修先の指導者や児童と関わりながら、教員としての基礎を身に付けることができた。B:積極的に研修を行い、教員としての基礎について知ることができた。C:研修を行い、教員としての基礎について知ることができた。						
参考書					履修上の注意（学生へのメッセージ）						
特になし。授業の進捗状況に合わせ、適宜紹介する。					現場で指導して下さる先生は「未来の先生」を育てようと指導します。また、実習生であっても、児童にとっては「先生」です。気を引き締めて臨みましょう。						

科目名	初等教育実習事前・事後指導			学年学期	2・3年通年	単位数	1	ナンバリング	AA26025	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・羽田 行男			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	前期：水曜日4限、金曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△	◎								
授業概要											
初等教育実習をより円滑に、より効果的に行うために、初等教育実習の事前と事後に行う授業です。事前指導では、大学で学んだ理論と教育実習の距離をできるだけ縮め、抵抗なく臨めるように指導し、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけることを主な狙いとしています。また事後指導では、教育実習を通して学んだことを発表し、教育実習前の自己の教育観、学校観、子ども観など対比し、今後の学校教育や教師のあり方、および諸課題を認識することを主なねらいとしています。											
学修到達目標											
教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的・基本的な事柄をしっかりと身につけている。また、これからの教員に求められる資質や能力についての理解を深めるとともに、学校教育の諸課題について理解し、その課題解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。											
授業の進め方											
教育実習事前・事後指導は、教育実習への正しい認識を深め、意欲を喚起するために教育実習の実際の姿を知る機会を提供します。また、学校教育や教員のあり方及び諸課題を認識するために、教育実習体験を聞く機会を設けます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教育実習ガイダンスⅠ	教育実習の概要、諸手続きと事前指導					教育実習についての理解（1時間）				
2	教育実習ガイダンスⅡ	教育実習の意義と目的、心得と事前指導					教育実習についての理解（1時間）				
3	教師像について	あるべき教師像について					期待される教師像の理解（1時間）				
4	教育実習報告会への参加①	教育実習の成果と課題の発表					報告会事後レポート（2時間）				
5	教育実習報告会への参加②	教育実習の成果と課題の発表					報告会事後レポート（2時間）				
6	教育実習報告会への参加③	教育実習の成果と課題の発表					報告会事後レポート（2時間）				
7	学校現場の状況	本学を卒業した先輩教師による講話					報告レポート（2時間）				
8	教育実習直前ガイダンス	教育実習に向けての自己課題の確認					報告レポート（2時間）				
9	教育実習報告会での報告①	これまでの報告会の内容についての発表					自己課題のレポート（2時間）				
10	教育実習報告会での報告②	報告会の内容についての発表					自己課題のレポート（2時間）				
11	教育実習報告会の総括	報告会の内容についての意見交換会					自己課題のレポート（2時間）				
12	まとめ	自己評価と自己課題の明確化					教育実習へ向けて自己課題のレポート（2時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
使用しない。						受講態度：40% 出席レポート：20% レポート：40% 授業担当者全員で協議し、評価します。受講態度（S:意欲的に目標達成、A:積極的B:普通C:消極的）さらに出席状況を加味します。出席レポートS:授業内容を的確に理解、A:内容理解が十分、B:概ねできている、C:内容理解が不足）。レポート（教育実習に対する理解度と自己課題の分析状況）、S:実習理解や自己課題の分析が的確、A:充分できている、B:普通、C:自己課題の分析が不十分）、教育実習報告レポート、教育実習報告会の内容も総合的に評価します。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
必要に応じて提示します。						教育実習を履修する者は、必ず履修して下さい。					

科目名	初等教育実習			学年学期	3年通年	単位数	4	ナンバリング	AA36026	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦・秋田 真			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：水曜日4限、金曜日4限		
関連資格	小一種					履修条件	教育課程総論（初等）、初等国語科指導法、初等社会科指導法、初等算数科指導法、初等				
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
①	②	③	A	B	C						
	△	○	◎								
授業概要											
初等教育実習の意義や心構えを理解し、児童理解の方法や授業計画および教材研究、学級経営などを、指導教官について具体的に学びます。現在の小学校や学校教育をめぐる厳しい現状や課題等も把握して、児童に生きる力の育成を目指す教師としての役割や使命感を持って、初等教育に臨める学生を育てます。また、学校の先生方の小学校生活の1日を理解し、普段からの児童との関わり方はもちろん、給食指導・清掃指導等を通して、同僚性を発揮しながら組織として対応している教師の姿からも学ぶ場とします。											
学修到達目標											
授業についての理解を深めると共に授業技術の基礎を身につけている。学級経営・学年経営の方針と実際関連を理解し、教育実践の全体構造についても理解している。											
授業の進め方											
実習期間は原則3週間とし、授業観察、授業参加、授業実習を中心に実習を行います。また、実習担当教諭の指導に基づき実習生それぞれの状況に応じた実習カリキュラムを作成し、最終的に研究授業に臨みます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	教育実習			授業観察、授業参加、授業実習、授業記録、授業分析、授業計画の作成、教材開発、研究授業を通じて教育者としての自覚を養います。				教育実習の手引きを再読し、実習校との打合せ、担当単元、担当学級などの事前確認と準備を行う。			
テキスト						成績評価の方法・基準					
使用しません。						レポート：30% 教育実習校の評価70%。授業担当者全員で協議し、評価します。受講・教育実習態度(S:探究心を持ち意欲的A:積極的B:普通C:消極的)さらに出席状況を加味します。レポート(教育実習時の指導案、実習記録簿への記入、自己課題の分析状況)、S:正確に記入され、自己分析も完璧、A:充分できている、B:普通、C:記入や分析が不十分)、教育実習報告レポート、教育実習自己評価の内容も総合的に評価します。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
必要に応じて指示します。						教育実習生としての自覚を持って、児童に接し、先生方の指導を素直に生かしながら、自分自身の教員としての力量を高めましょう。					

科目名	教職実践演習（初等）			学年学期	4年後期	単位数	2	ナンバリング	AA46027	研究室	A-18
担当者	川島 一夫・増田 吉史・國府田 祐子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日4限、木曜日5限		
関連資格	小一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	△	○	◎								
授業概要											
<p>一クラスおおむね20名程度のクラスでの複数教員による授業です。この授業は、講義形式でなく、毎回のグループワークを中心として、学校現場でのさまざまな課題に対する実践的な対応力を高めるために、小グループでの複数教員による指導を行うとともに履修カルテを利用した振り返り等を行います。</p>											
学修到達目標											
<p>本授業は、大学4年間で学んだ教職に関する知識や実習成果の整理統合を図り、現場に立つ教員として求められる最低限必要な実践的資質・能力が身についているかどうかを各自に点検させ、受講生に現時点での自己の到達点を自覚させるとともに、その足りない部分を生涯にわたって補う努力を続けることができる力を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>一クラス20名程度のクラスでの複数教員による授業です。授業も毎回のグループワークを中心として、学校現場でのさまざまな課題について、小グループでの討論、ロールプレイ、バスセッション等を行います。また、履修カルテを利用した振り返りも行います。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業のガイダンス	ガイダンス - 「教職実践演習」授業の趣旨と目的-					教職実践演習の趣旨と目的についてのレポート(4時間)				
2	期待される教師像	小学校教での期待される教師像（履修カルテを利用した自己の振り返りを行う）					履修カルテを利用した自己の振り返り(4時間)				
3	コミュニケーション能力	教師に求められるコミュニケーション能力					教師に求められるコミュニケーション能力について授業の振り返り(4時間)				
4	子どもの心理・児童理解	子どもの心理・児童理解 ロールプレイングによる理解					授業時の振り返りレポート(4時間)				
5	発達障害の理解	発達障害の子どもの理解とその対応の仕方（バスセッション）					授業時の振り返りレポート(4時間)				
6	校則・校内規律の指導	児童・生徒指導上の諸問題Ⅰ「校則・校内規律」について履修カルテの振り返りを利用したグループ討議					授業時の振り返りレポート(4時間)				
7	「問題行動」について	児童・生徒指導上の諸問題Ⅱ「問題行動」について履修カルテの振り返りを利用したグループ討議					授業時の振り返りレポート(4時間)				
8	いじめ・不登校の理解	学級経営上の諸問題Ⅰ - いじめ・不登校を中心に-					授業時の振り返りレポート(4時間)				
9	メディアリテラシーの理解	学級経営上の諸問題Ⅱ - 進路指導・メディアリテラシーグループ討議					授業時の振り返りレポート(4時間)				
10	情報管理・事故・災害への対応	学級経営上の諸問題Ⅲ-情報管理・事故・災害への対応を中心として-					授業時の振り返りレポート(4時間)				
11	学級の安全と危機管理	学級の安全と危機管理 - 教師に求められる人権感覚（フィールドワークによる実習）-					授業時の振り返りレポート(4時間)				
12	指導案作成の基礎Ⅰ	教材研究と指導案の作成Ⅰ - 指導案作成の基礎（各教科教員による少人数クラス）-					授業時の振り返りレポート(4時間)				
13	指導案作成の基礎Ⅱ	教材研究と指導案の作成Ⅱ - 独自の指導案作成（各教科教員による少人数クラス）-					授業時の振り返りレポート(4時間)				
14	ICT機器の活用法	小学校におけるICT機器の活用法 - 各教科教員による少人数クラス-					授業時の振り返りレポート(4時間)				
15	履修カルテを利用した振り返り	履修カルテを利用した振り返りの作成（各自の到達点の確認と今後の努力目標の設定）					授業時の振り返りレポート(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。						<p>受講態度：25% 出席レポート：25% 課題：50%</p> <p>S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもってレポートに取り組み、小テストでは、全問題に正解できる。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもってレポートに取り組み、殆どの小テストが正解できる。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、小テストが解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられたレポートに誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの小テストが解ける。</p>					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
各授業時に適宜配付、案内する。また、各授業時に次回の課題が課されるので注意すること。						教職免許取得のための教職科目の最終チェックとなる授業であり、必ず出席するように努めること。					

科目名	特別支援教育総論			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AB26028	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・内藤 千尋			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△		◎							
授業概要											
近年インクルージョン（共生）の理念が世界的に普及し、特別支援教育は重要な教育課題になっています。その中で、教師を志す者すべてが特別な教育的ニーズをもつ子どもについて正しく理解し、適切な対応ができることが求められています。この授業は、特別支援教育の歴史と動向、その現状と課題について基礎的知識を修得し理解を深めることを目的に、①特別支援教育とは何か、②子どもの発達と障害、③特別支援教育の現状と課題、の主要テーマについて解説します。											
学修到達目標											
①特別支援教育の歴史と主な動向について学び、理解している。②子どもの発達と障害に関する基礎的内容について学び、理解している。③障害の特性と教育ニーズに応じた特別支援教育の現状と課題について学び、理解している。											
授業の進め方											
講義形式を基本に進めます。授業の学習内容に応じてグループワークや討論も取り入れます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修（学習）計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
2	特別支援教育とはなにか①	特別支援教育の理念と意義					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
3	特別支援教育とはなにか②	特別支援教育の歴史と動向					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
4	特別支援教育とはなにか③	わが国の特別支援教育における近年の動向					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
5	特別支援教育とはなにか④	諸外国における特別支援教育の動向					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
6	特別支援教育とはなにか⑤	学校教育における特別支援教育の役割と課題					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
7	中間まとめ	講義内容のまとめと補足、質問への回答					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
8	子どもの発達と障害①	脳と中枢神経系					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
9	子どもの発達と障害②	感覚と運動					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
10	子どもの発達と障害③	認知と言語・コミュニケーション					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
11	特別支援教育の現状と課題①	知的障害と肢体不自由					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
12	特別支援教育の現状と課題②	言語・聴覚障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
13	特別支援教育の現状と課題③	発達障害<ASD>					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
14	特別支援教育の現状と課題④	発達障害<LD, ADHD>					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する（4時間）				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし						小テスト：30% 定期試験：70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B：授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「発達障害白書（2018年度版）CD-ROM付」日本発達障害連盟著日本発達障害連盟編（明石書店） ISBN：9784750343983 授業の中で適宜紹介する						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	知的障害児の心理・生理・病理			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AB36029	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・関 ひろみ			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△		◎							
授業概要											
知的障害は脳の器質的あるいは機能的異常によって生じるものであり、その成因は、遺伝要因、環境要因及び両者の相互作用に帰せられます。この授業では、第一に知的障害の定義、知的障害児の心理特性について、心理学と関連領域の研究知見を解説します。第二に、知的障害の原因論に関する発達生理および障害発生病理について解説します。											
学修到達目標											
① 知的障害の定義、認知や行動の特性に関する心理学の知見を学び、理解している。② 知的障害の背景となる脳の機能、およびその発達と障害について学び、理解している。③ 知的障害の原因となる遺伝的要因、および代表的な疾患について学び、理解している。④ 知的障害の関連領域における最近の知見について学び、理解している。											
授業の進め方											
講義形式を基本とし、授業の学習内容に応じてグループワークも取り入れて行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容を説明するとともに事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修（学習）計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
2	知的障害をどう理解するか①	特別支援教育と心理学					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
3	知的障害をどう理解するか②	ICFによる障害理解の枠組み					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
4	知的障害をどう理解するか③	知的障害児の認知と行動					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
5	知的障害の原因論①	脳の発達と障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
6	知的障害の原因論②	知的障害の原因と分類					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
7	知的障害の原因論③	遺伝と環境					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
8	中間まとめ	知的障害の理解と原因論についてのまとめと補足、小テストを行う					授業ノートと小テストの結果をまとめ、次回講義の下調べをする（4時間）				
9	知的障害の起因疾患①	遺伝病					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
10	知的障害の起因疾患②	代謝障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
11	知的障害の起因疾患③	染色体異常					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
12	知的障害の起因疾患④	胎児病、その他					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
13	知的障害と関連領域①	知的障害と発達障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（4時間）				
14	知的障害と関連領域②	知的障害児者の地域生活支援					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する（4時間）				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
毎時間配付する資料をテキストとして用います。						小テスト：30% 定期試験：70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B：授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「発達障害白書（2018年度版）CD-ROM付」日本発達障害連盟著日本発達障害連盟編（明石書店）						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	肢体不自由児の心理・生理・病理			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AB36030	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝・加藤 光朗			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日4限		
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△		◎							
授業概要											
<p>肢体不自由児の原因となる起因疾患や症状・障害特性について学びを深めます。また、肢体不自由児の理解に向けて心理の特徴や発達・随伴症状などについて学習し、肢体不自由児のQOL向上、自己実現に向けた教育・支援について学びます。</p>											
学修到達目標											
<p>肢体不自由の定義について理解し、肢体不自由の起因疾患の臨床像を正確に把握し説明できる。さらに、運動障害・随伴症状について理解し、専門的な知識を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>毎時間資料を配布し進めます。さらに、視聴覚教材を活用し、専門的な知識の修得と障害の理解を深めます。毎回、リアクションペーパーを提出し学んだことを確認しながら進めます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス 子どもの成長・発達について学びます。	授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。「肢体不自由児の心理・生理・病理」を学ぶにあたり、子どもの発育・発達について学習します。					小児の発育・発達について事前に調べる。子どもの発育・発達について復習する。（4時間）				
2	肢体不自由児の定義について学びます。	肢体不自由児の定義を学びその概念を理解し、これから学ぶ対象の理解を深めます。					肢体不自由とは何か、事前に調べる。肢体不自由の定義を復習する。（4時間）				
3	肢体不自由児の生理・病理 ①からだの仕組みと解剖・生理	人間のからだの仕組みについて学びます。からだの仕組みと動き・運動を解剖学的・生理学的に理解し、障害の理解を深めます。					人間のからだの仕組みについて事前に調べる。からだの仕組みについて復習する。（4時間）				
4	肢体不自由児の生理・病理 ②起因疾患・脳性麻痺	肢体不自由児の起因疾患である脳性麻痺の臨床像について学び、基本的な特徴について理解します。					脳性麻痺について基礎的事項を事前に調べる。脳性麻痺の臨床像について復習する。（4時間）				
5	肢体不自由児の生理・病理 ③起因疾患：二分脊椎	肢体不自由児の起因疾患である二分脊椎の臨床像について学び、基本的な特徴について理解します。					二分脊椎について事前に調べる。二分脊椎の臨床像について復習する。（4時間）				
6	肢体不自由児の生理・病理 ④起因疾患：進行性疾患他	肢体不自由児の起因疾患である進行性疾患等についての臨床像を学び、基本的な特徴について理解します。					進行性疾患について事前に調べる。進行性疾患について復習する。（4時間）				
7	肢体不自由児の理解①肢体不自由児の心理・情緒の発達	肢体不自由児を心理的な観点から、発達と障害の関係・感覚・知覚・運動・動作・コミュニケーションなどについて学びます。					配布された資料を事前に読む。肢体不自由児の心理・情緒について復習する。（4時間）				
8	肢体不自由児の理解②肢体不自由児の運動・姿勢の発達の特徴	肢体不自由児の運動・姿勢の発達の特徴について学びます。肢体不自由児は様々な運動障害ゆえの日常生活での困難性について学び、運動発達の特徴と可能性について理解を深めます。					配布された資料を事前に読む。肢体不自由児の運動・姿勢の発達特徴を復習する。（4時間）				
9	肢体不自由児の理解③肢体不自由児の心理と発達特徴・随伴症状	肢体不自由児の心理・情緒の発達について学びます。また、併せ有することが多い症状について理解を深め、その対応と支援について考えます。					配布された資料を事前に読む。肢体不自由児の随伴症状について復習する。（4時間）				
10	肢体不自由児の理解④重度重複児の心理について	重症心身障害児の臨床像・感覚、認知機能発達さらに生理・心理学的なアプローチについて学び、実態と発達支援について理解を深めます。					配布された資料を事前に読む。重症心身障害児について復習する。（4時間）				
11	肢体不自由児の支援①肢体不自由児の運動感覚経験と発達支援	肢体不自由児の就学前・学童期のリハビリテーションと療育について学び、発達支援について理解を深めます。特に運動発達の仕組みと認知機能についての基礎的事項を理解します。					配布された資料を事前に読む。リハビリテーション・運動発達について復習する。（4時間）				
12	肢体不自由児の支援②肢体不自由児の身辺自立の支援と社会生活	自立活動支援に必要な、感覚や認知の特性への理解を深めます。また、肢体不自由児の制約要因について学び、身辺自立への支援について考えます。					配布された資料を事前に読む。自立活動への支援について復習する。（4時間）				
13	肢体不自由児の支援③保護者への支援	障害のある子どもを持つ親の心情について、事例を通じて考えます。また、保護者との連携の重要性についての理解を深めます。					配布された資料を事前に読む。保護者との連携の重要性について復習する。（4時間）				
14	肢体不自由児教育の関連領域①肢体不自由児のQOL	肢体不自由児が自立をめざし、生活上の困難を主体的に改善していけるような支援について考えます。また、特別支援学校からの連続した支援の在り方について考えを深めます。					配布された資料を事前に読む。肢体不自由児のQOLの向上とその支援を復習する。（4時間）				
15	肢体不自由児教育の関連領域②肢体不自由児のライフサイクルと自己表現	肢体不自由児の心理社会的発達について理解を深め、自尊心の発達、健康で幸福な生活を営むための支援について考えます。個々のちがいを認めたうえで「共に生きる」ことへの支援について考えを深めます。					配布された資料を事前に読む。「共に生きる」社会の実現について復習する。（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
随時資料を配布します。						定期試験：60% 小テスト：40% S：基礎的な知識を正確に把握でき、説明できる。探究姿勢を持ち、高い意欲を示している。A：基礎的な知識を正確に把握できている。意欲を示している。B：基礎的な知識を把握できているものもある。課題をすべて行っている。C：基礎的な知識の60%程度を把握している。課題をすべて行っている。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」（海文堂出版） 「特別支援学校高等部学習指導要領」海文堂出版編						事前に配布された資料をよく読み、事前学習を行って授業に参加してください。					

科目名	病弱児の心理・生理・病理			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AB36031	研究室	非常勤
担当者	宮地 弘一郎・関 ひろみ			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	○	△		◎							
授業概要											
病弱児についての理解を深めるために、その代表的な疾患である心疾患、呼吸器疾患、心身症等の主な対象疾患や、近年の病弱概念の変化について理解します。さらに病弱児の心理についても考察します。また、病弱児教育の現状と課題、多様な対象疾患における障害像を理解し支援するための視点を身につけます。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> 病弱児の心理・生理と病理における知識・技能を備え、それらを応用することができる。 病弱児のQOL (quality of life) とQOE (quality of education) について理解し、そのための援助視点を身につけている。 											
授業の進め方											
授業は講義を中心に進めるが、一部演習やビデオ視聴を行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	この授業で何を学ぶか					病弱児の教育、および自己実現について考える。（4時間）				
2	病弱児の理解①	代表的疾患(1)（心臓病、腎臓病を中心に）					授業ノートをまとめ、心臓病、腎臓病等について下調べをする。（4時間）				
3	病弱児の理解②	代表的疾患(2)（喘息、血友病、てんかんを中心に）					授業ノートをまとめ、喘息、血友病、てんかん等について下調べをする。（4時間）				
4	病弱児の理解③	遺伝性疾患（筋疾患、代謝性疾患を中心に）					授業ノートをまとめ、筋疾患、代謝性疾患等について下調べをする。（4時間）				
5	病弱児の理解④	近年の病弱概念の変化（心の病を中心に）					授業ノートをまとめ、心身症、摂食障害等について下調べをする。（4時間）				
6	病弱児の理解⑤	近年の病弱概念の変化（発達障害と二次障害）					授業ノートをまとめ、発達障害と発達障害に関連する二次障害について下調べをする。（4時間）				
7	病弱児の理解⑥	教育の視点からみた病弱児の課題					授業ノートをまとめ、病弱児教育の課題について下調べをする。（4時間）				
8	病弱児の理解⑦	セルフケアと医療的ケア					授業ノートをまとめ、セルフケアと医療的ケアについて下調べをする。（4時間）				
9	病弱児の心理①	国際生活機能分類（ICF）モデルについて					授業ノートをまとめ、ICFモデルの概要について下調べをする。（4時間）				
10	病弱児の心理②	ICFモデルから考える病弱児の環境因子					授業ノートをまとめ、ICFモデルに基づく病弱児の環境因子について仮説を立てる。（4時間）				
11	病弱児の心理③	ICFモデルから考える病弱児の個人因子					授業ノートをまとめ、ICFモデルに基づく病弱児の個人因子について仮説を立てる。（4時間）				
12	病弱児の心理④	ICFモデルから考える病弱児の援助視点					授業ノートをまとめ、ICFモデルに基づく病弱児の援助視点について仮説を立てる。（4時間）				
13	病弱児の心理⑤	病気療養児のQOL(1)（CLSの取組から）					授業ノートをまとめ、CLS(チャイルドライフスペシャリスト)について下調べをする。（4時間）				
14	病弱児の心理⑥	病気療養児のQOL(2)（病棟保育士の取組から）					授業ノートをまとめ、我が国の入院児の発達・生活支援の職種について下調べをする。（4時間）				
15	まとめ	病弱児の自己実現を考える					授業ノートをまとめ、病弱児の自己実現について自身の意見をまとめる。（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
授業時に資料を配布します。						定期試験：70% レポート：30% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力と学術的見地に基づく探求姿勢をもって課題を達成できる（試験とレポート課題の成績合計90点以上） A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題を達成できる（試験とレポート課題の成績合計80点以上） B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる（試験とレポート課題の成績合計70点以上） C：授業内容を一定程度理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる（試験とレポート課題の成績合計60点以上）					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「特別支援教育に生かす病弱児の心理・生理・病理」小野次朗・榊原洋一・西牧謙吾著（ミネルヴァ書房） ISBN：978-4-623-06153-2						疾患についての幅広い知識内容を含む科目であるため、授業は各内容の学習の手がかりの提示となります。授業を踏まえて十分に学修を行ってください。					

科目名	知的障害児の教育課程と指導法			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AB36032	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・都築 繁幸			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
本授業は次の三点を目標として行います。(1)知的障害児の教育課程の考え方、歴史的変遷等の特徴を理解します。(2)知的障害児の教育課程の編成及び実施における留意事項を理解します。(3)知的障害児に対する具体的な指導法及び自立活動の意義を学びます。											
学修到達目標											
①知的障害児の教育課程の考え方を説明することができる。②知的障害児の教育課程の内容を説明することができる。③知的障害児の指導法、自立活動の内容と方法を説明することができる。											
授業の進め方											
講義を基本形式とし学習内容に応じてグループワークや討論の形式を取り入れます。指導法に関わる授業では教材を使った実習形式の授業も行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学修の方法について解説する					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	知的障害児の教育課程①	特別支援学校の教育課程の基本的な考え方					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	知的障害児の教育課程②	教育課程の考え方と歴史的変遷					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	知的障害児の教育課程③	教育課程の編成における留意事項					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	知的障害児の教育課程④	教育課程の実施における留意事項					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	知的障害児の教育課程⑤	日常生活の指導の実際と評価					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
7	知的障害児の教育課程⑥	遊びの指導の実際と評価					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	知的障害児の教育課程⑦	生活単元学習の実際と評価					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	知的障害児の教育課程⑧	作業学習の実際と評価					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	知的障害児の教育課程⑨	教科別の指導の実際と評価					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	知的障害児の教育課程⑩	個別の教育支援計画の考え方					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	知的障害児の指導法①	個別の指導計画のためのアセスメント:行動観察・分析法					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	知的障害児の指導法②	ことば・言語・コミュニケーション					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	知的障害児の指導法③	キャリア教育と就労支援					授業ノートをまとめ最終授業の質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版)(生協で購入してください。) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂出版)(生協で購入してください。)						レポート:30% 定期試験:70% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「特別支援学校学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)」(開隆堂出版) 「特別支援教育の基礎」(東京書籍)						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	肢体不自由児の教育課程と指導法			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AB36033	研究室	非常勤
担当者	渡邊 流理也			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
特別支援教育における肢体不自由児教育における具体的な指導法や授業内容(教育課程)について、教育学・心理学の観点から講義を行います。											
学修到達目標											
肢体不自由児の指導方法について、必要な基礎的知識・技能を修得し、肢体不自由児の教育実践について具体的に説明できる。											
授業の進め方											
授業は、基本的に講義形式で行いますが、学習内容に応じてグループワークなどを行う場合があります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	肢体不自由教育の現状と課題	特別支援教育の中における肢体不自由教育の位置づけや、肢体不自由教育に関する現状と課題について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
2	肢体不自由教育の教育課程	通常学校と特別支援学校に在籍する肢体不自由教育を受ける児童生徒の教育課程について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
3	肢体不自由児の健康管理と指導	肢体不自由児が合併することの多い疾患に関する知識とそれに対応する指導内容について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
4	姿勢と運動の発達	肢体不自由児の発達支援で重要となる姿勢と運動に関する発達の知識について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
5	姿勢と運動を支える感覚機能	姿勢や運動に必要な感覚機能に関する知識について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
6	姿勢と運動を支える姿勢反射・反応	姿勢の保持と運動の遂行に必要な姿勢反射・反応に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
7	脳性まひの筋緊張障害	脳性まひの意義、類型および筋緊張の特徴とその支援に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
8	姿勢と運動発達支援の実際1(筋緊張障害への対応)	過緊張や低緊張といった筋緊張への対応に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
9	姿勢と運動発達支援の実際2(ポジショニングの支援)	立位や座位などの姿勢の保持とそれらの姿勢での運動の遂行への支援に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
10	肢体不自由児への学習活動の支援	教科などの学習における姿勢の保持や上肢の操作への支援に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
11	肢体不自由教育の実際1(身体の動きの指導)	自立活動など学校生活の中での身体の動きの指導に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
12	肢体不自由教育の実際2(コミュニケーションの指導)	肢体不自由児のコミュニケーションの指導に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
13	肢体不自由教育の実際3(各教科の指導)	教科学習における肢体不自由児の身体的・認知的な困難とその支援について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
14	肢体不自由教育の実際4(重度・重複障害児の指導)	重度の肢体不自由と重度の知的障害を併せ持つ児童生徒の指導内容に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次回の講義に備えておくこと。(4時間)				
15	肢体不自由教育における諸課題への対応	インクルーシブ教育システムの構築など新たな取り組みの中での肢体不自由教育の課題と対応に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、この授業全体で学んだことを整理する。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。授業内で適宜資料を配布する。						出席レポート：20% 定期試験：80% S:授業内容を高度に理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について具体的な例を挙げて詳細に説明することができる。A:授業内容を理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について具体的な例を挙げて説明することができる。B:授業内容のおおよそを理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について説明することができる。C:授業内容の60%程度を理解し、肢体不自由児の教育課程と指導法について概要を説明することができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「脳性まひ児の発達支援-調和的発達を目指して-」(北大路書房) 「肢体不自由児の教育」(放送大学教育振興会) 「肢体不自由教育ハンドブック」(社会福祉法人全国心身障害児福祉財団)						特別支援教育に関する基礎的な知識を十分に復習した上で、授業に臨んでください。					

科目名	病弱児の教育課程と指導法			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AB36034	研究室	非常勤
担当者	渡邊 流理也・滝川 国芳			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
病弱児教育の状況について、病弱・虚弱の定義や教育目標、児童生徒の実態、教育制度・教育課程の内容といった幅広い視点からの理解を図ります。特に自立活動について具体的な事例を取り上げるとともに、医学的側面および医療との関わりについて理解を深めます。											
学修到達目標											
病弱教育の対象となる児童生徒の具体的な障害状況と教育対応に関する知識・技能を備え、自立活動に必要な指導プログラムの概要を理解することができる。											
授業の進め方											
授業は、基本的に講義形式で行いますが、学習内容に応じてグループワークなどを行う場合があります。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	病弱教育の歴史～この授業で何を学ぶか	病弱教育における歴史について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
2	病弱・虚弱の定義、病弱教育の教育目標	病弱・虚弱の定義や教育目標について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
3	特別支援教育(病弱)の教育制度と教育課程	特別支援教育における教育制度と病弱・虚弱の児童生徒の教育課程について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
4	病弱教育の現状と課題	病弱・虚弱の児童生徒への教育の現状やその課題について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
5	代表的な疾患の特徴と教育対応①(喘息、糖尿病、腎疾患など)	喘息、糖尿病、腎疾患などの特徴と、それら疾患をもつ児童生徒への教育に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
6	代表的な疾患の特徴と教育対応②(白血病、脳腫瘍、心疾患など)	白血病、脳腫瘍、心疾患などの特徴と、それら疾患をもつ児童生徒への教育に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
7	代表的な疾患の特徴と教育対応③(心身症、摂食障害など)	心身症、摂食障害などの特徴と、それら疾患をもつ児童生徒への教育に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
8	自立活動①:健康の保持、心理的な安定に関する内容区分について	病弱・虚弱児の自立活動のうち、健康の保持、心理的な安定に関する内容区分の指導に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
9	自立活動②:環境の把握、身体の動きに関する内容区分について	病弱・虚弱児の自立活動のうち、環境の把握、身体の動きに関する内容区分の指導に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
10	自立活動③:人間関係の形成、コミュニケーションに関する内容区分について	病弱・虚弱児の自立活動のうち、人間関係の形成、コミュニケーションに関する内容区分の指導に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
11	重症心身障害児の理解と教育	重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児の実態とその教育に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
12	超重症児の理解と教育	医療的ケアである超重症児の実態とその教育に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
13	医療ケアについて	医療ケアに関する知識と学校教育で実施されている医療的ケアの知識と実際について学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
14	多職種連携について	病弱児の支援に関わる医療や福祉といった他職種との連携に関する知識を学び、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
15	発達保障と教育保障を考える	様々な環境要因によって生じる病弱児における発達保障と教育保障に関する課題について知り、説明できるようになること。					配布資料のワークシート箇所を中心に、講義内容を整理し、次の講義に備えておくこと。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。授業時に資料を配布する。						課題:50% 定期試験:50% S:授業内容を高度に理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について具体的な例を挙げて詳細に説明することができる。A:授業内容を理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について具体的な例を挙げて説明することができる。B:授業内容のおおよそを理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について説明することができる。C:授業内容の60%程度を理解し、病弱児の教育課程と主な疾患に関する指導法について概要を説明することができる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「病弱・虚弱児の医療・療育・教育」宮本信也・土橋圭子編(金芳堂) 「特別支援学校幼稚部教育要領」小学部・中学部学習指導要領(海文堂) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂)						特別支援教育に関する基礎的な知識を十分に復習した上で、授業に臨むようにすること。					

科目名	視覚障害児教育総論			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AB36035	研究室	非常勤
担当者	大庭 重治			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
視覚障害児を対象とした教育課程の特徴、視覚障害の原因、評価方法、視覚障害児の知覚・認知・運動の各領域における心理学的、生理学的特徴、弱視児や盲児の発達特性に応じた支援・指導法について講述します。											
学修到達目標											
視覚障害児の教育に携わる際に必要とされる教育課程と指導法に関する基礎的知識、視覚障害児の心理、生理、病理に関する基礎的知識を修得している。											
授業の進め方											
パワーポイントの資料を配付し、それに基づきながら講述します。また、内容に応じて、小グループによる話し合いの機会を設定します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	特別支援教育と視覚障害	特別支援教育における視覚障害児教育の位置付けについて講述します。					特別支援教育の流れについて整理する(4時間)				
2	視覚障害の理解	視覚障害の定義と認知特性について講述します。					視覚障害児の認知特性について整理する(4時間)				
3	視覚障害児の教育課程	視覚障害特別支援学校の教育課程と視覚障害児に対する合理的配慮について講述します。					視覚障害児に対する合理的配慮について整理する(4時間)				
4	視覚障害の原因	視覚系のメカニズムと視覚障害の原因について講述します。					視覚障害の原因について整理する(4時間)				
5	脳と視覚障害	脳機能と視覚障害の関係について講述します。					脳における情報処理について整理する(4時間)				
6	視覚障害の評価	視覚障害の心理・生理学的評価の方法について講述します。					視覚障害の評価方法について整理する(4時間)				
7	弱視児の情報処理特性	弱視児の情報取得にかかわる特性について講述します。					弱視児の情報処理特性について整理する(4時間)				
8	弱視児の表現特性	弱視児の表現活動における特性について講述します。					弱視児の表現特性について整理する(4時間)				
9	弱視児の学習支援	弱視児の学習支援において配慮すべき事項について講述します。					弱視児の学習支援における配慮点について整理する(4時間)				
10	盲児の情報処理特性	盲児の情報取得にかかわる特性について講述します。					盲児の情報処理特性について整理する(4時間)				
11	盲児の表現特性	盲児の表現活動における特性について講述します。					盲児の表現特性について整理する(4時間)				
12	盲児の学習支援	盲児の学習支援において配慮すべき事項について講述します。					盲児の学習支援における配慮点について整理する(4時間)				
13	視覚障害児の運動特性	視覚障害児の運動領域にみられる特性について講述します。					視覚障害児の運動特性について整理する(4時間)				
14	視覚障害者の心理学的支援	視覚障害児及び中途視覚障害者の心理学的支援について講述します。					中途視覚障害者の支援における配慮点について整理する(4時間)				
15	人間社会と視覚障害者	社会における視覚障害者と他者とのかかわりについて講述します。					視覚障害児の発達支援のあり方について整理する(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
テキストは使用しません。						小テスト:20% 定期試験:80% 小テストと定期試験の成績を総合して評価します。 S:授業内容を高度に理解し、批判的な探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を十分に理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の概ねを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂出版)						特にありません。					

科目名	聴覚障害児教育総論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AB36036	研究室	非常勤
担当者	庄司 和史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
聴覚障害の主症状は難聴です。子供の難聴は様々な学習や生活で困難を生じさせ、発達上の問題をもたらします。近年、聴覚障害の早期発見が進み、0歳代から補聴器や人工内耳の適応が進められ教育的支援も展開されています。この授業では、体験活動やディスカッションを行いながら聴覚障害の理解を深めるとともに、乳児期から青年期に至る教育課程および指導法について学習を展開していきます。											
学習到達目標											
聴覚障害の概要を生理・病理の観点から理解する。聴覚障害児の発達期における心理的特性や保護者支援について知り、そのうえで聴覚障害教育の歴史・教育課程・指導方法・評価法など聴覚障害教育に関する基本的内容や方法を修得している。											
授業の進め方											
学習内容によって、講義形式、グループワーク、疑似体験活動など様々な形で進めます。毎回、ワークシート、ミニレポート等の提出物があります。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の進め方や注意点を説明します。また、ICF（国際生活機能分類）等の障害の定義について確認します。					WHOのICF（国際生活機能分類）の図を主な障害に当てはめて説明できること（4時間）				
2	音と音声の基礎	音や音声の物理的性質や心理学的特徴を学習し、人間にとって聴覚とはどのようなものかについて基礎的な事柄を学習します。					日常生活での身の回りにどのような音があるかを記録すること（4時間）				
3	聴覚障害の生理及び病理①	聴覚の構造の基礎を理解し、音が聴覚神経に伝達される仕組みを理解します。その上で耳の疾患や、伝音難聴、感音難聴、混合難聴などの聴覚障害の種類と特徴について学習します。					耳の構造図を資料を見ずに描けるようになり各部の名称を覚えること（4時間）				
4	聴覚障害の生理及び病理②	聴力レベルを表す単位としてのdBHL（デシベル）を理解し、オーディオグラム（聴力図）の読み方を学習します。聴力の状態によって音や音声がどのように変化するかをシミュレーションします。					オーディオグラムのサンプルを読み、平均聴力レベルを算出すること（4時間）				
5	聴覚障害児の発達と心理①	聴覚障害が子供の発達にどのような影響をもたらすかを考えます。とくにコミュニケーションにおける心理状況と人間関係の問題について、耳栓などを使った疑似体験を通して考えます。					一般的な発達の道筋を確認すること（2時間）。疑似体験について感想をまとめること（2時間）				
6	聴覚障害児の発達と心理②	乳児期の聴性行動の発達、音声発達（喃語）における聴覚障害児の特徴を、動画を視聴したり音声録音を聞いたりしながら理解し、言語発達が遅れる要因について考えてみます。					言語と言語発達に関する配布資料を読み、シートに記入していただくこと（4時間）				
7	聴覚障害児の発達と心理③	児童期、思春期、青年期の発達の特徴と心理について、とくに学習言語の習得が学力の問題へ関連することを様々な資料から理解します。					生活言語と学習言語の違いを具体的に挙げること（2時間）。障害認識の要素をあげること（2時間）				
8	聴覚障害者のコミュニケーションや情報保障について	手話の言語的な特徴を理解します。簡単な手話や指文字を実際に使い、自己紹介などを行ってみます。また手話以外のコミュニケーション手段についても確認し、情報保障の方法の概要を理解します。					自己紹介を手話でできるように練習すること（4時間）				
9	聴覚の教育的評価と聴覚補償	基本的な評価法及び聴覚補償の方法を学びます。とくに学校における聴力測定や補聴器管理についての基本的事柄を学習します。またFMデバイス等聴覚補償のためのシステムを学習します。					聴覚補償に関する基本事項、基本用語を確実に知ること（4時間）				
10	聴覚障害教育の歴史	フランスやドイツ、アメリカ等の聴覚障害教育の歴史を概観します。また、様々な資料から日本の障害児教育における聾教育の歴史を理解します。					口話と手話の論争について考えること（4時間）				
11	聴覚障害教育の教育課程と指導計画①	新生児聴覚スクリーニング後の早期療育の目的と内容、方法について理解します。乳児段階の発達支援と保護者の障害受容の過程と保護者支援について学習します。					配布する障害診断時の保護者の記録等を熟読すること（4時間）				
12	聴覚障害教育の教育課程と指導計画②	幼児段階の指導について学習します。豊学校幼稚園部の教育課程の編成について理解します。また幼児段階の自立活動の内容や方法（言語指導、聴覚学習）について学習します。					幼児期の発達特性と障害の発達への影響を復習し教育課程との関連についてまとめること（4時間）				
13	聴覚障害教育における教育課程と指導計画③	児童期以降の教育課程と指導計画について学習します。準ずる教育課程における教科指導の方法、各教科等を合わせた指導の方法についての基本的事項を理解します。					科目を選択し模擬指導案を作成すること（4時間）				
14	特別支援学校のセンター的機能	特別支援学級に在籍する難聴児への支援、通常の学級に在籍する聴覚障害児の通級による指導等について学びます。また発達障害児に多い聴覚過敏に対する支援等について聴覚補償の立場から学習します。					難聴児が通常の学級に在籍することの意義や問題点を考え、挙げること（4時間）				
15	聴覚障害教育の今後の課題	医療等との連携、センター的機能の発展、発達障害など重複障害への対応、専門性の発展と継承等の課題について学習します。全体をまとめます。					様々な課題と課題への対応策についてまとめること（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし（毎回、授業資料を配付する）						受講態度：50% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部／高等部学習指導要領」「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚園部・小学部・中学部）」「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園部・小学部・中学部）」						理解を深めるため、発達心理学、教育課程編成法、また他障害の理解や指導法等既習の科目について復習しておいてください。疑似体験やディスカッションを行いますので、積極的な参加を期待しています。					

科目名	発達障害児・者等の支援と教育			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AB36037	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・内藤 千尋・羽田 行男・宮地 弘一郎			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格	特支一種					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
発達障害児・者への教育的支援は特別支援学校だけでなく通常学級においても重要な教育課題となっています。この授業は、発達障害に含まれる多様な障害の特性について認識・理解を深めることを目的に、教育の観点と発達支援の観点から講義を行います。											
学修到達目標											
①発達障害の分類と定義、中枢神経系の発達との関連等について学び、理解している。②主要な発達障害の特徴と教育的支援について学び、理解している。③発達障害の今日的課題について学び、理解している。											
授業の進め方											
授業は基本的に講義形式で行いますが、学習内容に応じてグループワークや討論の形式を取り入れます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学修の方法について解説する					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	発達障害とは①	発達障害の定義、診断と分類					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	発達障害とは②	脳と発達障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	障害の理解と教育的支援①	学習障害					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
5	障害の理解と教育的支援②	ADHD					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
6	障害の理解と教育的支援③	自閉症スペクトラム					授業ノートをまとめ中間テストへの準備をする(4時間)				
7	中間まとめ	前半講義のまとめと補足;中間テストと解説					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
8	障害の理解と教育的支援④	重度・重複障害(教育的処遇の歴史)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
9	障害の理解と教育的支援⑤	重度・重複障害(コミュニケーション支援)					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	発達障害における今日的課題①	情緒障害・言語コミュニケーション障害への対応					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
11	発達障害における今日的課題②	発達障害とICT, AAC					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
12	発達障害における今日的課題③	発達障害における身体症状					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
13	発達障害における今日的課題④	教育的支援と福祉的支援の連携					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
14	発達障害における今日的課題⑤	発達障害児・者の問題行動と触法					授業ノートをまとめ最終授業での質問内容を準備する(4時間)				
15	授業のまとめ	これまでの講義内容のまとめと質疑応答					全授業ノートを振り返り定期試験に向けた準備をする(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし。						定期試験:70% 中間テスト:30% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂出版)						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	障害児臨床支援演習 I			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AB26038	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・都築 繁幸			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格	特支一種					履修条件	特別支援学校課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
本授業では、ガイダンスと予備学習をふまえ、特別支援学校と小・中学校特別支援学級の教育現場において授業参観と支援活動を実際に体験します。その体験を通して知的障害児教育の教育課程と指導法の実際を学びます。											
学修到達目標											
①知的障害児教育で大切な「一人ひとりのニーズを見極めそれに対応する力を養う」ことについて、特別支援教育の学校現場で学び、理解している。②その体験を通して、広い視野から障害児支援の在り方を考えられる。③今後の専門的学習や教育実習に向けた心構えを養い、自身の学習課題を明確にしている。											
授業の進め方											
本授業は講義、グループワーク(地域の協力校を訪問)、およびリフレクションを組み合わせた演習形式で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学習の方法について説明する					自分の履修(学習)計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
2	臨床演習の予備学習①	<講義> 特別支援学校(知的障害)における自立活動と指導法について					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
3	臨床演習の予備学習②	<講義> ライフステージを通じた特別支援の在り方とその重要性					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
4	臨床演習の予備学習③	<講義> 特別支援学級における自立活動と指導法について					授業ノートをまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
5	特別支援学校の支援体験①	<グループワーク1> 特別支援学校(知的障害)小学部の授業参観と支援体験					活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
6	特別支援学校の支援体験②	<グループワーク2> 特別支援学校(知的障害)中学部の授業参観と支援体験					活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
7	特別支援学校の支援体験③	<グループワーク3> 特別支援学校(知的障害)高等部の授業参観と支援体験					活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
8	特別支援学校の支援体験④	<グループワーク4> 特別支援学校(盲・ろう)の授業参観と支援体験					活動記録をまとめ次回活動の準備をする(4時間)				
9	特別支援学校の支援体験⑤	<リフレクション> 特別支援学校における臨床経験と学び					授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする(4時間)				
10	特別支援学級の支援体験①	<グループワーク5> 小学校特別支援学級(知的障害)の授業参観と支援体験					授業ノートをまとめ次回活動に向けた下調べをする(4時間)				
11	特別支援学級の支援体験②	<グループワーク6> 中学校特別支援学級(知的障害)の授業参観と支援体験					活動記録をまとめ次回活動に向けた下調べをする(4時間)				
12	特別支援学級の支援体験③	<グループワーク7> 小学校特別支援学級(言語・情緒障害)の授業参観と支援体験					活動記録をまとめ次回活動に向けた下調べをする(4時間)				
13	特別支援学級の支援体験④	<リフレクション> 特別支援学級における臨床経験と学び					活動記録をまとめリフレクションに向けた準備をする(4時間)				
14	演習授業のまとめ①	<リフレクション> ポスター発表と討論(Aグループ)					発表と討論を踏まえレポートの作成準備をする(4時間)				
15	演習授業のまとめ②	<リフレクション> ポスター発表と討論(Bグループ)					発表と討論を踏まえレポートの作成準備をする(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」(海文堂出版)(生協で購入してください。) 「特別支援学校高等部学習指導要領」(海文堂出版)(生協で購入してください。) その他、適宜資料を配布します。					受講態度:20% 体験レポート:20% ポスター発表:20% 最終レポート:40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S:授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 A:授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B:授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C:授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし。					授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。						

科目名	障害児臨床支援演習Ⅱ			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AB36039	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝・吉川 知夫			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日4限、木曜日4限		
関連資格	特支一種					履修条件	特別支援学校課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④			⑤							
授業概要											
「障害児臨床支援演習Ⅰ」と同様、本授業は講義、グループワーク、リフレクションを組み合わせた演習形式で行われます。ガイダンスと講義をふまえ、特別支援学校、および特別支援学級における授業参観と自立活動の支援体験を通して、肢体不自由児教育の教育課程と指導法の実際を学びます。また、肢体不自由児水泳教室の見学と支援体験を通してムーブメント教育と障害者スポーツについて理解を深めます。											
学修到達目標											
肢体不自由児の特別支援教育と関連領域の現場の見学を通して、肢体不自由児教育に求められる「一人ひとりのニーズを見極めそれに対応する力を身につけている。また、広い視野から障害児支援の在り方を捉え、今後の専門学習や教育実習に向けた心構えと自身の学習課題を明確にできる。											
授業の進め方											
随時資料を配布します。授業参観・支援体験は、学外授業となります。授業参観・体験後は、レポートを提出します。また、全体でリフレクションを行い、発表・ディスカッションを通じて自身の学修を確認しさらに学習課題を明確にします。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス 学外授業の在り方について説明します。	授業概要・学修目標・授業の進め方・評価の仕方などについて説明します。 グループワークの進め方について説明します					肢体不自由児教育に関連した資料を事前に読む。授業の内容をまとめ復習する。（4時間）				
2	講義：特別支援教育（肢体不自由）における自立活動と指導法について	特別支援学校（肢体不自由）の教育課程と自立活動について学び、授業参観・支援体験に必要な援助視点について理解を深めます。					教育課程について事前に学習する。教育課程と自立活動について復習する。（4時間）				
3	講義：ライフステージを通じた特別支援教育の在り方とその重要性	学校教育全般を通じて、自立し社会参加できる資質を養うことの重要性和特別支援教育の在り方について学びます。					特別支援学校教育関連文献を事前に読む。特別支援教育の在り方について復習する。（4時間）				
4	グループワーク1：特別支援学校（肢体不自由）小学部の授業参観と支援体験	特別支援学校（肢体不自由）小学部での授業参観・支援体験を通して、児童への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。					授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめ復習する。（4時間）				
5	グループワーク2：特別支援学校（肢体不自由）中学部の授業参観と支援体験	特別支援学校（肢体不自由）中学部での授業参観・支援体験を通して、生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。					授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめ復習する。（4時間）				
6	グループワーク3：特別支援学校（肢体不自由）高等部の授業参観と支援体験	特別支援学校（肢体不自由）高等部での授業参観・支援体験を通して、生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。					授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめ復習する。（4時間）				
7	グループワーク4：特別支援学校（病弱院内学級）の授業参観と支援体験	特別支援学校（病弱院内学級）の授業参観・支援体験を通して、児童・生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。					授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめ復習する。（4時間）				
8	グループワーク5：特別支援学校（重複障害児学級）の授業参観と支援体験	特別支援学校（重複障害児学級）の授業参観・支援体験を通して、児童・生徒への教育対応の基礎的な知識・実践力を学びます。					授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめ復習する。（4時間）				
9	リフレクション：特別支援学校における臨床経験と学び	特別支援学校（肢体不自由）での参観・体験的実習の振り返りを行います。実際の学校現場での様子を振り返り、今後の学習課題について明確化を図ります。					振り返りのプレゼンテーションの準備を行う。今後の課題等について復習する。（4時間）				
10	グループワーク6：特別支援学級（肢体不自由）の授業参観と支援体験	特別支援学級（肢体不自由）での参観・体験的実習の振り返りを行います。実際の学校現場での様子を振り返り、今後の学習課題について明確化を図ります。					授業参観・支援体験に関する資料を事前に読む。体験をレポートにまとめ復習する。（4時間）				
11	リフレクション：小学校特別支援学級における臨床体験と学び	特別支援学級（肢体不自由）での参観・体験的実習の振り返りを行います。実際の学校現場での様子を振り返り、今後の学習課題について明確化を図ります。					振り返りのプレゼンテーションの準備を行う。今後の課題等について復習する。（4時間）				
12	講義：肢体不自由児のムーブメント教育と障がい者スポーツ	知覚—運動発達の理論とムーブメント教育のプログラムについて学びます。自立活動とムーブメントの経験について理解し、肢体不自由児の運動スキルの獲得について理解を深めます。					配布された資料を事前に読む。ムーブメント教育について復習する。（4時間）				
13	グループワーク7：肢体不自由児水泳教室の見学と支援体験	地域での肢体不自由児支援の実際を体験します。特別支援学校後に続く支援として、活動の実際と地域で支える人々さらに課題について理解を深めます。					配布され資料を事前に読む。障がい児の水泳教室体験のレポートをまとめ復習する。（4時間）				
14	リフレクション：ポスター発表と討論（Aグループ）	全体を通じて、各特別支援学校での体験実習の振り返りを行います。					発表の準備を事前に行う。発表・討論の内容を復習する。（4時間）				
15	リフレクション：ポスター発表とリフレクション（Bグループ）	全体を通じて、各特別支援学校での体験実習の振り返りを行います。					発表の準備を事前に行う。発表と討論の内容を復習する。（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
適宜資料を配布する。						レポート：50% 出席レポート：50% S：授業内容を高度に理解し、高い意欲と探求姿勢を持ち課題に取り組むことができる。プレゼンテーションの力が身につけている。A：授業内容を理解し説明できる。意欲的に課題に取り組む姿勢を示している。B：授業の内容をおおよそ理解し説明できる。与えられた課題をすべて行っている。 C：授業の内容を60%程度理解している。課題をすべて行っている。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「特別支援学校幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領」（海文堂出版） 「特別支援学校高等部学習指導要領」（海文堂出版）						「障害の理解・子ども理解」に関連する事前学習を確実にし、意欲的に参加してください。					

科目名	特別支援学校教育実習			学年学期	4年通年	単位数	3	ナンバリング	AB46040	研究室	A-12
担当者	小島 哲也・小林 敏枝・内藤 千尋			必修選択	選択	科目種別	実習	オフィスアワー	前期：水曜日5限、木曜日5限		
関連資格	特支一種					履修条件	特別支援学校課程履修者 初等教育実習事前・事後指導, 初等教育実習, 特別支援教育総				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	○	△		◎							
授業概要											
本実習では、これまでに履修した特別支援教育に関する知識・技能を基に、実際の学校現場で児童生徒の育成に直接携わることを通じて、教育の意味や内容、方法を学ぶことが目的です。											
学修到達目標											
①教師としてのものの見方、考え方、豊かな心情を養い、専門職としての資質や能力を身につけている。②特別支援学校の教育理念と教育課程、個別ニーズに対応した教育方法について学び、理解を深めている。③教師の姿勢に学び、そこから自己を振り返り、課題を発見するための契機にすることができる。											
授業の進め方											
大学と実習先での事前・事後指導、および実習先での教育実習（観察・基礎・応用）により行われる。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	教育実習の心得、実習中の指導内容、その他の事項について解説する。					自分の履修（学習）計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
2	事前指導①	児童生徒の状況と実習の概要					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
3	事前指導②	児童生徒の実態把握の方法と協議の進め方					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
4	事前指導③	学校目標・方針、各学部の教育実践					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
5	事前指導④	各学部の運営方針、学級指導、児童生徒の実態について					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
6	事前指導⑤	授業参観および学級別打ち合わせ					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
7	教育実習①	観察実習（10時間以上）：授業を参観し、児童生徒と共に生活しながら、その実態を把握する。					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
8	教育実習②	基礎実習（30時間以上）：実習生が指導教員の指導の下で授業を行う。児童生徒の実態把握、題材の位置づけ、構想学習計画案の作成、教材研究、教具の工夫と製作、個々の支援計画/授業計画案の検討、等を含む					授業ノートをまとめ各回に向けた準備をする（4時間）				
9	教育実習③	応用実習（20時間以上）：基礎実習で学んだことを生かして、実習生の力で授業の展開や日常生活の指導を実施する。					授業ノートをまとめ各回に向けた準備をする（4時間）				
10	事後指導①	教育実習のリフレクションおよび研究会					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
11	事後指導②	教育実習のリフレクションおよび研究会					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（4時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし						受講態度：20% 課題：40% レポート：40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：実習課題を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A：実習課題を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B：実習課題をおおそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：実習課題をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
「実習の手引き」を配布する。						実習内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	英語学概論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36041	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語の成り立ちと歴史、音韻論、統語論、意味論、語用論、談話分析などの基本的知識及び研究手法等が身につくように授業をします。また学校文法と第二言語習得論も学びます。これらを統合して実際の授業にどのように活用できるかを考えます。授業はPowerPoint等を用いた講義形式および、ペア・グループによるワークを含みます。											
学修到達目標											
英語の成り立ちを理解し、英語を含む言語研究の基礎を理解している。またその英語の成り立ちや研究の基礎的な考え方を英語の指導に活用できる。											
授業の進め方											
教科書に即して、言語学の基礎知識を学修します。実際の英文や日本語の文も対象に、言語の成り立ちや統語論・意味論などを分析的に考察します。プリントやPowerPointのスライドなども用いながら授業を進めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	導入・英語の成り立ちと歴史	英語が現在の形になったのは何故なのかについて、歴史的観点を含め考察し、英語学を学ぶとはどういうことかを概観します。					英語を分析的に考察する態度・方法を考える。(4時間)				
2	音韻論(1)理論編(音素・弁別素性・韻律)	発話のメカニズム、音素、音節、アクセント、イントネーションとリズム等について概観し、音声学・音韻論の基礎を身につけます。					各概念を理解した上で、英語の音声がどう作り出されるかを実例を見ながら考える。(4時間)				
3	音韻論(2)実践編	音声学・音韻論の基礎知識に基づき、実際の英語がどう発音されるかを考えます。実際の発話を通して、英語の音が作り出されるメカニズムを理解します。					理論編で学んだ知識を元に、実際に英単語を発話する練習をする。(4時間)				
4	形態論(1)理論編(形態素と語彙素)	英語におけるレキシコンがどのように構成され、語彙がいかにより構築・構成されているかを考えます。					英語のみならず日本語などにおける語彙身近な語彙を、形態論の観点から考察する。(4時間)				
5	形態論(2)実践編	語と句の関係や、複合語・合成語などについて実際の例を考察します。その活動を通して新しい語彙を分析する能力を身につけます。					講義で取り上げた形態素等の概念を用いて、日々目にする言葉を分析する癖をつける。(4時間)				
6	統語論(1)理論編(生成文法・機能文法)	生成文法をはじめとする形式主義的統語論と機能主義的機能文法の基礎を概観します。これらの基礎知識を元に、英語の文法的構造について分析的に考察するための力を養成します。					学校文法の基礎を確認し、文法的な術語を把握する。(4時間)				
7	統語論(2)実践編	実例を用いて、統語論的な考察を行います。学校文法でよく取り上げられる文法項目を分析し、英文法の深層構造を発見・説明する練習をします。					英文を文法的に説明できるように、講義で得た知識を再確認する。(4時間)				
8	意味論(1)理論編(語彙意味論・認知意味論)	語彙意味論と認知意味論を中心として、認知文法・メタファー理論・構文文法などを概観します。その上で、英語を中心とした言語の意味がどのように捉えられ理解されるのかを分析するための基礎を学びます。					意味論に於いて用いられる術語を確認したり復習する。(4時間)				
9	意味論(2)実践編	意味論の理論編で学んだ基礎を生かして、実際の英語に於ける語・句・文などを観察し、様々な言語事象について分析的に説明できるような練習をします。					英文法に於ける例外的な事例や面白い言語事象をリストアップしておく。(4時間)				
10	語用論(1)理論編(談話分析)	言語が現実のコミュニケーションで用いられる際、どのような意味で捉えられるかについて、談話分析の観点から考察します。会話の公理・ポライトネス・発話行為などの諸概念と理論を学びます。					文脈によって捉え方や意味が異なる例をリストアップする。(4時間)				
11	語用論(2)実践編	理論編で学んだ理論を用いて、談話分析を実際に行ってみます。リストアップした会話文などを対象に、談話中での意味の違いを考察します。					講義で取り上げた理論や例を復習し、資料をまとめる。(4時間)				
12	英語と日本語の比較	英語と日本語の比較を通して、英語が「スル型言語」であり日本語が「ナル型言語」であることを観察し、英語が俯瞰的に、日本語が虫的視点で物事をとらえ言語化することを学修します。					英語と日本語の違いをリストアップする。事後は資料をまとめる。(4時間)				
13	言語事象観察の方法	様々な言語事象を観察し、分析するための方法を学びます。実際の言語事象を例に、これまでに学修した内容を元にして分析する練習をします。					特異な言語事象や、英語・日本語の例外的な文法事項や疑問点をリストアップする。(4時間)				
14	言語事象観察の実践	各自がリストアップした英文法や日本語についての疑問点や、特異な言語事象を元に、グループに分かれて議論します。					特異な言語事象や、英語・日本語の例外的な文法事項や疑問点をリストアップする。(4時間)				
15	応用言語学	英語学および、言語学の知見を英語教育に活用する方策を学修します。言語学の知見を生かした教授法とその教育効果について、特に認知言語学の知識とそれを用いた教授法を考察します。					事前に言語学の知見を用いた実証的研究について、指定された論文を読む。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「日英語対照による英語学概論」西光義弘 金水敏 影山太郎 共著(くろしお出版) ISBN:978-4874241691(生協で購入してください。)						定期試験:80% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						積極的に参加する態度が大切です。また、授業の前に指定された文献や論文を読むことを怠らないようにしてください。					

科目名	英語音声学概論			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AC26042	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語音声学の基礎理論を学び、その実践を通して理論を体感的に学ぶことを目標とします。さらに、第二言語習得論の視点から、英語と日本語の音声システムの違いを理解することで、どのように生徒へ指導していくか等、英語教育への応用も視野に入れた授業を展開します。											
学修到達目標											
英語音声学の基礎を学び、英語の音声体系を理解し、理論的知識を実践的知識に応用ができる。またその知識を生徒にどのように伝えていけるかを考えることができる。											
授業の進め方											
理論と実践を通して、英語での発声を身につけるような練習を含みます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	英語音声学を学ぶ上で必要な基礎知識について学修します。また、英語教育における音声学の位置づけ、その意義についても考えます。					音声学が英語学習において果たす役割について、自分の意見をまとめる。(4時間)				
2	現代英語の標準発音	現代英語における標準発音という観点から、英語方言(アメリカ英語・イギリス英語他)や英語の母語話者について、また、国際音声記号(International Phonetic Alphabet (IPA))について学修します。					予め国際音声記号の一覧を確認しておく。事後はIPAについて講義の内容を復習する。(4時間)				
3	英語単語の綴りと発音	英語で用いられる、母音字と子音字について主に学修します。基本的なルールを、実際に発音をしながら確認します。					事前にルールを確認しておく。事後はルールを復習し、改めて練習する。(4時間)				
4	音素	英単語を構成する最小単位(音素)について学修します。また、異音、音素体系についても考察します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
5	英語の子音(分類と子音その1)	有声音・無声音、音調位置、音調様式による子音の分類について学修します。さらに、閉鎖音、摩擦音について考察します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
6	英語の子音(子音その2)	破擦音、鼻音、側音、半母音について考察します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
7	英語の子音(実践編)	講義で確認した英語の子音について、実際に発音をして練習します。					英語子音の講義を復習しておく。苦手な音について自主的に練習する。(4時間)				
8	英語の母音(1)基本母音	英語の基本母音について主に学修します。また、強母音・弱母音、抑止母音・開放母音、短母音・長母音についても考察します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
9	英語の母音(2)	二重母音、弱母音、半母音について主に学修します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
10	英語の母音(3)実践編	英語の母音全般について実際に発音して練習します。					英語母音の講義を復習しておく。苦手な音について自主的に練習する。(4時間)				
11	音の連続(1)音節	英語の音節について、きこえ度、音節主音、開音節と閉音節、音節主音の子音、鼻腔破裂、側面破裂について学修します。また、実例を発音しながら確認します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
12	音の連続(2)	音節内の子音の結合、単語間の音連続、音の脱落、同化について学修します。また、実例を発音しながら確認します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
13	アクセント	英語のアクセントを主として見た上で、日本語のアクセントについても考察します。語アクセント、接辞と語アクセント、複合語アクセント、句アクセント、文アクセント、強形と弱形などについても学修します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
14	リズム	言葉のリズムについて、日本語と英語の言語的な違いから生じるリズムの違いについて考察します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
15	イントネーション	音調群、音調群の構成、音調の種類、各音調の用法(下降調・上昇調・下降上昇調)特殊なイントネーションについて学修します。					予め関係する術語を確認しておく。講義で触れた実例を再度発音して復習する。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「改訂新版 初級英語音声学 CD付」竹林滋 清水あつ子 斎藤弘子 共著者(大修館書店) ISBN:978-4469245813(生協で購入してください。)				定期試験:80% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				理論を学修するだけでなく、実際に発音して試みるのが大切です。普段から発音練習をするよう心掛けてください。							

科目名	英語史概論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36043	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語の歴史を、印欧祖語の時代まで遡って、Old English、Middle English、近代英語、さらに現代英語に至るまで概観します。また、発音と綴字、語形、統語、語彙と意味、方言と社会等の観点から英語の素朴な疑問を英語史の観点から紐解きます。これらの疑問点を歴史的な視点から見ることで、英語教育に英語史を生かす方策を考えます。											
学修到達目標											
英語史を理解し、自分自身の学習を振り返り、どのように英語教育に生かせるかを考えることができる。また、そのための十分な知識を身につけることができる。											
授業の進め方											
講義を中心として授業を行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	英語史を学ぶ上での心構え、英語史を学ぶ意味、英語教育にどう生かしていくかなどについて考えます。					指定された教科書を購入し、大まかな内容を把握しておく。(4時間)				
2	英語史の時代区分	英語史を考える上で基本となる、時代区分について概観します。また、英語が属しているインドヨーロッパ語族や、英語の変化に影響を及ぼした歴史的な出来事についても考察します。					英国の世界史における歴史について調べておく。(4時間)				
3	音声と綴字の変化	古英語の時代から現代英語まで、英語の綴りと発音は絶えず変化してきました。そして、現在も変化の途中にあります。大母音推移や綴字に影響を与えた他言語からの文字の借用などについて学びます。					これまでの英語学習の中で疑問に感じた英語の綴字や発音について調べておく。(4時間)				
4	文法の変化	古英語期に見られた語の屈折について、またそれに伴う格変化について学修します。また、総合的な言語から分析的な言語への変化についても考察します。					予め屈折や格変化について自分なりに調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
5	語彙の変化	古英語と、それに影響を与えた借用語との関係を学修します。ヴァイキングや古ノルド語の影響、また、フランス語やラテン語の影響などについて考察します。					世界史の中での英国の歴史について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
6	英語の多様性	英語の変種について学修します。初期古英語から現代英語に至るまで、標準語とされた英語について考察します。また、それらが標準語とされた背景についても考えます。					現代の英語変種について、自分なりに調査しそれらを考察する。事後は資料をまとめる。(4時間)				
7	発音と綴字に関する素朴な疑問(1)	2種類の不定冠詞、強勢パターンについて、綴字発音について考えます。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
8	発音と綴字に関する素朴な疑問(2)	古英語の発音規則、音変化、黙字について考えます。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
9	語形に関する素朴な疑問(1)	屈折の歴史的な性格、複数形における規則性と不規則性、古英語の格の痕跡について考えます。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
10	語形に関する素朴な疑問(2)	動詞における規則性と不規則性、形容詞と副詞の関係について考えます。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
11	統語に関する素朴な疑問(1)	未来時制の発達、仮定法の衰退と残存について考察します。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
12	統語に関する素朴な疑問(2)	語順の固定化(主語)、語順の固定化(SVO, SOV)、祈願のmayの発達について考察します。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
13	語彙と意味に関する素朴な疑問	英語語彙の階層性、同音異義と多義、単語の意味変化の日常性、混成語について考察します。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
14	方言と社会に関する素朴な疑問	イギリス英語とアメリカ英語の違いについて、移民史の観点や英語変種の観点、さらに、ジェンダーの観点から考察します。					事前に該当する諸概念について調べておく。事後は資料をまとめる。(4時間)				
15	国際語としての英語と英語の未来	共通語(リンガ・フランカ)としての英語と英語の未来について考えます。インターネットでの英語、英語教育、英語産業、国際語としての英語の今後について考察します。					国際語としての英語が人々に与える影響や、自分が感じている影響について考えておく。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「英語の「なぜ?」に答えるはじめての英語史」堀田隆一著(研究社) ISBN:978-4-327-40168-9(生協で購入してください。)				定期試験:80% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				予習復習を心がけてください。							

科目名	英語発声演習			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36044	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語の音韻体系と綴りと発音の基礎を踏まえたうえで、英語音声の正しく発音できるように演習を行います。英語の子音及び母音の全体像をつかみ、英語発音を実践的に習得します。また、英語発音の実践的知識をListeningと結び付けながら英語の指導に活用する方策も学びます。											
学修到達目標											
英語の音声を正しく理解、発音ができる。また、音声を取り巻く現象について理解し、Listening指導における留意点について考えることができる。											
授業の進め方											
講義を基本としますが、実際の発声練習も行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	講義の目的、進め方、教科書や評価方法について大まかな説明を行います。練習の仕方や勉強の方法などについても概観します。					事前に、教科書の構成や学ぶ内容をある程度確認しておく。(4時間)				
2	英語の音韻体系	英語の音韻体系について概観します。また、International Phonetic Alphabet(国際音声記号, IPA)についても説明を行います。					IPAについて自分なりに調べておく。事後は学修したIPAについてリストを見て復習する。(4時間)				
3	Vowel and Consonants (1) 前舌母音・後舌母音・中舌母音	英語の母音について学修します。特に、前舌母音・後舌母音・中舌母音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
4	Vowel and Consonants (2) 二重母音	英語の母音について学修します。特に、二重母音(Diphthongs)を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
5	Vowel and Consonants (3) 閉鎖音・鼻音	英語の子音について学修します。特に、閉鎖音・鼻音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
6	Vowel and Consonants (4) 摩擦音・摩擦音と破擦音	英語の子音について学修します。特に、摩擦音・摩擦音と破擦音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
7	Vowel and Consonants (5) 側音と半母音	英語の子音について学修します。特に、側音と半母音を取り上げます。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる英語の音を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
8	Dialogs and Exercises (1) 音節と語強勢	英語の音節と語強勢(Syllable and word stress)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
9	Dialogs and Exercises (2) 文強勢	英語の文強勢(Sentence stress)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
10	Dialogs and Exercises (3) ピッチとイントネーション	英語のピッチとイントネーション(Pitch and intonation)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
11	Dialogs and Exercises (4) 音のつながり(連結・脱落)	英語の音のつながり(連結・脱落)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
12	Dialogs and Exercises (5) 音のつながり(同化)	英語の音のつながり(同化)について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
13	Dialogs and Exercises (6) 句動詞・イントネーション・強勢	英語の句動詞・イントネーション・話者の意図と強勢について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
14	Dialogs and Exercises (7) 合成語・名詞連続ほか	英語の合成語・名詞連続・感嘆文・最上級・強調語について学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
15	Dialogs and Exercises (8) 強勢の移動・弱化・強化ほか	英語の強勢の移動・弱化・強化・話者の意図とイントネーションについて学修します。また、実際に発音練習を行い、英語の音の出し方や日本語との違いなどを確認します。					事前に講義で取り上げる内容を確認しておく。事後は発声の練習をする。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「英語音声学への扉ー発音とリスニングを中心にー」今井由美子ほか著(英宝社) ISBN:978-4-269-63013-0(生協で購入してください。)						定期試験:80% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						実際の発音練習に真剣に取り組むことを期待します。					

科目名	英文法演習			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36045	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英文法の基礎を確認するとともに、知識としての英文法だけではなく英語・言語の深層構造をも視野にいたれた授業を展開します。規則性の「発見」や分析的説明をする試みを通して、英文法の理解を深めます。またその知見を利用して、実際の授業でどのような活動ができるのかを考え、生徒のコミュニケーション活動に役立つ文法指導ができるような実践的授業を行います。											
学修到達目標											
英文法を分析的に学び、その構造と用法を理解することができる。またその知識を活用し、どのような文法指導ができるかを考えることができる。											
授業の進め方											
教科書を基本としながら、必要に応じてプリント等を配布し、グループや全体で議論しながら授業を進めます。説明はプリントのほか、パワーポイント等も使用します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	学校文法のレベルからさらにもう一步先に進み、文法研究の意味や方法について考えます。各文法理論について概観し、講義の中で主に取り上げる分析の仕方について学修します。					英語の学校文法について、自分の知識を再度確認しておく。足りない部分は復習をする。(4時間)				
2	文の構造	単文・重文・複文などの文の種類を、実例を見ながら確認します。また、練習問題を考えながら分析的に文構造を捉える方法を学修します。					英語の文の構造について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
3	文の種類	平叙文・疑問文(Yes/No疑問文、wh-疑問文、選択疑問文、問い返し疑問文)・命令文・感嘆文など、英語の文の種類を概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の文の種類について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
4	動詞	自動詞・他動詞、状態動詞・動態動詞、叙実動詞・非叙実動詞、使役動詞、知覚動詞、含意動詞、また、動詞句などを概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の動詞について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
5	完了相と進行相	現在完了形・過去完了形、現在進行形・過去進行形・現在完了進行形などを概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					完了相と進行相について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
6	名詞	可算名詞・不可算名詞、集合名詞の用法・普通名詞の用法・総称としての用法、単数名詞・複数名詞、不定冠詞・定冠詞などを概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の名詞について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
7	名詞句	名詞句の構造、同格表現を含む名詞句、注意を要する名詞句について概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の名詞句について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
8	形容詞	段階的形容詞・非段階的形容詞、限定用法・叙述用法、前置修飾・後置修飾、制限用法・非制限用法、形容詞の順序、形容詞句などを概観します。また、分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の形容詞について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
9	副詞	形容詞などを修飾する副詞、動詞句を修飾する副詞、文修飾をする副詞、文連結の副詞、副詞の位置などを概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の副詞について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
10	前置詞	場所を表す前置詞、位置関係を表す前置詞、前置詞句などを概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の前置詞について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
11	助動詞	助動詞の認識的用法と根源的用法について概観し、練習問題を通して分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の助動詞について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
12	時制	英語の時制(現在時制・過去時制)、時制の一致について概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の時制について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
13	文の機能	英語の情報構造、情報構造と英語の構文を概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の情報構造について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
14	文の表現法	話し言葉と書き言葉、堅い表現とくだけた表現などを概観します。また、練習問題を考えながら分析的に英文法を捉える方法を学修します。					英語の話し言葉・書き言葉について調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
15	認知文法	認知言語学の観点から英文法を考えます。日本語との比較も含め、英文法の性質を深層構造から明らかにします。また、様々な実例を分析的に比較検討し、説明するワークを行います。					認知文法について、自分で調べておく。講義で取り上げた例文を再確認する。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「ファンダメンタル英文法」瀬田幸人著(ひつじ書房) ISBN:978-4938669867(生協で購入してください。)						定期試験:80% 受講態度:20% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						履修にあたっては、高校段階で習った英文法について一通り復習しておくようにしてください。					

科目名	英米文学概論			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36046	研究室	非常勤
担当者	金子 史彦			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー			
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
小説を中心に英米文学作品を時代順に取り上げ、その抜粋を原文で読み、手法・思想・社会背景を学びます。毎回、1〜3人の英米文学作家を取り上げ、教員による講義、学生同士のディスカッションなどを通してその代表作を学んでいきます。											
学修到達目標											
英米文学、英語圏文化の思想的背景に関する知識を増やし、読むということに対する理解を深めることができる。加えて、価値観を理解することによって、英語教育においてそれらの必要性を踏まえたうえで、どのように伝えていくか理解することができる。											
授業の進め方											
グループワークや講義形式等様々な形態で行います。基本的に前回の理解度を測る小テストを毎回行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス、古英語・中世英語の文学	英語の歴史、特に現代の英語の成立を文学を通して学びます。					テキストの2頁から10頁を読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
2	シェイクスピア 実は庶民の娯楽?	シェイクスピア全般について学びます。					テキストの32頁から43頁を読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
3	ミルトン 聖書を基にしたピューリタン文学	ミルトンの『失樂園』を中心に時代背景を交えて学びます。					テキストの57頁から71頁を読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
4	デフォー、スウィフト 実は小説の先駆的存在?	子供向けの作品と思われる『ガリバー旅行記』等を学びます。					テキストの指示範囲を読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
5	リチャードソン、フィールディング 小説の誕生	共に小説の元祖と言われながら好対照でもある両作品を学びます。					テキストの87頁から92頁を読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
6	オースティン 月9のドラマとしても通用する?	『エマ』を中心にジェイン・オースティンを学びます。					テキストの指示範囲とプリントを読む。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
7	ディケンズ ヴィクトリア朝の優等生	『オリバー・トゥイスト』を中心にディケンズを学びます。					テキストの指示範囲とプリントを読む。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
8	Eブロンテ ヴィクトリア朝の異端児	エミリー・ブロンテの『嵐が丘』を学びます。					テキストの指示範囲とプリントを読む。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
9	Cブロンテ 女性の自立	シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』を学びます。					テキストの指示範囲とプリントを読む。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
10	ハーディ 自然主義?	トマス・ハーディの『テス』を学びます。					テキストの指示範囲とプリントを読む。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
11	ポー 近代科学と超自然	『黒猫』を中心にエドガー・アラン・ポーを学びます。					テキストの指示範囲とプリントを読む。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
12	ホーソン 善とは? 悪とは?	『緋文字』を中心にホーソンを学びます。					事前配布のプリントを読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
13	トウエイン 実は社会派文学	『ハックルベリー・フィンの冒険』を中心にトウエインを学びます。					事前配布のプリントを読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
14	フィッツジェラルド アメリカンドリーム 光と影	『グレート・ギャツビー』を通してアメリカの夢について学びます。					事前配布のプリントを読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
15	ヘミングウェイ 男らしさとは? 幸せとは?	『フランシス・マコーマーの短い幸福な生涯』を中心にヘミングウェイを学びます。					事前配布のプリントを読んでくる。授業の内容を振り返り、まとめる。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「イギリス文学史入門」川崎寿彦著(研究社) ISBN:978-4327375012(生協で購入してください。) 適宜プリントを配布					レポート:70% 小テスト:30% S:授業内容を完全に身に付け、それを高度に理解し、自分の言葉で発信できる。A:授業内容をほぼ完全に身に付け、それを理解し、おおよそ自分の言葉で発信できる。B:授業内容をおおよそ身に付け、それをある程度は理解している。C:授業内容を60%程度は身に付け理解している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
特になし					学ぼうという意欲が最も大切です。皆さんの熱意を期待しています。						

科目名	英米文学演習 I			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36047	研究室	非常勤
担当者	金子 史彦			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
近代英米文学のシェイクスピアの作品『オセロ』(Othello)を原文で読みながら、シェイクスピアについての総合的な理解を深めると同時に文学を研究するとは、ということ学びます。											
学修到達目標											
文学の表現から表現とその背景にある意味、表現の深さをとらえることができる。英語の総合的読解力を身につけ、さらに英語文学の代表ともいえるシェイクスピアを学び理解することを通じて当時のヨーロッパの文化への理解を深めることができる。											
授業の進め方											
グループワークや講義形式、DVD鑑賞など様々な形態で行います。『オセロ』を原文で読む時期は毎週前回の範囲の主として英文読解の小テストを行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス、シェイクスピアについて、DVD鑑賞(『じじゃ馬馴らし』)	シェイクスピアの他作品をDVDで見たりして作家全般を概観します。					シェイクスピアについて各自調べる(4時間)				
2	Othello, Act1, Scene1-2(『オセロ』ヴェニスの通りで、ローズ宅の表で)	『オセロ』の第一幕の第一・二場を学びます。					OthelloのAct1のScene1と2を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
3	Othello, Act1, Scene3(『オセロ』公爵の宮殿、)	『オセロ』の第一幕の第三場を学びます。					OthelloのAct1のScene3を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
4	Othello, Act2, Scene1-2(『オセロ』キプロス、戦士の宮舎)	『オセロ』の第二幕の第一・二場を学びます。					OthelloのAct2のScene1と2を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
5	Othello, Act3, Scene1-2(『オセロ』オセロ宅の表の早朝、オセロ宅で)	『オセロ』の第三幕の第一・二場を学びます。					OthelloのAct3のScene1と2を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
6	Othello, Act3, Scene3-Act4, Scene1(『オセロ』通りで、キプロスの通り)	『オセロ』の第三幕の第一場と第四幕の第一場を学びます。					OthelloのAct3のScene3とAct4のScene1を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
7	Othello, Act4, Scene2-3(『オセロ』オセロ宅の一室で、ドアの陰で)	『オセロ』の第四幕の第二・三場を学びます。					OthelloのAct4のScene2と3を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
8	Othello, Act5, Scene1(『オセロ』夜の通り)	『オセロ』の第五幕の第一場を学びます。					OthelloのAct5のScene1を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
9	Othello act Act5, Scene2(『オセロ』オセロ宅の寝室で)	『オセロ』の第五幕の第二場を学びます。					OthelloのAct5のScene2を読んでくる。学習した範囲の復習をする(4時間)				
10	DVD鑑賞(Othelloの現代版)	『オセロ』の舞台を現代のアメリカ高校にした映画を鑑賞します。					原作と現代版オセロを色々比較する(4時間)				
11	シェイクスピアの別作品『マクベス』"Macbeth"	同じ裏切り者でも毛色の違うマクベスとリアゴを比較します。					比較して新たな発見があるのかどうか考察する(4時間)				
12	比較とは、比較することの意義を学ぶ	比較文学について学びます。					学習した範囲の復習をする(4時間)				
13	文学を研究する方法を学ぶ	文学を研究するとは、ということについて学びます。					学習した範囲の復習をする(4時間)				
14	文学研究の上でのテーマの設定の仕方を学ぶ	文学研究の切り口となるテーマを設定することについて学びます。					学習した範囲の復習をする(4時間)				
15	期末レポートへの準備	研究のテーマについてディスカッションをします。					自分の研究テーマを考えてくる(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
『Othello』William Shakespeare著Rosalie Kerr編(Penguin Readers) ISBN:978-1405867719(生協で購入してください。)						レポート:70% 小テスト:30% S:授業内容を高度に理解し、レポートはテーマ設定・分析とも非常に優れており、小テストは完全に解ける。A:授業内容を理解し、レポートはテーマ設定・分析とも優れており、小テストはほぼ解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、レポートはテーマ設定または分析のいずれかが優れており、小テストはまずまず解ける。C:授業の内容を一応は理解しており、レポートはテーマ設定・分析とも一応は合格ラインであり、小テストは60%程度解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし						シェイクスピア作品という難解なイメージがあるかもしれませんが、使用するテキストは簡約版で現代の英語に書き直されたものです。恐れなくて下さい。					

科目名	英米文学演習Ⅱ			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36048	研究室	非常勤
担当者	金子 史彦			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
<p>ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』(Alice's Adventures in Wonderland)を原書で読みます。作中に散りばめられた言葉遊びの理解に特に重点を置きます。また英語の言葉遊びを日本の翻訳者がどのように日本語版にしてきたかといったことを、翻訳史の面から学び、時代背景や文化的背景、さらには英語と日本語の性質の違いを理解する等のその意義に対する理解も深めます。</p>											
学修到達目標											
<p>言葉遊びの多い英米児童文学を原書で学ぶことを通して、翻訳に頼らず原書で読むことの楽しさを体験し、時代背景や文化的背景を理解することの意義を把握することができる。</p>											
授業の進め方											
グループワークや講義形式など様々な形態で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイドンス、ルイス・キャロルについて	ルイス・キャロル、原作の『アリス』等を概観します。					ディズニー版の『アリス』と原作の違いを把握する(4時間)				
2	“Down the Rabbit-Hole”(「ウサギの穴の中に」)	『アリス』の第一章の“Down the Rabbit-Hole”を学びます。					『アリス』の第一章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
3	“The Pool of Tears”(「涙のプール」)	『アリス』の第二章の“The Pool of Tears”を学びます。					『アリス』の第二章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
4	“A Caucus-Race and a Long Tale”(「コーカスレースと長い尾」)	『アリス』の第三章の“A Caucus-Race and a Long Tale”を学びます。					『アリス』の第三章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
5	“The Rabbit sends in a Little Bill”(「ウサギがビルを差し向ける」)	『アリス』の第四章の“The Rabbit sends in a Little Bill”を学びます。					『アリス』の第四章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
6	“Advice from a Caterpillar”(「芋虫の教え」)	『アリス』の第五章の“Advice from a Caterpillar”を学びます。					『アリス』の第五章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
7	“Pig and Pepper”(「ブタとコショウ」)	『アリス』の第六章の“Pig and Pepper”を学びます。					『アリス』の第六章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
8	“A Mad Tea-Party”(「マッド・ティーパーティー」)	『アリス』の第七章の“A Mad Tea-Party”を学びます。					『アリス』の第七章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
9	“The Queen's Croquet-Ground”(「女王様のクローケー」)	『アリス』の第八章の“The Queen's Croquet-Ground”を学びます。					『アリス』の第八章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
10	言葉遊びをどう翻訳するか	面白さを保ったまま大意を変えずに翻訳するのが大変難しい駄洒落等の言葉遊び。『アリス』に登場するそのような言葉遊びの翻訳を学び、さらにそれを通じて英語と日本語の性質の違いも学びます。					学習した範囲の復習をする(4時間)				
11	“The Mock Turtle's Story”(「にせ海亀の話」)	『アリス』の第九章の“The Mock Turtle's Story”を学びます。					『アリス』の第九章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
12	“The Lobster-Quadrille”(「海老のカドリール」)	『アリス』の第十章の“The Lobster-Quadrille”を学びます。					『アリス』の第十章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
13	“Who Stole the Tarts?”(「誰がタルトを盗んだか」)	『アリス』の第十一章の“Who Stole the Tarts?”を学びます。					『アリス』の第十一章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
14	“Alice's Evidence”(「アリスの証言」)	『アリス』の第十二章の“Alice's Evidence”を学びます。					『アリス』の第十二章を読む。学習した範囲の復習をする(4時間)				
15	期末レポートへの準備	期末レポートのテーマについてディスカッション等を行います。					期末レポートの自分のテーマを考えてくる。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「Alice's Adventures in Wonderland」Lewis Carroll著(開文社) ISBN:978-4-87571-110-0(生協で購入してください。)				<p>レポート:100%</p> <p>S:授業内容を高度に理解しており、テーマ設定・分析とも非常に優れている。</p> <p>A:授業内容をほぼ理解しており、テーマ設定・分析とも優れている。B:授業内容をおおよそ理解しており、テーマ設定・分析のどちらかが優れている。C:授業内容を60%程度理解しており、テーマ設定・分析とも一応合格ラインにある。</p>							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし				『不思議の国のアリス』といえば大抵の方がご存じだと思いますが、それはおそらくディズニー版のほうだと思います。ディズニー版とは全く異なる原作の『アリス』を楽しく学んでください。							

科目名	Reading I			学年学期	1年前期	単位数	2	ナンバリング	AC16049	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C	2018年度～					
	④				⑤						
授業概要											
<p>説明文型および論説文型のパラグラフ・リーディングを通して、読解や速読スキルのポイントを学び、内容や論旨を正確にすばやく把握します。当初は、簡潔なパラグラフから始め、徐々により長く複雑なパラグラフへ移行します。また、常に4技能におけるコミュニケーションの場面における活用を視野に入れて授業を進めます。</p>											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力、読解力を養い速読ができる。 ・日本語に置き換えないで、英語で正確に内容を理解できる。 ・上記の力を身につけ、リーディングにおける文体論を理解し、文体論の4技能への活用を考えることができる。 											
授業の進め方											
<p>説明文型および論説文型のパラグラフ・リーディングを通して、読解や速読スキルのポイントを学び、内容や論旨を正確にすばやく把握します。当初は、簡潔なパラグラフから始め、徐々により長く複雑なパラグラフへ移行します。授業はすべて英語で行われます。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション、パラグラフ・リーディングの基礎	オリエンテーションを行い、授業の概要を説明します。また、パラグラフ・リーディングの基礎について学びます。					事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	説明文型パラグラフ・リーディング①	説明文型パラグラフ・リーディングの主張の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	説明文型パラグラフ・リーディング②	説明文型パラグラフ・リーディングの具体的要因の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	説明文型パラグラフ・リーディング③	説明文型パラグラフ・リーディングの抽象的要因の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	説明文型パラグラフ・リーディング④	説明文型パラグラフ・リーディングの対比の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	説明文型パラグラフ・リーディング⑤	説明文型パラグラフ・リーディングの逆説の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	説明文型パラグラフ・リーディング⑥	説明文型パラグラフ・リーディングの原因・結果の因果関係の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	説明文型パラグラフ・リーディング⑦	これまで学んできた説明文型パラグラフ・リーディングについてのまとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	論説文型パラグラフ・リーディング①	論説文型パラグラフ・リーディングの主張の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	論説文型パラグラフ・リーディング②	論説文型パラグラフ・リーディングの具体的要因の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	論説文型パラグラフ・リーディング③	論説文型パラグラフ・リーディングの抽象的要因の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	論説文型パラグラフ・リーディング④	論説文型パラグラフ・リーディングの対比の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	論説文型パラグラフ・リーディング⑤	論説文型パラグラフ・リーディングの逆説の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	論説文型パラグラフ・リーディング⑥	論説文型パラグラフ・リーディングの原因・結果の因果関係の把握について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	論説文型パラグラフ・リーディング⑦	これまで学んできた論説文型パラグラフ・リーディングについてのまとめをします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
<p>「World English 1. (Second Edition)- Student Book with Online Workbook.」 Becky Tarver Chase, Martin Milner, and Kristin L. Johannsen 著 http://cengagejapan.com/elt編 (National Geographic Learning-Cengage) ISBN:978-1-305-08954-9 (生協で購入してください。)</p>					<p>定期試験：40% 小テスト：30% 受講態度：30% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.						

科目名	Reading II			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AC26050	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
短編物語という起承転結があり、メッセージ性を内包している英文を読解することによって、語彙力を高めるとともに、物語における登場人物の関係性を把握し、論理的に読む力を養います。またその力をコミュニケーションの場面における活用を考えます。											
学修到達目標											
・語彙力、読解力をさらに養い速読することができる。 ・日本語に置き換えなくて、英語で内容を正確に理解する能力をさらに養い、併せて物語の背景とメッセージ性を理解できるようにする。 ・上記のメッセージ性を考えることにより、コミュニケーションにおける活用を考えることができる。											
授業の進め方											
短編物語を丁寧に読み進めながら理解を深めます。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション、短編物語に対するリーディングの基礎	授業のオリエンテーションを行い、授業の概要を説明します。また、短編物語の読解の際の基礎について学びます。					事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	短編物語：ノンフィクション小説①	ノンフィクション小説における物語の背景の理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	短編物語：ノンフィクション小説②	ノンフィクション小説における主人公の感情を把握しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	短編物語：ノンフィクション小説③	ノンフィクション小説における他者との関係性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	短編物語：ノンフィクション小説④	ノンフィクション小説における物語のメッセージ性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	短編物語：ノンフィクション小説⑤	これまでの授業のまとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	短編物語：ファンタジー小説①	ファンタジー小説における物語の背景を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	短編物語：ファンタジー小説②	ファンタジー小説における主人公の感情を把握しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	短編物語：ファンタジー小説③	ファンタジー小説における他者との関係性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	短編物語：ファンタジー小説④	ファンタジー小説における物語のメッセージ性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	短編物語：ファンタジー小説⑤	これまでのまとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	短編物語：SF小説①	SF小説における物語の背景を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	短編物語：SF小説②	SF小説における主人公の感情を把握しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	短編物語：SF小説③	SF小説における他者との関係性を理解しながら、短編物語の読解を行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	短編物語：SF小説④	SF小説における物語のメッセージ性を理解しながら、短編物語の読解を行います。また、授業の総まとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「World English 1 (Second Edition)- Student Book with Online Workbook.」 Becky Tarver Chase, Martin Milner, and Kristin L. Johannsen 著 (National Geographic Learning- Cengage) ISBN:978-1-305-08954-9 (生協で購入してください。)					定期試験：40% 小テスト：30% 受講態度：30% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.						

科目名	Public Speaking			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AC26051	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
各テーマに対して、自らの意見を論理立てて話す実践的な演習を行います。また、そのために必要な「話の内容や構成」、「ノンバーバル・コミュニケーション」に関する理論についても触れていきます。さらに各自の発表を考察し合うことにより、どのようにスピーチや他のコミュニケーションに役立つかを考えます。											
学修到達目標											
・人前で論理立てて自分の意見を英語で伝えることができる。 ・ノンバーバルを効果的に用いた英語のスピーキング技法を身につける。また、それらの技法の印象を様々な視点より考察することによって、英語教育の指導に役立てることができる。											
授業の進め方											
各テーマに対して、自らの意見を論理立てて話す実践的な演習を行います。また、そのために必要な「話の内容や構成」、「ノンバーバル・コミュニケーション」に関する理論についても触れていきます。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のオリエンテーションを行い、授業の概要を説明します。					事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	スピーチにおける内容や構成	スピーチにおける内容や構成について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	内容と構成の準備①	将来の目的についての内容と構成の準備について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	スピーチの発表とフィードバック①	将来の目的について、スピーチの発表とフィードバックを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	内容と構成の準備②	尊敬する人物について、内容と構成の準備について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	スピーチの発表とフィードバック②	尊敬する人物について、スピーチの発表とフィードバックを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	内容と構成の準備③	心に残った授業について、内容と構成の準備について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	スピーチの発表とフィードバック③	心に残った授業について、スピーチの発表とフィードバックを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	ノンバーバル・コミュニケーションの理論	ノンバーバル・コミュニケーションの理論について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備①	理想とする教師像について、ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバック①	理想とする教師像について、ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバックを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備②	地域とともにある学校について、ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバック②	地域とともにある学校についてノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバックを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備③	国際社会において必要なスキルについて、ノンバーバルに配慮した内容と構成の準備について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバック③	国際社会において必要なスキルについて、ノンバーバルに配慮したスピーチの発表とフィードバックを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「Present Yourself 1 (Second Edition) : Experiences Student's Book」 Steven Gershon著C.U.P. Tokyo Telephone: 03- 3518- 8272. 編 (Cambridge University Press (Tokyo)) ISBN:9781107435636 (生協で購入してください。)					受講態度：30% 各回の発表に対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.						

科目名	Writing Skills I			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	AC16052	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、水曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C	2018年度～					
	④				⑤						
授業概要											
当初は、短い文書を書くことから始めて、徐々に複雑でより長い文章を書いていきます。英文法に留意しながら文章全体の構成を組み立て、よりの確に論旨が伝わる英文ライティングを行います。これらを通し文体を理解し、コミュニケーションへの応用を考えます。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> ・文法的に正確な英文を書くことができる。 ・内容を的確に相手に伝え、論旨が明確な英文を書くことができる。 ・正確な文法力と的確な伝達力を身につけ、表現方法と伝達内容について理解し、文体について考える力を身につけている。 											
授業の進め方											
短い文書を書くことから始めて、徐々に複雑でより長い文章を書いていきます。英文法に留意しながら文章全体の構成を組み立て、よりの確に論旨が伝わる英文ライティングを行います。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、授業内容の概要を紹介します。					事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	ライティングにおける論理的思考	ライティングにおける論理的思考について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	日本語の文章と英語の文章との対比	日本語の文章と英語の文章を対比しながら、実際に長文を書くことを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	内容の構成①	お知らせと通知に関するメールの短文を例に、内容の構成について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	表現と文法の確認①	お知らせと通知に関するメールの短文を例に、表現と文法の確認について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	ファイナルドラフト①	お知らせと通知に関するメールの短文のファイナルドラフトを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	内容の構成②	自己紹介に関する短文を例に、内容の構成について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	表現と文法の確認②	自己紹介に関する短文を例に、表現と文法の確認について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	ファイナルドラフト②	自己紹介に関する短文のファイナルドラフトを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	内容の構成③	松本市の産業に関する長文を例に、内容の構成について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	表現と文法の確認③	松本市の産業に関する長文を例に、表現と文法の確認について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	ファイナルドラフト③	松本市の産業に関する長文のファイナルドラフトを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	内容の構成④	日本の伝統文化に関する長文を例に、内容の構成について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	表現と文法の確認④	日本の伝統文化に関する長文を例に、表現と文法の確認について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	ファイナルドラフト④	日本の伝統文化に関する長文のファイナルドラフトを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「Pathways 1: Reading, Writing, & Critical Thinking」- Text With Online Acces Code」 Laurie Blass & Mari Vargo著 (National Geographic Learning - Cengage) ISBN:978-1133942139 (生協で購入してください。)					課題：60% 受講態度：20% 定期試験：20% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.						

科目名	Writing Skills II			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AC26053	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、水曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
Writing Skills Iと比べると、より自らの主張を相手に伝える、意見サポート型と比較列挙型のエッセイ・ライティングの特徴を学び、実際に自らテーマを選んで英文エッセイを書いていきます。それらを通し、他の技能への応用がどのようにできるかも考えます。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> エッセイ・ライティングの特徴を理解することができる。 より豊富な語彙を用いて、的確に自らの主張を表現する英文エッセイを書くことができる。 文体を理解し、他の技能での活用を考え、応用できる。 											
授業の進め方											
エッセイの作成を中心に進めます。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、授業内容の概要を紹介します。					事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	結論・理由①	意見サポート型エッセイを例に結論・理由のパターンについて学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	結論・理由②	意見サポート型エッセイを実際に作成し、結論・理由の書き方について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	添削のフィードバックを踏まえての書き直し	前回作成したエッセイの添削のフィードバックを踏まえての書き直しを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	分析①	意見サポート型エッセイの分析について、パターンの学習をします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	分析②	意見サポート型エッセイを実際に作成し、分析について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	理論・証明①	意見サポート型エッセイを例に、理論・証明についてパターンの学習をします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	理論・証明②	意見サポート型エッセイを実際に作成し、理論・証明について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	論争①	比較列挙型エッセイを例に、論争についてパターンの学習をします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	論争②	比較列挙型エッセイを実際に作成し、論争について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	比較①	比較列挙型エッセイを例に、比較についてパターンの学習をします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	比較②	比較列挙型エッセイを実際に作成し、比較について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	分類①	比較列挙型エッセイを例に、分類についてパターンの学習をします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	分類②	比較列挙型エッセイを実際に作成し、分類について学びます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	まとめ	比較列挙型エッセイのまとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
「Pathways 1: Reading, Writing, & Critical Thinking」- Text with Online Acc. Code」 Laurie Blass & Mari Vargo著 (National Geographic Learning- Cengage) ISBN:978-1133942139 (生協で購入してください。)				課題：60% 受講態度：20% 定期試験：20% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「Any English language dictionary.」				Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review & consolidate the material covered in class.							

科目名	Discussion & Presentation			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36054	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
各テーマに対して、ペアワークもしくは小グループによるディスカッションを通して得た結論に対して、口頭にて英語で論理的にプレゼンテーションします。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> 相手の話す内容から文脈や状況を判断して、批判的思考能力を活用し英語で返答したり自ら意見を述べたりするリスニングとスピーキングができる。 その時々々の文脈及び状況に見合った語彙を用いて、批判的に考え、口頭で効果的な英語のプレゼンテーションができる。 											
授業の進め方											
ペアワークもしくは小グループによるディスカッションとプレゼンテーションを行います。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	オリエンテーション、ディスカッションとプレゼンテーションの基礎	中学・高校での英語の授業でのディスカッションやプレゼンテーションを土台とした教育学理論的解釈について紹介する。				教育学的理論を使用して、プレゼンテーションのアウトラインを準備する(4時間)					
2	ペアワークによるディスカッション①	自己PRで重視している点とは何か、ペアワークによるディスカッションを行います。				引き続き、教育学理論を使用して、プレゼンテーションのアウトラインを準備する(4時間)					
3	プレゼンテーション①	自己PRで重視している点とは何か、ディスカッションで得た結論を各人がプレゼンテーションします。				適切な教育学理論を用いて、個々のプレゼンテーションの準備をする(4時間)					
4	ペアワークによるディスカッション②	大学受験を通して学んだものは何か、ペアワークによるディスカッションを行います。				自身の大学の入学試験に基づいたスピーチの準備をする。(4時間)					
5	プレゼンテーション②	大学受験を通して学んだものは何か、ディスカッションで得た結論を各人がプレゼンテーションします。				自身の大学の入学試験に基づいたプレゼンテーションを作成する。(4時間)					
6	ペアワークによるディスカッション③	なぜ働くのかについて、ペアワークによるディスカッションを行います。				なぜ働くのかについてディスカッションの準備をする。(4時間)					
7	プレゼンテーション③	なぜ働くのかについて、ディスカッションで得た結論を各人がプレゼンテーションします。				なぜ働くのかについて正確に説明できるように準備をする。(4時間)					
8	フィードバック①	ペアワークに対するフィードバックを行います。				ペアワークの相手のスピーチについて「ピア評価」の準備をする。(4時間)					
9	小グループワークでのディスカッション①	学生と社会人との違いについて、小グループワークによるディスカッションを行います。				学生と社会人の違いに関するディスカッションの準備をする。(4時間)					
10	役割担当を決めたプレゼンテーション①	学生と社会人との違いについて、ディスカッションで得た結論について役割分担を決めてプレゼンテーションを行います。				学生と社会人との違いについてスピーチの準備をする。(4時間)					
11	小グループワークでのディスカッション②	子どもにさせたい習い事について、小グループワークによるディスカッションを行います。				子どもにさせたい習い事についてディスカッションの準備をする。(4時間)					
12	役割担当を決めたプレゼンテーション②	子どもにさせたい習い事について、ディスカッションで得た結論について役割分担を決めてプレゼンテーションを行います。				子どもにさせたい習い事についてのスピーチの準備をする。(4時間)					
13	小グループワークによるディスカッション③	中学校と高校の教員に求められる能力とは何か、小グループワークによるディスカッションを行います。				中学校と高校の教員に求められる能力について、ディスカッションの準備をする。(4時間)					
14	役割担当を決めたプレゼンテーション③	中学校と高校の教員に求められる能力とは何か、ディスカッションで得た結論について役割分担を決めてプレゼンテーションを行います。				中学校と高校の教員に求められる能力について、スピーチの準備をする。(4時間)					
15	フィードバック②	小グループワークに対するフィードバックを行います。				グループワークのスピーチの「ピア評価」の準備をする。(4時間)					
テキスト					成績評価の方法・基準						
「Speaking of Speech New Edition (DVD付)」ハリントン デービッド/ルポー チャールズ著 (TOKYO TELEPHONE (03) 4533-8082.) 編(株式会社マクミラン ランゲージハウス) ISBN:978-0-2307-2601-7 (生協で購入してください。)					受講態度:30% 各回のプレゼンテーションに対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English language dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to consolidate material covered in class.						

科目名	Communicative English I			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36055	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、木曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	⑤				⑥						
授業概要											
個人によるワークを中心に、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を統合的・効果的に活用し、4技能における文体を意識しながら、コミュニケーション能力を向上させるためにアクティブ・ラーニングを取り入れた様々な活動を行います。											
学修到達目標											
<ul style="list-style-type: none"> 英語の4技能を統合的・効果的に活用し、自己表現ができる。 英語の4技能を統合的・効果的に活用し、円滑な相互理解をはかることができる。 											
授業の進め方											
これまでの英語学修を踏まえて、4技能を統合して活用することを中心に進めます。自ら考え、情報収集、分析、考察、発信を英語で行います。授業はすべて英語で行われます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行います。外国語没入法や授業への積極的な参加などの4技能を念頭に授業内容について説明します。					事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	自己発信型ワーク・プロジェクト①	物語を英語で創作するとともに、あらすじを構想します。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	自己発信型ワーク・プロジェクト②	あらすじを実際にライティングします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	自己発信型ワーク・プロジェクト③	あらすじを他者に英語で説明します。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	自己発信型ワーク・プロジェクト④	他者の意見を参考にしてあらすじを再考します。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	自己発信型ワーク・プロジェクト⑤	物語のライティングを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	自己発信型ワーク・プロジェクト⑥	作成した物語のプレゼンテーションを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	自己発信型ワーク・プロジェクト⑦	フィードバックを行い、これまでの授業のまとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	探求型ワーク・プロジェクト①	松本市の産業について探求課題を決めます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	探求型ワーク・プロジェクト②	課題に対してインターネットや書物を調べます。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	探求型ワーク・プロジェクト③	調査結果を他者に説明します。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	探求型ワーク・プロジェクト④	他者の意見を参考にして調査結果を再考します。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	探求型ワーク・プロジェクト⑤	調査結果をまとめ、プレゼンテーションの準備をします。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	探求型ワーク・プロジェクト⑥	調査結果のプレゼンテーションを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	探求型ワーク・プロジェクト⑦	フィードバックを行い、授業の総まとめを行います。					事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「Let's Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD (Second Edition).」 Leo Jones 著 (Cambridge University Press (2007)) ISBN: 978-0521692816 (生協で購入してください。)					受講態度：30% 各回のプロジェクトに対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「Any English Language Dictionary.」					Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review the material covered in class.						

科目名	Communicative English II		学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36056	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン		必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日3限、水曜日1限		
関連資格	中(英語)、高(英語)			履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)					
①	②	③	A	B	C					
	④				⑤					
授業概要										
グループワークを中心に、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を統合的・効果的に活用し、相手の意識や文体を理解することを目的とします。										
学修到達目標										
<ul style="list-style-type: none"> 英語の4技能を統合的・効果的に活用し、より高度な自己表現ができる。 英語の4技能を統合的・効果的に活用し、聞く側を意識して、より込み入った内容に関して円滑な相互理解をはかることができる。 										
授業の進め方										
コミュニケーション能力を向上させるためにグループ単位によるアクティブ・ラーニングを取り入れた様々な活動を行います。授業は英語で行われます。										
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	オリエンテーションを行い、授業の概要について説明します。				事前：シラバスの熟読、事後：授業で説明します(4時間)				
2	自己発信型グループワーク・プロジェクト①	グループで話し合い、課題を見つけるワークを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
3	自己発信型グループワーク・プロジェクト②	課題に対して、グループ内で方向性を打ち合わせます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
4	自己発信型グループワーク・プロジェクト③	課題に対して他グループに説明をします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
5	自己発信型グループワーク・プロジェクト④	他グループの意見を参考にし、内容を再考します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
6	自己発信型グループワーク・プロジェクト⑤	課題に対してのスキットのライティングを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
7	自己発信型グループワーク・プロジェクト⑥	課題をプレゼンテーションします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
8	自己発信型グループワーク・プロジェクト⑦	フィードバックを行い、これまでの授業のまとめを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
9	探求型グループワーク・プロジェクト①	グループで話し合い課題を見つけます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
10	探求型グループワーク・プロジェクト②	課題に対してインターネットや書物を調べます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
11	探求型グループワーク・プロジェクト③	調査結果を他グループに説明します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
12	探求型グループワーク・プロジェクト④	他グループの意見を参考にし、内容を再考します。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
13	探求型グループワーク・プロジェクト⑤	調査結果をまとめます。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
14	探求型グループワーク・プロジェクト⑥	調査結果をプレゼンテーションします。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
15	探求型グループワーク・プロジェクト⑦	フィードバックを行い、授業の総まとめを行います。				事前：前回授業で指示した内容、事後：授業で説明します(4時間)				
テキスト			成績評価の方法・基準							
「Let's Talk Student's Book 1 with Self-Study Audio CD (2nd Edition).」 Leo Jones著 (Cambridge University Press (2007)) ISBN: 978-0521692816 (生協で購入してください。)			受講態度：30% 各回のプロジェクトに対する評価70% S:到達目標を超えたレベルで理解し、修得した知識・技能を相互に関連付けて応用できる。A:授業内容を十分に理解し、かつ到達目標を達成し、基礎知識・技能を発展させた知識・技能を修得している。B:授業内容を理解し、かつ到達目標を概ね達成し、基礎知識・技能を修得している。C:授業内容を概ね理解し、最低限必要な基礎知識・技能を修得している。							
参考書			履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「Any English language dictionary.」			Students are expected to prepare their homework, or to engage in other forms of self-study, before each weekly class session. Students are also expected to review the material covered in class.							

科目名	TOEIC総合演習 I			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36057	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
<p>本授業では、TOEIC L&Rの応用学習を通じて、英語スキルをより高い次元に引き上げることを目指します。日本の新入社員のTOEIC平均点は500点前後とされていますが、さらに高いスコアを保持していれば、様々な場面で有利になります。これまで学んできた基礎知識を土台に、仕事や海外でも通用する英語力を身に付けることを目指します。</p>											
学修到達目標											
<p>TOEIC L&Rで550点を取得できる英語力を身に付けている。 リスニングでは、応答文のさまざまなパターンに慣れており、長めのアナウンスでも、キーワードから全体の要旨を理解できる。リーディングでは、長い文章でも区切りながら読み進めるスキルがあり、全体の要旨を把握できる。</p>											
授業の進め方											
<p>本番テストと同等レベルの非公式問題集を使い、できるだけ多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチしてスピーキングやコミュニケーション力を高めます。少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	品詞(名詞) リスニングPart2, Part3 リーディングPart7					IPテストスコア持参。学習計画を立てる、Eラーニング(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	品詞(形容詞・副詞) リスニングPart2, Part3 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	品詞演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	主語・動詞の把握 リスニングPart1, Part3 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	時制 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト①	受け身・主述一致 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7、小テスト					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	前置詞 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	接続詞 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト②	文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart6、小テスト②					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト③	文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7、小テスト③					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
15	ミニ模試	これまで学んだ内容を踏まえて、100問のミニ模試に挑戦します。					これまでの総復習、テストに備えて自己学習(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「TOEIC L&Rテスト 至高の模試600問」ヒロ前田、テッド寺倉、ロス・タロック著(アルク) ISBN:9784757428997(生協で購入してください。)					<p>受講態度:10% 課題:30% 小テスト:30% 定期試験:30%</p> <p>S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。					TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期「TOEIC総合演習II」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC総合演習Ⅱ			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36058	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
<p>本授業では、TOEIC L&Rの応用学習を通じて、英語スキルをより高い次元に引き上げることを目指します。日本の新入社員のTOEIC平均点は500点前後とされていますが、さらに高いスコアを保持していれば、様々な場面で有利になります。これまで学んできた基礎知識を土台に、仕事や海外でも通用する英語力を身に付けることを目指します。</p>											
学修到達目標											
<p>TOEIC L&Rで600点を取得できる英語力を身に付けている。全体を通して、基礎的な問題は確実に解くことができる。リスニングでは、長いアナウンスでも誰が、どこで、どんな話をしているかをある程度把握できる。リーディングでは、長い文章でも最後まで読むことができ、どこに答えがあるのかを見極めながら問題に対応できる。</p>											
授業の進め方											
<p>本番テストと同等レベルの非公式問題集を使い、できるだけ多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチしてスピーキングやコミュニケーション力を高めます。少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンスと問題演習	授業の進め方確認 品詞(名詞) Part2, Part3、リーディングPart7					IPテストスコア持参。自分に合った計画を立てる、Eラーニング(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	品詞(形容詞・副詞) リスニングPart2, Part3ビジネス リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	品詞演習 リスニングPart2, Part3ビジネス リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	主語・動詞の把握 リスニングPart1, Part3 3人の会話 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	時制 リスニングPart2, Part3図表問題 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト①	受け身・主述一致 リスニングPart2, Part3図表問題 リーディングPart7、小テスト①					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	前置詞 リスニングPart2, Part3意図問題 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	接続詞 リスニングPart2, Part3意図問題 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4留守電 リーディングPart6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト②	文法問題演習 リスニングPart2, Part4スピーチ リーディングPart6、小テスト②					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4スピーチ リーディングPart6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4ビジネスシーン リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	文法問題演習 リスニングPart2, Part4ビジネスシーン リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト③	文法問題演習 リスニングPart2, Part4まとめ リーディングPart7、小テスト③					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
15	ミニ模試	これまで学んだ内容を踏まえて、100問のミニ模試に挑戦します。					これまでの総復習。定期試験に向けて準備(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「TOEIC L&Rテスト 至高の模試600問」ヒロ前田、テッド寺倉、ロス・タロック著(アルク) ISBN:9784757428997(生協で購入してください。)						<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%</p> <p>S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は授業内で紹介します。						TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、来年度「TOEIC総合演習Ⅲ」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。					

科目名	TOEIC総合演習Ⅲ			学年学期	4年前期	単位数	2	ナンバリング	AC46059	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
<p>本授業は、TOEIC L&Rの学習を通じて、社会に出ても十分通用する高い英語力を身に付けるための学習を行います。TOEICでハイスコアを持っていれば就職などに有利ですが、スコア上の目標達成にとどまらず、仕事やコミュニケーションで実際に使える英語スキルの習得を目指します。グローバルな環境においても臆することなく英語を使い、伝えたいことを表現できるようになることがこの授業の最終的な目的です。</p>											
学修到達目標											
<p>TOEIC L&Rで650点を取得できる。全体を通して、基礎的な問題は確実に解くことができる。 リスニングでは、長めの会話やアナウンスでも全体の要旨を把握できるとともに、詳細もある程度理解できる。リーディングでは、長文のどこを読めばよいかをある程度的確に判断しながら問題を解き進めることができる。</p>											
授業の進め方											
<p>公式問題集を使い、できるだけ多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチし、基礎から一歩進んだ問題も解ける力を付けて行きます。ペア・グループワークも行います。少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	授業の進め方について説明し、自分の弱点や勉強法を検査します。					IPテストスコア持参。自分に合った計画を立てる。Eラーニング(1時間)				
2	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part3ビジネス リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
3	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part3ビジネス リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
4	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart1 Part3 3人の会話 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
5	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part3図表問題 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト①	リスニングPart2, Part3図表問題 リーディングPart7、小テスト①					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
7	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part3意図問題 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
8	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part3意図問題 リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
9	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part4留守電 リーディングPart5, 6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト②	リスニングPart2, Part4スピーチ リーディングPart5, 6、小テスト②					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
11	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part4スピーチ リーディングPart5, 6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
12	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part4ビジネスシーン リーディングPart5, 6					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
13	リスニング演習 リーディング演習	リスニングPart2, Part4ビジネスシーン リーディングPart7					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト③	リスニングPart2, Part4まとめ リーディングPart7、小テスト③					単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)				
15	ミニ模試	これまで学んだ内容を踏まえて、100問のミニ模試に挑戦します。					これまでの総復習。定期試験に向けて準備(1時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「公式TOEIC Listening & Reading 問題集2」(国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN:978-4096033-50-8(生協で購入してください。)					<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%</p> <p>S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。					TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。そのため、後期「TOEIC総合演習Ⅳ」も受講することを強く推奨しています。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEIC総合演習IV			学年学期	4年後期	単位数	2	ナンバリング	AC46060	研究室	非常勤
担当者	櫻井 智子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
<p>本授業は、これまでTOEIC L&Rを継続して学習してきた学生が、さらに高いレベルを目指すための授業です。社会に出ても通用する、高い英語運用能力を身に付けるための学習を行います。TOEICでハイスコアを持っていれば就職などに有利なことは言うまでもありませんが、スコア上の目標達成にとどまらず、仕事やコミュニケーションで実際に使える英語スキルの習得を目指します。前期までに培った力をさらに伸ばし、自信を持って英語を使えるようになることが目標です。</p>											
学修到達目標											
<p>TOEIC L&Rで700点を取得できる英語力を身に付けている。TOEICの問題形式や解き方のコツを熟知し、目標点数に届くための単語も身に付けている。リスニングでは、長めのアナウンスを聞いて全体の意味や詳細を理解できる。リーディングでは、基礎文法が確実に身に付けている。長い文章でも全体の大まかな意味を把握でき、キーワードを見つけて詳細を探ることができる。</p>											
授業の進め方											
<p>公式問題集を使い、できるだけ多くの問題に触れていきます。リスニング、リーディング、文法にまんべんなくアプローチし、基礎から一歩進んだ問題も解ける力を付けて行きます。ペア・グループワークも行います。少人数クラス(原則20名以下)で行います。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	授業ガイダンス リスニング演習			授業の進め方等確認 リスニングPart1				IPテストスコア持参。自分に合った計画を立てる。Eラーニング(1時間)			
2	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
3	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
4	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
5	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
6	リスニング演習 リーディング演習 小テスト①			文法問題演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7、小テスト①				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
7	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part3 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
8	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
9	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart6				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
10	リスニング演習 リーディング演習 小テスト②			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart6、小テスト②				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
11	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart6				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
12	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
13	リスニング演習 リーディング演習			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
14	リスニング演習 リーディング演習 小テスト③			文法問題演習 リスニングPart2, Part4 リーディングPart7、小テスト③				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
15	ミニ模試			これまで学んだ内容を踏まえて、100問のミニ模試に挑戦します。				単語、音読、シャドーイング、問題演習、Eラーニング(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
「公式TOEIC Listening & Reading 問題集2」(国際ビジネスコミュニケーション協会) ISBN:978-4096033-50-8(生協で購入してください。)					<p>受講態度:10% 小テスト:30% 課題:30% 定期試験:30%</p> <p>S:授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEICスコアにおいても著しい成績を残した。A:授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。</p>						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
参考書は授業内で紹介します。					TOEICで高得点を目指すためには、継続的な学習が不可欠です。Eラーニングを活用するため、PC、スマホ、タブレットのいずれかが必須です。						

科目名	TOEFL演習 I			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AC26061	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
TOEFLは、留学する際に必須となる、アカデミック英語のスキルを測る4技能試験です。本授業では、問題の概要と問題のタイプを把握した上で、自分の意見を持ち、それを英語で発表できるような英語力、教養と表現力を身につけます。さらに、将来留学を目指すための基礎準備として、米国大学入門レベルのリーディングやリスニングにも対応できるように演習を行います。											
学修到達目標											
タイピング、ノートのとり方、学習計画の立て方、文献引用の方法、批評の仕方など、海外でも通用するアカデミックスキルの基礎を身につけている。TOEFLの問題形式を知り、それぞれの問題タイプに対応した解答ができる。4技能をバランスよく伸ばし、講座終了時までにはTOEFL iBT (もしくはTOEFL Practice Test Online) で45点以上を取得できる。											
授業の進め方											
授業は英語で行います。問題演習と課題の振り返りを行います。毎週出される課題(スピーチ、作文)を素材に、ペアワークを通じお互いの作文やスピーチに対して建設的批判をし、またそれを受け止める練習をします。少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	TOEFLの概要			TOEFLの問題の形式を知るため、サンプル問題を解いてみる Independent Taskへの導入として自己紹介を書く				自己紹介(スピーキング)の練習。単語とフレーズの学習(4時間)			
2	スピーキング Lesson 1 リーディング Lesson 0			前週の課題として考えてきた自己紹介をペアで確認。発音の基礎を学習。短めのリーディング問題に挑戦しながら、文法の基礎を学ぶ				リーディング Lesson 0の復習、単語とフレーズの学習(4時間)			
3	リスニング Lesson 1、 ライティング Lesson 1			大学生の日常に必要な会話のリスニングの基礎を学ぶ。ライティングでは、5パラグラフエッセイの基本構造を学習する。				シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
4	リーディング Lesson 2 スピーキング Lesson 2			英文法の基礎のまとめ。句型、基本構文を使った短いパッセージの読解練習。英語特有のリズムや発音の基礎を学ぶ。				単語とフレーズ学習。英文法、読解問題を解く。シャドーイング、オーバーラッピング(4時間)			
5	リスニング Lesson 2 ライティング Lesson 2			会話の概要を把握し、メモを取る練習をする。ライティングでは誤用が多い単語や表現について学習する。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
6	リーディング Lesson 3 リスニング Lesson 3			パラグラフリーディングの基礎、教授と学生の会話パターンに頻出の単語やイディオムを学習する。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
7	リスニング Lesson 4 ライティング Lesson 3			学生同士の会話のリスニング練習。基本句型や接続詞を正しく使い、文を書く練習をする。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
8	リーディング Lesson 4 スピーキング Lesson 2-(2)			英文のパラグラフ構成の特徴を学習する。英語特有の発音やリズムに親しむ。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
9	ライティング Lesson 4 リスニング Lesson 5			関係代名詞や仮定法など、やや難易度が高い文を読み、書く練習をする。生物学関連のリスニングの演習。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
10	リーディング Lesson 5 ライティング Lesson 5			歴史学関連のパッセージの読解を通し、パラグラフリーディングの練習をする。人物紹介の文を書く。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
11	リスニング Lesson 6、 スピーキング Lesson 3-(1)、 ライティング Lesson			映画史や文化史の授業のリスニングの演習を行う。自分の経験を元にした文を書く練習をする。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル。			
12	リーディング Lesson 6、 スピーキング 3-(2)、 ライティング Lesson 7			天文学関連の話題のリスニングの演習を行う。ライティングではアイディアマップの作り方を学ぶ。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
13	リーディング Lesson 8 ライティング Lesson 8			動物行動学の講義を聞き、関連した語彙を学ぶ。ライティングでは本文の具体例を書く練習をする。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
14	リーディングとライティング 実践問題			学習内容を振り返り、45分程度の模試を解き、残りの時間で見直す。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
15	リスニングとスピーキング 実践問題			学習内容を振り返り、45分程度の模試を解き、残りの時間で見直す。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。1段落のジャーナル(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「超基礎からのTOEFL®テスト入門」アゴス・ジャパン著(旺文社) ISBN: 4010944390(生協で購入してください。)				定期試験: 30% 小テスト: 30% 課題: 30% 受講態度: 10% S: 授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEFLスコアにおいても著しい成績を残した。A: 授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「TOEFL iBTテスト必修フレーズ100」鈴木 瑛子著(テイエス企画) ISBN: 4887841779 このほかにも、TOEFL iBT、またはTOEFLの公式オンライン模試(TOEFL®				TOEIC400点または英検準2級取得程度の英語力があることを想定した講座ですが本人の意欲次第で受講も可能です。不安がある学生は講師に相談してください。またノートPCが使える環境が必須です。							

科目名	TOEFL演習Ⅱ			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AC26062	研究室	非常勤
担当者	勝山 庸子			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
TOEFL®は、留学する際に必須となる、アカデミック英語のスキルを測る4技能試験です。グローバル社会において、英語コミュニケーション能力の重要性は増えています。この授業では、意見の述べ方、一貫性のある段落の書き方を学習し、基礎的な内容の大学レベルのリーディングやリスニングにも対応できる素地を作ります。また、批判的思考や共学の精神を育むことも目指します。											
学修到達目標											
タイピングやノートのとり方、文献引用の方法、批評の仕方など、海外でも通用するアカデミックスキルを確実に身に付けている。英語4技能をバランスよく伸ばし、講座終了時までにTOEFL iBT (またはオンライン模試) で50点以上を取得できる。本学のディプロマポリシーに添い、現代社会を広い視野で分析し、自ら判断、行動できる能力を身に付けている。											
授業の進め方											
授業は英語で行います。毎週出される課題(スピーチ、作文)をペアでレビューします。さらに、テキストに収録されている模試に取り組み、復習と見直しを通じて、TOEFLの問題に慣れていきます。少人数クラス(原則20名以下)で行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	TOEFLの概要復習 Introduction			サンプル問題を解き、自分の長所と弱点を把握する。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
2	Chapter 1 Reading Section 1			前週の課題の作文をペアで確認。リーディングの問題に取り組み、重要表現を覚え、アウトプットにも使えるように作文、スピーキングの演習を行う。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
3	Chapter 1 Reading Section 2			前週の課題の作文をペアで確認。リーディングの問題に取り組み、重要表現を覚え、アウトプットにも使えるように作文、スピーキングの演習を行う。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
4	Chapter 1 Listening Section 1			リスニング問題の解き方のコツを学習する。発音にも気をつけ、音読やシャドーイングの練習をする。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
5	Chapter 1 Listening Section 2			リスニング問題の解き方のコツを学習する。発音にも気をつけ、音読やシャドーイングの練習をする。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
6	Chapter 1 Speaking Section 1			インデペンデント・タスクを中心に、問題演習に取り組み、その結果を受講生同士で相互評価する。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
7	Chapter 1 Speaking Section 2			インテグレイテッド・タスクを中心に、問題演習に取り組み、その結果を受講生同士で相互評価する。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
8	Chapter 1 Writing Section 1			インデペンデント・タスクを中心に、問題演習に取り組み、その結果を受講生同士で相互評価する。特に段落構成に問題がないか、論理に一貫性があるかを確認する。				単語とフレーズの学習、シャドーイング、オーバーラッピング、音読、作文(4時間)			
9	Chapter 1 Writing Section 2			インテグレイテッド・タスクを中心に、問題演習に取り組み、その結果を受講生同士で相互評価する。特に段落構成に問題がないか、論理に一貫性があるかを確認する。				単語とフレーズの学習。Chapter 2 Reading Sectionを解く(4時間)			
10	Chapter 2 Reading Section 見直し			Reading Sectionの解答をペアで検討する。パラグラフリーディングができていないかを確認し、問題タイプ別の解答方法を検討する。				単語とフレーズの学習。Chapter 2 Listening Sectionを解く(4時間)			
11	Chapter 2 Listening Sectionの見直し			Listening Sectionの解答をペアで検討する。単語や表現で知らなかったものは覚える。得点に繋がるノートの取り方を学習する。				単語とフレーズの学習。Chapter 2 Speaking Sectionの解答を録音して行く(4時間)			
12	Chapter 2 Speaking Sectionの見直し			録音を聴き、評価し合う。特に一貫性があるか、説得力があるかに重点を置く。				単語とフレーズの学習。Chapter 2 Writing Sectionを解いて行く(4時間)			
13	Chapter 2 Writing Sectionの見直し			解答をペアで検討する。段落構成に問題がないか、論理に一貫性があるかを確認する。さらに、よくある文法や語法の誤りを正す。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。作文(4時間)			
14	リーディングとリスニング の総合演習			学習内容を振り返り、45分程度の模試を解き、残りの時間で見直す。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。作文(4時間)			
15	スピーキングとライティング の総合演習			学習内容を振り返り、45分程度の模試を解き、残りの時間で見直す。				単語とフレーズの学習。シャドーイング、オーバーラッピング、音読。作文(4時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「はじめてのTOEFLテスト完全対策 改訂版 (TOEFL(R)大戦略)」 Paul Wadden, Robert Hilke, 松谷 偉弘著(旺文社) ISBN:4010944331 (生協で購入してください。)				定期試験: 30% 小テスト: 30% 課題: 30% 受講態度: 10% S: 授業内容を高度に理解し、課題をこなすだけでなく自ら学ぶ姿勢を持って学習に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。TOEFLスコアにおいても著しい成績を残した。A: 授業内容を理解し、積極的に学習に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B: 授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C: 授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
「TOEFL iBTテスト必修フレーズ100」鈴木瑛子著(テイエス企画) ISBN: 4887841779 TOEFL iBTまたはTOEFLの公式オンライン模試の受験も推奨します。				TOEIC400点または英検準2級取得程度の英語力があることを想定した講座ですが本人の意欲次第で受講も可能です。不安がある学生は講師に相談してください。またノートPCが使える環境が必須です。							

科目名	異文化理解概論			学年学期	1年後期	単位数	2	ナンバリング	AC16063	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C	2018年度～					
	④				⑤						
授業概要											
イギリス、アメリカ、インド、フィリピンなどの英語圏社会における日常生活、風俗習慣、地理、歴史、文化、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションに関して具体的に事例を示しながら、日本の社会・文化と比較することによって、それぞれの異文化に対して理解を深めます。											
学修到達目標											
1. 英語圏の社会および文化が理解できる。 2. 異文化と比較することによって自文化に対する理解を深め、物事を多角的に捉えることができる。											
授業の進め方											
講義を中心としますが、適宜、グループディスカッションを行い、各授業テーマに対する理解を深めていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方等について					テキスト第1章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
2	日本人、イギリス人、アメリカ人に対するステレオタイプ	ステレオタイプの概念、そしてそれらの具体例を通して					テキスト第2章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
3	日本とアメリカにおける行事・風習の比較(クリスマス、ハロウィーン等)	クリスマス、ハロウィーン、イースター等の比較					テキスト第3章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
4	日本、イギリス、アメリカの食文化の特徴	各国固有の食に関わる事柄について具体例を通して					テキスト第4章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
5	日本、イギリス、アメリカの教育制度の比較	小学校から大学までの教育制度の違いについて					テキスト第5章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
6	日本とアメリカのボディランゲージの違い	ノンバーバル・コミュニケーションについて					テキスト第6章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
7	日本で使われているカタカナの英語表現とアメリカで使われている日本語表現	輸入された双方の言葉について具体例を通して					テキスト第7章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	英国国教会とピューリタンに関する歴史の変遷	英国における宗教そして価値観について					テキスト第8章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
9	イギリスにおける産業革命による資本主義社会の確立	英国における近代化について					テキスト第9章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
10	イギリスにおける階級制	英国における社会階層について					テキスト第10章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
11	アメリカにおけるWASP	米国における社会階層について					テキスト第11章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
12	パックスブリタニカによるアジアへの影響(インド)	英国の世界への影響について					テキスト第12章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
13	パックスアメリカーナによるアジアへの影響(フィリピン)	米国の世界への影響について					テキスト第13章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
14	アメリカにおけるハワイ州の成り立ち	米国の太平洋地域への影響について					テキスト第14章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
15	イギリスにおけるコモンウェルスレムムの成り立ち	英国の世界における影響力について					テキスト第15章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「異文化理解入門」原沢伊都夫著(研究社) ISBN:978-4327377342(生協で購入してください。)						定期試験:60% レポート:30% 受講態度:10%(受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
適宜、授業中に紹介します。						問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。					

科目名	英語圏文化演習 I			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36064	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限、月曜日4限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎				◎						
授業概要											
各授業にて、アメリカの文化に関して様々な視点から概観するテーマを設定してあります。それらのテーマに対して、具体的な事例を通して文化を学びます。身近な話題も取り上げており、日本と比較しながらアメリカの文化的特徴の理解を深めます。											
学修到達目標											
1. アメリカの文化的特徴を理解できる。 2. アメリカと日本の文化を比較することによって、多様性を理解しそれらに対する寛容性を身につける。 3. アメリカの文化に関して自らの視点で考え発表できる。											
授業の進め方											
テーマに沿って各授業の前半は講義を行います。その後、ペアもしくはグループディスカッションを行って理解を深めていきます。また、履修生は指定された授業にて、自ら選んだテーマに関する発表が求められます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方等について					テキスト第1章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
2	アメリカと日本の家族文化の比較	家族のあり方等具体例の比較を通して					テキスト第2章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
3	アメリカのボランティア活動文化	様々な形態のボランティア活動の具体例を通して					テキスト第3章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
4	アメリカと日本の企業文化の比較	働き方等に関して具体例の比較を通して					テキスト第4章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
5	アメリカと日本の就職活動文化の比較	就職活動に関して具体例の比較を通して					テキスト第5章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
6	学生の発表	第2回～第5回のテーマに関して					発表の準備(4時間)				
7	アメリカにおける移民による社会と文化への影響	アングロサクソン系について					テキスト第6章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	アメリカにおける移民による社会と文化への影響	アフリカ系について					テキスト第7章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
9	アメリカにおける移民による社会と文化への影響	アジア系について					テキスト第8章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
10	アメリカにおける異文化摩擦	異文化摩擦に関する具体例を通して					テキスト第9章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
11	学生の発表	第7回～第10回のテーマに関して					発表の準備(4時間)				
12	アメリカと日本の若者文化の比較	50年代以降の若者文化の比較を通して					テキスト第10章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
13	アメリカにおける消費文化	消費文化に関する具体例を通して					テキスト第11章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
14	アメリカにおける娯楽文化	スポーツ、テーマパーク、カジノ等について					テキスト第12章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
15	学生の発表	第12回～第14回のテーマに関して					発表の準備(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「アメリカの歴史-テーマで読む多文化社会の夢と現実」有賀夏紀、油井大郎編(有斐閣アルマ) ISBN:978-4641121621(生協で購入してください。)						定期試験:60% 受講態度:10% 発表30% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
適宜、授業中に紹介します。						問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。また、発表に関しては、テーマを絞ってしっかりと準備してください。					

科目名	英語圏文化演習Ⅱ			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36065	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件						
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
カナダの文化に対して様々な視点から理解を深めます。特に、アメリカの文化と比較することによって、カナダの文化的特徴を明らかにします。各授業では様々なテーマを設定しており、各事例を通して具体的に学びます。											
学修到達目標											
1. カナダの文化的特徴を理解できる。 2. 隣国アメリカとどのような文化的差異があるのかを理解できる。 3. カナダの文化に関して自らの視点で考え発表できる。											
授業の進め方											
テーマに沿って各授業の前半は講義を行います。その後、ペアもしくはグループディスカッションを行って理解を深めていきます。また、履修生は指定された授業にて、自ら選んだテーマに関する発表が求められます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方等について					テキスト第1章～第2章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
2	カナダ人に対するステレオタイプ	ステレオタイプに関して具体例を通して					テキスト第3章～第4章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
3	カナダとアメリカにおける食文化の比較	両国固有の食に関する事柄について具体例を通して					テキスト第5章～第6章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
4	カナダとアメリカにおける英語表現の比較	両国の表現の違いについて具体例を通して					テキスト第7章～第8章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
5	カナダとアメリカにおける宗教的文化的比較	両国の宗教事情と価値観について					テキスト第9章～第10章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
6	学生発表	第2回～第5回のテーマに関して					発表の準備(4時間)				
7	カナダにおける移民による社会と文化への影響	イギリス系について					テキスト第11章～第12章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	カナダにおける移民による社会と文化への影響	フランス系について					テキスト第13章～第14章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
9	カナダにおける移民による社会と文化への影響	アジア系について					テキスト第15章～第16章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
10	カナダにおける異文化摩擦	異文化摩擦に関する具体例を通して					テキスト第17章～第18章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
11	学生発表	第7回～第10回のテーマに関して					発表の準備(4時間)				
12	カナダの公用語	二言語政策について					テキスト第19章～第20章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
13	カナダの教育	イマージョンプログラムについて					テキスト第21章～第22章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
14	カナダにおける文化の捉え方の現状	多文化主義について					テキスト第23章～第24章を事前に読む。授業の内容について復習する。(4時間)				
15	学生発表	第12回～第14回のテーマに関して					発表の準備(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「はじめて出会うカナダ」日本カナダ学会編(有斐閣) ISBN:978-4-641-17358-3(生協で購入してください。)						定期試験:60% 受講態度:10% 発表30% (受講態度とは、授業中の発言回数を点数化して評価するものです) S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
適宜、授業中に紹介します。						問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。また、発表に関しては、テーマを絞ってしっかりと準備してください。					

科目名	異文化交流海外研修			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AC26066	研究室	N-01
担当者	大石 文朗・和田 順一			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限、月曜日4限		
関連資格	中(英語)、高(英語)			履修条件							
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
この授業科目は、英語の教員免許取得希望学生のために設けられた短期留学プログラムです。8～9月に約2週間、米国カリフォルニア州にあるカリフォルニア大学デービス校が実施する留学プログラムに参加します。留学中は基本的に、月曜日から金曜日の午前中は「英語」もしくは「英語教授法」に関する授業があり、午後は様々なアクティビティに参加します。宿泊はホームステイです。(諸事情により時期、研修先、滞在方法等を変更する場合があります。変更した場合には、事前にプログラム内容を周知します)											
学習到達目標											
1. 現地の人々との交流を通して文化や生活習慣の違いを自らの体験を通して理解できる。2. 様々な人々と積極的にコミュニケーションをとることができる。3. 英語が日常言語の環境で生活し、語学力を向上させる。4. 英語教授法を学び、英語を使って教える経験を積む。5. 留学先に関する情報などを自ら調べ、計画的に物事を進めていく習慣を身につける。											
授業の進め方											
研修を裏切るものにするために、与えられた情報だけではなく、学生自ら探求し、一人ひとりが得た情報を皆で共有することを行います。さらに、渡航のために必要な事務手続きも進めていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	研修の内容について					授業の内容についてまとめる。(4時間)				
2	研修先の歴史と文化	米国カリフォルニア州とデービス市について					研修先の下調べを行う。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
3	学生が自ら調べてきた留学先に関する情報を発表し共有する	グループディスカッションと発表					留学先の情報を調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
4	現地にて英語で教えるための準備	自身の町(松本市)等について					松本市等について調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
5	現地にて英語で教えるための準備	日本の伝統文化等について					日本の伝統文化等について調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
6	現地にて英語で教えるための準備	日本の若者文化等について					日本の若者文化等について調べる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
7	出入国やホームステイに関する英語表現	研修で必要と想定される英会話表現について					日常英会話について予習する。授業の内容について復習する。(4時間)				
8	海外における危機管理と自己管理	移動中そして滞在中の諸注意について					質問事項をまとめる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
9	出発前の最終確認	渡航に関する全般的な確認等について					質問事項をまとめる。授業の内容についてまとめる。(4時間)				
10	現地研修	午前(英語)、午後(キャンパス・市内見学等)					授業の予習と復習をする。(4時間)				
11	現地研修	午前(英語教授法)、午後(交流会:英語で松本市の紹介等)					授業の予習と復習をする。(4時間)				
12	現地研修	午前(英語)、午後(小旅行等)					授業の予習と復習をする。(4時間)				
13	現地研修	午前(英語教授法)、午後(交流会:英語で日本文化の紹介等)					授業の予習と復習をする。(4時間)				
14	現地研修	午前(英語)、午後(現地の伝統文化見学等)					授業の予習と復習をする。(4時間)				
15	報告会	一人ひとり口頭での報告					報告の準備をする。(4時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
開講時に指示します。				課題:20% (課題とは報告会での発表です)、出発前ガイダンスへの取り組み20%、留学中の現地担当教員による評価60%、として評価します。 S:授業内容を高度に理解するとともに、探求的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 A:授業内容を理解し、積極的な姿勢をもって課題に取り組んでいる。 B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
適宜、授業中に紹介し、必要な資料はコピーを配布します。				様々な書類を提出する必要がありますが、提出期限は厳守してください。							

科目名	国際交流演習			学年学期	2年通年	単位数	2	ナンバリング	AC26067	研究室	N-02
担当者	マーメット ショーン			必修選択	選択	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日3限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
グローバル化は急速に広がり、私たちを取り巻く環境は日常生活においても、国際的な交流と協力なくしては成りたちません。異なる言語、考え方、価値観、ライフスタイルを持つ人との交流は、新たな発見があり、自分自身を再確認し、新しい自分の価値を創造します。この授業では、国際交流の意義・目的について、外国人留学生やグローバル企業、松本地域に訪れた外国人観光客など様々な分野の方々との交流を通じて、国際交流について実践的に考えていきます。											
学修到達目標											
1) 国際交流について体験等を通して基礎的な知識を身につけている。 2) 実際に国際交流を体験し、自身や自文化について発信できる。 3) 外国人留学生と積極的な関わりを持つことが出来る。											
授業の進め方											
外国人留学生との交流を深め、自己理解・他者理解をします。そのうえで自身の考えを英語を使って発信します。最終的には留学プログラムやEnglish Cafeの運営を通じて、大学内において国際交流を広める活動を行っていきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教育のグローバル化	日本の大学におけるグローバル化の状況を調べ、われわれを取り巻く環境の変化を学びます。					他国の大学教育におけるグローバル化について調べる。EnglishCafe準備。（4時間）				
2	企業のグローバル化	日本の企業におけるグローバル化の状況についてゲストスピーカーの話を聞き、われわれを取り巻く環境の変化を学びます。					日本企業のグローバル化調査とゲスト講話レポート作成。EnglishCafe参加。（4時間）				
3	外国人留学生との交流①	外国人留学生と実際に交流します。自身についてお互いに話し合い、理解を深めます。					自己紹介の作成。他者の自己紹介をまとめる。EnglishCafe参加。（4時間）				
4	外国人留学生との交流②	外国人留学生と実際に交流します。自身についてお互いに話し合い、理解を深めます。					自己紹介の作成。他者の自己紹介をまとめる。EnglishCafe参加。（4時間）				
5	外国人留学生との交流③	外国人留学生と実際に交流します。自身についてお互いに話し合い、理解を深めます。					自己紹介の作成。他者の自己紹介をまとめる。EnglishCafe参加。（4時間）				
6	外国人留学生との交流まとめ	外国人留学生との交流を通じて学んだこと、体験して得たことをプレゼンテーションします。					プレゼンテーションの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
7	松本市内での交流①	松本市内の観光スポットにおける事前調査。問題点とその解決をします。					インタビュー準備。事前調査。EnglishCafe参加。（4時間）				
8	松本市内での交流②	松本市内の観光スポットで外国人旅行者にインタビューします。					インタビュー準備とまとめ。EnglishCafe参加。（4時間）				
9	松本市内での交流③	松本市内の観光スポットで外国人旅行者にインタビューします。					インタビュー準備とまとめ。EnglishCafe参加。（4時間）				
10	松本市内での交流まとめ	外国人観光客へのインタビューを通じて学んだこと、体験して得たことをプレゼンテーションします。					プレゼンテーションの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
11	留学プログラムの事前準備	本学で行われるサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わるための準備を行います。					留学プログラムの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
12	留学プログラム①	本学でのサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わり、自身も参加します。					留学プログラムの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
13	留学プログラム②	本学でのサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わり、自身も参加します。					留学プログラムの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
14	留学プログラム③	本学でのサマープログラムまたはウィンタープログラムの運営に携わり、自身も参加します。					留学プログラムの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
15	まとめ	この授業を通じて学んだこと、体験して得たことをプレゼンテーションします。					プレゼンテーションの準備。EnglishCafe参加。（4時間）				
テキスト				成績評価の方法・基準							
特になし				受講態度：30% レポート：10% 課題：60% S:国際交流の意義を正しく理解し、英語を使い自分自身について深く発信でき、積極的に交流を行うことができる。すべての課題が期待以上である。A:国際交流の意義を正しく理解し、英語を使い自分自身について発信でき、積極的に交流することができる。すべての課題が期待どおりである。B:国際交流の意義を理解し、英語での交流ができる。すべての課題がおおむね期待どおりである。C:国際交流の意義を理解し、英語での交流ができる。課題がおおむね期待どおりである。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
適宜指示します				日頃から新聞等を読んで、日本と世界で起きている問題に関心を持ちましょう。コミュニケーション力を鍛える授業です。							

科目名	英語科指導法 I			学年学期	2年前期	単位数	2	ナンバリング	AC26068	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件	中高英語課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語を学習するということはどのようなことであるのかを、教師の立場として考えます。英語科の学習によって、生徒にどのような力をつけ、どのように育んでいくかの基本的な理解を深めます。											
学修到達目標											
英語科教育に関する教員として指導法やその背景にある理論的理解している。											
授業の進め方											
講義形式で進めますが、自分自身の経験を振り返り、友人と共有したり、議論していく必要があります。意見交換の際には積極的に発言してください。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション 英語教育の目的(英語学習の意義:自己を振り返って)	英語を学習する意義を、自分自身の学習経験を振り返り、考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
2	英語教育の目的(英語学習の意義)	英語を学習する意義を世界的視点から問題点等を考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
3	英語教育の目的(教育の目的と英語教育)	教育の目的と、英語教育の目的を考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
4	教育基本法、英語教育の指導目標(現行学習指導要領について)	教育基本法の基本的内容と現行外国語学習指導要領について理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
5	英語教育の指導目標(次期学習指導要領について)	新外国語学習指導要領について、その学習の仕方と内容を理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
6	英語教育の指導目標(コミュニケーション能力の構成要素:言語能力)	新学習指導要領と現行学習指導要領の外国語の目標について理解する。またコミュニケーション能力というものの全体像を理解し、さらに詳細に、言語能力について理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
7	英語教育の指導目標(コミュニケーション能力の構成要素:言語能力)	コミュニケーション能力というものの全体像を理解し、さらに詳細に、言語能力について理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
8	英語教育の指導目標(コミュニケーション能力の構成要素:方略能力等)	コミュニケーション能力というものの全体像を理解し、さらに詳細に、方略能力について理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
9	英語指導方法(評価基準)	英語指導に関する、目標設定と指導、評価について考え理解する。また評価基準について考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
10	英語指導方法(授業の構成)	英語授業の全体的な流れと、各部分の詳細について理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
11	英語指導方法(授業での言語活動)	言語活動がどのようなものであるかを理解し、実際にどのような言語活動ができるか考える。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
12	英語指導方法(読解活動)	読解活動において、目標の設定やその実施の仕方について考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
13	英語指導方法(文法指導と言語活動)	文法指導に焦点を置く際の言語指導との関りについて考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
14	英語教師論(英語教師の役割)	教師の役割とはどのようなものであるのかを、自分自身の経験を振り返りながら考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
15	小学校外国語活動との連携	小学校外国語科並びに外国語活動と中学校・高等学校の連携を考え理解する。					英語教育に必要なテーマに関する知識を復習し深める。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「統合的英語科教育法」村野井仁・渡部良典・尾関直子・富田祐一著(成美堂) ISBN:978-4-7919-5094-2(生協で購入してください。) 「中学校学習指導要領(新・旧)」(東山書房)(生協で購入してください。) 「中学校学習指導要領解説 外国語編(新・旧)」(開隆堂)(生協で購入してください。) 「高等学校学習指導要領(新・旧)」(東山書房)(生協で購入してください。) 「高等学校学習指導要領解説 外国語活動編」文部科学省著(東洋館出版社)						定期試験:50% 受講態度:10% 小テスト・レポート・提出物等 40% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「小学校学習指導要領」文部科学省著(東京書籍) ISBN:978-4-487-28695-9 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」文部科学省著(東洋館出版社)						主体的に考え、受け身ではなく積極的に取り組む必要があります。また同時に英語力は常に自分自身で磨いておいてください。					

科目名	英語科指導法Ⅱ			学年学期	2年後期	単位数	2	ナンバリング	AC26069	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件	中高英語課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語学習に関する理論等を応用し、指導案作成を学びます。その指導案の内容的中心となる教材をどのように扱っていくかを分析する教材分析、その指導案を基に実際に指導していくことを学びます。											
学修到達目標											
英語学習の理論等を基にし、教材分析を通し指導案が作成できる。指導案を基に授業を行うことができる。											
授業の進め方											
講義形式で進めますが、途中友人と意見交換をしたり、自分自身の計画を実施することがあります。それらに向け積極的に取り組んでください。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション(指導案の書き方)	学習指導案の全体的な流れと書き方を理解する。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
2	指導案の書き方(主眼)	1時間の授業の構成を理解し、主眼の立て方と授業構成を理解する。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
3	指導案の書き方(授業構成)	指導案の主たる活動の授業構成を理解し、具体的活動について考える。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
4	本時案の書き方(全体)	本時案の各部分の全体的バランスを理解し、本時案を書き上げる。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
5	研究授業案の書き方(生徒の分析・評価の観点)	生徒の学習の分析の仕方と、指導における評価の観点を理解し、指導案に組み込む。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
6	教材分析の仕方	授業で使用する教材を分析する視点を理解し、どのような教材でどのように教えるのかを理解する。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
7	教材分析(読みの活動)	「読むこと」に関する教材を教材分析の視点から考え、実際にどのような活動ができるかを考える。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
8	教材分析(書きの活動)	「書くこと」に関する教材を教材分析の視点から考え、実際にどのような活動ができるかを考える。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
9	教材分析(話す・聞くの活動)	「話すこと」「聞くこと」に関する教材を教材分析の視点から考え、実際にどのような活動ができるかを考える。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
10	教材分析(4技能統合的活動)	4技能統合の在り方を理解し、それらを活用した教材分析を理解し考える。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
11	言語活動教材作成	言語活動の教材を作成し、実際に実施する。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
12	言語活動教材作成	統合的な言語活動の教材を作成・実施し、再度検討をする。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
13	模擬授業とリフレクション	模擬授業を実施し、そのリフレクションを行う。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
14	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	前時のリフレクションから指導案を改善し、新たな指導案に活かす。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
15	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の再改善)	模擬授業を実施し、再度リフレクションを実施、指導案の再検討を行う。					テーマに関して復習し、理解を深める。(4時間)				
テキスト					成績評価の方法・基準						
「統合的英語科教育法」村野井仁・渡部良典・尾関直子・富田祐一著(成美堂) ISBN:978-4-7919-5094-2 英語科指導法Ⅰで購入しています。 「中学校学習指導要領(新・旧)」(東山書房)(生協で購入してください。) 「中学校学習指導要領解説 外国語編(新・旧)」(開隆堂出版)(生協で購入してください。) 「中学校外国語検定教科書(New Crown/New Horizon/Columbus)」(別途、指示します。) 他2冊を指定します。掲示で確認してください。					定期試験:50% 受講態度:10% 小テスト・レポート・提出物・パフォーマンス等40% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
「小学校学習指導要領(新・旧)」(新:東洋館出版社、旧:東京書籍) 「小学校学習指導要領解説 外国語活動編(新・旧)」(新:開隆堂出版、旧:東洋館出版社) 参考書の購入については別途指示します。					模擬授業を実施するには十分な準備をしてください。						

科目名	英語科指導法Ⅲ			学年学期	3年前期	単位数	2	ナンバリング	AC36070	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限、水曜日3限		
関連資格	中(英語)、高(英語)					履修条件	中高英語課程履修者				
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
英語の授業を行っていくのに必要な様々な知識や指導法を理解し、コミュニケーション・アプローチを使用した授業が実践できることを目指します。											
学修到達目標											
授業を行う新たな知識や指導法を知り、それらを活用した模擬授業を行えるようにする。また模擬授業のリフレクションを通し、指導案を改善ができるようにする。											
授業の進め方											
講義形式で進めますが、模擬授業をしたり、友人の模擬授業を見てリフレクションを行います。積極的に意見を言うようにしてください。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション コミュニカティブ・アプローチの生成過程とその意味	コミュニケーション・アプローチの生成過程とその意味を理解する。またそれを自分自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
2	コミュニケーション・アプローチの生成過程とその意味：歴史的概観	コミュニケーション・アプローチの生成過程における歴史的指導方法の変遷を理解し、それらのメリット・デメリットを理解する。またそれを自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
3	コミュニケーション・アプローチの生成過程とその意味：理念	コミュニケーション・アプローチ中心の理念を理解し、それらを自身の活動に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
4	日本の英語教育の問題点	これまでの、また現代の日本の教育の問題点について理解をし、今後の自身の英語教育に活用する。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
5	英語授業デザイン：文法指導	文法指導のメリットとデメリット、並びに伝統的な指導法を理解し、自身の指導に活用する。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
6	英語授業デザイン：リーディング指導	リーディングの伝統的な指導の在り方、メリット・デメリットを理解し、コミュニケーション指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
7	英語授業デザイン：リーディング指導(具体的活動)	リーディングの様々な活動を体験し、どのようなプロセスが進行しているかを分析し、自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
8	英語授業デザイン：ライティング指導	ライティング指導の在り方と方法を理解し、自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
9	英語授業デザイン：スピーキング指導	スピーキングの伝統的な指導の在り方、メリット・デメリットを理解し、コミュニケーション指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
10	内容中心指導法	内容中心指導法について理解し、自身の指導に活かす。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
11	指導案の作成	これまでの学習を指導案に活かし、実際の活動を構想する。					テーマに関する復習をし、実際の活動に活かせるように理解する。(4時間)				
12	模擬授業とリフレクション	作成した指導案に沿って、実際に模擬授業を実施し、リフレクションを行う。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
13	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	模擬授業のリフレクションから、再度指導案を検討し修正する。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
14	模擬授業とリフレクション(新指導案による模擬授業)	修正指導案を実施し、さらにリフレクションを重ねる。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
15	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	模擬授業のリフレクションをもう一度指導案に反映し、模擬授業並びに指導案の構築について理解する。					自分自身や友人の模擬授業を実施し、リフレクションをし、自分自身の指導案に活かす。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「英語授業デザイン」山岸信義・高橋貞雄・鈴木政浩編(大修館書店) ISBN:978-4-469-14241-9(生協で購入してください)。 「中学校学習指導要領(新・旧)」(東山書房)(生協で購入してください) 新・旧とも使用。 「中学校学習指導要領解説 外国語編(新・旧)」(開隆堂出版)(生協で購入してください) 新・旧とも使用。 「高等学校学習指導要領(新・旧)」(東山書房)(生協で購入してください) 新・旧とも使用。 他3冊指定します。掲示を確認してください。						定期試験：50% 受講態度：10% 小テスト・レポート・提出物・パフォーマンス等40% S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
参考書は別途指示します。						難しい理論を学びます。積極的に復習をし、実際の指導に活かせるように練習をしてください。					

科目名	英語科指導法Ⅳ			学年学期	3年後期	単位数	2	ナンバリング	AC36071	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	選択	科目種別	講義	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格	中(英語)、高(英語)				履修条件	中高英語課程履修者					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④				⑤						
授業概要											
これまでに学習を積み重ねてきた理論等や指導法を応用し、授業の内容とその指導法を改善していきます。											
学修到達目標											
実施した模擬授業の振り返りを適切に行い、次の指導案の改善へと向けることができる。また模擬授業をその目的とあつたコミュニケーションを中心としたより良いものにすることができる。											
授業の進め方											
これまでの英語科指導法Ⅰ～Ⅳの内容を振り返り、指導案を作成、実施します。友人の模擬授業を観察したり、自分自身の模擬授業を観察してもらい、リフレクションを行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション 学習指導要領の理解	これまでの学習を復習し、学習指導要領の理解を深める。					テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
2	指導案の作成	これまでの学習を復習し、実際の指導案を作成する。					テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
3	教材研究	教材分析の視点を復習し、各技能に対する教材分析を行う。					テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
4	模擬授業とリフレクション	作成した指導案を実施し、リフレクションを行う。					模擬授業のリフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
5	模擬授業とリフレクション(技能統合に基づいた活動:読み書き等)	「読むこと」「書くこと」の技能統合を目的とした指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。					テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
6	模擬授業とリフレクション(技能統合に基づいた活動:書き話す等)	「書くこと」「話すこと」技能統合を目的とした指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。					テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
7	模擬授業とリフレクション(技能統合に基づいた活動:聞く書く等)	「聞くこと」「書くこと」の技能統合を目的とした指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。					テーマに関して復習、並びに以前の学びを思い出し、理解する。(4時間)				
8	模擬授業とリフレクション	技能統合を目指した指導案を作成、実施し、リフレクションを行う。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
9	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	技能統合を目指した指導案を、前時のリフレクションから再検討し指導案を改善していく。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
10	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の再改善)	前時のリフレクションから指導案を再度検討し、改善していく。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
11	模擬授業とリフレクション(新指導案による模擬授業)	改善した指導案から模擬授業を実施し、リフレクションを行う。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
12	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の改善)	改善した指導案と模擬授業のリフレクションから、再度指導案を改善する。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
13	模擬授業とリフレクション(前時使用指導案の再改善)	再度検討した指導案を実施し、さらにリフレクションを行う。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
14	模擬授業とリフレクション(新指導案による模擬授業)	改善が済んでいる指導案を使用し、模擬授業とリフレクションを行う。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
15	模擬授業とリフレクション(新指導案による模擬授業)	指導案に沿って模擬授業を実施し、指導案の検討の仕方や改善の仕方を振り返り、指導案の構築方法を理解する。					理論を反映した模擬授業を構築・実施し、そのフレクションから指導案を再検討する。(4時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「英語授業デザイン」山岸信義ほか編(大修館書店) ISBN:978-4469142419(生協で購入してください。) 「統合的英語科教育法」村野井仁ほか著(成美堂) ISBN:978-4791950942(生協で購入してください。) 「中学校学習指導要領(新・旧)」(東山書房)(生協で購入してください。) 「中学校学習指導要領解説 外国語編(新・旧)」(開隆堂出版)(生協で購入してください。) 新・旧とも使用。他4冊指定します。揭示、要確認。						定期試験:30% 受講態度:10% 小テスト・レポート・提出物・パフォーマンス等60% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
別途指示します。						理論を実際の授業へむずびつけます。模擬授業の準備は十分に行ってください。					

科目名	教職入門ゼミナール			学年学期	2年前期	単位数	1	ナンバリング	AL26072	研究室	
担当者	各教員			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー			
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
教職入門ゼミナールは1年次に行われた学生生活へのオリエンテーションに加えて、教育学部の学生として様々な活動に参加し、4年生における卒業論文製作を目指した研究や学修について学ぶことで、自らがどのような領域での教育に関する学問に興味があるかを検討します。それぞれの専門領域から教職についての課題を設定し、教職研究基礎ゼミナールを選択するための学習も行います。											
学修到達目標											
教職について理解し、自らの課題を設定しながら、卒業までを見通した学修計画を立てることができる。自ら課題テーマを設定し、情報収集、分析、考察のうえ、自らの意見を発表できる。											
授業の進め方											
授業の学習内容により、グループワークや、講義、討論を組み合わせで行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業のガイダンスと履修相談を行います。					自分の履修計画を作成します。(1時間)				
2	キャリアアップ・セミナー準備	1泊2日で行われるキャリアアップ・セミナーの計画を立て、準備を進めます。					係や担当の計画を立てます。(1時間)				
3	マナー講座	介護等体験やインターンシップに向けて、学校や施設等で学ぶときのマナーについて学びます。					学んだマナーを生活の中で実践します。(1時間)				
4	教職研究基礎ゼミ説明各①	後期から始まる教職研究基礎ゼミを選択するための、ゼミ説明会を行います。					各ゼミの先生方の専門分野について調べます。(1時間)				
5	教職研究基礎ゼミ説明各②	後期から始まる教職研究基礎ゼミを選択するための、ゼミ説明会を行います。					各ゼミの先生方の専門分野について調べます。(1時間)				
6	外部講師講話	外部講師を招いて、講演を聞きます。					講演内容について、まとめます。(1時間)				
7	松大模試の返却と解説①	3月に行われた松大模試の返却を受け、解説を聞いて理解を深めます。					松大模試の復習をします。(1時間)				
8	松大模試の返却と解説②	松大模試の返却を受け、解説を聞いて理解を深めます。併せて教職研究基礎ゼミの希望予備調査を発表します。					松大模試の復習をします。(1時間)				
9	グループ研究①	ゼミナールごとに行うグループ研究のテーマを決め、計画を立てます。					各自の興味関心のある分野について調べておきます。(1時間)				
10	教職研究基礎ゼミの所属発表と抽選および教職ガイダンス	予備調査を元に決定した教職研究基礎ゼミの所属を発表します。また人数が多くて決定に至らなかったゼミについては抽選を行います。					関心のある研究分野・領域等について教員と相談したり、調査したりします。(1時間)				
11	グループ研究②	決めたテーマに沿ってグループ研究を進めます。					グループ研究を各自推進します。(1時間)				
12	グループ研究③	グループ研究をまとめ、発表の準備をします。					発表の準備と練習をします。(1時間)				
13	グループ研究④	全体で発表会を行います。					発表を聞いてレポートを書きます。(1時間)				
14	教職入門ゼミナールのまとめ	前期の反省とまとめをします。					教職入門ゼミのまとめをレポートします。(1時間)				
15	履修カルテとポートフォリオの作成	前期のまとめとして、履修カルテとポートフォリオを作成します。					前期の振り返り。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
適宜資料を配付します。				受講態度：20% レポート：50% 実技：30% S：教職に就くことの意義とそのために必要な自分の課題を設定し、より良い教師像を描き、意欲を高めることができる A：教職に就くことの意義を理解し、意欲をもって自分の課題を設定できる B：教職に就くための意欲を高め、卒業までの課題を設定できる C：教職に就くために必要な課題を理解し、意欲的に学習できる							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				自分の専門分野を決める大切なゼミナール活動となります。将来を見据えて、自己開拓力を身に付けることを期待しています。ポートフォリオを持参、フアイリングすること							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-18
担当者	川島 一夫			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日4限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、発達心理学、生徒指導、社会心理学の論文を読むことで「発達心理学から幼小連携・小中連携を考える」ことを通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、発達心理学および生徒指導の研究を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を得ている。											
授業の進め方											
主として一般的な学校場面で出会う子どもたちの生活や行動に関する発達心理学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるか等を考察・討議します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。				事前にシラバスを読んでくる。自分の興味にあった研究について考える。(1時間)			
2	発達心理学の基礎的研究について(1)			現在、一般的な発達心理学の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)			
3	発達心理学の基礎的研究について(2)			現在、一般的な発達心理学の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)			
4	教育場面における発達心理学の研究について(1)			発達心理学の研究が教育場面にどのような形でかかわっているかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)			
5	教育場面における発達心理学の研究について(2)			発達心理学の研究が教育場面にどのような形でかかわっているかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)			
6	発達心理学研究の諸問題(1)			発達心理学の研究における教育場面への対応においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)			
7	発達心理学研究の諸問題(2)			発達心理学の研究における教育場面への対応においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)			
8	先行研究や文献の利用(1)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)			
9	先行研究や文献の利用(2)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)			
10	先行研究や文献の利用(3)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)			
11	課題発表会に向けての準備			主として発達心理学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)			
12	課題発表会(1)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)			
13	課題発表会(2)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)			
14	課題発表会(3)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)			
15	まとめ			1年間の振り返りを行います。				振り返りのための資料を準備する。(1時間)			
テキスト				成績評価の方法・基準							
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。				課題:50% レポート:50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の授業で学んだことを表現できる。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
特になし。				演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日3限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
3年次の教職研究ゼミナールから4年次の卒業論文作成までを見通した、研究の基礎を学ぶゼミナールです。心理学的知見や教員の実践知を基盤として、学級経営や特別活動、生徒指導、教育相談等の分野の論文や実践を読むことで、学校における人間関係づくりや学級集団づくりの大切さを理解します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、学級経営や生徒指導の研究を学ぶことで、学校教育の両輪といわれる教科指導と生徒指導の大切さを学びます。併せて自分の興味関心のある研究分野を模索し、論文の書き方についても理解することを目指します。											
授業の進め方											
主として一般的な学校場面での生徒指導上の課題（いじめ・不登校等）に関する研究や実践をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるかを考察・議論します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。				事前にシラバスを熟読し、興味の研究分野について考える。事後は資料をまとめる（1時間）			
2	学級経営の基礎的研究について①			学級経営や生徒指導上の今日的課題を資料等から理解し、その分野の研究を知って、全員で討議する。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
3	学級経営の基礎的研究について②			現在、学級経営や学級集団づくりの研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
4	学級経営の基礎的研究について③			集団づくりと学級経営のあり方、子供たちの人間関係の今日的な課題について論文をもと議論して、自分の考えを深める。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
5	生徒指導の基礎的研究について①			生徒指導上の実態を資料から読み解き、どのような研究が行われているかをして議論する。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
6	生徒指導の基礎的研究について②			生徒指導上の課題を研究テーマから検索して、興味ある内容を精査する。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
7	特別活動の基礎的研究について			特別活動と学級経営、生徒指導などの関係を議論によって深め、どのような研究が行われているかを理解する。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
8	教育相談の基礎的研究について			教育相談と学級経営、生徒指導などの関係を議論によって深め、どのような研究が行われているかを理解する。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
9	構成的グループエンカウンターと人間関係づくり			構成的グループエンカウンター（SGE）について資料から議論し、体験（グループワーク）によって理解を深める。				SGEの先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
10	対人関係ゲームと人間関係づくり			対人関係ゲーム（SIG）について資料から議論し、体験（グループワーク）によって理解を深める。				SIG先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
11	論文検索の方法			論文の検索方法を知り、自分の興味関心のある分野の論文を実際に入手する。				論文以外の文献等について調べる。事後は入手した論文を要約する。（1時間）			
12	先行研究や文献の利用			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味関心と課題意識を明確にします。				発表資料を用意する。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
13	課題発表会①			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
14	課題発表会②			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
15	まとめ			1年間の振り返りを行います。				振り返りのための資料を準備する。（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。				課題：50% レポート：50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み授業で学んだことを表現できる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特になし。				演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-03
担当者	増田 吉史			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
<p>これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は算数科教育と学級経営の関係を考えしていきます。特に学級は児童が一日の大半を過ごす場であり、よい学級の中でこそ教科指導の効果が上がります。児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察しながら、論理的思考力や批判的思考力を高めながらプレゼンテーション力を身につけていきます。</p>											
学修到達目標											
<p>学生自らが主体的に学校経営や教科指導の質を考察し、現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をしていき、自信をもって子どもや保護者に接することができ、子どもの身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求め、自らの考えをまとめることができる。</p>											
授業の進め方											
<p>これまでの算数科関連の授業を振り返り、さらに問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者たちに適切な対応できる力を育成するための研究の方向性を考察・検討していきます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教科指導と学級経営のあり方の具体例について	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案のあり方を考察・検討していきます。					シラバスをよく読んで、自分なりの考えをまとめておきます。(1時間)				
2	教科指導と学級経営のあり方の具体例について	学級教育目標設定の手順の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					シラバスをよく読んで、自分なりの考えをまとめておきます。(1時間)				
3	教科指導と学級経営のあり方の具体例について	学級目標、学級経営方針、学級の実態把握の実際に触れ、学級経営案の作成の手順の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					シラバスをよく読んで、自分なりの考えをまとめておきます。(1時間)				
4	教科指導と学級経営のあり方を模擬体験します	教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導のあり方など、学級経営の計画作成の手順の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					他者の考えなどに触れ、自分の考えの修正をしていきます。(1時間)				
5	教科指導と学級経営のあり方を模擬体験します	生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携など、学級経営の計画作成の手順の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					他者の考えなどに触れ、自分の考えの修正をしていきます。(1時間)				
6	教科指導と学級経営のあり方を模擬体験します	学級事務の処理、学級経営の評価など、学級経営の計画作成の手順の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					他者の考えなどに触れ、自分の考えの修正をしていきます。(1時間)				
7	教科指導と学級経営のあり方を模擬体験します	各種表簿、観察を通じて、児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る学級経営の計画作成の手順の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					自分の考えを次第に文章にまとめてみます。(1時間)				
8	教科指導と学級経営のあり方の課題をつかみます	学力の特徴や傾向、得意教科や不得意教科、つまづきなど実態の把握方法の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					自分の考えを次第に文章にまとめてみます。(1時間)				
9	教科指導と学級経営のあり方の課題をつかみます	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動をよりよい環境構成の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					自分の考えを次第に文章にまとめてみます。(1時間)				
10	教科指導と学級経営のあり方の課題をつかみます	学習評価、譜表簿作成などの事務処理の実際の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					自分の考えを次第に文章にまとめてみます。(1時間)				
11	教科指導と学級経営のあり方の課題をつかみます	学級経営に関する保護者への通知、学級だよりや懇談会等での連携の方法の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					自分の文章に対する相互評価をしてもらい、修正していきます。(1時間)				
12	課題発表に備えます	学級の実態のとらえ方の例をもとに具体的に考察・検討していきます。					自分の文章に対する相互評価をしてもらい、修正していきます。(1時間)				
13	課題発表に備えます	学級集団の特性や傾向をつかむ具体的に考察・検討していきます。					自分の文章に対する相互評価をしてもらい、修正していきます。(1時間)				
14	課題発表に備えます	家庭及び地域の様子の把握する具体的に考察・検討していきます。					自分の文章に対する相互評価をしてもらい、修正していきます。(1時間)				
15	まとめます	振り返りとまとめをします					次の研究ステップへの展望を持ちます。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
<p>「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省著（東洋館出版）（生協で購入してください。）学習指導要領改定時には連絡します。新解説に買い変えてもらいます。</p>						<p>課題：50% レポート：50% S:学生自ら高度な研究課題を設定し、研究計画をたて、高度な研究構想図を作り、計画的にまとめていき、質の高いプレゼンができる。A:学生自ら研究課題を設定し、研究計画をたて、研究構想図を作り、計画的にまとめ、プレゼンを実施できる。B:学生自ら助言を受けながら研究課題を設定し、研究計画をたて、研究構想図を作り、計画的にまとめ、プレゼンを実施できる。C:学生自ら多くのヒントを受けながら研究課題を設定し、研究計画をたて、まとめたり、支援を受けながらプレゼンできる。</p>					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
必要に応じて提示します。						演習形式の授業です。自分の意見を持つと共に質疑もしっかりと、積極的な姿勢を持って授業に参加してください。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-13
担当者	今泉 博			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
これまで教育について学んできたことを基に、これから卒業論文作成まで行われる専門ゼミナールの基礎になるだいなゼミナールです。内容は、教育学、とりわけ学校教育の重要な課題となっている授業や生活指導(「いじめ」や不登校)等関係の論文を読むことで論理的思考や批判的思考力を鍛え、プレゼンテーション能力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、教育学および授業論や生活指導論などを学ぶことで、現場での困難に対応でき、充実した教員生活を送ることができるような知識を獲得している。											
授業の進め方											
学校現場での教育、子どもの実態等から、授業や生活指導等に関する研究テーマを見つけて研究に取り組みます。各自が取り組んだ課題を発表・討議します。論文などから、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるかも学びながら考察・討議をします。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを読んでくる。自分の興味にあった研究について考える。(1時間)				
2	教育学の基礎的研究について(1)	現在、一般的な教育学の研究がどのように行われているかを考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理する。(1時間)				
3	教育学の基礎的研究について(2)	現在、一般的な教育学研究がどのように行われているかを考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理する。(1時間)				
4	教育現場における教育学の研究について(1)	教育学の研究が教育現場でどのような形でかかわっているかについて考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理する。(1時間)				
5	教育現場における教育学の研究について(2)	教育学の研究が教育現場でどのような形でかかわっているかについて考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理する。(1時間)				
6	教育学研究の諸問題(1)	教育学の研究における教育現場への対応においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理する。(1時間)				
7	教育学研究の諸問題(2)	教育学の研究における教育現場への対応においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理する。(1時間)				
8	先行研究や文献の利用(1)	先行研究や文献を読み、まとめることで自分の興味・関心を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
9	先行研究や文献の利用(2)	先行研究や文献を読み、まとめることで自分の興味・関心を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
10	先行研究や文献の利用(3)	先行研究や文献を読み、まとめることで自分の興味・関心を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
11	課題発表会に向けての準備	主として教育学に関する研究テーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
12	課題発表会(1)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
13	課題発表会(2)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
14	課題発表会(3)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
15	まとめ	1年間のふり返しを行います。					ふり返りのための資料を準備する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
内容に応じた必要資料を配付します。なお、資料は必ず保管しておいてください。						課題：50% レポート：50% S:到達目標を達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現する。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現する。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現する。C:到達目標を理解して課題に取り組み、各回の授業で学んだことを表現する。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、教育心理学、認知心理学、社会心理学の論文を読むことで「科学的心理学に基づく学校教育の諸現象の解明」のための論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、教育心理学および認知心理学の研究を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を修得している。											
授業の進め方											
学校教育に関わるさまざまな現象に関する科学的な研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるか等を考察・討議します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。				事前にシラバスを読んでくる。自分の興味にあった研究について考える。（1時間）			
2	科学的心理学の基礎的研究について(1)			現在、科学的な心理学の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
3	科学的心理学の基礎的研究について(2)			現在、科学的な心理学の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
4	学校教育場面における心理学の研究について(1)			科学的な心理学の研究が学校教育場面にどのような形でかかわっているかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
5	学校教育場面における心理学の研究について(2)			科学的な心理学の研究が学校教育場面にどのような形でかかわっているかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
6	科学的心理学研究の諸問題(1)			心理学の研究における科学的方法においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
7	科学的心理学研究の諸問題(2)			心理学の研究における科学的方法においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
8	先行研究や文献の利用(1)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
9	先行研究や文献の利用(2)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
10	先行研究や文献の利用(3)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
11	課題発表会に向けての準備			主として教育心理学・認知心理学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
12	課題発表会(1)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
13	課題発表会(2)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
14	課題発表会(3)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
15	まとめ			1年間の振り返りを各ゼミで行います。				振り返りのための資料を準備する。（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
「ブラウザでできる基礎・認知心理学実験演習」水野りか、松井孝雄著（ナカニシヤ出版） ISBN:978-4779508523（生協で購入してください。） 「あなたの勉強法はどこがいけないのか？」西林克彦著（ちくまプリマー新書） ISBN:978-4480688064（生協で購入してください。）				課題：50% レポート：50% S：到達目標達成のために探究心をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A：到達目標達成のために課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容を理解して、正しく文章で表現することができる。B：到達目標達成のために課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容を概ね理解して、正しく文章で表現することができる。C：到達目標達成のために課題に取り組み、各回の授業内容を最低限理解して、文章で表現することができる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
「まんがと図解でわかる統計学」向後千春著（宝島社） 「データはウソをつく」谷岡一郎著（ちくまプリマー新書）				演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-12
担当者	小島 哲也			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	水曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を元に、2年次後期から卒業論文作成まで指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎段階のゼミナールです。障害児・者の心理や指導法（社会的スキル訓練、補助代替コミュニケーション、応用行動分析学など）の分野の資料や論文を読むことで、興味関心のある研究テーマを見つけることを目標とします。また、論理的思考力とプレゼンテーション能力を身につけることも目標とします。											
学修到達目標											
①教員に求められる一般的な知識と能力、教育への理念や理想をもっている。②特別支援教育とその関連領域の研究知見について学び、豊かな教育実践を行うために必要な知識を習得している。											
授業の進め方											
各自が取り組んだ課題を発表・討議します。また、指導教員による論文の紹介もします。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と内容、事前事後学修の方法について解説します。					自分の履修（学習）計画を作成する。また、授業ノートをまとめ次回講義の下調べをする（1時間）				
2	障害児の心理・指導法に関する研究①	社会的スキル訓練（SST）の概要と研究内容について解説します。					授業ノートをまとめ次回の下調べをする（1時間）				
3	障害児の心理・指導法に関する研究②	補助代替コミュニケーション（AAC）の概要と研究内容について解説します。					授業ノートをまとめ次回の下調べをする（1時間）				
4	障害児の心理・指導法に関する研究③	応用行動分析（ABA）の概要と研究内容について解説します。					授業ノートをまとめ次回の下調べをする（1時間）				
5	障害児の心理・指導法に関する研究④	心理・指導法に関わる上記以外の研究について解説します。					授業ノートをまとめ次回の下調べをする（1時間）				
6	中間まとめ	これまでの授業内容を振り返り補足と質疑応答を行います。					授業ノートをまとめ次回の下調べをする（1時間）				
7	文献購読①	先行研究の資料文献を読み、レポート発表します（Aグループ）					授業ノートをまとめ発表準備をする（1時間）				
8	文献購読②	先行研究の資料文献を読み、レポート発表します（Bグループ）					授業ノートをまとめ発表準備をする（1時間）				
9	文献購読③	先行研究の資料文献を読み、レポート発表します（Cグループ）					授業ノートをまとめ発表準備をする（1時間）				
10	文献購読④	先行研究の資料文献を読み、レポート発表します（合同）					授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
11	課題発表会に向けて	プレゼンテーション形式の発表と討論の方法、準備内容について解説します。					授業ノートをまとめ課題発表会に向けた準備をする（1時間）				
12	課題発表会1	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形式で発表し、その内容について討論をします。（Aグループ）					発表資料を準備してくる。授業後は討論内容を整理する（1時間）				
13	課題発表会2	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形式で発表し、その内容について討論をします。（Bグループ）					発表資料を準備してくる。授業後は討論内容を整理する（1時間）				
14	課題発表会3	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形式で発表し、その内容について討論をします。（Cグループ）					発表資料を準備してくる。授業後は討論内容を整理する（1時間）				
15	まとめ	1年間の振り返り					振り返りのための資料を準備する（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
特になし						受講態度：20% レポート：40% 課題発表：40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。B：授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。C：授業内容のある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
授業中に適宜案内、配布する。						授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる基礎部分のゼミナールです。特別な支援が必要な方々が、地域で生き生きと暮らす上で余暇・健康・教育・福祉に関する文献を読みます。「障がいとは何か」「インクルージョン社会」について考えることを通して、論理的思考やプレゼンテーション能力を身につけます。											
学修到達目標											
特別支援教育の専門的な学修を通して、教育に対する理念と教員としての理想を持つことができる。また、人々の多様なあり方を認める共生社会とインクルーティブ教育について理解をし、教員としての資質を身につけている。											
授業の進め方											
特別支援学校で出会う子どもたちの健康・余暇・スポーツ支援に関する分野を研究テーマとして課題に取り組みます。資料・論文を読み深め、課題を明確にして取り組み、考察・ディスカッションを通して理解を深めます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			授業のねらい、進め方などについて説明します。卒業研究までの見通しをもって取り組めるように、学修イメージを持てるように計画します。				シラバスを読んでくる。自分の興味のあるテーマについて考える。(1時間)			
2	特別な支援の必要な子どもたちの医療・福祉・教育について(1)			医療・福祉・教育の在り方と地域での豊かな暮らしについて資料・文献を通じて学びます。				文献・資料をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
3	特別な支援の必要な子どもたちの医療・福祉・教育について(2)			特別支援を必要としている方々の余暇と健康、教育・福祉についての文献を読みます。				先行研究や文献をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
4	特別な支援の必要な子どもたちの心身の健康づくりに関して(1)			特別支援を必要としている方々の余暇と健康、教育・福祉についての文献を読みます。				事前にテーマに関する資料を読む。授業の資料について復習する。(1時間)			
5	特別な支援の必要な子どもたちの心身の健康づくりに関して(2)			特別支援を必要としている人々の余暇と健康、教育・福祉についての文献を読みます。				事前にテーマに関する資料を読む。授業の資料について復習する。(1時間)			
6	先行研究と文献検索(1)			先行研究や文献を読み、自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
7	先行研究と文献検索(2)			先行研究や文献を読み、自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
8	先行研究と文献検索(3)			先行研究や文献を読み、自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
9	課題の明確化(1)			今までの文献・資料などから、取り組むテーマを明らかにします。				先行研究や文献をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
10	課題の明確化(2)			今までの文献・資料などから、取り組むテーマを明らかにします。				先行研究や文献をよく読む。自分の研究課題をまとめておく。(1時間)			
11	課題発表に向けての準備			特別支援教育における、個々の子どもに適した余暇と健康、教育、福祉に関する分野から研究をテーマを設定して発表準備を行います。				発表準備を行う。課題発表の見直しと修正。(1時間)			
12	課題発表(1)			これまで取り組んできたテーマについての知識をプレゼンテーションの形で発表します。また、発表内容について意見交換を行います。				発表の準備をする。意見交換の内容をまとめる。(1時間)			
13	課題発表(2)			これまで取り組んできたテーマについての知識をプレゼンテーションの形で発表します。また、発表内容について意見交換を行います。				発表の準備をする。意見交換の内容をまとめる。(1時間)			
14	課題発表(3)			これまで取り組んできたテーマについての知識をプレゼンテーションの形で発表します。また、発表内容について意見交換を行います。				発表の準備をする。意見交換の内容をまとめる。(1時間)			
15	まとめ			1年間の振り返りを行い、多様な在り方を認め合える共生社会について考察します。				振り返りの資料を作成する。(1時間)			
テキスト					成績評価の方法・基準						
適宜資料を配布します。					課題:50% レポート:50% S:授業の内容をすべて理解し、到達目標達成のために探求姿勢を持って意欲的に取り組み、表現できる。A:授業の内容を理解し、積極的に課題に取り組み発表できる。B:授業の内容をおおよそ理解し、課題に取り組み発表できる。C:授業の内容を60%理解している。課題をすべて行っている。						
参考書					履修上の注意(学生へのメッセージ)						
授業時に紹介します。					関連図書を読むなど意欲的に取り組んで下さい。また、ディスカッションにも積極的に参加してください。						

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-15
担当者	羽田 行男			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
専門ゼミナールの基礎を成すのがこのゼミナールで、担当教官のもとで、2年次後期から卒業論文作成まで一貫した指導を受けます。内容としては、教育方法、教育相談、発達心理学などをテーマにしたテキストを読むことをとおして、臨床心理学の視点から一人ひとりの子に合った教育の方法について学びます。論理的思考力や批判的思考力を身につけるとともに、プレゼンテーション力も養います。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、教育への理念や理想をもち、教育方法や教育相談に関する専門的なテキストを輪読・発表することをとおして、小学校教員としての基礎的な素養を身につけている。											
授業の進め方											
毎回、全員がテキストを下読みし、レジュメを準備します。担当者(輪番)の内容発表を受けて、全員で考察しながら、意見を出し合います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいを理解する。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
2	授業実践記録を読む(1)	授業実践記録を読み、教育方法に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
3	授業実践記録を読む(2)	授業実践記録を読み、教育方法に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
4	授業実践記録を読む(3)	授業実践記録を読み、教育方法に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
5	授業実践記録を読む(4)	授業実践記録を読み、教育方法に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
6	授業実践記録を読む(5)	授業実践記録を読み、教育方法に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
7	子育て・親育ちのテキストを読む(1)	子育て・親育ちのテキストを読み、発達心理学に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
8	子育て・親育ちのテキストを読む(2)	子育て・親育ちのテキストを読み、発達心理学に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
9	子育て・親育ちのテキストを読む(3)	子育て・親育ちのテキストを読み、発達心理学に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
10	子育て・親育ちのテキストを読む(4)	子育て・親育ちのテキストを読み、発達心理学に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
11	教育相談事例を読む(1)	教育相談の事例を読み、教育相談に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
12	教育相談事例を読む(2)	教育相談の事例を読み、教育相談に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
13	教育相談事例を読む(3)	教育相談の事例を読み、教育相談に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
14	教育相談事例を読む(4)	教育相談の事例を読み、教育相談に関する興味関心を深める。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
15	まとめ	基礎ゼミで学んだ内容を総括します。					テキストのレジュメを作成する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「心の進化をさぐる」松沢哲郎著(NHKシリーズ) ISBN:978-4149109794 (生協で購入してください。) その他、適宜授業のなかで配布します。						レポート:50% 課題:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「こどもへのまなざし」佐々木正美著(福音館) その他、適宜紹介します。						演習形式の授業が多くなるので、共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
<p>これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナール基礎部分のゼミナールです。内容は、Educational Administration(教育の組織運営、学校経営、教育行政)に関する学問研究の論文を読むことで、「地域に開かれた学校づくり」や「地域にねざした学校づくり」を考えることを通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることをめざします。</p>											
学修到達目標											
<p>教員として一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、教育の組織運営に関する学問研究を学ぶことで、専門と結びついた学修と研究を通して、豊かな教員生活を送るための知識を得ていること。</p>											
授業の進め方											
<p>主として、一般的な開かれた学校づくりや地域にねざした学校づくりに関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるか等を考察・討議します。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを読んでくる。自分の興味にあった研究について考える。(1時間)				
2	教育の組織運営の基礎的研究について(1)	現在、教育の組織運営の研究が、どのように行われているのかを考察・討議します。					テーマについて、自分なりに事前学習を進める。授業後は、問題の視点を整理しておく。(1時間)				
3	教育の組織運営の基礎的研究について(2)	現在、教育の組織運営の研究が、どのように行われているのかを考察・討議します。					テーマについて、自分なりに事前学習を進める。授業後は、問題の視点を整理しておく。(1時間)				
4	教育の組織運営の研究について(1)	教育の組織運営の研究が教育場面に、どのような形でかかわっているのかについて考察・討議します。					テーマについて、自分なりに事前学習を進める。授業後は、問題の視点を整理しておく。(1時間)				
5	教育の組織運営の研究について(2)	教育の組織運営の研究が教育場面に、どのような形でかかわっているのかについて考察・討議します。					テーマについて、自分なりに事前学習を進める。授業後は、問題の視点を整理しておく。(1時間)				
6	学校の組織運営の研究の諸問題(1)	学校の組織運営の研究における教育場面への対応において、どのようなことが問題になっているのかを考察・分析します。					テーマについて、自分なりに事前学習を進める。授業後は、問題の視点を整理しておく。(1時間)				
7	学校の組織運営の研究の諸問題(2)	学校の組織運営の研究における教育場面への対応において、どのようなことが問題になっているのかを考察・分析します。					テーマについて、自分なりに事前学習を進める。授業後は、問題の視点を整理しておく。(1時間)				
8	先行研究や文献の利用(1)	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表にいかす。(1時間)				
9	先行研究や文献の利用(2)	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表にいかす。(1時間)				
10	先行研究や文献の利用(3)	先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表にいかす。(1時間)				
11	課題発表に向けての準備	教育の組織運営に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
12	課題発表会(1)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
13	課題発表会(2)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
14	課題発表会(3)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。(1時間)				
15	まとめ	1年間の振り返りを行います。					振り返りのための資料を準備する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
必要資料を配布します。配布資料は、必ず保管しておいてください。						<p>課題：50% レポート：50%</p> <p>S:探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:課題に取り組み、各回の授業で学んだことを表現できる。</p>					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし。						演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業及び討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
北米の文化や社会に関連した論文や著書等を精読することによって、異文化理解を深めるとともに、様々な視点から考察して論理的思考力と批判的思考力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
北米の文化や社会の特徴を理解し、物事を多角的に捉え、多様性を理解し、異質な人々に対する寛容性の重要性を深く理解している。											
授業の進め方											
精読した論文または著書に対する概要を各自が発表し、それに対してディスカッションを行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業の進め方、今後の各自の研究テーマについて					各自研究テーマについて検討する。(1時間)				
2	アメリカに関する基礎的研究①	旧移民について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
3	アメリカに関する基礎的研究②	新移民について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
4	アメリカに関する基礎的研究③	日系移民について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
5	カナダに関する基礎的研究①	旧移民について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
6	カナダに関する基礎的研究②	新移民について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
7	カナダに関する基礎的研究③	日系移民について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
8	アメリカにおける人種問題に関する研究①	公民権運動について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
9	アメリカにおける人種問題に関する研究②	アファーマティブ・アクションについて					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
10	カナダにおける人種問題に関する研究①	多文化主義について					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
11	カナダにおける人種問題に関する研究②	マイノリティについて					テーマに関する事前学習。授業内容をまとめる。(1時間)				
12	先行研究の検索	自らのテーマに関連した先行研究の見つけ方について					自らのテーマを具体的にする。(1時間)				
13	課題の発表①	各自テーマについてプレゼンテーションする					発表の準備。(1時間)				
14	課題の発表②	各自テーマについてプレゼンテーションする					発表の準備。(1時間)				
15	まとめ	これまでのまとめと今後の課題について					これまでの学習内容のポイントをまとめる。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
テキストは指定しません。適宜、必要な資料を配布します。						レポート:50% 課題:50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み授業で学んだことを表現できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
適宜、授業中に紹介します。						問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。また、発表に関してはしっかりと準備をして臨んでください。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	木曜日3限、金曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学修を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、特別活動、生徒指導、道徳教育等の論文を読むことで「道徳教育から幼小連携・小中連携を考える」ことを通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、道徳教育の研究を学ぶことで、専門と結びついた学修と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を修得している。											
授業の進め方											
主として学校現場で大事に扱われている道徳教育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるか等を考察・討議します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。				事前にシラバスを読んでくる。自分の興味にあった研究について考える。（1時間）			
2	道徳教育の基礎的研究について(1)			現在、一般的な道徳教育の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
3	道徳教育の基礎的研究について(2)			現在、一般的な道徳教育の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
4	教育場面における道徳の授業研究について(1)			道徳の授業がどのような行われているかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
5	教育場面における道徳の授業研究について(2)			道徳の授業がどのように行われているかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
6	道徳教育研究の諸問題(1)			道徳教育の研究における教育場面への対応においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
7	道徳教育研究の諸問題(2)			道徳教育の研究における教育場面への対応においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
8	先行研究や文献の利用(1)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
9	先行研究や文献の利用(2)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
10	先行研究や文献の利用(3)			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
11	課題発表会に向けての準備			主として道徳教育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について、発表・討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
12	課題発表会(1)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
13	課題発表会(2)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
14	課題発表会(3)			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。（1時間）			
15	まとめ			1年間の振り返りを行います。				振り返りのための資料を準備する。（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。				課題：50% レポート：50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容をすべて理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み、各回の授業で学んだことを表現できる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
特になし。				演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員によって行われる専門ゼミナールの基礎部分です。教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、特に興味のある研究領域での論文を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送ることを目的とします。特に、内容のみならず研究方法を学ぶことを通じて、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。											
学修到達目標											
体育・スポーツの今日的課題の文献の精読を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究に取り組むことができる。											
授業の進め方											
各自、興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、文献の精読、対話を通して論理的思考や批判的思考を高め、プレゼンテーションで発表します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	各自、興味をもって取り組むことができる研究課題を検討					研究課題の検討(1時間)				
2	体育・スポーツにおける今日的課題	体育・スポーツにおける今日的課題について①					体育・スポーツにおける今日的課題についての理解(1時間)				
3	体育・スポーツにおける今日的課題	体育・スポーツにおける今日的課題について②					体育・スポーツにおける今日的課題についての理解(1時間)				
4	体育・スポーツにおける今日的課題	体育・スポーツにおける今日的課題について③					体育・スポーツにおける今日的課題についての理解(1時間)				
5	文献精読	文献精読①と対話					対話による思考の深まりのリフレクション(1時間)				
6	文献精読	文献精読②と対話					対話による思考の深まりのリフレクション(1時間)				
7	文献精読	文献精読③と対話					対話による思考の深まりのリフレクション(1時間)				
8	文献精読	文献精読④と対話					対話による思考の深まりのリフレクション(1時間)				
9	文献精読	文献精読⑤と対話					対話による思考の深まりのリフレクション(1時間)				
10	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成①					パワーポイントの操作習得(1時間)				
11	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成②					パワーポイントの操作習得(1時間)				
12	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成③					パワーポイントの操作習得(1時間)				
13	発表会	発表および内容の検討①					発表および内容の検討のリフレクション(1時間)				
14	発表会	発表および内容の検討②					発表および内容の検討のリフレクション(1時間)				
15	発表会	発表および内容の検討③・まとめ					発表および内容の検討のリフレクション(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「体育科教育の現在」日本体育科教育学会編(創文企画) ISBN:987-4-86413-020-2(生協で購入してください。)						課題:50% 受講態度:50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、優れた論文が書ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや優れた論文が書ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に合った論文が書ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に対し論文が書ける。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「新版 体育科教育学入門」高橋健夫他編(大修館書店) 「体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」高橋健夫著(明和出版)						論理的思考力や批判的思考力を身に付けるには、まず、「当たり前」だと思われることを疑ってみましょう。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、理科の教育実践に関わる論文を読むことで、論理的思考力や批判的思考力や、プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、理科教育が果たす役割について独自の哲学や理想をもって豊かな教員生活を送ることができるための知識や考え方を修得している。											
授業の進め方											
主として小学校理科の授業実践に関わる研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文の紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるのか等を加えて考察・討議します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを読み自分の興味を掘り起こし、事後に自分の研究について考えましょう(1時間)。				
2	理科教育における実践的研究の進め方(1)	現在、理科教育における実践的研究が一般的にどのように行われているのかについて考え、討議します。					事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
3	理科教育における実践的研究の進め方(2)	現在、理科教育における実践的研究が一般的にどのように行われているのかについて考え、討議します。					事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
4	理科の授業改善に関わる実践的研究(1)	理科教育における実践的研究が、日々の授業改善にどのように生かされているのかについて考え、討議します。					事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
5	理科の授業改善に関わる実践的研究(2)	理科教育における実践的研究が、日々の授業改善にどのように生かされているのかについて考え、討議します。					事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
6	理科教育の今日的課題(1)	理科教育における実践的研究において、どのようなことが今日的な課題となっているのかについて考え、討議します。					事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
7	理科教育の今日的課題(2)	理科教育における実践的研究において、どのようなことが今日的な課題となっているのかについて考え、討議します。					事前にテーマについて調べ、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
8	先行研究や文献の利用(1)	先行研究や文献を読み、まとめることで、自分の興味や関心の所在を明らかにしていきます。					事前に先行研究や文献を課題発表に生かし、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
9	先行研究や文献の利用(2)	先行研究や文献を読み、まとめることで、自分の興味や関心の所在を明らかにしていきます。					事前に先行研究や文献を課題発表に生かし、事後に問題の所在を整理しておく(1時間)。				
10	課題発表に向けての準備(1)	主として理科教育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について討議し、発表の準備をします。					事前に発表資料を試作し、事後に問題の所在を整理して修正しておく(1時間)。				
11	課題発表に向けての準備(2)	主として理科教育に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について討議し、発表の準備をします。					事前に発表資料を試作し、事後に問題の所在を整理して修正しておく(1時間)。				
12	課題発表(1)	これまで取り組んできたテーマについてプレゼンテーション形式で発表し、それぞれについて集団で討議します。					事前に発表資料を完成し、授業後は討議内容を整理しておく(1時間)。				
13	課題発表(2)	これまで取り組んできたテーマについてプレゼンテーション形式で発表し、それぞれについて集団で討議します。					事前に発表資料を完成し、授業後は討議内容を整理しておく(1時間)。				
14	課題発表(3)	これまで取り組んできたテーマについてプレゼンテーション形式で発表し、それぞれについて集団で討議します。					事前に発表資料を完成し、授業後は討議内容を整理しておく(1時間)。				
15	まとめ	1年間のゼミナール活動について振り返り、本年度の改善点や次年度への見通しについて考えます。					事前に振り返りのための資料を準備し、事後に討議内容を整理しておく(1時間)。				
テキスト						成績評価の方法・基準					
各回、各自に内容に応じた資料を配布します。						レポート：40% 課題：40% 受講態度：20% S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
特になし。						演習形式での授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、水曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
授業実践報告会や中間発表会、ゼミ卒論発表会、地域の授業実践及び協議会、社会科見学等に参加することで社会科授業づくりを学びます。さらに、社会科授業において大切な中心発問づくりを学びます。											
学修到達目標											
様々な授業研究協議会等に参加し、授業内容や目的を理解できる。また、社会科授業における中心発問を設定できる。											
授業の進め方											
指導案作成は単学年でのゼミ形式で行います。指導案分析等を3学年と共に行い、ゼミの発表会や地域授業・社会見学等では3・4学年と共に行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教職研究基礎ゼミナール概要	本授業の目的及び授業の流れを確認します。					見通しを立て研究を進めるために、2年次後半の計画を作成すること。(1時間)				
2	ゼミ中間発表会	中間発表会に参加し、3・4年生の取組について学びます。					発表から、自己の研究に役立ちそうなことをまとめる。(1時間)				
3	授業実践報告(1)	実践した授業についての報告検討会に参加します。					実践報告に対し述べられた意見をまとめ、自己の研究に活かせるようにする。(1時間)				
4	授業実践報告(2)	実践した授業についての報告検討会に参加します。					実践報告に対し述べられた意見をまとめ、自己の研究に活かせるようにする。(1時間)				
5	地域授業実践研究	地域で行われる社会科授業の見学及び検討会参加を行います。					授業記録や研究協議会での発言内容を振り返り、まとめること。(1時間)				
6	地域教材研究(1)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を培います。					見学に対する事前の調査や、質問等を考えておくこと。(1時間)				
7	地域教材研究(2)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を培います。					見学で学んだことをまとめておくこと。(1時間)				
8	指導案分析(1)	作成した指導案について、導入の妥当性について検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
9	指導案分析(2)	作成した指導案について、展開がアクティブ・ラーニングの視点に当てているかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
10	指導案分析(3)	作成した指導案について、省察が適切に行われているかどうかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
11	指導案分析(4)	各々の指導案に沿った模擬授業及び研究協議会を行います。					作成した指導案にて模擬授業ができるようにすること。(1時間)				
12	指導案作成基礎(1)	3・4学年社会科指導案の中心発問までを作成・検討します。					指摘された内容について、再考し、指導案の修正を行うこと。(1時間)				
13	指導案作成基礎(2)	5学年社会科指導案の中心発問までを作成・検討します。					指摘された点について、再検討すること。(1時間)				
14	指導案作成基礎(3)	6学年社会科指導案の中心発問までを作成・検討します。					指摘された点について、再検討すること。(1時間)				
15	ゼミ卒論発表会参加	ゼミの卒業論文発表会及び研究協議会に参加します。					発表会の内容より、自己の研究の方向性をまとめる。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
なし。						課題:100% S:研究協議会等へ主体的に参加し、かつ、児童の主体的な学びを引き出す社会科授業の中心発問を作成することができる。A:研究協議会等へ主体的に参加し、かつ、一般的な学習課題を想定した社会科授業の中心発問を作成することができる。B:研究協議会へ参加し、かつ、一般的な学習課題を想定した社会科授業の中心発問を作成することができる。C:研究協議会へ参加し、かつ、発問を設定できる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
なし。						地域へ出たの見学等については、見学先の都合により予定が前後することがあります。また、一部を巡検とし、集中で行います。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、文学教材を読み、その考察を論理的に述べ発信していくことです。演習や発表を通して、論理的思考力や表現力、批判的思考力を身につけることをめざします。											
学修到達目標											
1 卒業論文作成までの見通しを持っている。2 教員としての一般的な知識や能力を身につけ、論理的思考力や表現力を修得している。3 国内外の文学作品の描写の読み方の基本を身につけている。4 専門と結びついた学習と研究を通して、豊かな教員生活を送るための基礎的な知識を修得している。											
授業の進め方											
講義、演習、発表、討議が中心です。文学的文章を読んでその考察をわかりやすく論述・口頭発表します。各自が取り組んだ課題について発表し、討議します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	授業ガイダンス	資料の作り方を知り、講義全体の見通しを持ちます。指導者の提示した文学作品を用いて読み方、まとめ方の基本を学びます。					シラバスを読む。読み方の基本をまとめ、指定範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
2	世界の文学(1)	指定された作品を読み進め、各自の読みを互いに検討し合っ、それぞれが考察を持ち、論述します。					読み方の基本をまとめ、指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
3	世界の文学(2)	指定された作品を読み進め、各自の読みを互いに検討し合っ、それぞれが考察を持ち、論述します。					テキストを読み進める。指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
4	世界の文学(3)	指定された作品を読み進め、各自の読みを互いに検討し合っ、それぞれが考察を持ち、論述します。					テキストを読み進める。指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
5	世界の文学(4)	指定された作品を読み進め、各自の読みを互いに検討し合っ、それぞれが考察を持ち、論述します。					テキストを読み進める。指定された範囲から引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
6	世界の文学(5)	作品を読み進め、各自の読みを互いに検討し合っ、それぞれが考察を持ち、論述します。近代文学研究について観点を学びます。					テキストを読み進める。世界の文学に対する考察をまとめる。(1時間)				
7	世界の文学(6)	作品を読み進め、各自の読みを互いに検討し合っ、それぞれが考察を持ち、論述します。近代文学研究について観点を学びます。					テキストを読み進める。世界の文学に対する考察をまとめる。(1時間)				
8	日本の文学(1)	日本の近代文学の特徴や背景を知り、作家に対するさまざまな見方を知り、研究する作家を決める観点を学びます。					資料を読み、学んだ観点にしたがって引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
9	日本の文学(2)	研究対象としていく作家を決める観点を持ち作家を決定します。					資料を読み、学んだ観点にしたがって引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
10	日本の文学(3)	研究対象としていく作家を決める観点を持ち、読み進めた結果を報告し合います。					資料を読み、学んだ観点にしたがって引用し、考察を記述し持参する。(1時間)				
11	日本の文学(4)	研究対象としていく作家を決め、読みを踏まえて報告し合います。全体で討議します。					代表的な作品を読み進め引用し考察を記述する。(1時間)				
12	日本の文学(5)	研究対象としていく作家を決め、読みを踏まえて報告し合います。全体で討議します。					作家の文体分析を進め引用し考察を書く。(1時間)				
13	日本の文学(6)	研究する作家の描写の読みを考察し、報告し合います。全体で討議します。					発表に向けて準備をする。(1時間)				
14	日本の文学(7)	決定した作家について自分の分析を発表し、互いに学び合います。					発表に向けて準備をする。(1時間)				
15	日本の文学(8)・総括	決定した作家について自分の分析を発表し、互いに学び合います。					発表を受けてまとめる。3年次に向けて見通しを持つ。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「理科系の作文技術」木下是雄著(中央公論社) ISBN:4121006240(生協で購入してください。) 「父と子」ツルゲーネフ・工藤精一郎訳著(新潮社) ISBN:978-4-10-201806-4 c0197(生協で購入してください。) 「ボバリー夫人」フローベール・吉川泰久訳著(新潮社) ISBN:978410208502-8(生協で購入してください。) 「若きウェルテルの悩み」ゲーテ・高橋義孝訳著(新潮社) ISBN:978-4102015018(生協で購入してください。)他2冊あり。連絡します。						課題:70% 実技:20% レポート:10% S:基本的な概念や理論を正確に説明でき、適切に表現している。また高い意欲を示している。A:基本的な概念や理論をほぼ正確に説明でき、適切に表現している。B:基本的な概念や理論を一部説明できるものがあり、表現している。課題をすべて行っている。C:基本的な概念や理論を説明できるものがあり、表現している。課題をすべて行っている。欠席4回で単位を認定しません。遅刻・早退2回で1回の欠席となります。30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。欠席・遅刻は事前連絡必須です。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「ベスト」カミュ・宮崎嶺雄訳著(新潮文庫) 「坊っちゃん」夏目漱石著(新潮文庫) その他は、講義中に適宜紹介します。						実技とは課題を踏まえた明確な発表力のことです。授業の中で行う共同作業、及び発言に対する積極的な姿勢を期待します。担当教員の講演先等へ出かける学びを予定しています。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで理解した外国語教育に関する知識や理解をさらに深めながら、自分自身の興味関心のある分野を探し、その分野等についての論文を読み、批判的に考え、発表します。											
学修到達目標											
外国語教育に関する論文を読んでいくために必要な知識や理解を深めている。また批判的思考をしながら論文を読むことを通し、論文のポイントや外国語教育の理論について深く理解している。											
授業の進め方											
各自で読んだ論文を発表し、それらに対しコメントや質疑応答を行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	今後の研究に関して方向性を考え検討し、どのような研究を行っていくかを考える。					研究の方向性について興味関心のある分野を検討する。（1時間）				
2	第二言語獲得モデル	第二言語を獲得する理論について基本的な理解をする。					第二言語獲得のモデルを理解し、研究の在り方を考える。（1時間）				
3	第二言語獲得の認知的プロセス 1	第二言語獲得の認知的プロセスについての概要を理解する。					第二言語獲得の認知的プロセスの概要を理解し、研究の在り方を考える。（1時間）				
4	第二言語獲得の認知的プロセス 2	第二言語獲得の認知的プロセスのそれぞれの詳細部分について理解する。					第二言語獲得の認知的プロセスの詳細を理解し、研究の在り方を考える。（1時間）				
5	第二言語獲得の認知的プロセス 3	第二言語獲得の認知的プロセスのそれぞれの詳細部分について理解する。					第二言語獲得の認知的プロセスの詳細を理解し、研究の在り方を考える。（1時間）				
6	第二言語獲得の認知プロセスを活性化する英語指導法 1	第二言語獲得の認知的プロセスを活性化する英語指導法の在り方の概要について理解する。					実際の指導法の概要を理解し、研究の在り方を考える。（1時間）				
7	第二言語獲得の認知プロセスを活性化する英語指導法 2	第二言語獲得の認知的プロセスを活性化する英語指導法の在り方の詳細について理解する。					実際の指導法の詳細を理解し、研究の在り方を考える。（1時間）				
8	インプット重視の第二言語学習法・指導法 1	インプットを重視した第二言語学習法・指導法の在り方の概要とインプットの役割について理解する。					インプットの役割とその指導法の概要を理解し、研究の在り方について考える。（1時間）				
9	インプット重視の第二言語学習法・指導法 2 ー英語学習用	インプット重視の第二言語学習法・指導法におけるインプットの特徴について理解する。					インプットあり方の特徴を理解し、研究の在り方について考える。（1時間）				
10	インプット重視の第二言語学習法・指導法 3 ー英語指導法	インプットを重視した英語指導法の概要について理解する。					インプット重視の指導法を理解し、研究の在り方について考える。（1時間）				
11	論文の読み方と発表の仕方	先行研究を読み、どのように読んでいくのか、またどのように発表していくのかを理解する。					先行研究を読み、プレゼンの仕方を理解し、プレゼン準備をする。（1時間）				
12	先行研究講読と発表 1	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをする。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。（1時間）				
13	先行研究講読と発表 2	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをする。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。（1時間）				
14	先行研究講読と発表 3	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをする。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。（1時間）				
15	先行研究講読と発表 4 まとめ	事前に読んだ先行研究について発表し、批判的観点からコメントをする。					事前に先行研究を読み、時間内に批判的コメントを含め発表できる準備をする。（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」村野井仁著（大修館書店） ISBN:978-4-469-24513-4（生協で購入してください。）						レポート：20% 課題：30% 定期試験：50% S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
特になし						原則、欠席は2回までです。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日4限、水曜日2限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
<p>これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後半から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分です。内容は音楽と人間の発達の関わり、音楽教育の歴史、学校教育における音楽科の意義を概観し、関連する文献を読むことで論理的思考力や批判的思考力と共に、プレゼンテーション能力を身に付けることを目指します。また校内、地域、小学校でのミニコンサートの企画、運営にも取り組みます。</p>											
学修到達目標											
<p>教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想を持ち、音楽と人間の発達の関わりや音楽教育に関する研究領域の論文を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を得ていること。</p>											
授業の進め方											
<p>音楽と人間の発達と関わりや音楽教育の歴史を概観しながら、今日の音楽教育が抱える諸問題について、各自が興味を持った課題を発表、討議します。先行研究の論文や文献資料を利用しながら各自が取り組む課題についてまとめ、発表します。</p>											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えを持ちます。					事前にシラバスを読み、自分の興味に合った研究課題について考える。(1時間)				
2	音楽と人間の発達の関わりについて	人間は生まれてからどのように音楽と関わりながら発達していくのかを文献、映像資料から考察、討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
3	音楽教育の歴史について	明治以降の学制に伴う音楽教育の歴史から今日の学校教育における音楽科への変遷を捉え、様々な課題について考察、討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
4	学習指導要領との関連について	昭和戦後の学習指導要領における音楽科の指導内容の変遷について考察、討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
5	幼小接続について	子どもの発達の連続性から音楽教育における幼小接続の問題について考察、討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
6	学校における音楽教育について	学校教育現場での音楽科の意義、また単独の授業だけではなく、総合的な活動や合科的な活動などの可能性について考察、討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
7	音楽教育の諸問題について	学校教育現場における音楽教育に関する諸問題について考察、討議します。					テーマについて自分なりに事前学習を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。(1時間)				
8	先行研究や文献の利用(1)	先行研究や文献資料を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
9	先行研究や文献の利用(2)	先行研究や文献資料を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
10	先行研究や文献の利用(3)	先行研究や文献資料を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。(1時間)				
11	課題発表会に向けての準備	音楽教育に関する研究テーマとして、各自が興味を持ち取り組んだ課題について発表、討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
12	課題発表会(1)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
13	課題発表会(2)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
14	課題発表会(3)	これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについて討議します。					発表資料を完成させてくる。授業後は討議内容を整理する。(1時間)				
15	まとめ	1年間の振り返りを各ゼミで行います。					振り返りのための資料を準備する。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
内容に応じた資料必要を配布します。なお、資料は必ず保管してください。						<p>課題：50% レポート：50%</p> <p>S:探求姿勢を持って課題に取り組み、積極的な討論と理解した内容を正しく文章表現できる。A:探求姿勢を持って課題に取り組み、討論を通して理解した内容を文章表現できる。B:探求姿勢を持って課題に取り組み、討論しながら概ね理解し文章表現できる。C:課題に取り組み理解したことをまとめることができる。</p>					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
特になし						演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、及び討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-04
担当者	佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日1限、月曜日2限、木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
これまでの学修を基礎として、2年後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われるゼミナールの基礎部分です。内容は、心理学や算数・数学教育に関わる論文を読むことで、「算数・数学教育の立場から児童を育てる」ことを求めていきます。特に指導上の問題点を明確にすることを中心に進めて、それらの改善案を議論していきます。その中で、論理的思考力、批判的思考力を身につけ、さらに、プレゼンテーション能力を身につけていくことを目指します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、教育への理念や理想をもち、心理学や算数・数学教育の研究を学ぶことで、専門と結び付いた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を獲得している。											
授業の進め方											
主として、教育活動の学校場面で出会う子どもたちの算数数学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・討議します。指導教員による論文紹介、現在の研究がどのような問題に取り組んでいるかなどを考察・討議していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。				事前にシラバスを読み質問を考えておく。自分の興味がある研究について見付ける。（1時間）			
2	算数・数学教育の基礎的研究について（1）			現在の一般的な算数・数学教育の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
3	算数・数学教育学の研究について（2）			現在の一般的な算数・数学教育学の研究がどのように行われているのかを考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
4	教育の場面における算数・数学教育学の研究について（1）			算数・数学教育学の研究が教育場面にどのような形で関わっているのかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
5	教育の場面における算数・数学教育学の研究について（2）			算数・数学教育学の研究が教育場面にどのような形で関わっているのかについて考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
6	算数・数学教育学の諸問題（1）			算数・数学教育学の研究が実際の教育場面においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
7	算数・数学教育学の諸問題（2）			算数・数学教育学の研究が実際の教育場面においてどのようなことが問題になっているか考察・討議します。				テーマについて自分なりに事前学修を進める。授業後は問題の視点を整理しておく。（1時間）			
8	先行研究や文献の利用（1）			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
9	先行研究や文献の利用（2）			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
10	先行研究や文献の利用（3）			先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしていきます。				先行研究や文献をよく読み、まとめておく。まとめた内容を課題発表に生かす。（1時間）			
11	課題発表に向けての準備			主として、算数・数学教育学に関する研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題について発表・討議します。				発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。（1時間）			
12	課題発表会（1）			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議をします。				発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。（1時間）			
13	課題発表会（2）			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議をします。				発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。（1時間）			
14	課題発表会（3）			これまで取り組んできたテーマについての知識を、プレゼンテーションの形で発表し、それについての討議をします。				発表資料を完成させてくる。授業後は、討議内容を整理する。（1時間）			
15	まとめ			1年間の振り返りを行います。				振り返りのための資料を準備する。（1時間）			
テキスト				成績評価の方法・基準							
担当教員が内容に応じた必要資料を配付します。尚、資料は必ず保管して下さい。また、必要に応じて購入する場合があります。				課題：20% レポート：80% S：授業内容を高度に理解する。また、クリティカルに物事を捉え、論理的に考えることができる。さらに、探究心をもち自ら課題を設定して取り組むことができる。A：授業内容を理解する。また、クリティカルに物事を捉え考えることができる。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。B：授業内容を概ね理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。C：授業内容を60%程度理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。							
参考書				履修上の注意（学生へのメッセージ）							
学習指導要領解説算数編 その他、参考図書は指示します。				ゼミ前のレポート作成が重要です。演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、及び討論への積極的な参加が望まれます。							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日5限、木曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
英語学を含めた言語学分野の知識を用いながら、様々な言語事象を観察しそれらを分析的に説明する方法を考えます。論文を批判的に読み、論理的に議論を組み立て、発表します。											
学修到達目標											
英語学を含む言語学分野の知識をもっており、当該分野の論文を批判的に読む方法を理解している。また、言語学的な理論を理解しており、論理的に議論を組み立て発表することができる。											
授業の進め方											
言語学分野の論文を読み、それらに対する考察や批判・反論を論理的に組み立て発表し議論します。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	このゼミナールの進め方や研究の方向性などについて理解します。					言語学分野について、自分の興味関心を掘り下げる。(1時間)				
2	言語学理論	言語学分野の全体像や研究の歴史を概観し、各理論とそれらの関係性を理解します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
3	統語論1	英語学分野の中でも統語論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
4	統語論2	英語学分野の中でも統語論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
5	統語論3	英語学分野の中でも統語論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
6	意味論1	英語学分野の中でも意味論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
7	意味論2	英語学分野の中でも意味論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
8	意味論3	英語学分野の中でも意味論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
9	語用論1	英語学分野の中でも語用論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
10	語用論2	英語学分野の中でも語用論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
11	語用論3	英語学分野の中でも語用論に焦点を当て、各理論やそれらの分析方法などを考察します。					事前に与えられた課題を読み、大まかな内容を理解しておく。(1時間)				
12	批判的に論文を読む1	事前に言語学分野の論文(テーマや細かな分野は問わない)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。					事前に論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
13	批判的に論文を読む2	事前に言語学分野の論文(テーマや細かな分野は問わない)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。					事前に論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
14	批判的に論文を読む3	事前に言語学分野の論文(テーマや細かな分野は問わない)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。					事前に論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
15	批判的に論文を読む4およびまとめ	事前に言語学分野の論文(テーマや細かな分野は問わない)もしくは与えられた論文を批判的に読み、その内容について発表し考察します。その上でテーマについて議論します。					事前に論文を探し読んでおく。また、内容や議論のポイントを整理しておく。(1時間)				
テキスト						成績評価の方法・基準					
「授業毎に指示します。」						レポート:30% 課題:30% 定期試験:40% S:授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについてご自身の知識を有する。 A:授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解している。 B:授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C:授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。					
参考書						履修上の注意(学生へのメッセージ)					
「特になし。」						全回出席を前提にゼミを進めます。前向きに取り組む姿勢が大切です。					

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-02
担当者	大藏 真由美			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学修を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。本ゼミでは、教育の歴史に関する知見を深めるとともに、文献検索や文献収集の方法、論文の読み方といった専門ゼミナールで必須となる研究をする上での基本的スキルについて身につけることをも目的としています。											
学修到達目標											
1. 文献検索の方法を知り、必要な文献を探すことができる。2. 収集の方法について理解し、興味あるテーマに関する文献(論文)を収集できる。3. 収集した論文を精読し、論文を読むということについて理解している。4. 教育の歴史に興味を持ち、考察を深めたいテーマを定めることができる。											
授業の進め方											
演習及び報告を中心に進めていきます。文献検索や文献収集については、図書館で実際に検索を行うなど、実際に体験しながら研究するために必要な基本的スキルを身につけていきます。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業内容及び授業の進め方の説明をします。					シラバスの熟読及び教育の歴史に関するこれまでの授業内容を復習する。(1時間)				
2	教育についての歴史	教育に関する事柄(主に教育の歴史について)で、各自がどのような内容に興味をもっているかを共有します。					教育の歴史に関するこれまでの授業内容を復習する。(1時間)				
3	教育に関する歴史遺産に触れる1	大学周辺の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる(1時間)。				
4	教育に関する歴史遺産に触れる2	松本市内の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる(1時間)。				
5	教育に関する歴史遺産に触れる3	松本市周辺の教育に関わる歴史遺産を見学します。					見学する歴史遺産について調べる(1時間)。				
6	文献検索の方法1	文献検索の基本的方法を学びます。					図書館で教育関連図書の配架場所確認と興味を持った書籍タイトルを5冊以上メモしてくる(1時間)。				
7	文献検索の方法2	専門的な文献の検索方法を学びます。					文献検索の基本的方法を復習し、確実にこなせるようにする(1時間)。				
8	文献検索の方法3	専門的な文献の収集方法を学びます。					専門的な文献の検索方法を復習し、確実にこなせるようにする(1時間)。				
9	文献検索の方法4	読書ノート、レジュメの書き方について学びます。					専門的な文献の収集方法を復習し、確実にこなせるようにする(1時間)。				
10	教育史の論文を読んでみよう1	小学校の成立に関する文献を担当者が報告し、検討します。					報告の準備及び練習(1時間)。				
11	教育史の論文を読んでみよう2	小学校の成立と地域とのかかわりに関する文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
12	教育史の論文を読んでみよう3	小学校成立期から普及期の小学校・教員と家庭・保護者との関係に関わる文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
13	教育史の論文を読んでみよう4	小学校成立期から普及期の小学生の生活に関わる文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
14	教育史の論文を読んでみよう5	小学校成立期から普及期の小学生の生活の変化に関わる文献を担当者が報告し、検討します。					前時に検討した内容のまとめ、報告の準備と練習(1時間)。				
15	まとめ	授業全体のまとめを行います。					これまでの授業の復習をする。(1時間)				
テキスト				成績評価の方法・基準							
使用しません。必要に応じて、資料を配布します。				受講態度：35% レポート：35% 課題：30% 受講態度(意欲、毎時間後の感想・質問)、レポート(授業内容の理解度や考察の深まりを知る為の授業内小レポートやワーク)、課題(期末課題)を総合して評価します。 <評価基準>S:正しく理解された授業内容に加え、資料やデータを活用しつつ、論理的に自分の考え、意見を述べている。A:授業内容を正しく理解し論理的に説明できる。B:授業で取り上げた事柄を理解し説明できる。C:授業内容で取り上げた事柄を理解している。							
参考書				履修上の注意(学生へのメッセージ)							
授業の進捗に合わせて、紹介していきます。				卒業論文作成に必要な基本的スキルを身につける授業であるので、積極的に受講して下さい。提出物は締め切り期限を厳守し必ず提出して下さい。							

科目名	教職研究基礎ゼミナール			学年学期	2年後期	単位数	1	ナンバリング	AL26073	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	火曜日3限、火曜日4限、水曜日4限、水曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまで学んできた教育全般にわたる基礎学習を基に、2年次後期から卒業論文作成まで、指導教員の下で行われる専門ゼミナールの基礎部分のゼミナールです。内容は、特別支援教育に関して、専門と結びついた学習と研究を通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけ、プレゼンテーション能力を身につけることを目指します。											
学修到達目標											
教員としての一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想を持ち、特別支援教育分野の研究を学ぶことで、専門と結びついた学習と研究を通して豊かな教員生活を送るための知識を得ていること。											
授業の進め方											
主として、発達障害や知的障害等の本人・当事者のニーズに応じた教育のあり方や特別支援教育に関わる研究をテーマとして、各自が取り組んだ課題を発表・検討します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	授業のねらいと2年間を見通したゼミナール活動について考え、卒業研究についての見通しと心構えをもちます。					事前にシラバスを読んでくる。事後に自分の関心のあるテーマについて考える。（2時間）				
2	文献検索の方法	関心のある領域やテーマの発表と文献検索方法などの確認を行います。					自分の関心のあるテーマについて考える。（1時間）				
3	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題①	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。（2時間）				
4	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題②	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。（2時間）				
5	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題③	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。（2時間）				
6	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題④	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。（2時間）				
7	本人・当事者の手記・文献等から探る諸課題⑤	発達障害等の本人・当事者の手記を購読し、困難やニーズの課題を考察・討議します。					指定された文献を読み、課題を考える。（2時間）				
8	先行研究や文献の利用①	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）				
9	先行研究や文献の利用②	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）				
10	先行研究や文献の利用③	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）				
11	先行研究や文献の利用④	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）				
12	先行研究や文献の利用⑤	関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで自己の興味を明らかにしてゆきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）				
13	課題発表会に向けての準備	主として発達障害・知的障害や特別支援教育に関する研究をテーマとして各自が取り組んだ課題について発表・討議します。					発表資料を作成してくる。事後に討議内容を資料に反映させる。（2時間）				
14	課題発表会	これまで取り組んできたテーマについての内容を、プレゼンテーションの形で発表します。					発表資料の作成と準備をしてくる。（3時間）				
15	まとめ	これまでの振り返りを行います。					事後に再度内容を確認する。（1時間）				
テキスト						成績評価の方法・基準					
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。						課題：50% レポート：50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、各回の授業内容を十分に理解して、正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことを理解し、正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、各回の授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標を理解して、課題に取り組み、各回の授業で学んだことを表現できる。					
参考書						履修上の注意（学生へのメッセージ）					
特になし。						演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。					

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-18
担当者	川島 一夫			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日3限、木曜日4限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、①発達心理学、生徒指導、臨床心理学領域における様々な研究に触れながら、②研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に①学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、②そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、理解している。その具体的な目標は①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解することができる。②ゼミナールの中での討論や講義を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけている。③プレゼンテーション能力を身につけている。④研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、それぞれの担当教員や外部講師が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を把握しておく。（4時間）			
2	専門入門(1)			興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。				事前に演習をうける先生の専門分野を予習し、演習後に、確認テストを実施します。（4時間）			
3	専門入門(2)			(1)同様に各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。				事前に演習をうける先生の専門分野を予習し、演習後に、確認テストを実施します。（4時間）			
4	専門入門(3)			(1)(2)同様に議論深めて自分の関心ある研究を見極めます。				事前に演習をうける先生の専門分野を予習し、演習後に、確認テストを実施します。（4時間）			
5	文献検索の方法(1)			図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）			
6	文献検索の方法(2)			図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。				各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（4時間）			
7	研究の方法(1)			質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（2時間）			
8	研究の方法(2)			フィールドワークとして学校現場などで子供や先生を観察してデータを集めて、分析検討する方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（2時間）			
9	研究の方法(3)			学校現場などで自分が実際に子どもとかかわりながら、参与観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（2時間）			
10	研究の方法(4)			これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（2時間）			
11	研究の方法(5)			一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（2時間）			
12	研究の方法(6)			卒業生（先輩等）が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（2時間）			
13	教育実習と卒業研究(1)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（2時間）			
14	教育実習と卒業研究(2)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（2時間）			
15	前期のまとめ			前期の習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。（2時間）			
16	後期のゼミガイダンス			夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（2時間）			
17	文献発表(1)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（2時間）			
18	文献発表(2)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（2時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(2時間)
20	文献発表(4)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(2時間)
21	文献発表(5)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(2時間)
22	文献発表(6)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(2時間)
23	文献発表(7)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(2時間)
24	研究テーマの決定(1)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(2時間)
25	研究テーマの決定(2)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(2時間)
26	研究テーマの決定(3)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(2時間)
27	研究テーマの決定(4)	問題と目的を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(2時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(2時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(2時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(2時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:観察・分析方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A:観察・分析方法をほぼ理解し、討論や課題、発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B:観察・分析方法をある程度理解し、討論や発表、課題に取り組む、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C:観察・分析方法を60%程度理解し、討論や発表、課題に取り組む、設定した卒業研究テーマに沿った準備を始めることができている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また卒業研究を視野に入れ、学級経営、生徒指導、特別活動等の領域における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎知識を学びます。最終的に学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解できる。その具体的な目標は①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解すること、②ゼミナールの中での討論や講読を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけること、③プレゼンテーション能力を身につけること、④研究のテーマを決定することです。											
授業の進め方											
前期は担当教員が専門分野の研究について概説し、同時に各自の関心のあるテーマの論文をレポートして、質疑応答による討論を行います。また後期は各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。					自分の履修状況を把握しておく。事後は研究についての概略をまとめる（1時間）				
2	専門入門①	興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。以下、各回では一人ひとりがレポート発表を行います。					事前にゼミ担当教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える（1時間）				
3	専門入門②	各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。					事前にゼミ担当教員の専門分野を予習し、演習後に、演習後の確認テストを実施します。（1時間）				
4	専門入門③	同様に議論深めて自分の関心ある研究を見極めます。					事前にゼミ担当教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後に小テストを実施します（1時間）				
5	文献検索の方法①	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。できるだけ自分で検索しておく（1時間）				
6	文献検索の方法②	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）				
7	研究の方法①	質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える（1時間）				
8	研究の方法②	フィールドワークとして学校現場などで子供や先生を観察してデータを集めて、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく（1時間）				
9	研究の方法③	学校現場などで自分が実際に子どもとかかわりながら、参与観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）				
10	研究の方法④	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
11	研究の方法⑤	一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
12	研究の方法⑥	卒業生（先輩等）が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
13	教育実習と卒業研究①	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
14	教育実習と卒業研究②	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。					夏休み中の研究推進予定を立てておく。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。					夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
17	文献発表①	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）				
18	文献発表②	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表③	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
20	文献発表④	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
21	文献発表⑤	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
22	文献発表⑥	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
23	文献発表⑦	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
24	研究テーマの決定①	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。特に「問題と目的」を明確にし、研究の計画を議論します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
25	研究テーマの決定②	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。特に「問題と目的」を明確にし、研究の計画を議論します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
26	研究テーマの決定③	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。特に「問題と目的」を明確にし、研究の計画を議論します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
27	研究テーマの決定④	問題と目的を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
28	卒論構想発表会①	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
29	卒論構想発表会②	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:観察方法、分析方法を正しく理解し、討論や発表に意欲的に取り組み、卒業研究テーマに沿った準備ができています。A:観察方法、分析方法をほぼ理解し、討論や発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。B:観察方法、分析方法をある程度理解し、討論や発表に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。C:観察方法、分析方法を60%程度理解し卒業研究テーマに沿った準備を始めることができています。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-03
担当者	増田 吉史			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日5限、木曜日1限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、子どもの集団作り、子どもの成長と算数科の授業との関連を考慮し、たとえば数概念の発達、子どもの成長と量概念の発達、子どもの成長と図形概念の発達など、学級経営法や、子どもにかかわること、小学校にかかわることと算数科の教材にかかわることなどをまとめていきます。											
学修到達目標											
学生自らが主体的に、学校や教育現場の現状や研究プロセスを知り、各自の興味・関心のある研究分野を焦点化し、問題や課題を見出す仕方、資料や文献などの情報収集、整理などの仕方、研究論文の読み方、研究論文の書き方などを修得している。											
授業の進め方											
研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、初等教育に関する教育研究として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探究していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	オリエンテーション			2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします				自分の履修状況を把握しておきます。（1時間）			
2	ゼミナールの意義と進め方について			興味ある分野の先行研究や文献を確保し、レポート作成に備えます。				演習を確認し予習し、演習後の確認テストに備えます。（1時間）			
3	ゼミナールの意義と進め方について			興味ある分野の先行研究や文献を確保し、レポート作成に備えます。				演習を確認し予習し、演習後の確認テストに備えます。（1時間）			
4	ゼミナールの意義と進め方について			研究主題を仮設定し、研究主題設定の理由を書き始めます。				演習後の確認テストに実施します。（1時間）			
5	各自の興味・関心に応じて、研究主題を設定する			研究主題を仮設定し、研究主題設定の理由を書き始めます。				研究計画や研究方法を確立していきます。（1時間）			
6	各自の興味・関心に応じて、研究主題を設定する			研究主題設定の理由を書き始めます。				研究計画や研究方法を確立していきます。（1時間）			
7	各自の興味・関心に応じて、研究主題を設定する			研究主題設定の理由を書き始めます。				研究計画や研究方法を確立していきます。（1時間）			
8	各自の興味・関心に応じて、研究主題を設定する			研究主題設定の理由の議論を開始します。				研究計画や研究方法を検証し修正していきます。（1時間）			
9	各自の興味・関心に応じて、研究主題を設定する			研究主題設定の理由の議論を開始します。				研究計画や研究方法を検証し修正していきます。（1時間）			
10	研究主題設定の理由を小論文形式で作成する			研究主題設定の理由をの議論を深めます。				研究主題設定の理由を何度も修正校正します。（1時間）			
11	研究主題設定の理由をゼミ形式で検証する			研究主題設定の理由の議論を深めます。				研究主題設定の理由を何度も修正校正します。（1時間）			
12	研究主題設定の理由をゼミ形式で検証する			研究主題設定の理由の議論を深めます。				研究主題設定の理由を何度も修正校正します。（1時間）			
13	研究主題設定の理由をゼミ形式で検証する			研究主題設定の理由の議論を深めます。				研究主題設定の理由を何度も修正校正します。（1時間）			
14	研究主題設定の理由をゼミ形式で検証する			教育実習やボランティア活動の経験を踏まえ、これまでの自分の興味関心を振り返り、研究内容を吟味し直します。				学校現場の教育活動や体験をまとめていきます。（1時間）			
15	研究主題設定の理由をゼミ形式で検証する			教育実習やボランティア活動の経験を踏まえ、これまでの自分の興味関心を振り返り、研究内容を吟味し直します。				学校現場の教育活動や体験をまとめていきます。（1時間）			
16	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する			教育実習やボランティア活動の経験を踏まえ、これまでの自分の興味関心を振り返り、研究内容を吟味し直します。				学校現場の教育活動や体験をまとめていきます。（1時間）			
17	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する			教育実習やボランティア活動の経験を踏まえ、これまでの自分の興味関心を振り返り、研究内容を吟味し直します。				学校現場の教育活動や体験をまとめていきます。（1時間）			
18	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する			再度研究主題や設定理由を書き直します。				研究主題設定の理由を再構築します。（1時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する	再度研究主題や設定理由を書き直します。	研究主題設定の理由を再構築します。（1時間）
20	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する	研究主題設定理由を議論し直します。	研究主題設定の理由を再構築します。（1時間）
21	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する	研究主題設定理由を議論し直します。	研究主題設定の理由を再構築します。（1時間）
22	研究主題と研究主題設定の理由を再構築する	研究主題設定理由を議論し直します。	研究主題設定の理由を再構築します。（1時間）
23	研究計画を作成する	研究計画を進め、研究内容を書き始めます。	研究内容の記述に入ります。（1時間）
24	研究計画を作成する	研究計画を進め、研究内容を書き始めます。	研究内容の記述に入ります。（1時間）
25	研究計画を作成する	研究計画を進め、研究内容を書き始めます。	研究内容の記述に入ります。（1時間）
26	研究構想図を作成する	研究内容を書き始めます。	研究内容の記述に入ります。（1時間）
27	研究構想図を作成する	研究構想図を確定していきます	研究構想図をまとめます。（1時間）
28	研究構想図を作成する	研究構想図を確定していきます	研究構想図をまとめます。（1時間）
29	研究構想図を作成する	卒論の構想発表会を行い、相互評価を深めます。	4年次の研究構想を立てます。（1時間）
30	まとめ	卒論の構想発表会を行い、相互評価を深めます。	4年次の研究構想を立てます。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「小学校学習指導要領解説総則編」文部科学省著（東洋館出版）（生協で購入してください。） 学習指導要領改定時には連絡します。新解説に買い変えてもらいます。		課題：50% レポート：50% S:研究主題の設定の質が高く、研究主題設定理由がしっかりと記述されていて、4年次の卒業研究が大いに期待できる。A:研究主題が興味深く、独自性があり、研究主題設定理由がしっかりと記述されていて、4年次の卒業研究が期待できる。B:研究主題が適切であり、研究主題設定理由がそれなりに記述されていて、4年次の卒業研究につながる可能性が高い。C:4年生の卒業研究の下地ができています。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
必要に応じて提示します。		積極的に自ら研究を推進していくように心がけてください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-13
担当者	今泉 博			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、教育学領域における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎知識を学びます。最終的には学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、理解している。その具体的な目標は①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解している。②ゼミナールの中での討論や購読を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけている。③プレゼンテーション能力を身につけている。④研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を把握しておく。（1時間）			
2	専門入門(1)			興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。				事前に演習を受ける先生の専門分野を確認して予習をし、演習後の確認テストに備える。（1時間）			
3	専門入門(2)			(1)と同様に各自がレポートを発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。				事前に演習を受ける先生の専門分野を予習し、演習後にの確認テストを実施します。（1時間）			
4	専門入門(3)			(1)(2)同様に議論を深めて自分の関心ある研究を見極めます。				事前に演習を受ける先生の専門分野を確認して予習し、演習後に小テストを実施します。（1時間）			
5	文献検索の方法(1)			図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				図書館やパソコン室の利用について習熟しておく。（1時間）			
6	文献検索の方法(2)			図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。				各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）			
7	研究の方法(1)			質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
8	研究の方法(2)			フィールドワークとして学校現場などで子どもや先生を観察してデータを集めて、分析検討する方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）			
9	研究の方法(3)			学校現場などで自分が実際に子どもと関わりながら、参与観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）			
10	研究の方法(4)			これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
11	研究の方法(5)			一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
12	研究の方法(6)			卒業生(先輩等)が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
13	教育実習と卒業研究(1)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味・関心のあった研究分野をふり返り、研究内容をより具体的にします。				実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）			
14	教育実習と卒業研究(2)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味・関心のあった研究分野をふり返り、研究内容をより具体的にします。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
15	前期のまとめ			前期の学習内容ををふり返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。（1時間）			
16	後期のゼミガイダンス			夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてのガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解し、これからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）			
17	文献発表(1)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			
18	文献発表(2)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
20	文献発表(4)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
21	文献発表(5)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
22	文献発表(6)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
23	文献発表(7)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論・討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定(1)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定(2)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定(3)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定(4)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動をふり振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配付します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:観察・分析方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的で、卒業研究テーマに沿った準備ができている。A:観察・分析方法をほぼ理解し、討論や発表、課題に意欲的で、卒業研究テーマに沿った準備ができている。B:観察・分析方法をある程度理解し、討論や発表、課題に取り組み、卒業研究テーマに沿った準備ができている。C:観察・分析方法を60%程度理解し、討論や発表、課題に取り組み、卒業研究テーマに沿った準備を始めることができている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業、および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、①教育心理学、認知心理学、社会心理学領域における様々な研究に触れながら、②研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に①学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、②そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、理解を深められるようになる。その具体的な目標は①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を活用できる。②討論や講読を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけている。③プレゼンテーション能力を身につけている。④研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を把握しておく。（1時間）			
2	専門入門(1)			興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。				事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える。（1時間）			
3	専門入門(2)			(1)同様に各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。				事前に教員の専門分野を予習し、演習後に、演習後の確認テストを実施します。（1時間）			
4	専門入門(3)			(1)(2)同様に議論深めて自分の関心ある研究を見極めます。				事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後に小テストを実施します。（1時間）			
5	文献検索の方法(1)			図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）			
6	文献検索の方法(2)			図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。				各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）			
7	研究の方法(1)			質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
8	研究の方法(2)			学校現場などでの実験的手法によるデータ収集、分析、検討の方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）			
9	研究の方法(3)			学校現場などで気づいた現象について、より厳密な状況でデータを集め、分析検討する実験室実験手法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）			
10	研究の方法(4)			これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
11	研究の方法(5)			一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
12	研究の方法(6)			卒業生（先輩等）が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
13	教育実習と卒業研究(1)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）			
14	教育実習と卒業研究(2)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
15	前期のまとめ			前期の学修内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。（1時間）			
16	後期のゼミガイダンス			夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）			
17	文献発表(1)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			
18	文献発表(2)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
20	文献発表(4)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
21	文献発表(5)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
22	文献発表(6)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
23	文献発表(7)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定(1)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定(2)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定(3)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定(4)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
「心理学の卒業研究ワークブック」小塩真司・宅 香菜子著（金子書房） ISBN:978-4760826551（生協で購入してください。）		課題：50% レポート：50% S：観察方法、分析方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A：観察方法、分析方法を理解し、討論や発表、課題に積極的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B：観察方法、分析方法を概ね理解し、討論や発表、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C：観察方法、分析方法を最低限理解し、討論や発表、課題に取り組み、卒業研究テーマを設定できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「錯覚の科学」チャプリス/シモンズ著（文春文庫） ISBN：978-4167901769 「認知心理学」の課題図書と同じものです。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-12
担当者	小島 哲也			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、最終的に学生が自ら興味ある研究テーマを見つけ、そのテーマに向けた研究の方法と内容について具体的な計画を立てます。											
学修到達目標											
①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解している。②ゼミナールでの討論や講読を通して、論理的思考力や批判的思考力を身につけている。③プレゼンテーション能力を身につけている。④卒業研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期は、担当教員が専門分野と関連分野の研究について概説し、質疑応答による討論を行います。後期は2グループに分かれて文献検索やレポートを交互に行い、最終的に自分の研究テーマ、方法と内容を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	授業の目的と方法、事前事後学修について解説します。					事前にシラバスを読み、自分の興味関心のある研究テーマについて考える（1時間）				
2	専門入門①	興味のある分野の文献を読み、レポート発表と討論により理解を深めます。					自分の履修（学習）計画を作成する。また、授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
3	専門入門②	前回のレポート発表を踏まえて同じ文献を再読し、レポート発表と討論によりさらに理解を深める。					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
4	専門入門③	関連文献のレポート発表と討論を行い、自分の関心のある研究テーマを定めます。					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
5	文献検索の方法①	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学びます。					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
6	文献検索の方法②	自分の研究テーマに関連する文献を実際に収集します。					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
7	研究の方法①	行動観察：障害児の音声発話行動					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
8	研究の方法②	行動観察：障害児の対人コミュニケーション行動					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
9	研究の方法③	行動の機能分析：障害児の問題行動					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
10	研究の方法④	質問紙調査：学校現場における課題					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
11	研究の方法⑤	インタビュー調査：大学生の臨床経験と意識変容					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
12	研究の方法⑥	データ分析：統計的処理					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
13	研究の方法⑦	データ分析：図表化の方法について					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
14	教育実習と卒業研究	教育実習やボランティア活動を通して、自分の興味関心のある研究テーマを振り返り、研究内容を具体化します					授業ノートをもとめ最終回に向けた準備をする（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返り、夏季休暇中に進めるべき課題を明らかにします。					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
16	後期ガイダンス	夏休み中の課題の報告と後期の研究の進め方について					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
17	文献発表①	発表と討論（Aグループ）					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				
18	文献発表②	発表と討論（Bグループ）					授業ノートをもとめ次回に向けた準備をする（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表③	発表と討論（Aグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
20	文献発表④	発表と討論（Bグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
21	文献発表⑤	発表と討論（Aグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
22	文献発表⑥	発表と討論（Bグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
23	文献発表⑦	全体討論	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
24	研究テーマ決定①	発表と討論（Aグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
25	研究テーマ決定②	発表と討論（Bグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
26	研究テーマ決定③	発表と討論（Aグループ）	授業ノートをまとめ次回に向けた準備をする（1時間）
27	研究テーマ決定④	発表と討論（Bグループ）	授業ノートをまとめ構想発表に向けた準備をする（1時間）
28	卒論構想発表会①	プレゼンテーションによる卒業研究の構想発表（Aグループ）	授業ノートをまとめ構想発表に向けた準備をする（1時間）
29	卒論構想発表会②	プレゼンテーションによる卒業研究の構想発表（Bグループ）	授業ノートをまとめ実施計画作成に向けた準備をする（1時間）
30	授業のまとめ	1年間の授業活動を振り返り、来年度の研究実施計画を確認する	来年度の研究実施計画の内容を再確認する（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要な資料を授業で適宜配布する		受講態度：20% レポート：40% 課題：40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：授業内容を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 A：授業内容を理解し、探求姿勢をもって課題にとり組んでいる。 B：授業内容をおおよそ理解し、与えられた課題に誠実に取り組んでいる。 C：授業内容をある程度理解し、与えられた課題に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし		演習形式の授業が多くなるため、授業の中で行うグループワークや討論への積極的な参加が望まれます。授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限、木曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
<p>教員としての一般的な知識や能力に加えて、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。教育への理念や理想を持ち、専門と結びついた学修と研究を始めるゼミナールです。卒業研究を視野に入れ、障がい児・者が地域で豊かに暮らすためにはどうしたらよいか、特に余暇活動やスポーツの支援方法などの研究に触れながら、興味あるテーマをみつけ研究に関する計画を立てます。</p>											
学修到達目標											
<p>学校や教育現場を知り、卒業研究に向けたテーマを決める。教員としての課題解決能力の育成、考察や討論を通じて論理的思考や表現力、またプレゼンテーション能力を身につけている。</p>											
授業の進め方											
<p>文献検索・論文の紹介などにより、基礎的内容について理解します。また、フィールドワークを通じて、観察・データ収集・分析・考察する方法を学びます。レポート・発表などを通じて、テーマを深めます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導を行います。					履修状況を把握しておく。（1時間）				
2	専門入門（1）	興味のある分野に関連した文献・論文を読み、レポートにまとめます。					障がい者の余暇・健康・教育・福祉に関する文献を読み授業で扱った文献の復習をする。（1時間）				
3	専門入門（2）	興味のある分野に関連した文献・論文を読み、レポートにまとめ、発表し討論により深めます。					障がい者の余暇・健康・教育・福祉に関する文献を読み授業で扱った文献の復習をする。（1時間）				
4	専門入門（3）	興味のある分野に関連した文献・論文を読み、レポートにまとめ、発表します。また、討論の仕方や論文の書き方について理解を深めます。					障がい者の余暇・健康・教育・福祉に関する文献を読み授業で扱った文献の復習をする。（1時間）				
5	文献検索方法（1）	図書館やパソコンを利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコンの利用について習熟しておく。文献検索の方法を復習する。（1時間）				
6	文献検索方法（2）	図書館やパソコンを利用して、文献検索の方法を学び、実際に検索し収集します。					図書館やパソコンの利用について習熟しておく。文献検索の方法を復習する。（1時間）				
7	文献検索方法（3）	図書館やパソコンを利用して、文献検索の方法を学び、実際に検索し収集し、レポートにまとめます。					図書館やパソコンの利用について習熟しておく。文献検索の方法を復習する。（1時間）				
8	研究の方法（1）	フィールドワークとして現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動を観察して、データ収集します。					フィールドワークの事前学習。地域における余暇・スポーツ活動について復習する。（1時間）				
9	研究の方法（2）	フィールドワークとして現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動を観察して、データ収集します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
10	研究の方法（3）	フィールドワークとして現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動を観察して、データ収集します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
11	研究の方法（4）	観察・アセスメントにより調査する方法を学び、フィールドワークとして現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動の観察データを分析します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
12	研究の方法（5）	観察・アセスメントにより調査する方法を学び、フィールドワークとして現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動の観察データを分析します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
13	研究の方法（6）	現場などの子どもの遊びやスポーツ・運動の観察データを分析し、先行研究や文献を読み、分析・考察します。					フィールドワークについて事前学習をする。体験した内容をまとめておく。（1時間）				
14	教育実習と卒業研究（1）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録・ボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
15	教育実習と卒業研究（2）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録・ボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏休中の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会について理解し、見通しを持ちます。					夏休み中の研究進捗状況をまとめておく。（1時間）				
17	文献発表（1）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。					事前にレジメを作成し、プレゼンの準備・練習をしておく。プレゼンのまとめ。（1時間）				
18	文献発表（2）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。					事前にレジメを作成し、プレゼンの準備・練習をしておく。プレゼンのまとめ。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表（3）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンの準備・練習しておく。プレゼンのまとめ。（1時間）
20	文献発表（4）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンの準備・練習しておく。プレゼンのまとめ。（1時間）
21	文献発表（5）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンの準備・練習しておく。プレゼンのまとめ。（1時間）
22	文献発表（6）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンの準備・練習しておく。プレゼンのまとめ。（1時間）
23	文献発表（7）	自分で検索・収集した文献を当番制で発表し、討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンの準備・練習しておく。プレゼンのまとめ。（1時間）
24	研究テーマの決定（1）	各自の研究テーマを発表し、意見交換・討論をします。	研究テーマを決定し、動機・問題・課題について考察しておく。（1時間）
25	研究テーマの決定（2）	各自の研究テーマを発表し、意見交換・討論をします。	研究テーマを決定し、動機・問題・課題について考察しておく。（1時間）
26	研究テーマの決定（3）	各自の研究テーマを発表し、意見交換・討論をします。	テーマに対する目的を文章化し準備しておく。（1時間）
27	研究テーマの決定（4）	各自の研究テーマを発表し、意見交換・討論をします。	テーマに対する目的を文章化し準備しておく。（1時間）
28	卒論構想発表会（1）	卒業研究の構想発表会を行い、お互いの研究を理解し合い意見交換を行い、問題点を修正します。	研究構想発表会の準備を行う。4年次の研究に向けて計画を立てる。（1時間）
29	卒論構想発表会（2）	卒業研究の構想発表会を行い、お互いの研究を理解し合い意見交換を行い、問題点を修正します。	研究構想発表会の準備を行う。4年次の研究に向けて計画を立てる。（1時間）
30	まとめ	1年間の振り返り、来年度の本格的な研究の進め方の確認をします。	1年間の振り返りをまとめる。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜資料を配布します。		レポート：50% 課題：50% S：調査方法や分析方法を高度に理解している。卒業研究テーマに添った準備ができている。A：調査方法や分析方法を理解している。卒業研究のテーマに沿った準備ができている。B：調査方法や分析方法をおおよそ理解している。卒業研究のテーマに沿った準備ができている。C：調査方法や分析方法の60%理解できている。卒業研究のテーマの沿った準備がある程度できている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業時に紹介します。		フィールドワークを通じての体験が重要です。主体的に学ぶ姿勢を持ち、意欲的に取り組むことを望みます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-15
担当者	羽田 行男			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教官の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、①教育方法、教育相談、発達心理学領域におけるさまざまな研究に触れながら、②研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に、①学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、②そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解をしている。具体的には、①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解している。②ゼミナールでの講読や議論を通して、論理思考力や批判的思考力を習得している。③プレゼンテーションの能力を身につけている。④研究テーマを決定する。											
授業の進め方											
毎回、全員がレポートやレジュメを準備します。担当者が発表し、全員で考察しながら理解を深めたり、意見を出し合ったりします。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ		内容				事前事後学修				
1	ガイダンス		2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を確認する。レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
2	専門入門(1)		興味のある分野の文献を読み、レポート発表や討論をして、理解を深めます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
3	専門入門(2)		興味のある分野の文献を読み、レポート発表や討論をして、理解を深めます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
4	専門入門(3)		興味のある分野の文献を読み、レポート発表や討論をして、理解を深めます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
5	文献検索の方法(1)		図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				レポートを作成する。（1時間）				
6	文献検索の方法(2)		図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				レポートを作成する。（1時間）				
7	研究の方法(1)		研究の方法：質問紙法を学びます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
8	研究の方法(2)		研究の方法：質問紙法を学びます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
9	研究の方法(3)		研究の方法：量的研究方法を学びます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
10	研究の方法(4)		研究の方法：観察法を学びます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
11	研究の方法(5)		研究の方法：事例研究法を学びます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
12	研究の方法(6)		研究の方法：質的研究方法を学びます。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
13	教育実習と卒業研究(1)		教育実習やボランティア活動を振り返り、興味関心のある領域分野を各自が絞り込みます。				レポートを作成する。（1時間）				
14	教育実習と卒業研究(2)		教育実習やボランティア活動を振り返り、興味関心のある領域分野を各自が絞り込みます。				レポートを作成する。（1時間）				
15	前期のまとめ		前期の学習内容を振り返ります。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス		後期のゼミナールに向けて、ガイダンスを実施します。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
17	文献発表(1)		各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				
18	文献発表(2)		各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。				レポート発表のレジュメを作成する。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表（3）	各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
20	文献発表（4）	各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
21	文献発表（5）	各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
22	文献発表（6）	各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
23	文献発表（7）	各自が収集した文献等を当番制で発表し、全員で議論します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
24	研究テーマの決定（1）	各自が研究テーマ・研究方法・研究目的を発表し、全員で質疑応答します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
25	研究テーマの決定（2）	各自が研究テーマ・研究方法・研究目的を発表し、全員で質疑応答します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
26	研究テーマの決定（3）	各自が研究テーマ・研究方法・研究目的を発表し、全員で質疑応答します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
27	研究テーマの決定（4）	各自が研究テーマ・研究方法・研究目的を発表し、全員で質疑応答します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
28	卒論構想発表会（1）	卒業論文の構想発表会を行い、問題点を修正します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
29	卒論構想発表会（2）	卒業論文の構想発表会を行い、問題点を修正します。	レポート発表のレジユメを作成する。（1時間）
30	まとめ	1年間を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	まとめのレポートを作成する。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜、資料を配布します。		課題：50% レポート：50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜、紹介します。		演習形式の授業が多くなるので、共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日4限 後期：月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、教育の組織運営に関する研究領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、①教育の組織運営に関する研究領域における様々な研究に触れながら、②研究を深めていくための基礎的知識を学びます。最終的に①学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、②そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、理解できる。その具体的な目標は①教員としての課題発見能力を身につけ、様々な観察方法や分析方法を理解している。②ゼミナールの中での討論や購読を通じて、論理的思考力や批判的思考力を身につけている。③プレゼンテーション能力を身につけている。④研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、教育の組織運営に関する研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、教育の組織運営の研究に関する文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を把握しておく。（1時間）			
2	専門入門(1)			興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。				事前に教育の組織運営に関する研究について予習しておく。授業後は理解を整理しておく。（1時間）			
3	専門入門(2)			前時と同様に、各自がレポート発表し、討論の仕方や論文の書き方について理解を深めます。				事前に教育の組織運営に関する研究について予習しておく。授業後は理解を整理しておく。（1時間）			
4	専門入門(3)			前時と同様に、議論を深めて自分の関心のある研究を見極めます。				事前に教育の組織運営に関する研究について予習しておく。授業後は理解を整理しておく。（1時間）			
5	文献検索の方法(1)			図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				図書館やパソコン室の利用について確認しておく。（1時間）			
6	文献検索の方法(2)			図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学び、実際に文献資料を収集します。				各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）			
7	研究の対象と方法(1)			ビデオの録画と分析を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、観察方法を考える。（1時間）			
8	研究の対象と方法(2)			児童総会や生徒総会などで子どもや教師を対象とする参与観察を行い、分析検討します。（フィールドワーク）				学校現場等での観察記録をまとめておく。（1時間）			
9	研究の対象と方法(3)			学校評議員の会議などで保護者や住民を対象とする参与観察を行い、分析検討します。（フィールドワーク）				学校現場等での観察記録をまとめておく。（1時間）			
10	研究の対象と方法(4)			先行研究や文献を読み、分析検討します。（文献研究）				事前に配布する資料を熟読し、内容を理解しておく。（1時間）			
11	研究の対象と方法(5)			先輩の卒業論文や学会誌掲載の査読論文を読み、問題意識と課題設定について具体的に学びます。				事前に配布する資料を熟読し、内容を理解しておく。（1時間）			
12	研究の対象と方法(6)			先輩の卒業論文や学会誌掲載の査読論文を読み、研究の方法や進め方について理解します。				事前に配布する資料を熟読し、内容を理解しておく。（1時間）			
13	教育実習と卒業研究(1)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）			
14	教育実習と卒業研究(2)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）			
15	前期のまとめ			前期の学習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにして、その準備をします。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。（1時間）			
16	後期のゼミガイダンス			夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒業論文構想発表会の持ち方を理解し、これからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）			
17	文献発表(1)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			
18	文献発表(2)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表（3）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
20	文献発表（4）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
21	文献発表（5）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
22	文献発表（6）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
23	文献発表（7）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
24	研究テーマの決定（1）	「問題の所在」と「研究目的」を発表し、全員で討論します。	課題意識、問題の所在、研究目的について文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
25	研究テーマの発表（2）	「問題の所在」と「研究目的」を発表し、全員で討論します。	課題意識、問題の所在、研究目的について文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
26	研究テーマの発表（3）	研究テーマと対象と方法を発表し、全員で討論します。	研究テーマ、対象及び方法について文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
27	研究テーマの発表（4）	研究テーマと対象と方法を発表し、全員で討論します。	研究テーマ、対象及び方法について文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
28	卒論構想発表会（1）	卒論の構想発表会を行ない、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表の準備をするとともに、4年次の研究推進計画を立てておく。（1時間）
29	卒論構想発表会（2）	卒論の構想発表会を行ない、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表の準備をするとともに、4年次の研究推進計画を立てておく。
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要資料を配布します。配布資料は、必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:研究の進め方を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、研究テーマに沿った準備ができています。A:研究の進め方をほぼ理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、研究テーマに沿った準備ができています。B:研究の進め方をある程度理解し、討論や発表、課題に取り組み、研究テーマに沿った準備ができています。C:研究の進め方を60%程度理解し、討論や発表、課題に取り組み、研究テーマに沿った準備を始めることができます。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業及び討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限、月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
教職研究基礎ゼミナールに引き続き、北米の文化や社会に関連した研究に対する基礎知識を学ぶとともに、卒業研究のテーマを絞り込んでいきます。											
学修到達目標											
北米の文化に関する様々な先行研究での知見を理解するとともに、多様な調査方法や分析方法をも理解している。論理的思考によって自らの意見を導き出し、それらをプレゼンテーションする能力を身につけている。											
授業の進め方											
前半は、先行研究について概説し、質疑応答による討論等によって各々の理解を深めていきます。また、後半は、各自が希望する研究対象について文献を検索し、それらを発表することによって自らの研究テーマを確認しつつ卒業研究に繋がる研究テーマを決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	学生生活全般に関して、個々に対するガイダンスを行います。					各自、履修状況を把握しておく。事後は今後の研究課題について構想を考える。（1時間）				
2	研究テーマ①	北米の文化に関する興味のあるテーマについて文献を読み、その概略を口頭で発表し、その後全員で議論する。					発表の準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）				
3	研究テーマ②	北米の文化に関する興味のあるテーマについて文献を読み、その概略を口頭で発表し、その後全員で議論する。					発表の準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）				
4	研究テーマ③	北米の文化に関する興味のあるテーマについて文献を読み、その概略を口頭で発表し、その後全員で議論する。					発表の準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）				
5	文献の検索①	図書館やパソコン室を利用して文献を検索する。					自ら図書館やパソコン室で文献を検索する。（1時間）				
6	文献の検索②	図書館やパソコン室を利用して文献を検索する。					自ら図書館やパソコン室で文献を検索する。（1時間）				
7	研究の方法①	社会現象を理解するための社会調査について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
8	研究の方法②	量的調査と質的調査について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
9	研究の方法③	パネル調査と継続調査について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
10	研究の方法④	全数調査とサンプリング調査について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
11	研究の方法⑤	結果を導く帰納と演繹について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
12	研究の方法⑥	アンケート調査の種類について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
13	研究の方法⑦	社会調査の倫理規定について。					配布した資料を熟読する。（1時間）				
14	研究テーマの模索	自らの研究テーマの構想を考える。					興味のある研究テーマをいくつか列挙する。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、各自が研究テーマを引き続き熟考する。					興味のある研究テーマをいくつか列挙する。（1時間）				
16	後期のガイダンス	各自が現時点での研究テーマを発表する。					研究テーマの発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）				
17	文献発表①	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。					文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）				
18	文献発表②	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。					文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表③	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
20	文献発表④	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
21	文献発表⑤	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
22	文献発表⑥	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
23	文献発表⑦	各自が研究テーマに沿った文献発表を行い、それについて全員で議論する。	文献の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
24	研究テーマの決定①	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論する。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
25	研究テーマの決定②	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論する。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
26	研究テーマの決定③	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論する。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
27	研究テーマの決定④	各自が研究計画について発表し、それについて全員で議論する。	研究計画の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
28	卒業論文の構想発表会①	各自が構想について発表し、それについて全員で議論する。	構想の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
29	卒業論文の構想発表会②	各自が構想について発表し、それについて全員で議論する。	構想の発表準備。発表の改善点をまとめる。（1時間）
30	全体のまとめ	これまでの活動を振り返り、卒業論文の執筆準備に取りかかる。	卒業論文の構成を具体的に考える。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜、必要な資料を配布します。		レポート：50% 課題：50% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み授業で学んだことを表現できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜、紹介します。		問題意識を持って積極的に各授業テーマに取り組んでください。また、発表に関してはしっかりと準備をして臨んでください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日4限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、①道徳教育における様々な研究に触れながら、②研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に①学生が自ら興味のある研究テーマを見つけ、②そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、各自の興味関心から課題解決に向けた方策をより理解できるようになる。その具体的な目標は①教員としての課題発見能力を身に付け、様々な観察方法や分析方法を理解している。②ゼミナールの中での討論や講義を通して論理的思考力や批判的思考力を身に付けている。③プレゼンテーション能力を身に付けている。④研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、担当教員や外部講師が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。				自分の履修状況を把握しておく。（1時間）			
2	専門入門(1)			興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。				事前に担当教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後の確認テストに備える。（4時間）			
3	専門入門(2)			(1)同様に各自がレポート発表し、討論の仕方や、論文の書き方について理解を深めます。				事前に担当教員の専門分野を予習し、演習後に、演習後の確認テストを実施します。（1時間）			
4	専門入門(3)			(1)(2)同様に議論深めて自分の関心ある研究を見極めます。				事前に担当教員の専門分野を確認して予習しておく、演習後に小テストを実施します。（1時間）			
5	文献検索の方法(1)			図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。				図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）			
6	文献検索の方法(2)			図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。				各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）			
7	研究の方法(1)			質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する研究方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
8	研究の方法(2)			フィールドワークとして学校現場などで子供や先生を観察してデータを集めて、分析検討する方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）			
9	研究の方法(3)			学校現場などで自分が実際に子どもとかかわりながら、参与観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。				学校現場等での、学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）			
10	研究の方法(4)			これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
11	研究の方法(5)			一つの教室、一人の児童に深く関わり、自ら支援・指導することでより良い指導法を探る事例研究の方法を学びます。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
12	研究の方法(6)			卒業生（先輩等）が行った卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
13	教育実習と卒業研究(1)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（1時間）			
14	教育実習と卒業研究(2)			教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分の興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。				事前に配布する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）			
15	前期のまとめ			前期の習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。（1時間）			
16	後期のゼミガイダンス			夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）			
17	文献発表(1)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			
18	文献発表(2)			自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。				事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
20	文献発表(4)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
21	文献発表(5)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
22	文献発表(6)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
23	文献発表(7)	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定(1)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定(2)	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定(3)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定(4)	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:観察方法、分析方法を正しく理解し、討論や発表課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A:観察方法、分析方法をほぼ理解し、討論や課題発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B:観察方法、分析方法をある程度理解し、討論や発表課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C:観察方法、分析方法を60%程度理解し、討論や発表、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日2限、金曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
<p>教員として一般的な知識や能力に加えて、独自の教育への理念や理想をもち、教員生活を送るための専門領域の学習と研究方法を学ぶことで、専門と結びついた学修と研究を始めるゼミナールです。小学校における体育科は「身体性」のみならず、「知性」「感性」を含んだ子どもの学びや育ちを総合的に捉えていく教科なので、幅広い専門分野の内容を取り扱います。体育・スポーツに関する図書、論文の輪読、学生同士の対話や学校での体育指導実習を通して、「からだを育む」という意味を理解していきます。</p>											
学修到達目標											
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究に取り組むことができる。そして、卒業研究専門ゼミナールへの基礎を修得している。</p>											
授業の進め方											
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践、先行研究の検討、研究方法の検討、研究資料の収集・分析・考察を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究を進めます。</p>											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	オリエンテーション	各自、興味をもって取り組むことができる研究課題を検討					研究課題の検討（1時間）				
2	体育・スポーツにおける今日的課題	体育・スポーツにおける今日的課題について①					体育・スポーツにおける今日的課題の理解（1時間）				
3	体育・スポーツにおける今日的課題	体育・スポーツにおける今日的課題について②					体育・スポーツにおける今日的課題の理解（1時間）				
4	文献精読	文献精読①と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
5	文献精読	文献精読②と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
6	文献精読	文献精読③と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
7	運動実践および観察	運動実践および観察①					運動実践および観察の分析（1時間）				
8	運動実践および観察	運動実践および観察②					運動実践および観察の分析（1時間）				
9	文献精読	文献精読④と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
10	文献精読	文献精読⑤と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
11	文献精読	文献精読⑥と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
12	運動実践および観察	運動実践および観察③					運動実践および観察の分析（1時間）				
13	運動実践および観察	運動実践および観察④					運動実践および観察の分析（1時間）				
14	文献精読	文献精読⑦と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
15	まとめ	前期まとめ					前期の学修をまとめ、後期への見直しをもつ（1時間）				
16	文献精読	文献精読⑧と対話					対話による思考の深まりのリフレクション（1時間）				
17	運動実践および観察	運動実践および観察⑤					運動実践および観察の分析（1時間）				
18	研究課題の検討	研究課題の検討					研究課題の検討のリフレクション（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究方法の検討	研究方法の検討①	研究方法の検討のリフレクション（1時間）
20	研究方法の検討	研究方法の検討②	研究方法の検討のリフレクション（1時間）
21	先行研究の整理	先行研究の収集・整理	先行研究の整理（1時間）
22	先行研究の検討	先行研究の検討	先行研究の検討のリフレクション（1時間）
23	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）①	研究資料の分析（1時間）
24	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）②	研究資料の分析（1時間）
25	研究資料の分析	研究資料の分析および考察①	研究資料の分析および考察（1時間）
26	研究資料の分析	研究資料の分析および考察②	研究資料の分析および考察（1時間）
27	レポートの作成	レポートの作成①	レポートの作成（1時間）
28	レポートの作成	レポートの作成②	レポートの作成（1時間）
29	研究成果の発表	研究成果の発表および討議	研究成果の発表および討議のリフレクション（1時間）
30	研究成果の発表	研究成果の発表および討議・まとめ	研究成果の発表および討議のリフレクション（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「体育科教育の現在」日本体育科教育学会編（創文企画） ISBN:987-4-86413-020-2 C3075（生協で購入してください。）		課題：50% 受講態度：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、優れた論文が書ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや優れた論文が書ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に合った論文が書ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に対し論文が書ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「新版 体育科教育学入門」高橋健夫他編（大修館書店） 「体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」高橋健夫著（明和出版）		どのような「からだを育む」ことが求められているのか。そのために体育学習はどうあるべきなのかを考えていきましょう。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日5限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、理科教育における様々な研究に触れながら、研究を進めていくための基礎的知識を学びます。最終的に、自分の関心がある研究テーマを見つけ、そのテーマ解明に向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
教員としての課題発見能力を身につけ、課題解決のための方法を理解し、ゼミナールの討論等で論理的思考力や批判的思考力を高め、的確にプレゼンテーションする能力を発揮しながら、自分の研究テーマを定めることができる。											
授業の進め方											
前期の概説では、理科教育の分野の研究について概説し、質疑応答による討論を行います。後期の演習では、各自が希望する研究テーマについて文献を検索したり、レポートしたりして、自分の研究テーマを絞り込み、研究の方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	前期のガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導や個別指導をします。					自分の履修状況を把握しておき、事後に今後の見通しを整理しておく(1時間)。				
2	専門入門(1)	関心のある分野の文献を読み、レポート発表をし、討論によって理解を深めます。					事前に演習を受ける分野の内容を確認し、事後に演習後の確認テストを行う。				
3	専門入門(2)	関心のある分野の文献を読み、レポート発表をし、討論によって理解を深めます。					事前に演習を受ける分野の内容を確認し、事後に演習後の確認テストを行う(1時間)。				
4	専門入門(3)	関心のある分野の文献を読み、レポート発表をし、討論によって理解を深めます。					事前に演習を受ける分野の内容を確認し、事後に演習後の確認テストを行う(1時間)。				
5	文献検索の方法(1)	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					事前に図書館やパソコン室の利用方法を習熟しておき、事後に実際に検索してみる(1時間)。				
6	文献検索の方法(2)	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					事前に図書館やパソコン室の利用方法を習熟しておき、事後に実際に検索してみる(1時間)。				
7	研究の方法(1)	学校現場等において、子どもの行動や発言を記録して分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
8	研究の方法(2)	学校現場等において、授業者の発問や関わり方を記録して分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
9	研究の方法(3)	学校現場等において、VTRやレコーダーを用いて分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
10	研究の方法(4)	個の追究を時系列で追いながら変容を分析検討する方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
11	研究の方法(5)	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
12	研究の方法(6)	学生の卒業論文を読み、研究の進め方や方法を具体的に理解します。					事前に配布する資料を読み、事後に自分なりの分析の視点や留意点を加える(1時間)。				
13	教育実習と卒業研究(1)	教育実習やボランティア活動等を体験して、自分の関心のある分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に実習やボランティア活動の記録を整理し、事後に研究との関連をまとめる(1時間)。				
14	教育実習と卒業研究(2)	教育実習やボランティア活動等を体験して、自分の関心のある分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に実習やボランティア活動の記録を整理し、事後に研究との関連をまとめる(1時間)。				
15	前期のまとめ	前期の内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。					事前におおよその見通しを立て、事後に夏休み中の予定を作成する(1時間)。				
16	後期のガイダンス	夏休み中の課題報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスをします。卒業構想発表会の持ち方を理解し、今後の見通しをもちます。					事前に夏休み中の取り組みの成果をまとめ、事後に今後の見通しを加える(1時間)。				
17	文献発表1	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。					事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。				
18	文献発表2	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。					事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表(3)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
20	文献発表(4)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
21	文献発表(5)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
22	文献発表(6)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
23	文献発表(7)	自分で収集した文献について、当番制で発表し、全員で討論し考察します。	事前にレジメ作成とプレゼンテーション練習をし、事後に論点を整理しておく(1時間)。
24	研究テーマの決定(1)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
25	研究テーマの決定(2)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
26	研究テーマの決定(3)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
27	研究テーマの決定(4)	各自、研究テーマと方法を発表し、全員で討論します。	事前に研究テーマを決定し、問題の所在と目的をまとめ、事後に論点を整理しておく(1時間)。
28	卒論構想発表(1)	構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	事前に発表の準備を進め、事後に論点を整理しておく(1時間)。
29	卒論構想発表(2)	構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	事前に発表の準備を進め、事後に論点を整理しておく(1時間)。
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	事前に1年間の取り組みをポートフォリオにまとめ、事後に整理しておく(1時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
特になし。		レポート：40% 課題：40% 受講態度：20% S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業や討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-06
担当者	秋田 真			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度(読替科目)						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
先行研究の指導案分析及び授業記録より、研究と授業実践との関わりについて理解を進めます。これらを通して、研究に耐えられる授業実践を構築できるようにしていきます。後半では、卒業研究に繋がる研究計画を作成していきます。											
学修到達目標											
指導案を作成し、社会科の授業及び分析ができる。そして、卒業研究に向けた計画を作成できる。											
授業の進め方											
研究計画作成、指導案作成等は単学年でのゼミ形式で行います。また、前期は指導案分析や授業実践、協議会等を4学年と共に行います。後期は実践論文分析等を2学年と共に行い、ゼミの発表会や地域授業・社会見学等では2・4学年と共に行います。											
授業計画(各回のテーマ等) ※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	教職研究ゼミナール概要	本授業の目的及び授業の流れを確認します。					見通しを立て研究を進めるために、3年次の計画を作成すること。(1時間)				
2	指導案分析(1)	先行研究による指導案分析を行います。					取り上げたい指導案を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)				
3	指導案分析(2)	先行研究による指導案分析を行います。					取り上げたい指導案を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)				
4	指導案分析(3)	先行研究による指導案分析を行います。					取り上げたい指導案を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)				
5	指導案プロット作成(1)	指導案の骨組みとなるプロットを作成します。					指導案のプロットを作成し、検討・見直しを図ること。(1時間)				
6	指導案プロット作成(2)	指導案の骨組みとなるプロットを作成します。					指導案のプロットを作成し、検討・見直しを図ること。(1時間)				
7	指導案作成(1)	作成した指導案について、ねらいや各発問が適切か検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
8	指導案作成(2)	作成した指導案について、導入の妥当性について検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
9	指導案作成(3)	作成した指導案について、展開がアクティブ・ラーニングの視点に当てはまっているかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
10	指導案作成(4)	作成した指導案について、省察が適切に行われているかどうかを検討します。					実習等で担当とする指導案を作成し、見直すこと。(1時間)				
11	模擬授業準備(1)	各々の指導案に沿った模擬授業及び研究協議会を行います。					作成した指導案にて模擬授業ができるようにすること。(1時間)				
12	模擬授業準備(2)	各々の指導案に沿った模擬授業及び研究協議会を行います。					作成した指導案にて模擬授業ができるようにすること。(1時間)				
13	模擬授業(1)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。					指摘された点について、再検討すること。(1時間)				
14	模擬授業(2)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。					指摘された点について、再検討すること。(1時間)				
15	中間発表準備(1)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。					中間発表会の準備をしておくこと。(1時間)				
16	中間発表準備(2)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。					中間発表会の準備をしておくこと。(1時間)				
17	ゼミ中間発表会	これまでの研究をまとめ、ゼミにおいて発表を行います。					これまで学んだことと、今後の見通しを発表できるようにしておくこと。(1時間)				
18	授業実践報告(1)	実践した授業について報告・検討を行います。					授業実践について、報告・説明できるようにしておくこと。(1時間)				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	授業実践報告(2)	実践した授業について報告・検討を行います。	授業実践について、報告・説明できるようにしておくこと。(1時間)
20	地域授業実践研究	地域で行われる社会科授業の見学及び検討会参加を行います。	授業記録や研究協議会での発言内容を振り返り、まとめること。(1時間)
21	地域教材研究(1)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学に対する事前の調査や、質問等を考えておくこと。(1時間)
22	地域教材研究(2)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学で学んだことを整理すること。(1時間)
23	実践論文分析(1)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
24	実践論文分析(2)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
25	実践論文分析(3)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
26	実践論文分析(4)	小学校研究紀要を中心とした実践論文を分析し、発表を行います。	取り上げたい実践論文を決めておくこと。また、授業で学んだことをまとめておくこと。(1時間)
27	研究計画作成概要	研究論文作成のための研究計画について学びます。	研究計画を作成し、研究の見通しを持つこと。(1時間)
28	研究計画作成(1)	研究論文作成のための研究計画を作成及び修正します。	計画再考の指摘については修正すること。(1時間)
29	研究計画作成(2)	研究論文作成のための研究計画を作成及び修正します。	計画再考の指摘については修正すること。(1時間)
30	ゼミ卒業論文発表会	ゼミの卒業論文発表会に参加し、協議に参加します。	発表会の内容を受け、自分の研究と照らし合わせ方向性を再考すること。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
なし。		課題：50% 指導案及び授業実践：50% S:先行研究分析より課題を明確にした指導案を作成し、児童の主体的な学びによる授業実践ができる。A:児童の実態より課題を設定した指導案を作成し、児童の主体的な学びによる授業実践ができる。B:一般的な学習課題を設定した指導案を作成し、児童の主体的な学びによる授業実践ができる。C:一般的な学習課題を設定した指導案を作成し、授業実践ができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
なし。		地域へ出たの見学等については、見学先の都合により予定が前後することがあります。2年次同様、一部を巡検とし、集中で行います。教育実習も行われるため、見通しを持ち計画的に取り組んで下さい。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限 後期：火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、①文学作品を作家別に数人研究する②研究したい作家を選ぶ③作家ごとの特色をいくつかの観点でとらえる④研究テーマを設定する見通しを持つ、この手順を進めるとともに研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を踏まえ、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解できるようになる。具体的には、1作家を複数人選択し、作家ごとのいくつかの特色を知り特色に沿った読み方を身につける。2 全集を読み、ゼミナールの中での討論や購読を通して、論理的思考力・表現力、プレゼンテーション力を習得する。3 研究テーマを決定する。											
授業の進め方											
前期の概説では、それぞれの担当教員が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について文献を検索したりレポートしたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。					自分の履修状況を把握しておく。（1時間）				
2	専門入門①	興味のある分野の文献を読み、レポート発表して討論により理解を深めます。					演習を受ける教員の専門分野を確認し予習しておく、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
3	専門入門②	①同様に、各自がレポート発表し、討論の仕方や論文の書き方について理解を深めます。					演習を受ける教員の専門分野を事前に確認し予習し、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
4	専門入門③	①②同様に、各自がレポート発表し、関心のある研究を見極めます。					演習を受ける教員の専門分野を事前に確認し予習し、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
5	文献検査の方法①	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）				
6	文献検索の方法②	図書館やパソコン室を利用して文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）				
7	研究の方法①	研究対象とする作家の代表作を読み進め、引用の仕方と考察の書き方を学びます。					代表作を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
8	研究の方法②	研究対象とする作家の代表作を読み進め、引用と考察について討議します。					代表作を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
9	研究の方法③	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。					作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
10	研究の方法④	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。					作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
11	研究の方法⑤	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。					作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
12	研究の方法⑥	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。					作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
13	研究の方法⑦	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。					作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
14	研究の方法⑧	研究対象とする作家の作品を読み進め、考察し、考察内容について討議します。					作品を読み進める。指導内容を基に、文章を推敲し直す。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の研究内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにし、その準備をします。					夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスをします。特に、卒論構想発表会の持ち方を理解し、見通しを持ちます。					夏休み中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
17	文献発表①	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。（1時間）				
18	文献発表②	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表③	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
20	文献発表④	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
21	文献発表⑤	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
22	文献発表⑥	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
23	文献発表⑦	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をしておく。(1時間)
24	研究テーマの決定①	各自でテーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定②	各自でテーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	研究テーマの決定③	「問題と目的」を発表し、全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
27	研究テーマの決定④	「問題と目的」を発表し全員で討議します。	「問題と目的」を文章化し、発表の準備をしておく。(1時間)
28	卒業構想発表会①	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と、4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒業構想発表会②	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と、4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の研究を振り返り、来年度の研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
「手ぎわよい科学論文の仕上げ方（付）初心者べからず集第2版」田中潔著（共立出版） ISBN:4-320-00885-5（生協で購入してください。） 「理科系の作文技術」木下是雄著（中央公論社） ISBN:4121006240（生協で購入してください。） 教員が必要に応じた資料を配付します。資料は必ず保管しておいてください。 研究対象とする作家の全集の購入を義務づけています。		課題：70% 実技：20% レポート：10% S:資料を読み取り考察し分析方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。A:資料を読み取り考察し分析方法をほぼ理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。B:資料を読み取り考察し分析方法をある程度理解し設定した卒業研究テーマに沿った準備ができています。C:資料を読み取り考察し分析方法を60%程度理解し、設定した卒業研究テーマに沿った準備を始めています。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
参考資料等は状況に応じて紹介します。必要な先行文献等は自費購入する必要があります。		授業で行う共同作業および討論へ積極的に参加してください。欠席8回で単位を認定しません。遅刻・早退2回で1回の欠席、30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。担当教員の講演先等へ出かける学びを予定しています。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
教職研究基礎ゼミナールで学んだことをより深め、自分自身の研究したい分野の先行研究を読み、テーマを明確にします。また卒業研究の書き方を理解し、それに向け先行研究を批判的に読みます。											
学修到達目標											
外国語教育の知識を深め、研究方法ならびに論文の書き方を学び、自分自身の研究のテーマを決め、その分野の先行研究を批判的に読むことができる。											
授業の進め方											
前半は講義形式を主としながら指定された部分を読み発表します。後半部分は先行研究を批判的に読み発表する。ならびに自身の研究の方向性についても発表します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	3年次の研究の進め方についての見通しを持ち、興味のある分野について考える。					興味のある分野を調べ、研究の方向性を考える。（1時間）				
2	インタラクション重視の第二言語学習法・指導法 1	第二言語習得に関するインタラクションの役割やその認知プロセスについて理解する。					インタラクションが第二言語習得に及ぼす影響について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
3	インタラクション重視の第二言語学習法・指導法 2	インタラクションを使用した英語指導法の具体的な活動やその理論について理解する。					インタラクションを使用した指導法とその背景を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
4	アウトプット重視の第二言語学習法・指導法 1ーアウトプットの役割	第二言語習得におけるアウトプットの役割とそれらの理論を理解する。					アウトプット役割と理論を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
5	アウトプット重視の第二言語学習法・指導法 2ー英語学習法・指導法	アウトプットを活用した学習法や指導法の実際を理解し、その背景にある理論の働きも理解する。					アウトプットを使用した理論を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
6	フォーカス・オン・フォームによる文法指導 1ー一定義	EFL環境におけるフォーカス・オン・フォームの在り方とその考え方を理解する。					フォーカス・オン・フォームの考え方を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
7	フォーカス・オン・フォームによる文法指導 2ー文法習得・語彙習得	第二言語習得の文法や語彙の習得に関する理論やその在り方を理解する。					第二言語の文法や語彙の理解プロセスを理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
8	フォーカス・オン・フォームによる文法指導 3ー学習法・指導法	フォーカス・オン・フォームを使用した英語学習法や指導法の具体的な活動や、活動の焦点の置き方の比重などについて理解する。					フォーカス・オン・フォームの実際の指導の在り方を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
9	第二言語学習と個人差	第二言語学習における個人差の要因や動機づけ考え方のWillingness To Communicateについて理解する。					個人差要因について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
10	社会文化要因と第二言語学習	第二言語学習における社会言語的要因について理解する。					言語学習における言語使用の社会言語的要因を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
11	第二言語学習の目的	第二言語を学習する目的について考え、明確に理解する。					第二言語学習の目的を明確に理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
12	第二言語コミュニケーション能力 4ー構成要素・第二言語学習の対象	第二言語コミュニケーション能力の構成要素と学習対象としての総合的コミュニケーション能力について理解する。					コミュニケーション能力について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
13	第二言語コミュニケーション能力 2ー身につけるべき英語	国際補助語としての英語を理解し、その中で身につけるべき英語の在り方について理解する。					身につけるべき英語を理解し、研究の方向性を考える。（1時間）				
14	先行研究発表 1	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをする。					興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）				
15	前期のまとめ	これまでの理解と方向性を確認し、必要となる文献について検索し、それを読む。					研究したい分野の文献を読み概要を知る。また研究方法についても文献を読み理解する。（1時間）				
16	研究の方法 1	研究とはどのようなものなのか、その目的や種類、プロセスについて理解する。					具体的な研究方法について知り、研究の方向性を考える。（1時間）				
17	研究の方法 2	研究のテーマの決め方について、どのようにテーマを決めていくのか、その視点について理解する。					研究のテーマ決めの視点を理解し、研究のテーマを決める。（1時間）				
18	研究の方法 3	先行研究から自分の研究の位置を明らかにすることや、先行研究の検索の仕方やポイントについて理解する。					先行研究の検索方法を理解し、自分の研究の位置を理解する。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究の方法 4	研究の課題の設定の仕方とそのデータ収集の方法、データのタイプ、データの分析・解釈方法について理解する。	研究課題の設定方法やデータの収集・分析方法について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）
20	研究の方法 5	質的研究についてどのようなアプローチを行うのか、データ収集方法や分析・解釈、考察の在り方について理解する。	質的研究について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）
21	研究の方法 6	量的研究について、量的研究の選択の仕方、研究デザイン、データ収集、分析・解釈について理解する。	量的研究について理解し、研究の方向性を考える。（1時間）
22	先行研究発表 2	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをする。	興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）
23	先行研究発表 3	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをする。	興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）
24	先行研究発表 4	興味のある分野の先行研究を読み、順番で発表する。その際に批判的思考からコメントをする。	興味のある分野の先行研究を読み、批判的にコメントをする。（1時間）
25	研究テーマ決定 1	研究テーマとその方法について発表し、批判的コメントを受け改善する。	研究の大まかな方向性を決め、発表する。（1時間）
26	研究テーマ決定 2	研究テーマとその方法について発表し、批判的コメントを受け改善する。	研究の大まかな方向性を決め、発表する。（1時間）
27	研究テーマ決定 3	研究テーマとその方法について発表し、批判的コメントを受け改善する。	研究の大まかな方向性を決め、発表する。（1時間）
28	卒論構想発表 1	卒業論文の構想について発表し、批判的視点からコメントをしたり、もったりすることにより、卒業論文の構想を改善する。	卒業論文の構想発表準備とコメントによる改善。（1時間）
29	卒論構想発表 2	卒業論文の構想について発表し、批判的視点からコメントをしたり、もったりすることにより、卒業論文の構想を改善する。	卒業論文の構想発表の準備とコメントによる改善。（1時間）
30	まとめ	卒業論文の方向性を決め、その分野の文献を読み、執筆準備を行う。	これまでの理解を振り返り、卒業論文の構成を完成させる。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法」村野井仁著（大修館書店） ISBN:978-4-469-24513-4（生協で購入してください。） 「はじめての英語教育研究」浦野研・亙理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹著（研究社） ISBN:978-4-327-42197-7（生協で購入してください。）		レポート：30% 課題：40% 実技：30% 実技とは授業中での発表等の評価を意味します。 S：授業内容を高度に理解し、テーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：授業内容をよく理解し、積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：授業内容を概ね理解し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：授業内容を理解し、課題に誠実に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
とくになし。		研究を進める上では、早めの行動と計画、積極的な取り組みが求められます。常に積極的に自分と他人の考えに対して批判的に考えてください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-19
担当者	安藤 江里			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。卒業研究を視野に入れ、音楽教育の目標に沿って具体的な指導内容や指導方法を学び、教育現場の実態把握と共にカリキュラム研究や教材研究を行います。最終的に各自が興味のある研究テーマを見つけ、研究方法について具体的な計画を立てます。											
学修到達目標											
学校現場や地域の現状を知り、教員としての課題発見能力を身につけ、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について理解している。またゼミナールの中での討議や文献資料、実践映像を通して論理的思考力や批判的思考力及びプレゼンテーション能力を身につけている。そして最終的に自分の研究テーマを決定できる。											
授業の進め方											
前期は、音楽教育の具体的な指導内容や方法を学び教材研究やITを用いた教材開発を行います。また教育実習などを通して教育現場での実践や子供の状況を把握し、後期は各自が取り組みたい研究の文献や資料を調べて収集しテーマを決定します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス			2年次の履修状況や学生生活について全体指導(個別把握)をします。演習担当の振り分けをします。				自分の履修状況を把握しておく。(1時間)			
2	学習指導要領の目標と指導内容(1)			教科書や指導書から低学年の内容を把握し、教材研究をします。				担当分野の事前予習をし、発表できるよう準備する。(1時間)			
3	学習指導要領の目標と指導内容(2)			教科書や指導書から中学年の内容を把握し、教材研究をします。				担当分野の事前予習をし、発表できるよう準備する。(1時間)			
4	学習指導要領の目標と指導内容(3)			教科書や指導書から高学年の内容を把握し、教材研究をします。				担当分野の事前予習をし、発表できるよう準備する。(1時間)			
5	様々な音楽活動の可能性			現場の映像ビデオから教育実習の授業作りや、総合的な学習、合科的な学習、学級の常時活動等で取り扱う教材の開発と指導法について学びます。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
6	器楽指導の方法と教材開発研究			器楽演習による様々な指導法を学び教材開発研究をします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
7	音楽づくりの指導法と教材開発研究			音楽づくりの演習を通して、様々な指導法を学び教材研究をします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
8	能動的な鑑賞授業の方法と教材開発研究			能動的な鑑賞の指導方法と教材研究をします。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
9	合科的な学習について			音楽科と他の教科との関わりや可能性について学び、具体的な方法を探求します。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
10	総合的な学習と教材開発			地域の様々な活動をテーマに総合的な学習をする中での音楽活動の可能性を探求します。				演習後、課題を整理し、各自が指導案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
11	幼小接続カリキュラムについて			子どもの発達を考慮し、幼小接続における音楽活動の可能性を探求します。				演習後、課題を整理し、各自が指導案や活動案を立てて実践し発表する準備をする。(1時間)			
12	活動実践例の発表(1)			教育実習や地域との関わりを通して、授業または音楽活動の実践例を模範的に発表し、全体で討議します。				レジュメを作成しプレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)			
13	活動実践例の発表(2)			教育実習や地域との関わりを通して、授業または音楽活動の実践例を模範的に発表し、全体で討議します。				レジュメを作成しプレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)			
14	指導実践例の発表(3)			教育実習や地域との関わりを通して、授業または音楽活動の実践例を模範的に発表し、全体で討議します。				レジュメを作成しプレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)			
15	前期のまとめ			前期の学習内容を振り返るとともに、夏休み中に進めるべき課題を明らかにしてその準備をします。				夏休み中の研究推進予定を立てておく。(1時間)			
16	後期のゼミガイダンス			夏休み中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。				夏休み中の研究成果をまとめておく。(1時間)			
17	研究課題と文献資料(1)			各自が取り組みたい課題と収集した資料を発表し討議します。				夏休み中の研究成果をまとめ発表できるように準備する。(1時間)			
18	研究課題と文献資料(2)			各自が取り組みたい課題と収集した資料を発表し討議します。				夏休み中の研究成果をまとめ発表できるように準備する。(1時間)			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究課題と文献発表	各自が取り組みたい課題と収集した資料を発表し討議します。	夏休み中の研究成果をまとめ発表できるように準備する。(1時間)
20	研究方法の検討(1)	研究課題に対し、具体的な研究方法を検討します。	演習後、各自で整理しまとめておく。(1時間)
21	研究方法の検討(2)	研究課題に対し、具体的な研究方法を検討します。	演習後、各自で整理しまとめておく。(1時間)
22	研究方法の検討(3)	研究課題に対し、具体的な研究方法を検討します。	演習後、各自で整理しまとめておく。(1時間)
23	研究テーマの決定(1)	各自が卒業論文のテーマを決定し、研究方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し研究の動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
24	研究テーマの決定(2)	各自が卒業論文のテーマを決定し、研究方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し研究の動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
25	研究テーマの決定(3)	各自が卒業論文のテーマを決定し、研究方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し研究の動機や問題と目的について考察しておく。(1時間)
26	構想発表会準備(1)	各自の研究テーマの動機や問題と目的を発表し、全員で討議します。	動機や問題と目的を文章化し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
27	構想発表会準備(2)	各自の研究テーマの動機や問題と目的を発表し、全員で討議します。	動機や問題と目的を文章化し、プレゼンテーションの練習をしておく。(1時間)
28	卒論構想発表会(1)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
29	卒論構想発表会(2)	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。(1時間)
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。(1時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		課題：50% レポート：50% S:指導内容を正しく理解し意欲的に教材研究や発表を行い、研究テーマの設定に沿った準備ができている。A:指導内容を理解し意欲的に教材研究や発表を行い、研究テーマの設定に沿った準備ができている。B:指導内容をある程度理解し教材研究や発表を行い、研究テーマを設定できている。C:指導内容に沿った教材研究を通して研究テーマを設定できている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし		演習形式の授業が多くなりますので、授業の中で行う共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-04
担当者	佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日1限、月曜日2限、木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れます。 ①算数・数学教育学における様々な研究に触れながら、②研究を進めていくための基礎的な知識を学びます。 最終的に、①学生が自ら興味のある研究テーマを見付け、②そのテーマに向けた研究方法について具体的に計画を立てます。											
学修到達目標											
学校や教育現場の現状を知り、独自の興味と関心から課題解決に向けた方策について、より理解できるようになる。具体的目標は、①教員としての課題発見能力を身に付け、観察方法や分析方法を理解することができ②ゼミナールの中で、討議や講読を通して、論理的思考力や批判的思考力を身に付け③プレゼンテーション能力を身に付け④研究のテーマを決定する。											
授業の進め方											
概説では、それぞれの担当教員や外部講師が各専門分野の研究について概説し、同時に質疑応答による討論を行います。また、後期の演習では、各自が希望する分野の研究について、文献を検索したりまとめたりして、自分の研究テーマと方法を決めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	2年次の履修状況や学生生活について全体指導（個別把握）をします。					自分の履修状況を把握しておく。（1時間）				
2	専門入門（1）	興味のある分野の文献を読み、レポートを発表して討論により理解を深めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
3	専門入門（2）	(1)同様に各自がレポートを発表し、討論の仕方や論文の書き方について理解を深めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
4	専門入門（3）	(1)(2)同様に議論を深めて自分の関心のある研究を見極めます。					事前に教員の専門分野を確認して予習しておき、演習後の確認テストに備える。（1時間）				
5	文献検索の方法（1）	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学びます。					図書館やパソコン室利用について習熟しておく。（1時間）				
6	文献検索の方法（2）	図書館やパソコン室を利用して、文献検索の方法を学び、実際に収集します。					各自が独自の活動計画や研究計画に基づき、関心のある文献を検索しておく。（1時間）				
7	研究の方法（1）	質問紙を作成して調査し、それを数値化して分析検討する方法を学びます。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
8	研究の方法（2）	フィールドワークとして学校現場などで子供や教師を観察し、データを集め分析検討する方法を学びます。					学校現場等での学外教育活動への体験をまとめておく。				
9	研究の方法（3）	学校現場などで、実際に子どもと関わりながら、観察してデータを集め、分析検討する方法を学びます。					学校現場等での学外教育活動への体験をまとめておく。（1時間）				
10	研究の方法（4）	これまでの先人の研究や文献を読み、分析検討することで新たな知見を得る文献研究の方法を学びます。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
11	研究の方法（5）	ある学級について深く関わり、自ら支援することでよりよい指導法を探る事例研究の方法を学びます。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
12	研究の方法（6）	過去の卒業生や他大学の卒業論文を読み、研究の進め方や方法について具体的に理解します。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
13	教育実習と卒業研究（1）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					実習記録やボランティア活動を整理、研究との関連をまとめておく。（1時間）				
14	教育実習と卒業研究（2）	教育実習やボランティア活動を経験して、これまで自分が興味関心のあった研究分野を振り返り、研究内容をより具体的にします。					事前に配付する資料を熟読し、自分なりに分析方法を考える。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返るとともに、夏季休業中に行う課題を明らかにします。そして準備をしていきます。					夏季休業中の研究予定を立てておく。（1時間）				
16	後期のゼミガイダンス	夏季休業中の課題の報告と、後期の研究の進め方についてガイダンスをします。特に卒論構想発表会の持ち方を理解し、これからの見通しを持ちます。					夏季休業中の研究成果をまとめておく。（1時間）				
17	文献発表（1）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）				
18	文献発表（2）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。					事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	文献発表（3）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
20	文献発表（4）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
21	文献発表（5）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
22	文献発表（6）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
23	文献発表（7）	自分で収集した文献を当番制で発表し、全員で議論し討論します。	事前にレジュメを作成し、プレゼンテーションの練習をしておく。（1時間）
24	研究テーマの決定（1）	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
25	研究テーマの決定（2）	各自で研究テーマと方法を発表し、全員で討議します。	研究テーマを決定し、動機や問題と目的について考察しておく。（1時間）
26	研究テーマの決定（3）	問題と目的を発表し、全員で討議します。	問題と目的を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
27	研究テーマの決定（4）	問題と目的を発表し、全員で討議します。	問題と目的を文章化し、発表の準備をしておく。（1時間）
28	卒論構想発表会（1）	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
29	卒論構想発表会（2）	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解し合い、問題点を修正します。	研究の構想発表と4年次の推進計画を立てておく。（1時間）
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をまとめておく。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配付します。また、学生自身も資料を準備してください。尚、資料は必ず保管しておいてください。		課題：20% レポート：80% S：授業内容を高度に理解する。また、クリティカルに物事を捉え、論理的に考えることができる。さらに、探究心をもち自ら課題を設定して取り組むことができる。A：授業内容を理解する。また、クリティカルに物事を捉え考えることができる。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。B：授業内容を概ね理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。C：授業内容を60%程度理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
参考図書は、随時紹介したり指示したりします。		レポート作成は事前に行うことです。主体的な学びを子どもに求めていく時代です。学生自身がそのことを意識して参加することです。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
教職研究基礎ゼミナールで学んだことを基にして、研究したい分野の先行研究を読みながら自分自身の研究テーマを明確にします。さらに、卒業論文の研究の指針や計画の立て方、先行研究の批判的読み方などを総合的に学びます。											
学修到達目標											
英語学を含む言語学の知識を深め、研究方法や論文執筆の方法などを学び、研究テーマを設定することができる。また、先行研究を批判的に読むことができる。											
授業の進め方											
前期は、認知言語学を中心に基礎的な知識に関する講義を主に行います。また、指定された文献等を批判的に読み議論します。後期は、先行研究を批判的に読み、その内容を発表し議論します。また、自分の研究の方向性を考えたり、発表したりします。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス	3年次の研究の進め方について考え、自分の興味のある分野について考えます。また、認知言語学とはどんな研究分野かを学修します。					英語学・言語学分野で興味や関心のある分野について考える。（1時間）				
2	言語的動機付け・記号性と意味	なぜ言葉がそのように存在しているのか、言葉の記号性とその意味などについて学修します。					言葉の恣意性と動機付けについて考える。（1時間）				
3	ものの見方と意味	認知的際立ち、焦点化、心的走査と主観的移動などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
4	プロトタイプ	プロトタイプ理論、カテゴリー化とその境界、文化によるステレオタイプなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
5	抽象化とスキーマ	抽象性と具体性、抽象化、スキーマとその活用などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
6	イメージスキーマ	英語前置詞のイメージスキーマ、イメージスキーマの定義、容器のイメージスキーマ、トラジェクタとランドマークなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
7	意味ネットワーク	意味ネットワーク、言葉の多義性などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
8	メタファー	言語学研究における「比喻」について学修します。特に、メタファー、類似性によるメタファーと類似性のレベルなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
9	メトニミー	メトニミーと近接性、メトニミーの方向性などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
10	概念メタファー	修辭学的なメタファーにとどまらない、認知言語学の理論の中でも特に重要な概念メタファーについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
11	方向性のメタファー	位置関係とメタファー、メタファーと共起性などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
12	言語における色	言語によって色がどのように捉えられているか、また言語によって色の切り分け方がどうなっているかなどについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
13	構文と意味	行為の連鎖・ビリヤードモデル、構文における主語、二重目的語構文などの諸概念について学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
14	言葉のダイナミズムと文化	変化し続ける言葉について考えます。言葉のシステムがどう変化するか、文化が言葉に及ぼす影響などについて学修します。また、予め指定された文献を読み、それについて議論します。					予め指定された文献を読み、各概念について考える。（1時間）				
15	前期のまとめ	前期で見てきた認知言語学の各概念についてのまとめを行います。また、後期に向けて、文献の検索の仕方や研究テーマの探し方などについて考えます。					これまでに学修した各概念を復習し、自分の興味のある研究分野について考える。（1時間）				
16	後期へのオリエンテーション	前期で学修した認知言語学の基礎知識を基にして、研究をどのように進めていけばよいか、目的や方法、そのプロセスなどについて考えます。					自分の興味のある分野や言語学的に興味のある現象などをリストアップしておく。（1時間）				
17	言語研究の方法1	自分の興味・関心や言語学的に特異な現象を基に、どのように分析し研究を進めていけばよいかについて考えます。各自が言語学的に面白いと感じた現象を発表し、グループで議論します。					言語学的に不思議な現象や文法的に疑問に思うことなどについてリストアップする。（1時間）				
18	言語研究の方法2	各自がリストアップした言語現象や疑問に思う文法項目などについて、分析的にその現象を捉えグループで議論します。					言語学的に不思議な現象や文法的に疑問に思うことなどについてリストアップする。（1時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	言語研究の方法3	各言語現象を分析し、言語学的に理論的な説明を行う方法を考えます。言語事象を論理的に説明できるようにするにはどうすればよいかを議論し発表します。	リストアップした言語現象について、各理論を元に、どのように説明できるか考える。（1時間）
20	言語研究の方法4	言語事象を論理的に説明する方法を学びながら、自分自身が関心のあるテーマを考えます。グループで議論した言語事象とその説明が、自分の興味関心のある分野とどうつながるかなどについて考えます。	リストアップした言語現象について、各理論を元に、どのように説明できるか考える。（1時間）
21	言語研究の方法5	興味関心のあるテーマについて、論理的に説明するためにはどのようにデータを収集すればよいか、データをどのように分析すればよいか等について学修します。	コーパス（COCA）の使い方について予め調べておく。（1時間）
22	研究方法の検討1	各自のテーマに基づき、研究の方向性や分析方法などについて考えます。関心のあるテーマについて、先行研究や分析方法などについて順番に発表し、批判的にコメントします。	大まかな研究テーマとそれに関する先行研究を読み、内容や分析方法についてまとめる。（1時間）
23	研究方法の検討2	各自のテーマに基づき、研究の方向性や分析方法などについて考えます。関心のあるテーマについて、先行研究や分析方法などについて順番に発表し、批判的にコメントします。	大まかな研究テーマとそれに関する先行研究を読み、内容や分析方法についてまとめる。（1時間）
24	研究方法の検討3	各自のテーマに基づき、研究の方向性や分析方法などについて考えます。関心のあるテーマについて、先行研究や分析方法などについて順番に発表し、批判的にコメントします。	大まかな研究テーマとそれに関する先行研究を読み、内容や分析方法についてまとめる。（1時間）
25	研究テーマ決定1	具体的な研究テーマとその研究方法について順番に発表し、批判的コメントをもらいます。それらを受け、研究の方向性について再検討します。	具体的な研究テーマを決め、研究の方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）（1時間）
26	研究テーマ決定2	具体的な研究テーマとその研究方法について順番に発表し、批判的コメントをもらいます。それらを受け、研究の方向性について再検討します。	具体的な研究テーマを決め、研究の方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
27	研究テーマ決定3	具体的な研究テーマとその研究方法について順番に発表し、批判的コメントをもらいます。それらを受け、研究の方向性について再検討します。	具体的な研究テーマを決め、研究の方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
28	卒業論文テーマの確定1	卒業論文のテーマを確定させ、研究を実現させるための道筋を再確認します。それぞれのテーマについて批判的にコメントをし、卒業論文執筆のための方向性を再検討し改善します。	卒業論文のテーマを確定させ、具体的な研究方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
29	卒業論文テーマの確定2	卒業論文のテーマを確定させ、研究を実現させるための道筋を再確認します。それぞれのテーマについて批判的にコメントをし、卒業論文執筆のための方向性を再検討し改善します。	卒業論文のテーマを確定させ、具体的な研究方法や方向性を発表するための準備を行う。（1時間）
30	後期まとめ	卒業論文執筆のための最終確認を行います。先行研究の再検討や更なる文献を検索するなどの準備を行います。	1年間の学修を振り返り、卒業論文執筆の最終準備を行う。（1時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「各授業毎に、事前に文献や論文等を指定します。」		課題：40% レポート：30% 実技：30% S:授業内容を高度に理解し、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同レベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「特になし。」		積極的に授業に参加する姿勢が大切です。また、各概念や理論の予習を必ず行ってください。指定された文献には必ず目を通してください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-02
担当者	大藏 真由美			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日4限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年次後期の教職研究基礎ゼミナールで学んだ内容を基礎として、卒業論文作成の準備を行うゼミナールです。本ゼミでは、教育の歴史に関する知見を広め、深めることを目的としていますので、これまでに身につけた文献収集の技能を活用して、各自の興味関心のある領域の文献を読み込みます。さらに、卒業論文作成に向け、研究の進め方や論文の書き方といった具体的事柄についても理解し、その実践として、研究レポートをまとめることを目指します。											
学修到達目標											
1. 研究の進め方、論文の書き方について理解している。2. 研究を進める方法、報告の方法を身につけている。3. 積極的に考え、議論する態度を身につけている。4. 自分で考察を深めたい教育の歴史に関するテーマを明確に定めている。5. 自分が設定した研究テーマを深め、まとめる力を身につけている。											
授業の進め方											
担当者による報告とその内容に関する考察を深めるためのディスカッションを中心に進めていきます。必要に応じて講義形式の授業も行います。必要に応じて4年次ゼミと合同になることがあります。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	ガイダンス1	授業内容及び授業の進め方の説明をします。					シラバスの熟読、教職研究基礎ゼミナールの復習及び教育に関する歴史の復習(1時間)。				
2	教育についての歴史	教育の歴史に関する事柄について、各自がどのような内容に興味を持っているかを共有します。また、報告の順番を決めます。					前時の復習、教育に関する歴史の復習、報告の準備(1時間)。				
3	研究の方法1	研究の進め方について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
4	研究の方法2	論文の書き方について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
5	研究の方法3	教育史の史料、資料について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
6	研究の方法4	教育史の時期区分について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
7	研究の方法5	教育史の問題意識について説明します。					前時の復習、授業時に指示した文献の読み、報告の準備(1時間)。				
8	研究の方法6	教育史の研究に関するここまでのまとめを行います。					前時の復習、授業時に指示した課題の作成、報告の準備(1時間)。				
9	文献講読1	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の復習、報告の準備(1時間)。				
10	文献講読2	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
11	文献講読3	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
12	文献講読4	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
13	文献講読5	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
14	文献講読6	担当者の報告と、その内容についてのディスカッションを行います。					前時の報告・ディスカッションのまとめ、報告の準備(1時間)。				
15	前期のまとめ	各自の報告及びディスカッションの内容を振り返り、総括します。また、夏休み中のそれぞれの課題を明確にします。					第9回から第14回の報告及びディスカッションの復習(1時間)。				
16	ガイダンス2	後期授業の進め方について説明します。また、報告の順番を決めます。					前期授業の復習(1時間)。				
17	課題の報告1	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。				
18	課題の報告2	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。					報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	課題の報告3	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。	報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。
20	課題の報告4	夏季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。	報告の準備、ディスカッションのまとめ(1時間)。
21	研究テーマの検討1	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
22	研究テーマの検討2	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
23	研究テーマの検討3	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
24	研究テーマの検討4	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
25	研究テーマの検討5	前期の文献講読、夏季休業中の課題の報告に基づき、各自がこれから取り組むテーマについての報告とその検討を行います。	報告の準備、検討内容のまとめ、研究レポートの作成(1時間)。
26	研究レポート発表会1	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
27	研究レポート発表会2	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
28	研究レポート発表会3	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
29	研究レポート発表会4	各自が作成した研究レポートの発表会を行います。	発表の練習、発表のまとめ(1時間)。
30	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、総括します。また、卒業論文作成に向けた自己課題を明確にします。	これまでの授業全体の復習(1時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
使用しません。必要に応じて資料を配布します。		受講態度：30% レポート：70% 受講態度(討論等への意欲)、レポート(報告、討論のまとめ等)を総合して評価します。 <評価基準>S:自発的学修、意欲的授業参加。多角的視点から研究テーマを探究し、自らの知見を論理的に説明できる。A:意欲的授業参加。いくつかの視点から研究テーマを捉え論理的に説明できる。B:授業に参加し、研究テーマを一つの視点から論じることができる。C:授業に参加し、研究テーマに必要な事柄を調べ、まとめた。	
参考書		履修上の注意(学生へのメッセージ)	
授業の進捗に合わせて紹介していきます。		報告とディスカッションにより進む授業ですので、互いに学びあう姿勢を大切にしてください。また、卒業論文執筆に向けた授業であることを常に意識して参加してください。	

科目名	教職研究ゼミナール			学年学期	3年通年	単位数	2	ナンバリング	AL36074	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限、火曜日4限、火曜日5限、水曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年後期からの教職研究基礎ゼミナールに引き続き、指導教員の専門領域を中心とした研究の基礎知識を学びます。また、卒業研究を視野に入れ、発達障害、知的障害等や特別支援教育領域における先行研究の検討を通して課題の整理を行い、卒業論文テーマを決定していきます。											
学修到達目標											
知的障害や発達障害等に関わる学校や教育現場の研究動向を知り、各自が取り組む課題を具体的に決定します。また、教員としての問題発見能力を身につけ、様々な研究方法について理解することができること。ゼミナールの中での討論や購読を通して論理的思考力や批判的思考力を身につけていること。プレゼンテーション能力を身につけていること。											
授業の進め方											
関心のある領域に関する先行研究の検討を重ね、研究動向や議論の状況を丁寧に把握していきます。後期には検討した研究動向をふまえて各自の研究テーマと方法を決定します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ		内容					事前事後学修			
1	ガイダンス		2年次の履修状況や今後の課題について確認と指導をします。					自分の履修状況を把握しておく。（1時間）			
2	先行研究や文献の検討①		2年次後期に引き続き、関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
3	先行研究や文献の検討②		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
4	先行研究や文献の検討③		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
5	先行研究や文献の検討④		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
6	先行研究や文献の検討⑤		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
7	先行研究や文献の検討⑥		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
8	先行研究や文献の検討⑦		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
9	先行研究や文献の検討⑧		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
10	先行研究や文献の検討⑨		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
11	先行研究や文献の検討⑩		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
12	先行研究や文献の検討⑪		関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			
13	教育実習と卒業研究①		教育実習やボランティア活動の経験を、卒業研究と関連させて研究テーマを検討します。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（2時間）			
14	教育実習と卒業研究②		教育実習やボランティア活動の経験を、卒業研究と関連させて研究テーマを検討します。					実習記録やボランティア活動の記録を整理し、研究との関連をまとめておく。（2時間）			
15	前期のまとめ		前期の学習内容を振り返るとともに、夏休みに進めるべき課題を明らかにします。					夏休み中の研究推進予定を立てておく。（2時間）			
16	後期のゼミガイダンス		後期の研究の進め方についてガイダンスします。					夏休み中の課題報告をまとめる（2時間）			
17	夏休みの課題報告		夏休みの課題報告と、報告を踏まえて特に卒論構想発表会の持ち方を理解しこれからの見通しを持ちます。					夏休み中の課題報告と今後の課題を確認する。（1時間）			
18	先行研究や文献の検討⑫		引き続き、関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。					先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	先行研究や文献の検討⑬	引き続き、関心領域の先行研究や文献を読み、まとめることで研究テーマを探っていきます。	先行研究や文献をよく読み、まとめておく。（2時間）
20	研究テーマの決定①	先行研究や文献の検討を通して、各自の研究テーマを決定します。	これまでの検討内容を振り返り、具体的なテーマ案を作成する。（2時間）
21	研究テーマの決定②	先行研究や文献の検討を通して、各自の研究テーマを決定します。	これまでの検討内容を振り返り、具体的なテーマ案を作成する。（2時間）
22	研究テーマの決定③	先行研究や文献の検討を通して、各自の研究テーマを決定します。	これまでの検討内容を振り返り、具体的なテーマ案を作成する。（2時間）
23	研究構想の検討①	決定した研究テーマについて、問題の所在・目的・方法等の具体的な構想を作成・検討します。	研究構想の項目に合わせて資料を作成する。（2時間）
24	研究構想の検討②	決定した研究テーマについて、問題の所在・目的・方法等の具体的な構想を作成・検討します。	研究構想の項目に合わせて資料を作成する。（2時間）
25	研究構想の検討③	決定した研究テーマについて、問題の所在・目的・方法等の具体的な構想を作成・検討します。	研究構想の項目に合わせて資料を作成する。（2時間）
26	卒論構想発表会準備①	卒論構想発表会に向けて資料を作成・検討します。	プレゼンテーション資料作成の準備を行なう。（2時間）
27	卒論構想発表会準備②	卒論構想発表会に向けて資料を作成・検討します。	プレゼンテーション資料作成の準備を行なう。（2時間）
28	卒論構想発表会①	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	他者からの意見や指導を踏まえて構想を修正する。（2時間）
29	卒論構想発表会②	卒論の構想発表会を行い、互いの研究を理解しあい、問題点を修正します。	他者からの意見や指導を踏まえて構想を修正する。（2時間）
30	まとめ	1年間の活動を振り返り、来年度の本格的な研究推進を確認します。	1年間の学修をポートフォリオにまとめておく。（2時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
内容に応じた必要資料を配布します。なお、資料は必ず保管しておいてください。		受講態度：50% 課題：50% S：論文検索や検討方法を正しく理解し、討論や発表、課題に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。A：論文検索や検討方法をほぼ理解し、討論や課題、発表に意欲的に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。B：論文検索や検討方法をある程度理解し討論や発表、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備ができている。C：論文検索や検討方法を理解し、課題に取り組み、設定した卒業研究テーマに沿った準備を努力している。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
特になし。		演習形式の授業が中心となりますので、授業の中で行なう共同作業および討論への積極的な参加が望まれます。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-18
担当者	川島 一夫			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日3限、木曜日4限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め卒業論文にまとめます。研究の領域は①社会性の発達を中心とした児童・生徒の発達に関する内容、②不登校やいじめなどの学校および学校を中心とした教育場面での生徒指導に関する内容、③臨床心理学を基礎とした子どもの問題行動に関する内容に分けることができます。また、学校に限らず子どもに関連する心理学的な内容であればどのような課題も研究の対象となります。さらに学際的な研究も可能です。											
学修到達目標											
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめることができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。											
授業の進め方											
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。					事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第1グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第2グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第3グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。					検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。					論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関しても個別指導をします。					章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。					論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する(2)	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。					初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん仲間との研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-17
担当者	岸田 幸弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は①児童・生徒の発達に関する内容、②不登校やいじめなどの学校および学校を中心とした教育場面での生徒指導に関する内容、③学級経営や学級集団づくりに関する内容に分けることができます。											
学修到達目標											
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得することができる。											
授業の進め方											
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。					事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討①	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は第1グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討②	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は第2グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討③	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は第3グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始します。					検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集①	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集②	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集③	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。					事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集④	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関しても個別指導をします。					章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	プロットの最終検討と決定・論文の書き方①	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方②および、論文の初稿を作成する①	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。					論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する②	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する③	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表①	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表②	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を修正し、討議・指導された内容についてさらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。					プレゼンテーションの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する①	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する②	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する③	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する①	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する②	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する③	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：70% レポート：20% 受講態度：10% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-03
担当者	増田 吉史		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日5限、木曜日1限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
教科指導（算数教育）と学級経営の関連を中心に、3年次の教職研究ゼミナールの研究主題や設定理由で方向付けしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目ごとに、学生自ら研究主題を決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめていきます。										
学修到達目標										
学生自ら発表や論文をまとめる前に、お互いを尊重し相互評価を繰り返し、質疑応答を通して、より精度の高い研究になるように協力し合うことができる。また、ゼミナールの意義を考え、ゼミナールの仲間の存在を大切にしながら最終まとめができる。										
授業の進め方										
4年間の学びをまとめ、卒業後の自分の進路と関係づけ、卒業研究を通して、自らの研究に取り組む姿勢を高め、子どもを見る目や教育への愛情を高めるように進めます。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	研究論文作成の計画を確認します		4年次は自分の研究の完成だけでなく、ゼミナール仲間をしっかりと意識しあう姿勢を持ちます。				研究主題を明確にします。（4時間）			
2	研究主題を再確認します		4年次は自分の研究の完成だけでなく、ゼミナール仲間から多くのことを学ぶ姿勢を大切にします。				研究主題設定の理由を確認します。（4時間）			
3	研究主題に対する検討をします		4年次は自分の研究の完成だけでなく、ゼミナール仲間から多くのことを学ぶ姿勢を大切に、お互いに質問し合い、高め合います。				研究の方法をまとめます。（4時間）			
4	研究主題設定理由の検討をします		ゼミナール仲間の研究も完成に近づきます。あらためて仲間から多くのことを学ぶ姿勢を大切に、お互いに高め合います。				研究計画をまとめます。（4時間）			
5	研究構想図の最終確認をします		ゼミナール仲間の研究を自分のとらえ、様々な感性を持った教員を尊重しあう姿勢を持ちます。				研究構想図を完成します。（4時間）			
6	研究内容の章立てを決めます		ゼミナール仲間の研究を自分のとらえ、様々な感性を持った教員を尊重しあう姿勢を持ちます。				論文の体裁を整えます。（4時間）			
7	研究内容の完成を目指します		ゼミナール仲間の研究を自分のとらえ、様々な感性を持った教員を尊重しあう姿勢を持ちます。				論文の体裁を整えます。（4時間）			
8	研究論文としてまとめます		ゼミナール仲間から表現の工夫をお互いに学び合います。				文章表現を最後まで確認します。（4時間）			
9	研究論文としてまとめます		ゼミナール仲間から表現の工夫をお互いに学び合います。				文章表現を最後まで確認します。（4時間）			
10	研究論文の初稿に入ります		ゼミナール仲間のプレゼンの工夫をお互いに学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。（4時間）			
11	研究論文の初稿に入ります		ゼミナール仲間のプレゼンの工夫をお互いに学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。（4時間）			
12	研究論文の初稿に入ります		ゼミナール仲間のプレゼンの工夫をお互いに学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。（4時間）			
13	研究論文の初稿完成を目指します		ゼミナール仲間の最終段階をお互いに助け合い、学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。（4時間）			
14	研究論文の初稿完成を目指します		ゼミナール仲間の最終段階をお互いに助け合い、学び合います。				他の原稿もしっかりと読み合います。（4時間）			
15	夏休みの研究計画を立てます		ゼミナール仲間の最終段階をお互いに助け合い、学び合います。				前期のまとめをし、後期に備えます。（4時間）			
16	中間報告書を完成します		ゼミナール仲間の中間報告をお互いにしっかりと読み合います。				プレゼンの工夫をします。（4時間）			
17	中間発表のプレゼンを完成します		ゼミナール仲間の中間報告をお互いにしっかりと読み合います。				プレゼンの工夫をします。（4時間）			
18	中間発表のプレゼンを完成します		ゼミナール仲間の中間報告をお互いにしっかりと読み合います。				プレゼンの工夫をします。（4時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会をします	中間報告をお互い助け合います。	中間発表を成功させます。 (4時間)
20	論文の修正に入ります	中間報告をお互い助け合います。	中間発表を成功させます。 (4時間)
21	論文の第2稿を作成します	後輩のために、よりよい報告諸作成を意識します。	記録を残します。(4時間)
22	論文の第2稿を作成します	後輩のために、よりよい報告諸作成を意識します。	記録を残します。(4時間)
23	論文の第2稿を検証します	後輩のために、よりよい報告諸作成を意識します。	記録を残します。(4時間)
24	論文の最終稿を作成します	後輩のために、研究の記録を残します。	記録を残します。(4時間)
25	論文の提出準備に入ります	後輩のために、研究の記録を残します。	将来展望を待ちます。(4時間)
26	論文の提出を完了します	よりよい将来展望を持ち、希望と期待を高めます。	将来展望を待ちます。(4時間)
27	ゼミ発表会のプレゼン準備をします	よりよい将来展望を持ち、希望と期待を高めます。	将来展望を待ちます。(4時間)
28	ゼミ発表会をします	よりよい将来展望を持ち、希望と期待を高めます。	将来展望を待ちます。(4時間)
29	研究のまとめをします	4年間の総まとめをします	将来展望を待ち、準備をします。 (4時間)
30	研究のまとめをします	4年間の総まとめをします	将来展望を待ち、準備をします。 (4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じた参考書を必要に応じて提示します。		課題：20% レポート：80% S:学生自ら高度に相互評価をし、質の高い質疑応答をし、精度の高い研究にしようと協力し合い、ゼミナールの意義を体現している。A:学生自ら相互評価し合い、質疑応答をし合い、研究の協力し合いながら、ゼミナールの意義を体現している。B:学生自ら相互評価し合い、質疑応答をし合い、研究の協力し合いながら、ゼミナールの意義を支援を受けながら体現している。C:学生自ら相互評価し、質疑応答をし、支援を受けながら、最終的にゼミナールの意義を外さないように体現する努力をしている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
必要に応じて提示します。		研究論文をまとめることが目標ではなく、その過程を通し学校教育に対する積極姿勢を持ち、教員と資質を高め、見識の高い人間の育成を自ら目指します。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-13
担当者	今泉 博			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、授業や生活指導（「いじめ」や不登校、体罰問題）等、学校現場、学校教育で課題となっているさまざまな課題が研究対象になります。											
学修到達目標											
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。											
授業の進め方											
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。					事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討（1）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討（2）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討（3）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集（1）	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケートの作成など各自テーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。					検討結果を受けて最終的なテーマを設定する。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集（2）	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集（3）	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集（4）	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。					論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集（5）	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関しても個別指導をします。					章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方（1）	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方（2）および論文の初稿を作成する（1）	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。					論文の書き方を理解し、第1章執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する（3）	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する（3）	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表（1）	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表（2）	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。					初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成します。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成します。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探究姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探究姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探究姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん、仲間の研究にも関心をもつことが研究を深め視野を広げます。多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-16
担当者	守 一雄			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の対象は学校教育に関わるすべての現象が含まれますが、データ取得して科学的に実証できるような研究方法を用いることが求められます。また、学校に限らず子どもに関連する心理学的な内容であれば、どのような課題も研究の対象となります。さらに、学際的な研究も可能です。											
学修到達目標											
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。											
授業の進め方											
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。課題の取り組みと研究の進行状況によって発表や討論を通して、受講者相互に問題点の問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。					事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第1グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第2グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	統計学の基礎知識	卒業研究に必要な統計学の基礎知識について総復習する。参考図書の内容で理解できていないところを確認し、学びなおす。					参考図書の内容を復習しておく。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。					検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。					事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関しても個別指導をします。					章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。					論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する(2)	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。					事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。					論文の初稿を修正する。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。					初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「実践心理データ解析（改訂版）」田中 敏著（新曜社） ISBN:978-4788510128（生協で購入してください。）		課題：20% 卒業研究論文：80% S：探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A：探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を理解し、優れた内容が論文作成されている。B：探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を理解し、論文作成されている。C：積極的に課題に取り組み、研究課題や方法をある程度理解し、論文作成されている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「まんがと図解でわかる統計学」向後千春著（宝島社文庫） ISBN：978-4800225009 「教育心理学」の課題図書と同じものです。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。積極的に自らの研究内容を提示するのはもちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-12
担当者	小島 哲也		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日5限、木曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業研究にまとめます。障害のある子どもの心理または指導法分野に限らず、特別支援教育に関連する内容であればどのような課題でも研究の対象になります。										
学修到達目標										
①これまでの学習を活かし、研究を進め研究論文にまとめていくことができる。②研究を進める上で必要となる論理的思考力、情報リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション等のスキルを獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じて継続的に行う個別指導が中心となります。同時に、受講生が相互に研究情報や問題点を共有し、多角的な視点で研究を深めながら論文完成を目指します。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容					事前事後学修			
1	ガイダンス	専門ゼミナールの目的、事前事後学習の方法等について解説を行います。					研究テーマを明確にしておく。（4時間）			
2	卒論作成のスケジュール	卒論発表会までのスケジュールを確認して研究計画書の作成にとりかかります。					次回までに研究計画書を作成する。発表準備をしておく。（4時間）			
3	研究テーマ①	各自の研究テーマを再確認する。					発表準備をしておく（4時間）			
4	研究テーマ②	研究計画の発表（Aグループ）					発表準備をしておく（4時間）			
5	研究テーマ③	研究計画の発表（Bグループ）					発表準備をしておく。資料・データ収集の状況を把握しておく。（4時間）			
6	資料・データ収集①	資料・データ収集に関する個別指導（Aグループ）					発表準備をしておく。資料・データ収集の状況を把握しておく。（4時間）			
7	資料・データ収集②	資料・データ収集に関する個別指導（Bグループ）					発表準備をしておく。資料・データ分析の状況を把握しておく。（4時間）			
8	資料・データ分析①	資料・データ分析に関する個別指導（Aグループ）					発表準備をしておく。資料・データ分析の状況を把握しておく。（4時間）			
9	資料・データ分析②	資料・データ分析に関する個別指導（Bグループ）					論文構成を検討しておく（4時間）			
10	論文構成①	論文構成の指導（Aグループ）					論文構成を検討しておく（4時間）			
11	論文構成②	論文構成の指導（Bグループ）					初稿の筋立てを検討しておく（4時間）			
12	論文初稿①	初稿執筆に関する指導（Aグループ）					初稿の筋立てを検討しておく（4時間）			
13	論文初稿②	初稿執筆に関する指導（Bグループ）					発表準備をしておく（4時間）			
14	論文初稿③	初稿発表と検討（Aグループ）					発表準備をしておく（4時間）			
15	論文初稿④	初稿発表と検討（Bグループ）					プレゼン資料の準備をする（4時間）			
16	中間発表①	発表用プレゼン資料作成（Aグループ）					プレゼン資料の準備をする（4時間）			
17	中間発表②	発表用プレゼン資料作成（Bグループ）					口頭発表原稿を作成しておく（4時間）			
18	中間発表③	A, Bグループおよび3年ゼミ生が合同で卒論中間発表を行う。					発表会で明らかになった課題を整理しておく（4時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	論文第2稿①	第2稿執筆に関する指導（Aグループ）	指導内容をふまえ発表準備をしておく（4時間）
20	論文第2稿②	第2稿執筆に関する指導（Bグループ）	指導内容をふまえ発表準備をしておく（4時間）
21	論文第2稿③	第2稿発表と検討（Aグループ）	指摘事項を踏まえ最終稿の内容を検討しておく（4時間）
22	論文第2稿④	第2稿発表と検討（Bグループ）	指摘事項を踏まえ最終稿の内容を検討しておく（4時間）
23	論文最終稿①	最終稿＜序論＞執筆に関する指導（Aグループ）	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
24	論文最終稿②	最終稿＜序論＞執筆に関する指導（Bグループ）	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
25	論文最終稿③	最終稿＜本論＞執筆に関する指導（Aグループ）	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
26	論文最終稿④	最終稿＜本論＞執筆に関する指導（Bグループ）	指導事項を踏まえ修正加筆する（4時間）
27	論文最終稿⑤	最終稿完成のための指導（A, Bグループ合同）	指導事項を踏まえ修正加筆する。ゼミ発表の準備をしておく。（4時間）
28	卒論ゼミ発表①	A, Bグループおよび3年ゼミ生が合同で卒論発表を行う。	指導事項を踏まえ修正加筆する。卒論発表の準備を始める。（4時間）
29	卒論ゼミ発表②	卒業論文発表会のプレゼン用資料作成の指導（A, Bグループ合同）	指導事項を踏まえ卒論発表のプレゼン資料、口頭発表原稿を作成する。（4時間）
30	卒論ゼミ発表③	卒業論文発表会における口頭発表	卒論冊子を2部作成する（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
必要な資料は個別に適宜紹介または配布します。		受講態度：20% レポート：40% 課題：40% 成績評価は原則として以下の基準に基づいて行う。 S：研究課題を高度に理解するとともに、積極的な探求姿勢をもって論文執筆に取り組んでいる。A：研究課題を理解し、探求姿勢をもって論文執筆に取り組んでいる。B：研究課題をおおよそ理解し、論文執筆に誠実に取り組んでいる。C：研究課題をある程度理解し、論文執筆に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
参考図書は個別に適宜紹介します。		授業内容に関する質問や意見は、授業時間以外にオフィスアワーでも対応します。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-10
担当者	小林 敏枝			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限、木曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要											
これまで教職研究ゼミナールや授業で学んできた内容を基礎として、研究テーマを設定し研究を深め、卒業論文としてまとめます。研究の領域は、障がいのある子どもの余暇・健康・スポーツ支援に関わる分野で各自の研究テーマを設定し、先行研究・文献などにより課題を深めます。また、ムーブメント教育についての理解を深め、特別支援教育における運動発達支援について、広い視野から研究を進め論文を完成させます。											
学修到達目標											
基礎的な学習を活かして、卒業論文をまとめることができる。研究を進める過程で、論理的な思考力を身につけ、データを分析・考察する力を養い、論文発表に必要なプレゼンテーション能力を身につける。											
授業の進め方											
研究テーマの決定や研究の進め方などに関しての個別指導と相互の研究を共有化するなどのグループでの学習を組み合わせ進めます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成の進め方の確認	卒業論文作成・発表のスケジュールを確認し、各自の研究計画作成に取り掛かります。					事前に研究テーマを明確にしておく。研究計画を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの設定	研究テーマと設定理由について確認します。					研究テーマと設定理由を事前にレポートにまとめる。テーマの設定について再確認する。（4時間）				
3	先行研究の収集と分析（1）	先行研究・文献を参考として、研究テーマの概要および研究計画を作成します。					先行研究・文献を検索し、一覧を事前に作成する。テーマ概要の見直しと研究計画立案。（4時間）				
4	先行研究の収集と分析（2）	先行研究・文献を参考として、研究テーマの概要および研究計画を作成します。					先行研究・文献を検索し、一覧を事前に作成する。テーマ概要の見直しと研究計画立案。（4時間）				
5	研究テーマ・目的について相互に共有します。	研究構想のプレゼンテーションを行い、相互に問題点や課題を共有します。					研究構想のプレゼンテーションの準備を行う。研究構想の問題点・課題をまとめる。（4時間）				
6	研究目的の検討と文章化	研究目的の文章化を行い、検討します。					研究目的を文章化したレポートを準備する。研究目的の見直しを行う。（4時間）				
7	調査計画及び資料の収集（1）	研究目的・概要を踏まえて、調査計画を立案します。さらに、実施準備に関わる資料の収集を行います。					調査計画概要の事前準備。関連資料収集。調査計画の見直し、資料の読み直しを行う。（4時間）				
8	調査計画及び資料の収集（2）	研究目的・概要を踏まえて、調査計画を立案します。さらに、実施準備に関わる資料の収集を行います。					調査計画概要の事前準備。関連資料収集。調査計画の見直し、資料の読み直しを行う。（4時間）				
9	調査実施・データ収集（1）	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。					調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。（4時間）				
10	調査実施・データ収集（2）	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。					調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。（4時間）				
11	調査実施・データ収集（3）	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。					調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。（4時間）				
12	調査実施・データ収集（4）	調査を実施する。測定等のデータ収集を行います。					調査の準備及び確認を十分に行う。調査データの取りまとめを行う。（4時間）				
13	データ集計・分析（1）	調査結果の集計を行う。集計方法・分析方法の検討を行います。					収集したデータのとりまとめを行う。また分析結果の検討を行う。（4時間）				
14	データ集計・分析（2）	調査結果の集計を行う。集計方法・分析方法の検討を行います。					収集したデータのとりまとめを行う。また分析結果の検討を行う。（4時間）				
15	データ集計・分析（3）	調査結果の集計を行う。集計方法・分析方法の検討を行います。					収集したデータのとりまとめを行う。また分析結果の検討を行う。（4時間）				
16	論文の章立てと論文作成	論文の章立てを発表し合い、お互いに意見交換を行います。さらに論文の書き方について学び、「研究動機・目的」の作成に取り掛かります。					章立てをレポートにまとめ準備する。論文の書き方を復習し「研究動機・目的」を書く。（4時間）				
17	結果の考察と検討および論文作成（1）	論文作成に取り掛かります。結果の考察の検討を合わせて行います。					結果の考察と関連資料を収集する。論文作成に取りかかる。（4時間）				
18	結果の考察と検討および論文作成（2）	論文作成に取り掛かります。結果の考察の検討を合わせて行います。					結果の考察と関連資料を収集する。論文作成に取りかかる。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表の資料作成	中間発表の準備をします。プレゼンテーション資料の作成を行います。	中間発表の準備計画を行う。発表資料の確認と検討を行う。(4時間)
20	中間発表会	中間発表報告を行います。相互に問題点や課題などディスカッションを行い、意見交換でお互いに高め合います。	中間発表の準備をする。中間発表の反省を踏まえ、課題・検討事項をまとめる。(4時間)
21	論文執筆と内容の検討(1)	最終稿の作成に向けて、確認事項および執筆の個別指導を行います。	中間報告を受けて、修正・検討をする。論文を作成する。(4時間)
22	論文執筆と内容の検討(2)	最終稿の作成に向けて、確認事項および執筆の個別指導を行います。	中間報告を受けて、修正・検討をする。論文を作成する。(4時間)
23	卒業論文の最終稿の作成(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。(4時間)
24	卒業論文の最終稿の作成(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。(4時間)
25	卒業論文の最終稿の作成(3)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。(4時間)
26	卒業論文の最終稿の完成。	論文の最終稿を指導し、提出用の論文を最終点検します。	論文の最終確認と修正。(4時間)
27	ゼミ発表会の資料作成等準備	ゼミ発表会の資料作成など準備を行います。プレゼンテーション資料を作成し、最終確認をします。	ゼミ発表会の準備をしていく。プレゼンテーション資料の見直し・修正を行う。(4時間)
28	ゼミ発表会	ゼミ内で発表会を開催します。卒論発表会を想定し、最終チェックを行います。	ゼミ発表会の資料の準備をする。発表会後の検討・修正を行う。(4時間)
29	卒業論文発表会の資料作成・準備	発表会のプレゼンテーション準備を行う。発表資料の作成、最終確認を行う。	卒業論文発表会用の資料を作成していく。確認事項・検討内容の修正を行う。(4時間)
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷など総まとめを行います。	最終原稿を完成させていく。最後のまとめと最終処理を行う。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
各テーマに沿った資料を随時提示します。		レポート：80% 課題：20% S：探求姿勢を持って課題に取り組み、高度な論文が作成されている。A：意欲的に課題に取り組み、正しい表現で論文が作成されている。B：意欲的に課題に取り組み、研究内容をおおよそ理解し論文作成されている。C：これまでの研究をある程度理解し、論文作成されている。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業の中で紹介します。		関心のあるテーマを探し、自ら課題を探求する姿勢を持ちましょう。関連図書を読み、意欲的に研究に取り組みましょう。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-15
担当者	羽田 行男			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日1限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
①	②	③	A	B	C						
	◎		△	△	△						
授業概要 3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでに授業で学んだ内容をベースにして、研究課題や研究方法を探究し、それを卒業研究にまとめます。研究の領域は①療育を含む教育の方法について②教育相談に関する臨床心理学について③神経発達障害を含む発達障害について等を範疇にしています。また、学校教育のほかにも、家庭教育に関連して、子育てや親育ちなどの課題についても研究対象にできます。											
学修到達目標 これまでの学修を活かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめることができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考や情報リテラシーの能力や、パワーポイントを使ったプレゼンテーションに関する能力を獲得している。											
授業の進め方 研究テーマに応じて、個人指導を実施します。また、課題の取り組みと研究の進捗状況に応じて、受講者が相互に卒業研究の課題を共有化し、多角的な視点から研究を再考したり、視座を広げたりしながら、論文の完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ		内容			事前事後学修					
1	卒業論文作成のスケジュールの確認		卒業論文発表会までのスケジュールを確認し、研究計画書の作成に取りかかります。			レポートを作成する。（4時間）					
2	研究テーマの再確認		研究テーマについて再確認し、必要があれば変更や修正をします。			レポートを作成する。（4時間）					
3	研究内容・研究計画の検討(1)		研究内容や研究計画を発表し、相互に検討します。			レジュメを作成する。（4時間）					
4	研究内容・研究計画の検討(2)		研究内容や研究計画を発表し、相互に検討します。			レジュメを作成する。（4時間）					
5	研究内容・研究計画の検討(3)		研究内容や研究計画を発表し、相互に検討します。			レジュメを作成する。（4時間）					
6	資料・データの収集(1)		先行研究に関する資料・データを収集し、互いに発表し議論します。			レジュメを作成する。（4時間）					
7	資料・データの収集(2)		先行研究に関する資料・データを収集し、互いに発表し議論します。			レジュメを作成する。（4時間）					
8	資料・データの収集(3)		先行研究に関する資料・データを収集し、互いに発表し議論します。			レジュメを作成する。（4時間）					
9	論文構成を検討する(1)		論文の章立てを互いに検討し、意見を出し合います。			レジュメを作成する。（4時間）					
10	論文構成を検討する(2)		論文の章立てを互いに検討し、意見を出し合います。			レジュメを作成する。（4時間）					
11	論文の書き方を学ぶ(1)		論文の書き方について学び、「はじめに」研究動機や研究目的を執筆します。			原稿を書く。（4時間）					
12	論文の書き方を学ぶ(2)		論文の書き方について学び、「はじめに」研究動機や研究目的を執筆します。			原稿を書く。（4時間）					
13	論文の初稿を作成する(1)		研究の方法等に関する原稿を執筆します。			原稿を書く。（4時間）					
14	論文の初稿を作成する(2)		研究の方法等に関する原稿を執筆します。			原稿を書く。（4時間）					
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる		夏休みの研究計画・執筆計画を立てます。			レポートを書く。（4時間）					
16	論文初稿の発表(1)		初稿原稿を発表し合い、全員で検討します。			発表用レジュメを作成する。（4時間）					
17	論文初稿の発表(2)		初稿原稿を発表し合い、全員で検討します。			発表用レジュメを作成する。					
18	中間発表プレゼンテーションの資料作成		プレゼンテーション用の資料を作成し、発表練習をします。			プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）					

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表	中間発表を行い、発表内容について検討します。	振り返りのレポートを作成する。（4時間）
20	論文第2稿を作成する（1）	論文の第2稿を執筆します。	原稿を執筆する。（4時間）
21	論文第2稿を作成する（2）	論文の第2稿を執筆します。	原稿を執筆する。（4時間）
22	論文第2稿を作成する（3）	論文の第2稿を執筆します。	原稿を執筆する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	第2稿を発表し合い、全員で検討します。	原稿を修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する（1）	論文の最終稿を個別指導します。	原稿を修正・推敲する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する（2）	論文の最終稿を個別指導します。	原稿を修正・推敲する。（4時間）
26	論文の最終稿を作成する（3）	論文の最終稿を個別指導します。	原稿を修正・推敲する。（4時間）
27	ゼミ発表会用プレゼンテーション資料を作成する	合同ゼミの発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成し、発表練習をします。	プレゼンテーション用の資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生の合同ゼミで研究論文の内容を発表し、最終点検をします。	振り返りのレポートを作成する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	卒業論文発表会用のプレゼンテーション資料を作成し、発表練習をします。	振り返りのレポートを作成する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業研究の総まとめをし、研究の成果を確認します。	卒業論文の最終点検をする。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		レポート：50% 課題：50% S:授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題に取り組み、例題からは難しい応用問題が解ける。A:授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題に取り組み、やや難しい応用問題が解ける。B:授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、応用問題が解ける。C:授業内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、授業で示した例題と同じレベルの問題が解ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		教育に関する課題を自ら発見し、探究する姿勢が求められます。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	
担当者	武者 一弘			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日4限 後期：月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、広く学校の組織運営に関する研究です。いいかえれば、「開かれた学校づくり」研究や「地域にねざした学校づくり」研究になります。											
学修到達目標											
これまでの学習をいかして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。											
授業の進め方											
研究テーマに応じての個別指導が中心になります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて、「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。					事前に教育テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討（1）	各自の研究テーマについての概観や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は、第1グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討（2）	各自の研究テーマについての概観や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は、第2グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討（3）	各自の研究テーマについての概観や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、内容について相互に検討します。（担当は、第3グループ）					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料の収集（1）	研究テーマ及び研究計画の最終検討を行ないます。また、先行研究、文献、調査など各自のテーマに合わせて、資料収集（準備を含む）を開始します。					検討結果をうけて、最終的なテーマ設定をする。資料収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料の収集（2）	資料収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料の収集を進める。（4時間）				
8	資料の収集（3）	資料収集に関して個別指導をします。					各自のテーマ内容に応じた資料の収集を進める。（4時間）				
9	論文構成の検討	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えます。					事前に論文構成を考えてくる。（4時間）				
10	章立ての検討	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。					章立ての発表準備をする。（4時間）				
11	章立ての決定	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の初稿の作成（1）	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究動機・目的）」の作成に取りかかります。					論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿の作成（2）	第1章について相互に読みあい、内容及び書き方や言い回しについて検討します。					事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿の作成（3）	第2章「研究の方法」について相互に読みあい、内容及び書き方や言い回しについて検討します。					事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究計画の作成	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行なう研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文の初稿の発表（1）	論文の初稿を読みあい検討します。また、あわせて個別指導を行ないます。					論文の初稿を完成してくる。検討・指導された内容について、加筆修正を行なう。（4時間）				
17	論文の初稿の発表（2）	論文の初稿を読みあい検討します。また、あわせて個別指導を行ないます。					論文の初稿を修正する。検討・指導された内容について、さらに加筆修正を行なう。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料の作成	中間発表に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。					初稿に基づきプレゼンの構想を練る。指導内容をうけ、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表会を行ない、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼンテーション資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿の作成（1）	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿の作成（2）	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿の作成（3）	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文の最終稿の作成（1）	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿の作成（2）	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿の作成（3）と提出準備	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会プレゼンテーション資料の作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年合同ゼミで発表会を行ない、最終チェック並びに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒論発表会プレゼンテーション資料の作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行ないます。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの作成を行なう。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% レポート：80% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容をもつ論文が作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探求していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	N-01
担当者	大石 文朗			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限、月曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまでのゼミナールで学んだ内容をさらに深めて行き、北米の文化や社会に関する卒業論文を書き上げます。											
学修到達目標											
論理的思考に基づいた論旨が明確な文書表現ができる。多角的な視点から物事を捉えることができる。説得力の高いプレゼンテーションができる。											
授業の進め方											
個々の研究テーマに対応するため、個別指導が中心となります。そして適宜、研究の進捗状況に関して発表や討論を行います。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文執筆のスケジュール	執筆完了までの大まかなスケジュールを確認する。					研究テーマを明確にし、研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの確認	研究テーマに関して、その具体性の検討を行う。					研究テーマを再確認し、授業後、必要であれば変更を考える。（4時間）				
3	研究テーマの検討①	先行文献を調べ熟読し、研究テーマを検討する。					先行文献を通して、自らの研究テーマを確認する。（4時間）				
4	研究テーマの検討②	先行文献を調べ熟読し、研究テーマを検討する。					先行文献を通して、自らの研究テーマを確認する。（4時間）				
5	研究テーマの検討③	先行文献を調べ熟読し、研究テーマを検討する。					先行文献を通して、自らの研究テーマを確認する。（4時間）				
6	資料・データの収集①	必要な資料・データを検討し収集する。					各自、必要な資料・データの収集を行う。（4時間）				
7	資料・データの収集②	必要な資料・データを検討し収集する。					各自、必要な資料・データの収集を行う。（4時間）				
8	卒業論文の構成を検討	卒業論文の全体像を視野に入れ、構成を検討する。					各自、卒業論文の構成を考える。（4時間）				
9	章立ての検討①	具体的に各章立てを行う。					各自、章立てを考える。（4時間）				
10	章立ての検討②	具体的に各章立てを行う。					各自、章立てを考える。（4時間）				
11	章立ての決定	章立てを最終決定する。					各自、章立てに関して最終的な検討をする。（4時間）				
12	卒業論文の初稿を作成①	卒業論文の初稿を作成する。（論文の書き方については指導します）					卒業論文の執筆。（4時間）				
13	卒業論文の初稿を作成②	卒業論文の初稿を作成する。（論文の書き方については指導します）					卒業論文の執筆。（4時間）				
14	卒業論文の初稿を作成③	卒業論文の初稿を作成する。（論文の書き方については指導します）					卒業論文の執筆。（4時間）				
15	夏休み中の執筆計画	夏休み中に初稿を完成できるように、執筆計画を立てる。					夏休み中の執筆計画を検討する。（4時間）				
16	卒業論文初稿の発表①	初稿を相互に読み合い討議します。					卒業論文の初稿を完成させる。（4時間）				
17	卒業論文初稿の発表②	初稿を相互に読み合い討議します。					卒業論文の初稿を完成させる。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーションの準備	現時点での卒業論文に関するプレゼンテーションの準備のため資料作成を行います。					プレゼンテーションの資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、内容について検討します。	プレゼンテーションの資料を完成する。（4時間）
20	卒業論文の第2稿の作成①	第2稿に関して、個別指導を行います。	第2稿を作成する。（4時間）
21	卒業論文の第2稿の作成②	第2稿に関して、個別指導を行います。	第2稿を作成する。（4時間）
22	卒業論文の第2稿の作成③	第2稿に関して、個別指導を行います。	第2稿を作成する。（4時間）
23	卒業論文第2稿の発表	第2稿を発表し、相互に検討します。	各自、発表の準備をし、検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	卒業論文の最終稿の作成①	卒業論文の最終稿に関して個別指導します。	最終稿を作成する。（4時間）
25	卒業論文の最終稿の作成②	卒業論文の最終稿に関して個別指導します。	最終稿を作成する。（4時間）
26	卒業論文の最終稿の完成	最終稿を完成させ、卒業論文提出の準備をします。	最終稿を完成させる。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料の作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会のために、プレゼンテーションの資料を作成します。	プレゼンテーションの資料を作成する。（4時間）
28	合同ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行います。	プレゼンテーションの資料を完成する。（4時間）
29	卒業論文発表会の準備	卒業論文発表会の資料の準備を行います。	卒業論文発表会の準備をする。（4時間）
30	まとめ	卒業論文の印刷等、卒業研究に関する総まとめを行います。	印刷原稿を完成させる。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
適宜、必要な資料を配布します。		受講態度：10% 課題：20% 卒業論文：70% S:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に意欲的に取り組み、授業内容をすべて理解して正しく文章で表現することができる。A:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことを理解し正しく文章で表現することができる。B:到達目標達成のために探求姿勢をもって課題に取り組み、授業で学んだことについて概ね理解し、文章で表現することができる。C:到達目標達成を理解して、課題に取り組み授業で学んだことを表現できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
適宜、紹介します。		卒業論文の執筆を通して、何かを明らかにするという調査・研究の面白さを感じてもらえればと思います。論文作成を楽しんでください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-01
担当者	征矢野 達彦		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：水曜日4限、金曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）					
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、①道徳教育に関する内容、②学校場面での生徒指導に関する内容、③特別活動に関する内容に分けることができます。また、学校に限らず子どもに関連する道徳性の育成に関する内容であれば、どのような課題も研究の対象となります。										
学修到達目標										
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じての個別指導が中心となります。課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して、受講者相互に問題点の問題の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。次時までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究が可能かどうか確認します。				事前に研究テーマの内容について概観しておく。授業後、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第1グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第2グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表する。また、内容について相互に検討する。（担当は第3グループ）				発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始する。				検討結果を受けて最終的なテーマ設定をする。資料・データ収集の準備に取りかかる。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導をします。				各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導をします。				事前に論文構成を考える。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
10	章立てを検討する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関しても個別指導をします。				章立ての発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集をすすめる。（4時間）				
11	章立ての最終検討と決定。論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。				章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、論文の初稿を作成する(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文の初稿を作成する(2)	第1章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第1章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
14	論文の初稿を作成する(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				事前に第2章をまとめておき、検討した結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成してくる。討議・指導された内容について、加筆修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い討議します。また、併せて個別指導を行います。				論文の初稿を修正してくる。討議・指導された内容について、さらに加筆修正を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体的な指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で、発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成する。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文の最終稿を完成し、提出準備を完了する(3)	論文の最終稿を最終指導をします。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成してくる。最終点検に応じた修正をする。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を個別に提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を指示します。		課題を自ら探究していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。多くの関連図書を読むことも重要です。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-09
担当者	濱田 敦志		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：木曜日2限、金曜日1限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
<p>教職研究ゼミナールの学修を基礎とし、専門と結びついた卒業論文の作成を目指すゼミナールでの学修の集大成です。体育研究の基本的な考え方や研究方法を理解し、研究テーマを選定し追究していくことで、体育の専門的知識を獲得していきます。また、自らの研究テーマを探究するとともに、体育・スポーツに関する多様なテーマを研究する学生同士が仲間の研究テーマについても有機的に関わることで、体育・スポーツの幅広い知識と、そこで得た知識を背景とした高い指導力を身につけられるようにしていきます。</p>										
学修到達目標										
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践、先行研究の検討、研究方法の検討、研究資料の収集・分析・考察を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究に取り組むことができる。その成果を卒業論文にまとめるとともに発表できる。</p>										
授業の進め方										
<p>体育・スポーツの今日的課題の文献の精読ならびに運動実践、先行研究の検討、研究方法の検討、研究資料の収集・分析・考察を通して、受講生各々が興味をもって取り組むことができる研究課題を検討し、実践的・実験的に研究を進めます。</p>										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	オリエンテーション	教職研究ゼミナールの学修から、卒業論文についてのテーマを決定する。				テーマについての対話のリフレクション（4時間）				
2	研究課題の検討	研究課題の検討と対話				研究課題についての対話のリフレクション（4時間）				
3	研究方法の検討	研究方法の検討①と対話				研究方法についての対話のリフレクション（4時間）				
4	研究方法の検討	研究方法の検討②と対話				研究方法についての対話のリフレクション（4時間）				
5	先行研究の収集・整理	先行研究の収集・整理				先行研究の収集・整理のリフレクション（4時間）				
6	先行研究の検討	先行研究の検討				先行研究の検討のリフレクション（4時間）				
7	論文のプロット検討	論文のプロット検討①				論文のプロット検討のリフレクション（4時間）				
8	論文のプロット検討	論文のプロット検討②				論文のプロット検討のリフレクション（4時間）				
9	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）①				研究資料の整理（4時間）				
10	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）②				研究資料の整理（4時間）				
11	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）③				研究資料の整理（4時間）				
12	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）④				研究資料の整理（4時間）				
13	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）⑤				研究資料の整理（4時間）				
14	研究資料の収集	研究資料の収集（実践または実験）⑥				研究資料の整理（4時間）				
15	前期まとめ	前期の進捗状況を確認し、後期への段取りを組む。				研究資料の整理・分析（4時間）				
16	分析および考察	分析および考察①と対話				分析および考察の対話のリフレクション（4時間）				
17	分析および考察	分析および考察②と対話				分析および考察の対話のリフレクション（4時間）				
18	分析および考察	分析および考察③と対話				分析および考察の対話のリフレクション（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	分析および考察	分析および考察④と対話	分析および考察の対話のリフレクション（4時間）
20	論文内容の検討	論文内容の検討①	論文内容の検討のリフレクション（4時間）
21	論文内容の検討	論文内容の検討②	論文内容の検討のリフレクション（4時間）
22	論文内容の検討	論文内容の検討③	論文内容の検討のリフレクション（4時間）
23	論文内容の検討	論文内容の検討④	論文内容の検討のリフレクション（4時間）
24	論文内容の検討	論文内容の検討⑤	論文内容の検討のリフレクション（4時間）
25	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成①	プレゼンテーションの修正（4時間）
26	プレゼンテーション作成	プレゼンテーション作成②	プレゼンテーションの修正（4時間）
27	プレゼンテーション検討	プレゼンテーション検討①	プレゼンテーションの修正（4時間）
28	プレゼンテーション検討	プレゼンテーション検討②	プレゼンテーションの修正（4時間）
29	研究成果の発表および討議	研究成果の発表および討議①	研究成果のリフレクション（4時間）
30	研究成果の発表および討議	研究成果の発表および討議②・まとめ	研究成果のリフレクション（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「体育科教育の現在」日本体育科教育学会編 ISBN:987-4-86413-020-2 (生協で購入してください。)		レポート：50% 受講態度：50% S：授業内容を高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探求姿勢をもって課題に取り組み、優れた論文が書ける。A：授業内容を理解し、積極的な探求姿勢をもって課題に取り組み、やや優れた論文が書ける。B：授業内容のおおよそを理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に合った論文が書ける。C：授業の内容の60%程度を理解し、与えられた課題に誠実に取り組み、課題に対し論文が書ける。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「新版 体育科教育学入門」高橋健夫他編（大修館書店） 「体育授業を観察評価する授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」高橋健夫著（明和出版）		体育・スポーツの歴史や文化を知り、「これから求められる体育学習」について考えていきましょう。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-05
担当者	澤柿 教淳			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日5限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの学修を生かして研究を進めるとともに、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は、理科教育に関する内容であれば、学校に限らず科学史や教育史、社会教育等との関連からの研究も可能です。											
学修到達目標											
これまでの学修を生かして研究を進めるとともに、研究を進めていく上で必要となる論理的思考や情報リテラシー等の能力、プレゼンテーション能力等、論文作成や発表に必要な能力を身につけ、卒業論文としてまとめることができる。											
授業の進め方											
研究テーマに応じた個別指導が中心となります。課題の取り組みと研究の進行状況によって、発表や討論を通して受講者が相互に問題を共有し、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文の完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にし、事後に研究計画書を作成する(4時間)。				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どんな方法で」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、必要に応じて修正します。					事前に研究計画書を概観し、事後に計画書を見直す(4時間)。				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究計画や研究テーマについて調べた内容について発表し、全体で討論しながら検討します。					事前に発表者は発表準備をし、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究計画や研究テーマについて調べた内容について発表し、全体で討論しながら検討します。					事前に発表者は発表準備をし、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究計画や研究テーマについて調べた内容について発表し、全体で討論しながら検討します。					事前に発表者は発表準備をし、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
6	研究テーマの最終検討	研究テーマ及び研究計画の最終検討を行い、以後は、先行研究や文献の検索、データの分析等、各自の計画に合わせて進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
7	資料・データの収集(1)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
8	資料・データの収集(2)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
9	資料・データの収集(3)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
10	資料・データの収集(4)	主に個人指導を受けながら、資料の収集やデータの分析を進めます。					事前に計画を確認し、事後は各自資料の収集やデータの分析等を進める(4時間)。				
11	論文の構成(1)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えたり、見直したりします。					事前に章立てを考え、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
12	論文の構成(2)	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えたり、見直したりします。					事前に章立てを考え、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
13	論文の初稿の作成(1)	第1章から順番に相互に読み合い、内容及び書き方や言い回しについて検討します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
14	論文の初稿の作成(2)	前時の続きから順番に相互に読み合い、内容及び書き方や言い回しについて検討します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
15	夏休み中の研究・執筆計画	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成できるようにします。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
16	論文の初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い検討するとともに、個別指導で論点を確認します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
17	論文の初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い検討するとともに、個別指導で論点を確認します。					事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成するとともに、全体指導と個別指導を行います。					事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で発表内容について検討します。	事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。
20	論文の第2稿の作成(1)	論文の第2稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
21	論文の第2稿の作成(2)	論文の第2稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
22	論文の第2稿の作成(3)	論文の第2稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
23	論文の第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表するとともに、相互に検討します。	事前に発表準備をしておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
24	論文の最終稿の作成(1)	論文の最終稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
25	論文の最終稿の作成(2)	論文の最終稿を作成するとともに、個別指導で論点を確認します。	事前に文章をまとめておき、事後に論点を整理しておく(4時間)。
26	論文の最終稿の完成	論文の最終稿を完成させるとともに、提出用の卒業論文を相互に点検します。	事前に論文を完成させておき、事後に最終点検に応じて修正する(4時間)。
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料の作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。
28	ゼミ発表会	3・4年生合同ゼミにおける発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	事前にプレゼンテーション資料を作成し、事後に論点を整理しておく(4時間)。
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料等の完成	各自の発表に向けて、プレゼンテーション資料や原稿等の資料の準備を整えます。	事前に準備を整えておき、事後に最終点検をする(4時間)。
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成等、卒業研究の総まとめを行います。	事前に印刷原稿を完成させ、事後に礼状を送付する等の事務的な処理を確実に(4時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
特になし。		課題：80% レポート：20% S:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を全て理解して思考を深めるとともに、的確かつ豊かに表現することができる。A:到達目標の達成のために探求姿勢をもって取り組み、各回の内容を理解するとともに、工夫して表現することができる。B:到達目標の達成のために、意欲を示して取り組み、各回の内容を理解するとともに、正しく表現することができる。C:到達目標の達成のために課題に取り組み、各回の内容を正しく表現することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書等を指示します。		課題について自ら探究して行く姿勢が大切で、できるだけ多くの関連図書を読んだり、自他の研究内容に関心をもって積極的に討論したりすることが研究を深め広げる上で重要なこととなります。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-06
担当者	秋田 真		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、水曜日5限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
授業実践及び分析より、実践論文を完成させていきます。主に先行研究の読み方や研究授業の組み立て方、授業後の質的分析方などを学びます。これらを通して、授業が有効であったかどうかを元実践論文にまとめ、卒業論文とします。										
学修到達目標										
研究テーマをもち、授業実践ができる。さらに、授業を分析する力を身に付けている。そして、実践論文を書くことができる。										
授業の進め方										
研究計画作成、授業計画作成、論文作成等は単学年でのゼミ形式で行います。また、前期は先行研究の整理や授業実践及び協議会を3学年と共に行います。後期は4学年単独で行いますが、ゼミ内の発表会や地域授業・社会見学等では2・3学年と共に行います。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業研究専門ゼミナール概要	本授業の目的及び授業の流れを確認します。				見通しを立て研究を進めるために、4年次の計画を作成すること。（4時間）				
2	先行研究の整理(1)	教科書を用いた先行研究の分析について学びます。				自分の研究と関連するページを学習指導要領と共に確認しておくこと。（4時間）				
3	先行研究の整理(2)	小学校研究紀要を用いた先行研究の分析について学びます。				自分の研究と関連するページを学習指導要領と共に確認しておくこと。（4時間）				
4	先行研究の整理(3)	教育実践論文を用いた先行研究の分析について学びます。				自分の研究と関連するページを学習指導要領と共に確認しておくこと。（4時間）				
5	研究計画省察	先行研究の整理より、これまでの研究計画を見直し、見通しを立てます。				研究計画が妥当かどうかについて見直し、指摘については修正しておくこと。（4時間）				
6	論文章立て(1)	論文の章立てと検討を行います。				章立て案を作成していただくこと。また、節・項以下についても検討すること。（4時間）				
7	論文章立て(2)	論文の章立てと検討を行います。				章立て案を作成していただくこと。また、節・項以下についても検討すること。（4時間）				
8	論文章立て(3)	論文の章立てと検討を行います。				章立て案を作成していただくこと。また、節・項以下についても検討すること。（4時間）				
9	授業実践モデルの検討(1)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（目標と中心発問）				論文の中核となる指導案を作成し、見直すこと。（4時間）				
10	授業実践モデルの検討(2)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（児童の必要感と導入）				指導案について指摘されたことを見直し、完成を目指すこと。（4時間）				
11	授業実践モデルの検討(3)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（展開）				指導案について指摘されたことを見直し、完成を目指すこと。（4時間）				
12	授業実践モデルの検討(4)	各々の授業実践モデルの検討を行います。（省察の有効性）				指導案について指摘されたことを見直し、完成を目指すこと。（4時間）				
13	模擬授業(1)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。				模擬授業の練習をしておくこと。また、指摘された点について、再検討すること。（4時間）				
14	模擬授業(2)	各々の授業実践についての模擬授業及び研究協議会を行います。				模擬授業の練習をしておくこと。また、指摘された点について、再検討すること。（4時間）				
15	中間発表準備(1)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。				中間発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。（4時間）				
16	中間発表準備(2)	中間発表に向けてのプレゼン作成を行います。				中間発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。（4時間）				
17	ゼミ中間発表会	これまでの研究をまとめ、ゼミにおいて発表を行います。				中間発表会で指摘されたことについて検討し、加除・修正すること。（4時間）				
18	授業実践報告(1)	実践した授業について報告・検討を行います。				授業実践について、論文との関わりを明確にしなが説明できるようにしておくこと。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	授業実践報告(2)	実践した授業について報告・検討を行います。	授業実践について、論文との関わりを明確にしながら説明できるようにしておくこと。(4時間)
20	地域授業実践研究	地域で行われる社会科授業の見学及び検討会参加を行います。	授業記録や研究協議会での発言内容を振り返り、参考にすべき点をまとめること。(4時間)
21	地域教材研究(1)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学に対する事前の調査や、質問等を考えておくこと。(4時間)
22	地域教材研究(2)	社会科見学を行い、地域教材を授業へ活かす視点を養います。	見学で学んだことを整理し、単元の中にどのように組み込むのかを想定すること。(4時間)
23	論文概要発表	卒業論文の概要について発表します。	これまでの研究計画や授業実践を踏まえ、卒業論文の概要を発表できるようにすること。(4時間)
24	論文作成(1)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。(4時間)
25	論文作成(2)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。(4時間)
26	論文作成(3)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。(4時間)
27	論文作成(4)	卒業論文を作成し、個別に指導します。	論文を作成し、指導を論文内に反映させること。(4時間)
28	卒業論文発表準備(1)	卒業論文発表会に向けて、資料作成やプレゼンの準備を行います。	卒論発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。(4時間)
29	卒業論文発表準備(2)	卒業論文発表会に向けて、資料作成やプレゼンの準備を行います。	卒論発表会の準備をしておくこと。また、プレゼンの指摘については修正すること。(4時間)
30	ゼミ卒業論文発表会	これまでの研究をまとめ、ゼミにおいて発表を行います。	卒論発表会で指摘されたことについて検討し、加除・修正すること。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
なし。		課題：50% 卒業研究論文：50% S:先行研究より問題点を絞り、授業実践を通し、児童の姿から指導の効果を明らかとした実践論文を作成できる。A:一般的な学習の課題から授業実践を行い、児童の姿より指導の効果を明らかとした実践論文を作成できる。B:ねらいを明確にした授業実践を行い、児童の姿より指導の効果を考察した実践論文を作成できる。C:授業実践を行い、児童の姿を考察した実践論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
なし。		地域へ出たの見学等については、見学先の都合により予定が前後することがあります。また、採用試験等も実施されると思いますので、見直しを持って取り組んで下さい。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-07
担当者	國府田 祐子			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限 後期：火曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究は、3年次までのテーマを具体化し、文章例をたくさん集めて選択し、論の組み立てを工夫していきます。卒業論文を仕上げます。											
学修到達目標											
これまでの学修を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシー能力、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。作家研究を進め、先行研究の調査や分析、考察を行って卒業論文を書き上げることができる。											
授業の進め方											
個別指導を行うと同時に、課題の取り組みと研究の進行状況によって口頭発表や文書による発表、討論を行い、相互の問題を共有し助言し合います。共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視座を広げたりして論文完成を目指します。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールと、卒業論文提出までのスケジュールを確認し、研究計画書の作成に取りかかります。					研究テーマを明確にしておく。次までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて、「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて、研究範囲を確認します。					事前研究の内容について外観して外観しておく。授業を、研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討(1)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。内容について、相互に検討します。					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討(2)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。内容について、相互に検討します。					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討(3)	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。内容について、相互に検討します。					発表者は発表準備をする。発表された内容について、自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討と資料・データの収集(1)	研究テーマおよび研究計画の最終検討を行います。また、先行研究、文献、アンケート作成などの各自のテーマに合わせて、資料・データ収集（準備を含む）を開始します。					検討結果を受けて、最終的なテーマの設定をする。資料・データ収集の準備をする。（4時間）				
7	資料・データの収集(2)	資料・データ収集に関して個別指導します。					各自のテーマ内容に応じた資料・データ収集を進める。（4時間）				
8	資料・データの収集(3)	資料・データ収集に関して個別指導します。					各自のテーマ内容に応じた資料・データ収集を進める。（4時間）				
9	論文構成を考える。資料・データの収集(4)	論文の構成の仕方について全体指導し、各自で章立てを考えます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導します。					事前に論文構成を考えてくる。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時				
10	章立てを決定する。資料・データの収集(5)	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導します。					章立てを考え発表準備をする。各自のテーマ内容に応じた資料・データの収集を進める。（4時				
11	章立ての最終検討と決定、論文の書き方(1)	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方(2)および、初稿の作成(1)	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに（研究の動機・目的）」の作成に取りかかります。					論文の書き方を理解し、第1章を執筆する。（4時間）				
13	初稿の作成(2)	第1章について相互に読み合い、執筆内容について検討します。					事前に第1章を執筆し、検討結果に基づき修正する。（4時間）				
14	初稿の作成(3)	第2章「研究の方法」について相互に読み合い、内容及び書き方について検討します。					事前に第2章をまとめておき、円筒結果に基づき修正する。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や、執筆について計画を練り直し、夏休み明けに初稿が完成するようにします。					夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い、討議します。					初稿を完成してくる。討議・指導された内容について加筆・修正を行う。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文初稿を相互に読み合い討議します。					初稿を完成してくる。討議・指導された内容について加筆・修正を行う。（4時間）				
18	中間発表資料の作成	中間発表会に向けて、発表資料を作成します。					初稿に基づき、発表資料の構想を練る。指導内容を受け、プレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行います。ゼミナールの3年生も含めた形で行い、発表内容について検討します。	発表資料・プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）
20	論文第2稿の作成(1)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
21	論文第2稿の作成(2)	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
22	論文第2稿の作成	論文の第2稿を個別指導します。	論文の第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の題2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させる。発表準備をしてくる。検討結果に基づき修正する。（4時間）
24	論文最終稿の作成(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文最終稿の作成(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
26	論文最終稿の作成(3)、提出準備の完了	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成して来る。最終点検を踏まえ修正する。（4時間）
27	ゼミ発表会の発表資料の作成	3.4年合同ゼミにおける発表会に向けて、資料を作成します。	発表資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3.4年合同のゼミ発表会を行い、最終チェック並びに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒業論文発表会用プレゼンテーション資料を完成して来る。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総合的まとめを行います。	印刷原稿を完成させる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料・書籍を提示します。		課題：70% 実技：20% レポート：10% 卒業論文：80%。S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。 欠席8回で単位を認定しません。遅刻・早退2回で1回の欠席となります。30分以上の遅刻・早退は欠席1とみなします。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を示します。研究する作家の全集の購入を義務づけます。参考資料等は状況に応じて紹介します。必要な先行文献等は自費で購入する必要があります。		積極的に自らの研究内容を示すことはもちろん、仲間の研究に関心を持ち、論理的・批判的に発言すること研究の視野を広げます。多くの関連図書を読むことも必須です。担当教員の講演先等へ出かける学びを予定しています。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-08
担当者	和田 順一			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日2限、水曜日3限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
これまでのゼミナールの理解を振り返り、新しい先行研究や文献を理解して、卒業論文を執筆します。第二言語教育分野、またその学校への応用について考え、論文をまとめます。											
学修到達目標											
計画的に論文を執筆する能力、論理的思考と批判的思考による文章を書く能力、それを効果的に発表するために必要な能力を獲得している。											
授業の進め方											
発表や進捗状況による個別対応方式の授業形態です。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	論文執筆の計画			論文を執筆していく大まかな計画について検討する。				計画が決定し次第、その計画に沿って先行研究の収集や文献講読をする。（4時間）			
2	研究テーマ確認			研究テーマについて、どのように追及していくのか、研究が可能であるかを検討、確認する。				研究テーマについて事前に明確にしておく。（4時間）			
3	研究テーマ検討 1			先行研究について調べ、それを読み、研究テーマを検討する。				先行研究を調べ、それを読み、自身の研究テーマを明確にする。（4時間）			
4	研究テーマ検討 2			先行研究について調べ、それを読み、研究テーマを検討する。				先行研究を調べ、それを読み、自身の研究テーマを明確にする。（4時間）			
5	研究テーマ検討 3			先行研究について調べ、それを読み、研究テーマを検討する。				先行研究を調べ、それを読み、自身の研究テーマを明確にする。（4時間）			
6	資料・データ収集 1			卒業論文執筆に必要な先行研究や文献、資料等を検討し収集する。				研究テーマに関する文献や資料を読み、必要な資料をリストアップする。（4時間）			
7	資料・データ収集 2			卒業論文執筆に必要な先行研究や文献、資料等を検討し収集する。				研究テーマに関する文献や資料を読み、必要な資料をリストアップする。（4時間）			
8	卒業論文構成作成 1			卒業論文の構成を考え、骨子を作成する。				研究の流れを明確にしておく。			
9	卒業論文構成作成 2			卒業論文の構成を考え、骨子を作成する。				研究の流れを明確にしておく。（4時間）			
10	初稿作成 1			卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
11	初稿作成 2			卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
12	初稿作成 3			卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
13	初稿作成 4			卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
14	初稿作成 5			卒業論文の初稿を作成する。またその初稿に対し書き方等、個別で指導を行う。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
15	長期休業中の研究・執筆計画			長期休業中の研究・執筆計画について考え、計画を立てる。				長期休業中に計画通り研究・執筆を行う。（4時間）			
16	第二稿作成 1			長期休業中の進捗を確認し、第二稿の作成を行う。				卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。（4時間）			
17	第二稿作成 2			卒業論文の進捗を確認し、第二稿の作成を行う。				卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。（4時間）			
18	卒業論文中間発表準備			卒業論文中間発表準備を行い、論文の進捗状況を理解する。				卒業論文中間発表の準備を行う。（4時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文中間発表	卒業論文の中間発表を行う。	卒業論文中間発表の準備を行う。(4時間)
20	第二稿作成 3	個別指導で修正をチェックし、第二稿の作成を行う。	卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)
21	第二稿作成 4	個別指導で修正をチェックし、第二稿の作成を行う。	卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)
22	第二稿作成 5	個別指導で修正をチェックし、第二稿を完成させる。	卒業論文の修正・指導に沿って加筆修正を行う。(4時間)
23	卒業論文最終稿への準備	卒業論文最終稿を作成するために詳細な部分について形式等を整える。	最終稿を作成し、全体の統一を図る。(4時間)
24	卒業論文最終稿作成 1	卒業論文の最終稿に関し、個別指導を行う。	最終稿の作成。(4時間)
25	卒業論文最終稿作成 2	卒業論文の最終稿に関し、個別指導を行う。	最終稿の作成。(4時間)
26	ゼミ発表会準備	ゼミでの発表会の資料等の準備を行う。	ゼミ発表会準備をする。(4時間)
27	ゼミ発表会	ゼミでの発表会を行い、発表形式に慣れる。	ゼミ発表会準備をする。(4時間)
28	卒業論文発表会準備 1	卒業論文発表会の資料の準備やパワーポイント作成をする。	卒業論文発表会の準備をする。(4時間)
29	卒業論文発表会準備 2	卒業論文発表会の資料の準備やパワーポイント作成をする。	卒業論文発表会の準備をする。(4時間)
30	まとめ	卒業論文の印刷等、卒業論文に関するまとめを行います。	卒業論文完成・印刷、その後の対応を行う。(4時間)
テキスト		成績評価の方法・基準	
とくになし。		課題：20% 卒業論文80% S：卒業論文のテーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマについて高度な知識を有する。 A：卒業論文のテーマに関し積極的に探究し課題に取り組み、テーマに関し深く理解をしている。 B：卒業論文のテーマに関し探求し、課題に誠実に取り組み、テーマに関し理解している。 C：卒業論文のテーマに関し理解し、課題に誠実に取り組んでいる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
とくになし。		必ず期日には課題を提出する責任感が必要です。先を見通し、計画的に進めてください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-19
担当者	安藤 江里		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日4限、木曜日2限、金曜日4限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	④		△	△	△					
授業概要										
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。研究の領域は人間の発達における音楽教育の意義、学校教育における学習や様々な音楽活動、また地域社会における伝統行事としての音楽活動など、様々な課題が研究対象になります。										
学修到達目標										
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に研究を進めていく上で必要とされる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力、文章表現力やプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。										
授業の進め方										
研究テーマに応じて個別指導が中心となります。また、課題の取り組みと研究の進行状況によっては発表や討論を通して受講者相互に問題点の共有を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり視座を広げたりして論文完成を目指していきます。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ	内容				事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒業論文発表会までのスケジュールを確認して、研究計画書の作成に取り掛かります。				研究テーマを明確にしておく。次回までに研究計画書を作成する。（4時間）				
2	研究テーマと研究方法の再確認	研究テーマについて「何を」「どの方法で」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、研究計画書を見直します。				研究テーマの内容について概観し、研究計画書を見直す。（4時間）				
3	研究計画書の発表	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表し、全員で討議します。				発表の準備をする。（4時間）				
4	資料等の収集	文献・教材など資料収集に関する個別指導をします。				各自の研究テーマに応じて必要な資料や教材を収集する。（4時間）				
5	論文構成の検討	論文の書き方、構成の仕方について全体指導後、各自で作業を進めます。				論文の構成について考えてくる。（4時間）				
6	章立ての検討(1)	章立てについて全体指導後、個別指導します。				章立てについて考えてくる。（4時間）				
7	章立ての検討(2)	章立てについて個別指導します。				章立てについて考えてくる。（4時間）				
8	章立ての決定と、論文構成の発表	各自決定した論文構成を発表し、全員で討議します。				章立ての発表準備をしておく。（4時間）				
9	論文の書き方 第1章	論文の書き方について指導した上で、第1章「はじめに(研究の動機、目的)」の作成に取りかかります。				論文の書き方を理解し、第1章執筆する。（4時間）				
10	論文の書き方 第2章	引き続き、第1章から第2章「研究の方法」の執筆を進めます。				論文の書き方を理解し、第2章執筆する。（4時間）				
11	論文の書き方の検討	第1章、第2章について相互に読み合い、内容および書き方や言い回しについて検討します。				第2章まで執筆作業を進める。検討後、修正する。（4時間）				
12	論文の初稿作成(1)	引き続き個別指導しながら論文の初稿作成を進めます。				初稿の執筆を進める。（4時間）				
13	論文の初稿作成(2)	引き続き個別指導しながら論文の初稿作成を進めます。				初稿の執筆を進める。（4時間）				
14	論文の初稿作成(3)	引き続き個別指導しながら論文の初稿作成を進めます。				初稿の執筆を進める。（4時間）				
15	夏休みの研究・執筆計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行う研究や執筆について計画を練り直し、初稿が完成できるようにします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）				
16	論文初稿の発表(1)	論文の初稿を相互に読み合い、討議します。併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成させてくる。討議後、加筆修正する。（4時間）				
17	論文初稿の発表(2)	論文の初稿を相互に読み合い、討議します。併せて個別指導を行います。				論文の初稿を完成させてくる。討議後、加筆修正する。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーションの準備	中間発表に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体指導と個別指導をします。				初稿に基づきプレゼンの構想を練ってくる。指導内容を受けプレゼン資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行い、ゼミナールの3年生も含めた形で発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成させてくる。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	中間発表の検討を受け、第2稿を個別指導します。	加筆修正しながら第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	中間発表の検討を受け、第2稿を個別指導します。	加筆修正しながら第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	中間発表の検討を受け、第2稿を個別指導します。	加筆修正しながら第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文の第2稿を発表し、相互に検討します。	論文の第2稿を完成させ、発表の準備をしてくる。検討後、修正する。（4時間）
24	論文の最終稿を作成する(1)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を作成する。（4時間）
25	論文の最終稿を作成する(2)	論文の最終稿を個別指導します。	論文の最終稿を個別指導します。（4時間）
26	最終稿完成と提出準備	論文の最終稿を最終指導します。また、提出用の卒業論文を相互点検します。	論文の最終稿を完成させてくる。最終点検に応じて修正する。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼン資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同ゼミにおける発表会を行い、最終チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用プレゼン資料を完成させてくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用のプレゼン資料を完成させてくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめをします。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて必要な資料を個別に提示します。		課題：20% レポート：80% S:探求姿勢を持って課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容が論文作成されている。A:探求姿勢を持って課題に取り組み、研究内容が論文作成されている。B:探求姿勢を持って課題に取り組み、研究について概ね理解し論文を作成できる。C:これまでの研究を理解し論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を提示します。		課題を自ら探求していく姿勢大切です。また積極的に自分の研究内容について発表するとともに、仲間の研究にも関心を持つことで研究を深め視野を広げます。卒論完成に向けて計画的に進めてください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-04
担当者	佐藤 茂太郎			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日1限、月曜日2限、木曜日1限、木曜日2限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基盤として、研究内容、方法を深めます。そして、論文にまとめます。研究領域は、算数・数学教育学に関わる内容とします。現状の指導の問題点は何か、それに対する手立てや具体的な指導方法をまとめていきます。実際の現場での経験を生かしながら進めていきます。											
学修到達目標											
これまでの学修を生かして研究を深めることができる。「なぜ」に対する正対した議論ができるように論理的思考力を高める。文章表現力、プレゼンテーション能力を身につけている。											
授業の進め方											
研究内容に応じた個別指導が中心となります。また、進捗状況によっては、中間発表や仲間との議論を通して受講者同士の相互活動を行います。そして、論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容					事前事後学修				
1	卒業論文作成スケジュールの確認	卒論発表会までのスケジュール確認をします。研究計画書の作成を進めます。					研究テーマを明確にしておく。次回までに計画書を作成。（4時間）				
2	研究テーマの再確認	研究テーマについて「何を」「どこまで明らかにするのか」について再確認し、状況に合わせて研究が可能かどうか確認します。					研究テーマを概観しておく。研究計画を見直す。（4時間）				
3	研究テーマの検討（1）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、相互評価します。					発表準備を行う。発表された内容を自分なりに調べる。（4時間）				
4	研究テーマの検討（2）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、相互評価します。					発表準備を行う。発表された内容を自分なりに調べる。（4時間）				
5	研究テーマの検討（3）	各自の研究テーマについての概要や先行文献について調べた内容、研究計画を発表します。また、相互評価します。					発表準備を行う。発表された内容を自分なりに調べる。（4時間）				
6	研究テーマの最終検討 資料・データの収集（1）	研究テーマ及び研究計画の最終検討を行う。また、先行研究、文献、アンケート作成など各自のテーマに合わせて資料・データ収集を開始します。					最終的にテーマを決定する。資料・データの収集を行う。（4時間）				
7	資料・データの収集（2）	資料・データ収集に関して個別指導を行います。					テーマ内容に応じた資料・データの収集を行う。（4時間）				
8	資料・データの収集（3）	資料・データ収集に関して個別指導を行います。					テーマ内容に応じた資料・データの収集を行う。（4時間）				
9	論文構成を考える 資料・データの収集（4）	論文の構成の仕方について全体指導をした後、各自で章立てを考えてみます。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導を行います。					論文構成を考えてくる。資料・データの収集を行う。（4時間）				
10	章立てを検討 資料・データの収集（5）	章立てを相互に検討したり、個別に指導したりします。また、引き続き資料・データ収集に関して個別指導を行います。					章立ての発表準備を行う。資料・データの収集を行う。（4時間）				
11	章立ての決定 論文の書き方（1）	章立てを決定します。また、論文の書き方について全体指導をします。					章立てを検討してくる。論文の書き方について復習する。（4時間）				
12	論文の書き方（2） 論文初稿作成（1）	第1章「はじめに」の内容の、研究の動機、目的の作成に取り掛かります。					第1章を執筆する。（4時間）				
13	論文初稿（2）	第1章について、相互評価し合いながら検討していきます。					第1章を執筆、修正する。（4時間）				
14	論文初稿（3）	第2章「研究の方法」について、相互評価し合いながら検討していきます。					第2章を執筆する。また、修正する。（4時間）				
15	夏季休業中の計画を立てる	夏季休業中にどんなことを行うか確認し、休業後に初稿が完成できるようにします。					夏季休業中の計画を立てておく。（4時間）				
16	論文初稿発表（1）	論文の相互評価を基に議論し深めていきます。場合によっては、個別指導を行います。					論文初稿の完成。加筆修正を行っていく。（4時間）				
17	論文初稿発表（2）	論文の相互評価を基に議論し深めていきます。場合によっては、個別指導を行います。					初稿の修正、加筆を行う。（4時間）				
18	中間発表プレゼンテーション資料作成	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。全体や個別の指導を行います。					初稿に基づきプレゼンテーション資料を作成する。（4時間）				

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	中間発表会	中間発表を行います。ゼミナールの3年生も含めた形で発表内容について検討します。	プレゼン資料を完成させておく。（4時間）
20	論文の第2稿を作成する(1)	論文の第2稿を指導します。場合によっては相互評価をしていきます。	論文第2稿を作成する。（4時間）
21	論文の第2稿を作成する(2)	論文の第2稿を指導します。場合によっては相互評価をしていきます。	論文第2稿を作成する。（4時間）
22	論文の第2稿を作成する(3)	論文の第2稿を指導します。場合によっては相互評価をしていきます。	論文第2稿を作成する。（4時間）
23	論文第2稿の発表・検討	論文第2稿の発表を行い、相互評価します。	論文第2稿の完成、検討後の修正。（4時間）
24	論文の最終稿を作成(1)	論文最終稿を個別指導します。場合によっては、相互評価します。	論文最終稿の作成を行う。（4時間）
25	論文の最終稿を作成(2)	論文最終稿を個別指導します。場合によっては、相互評価します。	論文最終稿の作成を行う。（4時間）
26	論文最終稿完成 提出準備完了	論文の最終稿を指導します。また、相互評価します。	最終稿の完成、加筆修正する。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3、4年生の合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3、4年生の合同ゼミにおける発表会を行い、最終チェック並びに相互評価します。	ゼミ発表の準備を行う。内容の加筆修正を行う。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	プレゼンテーション資料を完成させてくる。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの処理を行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じた資料を作成する場合があります。保管を確実に行ってください。		課題：20% レポート：80% S：授業内容を高度に理解する。また、クリティカルに物事を捉え、論理的に考えることができる。さらに、探究心をもち自ら課題を設定して取り組むことができる。A：授業内容を理解する。また、クリティカルに物事を捉え考えることができる。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。B：授業内容を概ね理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。C：授業内容を60%程度理解する。与えられた課題を誠実に取り組み、提出することができる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
随時、参考図書を示します。必要な文献は自身で用意することも大切になってきます。		机上の空論にならないようにしたいと思います。授業を分析する力も身に付けてもらいます。実際の授業をさせていただく学校を見つけていきましょう。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）		学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	N-03
担当者	藤原 隆史		必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日5限、木曜日3限		
関連資格					履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性			カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）				
①	②	③	A	B	C					
	◎		△	△	△					
授業概要										
これまで学んできた英語学・言語学の分野での学修を振り返り、卒業論文を執筆します。特に認知言語学やその周辺分野を中心として、参考文献や先行研究を基に自分のテーマを探求し、論理的に議論を組み立て論文をまとめます。										
学修到達目標										
計画的に論文を書き上げる能力に加え、論理的・批判的に言語現象を捉え議論を構成する能力、さらにはそれを分かりやすく表現し発表する能力を身につけている。										
授業の進め方										
各個人の研究テーマに応じた個別指導が中心です。また、必要に応じて全体で進捗状況の発表や議論を行い、それぞれの研究を深めたり視野を広げたりする機会を設けます。										
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。										
回	テーマ		内容				事前事後学修			
1	執筆計画1		卒業論文執筆のおおよその計画について検討します。				執筆計画に従って、関係する先行研究などを収集し読んでおく。（4時間）			
2	執筆計画2		研究のテーマや先行研究を確認し、実際に研究が可能か確認します。見直しが必要な場合は、相談の上執筆計画に修正を加えます。				研究可能かどうかを様々な角度から検討しておく。（4時間）			
3	先行研究の検討1		研究テーマに関係する先行研究を調べ、研究計画を検討します。				関連する先行研究を調べ、それらを収集する。さらにそれらを批判的に読みまとめる。（4時間）			
4	先行研究の検討2		研究テーマに関係する先行研究を調べ、研究計画を検討します。				関連する先行研究を調べ、それらを収集する。さらにそれらを批判的に読みまとめる。（4時間）			
5	先行研究の検討3		研究テーマに関係する先行研究を調べ、研究計画を検討します。				関連する先行研究を調べ、それらを収集する。さらにそれらを批判的に読みまとめる。（4時間）			
6	データ収集1		先行研究および研究計画に基づいて、必要な資料やデータを収集します。必要に応じて、さらに先行研究等を読みます。				研究計画に従って、必要なデータを集めます。（4時間）			
7	データ収集2		先行研究および研究計画に基づいて、必要な資料やデータを収集します。必要に応じて、さらに先行研究等を読みます。				研究計画に従って、必要なデータを集めます。（4時間）			
8	卒業論文の構成の検討1		卒業論文全体の構成を考えます。				卒業論文の構成を考え、大まかな流れを明確にしておく。（4時間）			
9	卒業論文の構成の検討2		卒業論文全体の構成を考えます。				卒業論文の構成を考え、大まかな流れを明確にしておく。（4時間）			
10	初稿作成1		卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
11	初稿作成2		卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
12	初稿作成3		卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
13	初稿作成4		卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
14	初稿作成5		卒業論文の初稿を作成します。書き方等、相談が必要な場合は個別に対応します。				卒業論文の初稿を作成する。（4時間）			
15	長期休暇中の研究及び論文執筆		長期休暇中の研究計画及び論文執筆計画について検討し、明確な計画を立てます。				長期休暇中の研究・執筆計画に従って論文を執筆する。（4時間）			
16	第2稿作成1		前期および長期休業中に作成した初稿を基に、第2稿を作成します。				初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）			
17	第2稿作成2		前期および長期休業中に作成した初稿を基に、第2稿を作成します。				初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）			
18	卒業論文中間発表の準備		卒業論文中間発表の準備を行います。				卒業論文中間発表の発表準備をする。（4時間）			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	卒業論文中間発表	卒業論文の中間発表を行います。お互いが批判的にコメントし合い、卒業論文の方向性の確認や、必要があれば修正を行います。	卒業論文中間発表の準備をする。（4時間）
20	第2稿作成3	作成した初稿を基に、卒論中間発表のコメントなどを踏まえ第2稿を作成します。	初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）
21	第2稿作成4	作成した初稿を基に、卒論中間発表のコメントなどを踏まえ第2稿を作成します。	初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）
22	第2稿作成5	作成した初稿を基に、卒論中間発表のコメントなどを踏まえ第2稿を作成します。	初稿を再確認し、加筆・修正を加える。（4時間）
23	最終稿作成1	卒業論文の最終稿を書く準備をし、最終稿を完成させます。	最終稿を作成する。（4時間）
24	最終稿作成2	卒業論文の最終稿を書く準備をし、最終稿を完成させます。	最終稿を作成する。（4時間）
25	最終稿作成3	卒業論文の最終稿を書く準備をし、最終稿を完成させます。	最終稿を作成する。（4時間）
26	最終稿仕上げとゼミ発表準備	卒業論文の最終稿を完成させ、最終確認を行います。また、ゼミ発表に向けて準備を行います。	最終稿を仕上げる。（4時間）
27	ゼミ発表会準備	ゼミ発表会に向け最終的な確認などを行い、発表用資料（パワーポイントスライドなど）を準備します。	ゼミ発表会の準備を行う。（4時間）
28	ゼミ発表会	ゼミ発表会を行い、批判的なコメントをします。それを受けて、最終稿の提出前の最終確認を行います。	ゼミ発表会の準備を行う。（4時間）
29	卒業論文発表会準備	卒業論文発表会の準備を行います。必要な資料やパワーポイントなどを作成します。	卒業論文発表会の準備を行う。（4時間）
30	まとめ	卒業論文の印刷などを行います。また、卒業論文研究のまとめをします。	卒業論文の完成、印刷などを行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
「特になし。」		課題：80% レポート：20% S:卒業論文のテーマに関して積極的に探求し課題に取り組み、テーマについて特に優れた理解と知識を有する。A:卒業論文のテーマに関して積極的に探求し課題に取り組み、テーマについて深い理解と知識を有する。B:卒業論文のテーマを探求し課題に取り組み、テーマについての十分な理解と知識を有する。C:卒業論文のテーマを探求し課題に取り組み、テーマについて基礎的な理解と知識を有する。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
「特になし。」		卒業論文は計画的に書くことがとても重要です。決められた期日までには課題等を提出し、普段から積極的に文献やデータを収集してください。あなたの卒業論文を書くのは、他ならないあなた自身であることを肝に銘じてください。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-02
担当者	大蔵 真由美			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：月曜日4限、水曜日4限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
2年次後期の教職研究基礎ゼミナール、3年次の教職研究ゼミナールで学んだ内容を基礎として、4年間の学修の集大成としての卒業論文を作成するためのゼミナールです。本ゼミでは、教育の歴史に関するこれまでの学修を総括するとともに、教育の歴史に関する卒業論文の作成を行います。											
学修到達目標											
1. 自らの考えを伝えるためのさまざまな方法を学び、実践できる。2. 自らの研究テーマに関する先行研究を批判的に検討し、自らの問題意識を深めることができる。3. 自らの研究テーマを多角的視点から捉えることができる。4. 自らの研究テーマを論理的にまとめる力を身につけ、卒業論文を完成させることができる。											
授業の進め方											
担当者による報告と考察を深めるためのディスカッションを主に進めます。但し、授業や事前事後学修に関係なく、自発的に卒業論文の執筆は進めましょう。必要に応じて講義形式の授業や個別指導を行います。3年次ゼミと合同で行うこともあります。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ			内容				事前事後学修			
1	ガイダンス1			授業内容及び授業の進め方の説明をします。				シラバスの熟読、教職研究ゼミナールの復習（4時間）。			
2	課題の報告1			春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。				報告の準備、ディスカッションのまとめ（4時間）。			
3	課題の報告2			春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。				報告の準備、ディスカッションのまとめ（4時間）。			
4	課題の報告3			春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。				報告の準備、ディスカッションのまとめ（4時間）。			
5	課題の報告4			春季休業中の課題を報告し、ディスカッションします。				報告の準備、ディスカッションのまとめ（4時間）。			
6	研究の方法1			教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールで学んだ研究の方法を再確認します。				教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールの該当箇所の復習（4時間）。			
7	研究の方法2			教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールで学んだ研究の方法を再確認します。				教職研究基礎ゼミナール、教職研究ゼミナールの該当箇所の復習（4時間）。			
8	研究テーマ及び内容構成の決定1			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
9	研究テーマ及び内容構成の決定2			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
10	研究テーマ及び内容構成の決定3			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
11	研究テーマ及び内容構成の決定4			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
12	研究テーマ及び内容構成の決定5			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
13	研究テーマ及び内容構成の決定6			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
14	研究テーマ及び内容構成の決定7			研究テーマを絞り込み内容構成を決めるための報告をし、検討します。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
15	前期のまとめ			ここまでの各自の報告及び検討内容を振り返り、総括します。また、卒業論文執筆、完成のための各自の課題を明確にします。				前期授業の復習（4時間）。			
16	ガイダンス2			後期授業の進め方について説明します。また、報告の順番を決めます。				夏季休業中に行った課題の振り返り（4時間）。			
17	研究テーマの探求1			卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			
18	研究テーマの探求2			卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。				報告の準備、検討のまとめ（4時間）。			

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	研究テーマの探求3	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
20	研究テーマの探求4	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
21	研究テーマの探求5	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
22	研究テーマの探求6	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
23	研究テーマの探求7	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
24	研究テーマの探求8	卒業論文の完成に向け、各自の研究テーマに基づき報告し、内容の検討を行います。必要に応じて個別指導も行います。	報告の準備、検討のまとめ(4時間)。
25	卒業論文ゼミ発表会の準備	卒業論文ゼミ発表会に向け、役割分担、レジュメ印刷などの準備を行います。	発表用レジュメの作成(1時間)。
26	卒業論文ゼミ発表会1	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
27	卒業論文ゼミ発表会2	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
28	卒業論文ゼミ発表会3	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
29	卒業論文ゼミ発表会4	各自の卒業論文の発表を行います。	発表の練習、発表のまとめ(4時間)。
30	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、総括します。	これまでの授業全体の復習(4時間)。
テキスト		成績評価の方法・基準	
使用しません。必要に応じて資料を配布します。		受講態度：30% レポート：70% 受講態度(討論等への意欲)、レポート(報告、討論のまとめ等)を総合して評価します。 <評価基準>S:自発的学修、意欲的授業参加。多角的視点から研究テーマを探究し、自らの知見を論理的に説明できる。A:意欲的授業参加。いくつかの視点から研究テーマを捉え論理的に説明できる。B:卒論完成の為の授業参加。研究テーマを一つの視点から論じることができる。C:卒論完成の為の授業参加。執筆要件に沿って卒論を完成した。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
授業の進捗に合わせて紹介していきます。		本授業は、自分の興味関心に基づき自発的に学修(卒業論文の執筆)を進めることが前提となります。能動的に学修を進めることのできる学生の受講を強く期待しています。	

科目名	卒業研究専門ゼミナール（卒業研究含む）			学年学期	4年通年	単位数	4	ナンバリング	AL46075	研究室	A-11
担当者	内藤 千尋			必修選択	必修	科目種別	演習	オフィスアワー	前期：火曜日3限、火曜日4限、火曜日5限、水曜日5限		
関連資格						履修条件					
ディプロマポリシーとの関連性		カリキュラムポリシーとの関連性			履修対象入学年度（読替科目）						
①	②	③	A	B	C						
	④		△	△	△						
授業概要											
3年次までの教職研究ゼミナールをはじめ、これまでの授業で学んだ内容を基礎として研究課題や研究方法を深め、卒業論文にまとめます。特に発達障害や特別支援教育・特別ニーズ教育に関わる内容を中心のテーマとし、文献検討や調査研究を通して、本人・当事者の想いに寄り添った教育のあり方や発達支援の課題を検討します。											
学修到達目標											
これまでの学習を生かして研究を進め、それを卒業論文としてまとめていくことができる。同時に、研究を進めていく上で必要となる論理的思考力や情報リテラシーなどの能力や、文章表現力やパワーポイントを使ったプレゼンテーション能力といった論文作成や発表に必要な能力を獲得している。											
授業の進め方											
研究テーマに応じて課題を進めていきます。受講者相互の報告や問題点の共有化を図りながら、多角的な視点から研究を深めたり、視野を広げたりして論文完成を目指していきます。											
授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。											
回	テーマ	内容				事前事後学修					
1	卒業論文作成スケジュールの確認	各自の研究構想の確認と、卒業論文発表会までのスケジュールを確認して研究計画書の作成に取りかかります。				研究テーマを明確にしておく。研究計画書を作成する。（4時間）					
2	研究計画の確認	卒業論文作成の研究計画書を確認します。				研究計画書を作成してくる。（4時間）					
3	関連する文献の検討①	テーマに関連する先行研究や文献を確認し、調査準備につなげていきます。				関連する先行研究や文献を読みまとめておく。（4時間）					
4	関連する文献の検討②	テーマに関連する先行研究や文献を確認し、調査準備につなげていきます。				関連する先行研究や文献を読みまとめておく。（4時間）					
5	調査実施準備①	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）					
6	調査実施準備②	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）					
7	調査実施準備③	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）					
8	調査実施準備④	調査項目の具体的な検討や質問紙などの作成と検討を行いません。				各自の研究方法の基礎を確認しておく。（4時間）					
9	調査等の実施・データ収集①	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）					
10	調査等の実施・データ収集②	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）					
11	調査等の実施・データ収集③	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）					
12	調査等の実施・データ収集④	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）					
13	調査等の実施・データ収集⑤	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）					
14	調査等の実施・データ収集⑥	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				各自のテーマ内容に応じたデータの収集をすすめる。（4時間）					
15	夏休みの作業計画を立てる。	研究の進捗状況を確認し、夏休み中に行なう研究やまとめについて確認をします。				夏休みにやるべき内容についてまとめる。（4時間）					
16	中間発表会準備	中間発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成します。				プレゼンテーション資料を作成してくる。指導を受けて内容を完成させる。（4時間）					
17	中間発表会	中間発表を行い、今後の具体的な課題を確認します。				今後の計画を練り直す。（4時間）					
18	調査等実施と分析①	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施と確認をします。				データ収集を進める。（4時間）					

授業計画（各回のテーマ等）※事前事後学修の時間は1単位科目は1時間、2単位科目は4時間が目安です。記載以外にも適宜課されます。			
回	テーマ	内容	事前事後学修
19	調査等実施と分析②	各自の取り組み状況に合わせてながら、実際の調査等を実施します。進捗状況にあわせて分析状況を確認します。	分析方法を確認する。（4時間）
20	調査結果分析①	調査結果について、先行研究等との比較を通しての分析状況を確認します。	分析方法に従い分析を進める。（4時間）
21	調査結果分析②	調査結果について、先行研究等との比較を通しての分析状況を確認します。	分析方法に従い分析を進める。（4時間）
22	調査結果分析③	調査結果について、先行研究等との比較を通しての分析状況を確認します。	分析方法に従い分析を進める。（4時間）
23	卒業論文執筆作業①	各章の論文執筆状況を確認・指導します。	各章の論文を執筆する。（4時間）
24	卒業論文執筆作業②	各章の論文執筆状況を確認・指導します。	各章の論文を執筆する。（4時間）
25	卒業論文執筆作業③	各章の論文執筆状況を確認・指導します。	各章の論文を執筆する。（4時間）
26	卒業論文完成と提出準備	論文全体を確認・指導します。	論文の最終稿を完成してくる。論文提出に必要な書類を準備する。（4時間）
27	ゼミ発表会のプレゼンテーション資料作成	3・4年生合同ゼミにおける発表会に向けて、プレゼンテーション資料を作成します。	プレゼンテーション資料を作成する。（4時間）
28	ゼミ発表会	3・4年生合同のゼミ発表会を行い、採集チェックならびに検討をします。	ゼミ発表用資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
29	卒業論文発表会のプレゼンテーション資料作成	各自の発表方式に応じたプレゼンテーション資料を検討します。	卒論発表会用プレゼンテーション資料を完成してくる。検討内容を修正する。（4時間）
30	卒業研究のまとめ	卒業論文の印刷、礼状の作成など、卒業研究の総まとめを行います。	印刷原稿を完成させてくる。礼状などの手続きを行う。（4時間）
テキスト		成績評価の方法・基準	
各自のテーマに応じて、必要な資料を提示します。		課題：20% 卒業研究論文：80% S:探求姿勢をもって課題に取り組み、研究課題や方法を深め、高度な内容の論文が作成されている。A:探求姿勢をもって課題に取り組み、正しく文章で表現することができる。B:探求姿勢をもって課題に取り組み、これまでの研究について概ね理解し、論文で表現することができる。C:これまでの研究を理解し、課題に取り組み、論文を作成できる。	
参考書		履修上の注意（学生へのメッセージ）	
各自のテーマに応じた参考図書を提示します。		課題を自ら探求していく姿勢が大切です。特に全体で討議する際は積極的に自らの研究内容を提示するのももちろん、仲間の研究にも関心を持つことが研究を深め視野を広げます。できるだけ多くの関連図書を読むことも重要です。	